茨城県教育財団文化財調査報告第387集

宮内遺跡 2
長右衛門元屋敷遺跡

国道354号岩井バイパス事業
地内埋蔵文化財調査報告書

上　巻

平成26年 3 月

茨城県境工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第387集

宮内（みやうち）遺跡 2
長右衛門元屋敷（ちょうえもんもとやしき）遺跡

国道354号岩井バイパス事業
地内埋蔵文化財調査報告書

上　巻

平成26年3月

茨城県境工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

茨城県では，市町村や県の枠を超える広域的な交流と連携を進めるため，また県土の均衡のある発展を支える基盤として，県土の骨格を成すとともに，首都圏中央連絡自動車道へアクセスするための一般国道や主要地方道などの，幹線道路の整備を進めています。

その一環として，茨城県境工事事務所は，坂東市において国道354号岩井バイパス事業を計画しました。しかしながら，この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である，宮内遺跡及び長右衛門元屋敷遺跡が所在することから，記録保存の措置を講ずる必要があるため，当財団が茨城県境工事事務所から開発地内の埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け，宮内遺跡を平成22年９月から平成23年３月まで及び平成24年４月から平成25年１月まで，長右衛門元屋敷遺跡を平成23年５月から８月まで，これを実施しました。平成22年度調査分については，『茨城県教育財団文化財調査報告』第359集として刊行しているところです。

本書は，宮内遺跡の平成24年度調査分と，長右衛門元屋敷遺跡の調査成果を収録したもので，学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県境工事事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，坂東市教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，深く感謝申し上げます。

平成26年 3月

公益財団法人茨城県教育財団

理 事 長　鈴 木 欣 一

例　　言

1　本書は，茨城県境工事事務所の委託により，財団法人茨城県教育財団（平成24年度より公益財団法人茨城県教育財団）が平成23年度に発掘調査を実施した，茨城県坂東市大字岩井字長右エ門元屋敷526-2番地ほかに所在する長右衛門元屋敷遺跡と，平成24年度に発掘調査を実施した，坂東市大字岩井字早内前852-1番地ほかに所在する宮内遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

宮内遺跡

調査　平成24年4月1日～平成25年1月31日

整理　平成25年4月1日～平成26年3月31日

長右衛門元屋敷遺跡

調査　平成23年5月1日～平成23年8月31日

整理　平成25年4月1日～平成26年3月31日

3　発掘調査は，調査課長樫村宣行のもと，以下の者が担当した。

宮内遺跡

首席調査員兼班長	皆川　修	平成24年4月1日～平成25年1月31日
首　席　調　査　員	綿引英樹	平成25年1月1日～1月31日
次　席　調　査　員	舟橋　理	平成24年4月1日～平成25年1月31日
調　　査　　員	宮崎　剛	平成24年4月1日～12月31日

長右衛門元屋敷遺跡

首席調査員兼班長	皆川　修	平成23年5月1日～8月31日
主　任　調　査　員	兼子博史	平成23年6月1日～8月31日
主　任　調　査　員	櫻井完介	平成23年5月1日～8月31日
調　　査　　員	宮崎　剛	平成23年5月1日～6月30日
調　　査　　員	前島直人	平成23年7月1日～8月31日
調　　査　　員	佐藤一也	平成23年5月1日～5月31日

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長原信田正夫のもと，以下の者が担当した。

次　席　調　査　員	舟橋　理	平成25年4月1日～平成26年3月31日
調査員（主任）	長洲正博	平成25年4月1日～11月30日
調　　査　　員	大島孝博	平成25年4月1日～5月31日

5　本書の執筆分担は，下記のとおりである。

舟橋　理　　第1章～第3章第2節　第3章第3節3(1)～(4)，4(1)～(3)，5(1)～(7)，6(1)～(4)(6)，7(1)～(4)(6)～(8)　第3章第4節

長洲正博　　第3章第3節1，3(5)，4(4)，6(5)，7(5)　第4章

大島孝博　　第3章第3節2

6　出土した人骨は，調査終了後，坂東市大字岩井1111の延命寺にて，供養，埋葬した。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，宮内遺跡はX＝＋7,240 m，Y＝＋4,800 mの交点，長右衛門元屋敷遺跡はX＝＋7,400 m，Y＝＋4,480 mを基準点（A 1 a1）とした。なお，この原点は，世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，「A 1区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　　P－ピット　PG－ピット群　SA－柱穴列　SB－掘立柱建物跡　SD－溝跡　SE－井戸跡
　　SF－道路跡　SI－竪穴建物跡　SK－土坑　SN－粘土貼土坑　TP－陥し穴　UP－地下式坑

遺物　　DP－土製品　G－ガラス製品　M－金属製品　Q－石器・石製品　T－瓦　TP－拓本記録土器

土層　　K－攪乱

※　従来，竪穴住居跡としていた遺構について，平成25年度から竪穴建物跡に名称を変更した。よって，略号SIは竪穴建物跡とする。

3　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

⑴　遺構全体図は400分の1，各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

⑵　遺物実測図は，原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

⑶　遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

□ 焼土・赤彩・施釉・還元・ガラス質　　□ 炉・火床面・滓化

□ 竈部材・粘土範囲・黒色処理　　□ 柱痕跡・柱あたり・煤・油煙・鉄滓範囲

●土器　○土製品　□石器・石製品　△金属製品　■瓦　－－－－　硬化面

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各々総量を記述した。

5　遺構一覧表・遺物観察表の表記は，次のとおりである。

⑴　計測値の単位はm，cm，gで示した。なお，現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。

⑵　遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

⑶　遺物番号は通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

6　竪穴建物跡の「主軸」は，炉・竈を通る軸線とし，主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

7　今回の報告分で，調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

宮内遺跡

変更　SK363→SB３ Ｐ６，SK408→SB３ Ｐ５，SK361→SB４ Ｐ４，SK386→SB５ Ｐ１，SK441→SB５ Ｐ７，SK539→SB13 Ｐ１，SK549→SB13 Ｐ３，SK545・547・573～575→SB17，第３号不明遺構→第１号鍛冶工房跡，第５号不明遺構・SK563→第２号鍛冶工房跡，第７号不明遺構→第３号鍛冶工房跡，SK514→第１号竪穴遺構，SK196→第２号方形竪穴遺構，SK326→第３号方形竪穴遺構，SK718→第４号方形竪穴遺構，SK300→第５号方形竪穴遺構，SK341→第６号方形竪穴遺構，SK369→第７号方形竪穴遺構，SK371→第８号方形竪穴遺構，SK350→第９号方形竪穴遺構，SK342→第10号方形竪穴遺構，SK723→第11号方形竪穴遺構，SK379→第12号方形竪穴遺構，第２号不明遺構→第13号竪穴遺構，SK188→UP17，SK467→UP19，SK548→UP20，SK183→第１号火葬施設，SK283→第２号火葬施設，SK252→第３号火葬施設，SK313→第４号火葬施設，SK507→第５号火葬施設，第８号不明遺構→屋外炉１～５，SD21→第１号堀跡，SK112→第１号墓坑，SK113→第２号墓坑，SK114→第３号墓坑，SK115→第４号墓坑，SK116→第５号墓坑，SK120→第６号墓坑，SK121→第７号墓坑，SK122→第８号墓坑，SK123→第９号墓坑，SK124→第10号墓坑，SK125→第11号墓坑，SK126→第12号墓坑，SK127→第13号墓坑，SK128→第14号墓坑，SK129→第15号墓坑，SK130→第16号墓坑，SK132→第17号墓坑，SK133→第18号墓坑，SK134→第19号墓坑，SK135→第20号墓坑，SK136→第21号墓坑，SK137→第22号墓坑，SK138→第23号墓坑，SK139→第24号墓坑，SK140→第25号墓坑，SK141→第26号墓坑，SK142→第27号墓坑，SK144→第28号墓坑，SK145→第29号墓坑，SK146→第30号墓坑，SK147→第31号墓坑，SK148→第32号墓坑，SK149→第33号墓坑，SK150→第34号墓坑，SK151→第35号墓坑，SK152→第36号墓坑，SK153→第37号墓坑，SK154→第38号墓坑，SK158→第39号墓坑，SK161→第40号墓坑，SK162→第41号墓坑，SK163→第42号墓坑，SK164→第43号墓坑，SK165→第44号墓坑，SK166→第45号墓坑，SK143→第46号墓坑，SK476→SN１，SK477→SN２，SK478→SN３，SK479→SN４，SK485→SN５，SK488→SN６，SK724→SN７，SK725→SN８，SK755→SN９，SK758→SN10，SK759→SN11，SK760→SN12，SK761→SN13，SK763→SN14，SK765→SN15，SK769→第３号炉跡，SK774→第４号炉跡，SK773→第５号炉跡，SK108→SD16，SK357→SD57，SK529→SD58，SK455→SD59，SK107→SE５，SK530→SE14，SK587→SE15，SK614→SE16，SK699→SE18，SK310→SE24，SK159→SE25，SK167→SE26，SD17→SE27，SD18→SK351，SK566～568→SA４，SK402・409～415・423・526・527・627～629→PG17，SB13 Ｐ１→SK786，SB13 Ｐ３→SK787

欠番　SK119・131・143・181・186・200・233・316・327・335・348・349・439・451・482・503・550・628・629・648・751・752・762・764・766・770・775

長右衛門元屋敷遺跡

変更　SB１→SK121・122・123・124，SB３→SB８，SB４→SB８・SK127～129，SB５→SB９～14・SK130～136・138～140・PG２，SK16→第１号陥し穴，SK57→SB７，SK70→SK119・120，SK74→SN15，SK77→第１号火葬墓，SK85→第１号竪穴遺構，SK88→SN16，PG２→SB８，PG３→SB６・７・SK126・SA１

欠番　SK97～106・108

目　　次

－上　巻－

序
例　言
凡　例
目　次
概　要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査経過 …… 4
第２章　位置と環境 …… 5
　第１節　位置と地形 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 5
第３章　宮内遺跡 …… 11
　第１節　調査の概要 …… 11
　第２節　基本層序 …… 11
　第３節　遺構と遺物 …… 14
　　１　縄文時代の遺構と遺物 …… 14
　　⑴　炉跡 …… 14
　　⑵　土坑 …… 15
　　２　古墳時代の遺構と遺物 …… 16
　　竪穴建物跡 …… 16
　　３　奈良時代の遺構と遺物 …… 55
　　⑴　竪穴建物跡 …… 55
　　⑵　竪穴遺構 …… 76
　　⑶　掘立柱建物跡 …… 77
　　⑷　鍛冶工房跡 …… 91
　　⑸　土坑 …… 113
　　４　平安時代の遺構と遺物 …… 120
　　⑴　竪穴建物跡 …… 120
　　⑵　掘立柱建物跡 …… 156
　　⑶　井戸跡 …… 165
　　⑷　土坑 …… 168
　　５　室町時代の遺構と遺物 …… 174
　　⑴　方形竪穴遺構 …… 174
　　⑵　掘立柱建物跡 …… 184

(3) 井戸跡 …… 185
(4) 地下式坑 …… 194
(5) 火葬施設 …… 217
(6) 屋外炉 …… 220
(7) 堀跡 …… 225
6 江戸時代の遺構と遺物 …… 226
(1) 竪穴遺構 …… 226
(2) 掘立柱建物跡 …… 228
(3) 墓坑 …… 229
(4) 粘土貼土坑 …… 260
(5) 炉跡 …… 274
(6) 溝跡 …… 275

－下　巻－

7 その他の遺構と遺物 …… 285
(1) 竪穴建物跡 …… 285
(2) 井戸跡 …… 285
(3) 道路跡 …… 289
(4) 土坑 …… 290
(5) 柱穴列 …… 327
(6) 溝跡 …… 330
(7) ピット群 …… 333
(8) 遺構外出土遺物 …… 344
第４節 まとめ …… 356
第４章 長右衛門元屋敷遺跡 …… 375
第１節 調査の概要 …… 375
第２節 基本層序 …… 375
第３節 遺構と遺物 …… 377
1 縄文時代の遺構と遺物 …… 377
(1) 竪穴建物跡 …… 377
(2) 陥し穴 …… 379
2 平安時代の遺構と遺物 …… 380
火葬墓 …… 380
3 江戸時代の遺構と遺物 …… 381
(1) 掘立柱建物跡 …… 381
(2) 井戸跡 …… 400
(3) 粘土貼土坑 …… 401
(4) 土坑 …… 412
(5) 柱穴列 …… 428

4　その他の遺構と遺物 …… 429
(1)　竪穴遺構 …… 429
(2)　土坑 …… 430
(3)　溝跡 …… 442
(4)　ピット群 …… 444
(5)　遺構外出土遺物 …… 446
第４節　まとめ …… 448
付　章 …… 453
写真図版 …… PL 1 ～ PL78
抄　録
付　図

宮内遺跡・長右衛門元屋敷遺跡の概要

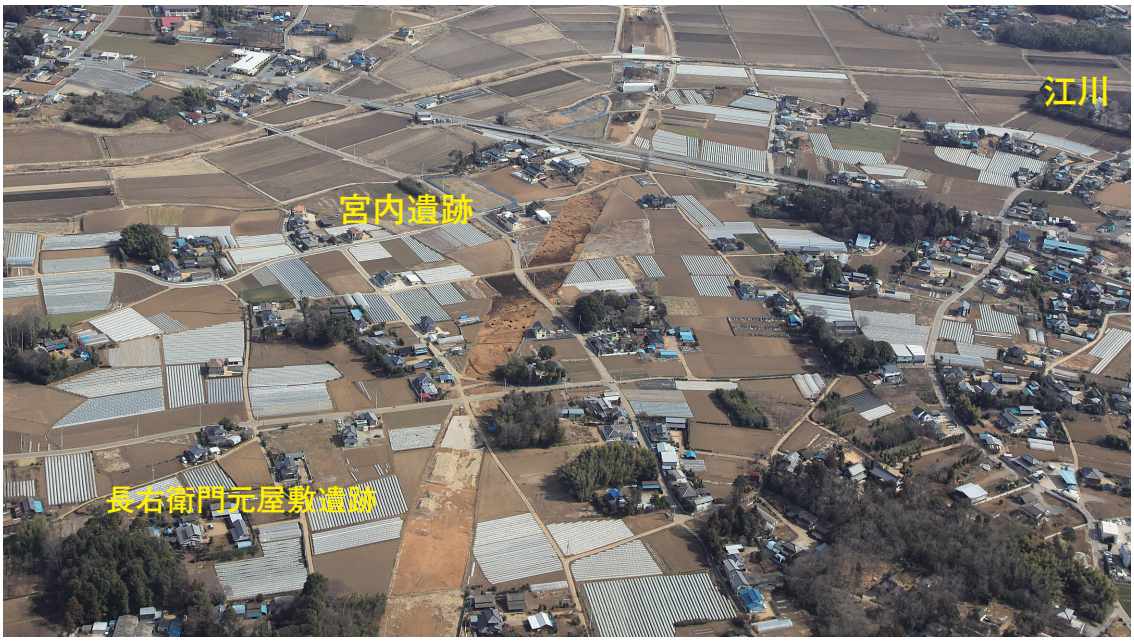
遺跡の位置と調査の目的

宮内遺跡は，坂東市のほぼ中央に位置し，市内を南流する江川右岸の標高 12 ～ 19 mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に立地しています。長右衛門元屋敷遺跡は，宮内遺跡の西側に隣接し，標高 18 ～ 19 mの台地上に立地しています。

両遺跡の調査は, 国道 354 号バイパスの建設に伴い, 遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため，公益財団法人茨城県教育財団が実施しました。宮内遺跡の調査期間は，平成 24 年 4 月から平成 25 年 1 月までの 10 か月間，長右衛門元屋敷遺跡の調査期間は，平成 23 年 5 月から 8 月までの 4 か月間です。

宮内遺跡の調査の成果

今回の調査の結果，当遺跡では，古墳時代から江戸時代までの，人々の生活の跡を確認しました。前回の調査では，奈良時代から平安時代にかけての製鉄



宮内遺跡・長右衛門元屋敷遺跡遠景（西から）

作業に関わる人達の集落跡であることが分かっています。今回の調査では，熱した鉄を鍛えて製品にする小鍛冶をする奈良時代の鍛冶工房跡３基を確認しました。当時の人々は，鍛冶工房で鎌などの農耕具を作っていたと思われます。

鍛冶工房跡の調査風景

また，江戸時代の墓坑（墓穴）が46基確認できました。現代でも，お葬式の時に三途の川の渡し賃とされる六道銭を死者と一緒に埋める習慣がありますが，宮内遺跡からも多くの六道銭（主に寛永通寶）が出土しました。そのうちの１枚は，表に「南無阿弥陀佛」と鋳された，茨城県内でも大変珍しいものです。

長右衛門元屋敷遺跡の調査の成果

調査の結果，縄文時代，平安時代，江戸時代の遺構や遺物を確認し，断続的に人々が生活していたことが分かりました。平安時代の遺構は，火葬墓１基を確認しました。当時，先進的な葬法であった火葬は，天皇や僧侶，官人など限られた階層で行われていました。今回の発見は，火葬されるほどの身分を有した人物が当地域に存在したという根拠になります。

また，江戸時代と考えられる掘立柱建物跡を14棟確認しました。建物の規模や向きから，同じ場所で何度も建て替えられた可能性があります。建物の規模や配置から，住居と倉庫が存在した屋敷跡であろうと思われます。近くの土坑からは，陶磁器の碗・皿・土瓶，煙管など当時使用していた雑器類が数多く出土しています。

第１号火葬墓から出土した蔵骨器

第１章　調　査　経　緯

第１節　調査に至る経緯

茨城県境工事事務所は，首都圏中央連絡自動車道へのアクセスを円滑にするために，坂東市岩井地区において国道 354 号岩井バイパスの整備を進めている。

平成 19 年２月 26 日，茨城県境工事事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに，国道 354 号岩井バイパス事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会をした。これを受けて茨城県教育委員会は，平成 19 年 10 月 24 日に現地踏査を実施した。平成 22 年２月 25･26 日，８月 12 日，９月 15 日，11 月６・22 日に長右衛門元屋敷遺跡，平成 23 年９月８・９日，10 月 11 日に宮内遺跡の試掘調査をそれぞれ実施し，両遺跡の所在を確認した。

平成 22 年３月 25 日及び平成 23 年１月 28 日に長右衛門元屋敷遺跡，平成 24 年１月 31 日に宮内遺跡について，茨城県教育委員会教育長は茨城県境工事事務所長あてに，事業地内に長右衛門元屋敷遺跡および宮内遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成 23 年１月 26 日に長右衛門元屋敷遺跡，平成 24 年２月２日に宮内遺跡に関して，茨城県境工事事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，文化財保護法第 94 条の規定に基づき，土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は，現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると決定し，茨城県境工事事務所長あてに，平成 23 年２月 28 日に長右衛門元屋敷遺跡，平成 24 年２月 13 日に宮内遺跡について工事着手前にそれぞれ発掘調査を実施するよう通知した。

平成 23 年３月４日に長右衛門元屋敷遺跡，平成 24 年２月 17 日に宮内遺跡に関して，茨城県境工事事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに，国道 354 号岩井バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。

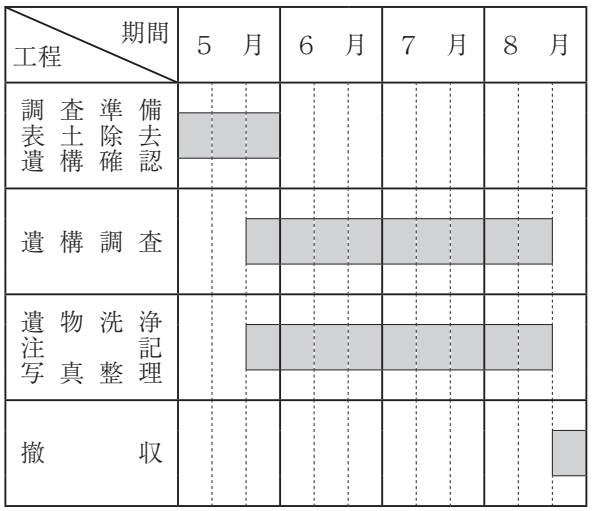
平成 23 年３月 22 日に長右衛門元屋敷遺跡，平成 24 年２月 23 日に宮内遺跡について，茨城県教育委員会教育長は茨城県境工事事務所長あてに，それぞれ発掘調査の範囲及び面積について回答した。また，調査機関として財団法人茨城県教育財団（現 公益財団法人茨城県教育財団）を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県境工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受けて，平成 23 年５月１日から平成 23 年８月 31 日まで長右衛門元屋敷遺跡，平成 24 年４月１日から平成 25 年１月 31 日まで宮内遺跡の発掘調査を実施することとなった。

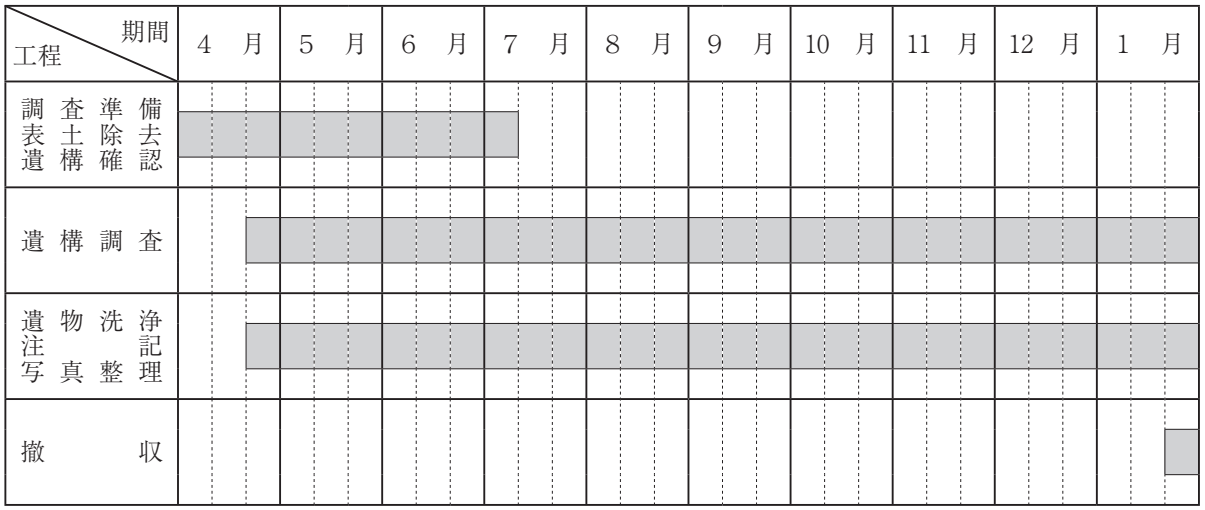
第2節　調　査　経　過

長右衛門元屋敷遺跡の調査は平成23年5月1日から8月31日までの4か月間，宮内遺跡の調査は平成24年4月1日から平成25年1月31日までの10か月間にわたって実施した。以下，その概要を表で記載する。

長右衛門元屋敷遺跡



宮内遺跡



第2章　位 置 と 環 境

第1節　位 置 と 地 形

宮内遺跡は，茨城県坂東市大字岩井字早内前 852-1 番地ほかに，長右衛門元屋敷遺跡は，茨城県坂東市大字岩井字長右エ門元屋敷 526-2 番地ほかに所在している。

坂東市は，茨城県西部を南北に延びる猿島台地の中央部に位置している。市域は，標高 18 ～ 20 mを中心とする猿島台地中央部の洪積台地と，利根川や江川，飯沼川及びそれらの支流により開析された谷津が樹枝状に入り込んだ標高７～ 10 mを中心とする沖積低地に大別され，前者は主に畑地や宅地として利用され，後者は水田として利用されている。

猿島台地の基部を構成する地層は，浅海性の貝化石等を産出する成田層である。その上に，竜ヶ崎砂礫層があり，さらにその上に，灰白色の常総粘土層が堆積している。そして，表土の下を厚く覆う褐色の関東ローム層が堆積している。

宮内遺跡と長右衛門元屋敷遺跡は，坂東市の中央を南流し菅生沼を経て利根川に注ぐ江川によって開析された江川の谷[1)]と，市南西部を流れる利根川の低湿地から北へ向かって延びる岩井の谷に挟まれた，標高 15 ～ 19 mの岩井の台地上の中央部から西に向かって広がっており，標高は宮内遺跡が 10 ～ 19 m，長右衛門元屋敷遺跡が 18 ～ 19 mである。沖積低地である江川の谷との比高差は最大９mである。また，宮内遺跡の中央部には，台地上の緩斜面からなる浅谷が江川と並行しているが[2)]，浅谷の形跡は地表面からでは確認できない。

宮内遺跡の今回の調査区は平坦な台地上及び江川に向かう緩斜面部に立地し，標高は 12 ～ 19 mである。調査前の現況は，宅地・山林である。長右衛門元屋敷遺跡の調査区は，宮内遺跡の西側に隣接する平坦な台地上に立地し，標高は 18 ～ 19 mである。調査前の現況は畑地である。

第2節　歴 史 的 環 境

宮内遺跡及び長右衛門元屋敷遺跡が所在する岩井の台地や隣接する上出島の台地，辺田の台地などは，大小河川や沼沢によって開析された谷によって他の台地と分断されている。各時代の遺跡は，これらの台地から谷部に向かう台地の縁辺部で確認されている。ここでは，岩井の台地を中心として，時代を追って周辺遺跡を概観する。

旧石器時代の遺跡は，両遺跡周辺では確認されていないが，宮内遺跡から南南東へ約７㎞ほどの菅生沼右岸の北前（きたまえ）遺跡では，瑪瑙やチャート，安山岩製のスクレイパーや頁岩製を主とした剥片などが出土している[3)]。また，北前遺跡に隣接する高崎（たかさき）貝塚でも，安山岩製のスクレイパーなどが出土している[4)]。

縄文時代の遺跡は，江川の谷と岩井の谷の両岸部で顕著に認められるようになる。草創期の遺跡では，天神（てんじん）山（やま）遺跡〈28〉があり，採集された尖頭器は，長者久保・神子柴段階に帰属するものと考えられている。早期の遺跡は，南原（みなみはら）遺跡〈41〉や宮内遺跡から江川の谷を挟んだ対岸にある松葉（まつば）遺跡〈４〉で，条痕文系土器が確認されている。また，高崎貝塚では，早期末の竪穴建物跡７棟と鹹水性のハイガイが大半を占める地点貝塚が確認されている。前期の遺跡では，北前遺跡が挙げられる。前期中葉の黒浜式期に比定される竪穴建物跡が４棟確認されており，併せて地点貝塚も確認されている。隣接する早期の高崎貝塚同様，鹹水性の貝が出土してい

ることから，縄文海進期には岩井の谷や旧鵠戸沼周辺は汽水域だったことが分かる。中期の遺跡では，長丁遺跡〈23〉が挙げられる。長丁遺跡は宮内遺跡北方の江川の谷の分岐点に位置し，広範囲に加曽利ＥⅢ式期を中心とした遺物が散布している。また，岩井の谷に面する山中後遺跡〈58〉では，加曽利ＥⅣ式期の獣面把手や鳥頭形の把手などが出土している[5)]。これらの他にも，黒阿弥陀遺跡〈46〉，堂前遺跡〈32〉，西遺跡〈33〉，香取東遺跡〈42〉などがあり，中期の遺跡数は前期に比べ増加している。後期から晩期にかけての遺跡は，中期から続く山中後遺跡や堂前遺跡などの他，岩井の谷に向かう台地縁辺部で増加している。前述の高崎貝塚では10棟の後期前半の竪穴建物跡が確認されている。山中後遺跡では称名寺式期や安行２式期などの土器が出土している。

弥生時代の遺跡は，高崎貝塚の他に，当遺跡から東南東へ約３kmの地点に所在する姥ケ谷津遺跡がある[6)]。高崎貝塚では後期中葉の竪穴建物跡４棟，姥ケ谷津遺跡では後期中葉の竪穴建物跡１棟が確認されているが，調査例が少なく不明な部分も多いのが現状である。

古墳時代の遺跡としては，馬立の台地では遠西遺跡〈６〉や松葉遺跡，弓田の台地では新屋敷遺跡〈12〉，正光院脇遺跡〈24〉などが挙げられるが，表面採集の遺物が多く土器型式等の時期判断は困難である。一方，岩井の台地や鵠戸の台地では，当時代の遺跡が広がっている。前期では，寮ノ下遺跡〈17〉，山中前遺跡〈57〉や大日前遺跡〈37〉などが挙げられる。寮ノ下遺跡や山中前遺跡ではハケ目調整の顕著な壺形土器が出土している。後期の遺跡としては，片神辺東遺跡〈53〉や西高野北遺跡〈11〉，北原遺跡〈62〉などがあるが，いずれも土器の小破片で明確な時期等の断定はできない。前回報告分の宮内遺跡では，前期６棟，中期７棟，後期20棟の竪穴建物跡を確認しており，４世紀から７世紀にかけて，当地域の拠点的な集落であった可能性がある[7)]。

古墳では当遺跡から東へ約１km離れた，馬立の台地上に高山古墳〈13〉がある。筑波山麓産雲母片岩の板石で構成された複室板石組み横穴式石室をもつ円墳で，築造時期は７世期前半と推定される[8)]。出土遺物は瑪瑙製や硬玉製の勾玉，水晶製切子玉，ガラス玉，馬具などで，それらの多くは東京国立博物館に所蔵されている。また，当遺跡から西へ約２kmに位置する上出島古墳群〈61〉では円墳２基と墳丘長56ｍの前方後円墳が調査されている[9)]。前方後円墳の築造時期は遺物から５世紀前葉頃であるのに対し，２基の円墳は６世紀前葉頃と考えられ，築造年代に１世紀の差があるのが特徴である。

律令時代には当地は，下総国猿嶋郡石井郷に属していた。奈良・平安時代の遺跡は江川の谷と岩井の谷の両岸に点在する傾向にある。前回報告分の宮内遺跡では，奈良時代の竪穴建物跡27棟，平安時代の竪穴建物跡４棟を確認している。当遺跡からほぼ西へ約3.5kmの地点に長洲馬牧の比定地である長須という地名があり，隣接する西原遺跡では鉄滓片が採集されている。前回及び今回の宮内遺跡の調査でも多量の鉄滓が出土していることや，周辺に駒寄，駒跳，馬立等の馬に関する地名が残っていることは，馬牧と鉄器の生産と供給の関連を推測することができる。また，坂東市民音楽ホール敷地内では，施設建設中に須恵器有蓋短頸壺が出土し，短頸壺内から火葬骨が確認されている。同様に，当遺跡の南方約5.5km前後に位置する北ノ妻遺跡では猿投窯産の灰釉陶器短頸壺と須恵器蓋の蔵骨器，入畑遺跡では新治産須恵器甕と須恵器盤の蔵骨器が出土し，それぞれ成人女性と考えられる火葬骨が納められていた。時期はそれぞれ８世紀後半，９世紀前半と考えられ，当地域に火葬の風習が広まりつつあったと考えられ，長右衛門元屋敷遺跡出土の蔵骨器との関連性も伺える。

鎌倉時代になると，当地は秀郷流藤原氏の後裔の下河辺氏が治める下河辺荘に属し，その後古河公方足利氏の支配下となっていく。当遺跡から北東へ約2.5kmには，小田原北条氏との関連が推測されている弓田城跡があり，現在も堀と土塁が残存している。

徳川家康の江戸入府に伴い，当地は天領，旗本相馬家領及び関宿藩を始めとする大名領となる。以後，統治者がめまぐるしく替わりながら幕末を迎える。享保年間には，飯沼川周辺は大規模な新田開発が行われ，その石高は１万４千石にも及んだ。現在でも勘助新田などの新田が付いた地名が残り，現在でも豊かな水田地帯が広がっている。

※文中の〈　〉内の番号は第１図及び表１の当該番号と同じである。

註

１）岩井市史編さん委員会『岩井市史（考古編）』岩井市　1999 年３月
なお，本章の江川の谷，岩井の谷，岩井の台地及び第１図内の台地等の呼称については，本書を参考にした。

２）茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査　水海道』 1985 年 12 月

３）大森雅之「茨城県自然博物館（仮称）建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　原口遺跡・北前遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 83 集　1993 年３月

４）鶴見貞夫「茨城県自然博物館（仮称）建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　高崎貝塚」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 88 集　1994 年３月

５）高野浩之　土生朗治　須藤和佳「山中後遺跡」『岩井市文化財調査報告』第３集　2001 年３月

６）中村敬治「岩井幸田工業団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書　姥ケ谷津遺跡・南開遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 89 集　1994 年３月

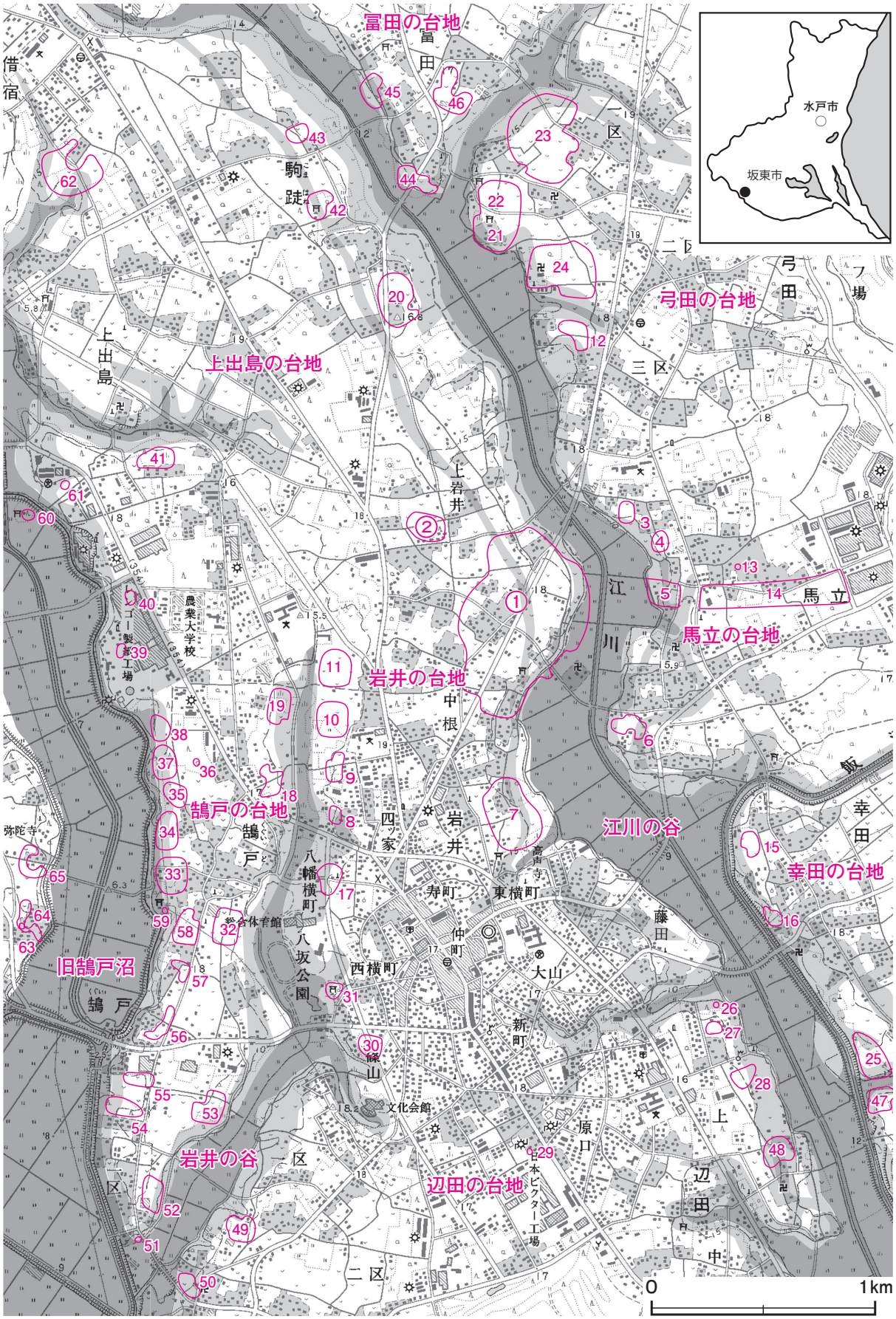
７）小林和彦　宮崎剛「宮内遺跡　国道 354 号岩井バイパス事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 359 集　2012 年３月

８）三木ますみ「２.高山古墳　岩井市の遺跡」『岩井市史遺跡調査報告書』第１集　1992 年３月

９）岩井市教育委員会『上出島古墳群』 1976 年３月

参考文献

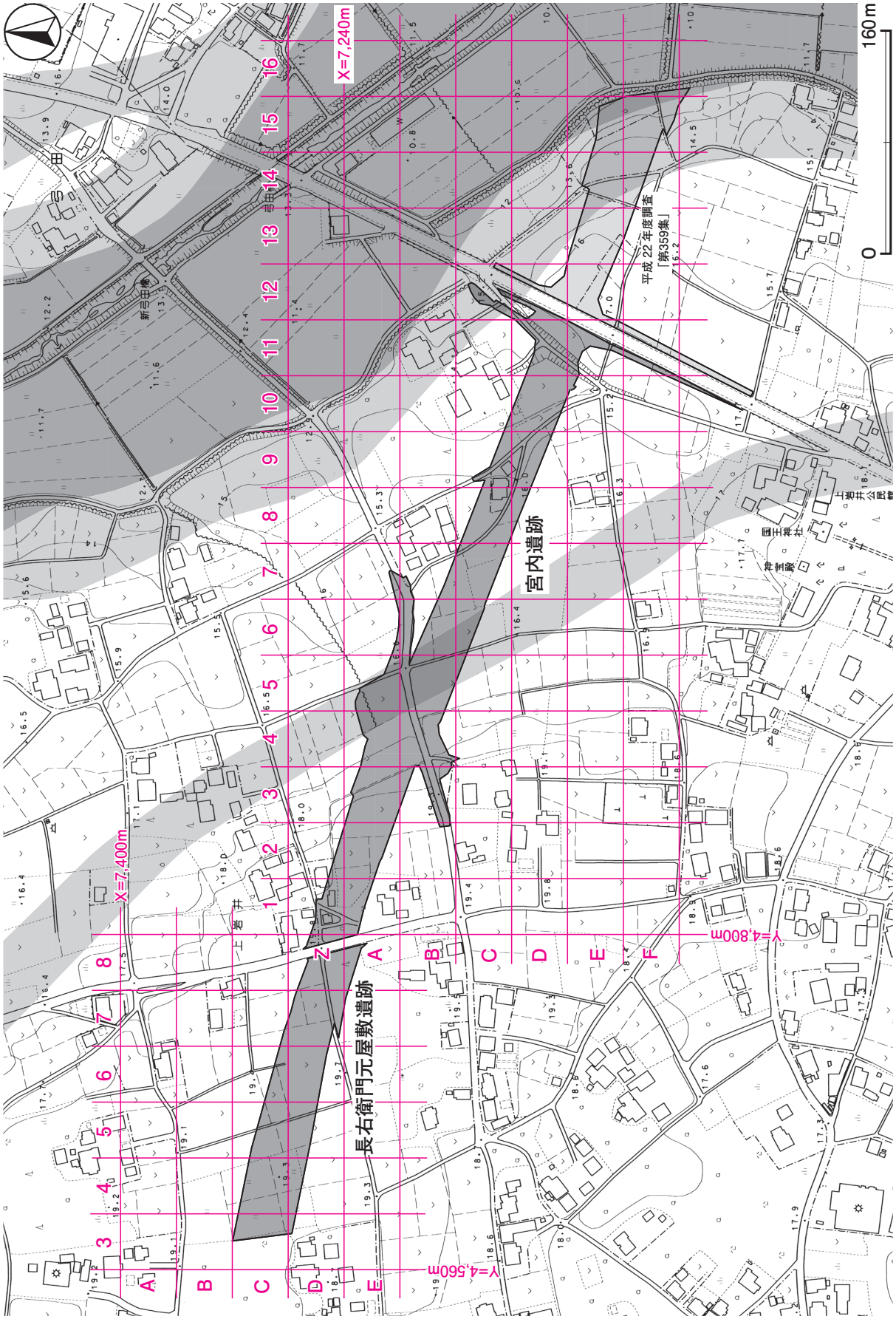
・茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図（地名表編・地図編）』茨城県教育委員会　2001 年３月
・岩井市史編さん委員会『岩井市史（通史編）』岩井市　2001 年３月
・石下町史編さん委員会『石下町史』 1988 年３月
・郷土出版社『図説　古河・岩井・水海道・猿島の歴史』 2005 年 11 月



第１図　宮内遺跡・長右衛門元屋敷遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の１「宝珠花」「水海道」）

表１　宮内遺跡・長右衛門元屋敷遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	宮内遺跡		○		○	○	○	○	34	大杉南遺跡		○					
②	長右衛門元屋敷遺跡		○			○		○	35	大杉北遺跡		○					
3	西遺跡						○		36	仙入久保古墳群				○			
4	松葉遺跡		○		○				37	大日前遺跡		○		○			
5	馬立原西遺跡		○		○	○	○	○	38	六道辻遺跡		○					
6	遠西遺跡				○				39	鵠戸古墳群				○			
7	薬師原遺跡					○			40	鵠戸遺跡		○		○			
8	大日道遺跡		○						41	南原遺跡		○					
9	西高野南遺跡		○		○	○			42	香取東遺跡		○					
10	西高野遺跡				○	○			43	角田東遺跡				○	○		
11	西高野北遺跡				○	○			44	打出遺跡		○			○		
12	新屋敷遺跡				○	○			45	宮ノ後遺跡					○		
13	高山古墳				○				46	黒阿弥陀遺跡		○			○		
14	馬立原遺跡		○					○	47	宝珠山北遺跡		○			○		
15	迎地遺跡					○			48	堀込遺跡		○		○	○		
16	宝光院遺跡		○						49	上神場遺跡		○					
17	寮ノ下遺跡				○	○			50	台島北遺跡		○		○	○		
18	原高野遺跡		○		○	○			51	大日塚古墳				○			
19	原遺跡		○						52	片神辺南遺跡		○					
20	元屋敷遺跡				○				53	片神辺東遺跡		○		○			
21	榊山古墳群				○				54	片神辺西遺跡		○					
22	談義所遺跡		○		○				55	片神辺道南遺跡							
23	長丁遺跡		○						56	片神辺道北遺跡		○					
24	正光院脇遺跡				○	○			57	山中前遺跡		○		○			
25	弁天遺跡		○			○			58	山中後遺跡		○					
26	辺田北山古墳				○				59	香取塚古墳				○			
27	前畑遺跡				○				60	大明神塚古墳				○			
28	天神山遺跡		○						61	上出島古墳群				○			
29	経塚古墳				○				62	北原遺跡				○			
30	入田台遺跡		○						63	羽金遺跡				○			
31	天王遺跡		○						64	東台北遺跡		○		○			
32	堂前遺跡		○		○	○			65	房久保遺跡		○		○			
33	西遺跡		○														



第２図　宮内遺跡・長右衛門元屋敷遺跡調査区設定図（坂東市都市計画図より引用）

第３章　宮　内　遺　跡

第１節　調 査 の 概 要

宮内遺跡は，坂東市の中央部を南流する江川右岸，標高 10 ～ 19 ｍの平坦な台地上及び江川に向かう緩斜面部に位置している。遺構の配置や周辺の地形から，遺跡は江川右岸の広範囲に広がると推測される。今回の調査区は，『第 359 集』で報告した調査区の西側に位置し，江川に向かって緩やかに傾斜する台地縁辺部と，ほぼ平坦な台地上に位置しており，標高は約 12 ～ 19 ｍである。調査面積は 17,044㎡である。

調査の結果，竪穴建物跡 39 棟（古墳時代 15･奈良時代８･平安時代 15･時期不明１），掘立柱建物跡 15 棟（奈良時代８･平安時代５･室町時代１･江戸時代１），竪穴遺構２基（奈良時代･江戸時代），方形竪穴遺構 11 基（室町時代），鍛冶工房跡３基（奈良時代），井戸跡 22 基（平安時代１･室町時代５･時期不明 16），地下式坑 17 基（室町時代），墓坑 46 基（江戸時代），火葬施設５基（室町時代），屋外炉５基（室町時代），粘土貼土坑 15 基（江戸時代），炉跡３基（縄文時代２･江戸時代１），道路跡１条（時期不明），土坑 530 基（縄文時代１･奈良時代４･平安時代６・時期不明 519），柱穴列４列（時期不明），堀跡１条（室町時代），溝跡 40 条（江戸時代６・時期不明 34），ピット群９か所（時期不明）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20㎝）に 98 箱出土している。主な出土遺物は，縄文土器（深鉢），土師器（坏・椀・鉢・甕・甑），須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・鉢・長頸瓶・甕・甑），土師質土器（皿・内耳鍋・焙烙），陶器（碗・皿・鉢・香炉・徳利・仏餉具），磁器（碗・湯呑・花瓶），土製品（土玉・支脚・紡錘車），石器（鏃・砥石・紡錘車），石製品（数珠玉），鉄製品（刀子・小刀・鏃・鎌・釘・鑿・鉄鉗），銅製品（指輪・煙管），銭貨（北宋銭・寛永通寶・絵銭），ガラス製品（数珠玉），鍛冶関連遺物（羽口・鉄滓・椀状滓・鍛造剥片・粒状滓）などである。

第２節　基　本　層　序

今回の調査区は，平坦な台地上及び江川に向かう緩斜面部に位置している。調査区内の最高地点はＺ１区で 18.6 ｍ，最低地点はＣ 12 区で 11.8 ｍである。基本層序観察のためのテストピットは２か所設定し，それぞれテストピット１（Ｂ７i1），テストピット２（Ｚ２j7）として，観察を行った。なお，安全上土層観察は表土下２ｍまでとした。

また，表土除去の過程で調査区の一部から，黒褐色土及び暗褐色土の広がりを確認したため，埋没谷と判断した。Ｂ４c9 区とＤ９b7 区の２か所に土層確認トレンチを設定し，堆積状況を確認したことから，その土層観察結果についても併せて掲載する。土層は，色調・構成粒子・含有物・粘性・締まりなどからテストピット１・２を第１～７層，土層確認トレンチを第８～ 18 層に細分した。遺構は第２層及び第８・14 層上面で確認した。

第１層は暗褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを微量，炭化粒子を少量含み，粘性・締まりともに普通で，層厚は 20 ～ 30㎝である。

第２層は褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量含み，粘性・締まりともに普通で，層厚は 14 ～ 38㎝である。

第３層は暗褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 20 ～ 30cmである。第Ⅱ黒色帯と考えられる。

第４層は褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含み，粘性・締まりともに普通で，層厚は 35 ～ 57cmである。

第５層は褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは極めて強く，層厚は 26 ～ 60cmである。

第６層は褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強い。下部が未掘のため，層厚は不明である。

第７層はにぶい褐色を呈するハードローム層から常総粘土層への漸移層である。砂粒･炭化粒子を少量含み，粘性・締まりともに強い。下部が未掘のため，層厚は不明である。

第８～ 10 層は，台地上の緩斜面からなる浅谷の堆積層である。

第８層は暗褐色を呈し，ローム粒子を少量・炭化粒子を微量含み，粘性・締まりともに普通で，層厚は７～ 14cmである。

第９層は黒褐色を呈し，ローム粒子を微量含み，粘性は普通で締まりは強く，層厚は 18 ～ 23cmである。

第 10 層は褐灰色を呈し，ローム粒子を微量含み，粘性は普通で締まりは強く，層厚は 15 ～ 20cmである。

第 11 層は明褐色を呈するソフトローム層である。粘性は普通で締まりは強く，層厚は 11 ～ 27cmである。

第 12 層は橙色を呈するソフトローム層から常総粘土層への漸移層である。ローム粒子を多量，粘土粒子を少量含み，粘性は普通で締まりは強く，層厚は 21 ～ 26cmである。

第 13 層は灰褐色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりとも極めて強い。下部が未掘のため，層厚は不明である。

第 14 ～ 17 層は，江川によって開析された小支谷の堆積層である。

第 14 層は黒褐色を呈し，ローム粒子と焼土粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりは強く，層厚は 40 ～ 45 cmである。

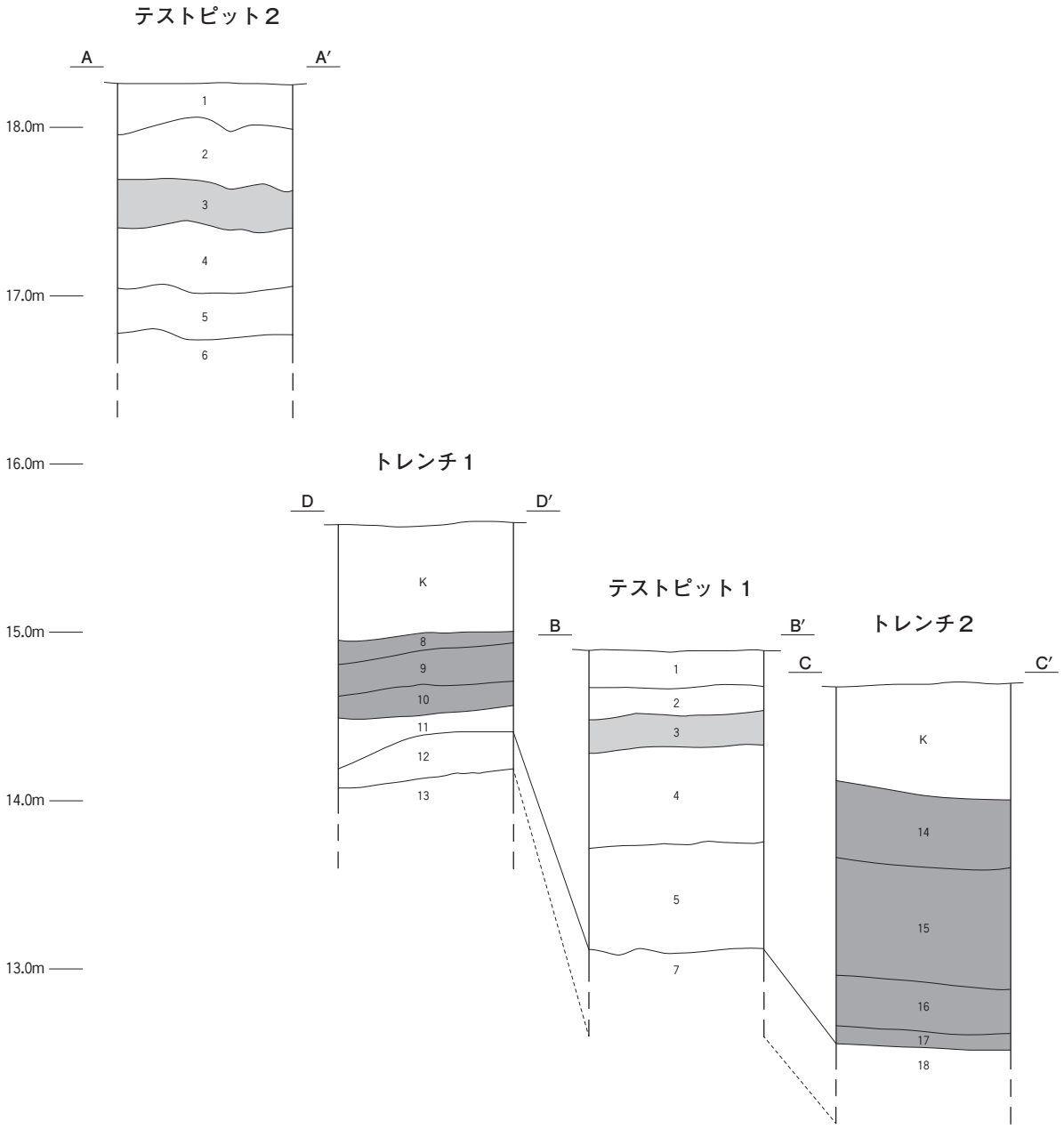
第 15 層は極暗褐色を呈し，ローム粒子を微量含み，粘性は普通で締まりは強く，層厚 67 ～ 72cmである。

第 16 層は黒褐色を呈し，ローム粒子を微量，炭化粒子を微量含み，粘性・締まりとも普通で，層厚 25 ～ 30cmである。

第 17 層は黒褐色を呈し，粘土粒子を微量含み，粘性は強く締まりは普通で，層厚は９～ 12cmである。

第 18 層は褐色を呈する常総粘土層への漸移層である。ローム粒子・粘土粒子を多量含み，粘性・締まりとも強い。下部が未掘のため，層厚は不明である。

色調や含有物の差異はあるが，常総粘土層への漸移層であることから，第７・12・18 層が対応する。


テストピット２
A
A′
18.0m
17.0m
16.0m
15.0m
14.0m
13.0m
1
2
3
4
5
6
トレンチ１
D
D′
K
8
9
10
11
12
13
テストピット１
B
B′
1
2
3
4
5
7
トレンチ２
C
C′
K
14
15
16
17
18

第３図　基本土層図

第３節　遺 構 と 遺 物

１　縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，炉跡２基，土坑１基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

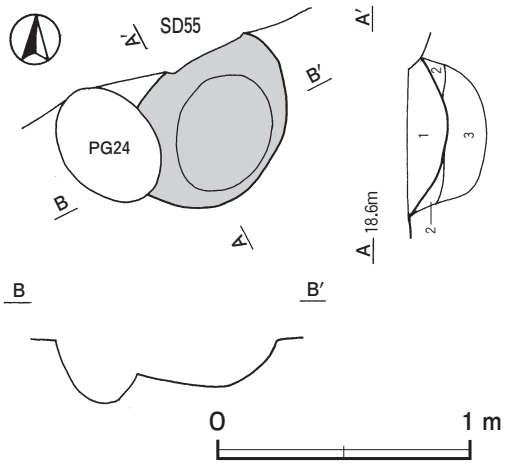
(1)　炉跡

第３号炉跡（第４図）

位置　調査区北西部のＺ１j7 区，標高 18 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 55 号溝，第 24 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 0.75 m，短軸 0.55 mの楕円形で，長軸方向はＮ－ 31°－Ｅである。火床面は第１層上面で，火熱を受けて赤変している。硬化は弱い。壁は緩やかに立ち上がっている。



第４図　第３号炉跡実測図

覆土　なし。第１層は，使用している間に堆積した焼土の層である。第２・３層は掘方への埋土である。

土層解説
1　明 赤 褐 色　焼土粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 20 点(深鉢)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は, 出土土器から縄文時代後期と考えられる。

第４号炉跡（第５図）

位置　調査区北西部のＡ１b5 区，標高 18 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 24 号ピット群に掘り込まれている。

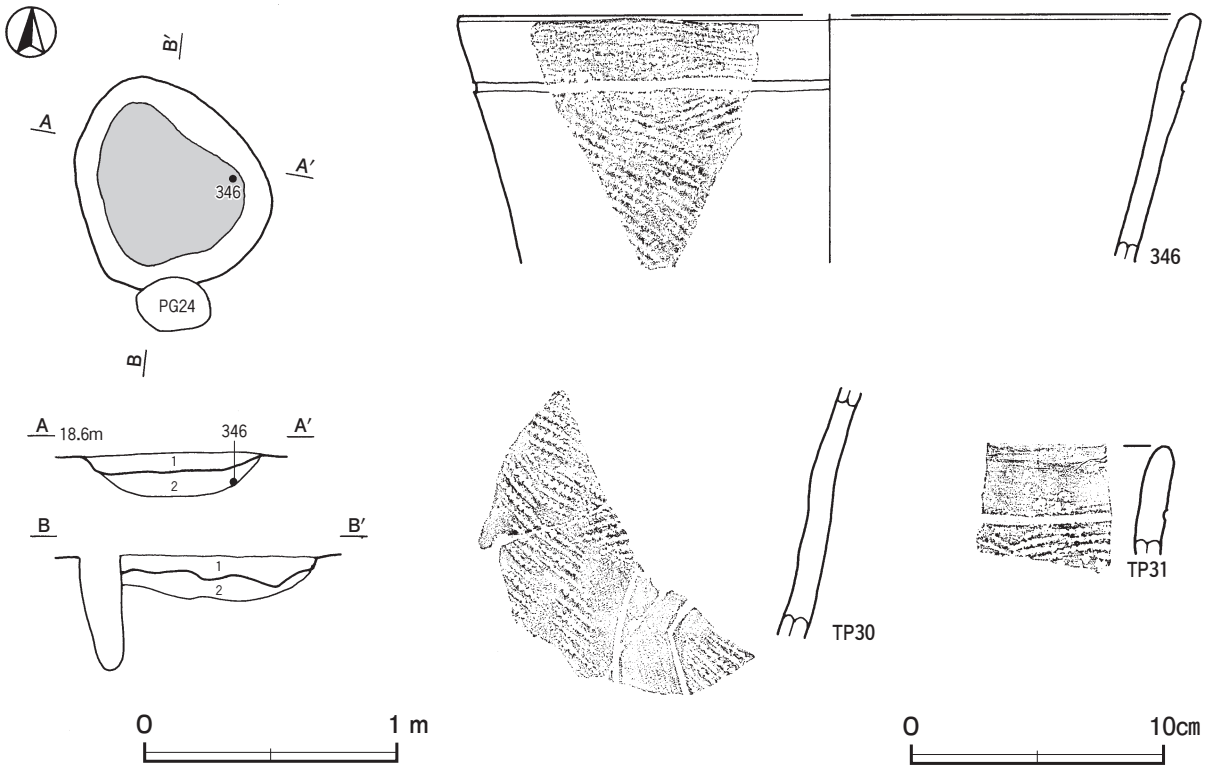
規模と形状　長径 0.86 m，短径 0.74 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 25°－Ｗである。火床面は深さ 12cmに位置する第２層上面で，火熱を受けて赤変している。硬化は弱い。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　単一層である。第１層は，周囲からの流入した堆積状況を示すことから自然堆積である。第２層は掘方への埋土である。

土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　　2　暗 赤 褐 色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片 16 点（深鉢）が出土している。346 は東部の掘方埋土から，TP30・TP31 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉に比定できる。



第５図　第４号炉跡・出土遺物実測図

第４号炉跡出土遺物観察表（第５図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
346	縄文土器	深鉢	[29.0]	(9.8)	－	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部横位の沈線文　横位・縦位回転のＲＬの単節縄文	掘方埋土	５％

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	横位回転のＲＬの単節縄文　磨消縄文	覆土中	PL47
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	口縁部横位の沈線文　横位・縦位回転のＲＬの単節縄文	覆土中	

表２　縄文時代炉跡一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規　模		底　面	壁　面	覆　土	主 な 出 土 遺 物	備　考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
3	Ｚ１j7	Ｎ－31°－Ｅ	楕円形	0.75 × 0.55	15	皿状	緩斜	－	縄文土器片	本跡→SD55，PG24
4	Ａ１b5	Ｎ－25°－Ｗ	楕円形	0.86 × 0.74	12	平坦	外傾	自然	縄文土器片	本跡→ PG24

(2)　土坑

第 767 号土坑（第６図）

位置　調査区北西部のＺ１j7 区，標高 18 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 55 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北部上層を第 55 号溝に掘り込まれているが，径は 0.70 mほどの円形と推定できる。深さは 24cm で，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

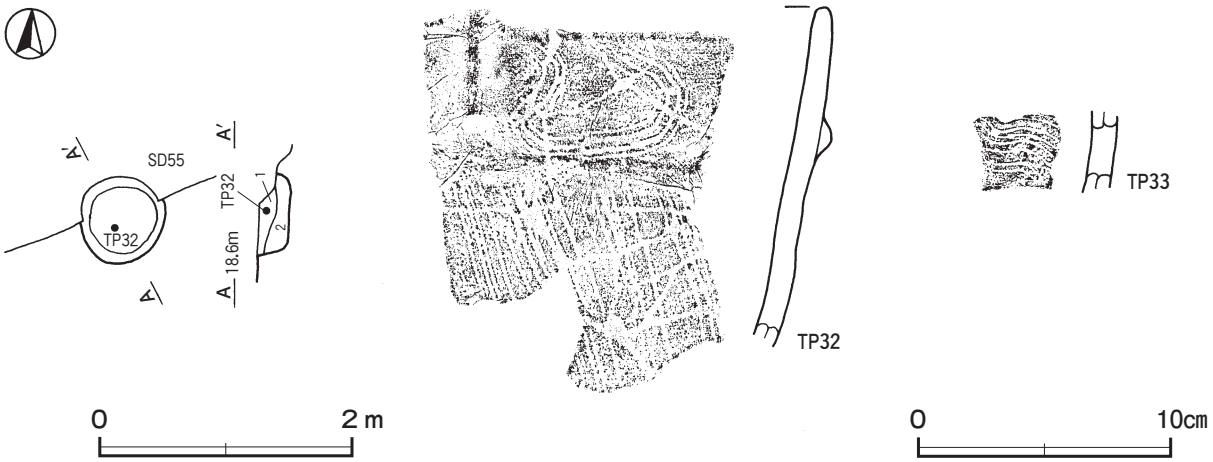
覆土　２層に分層できる。含有物が少なく，周囲からの土の流入を示す堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量　　2　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片 12 点（深鉢）が出土している。TP32 は中央部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。性格は不明である。



第６図　第 767 号土坑・出土遺物実測図

第 767 号土坑出土遺物観察表（第６図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄褐	断面三角形の隆線　口縁部に半截竹管による波状文　胴部に半截竹管による縦位の平行沈線文	覆土上層	PL47
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	半截竹管による波状文	覆土中	PL47

２　古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡 15 棟を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

第 66 号竪穴建物跡（第７図）

位置　調査区南東部のＦ 11gl 区，標高 14 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 70 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南東部が調査区域外へ延びているため，南北軸は 5.70 m，東西軸は 1.50 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で，南北軸方向はＮ－ 10°－Ｅである。壁高は 42 ～ 55㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦で，硬化面は認められない。

ピット　Ｐ１は深さ 63㎝で，北西コーナー部に位置すると想定でき，規模と配置から主柱穴である。

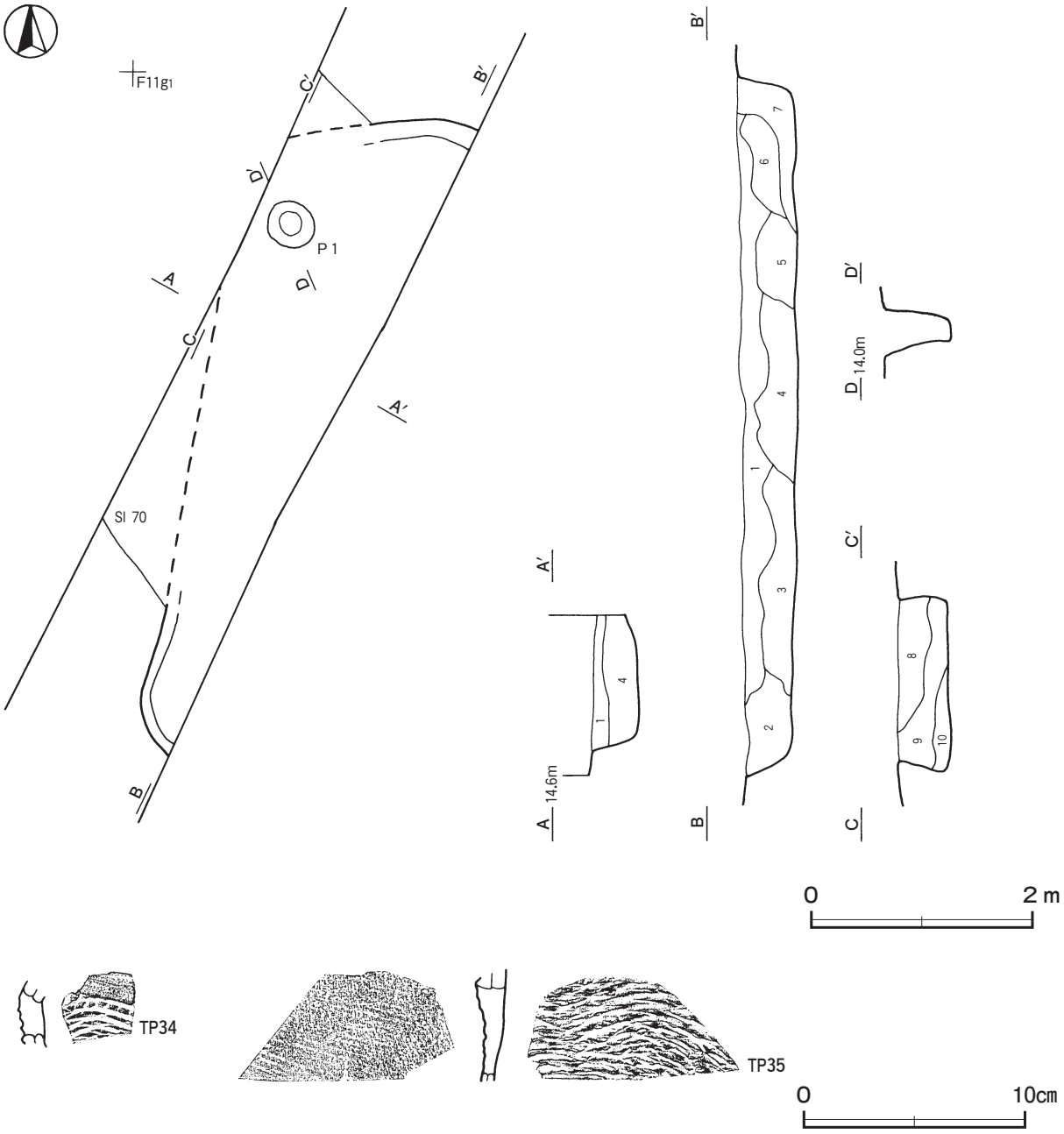
覆土　10 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック多量，炭化材・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化物少量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，粘土粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
10　暗　褐　色　炭化物中量，ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 133 点（坏 14，椀 1，甕類 118），須恵器片 5 点（甕類），土製品 3 点（羽口），鉄製品 2 点（釘，不明）が出土している。出土遺物のほとんどが細片である。TP34 と TP35 は，覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器と周辺の時期の分かる竪穴建物跡との軸方向が同じであることから，6 世紀後葉と考えられる。



第７図　第 66 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 66 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第７図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP34	須恵器	甕	長石・雲母	浅黄	内面同心円状の当て具痕	覆土上層	PL47
TP35	須恵器	甕	長石・石英・赤色粒子	灰	外面斜位の平行叩き　内面同心円状の当て具痕	覆土上層	PL47

第 68 号竪穴建物跡（第８～11 図）

位置　調査区南東部のＦ 11d2 区，標高 14 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

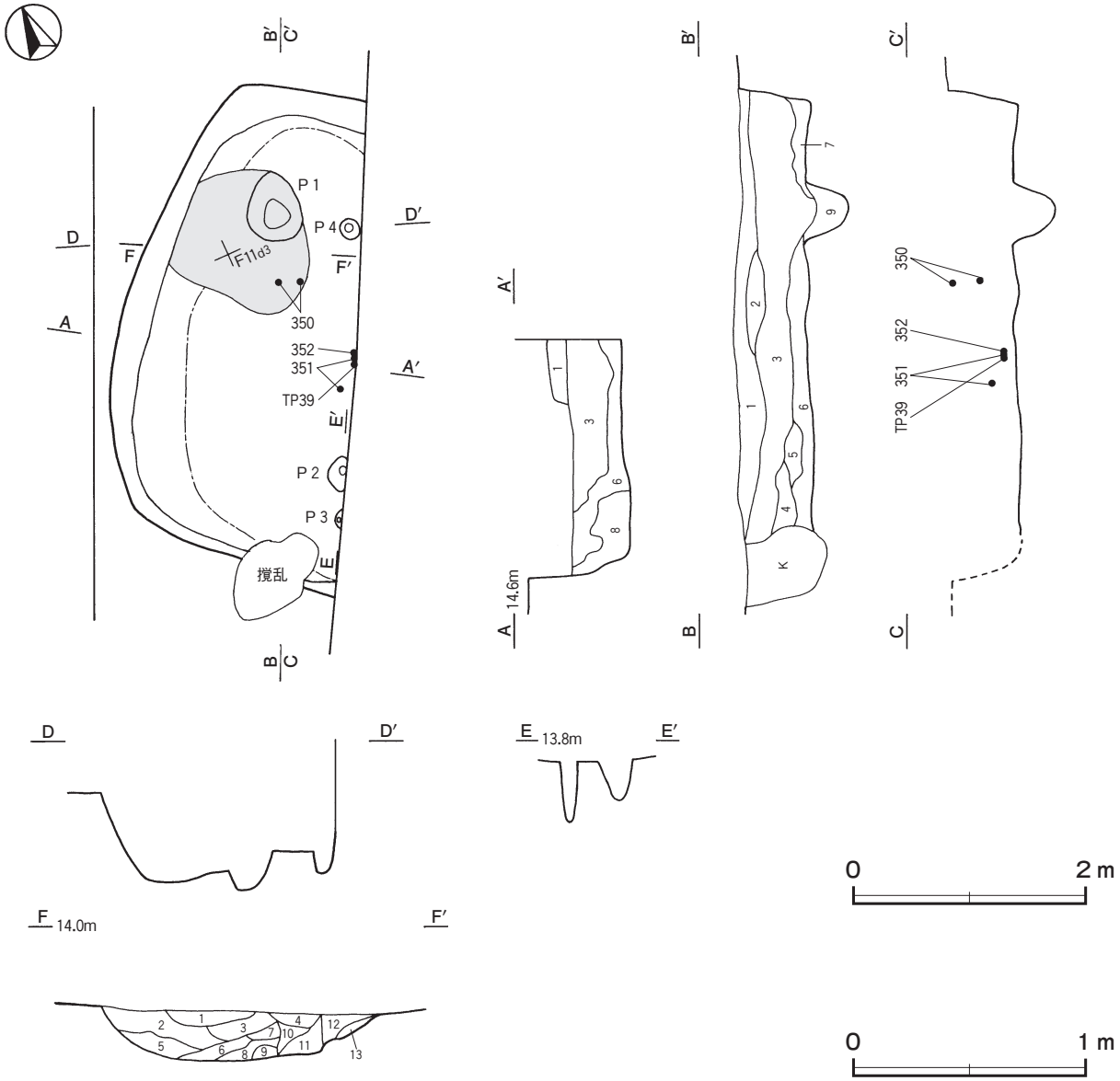
規模と形状　東部が調査区域外へ延びているため，北東・南西軸は 4.08 ｍで，北西・南東軸は 2.03 ｍしか確認できなかった。平面形は，形状から方形または長方形と考えられる。主軸方向はＮ－ 35°－Ｅである。壁高は 60 ～ 73cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，壁際 20 ～ 40cmを除いた箇所が踏み固められている。北西部で，長径 125cm，短径 110cmの楕円形で床面を 20cmほど掘りくぼめた焼土跡を確認した。

焼土跡土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　褐　　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　炭化粒子・砂粒微量
5　褐　　色　炭化粒子少量
6　褐　　色　ロームブロック少量，炭化材微量
7　暗　褐　色　炭化材少量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
9　暗 赤 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
10　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
11　褐　　色　炭化粒子少量
12　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ローム粒子微量

ピット　４か所。Ｐ１は深さ 35cmで，規模と配置から主柱穴，Ｐ２・Ｐ３は深さ 35cm・50cmで，南壁際の中



第８図　第 68 号竪穴建物跡実測図

央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。Ｐ４は深さ20cmで，性格は不明である。

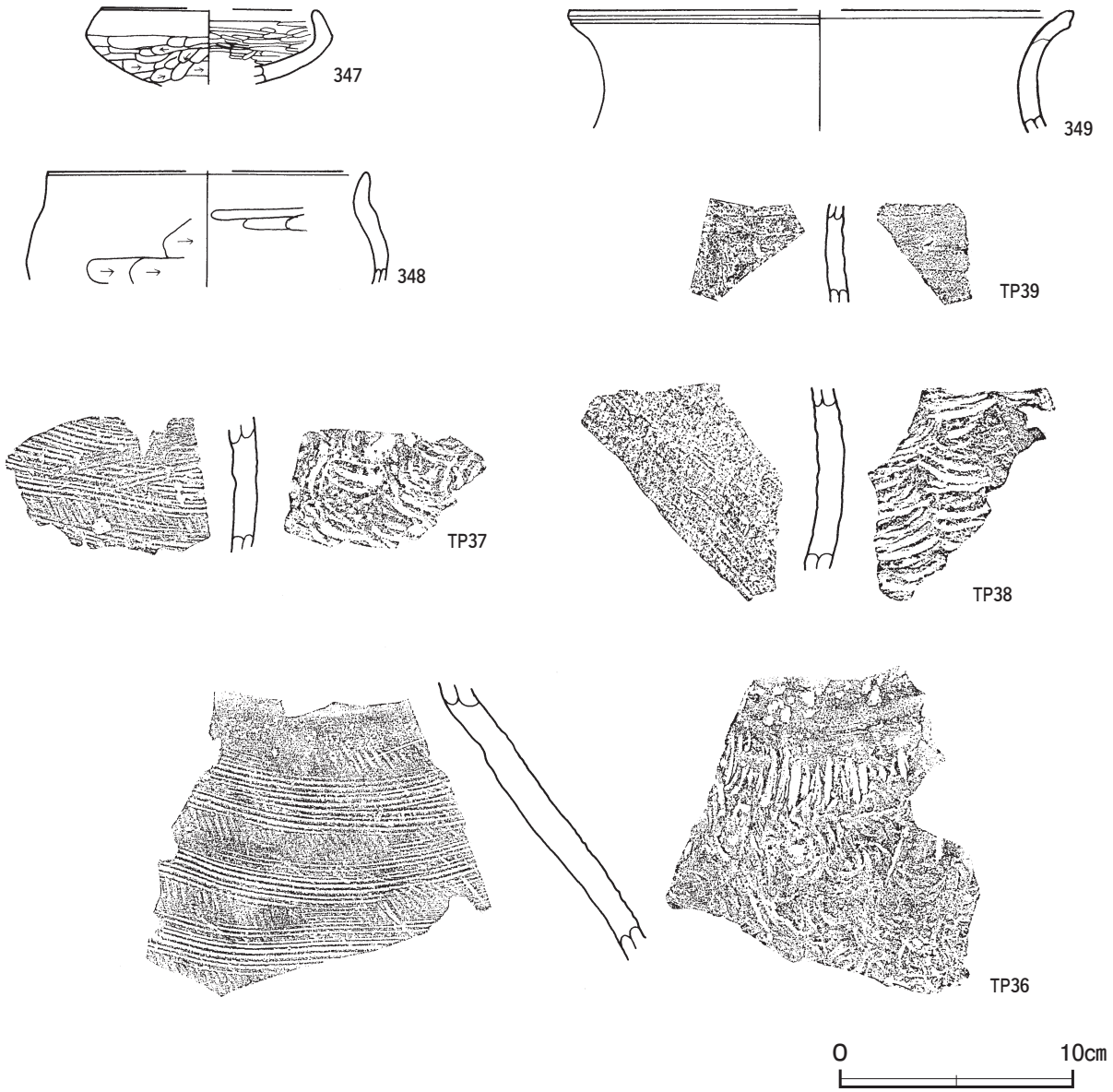
覆土　８層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第９層はＰ１の覆土である。

土層解説

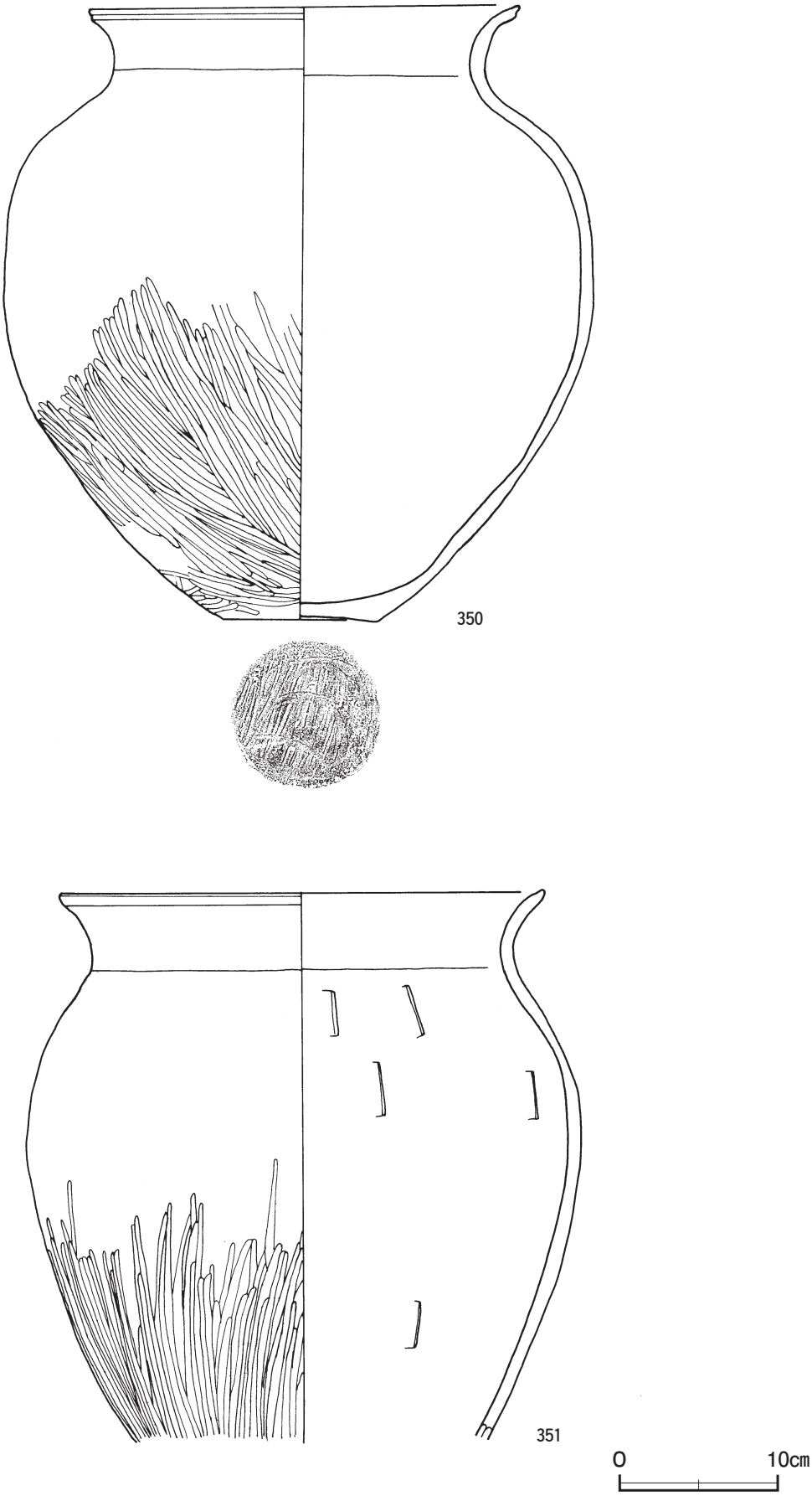
1　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量
9　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片194点（坏30，椀１，甕類163），須恵器片４点（甕類），鉄製品２点（不明），鉄滓10点（325ｇ）が出土している。351・352・TP39は中央部の覆土下層から，350は中央部の覆土上層から中層にかけて出土している。348・TP38は，覆土上層から出土している。347は，覆土中から出土している。349・TP36・TP37は北東部の覆土中から出土している。

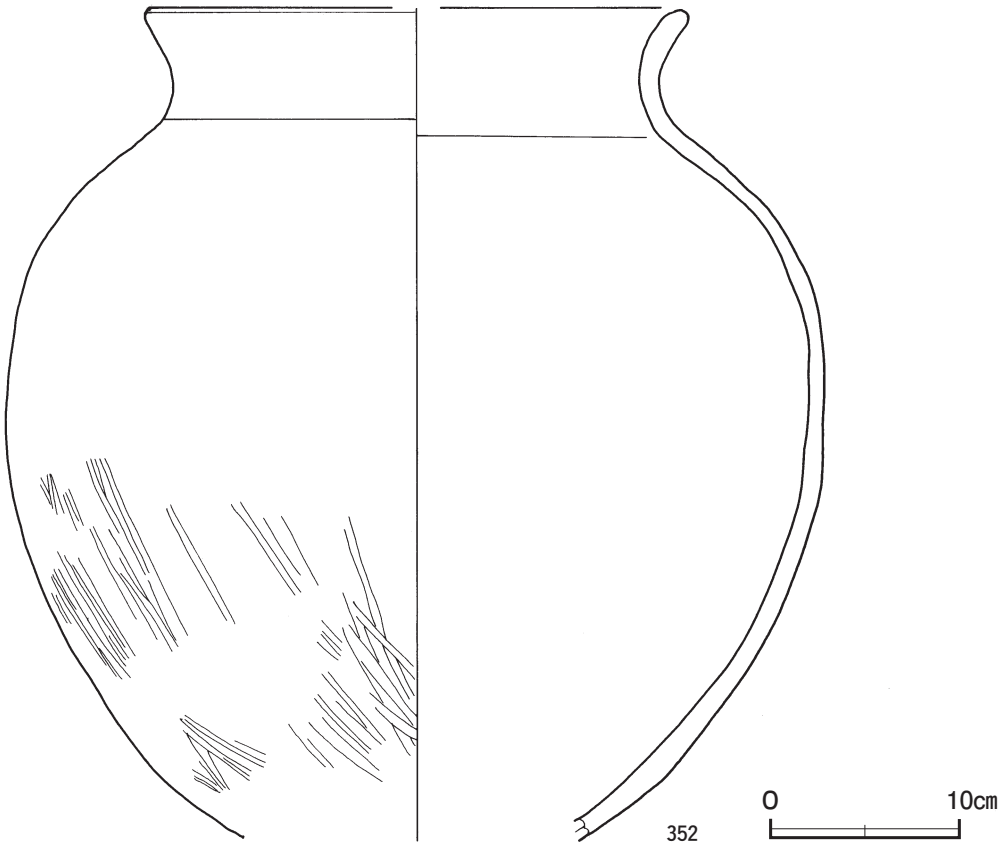
所見　時期は，出土土器から６世紀中葉と考えられる。焼土跡は，床面を掘り込んでいるため，建物廃絶時に焼土を廃棄した跡と考えられる。



第９図　第68号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 10 図　第 68 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)



第 11 図　第 68 号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第 68 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 9 ～ 11 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
347	土師器	坏	[9.2]	(3.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラ磨き	覆土中	10%
348	土師器	椀	[13.8]	(4.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラ磨き	覆土上層	5％
349	土師器	甕	[21.6]	(5.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	5％
350	土師器	甕	26.8	38.5	9.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半斜位のヘラ磨き　底部ヘラ削り後ヘラ磨き	覆土上層～中層	90%　PL35
351	土師器	甕	30.0	(34.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土下層	60%　PL35
352	土師器	甕	[28.0]	(43.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半斜位のヘラ磨き	覆土下層	40%　PL35

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP36	須恵器	甕	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	外面平行叩き後櫛歯状工具によるカキ目　内面当て具痕	覆土中	PL47
TP37	須恵器	甕	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	外面櫛歯状工具によるカキ目　内面同心円状の当て具痕	覆土中	PL47
TP38	須恵器	甕	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	内面同心円状の当て具痕	覆土上層	PL47
TP39	須恵器	甕	長石・石英	灰	外面平行叩き	覆土下層	PL47

第 69 号竪穴建物跡（第 12・13 図）

位置　調査区東部のＥ 11i5 区，標高 14 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 72 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北西部と南東部が調査区域外へ延びているため，東と西コーナー部を除いた部分のみを確認した。確認できたそれぞれのコーナー部から，一辺 5.60 mほどの方形と推定できる。主軸方向はＮ－ 27°－Ｗである。

壁高は50cmほどで，ほぼ直立している。

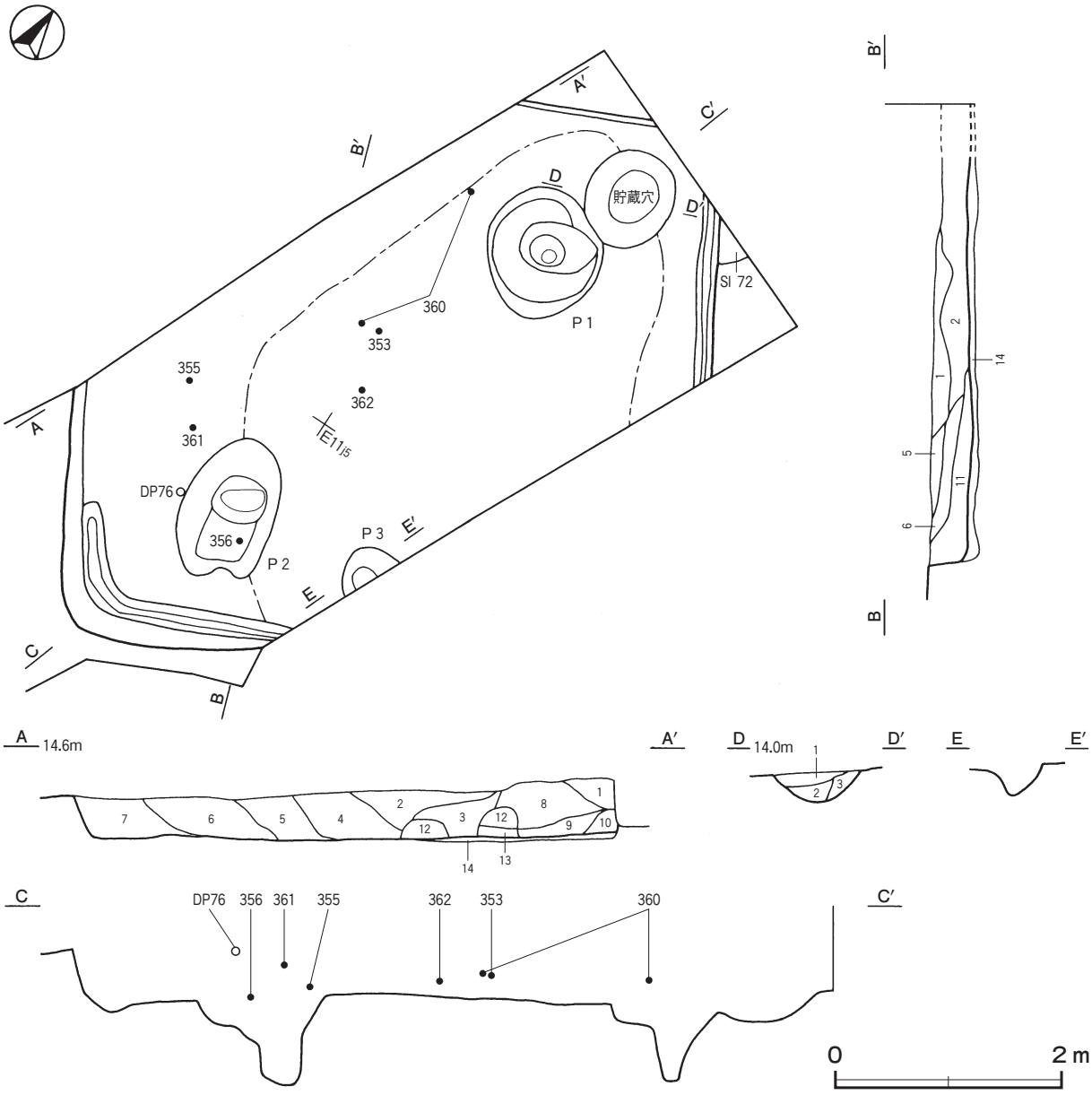
床　平坦な貼床で，中央部が硬化している。確認できた壁下には壁溝が巡っている。貼床は，全体を平坦に掘り下げ，ローム粒子を含む第14層を埋土として構築されている。

ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ74cm・78cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ３は深さ24cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長軸90cm，短軸75cmの円形で，深さは30cmである。底面は皿状で，壁は緩斜して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量



第12図　第69号竪穴建物跡実測図

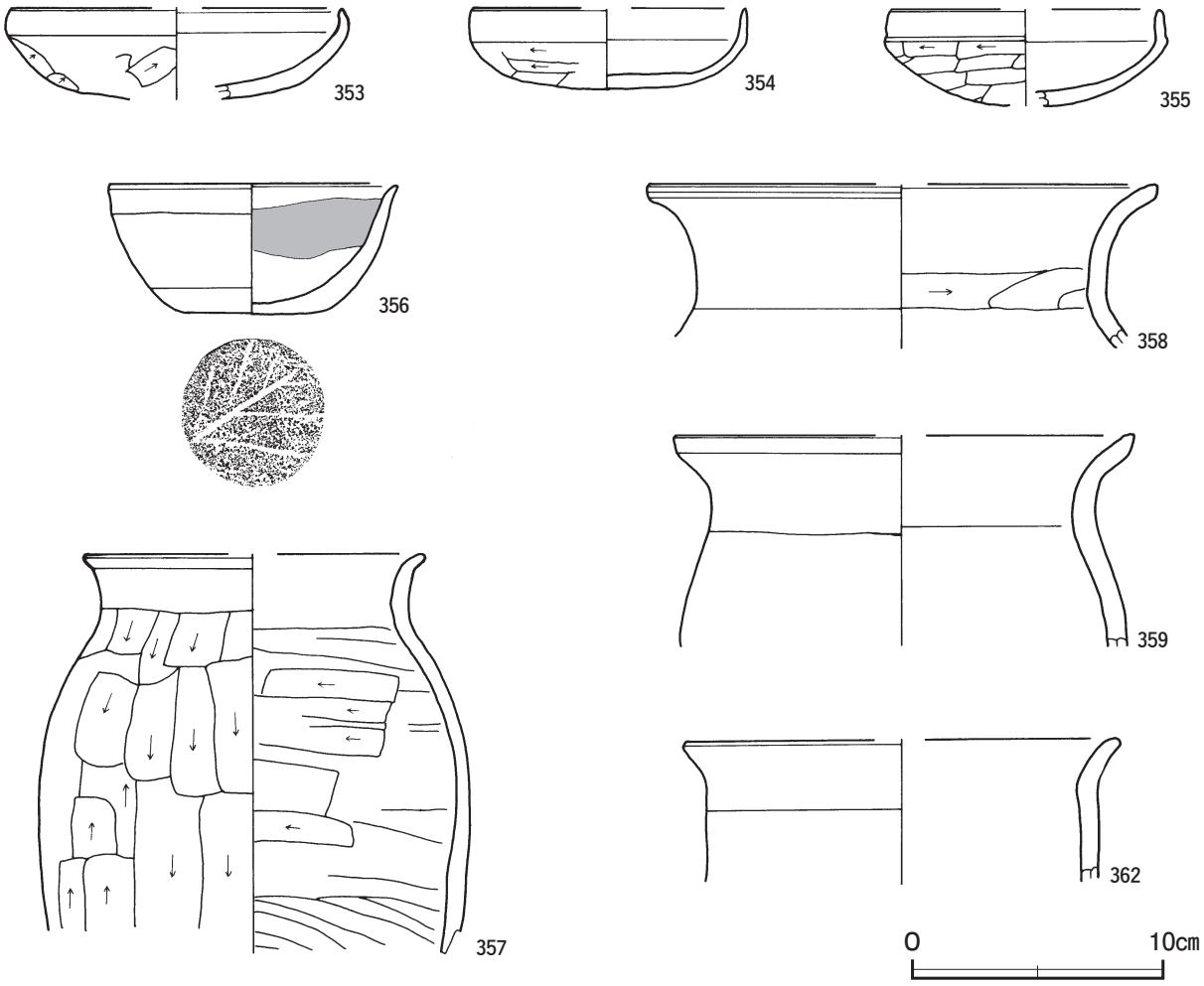
覆土　13 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。粘土ブロックを含む第 12・13 層は，竈袖部の崩落土と考えられる。北東部の床面に散布していることから，北東壁に竈が付設されていると推定できる。第 14 層は，貼床の構築土である。

土層解説

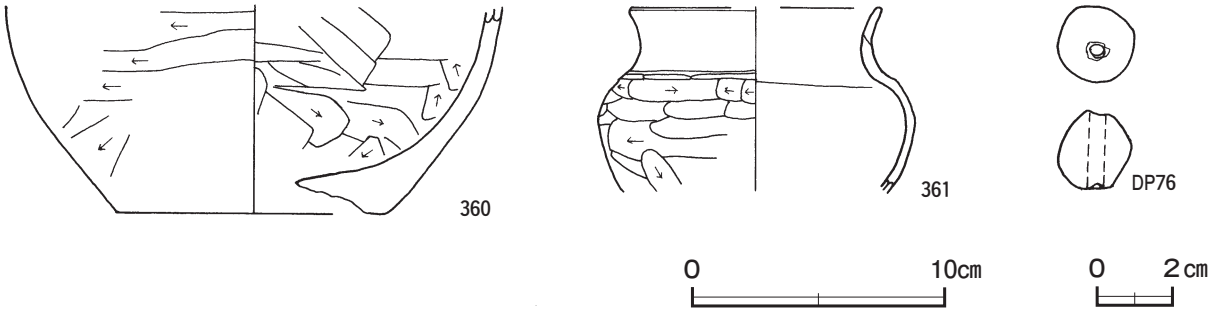
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　極 暗 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　極 暗 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
8　極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
9　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック少量
10　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量
12　にぶい褐色　粘土ブロック多量，炭化物・ローム粒子微量
13　褐　　色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
14　黒　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片 433 点（坏 75, 椀 1 , 高坏 1 , 甕類 352, 甑 4), 須恵器片 2 点（蓋, 甕類), 土製品 1 点（土玉)，鉄滓 8 点（141 g)，粘土塊 6 点が全域の覆土下層から出土している。出土遺物のほとんどが細片である。353 は，中央部の覆土中層から出土している。362 は中央部，355･356 は南西部の覆土下層から，360 は中央部，361 は南西部の覆土中層からそれぞれ出土している。DP76 は南西部の覆土上層から出土している。354･357 は，北東部の覆土中から出土している。358・359 は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



第 13 図　第 69 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 14 図　第 69 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 69 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 13・14 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
353	土師器	坏	［13.2］	(3.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り	覆土中層	30%
354	土師器	坏	［10.8］	3.2	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土中	40%
355	土師器	坏	［10.6］	(3.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土下層	20%
356	土師器	椀	11.3	5.2	5.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下端横位のヘラ削り　底部木葉痕　手捏土器	覆土下層	95%　PL35
357	土師器	甕	［13.4］	(16.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り内面横位のヘラナデ　輪積み痕残す	覆土中	30%
358	土師器	甕	［20.0］	(6.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部内面横位のヘラナデ	覆土中	5％
359	土師器	甕	［18.2］	(8.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	5％
360	土師器	甕	－	(8.2)	［10.6］	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下半横位のヘラ削り　内面ヘラナデ体部と底部の接合痕残す	覆土中層	10%
361	土師器	甕	［9.8］	(7.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土中層	30%
362	土師器	甑	［17.0］	(5.7)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	5％

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP76	土玉	2.0	2.1	0.5	7.0	長石・石英	暗灰黄	ナデ　一方向からの穿孔	覆土上層	PL48

第 70 号竪穴建物跡（第 15 図）

位置　調査区南東部のＦ 11g1 区，標高 14 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 66 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　東部が第 66 号竪穴建物跡に掘り込まれ，西部が調査区域外に延びているため，北東・南西軸は 4.35 mで，北西・南東軸は 1.50 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で，北西・南東方向はＮ－ 36°－Ｗである。壁高は 43 ～ 47cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，硬化面は確認できない。壁溝は，北壁と南壁で確認した。

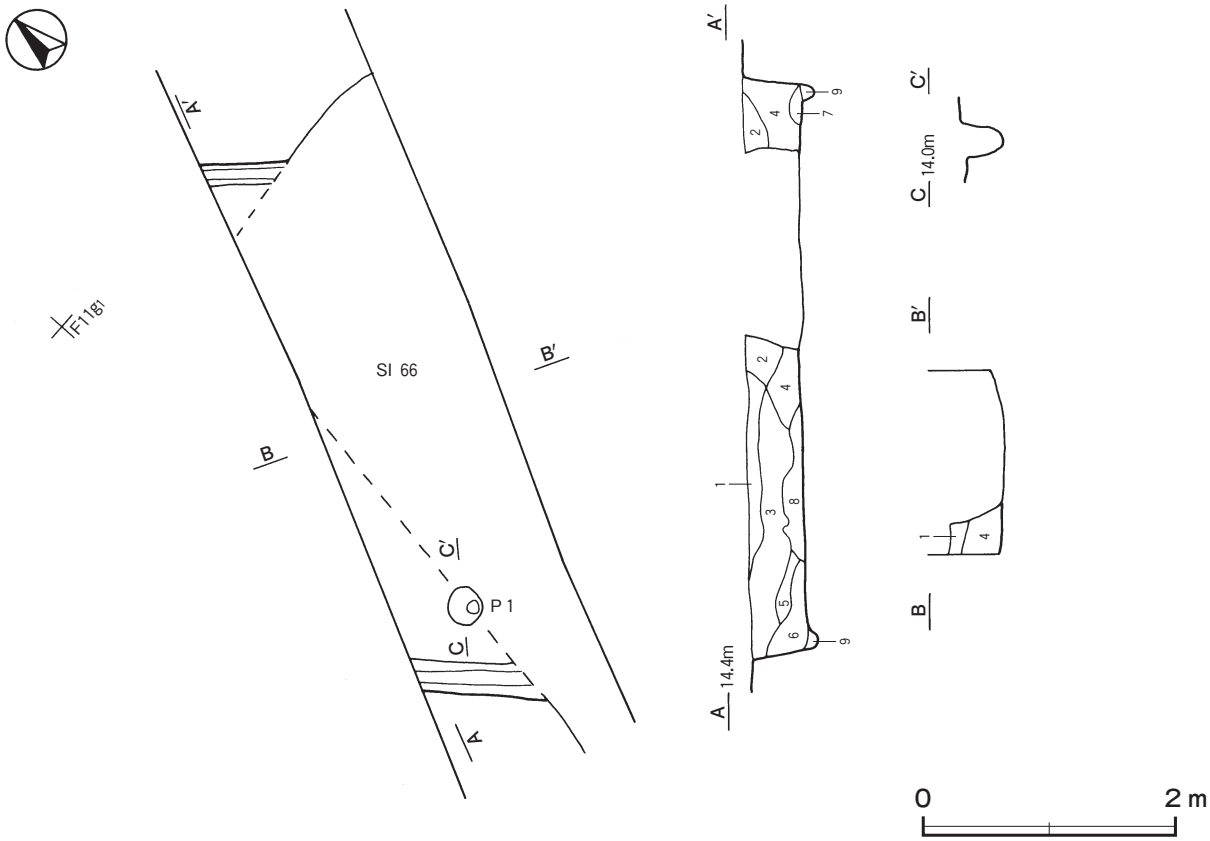
ピット　Ｐ１は深さ 36cmで，規模と位置から主柱穴または出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　９層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化材微量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
7　灰　褐　色　粘土ブロック中量，炭化粒子微量
8　極暗赤褐色　炭化物・焼土粒子中量，ロームブロック微量
9　褐　　色　炭化粒子微量

所見　時期は，第 66 号竪穴建物に掘り込まれていることと周辺の時期の分かる竪穴建物跡との軸方向が同じであることから，６世紀後葉と考えられる。



第 15 図　第 70 号竪穴建物跡実測図

第 71 号竪穴建物跡（第 16 図）

位置　調査区南東部のＧ 10b8 区，標高 14 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 117 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北部は撹乱を受け，それ以外は調査区域外へ延びているため，北東・南西軸は 2.55 m，北西・南東軸は 0.80 mしか確認できなかった。平面形，主軸方向及び壁高は不明である。

床　平坦で，北東部が踏み固められている。北部で，長径 65cm，短径 55cmの楕円形で床面を 20cmほど掘りくぼめた焼土跡を確認した。第１・２層は焼土ブロックを含む暗赤褐色土であるが，硬化していない。

焼土跡土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子・ローム粒子少量
3　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は，ともに深さ 50cmほどで，規模から主柱穴と想定される。

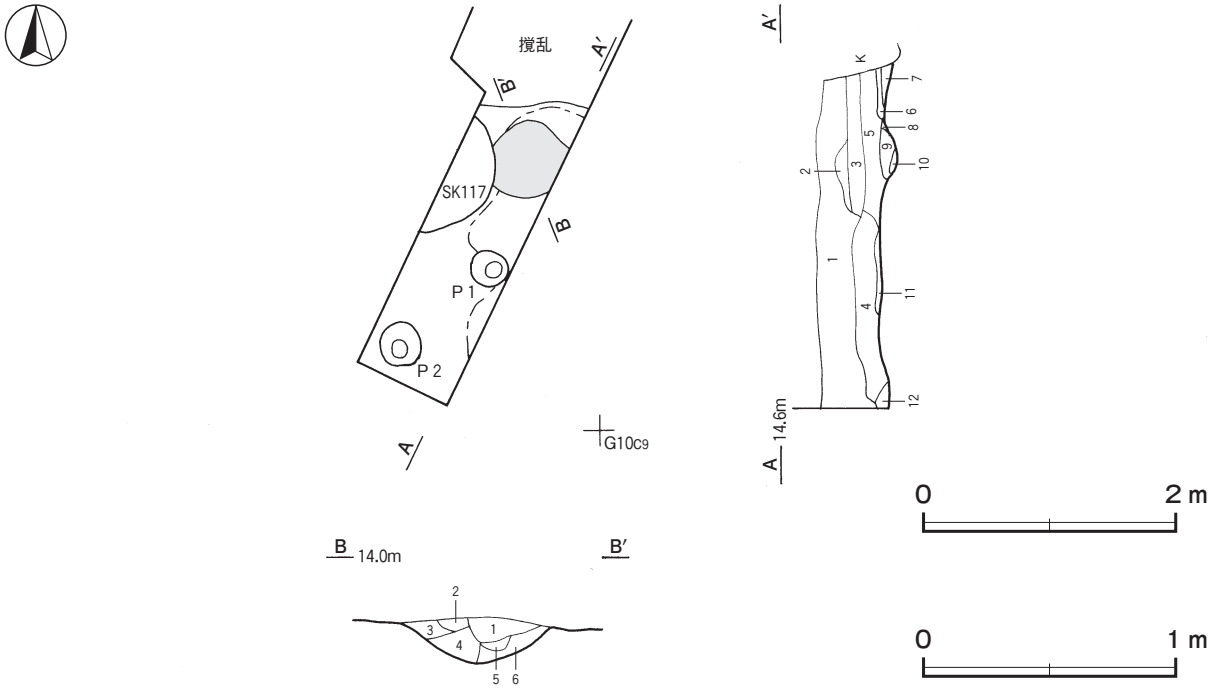
覆土　12 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
6　オリーブ褐色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　炭化粒子中量
8　褐　　色　粘土ブロック中量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
10　褐　　色　炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
12　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　鉄製品１点（不明）が出土している。

所見　時期は，本跡を掘り込んでいる第 117 号土坑から土師器片が出土していることから，古墳時代に想定できる。ピットと硬化面の配置及び覆土の第６・８層に粘土ブロックが確認できることから，北東部に竈が存在した可能性がある。焼土跡については，焼土を廃棄した跡や竈導入以前の地床炉の可能性も考えられるが，性格は不明である。



第 16 図　第 71 号竪穴建物跡実測図

第 75 号竪穴建物跡（第 17 ～ 19 図）

位置　調査区東部のＥ 11e5 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 170・351 号土坑に掘り込まれている。

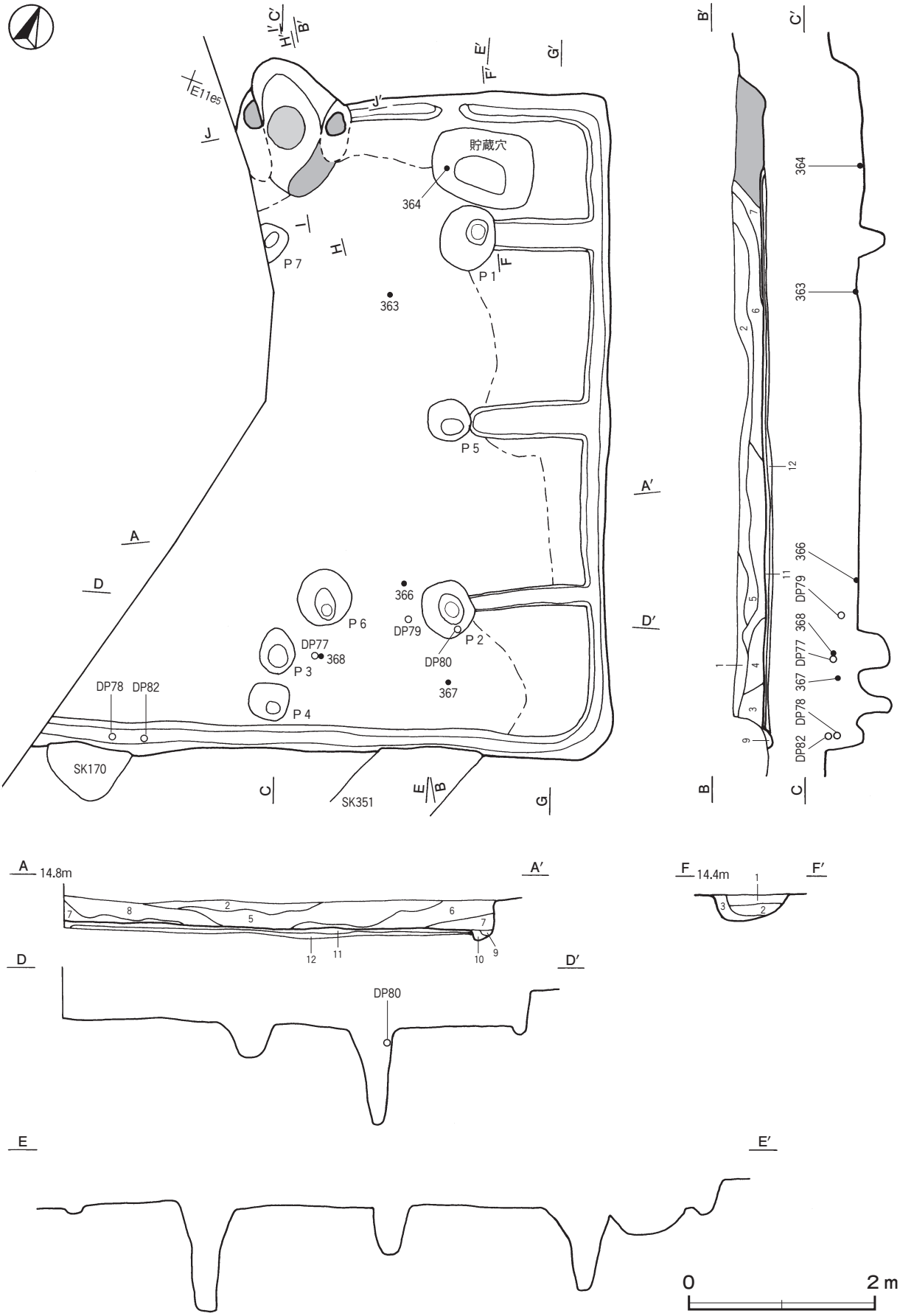
規模と形状　長軸は 7.00 ｍで，西部が調査区域外へ延びているため，短軸は 5.30 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で，主軸方向はＮ－ 19°－Ｗである。壁高は 30 ～ 38㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。東壁の壁溝から柱穴に向かって，幅 20 ～ 40㎝，長さ 100 ～ 120㎝，深さ 10㎝ほどで，断面が逆台形状の間仕切り溝３条を確認した。貼床は，四隅を掘り下げ，ロームブロックを含む第 11・12 層を埋土として構築されている。

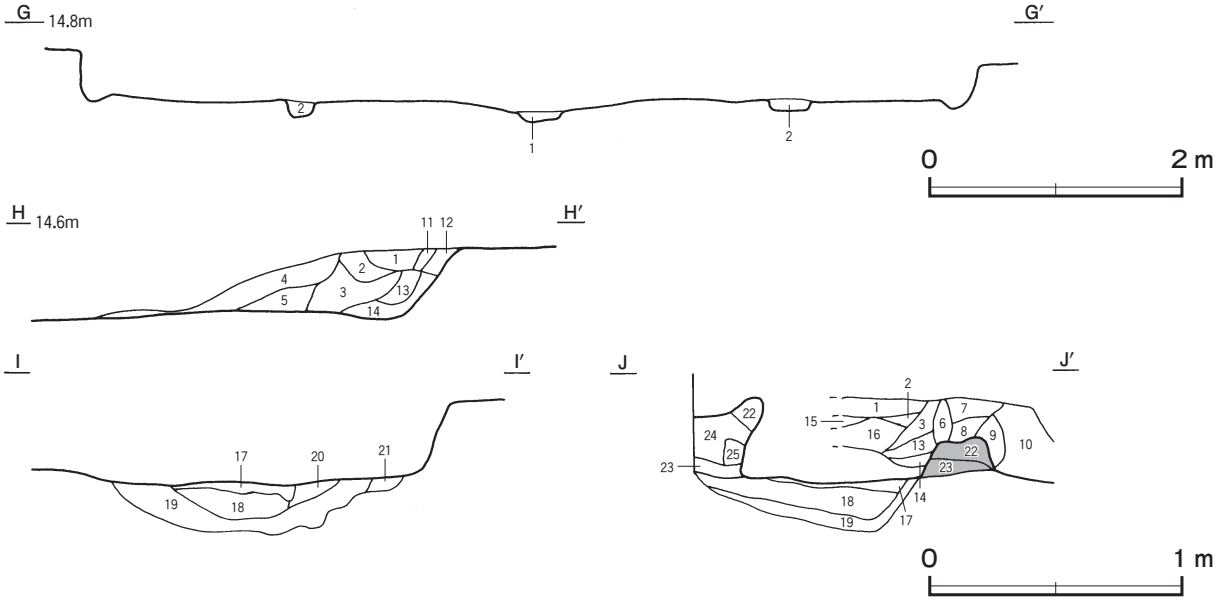
間仕切り溝土層解説

１　暗　褐　色　ローム粒子・白色粘土粒子微量　　２　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 140㎝，燃焼部幅は 60㎝と想定できる。袖部は，床面から 20㎝皿状に掘りくぼめた部分に暗赤褐色土の第 18 ～ 21 層を埋土して，砂質粘土粒子を主体とした第 22 ～ 25 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面とほぼ同じ高さで，ローム粒子や炭化粒子混じりの焼土ブロックを含む第 17 層を埋土して構築されている。火床面は，赤色しており，硬化は弱い。煙道部は，壁外に 50㎝ほど掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。



第 17 図　第 75 号竪穴建物跡実測図(1)



第 18 図　第 75 号竪穴建物跡実測図(2)

竈土層解説

1　褐　　色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子中量，砂質粘土ブロック少量
3　にぶい褐色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　炭化粒子中量，粘土ブロック・砂質粘土粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子中量，砂質粘土ブロック・ローム粒子少量
6　暗　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
7　褐　　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
9　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土ブロック微量
12　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
13　灰　褐　色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量
14　暗 赤 褐 色　砂質焼土ブロック少量，ロームブロック微量
15　灰　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
16　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，粘土粒子・ローム粒子微量
17　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
18　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化物中量，砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量
19　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
20　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
21　にぶい褐色　ローム粒子中量
22　灰　褐　色　砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
23　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
24　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
25　灰　褐　色　砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量

ピット　７か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ90cm･115cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５～Ｐ７は深さ30～50cmで，補助柱穴と考えられる。Ｐ３・Ｐ４は共に深さ40cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長軸110cm，短軸80cmの隅丸長方形で，深さは25cmほどである。底面は皿状で，壁は緩斜して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

1　褐　　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量

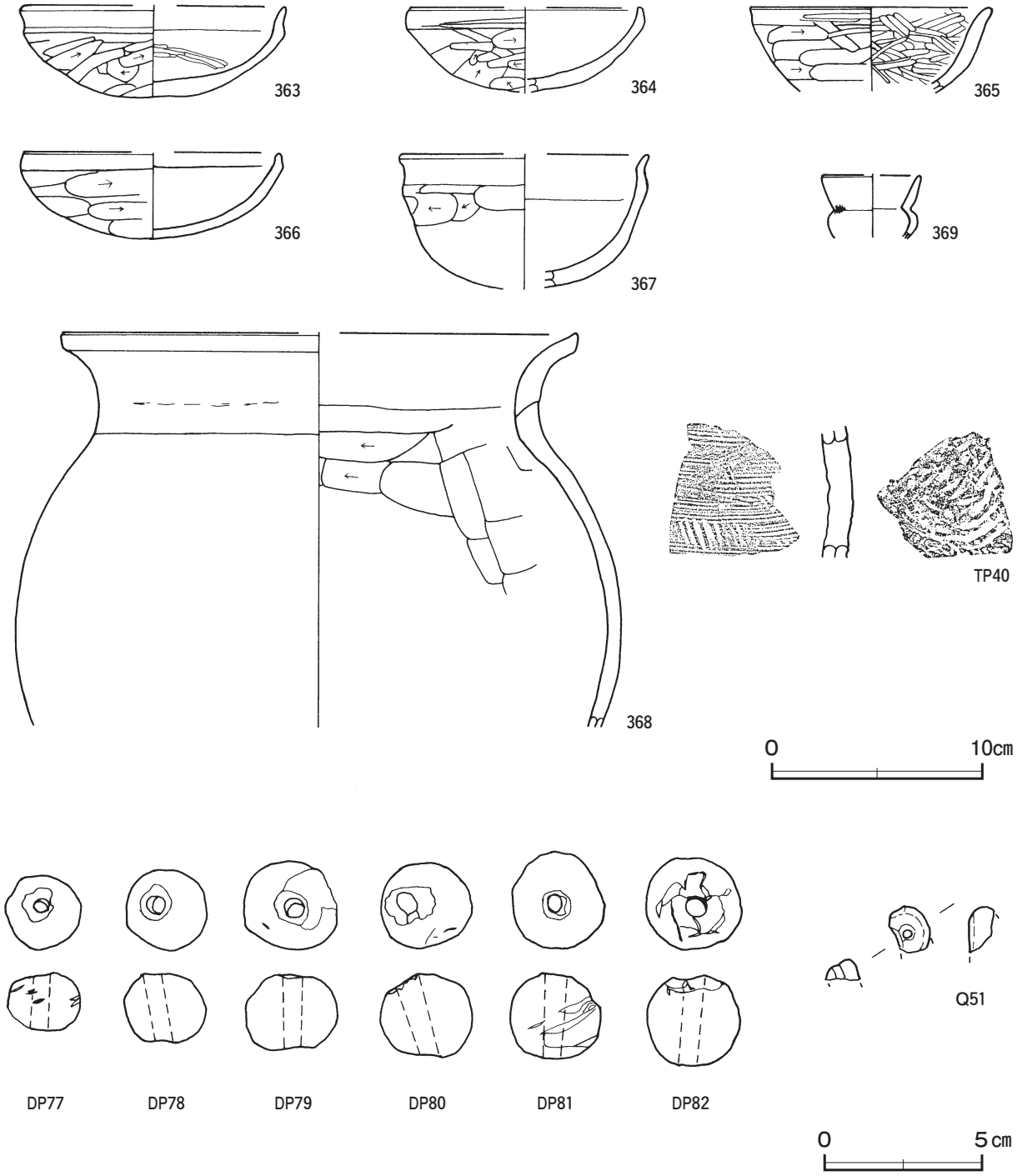
覆土　10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第11・12層は，貼床の構築土である。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　極 暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子少量
9　暗　褐　色　ロームブロック微量
10　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子多量
12　暗　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片 431 点（坏 142，椀 1，高坏 1，甕類 286，甑 1），須恵器片 1 点（甕類），ミニチュア土器 1 点，土製品 6 点（土玉），石製品 1 点（勾玉），鉄滓 8 点（108 g）が東南部の覆土中層から出土している。出土遺物のほとんどが細片である。363･364 は北東部，366 は南東部の床面からそれぞれ出土している。367・368・369・DP77・DP79 は，南東部の覆土中層から出土している。365 は南西部，DP78・DP82 は南壁際，TP40 は北西部の覆土上層からそれぞれ出土している。DP80 は，P 2 の覆土上層から出土している。Q 51 は，北西部の覆土中から出土している。DP81 は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



第 19 図　第 75 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 75 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 19 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
363	土師器	坏	［12.4］	4.3	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	床面	40%　PL34
364	土師器	坏	［11.0］	（4.0）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り	床面	30%　PL34
365	土師器	坏	11.4	（4.0）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土上層	30%　PL35
366	土師器	坏	［12.2］	4.0	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	床面	30%　PL34
367	土師器	椀	［11.8］	（6.4）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土中層	20%
368	土師器	甕	［24.4］	（18.8）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　頸部外面輪積み痕残す 横ナデ　内面ヘラナデ	覆土中層	20%
369	ミニチュア土器	坩	［4.6］	（3.0）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	手捏ね成形	覆土中層	20%

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP40	須恵器	甕	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	外面櫛歯状工具によるカキ目　内面同心円状の当て具痕	覆土上層	PL47

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP77	土玉	2.4	1.9	0.6	8.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	ナデ　ヘラ削り　二方向からの穿孔	覆土中層	PL48
DP78	土玉	2.6	2.2	0.6	14.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土上層	PL48
DP79	土玉	3.0	2.4	0.5	（17.4）	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ　一部欠損　二方向からの穿孔	覆土中層	PL48
DP80	土玉	2.9	2.7	0.6 ～ 0.7	20.1	長石・石英	橙	ナデ　ヘラ削り　二方向からの穿孔	Ｐ２覆土上層	PL48
DP81	土玉	2.9	2.7	0.5 ～ 0.7	21.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	ナデ　ヘラ削り　二方向からの穿孔	覆土中	PL48
DP82	土玉	3.0	2.8	0.6	22.5	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土上層	PL48

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 51	勾玉	（1.5）	（0.8）	（0.3）	（1.6）	チャート	破損面研磨	覆土中	PL52

第 78 号竪穴建物跡（第 20 図）

位置　調査区東端部のＤ 12g1 区，標高 14 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況　全体的に覆土下層まで削平されており，竈は痕跡のみを確認した。

重複関係　第 155 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南東部が調査区域外へ延びているため，南北軸は 3.68 ｍで，東西軸は 4.44 ｍしか確認できなかった。平面形は，長方形と推定でき，主軸方向はＮ－ 22°－Ｗである。壁高は 14 ～ 18 ｍで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。確認できた壁下には，壁溝が巡っている。貼床は，ロームのブロックや粒子主体の褐色土の第５～７層を埋土して構築されている。

竈　北壁やや東寄りで，竈構築材の粘土塊と焼土を含む覆土を確認した。確認できた燃焼部幅は 37㎝，奥行 42㎝である。袖部は，床面と同じ高さに粘土粒子を主体とした第９・10 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を 12㎝ほど皿状に掘りくぼめた部分に，第 11・12 層を埋土して構築されている。火床面は焼土の広がりのみを確認したが，赤変・硬化は認められない。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子・粘土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子少量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，粘土粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量
9　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
10　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量
12　暗 赤 褐 色　焼土ブロック微量

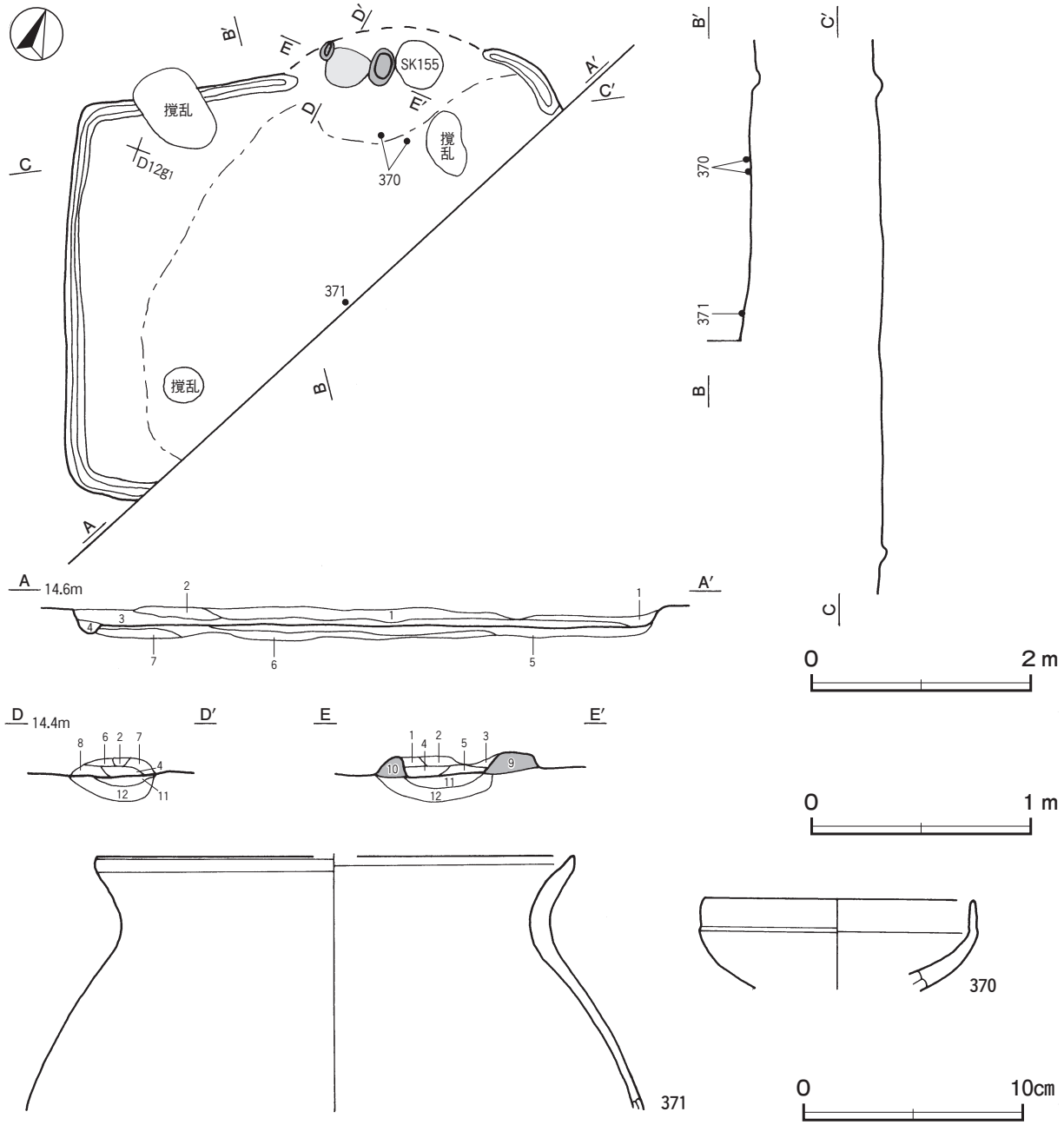
覆土　４層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれる層があることから埋め戻されている。第５～７層は貼床の構築土で，上層にあたる第５層は締まりが強い。

土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐	色　ロームブロック多量
2	暗	褐	色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	6	褐	色　ローム粒子多量
3	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	7	褐	色　ロームブロック・焼土粒子微量
4	暗	褐	色	ローム粒子中量			

遺物出土状況　土師器片 43 点（坏６，甕類 37），須恵器片２点（坏），鉄滓１点（3.9 g）が出土している。370 は竈前の床面から出土した破片が接合したものである。371 は中央部の床面から出土している。鉄滓は，貼床の構築土から出土していることから，埋土の際に混入したものである。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。



第 20 図　第 78 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 78 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 20 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
370	土師器	坏	12.2	(4.2)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外・内面摩耗のため調整不鮮明	床面	40%
371	土師器	甕	[21.8]	(11.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外・内面ナデ	床面	10%

第 79 号竪穴建物跡（第 21・22 図）

位置　調査区中央部のＣ７h8 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 273・276 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺 6.10 mほどの方形で，主軸方向はＮ－ 17°－Ｗである。壁高は 40 ～ 44cmで外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。西壁の壁溝から柱穴に向かって，幅 20 ～ 30cm，長さ 80 ～ 100cm，深さ５～ 10cmで，断面が逆台形状の間仕切り溝２条を確認した。南壁際に焼土塊を確認した。

間仕切り溝土層解説

1　暗　褐　色　炭化粒子微量
2　褐　　色　焼土粒子微量

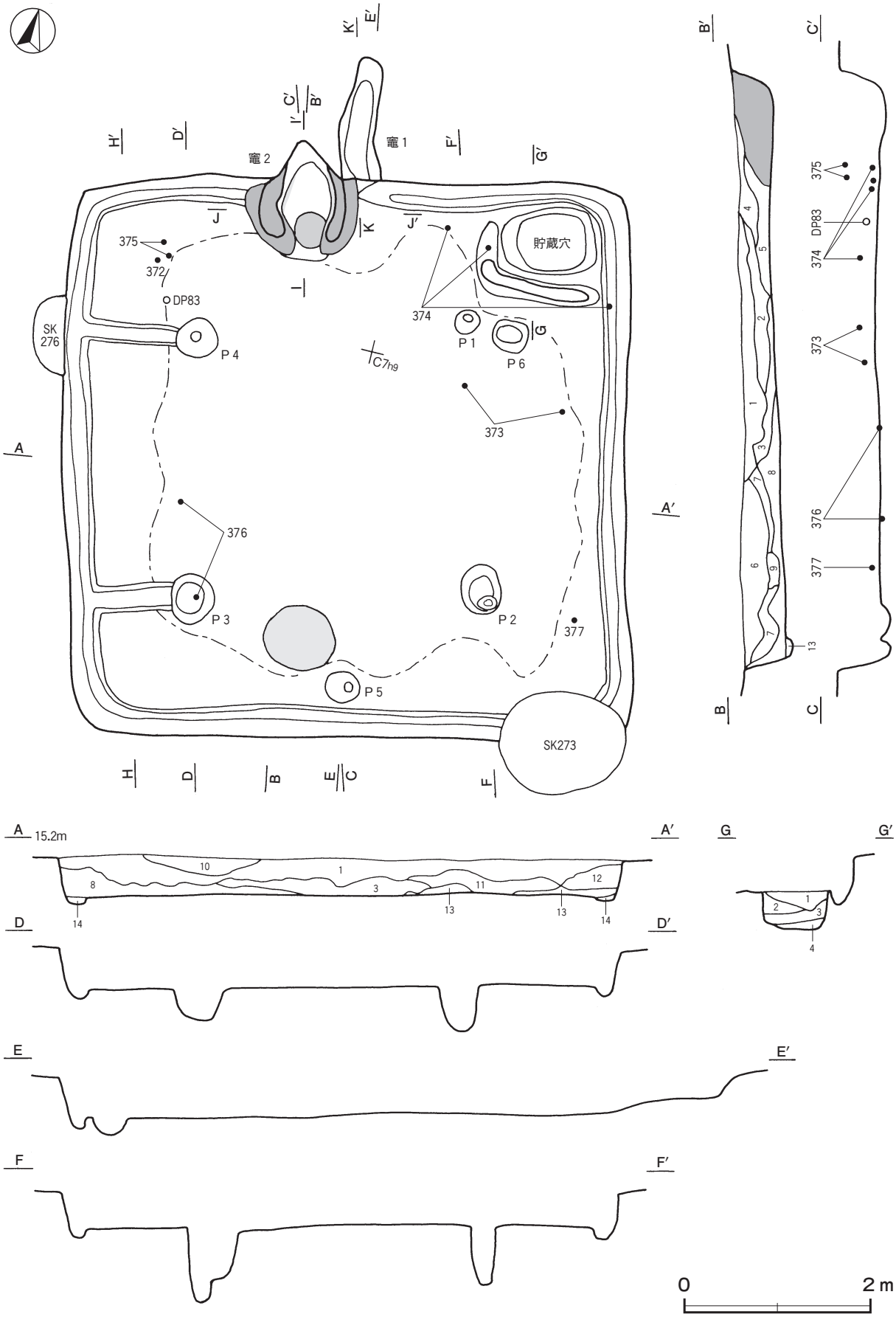
竈　２か所。竈１は北壁の中央部，竈２はそれよりやや西側に付設されている。竈１は，北壁外に煙道部の掘り込みのみを確認した。規模は，長さ 135cm，横幅は 40cmである。煙道部は緩斜して立ち上がっている。竈２は，焚口部から煙道部まで 125cm，燃焼部幅は 60cmである。袖部は，床面を同じ高さに焼土粒子や粘土ブロックを含む第 24 ～ 30 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面とほぼ同じ高さで，焼土や粘土のブロックを含む第 21 ～ 23 層を埋土して構築されている。火床面は，火熱を受けて赤く変色している。煙道部は，壁外に 50cmほど掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。遺存状態から，竈１から竈２へ作り替えられている。

竈１土層解説

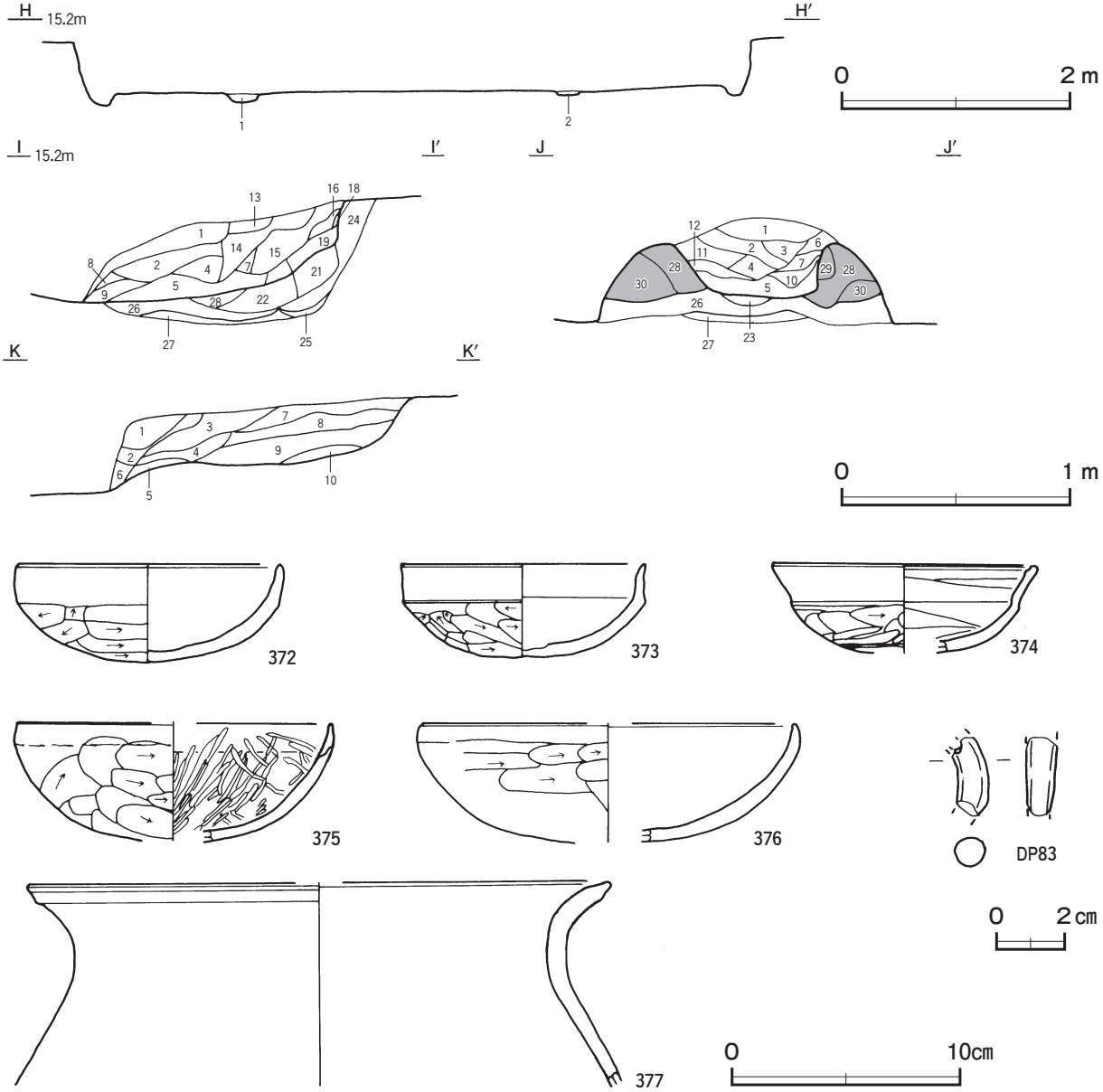
1　暗　褐　色　粘土ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
4　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　焼土粒子中量，粘土粒子少量
6　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
7　褐　灰　色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
8　褐　　色　粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
9　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
10　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量

竈２土層解説

1　褐　　色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　粘土ブロック多量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　にぶい褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　赤　褐　色　焼土ブロック多量，粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量
6　褐　　色　粘土粒子中量，焼土ブロック･炭化粒子少量，ロームブロック微量
7　灰　褐　色　粘土ブロック中量，炭化材・焼土ブロック・ローム粒子微量
8　赤　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
9　赤　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
10　褐　　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量
12　褐　　色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
13　にぶい褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
14　にぶい褐色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
15　にぶい褐色　焼土粒子・砂質粘土粒子中量
16　灰　褐　色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
17　褐　　色　砂質粘土粒子中量，焼土ブロック微量
18　赤　褐　色　焼土粒子・粘土粒子中量
19　暗　褐　色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
20　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，粘土粒子微量
21　黒　褐　色　焼土ブロック中量
22　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量
23　にぶい赤褐色　粘土ブロック・焼土粒子中量
24　灰　褐　色　粘土ブロック微量
25　暗　褐　色　ロームブロック微量
26　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
27　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
28　にぶい褐色　粘土粒子多量
29　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量
30　褐　　色　粘土粒子多量



第 21 図　第 79 号竪穴建物跡実測図



第22図　第79号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ピット　6か所。P1～P4は深さ34～81cmで，規模と配置から主柱穴である。P5は深さ18cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ33cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長軸100cm，短軸75cmの隅丸長方形で，深さは25cmほどである。断面は箱形で，壁はほぼ直立している。南西部には，L字状に硬化した高まりを確認した。高さは5cmほどである。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量

覆土　14層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第9層は，焼土塊の堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
6　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
9　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
12　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
13　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
14　暗　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片 414 点（坏 102，甕類 312），須恵器片３点（蓋），土製品２点（支脚，勾玉），鉄製品１点（不明），鉄滓 280 点（2403 g）が北半部の覆土中層から出土している。出土遺物のほとんどが細片である。376 は，南西部の床面から出土している。373・374 は北東部，377 は南東部，372・DP83 は北西部の覆土下層からそれぞれ出土している。375 は，北西部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀末～７世紀初頭に比定できる。焼土塊は，断ち割ったところ，床面との間に５～ 10cmの間層が存在したため，建物廃絶後の埋土に混入したものと考えられる。

第 79 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 22 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
372	土師器	坏	11.4	4.3	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土下層	95%　PL34
373	土師器	坏	10.6	4.1	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土下層	95%　PL34
374	土師器	坏	11.4	(3.9)	－	長石・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り 内面横ナデ	覆土下層	60%　PL34
375	土師器	坏	[13.8]	(5.2)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り 内面横ナデ後ヘラ磨き	覆土上層	50%
376	土師器	坏	[16.4]	(5.2)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	床面	60%　PL34
377	土師器	甕	[25.6]	(9.0)	－	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP83	勾玉	(2.3)	(1.1)	(0.9)	(1.6)	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一部欠損	覆土下層	PL48

第 80 号竪穴建物跡（第 23 ～ 26 図）

位置　調査区中央部のＣ８f1 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

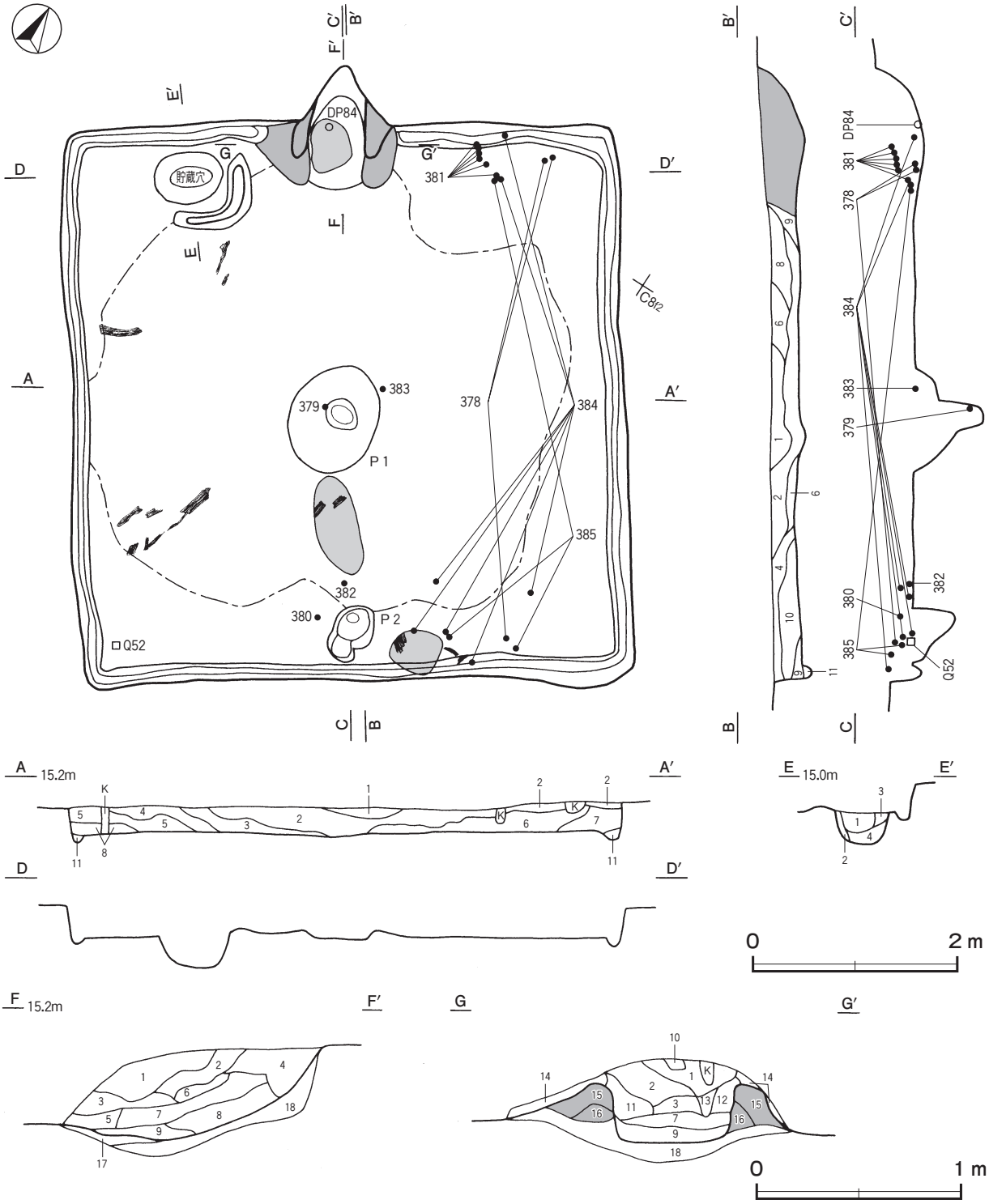
規模と形状　一辺 5.50 mほどの方形で，主軸方向はＮ－ 35°－Ｗである。壁高は 18 ～ 32cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。南西部で炭化材，Ｐ２付近で焼土塊を確認した。貯蔵穴の東側の床面には，幅 12 ～ 26cm，高さ５cmほどのＬ字状の高まりがある。

竈　北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120cmで，燃焼部幅は 58cmである。袖部は，床面から深さ 20cmの皿状に掘りくぼめた部分に，焼土粒子を含むにぶい褐色土の第 18 層を埋土して，粘土粒子を主体とした第 15・16 層を積み上げて構築している。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 54cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。火床部やや左寄りには土製の支脚が据えられている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量
3　暗　褐　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土ブロック少量
6　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
8　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量
9　極暗赤褐色　炭化粒子多量，焼土粒子中量
10　暗　褐　色　焼土粒子微量
11　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
12　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
13　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子微量
14　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
15　灰　褐　色　粘土粒子多量
16　にぶい橙色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
17　赤　褐　色　焼土粒子多量
18　にぶい褐色　焼土粒子少量，粘土粒子微量



第 23 図　第 80 号竪穴建物跡実測図

ピット　２か所。Ｐ１は深さ65cmで，性格は不明であるが，規模から主柱穴の可能性がある。Ｐ２は深さ41cmで，南東壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　西コーナー部と竈の中間に位置している。長径66cm，短径52cmの楕円形で，深さは34cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。東側の床面には，幅12～26cm，高さ５cmほどのＬ字状の高まりがある。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子微量

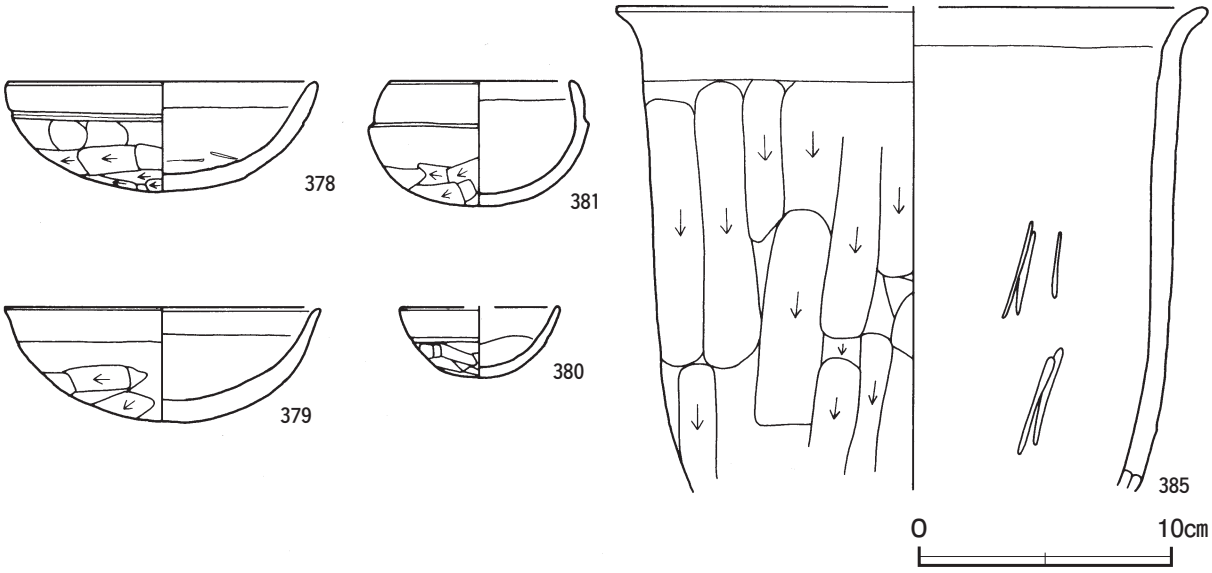
覆土　11層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，不自然な堆積状況であることから，埋め戻されている。

土層解説

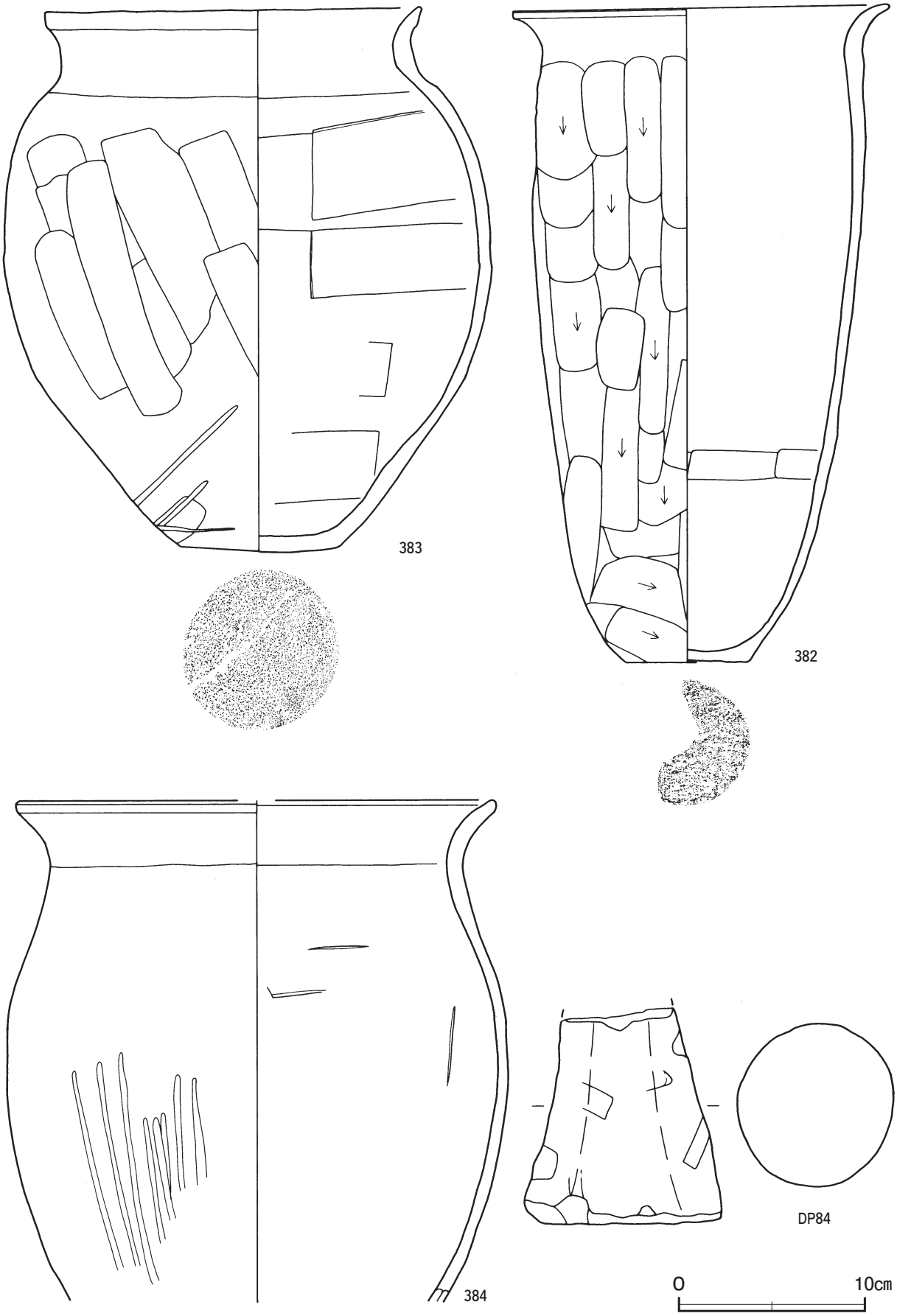
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化材・焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量，焼土ブロック微量
9　褐　灰　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
10　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
11　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片135点（坏43，椀１，甕類90，甑１），須恵器片４点（坏），土製品５点（支脚），石器１点（砥石），鉄滓13点（55.9ｇ）が出土している。379は，Ｐ１の覆土下層及び西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。383は，Ｐ１の覆土中及びＰ１上の覆土下層から一括で出土した破片が接合したものである。Ｑ52は南コーナー部の覆土下層から出土している。382はＰ２付近の覆土下層から出土している。378は北東壁際及び南東壁際，381は北東壁際の覆土中層から下層にかけて出土している。380は南東壁際の覆土中層から出土している。384・385は，建物の北部から東部にかけた広範囲の覆土上層から下層にかけて出土している。DP84は火床面から出土している。鉄滓は，覆土上層から41.2ｇ，覆土下層から14.7ｇ出土し，北西部からの出土のみである。廃絶過程で混入したものと考えられる。

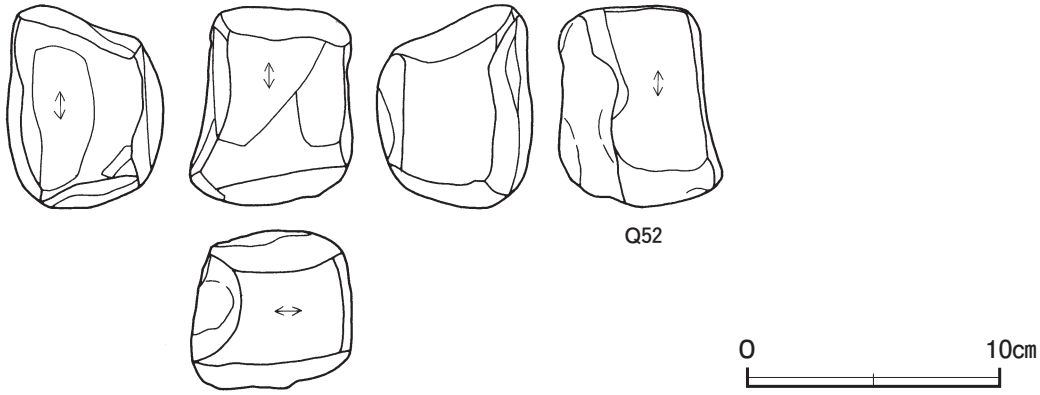
所見　接合関係にある遺物が異なる層位から出土していることから，建物の廃絶後，比較的短期間に埋め戻しと遺物の投棄が行われた可能性がある。時期は，出土土器から７世紀後葉に比定できる。



第24図　第80号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 25 図　第 80 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)



第 26 図　第 80 号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第 80 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 24 ～ 26 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
378	土師器	坏	12.2	4.4	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁端部外面に一条の沈線　体部下半ヘラ削り	覆土中～下層	70%　PL34
379	土師器	坏	12.4	4.6	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外面横ナデ　体部下半ヘラ削り	Ｐ１覆土下層	60%
380	土師器	坏	[6.2]	2.8	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部下半ヘラ削り後一部ナデ　内面ナデ	覆土中層	50%　PL35
381	土師器	椀	7.2	5.0	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下半ヘラ削り　内面ナデ	覆土中～下層	70%　PL35
382	土師器	甕	20.0	35.3	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部ヘラ削り　体部下半斜位のヘラ削り痕を残す内面一部ヘラナデ	覆土下層	80%　PL37
383	土師器	甕	20.4	29.5	8.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部斜位のヘラ削り一部不鮮明　内面ヘラナデ	覆土下層 Ｐ１覆土	85%　PL35
384	土師器	甕	[25.6]	(27.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面縦位のヘラ磨き　内面工具痕　口縁部外・内面ナデ	覆土上～下層	40%
385	土師器	甑	[23.3]	(19.3)	－	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	体部上下方向のヘラ削り　口縁部外・内面ナデ内面一部ヘラナデ	覆土上～下層	30%

番号	器　種	高さ	最小径	最大径	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP84	支脚	(11.6)	(6.1)	10.6	(879.1)	長石・石英	橙	側面一部ヘラ削り　工具痕	竈火床面	PL48

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 52	砥石	8.0	6.5	6.3	554.6	雲母片岩	砥面４面	覆土下層	

第 81 号竪穴建物跡（第 27 ～ 29 図）

位置　調査区中央部のＣ８h0 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第２号地下式坑，第 239・242 号土坑に掘り込まれている。

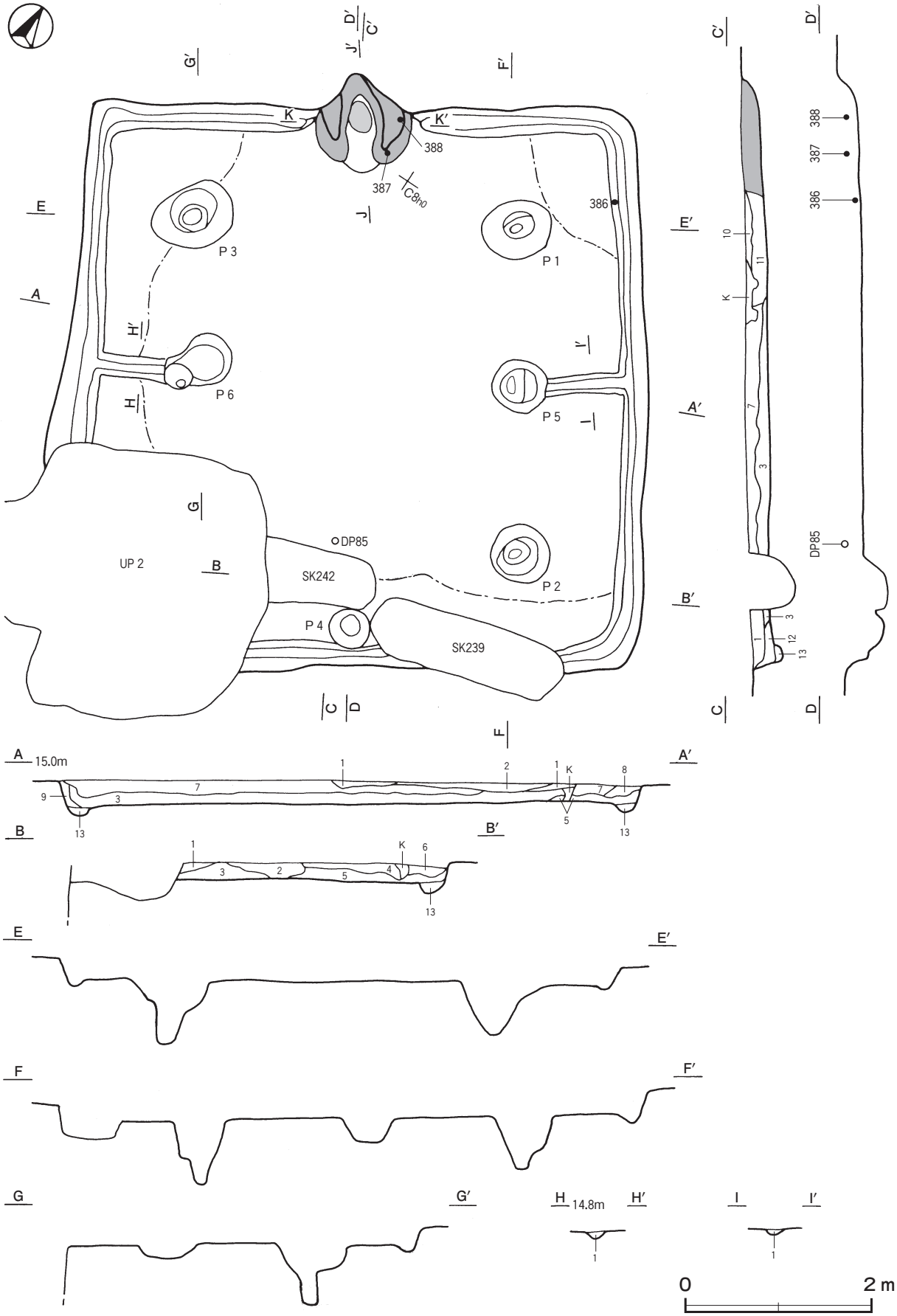
規模と形状　長軸 6.42 ｍ，短軸 6.08 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 30°－Ｗである。壁高は 20 ～ 25cmでやや外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。東壁の壁溝からＰ５，西壁の壁溝からＰ６へ向かって，幅 20 ～ 25cm，長さ 70 ～ 80cm，深さ５～ 10cmで，断面が逆台形状の間仕切り溝２条を確認した。

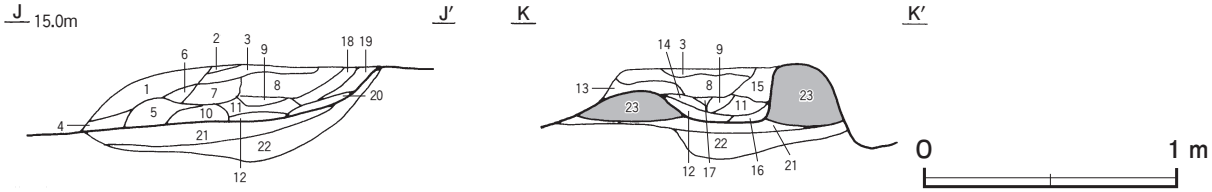
間仕切り溝土層解説

１　褐　　色　ロームブロック中量

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 110cm，燃焼部幅は 35cmである。袖部は，床面から 15cm掘りくぼめた部分に第 21・22 層を埋土して，粘土粒子を主体とした第 23 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面とほぼ同じ高さを利用しており，火床面は，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，壁外に 40cmほど掘り込まれ，火床部から緩斜して立ち上がっている。



第 27 図　第 81 号竪穴建物跡実測図(1)



第 28 図　第 81 号竪穴建物跡実測図(2)

竈土層解説

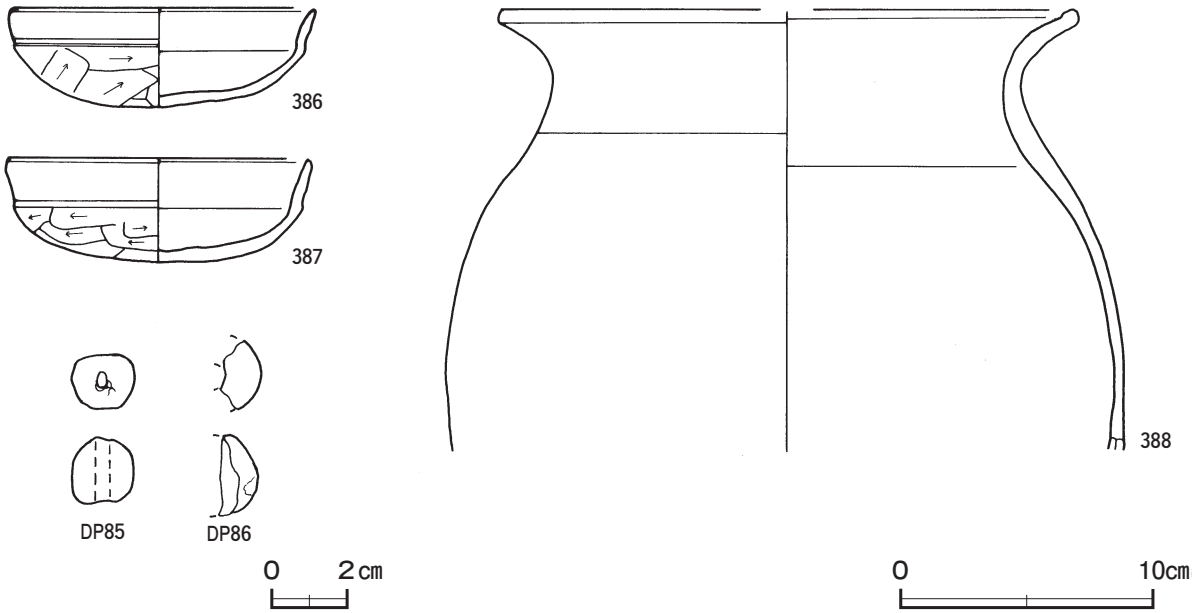
1　暗　褐　色　砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　　色　炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7　褐　　色　炭化粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
8　褐　　色　砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
9　褐　　色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
10　褐　　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量
11　灰　褐　色　砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
12　赤　褐　色　焼土ブロック多量，砂質粘土粒子少量
13　にぶい褐色　砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
14　褐　　色　焼土ブロック・砂質粘土粒子中量
15　褐　灰　色　砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
16　褐　灰　色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
17　灰　褐　色　焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量
18　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量
19　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂質粘土粒子微量
20　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，砂質粘土粒子微量
21　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量
22　褐　　色　ローム粒子中量
23　褐　灰　色　粘土粒子中量

ピット　6か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 55 ～ 70cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ 25cm・15cmで，補助柱穴と考えられる。Ｐ４は深さ 18cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　13 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　にぶい褐色　砂質粘土粒子多量
2　褐　　色　ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
4　褐　　色　砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック少量
8　褐　　色　ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子中量，砂質粘土粒子・焼土粒子少量
10　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量
11　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
12　暗　褐　色　ロームブロック少量
13　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量



第 29 図　第 81 号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 334 点（坏 74, 甕類 260), 須恵器片 1 点（甕類), 土製品 2 点（土玉), 鉄製品 1 点（釘), 鉄滓 120 点（788 g）が全域の覆土下層から出土している。出土遺物のほとんどが細片である。386 は，北東コーナー部付近の床面から出土している。387・388 は，竈右袖部から出土している。DP85 は，中央部南側の覆土上層から出土している。DP86 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。

第 81 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 29 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
386	土師器	坏	12.0	3.9	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り	床面	95%　PL34
387	土師器	坏	11.9	4.1	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	竈右袖部	85%　PL36
388	土師器	甕	［22.8］	（17.4）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	竈右袖部	30%

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP85	土玉	1.7	1.8	0.3 ～ 0.4	3.8	長石・雲母・赤色粒子	灰	ナデ　一方向からの穿孔	覆土上層	PL48
DP86	土玉	（1.8）	（2.1）	－	（2.7）	長石・雲母・赤色粒子	灰褐	ナデ　一部欠損　一方向からの穿孔	覆土中	

第 82 A 号竪穴建物跡（第 30 ～ 33 図）

位置　調査区中央部のＣ８i8 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 82 B 号竪穴建物跡，第 286 号土坑を掘り込み，第 287・290 ～ 292・295・778 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 6.70 m，短軸 6.25 mの方形で，主軸方向はN － 28° －Wである。壁高は 24 ～ 36cmで緩斜して立ち上がっている。

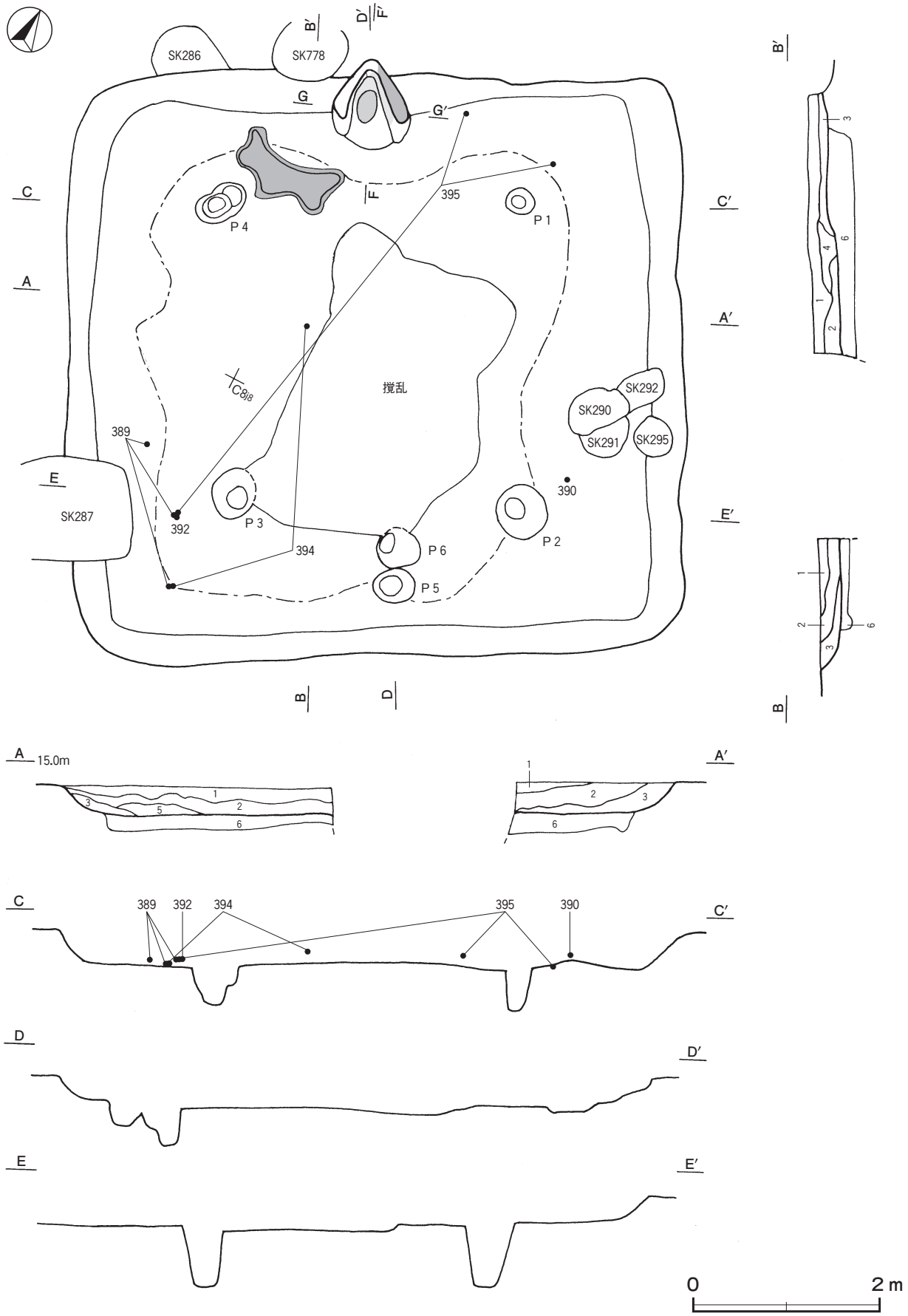
床　平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。北壁側のやや西寄りに粘土の散らばりを確認した。貼床は, 第 82 B 号竪穴建物跡の床面に，ロームブロックを含む第 6 層を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に付設されている。撹乱を受け，遺存状態は良くない。規模は焚口部から煙道部まで 85cm, 燃焼部幅は 40cmである。袖部は，床面から 20cmほど掘りくぼめた部分に第 15 ～ 25 層を埋土して，粘土粒子を主体とした第 19 層を積み上げて構築されている。火床部は, 床面とほぼ同じ高さを使用しており, 火床面は, 火熱を受けて赤く変色している。煙道部は, 壁外に 8 cmほど掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

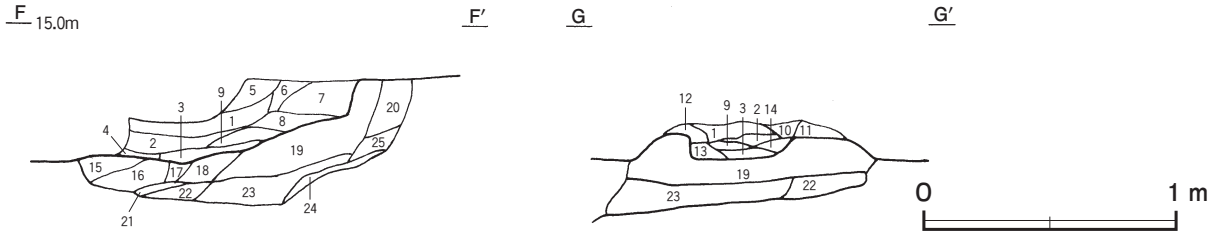
竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子微量
6　褐　　色　焼土粒子・粘土粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
8　褐　　色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
10　褐　　色　粘土粒子中量，ローム粒子微量
11　褐　　色　焼土ブロック少量，粘土粒子微量
12　褐　　色　粘土ブロック・焼土粒子微量
13　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，粘土粒子微量
14　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
15　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
16　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量
17　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子微量
18　暗　褐　色　焼土粒子中量
19　にぶい赤褐色　粘土粒子・焼土粒子中量
20　にぶい褐色　焼土粒子・粘土粒子微量
21　暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
22　褐　　色　焼土粒子微量
23　褐　　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
24　褐　　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量
25　褐　　色　焼土粒子・粘土粒子微量

ピット　6 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 42 ～ 70cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ 26cm・40 cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第 30 図　第 82 A 号竪穴建物跡実測図(1)



第 31 図　第 82 A 号竪穴建物跡実測図(2)

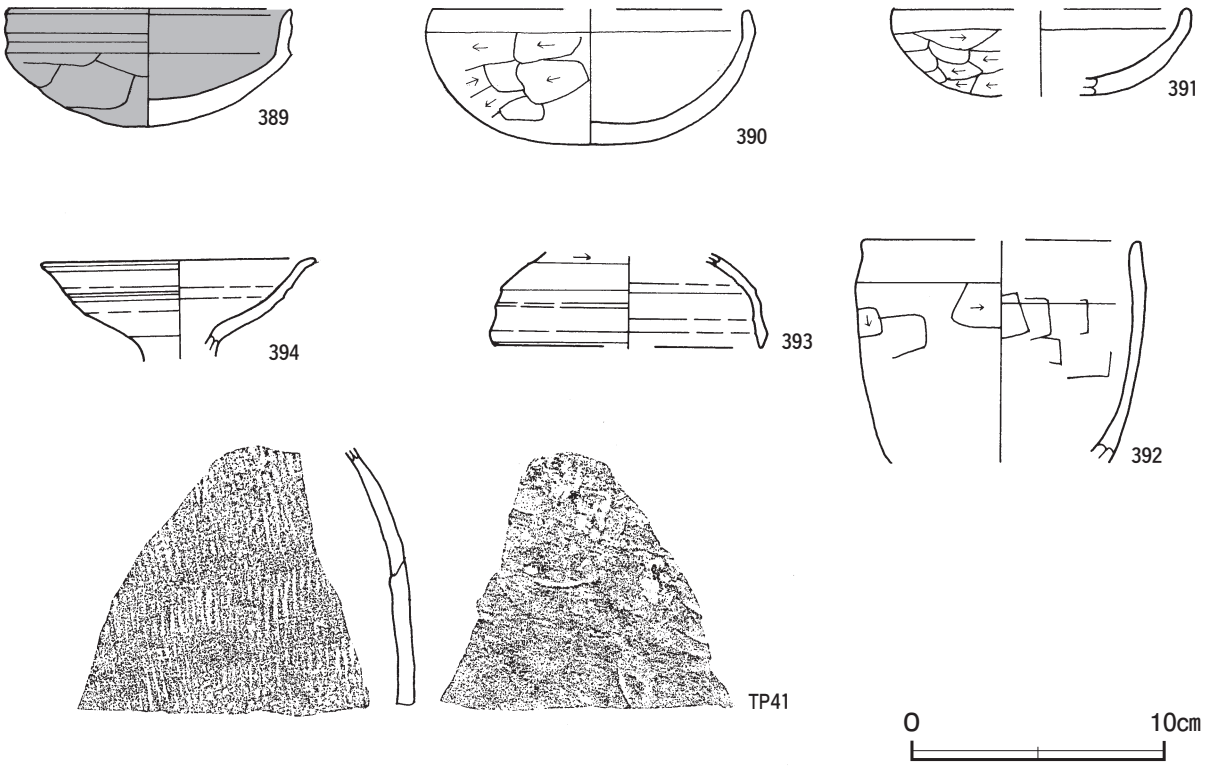
覆土　５層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第６層は，貼床の構築土である。

土層解説

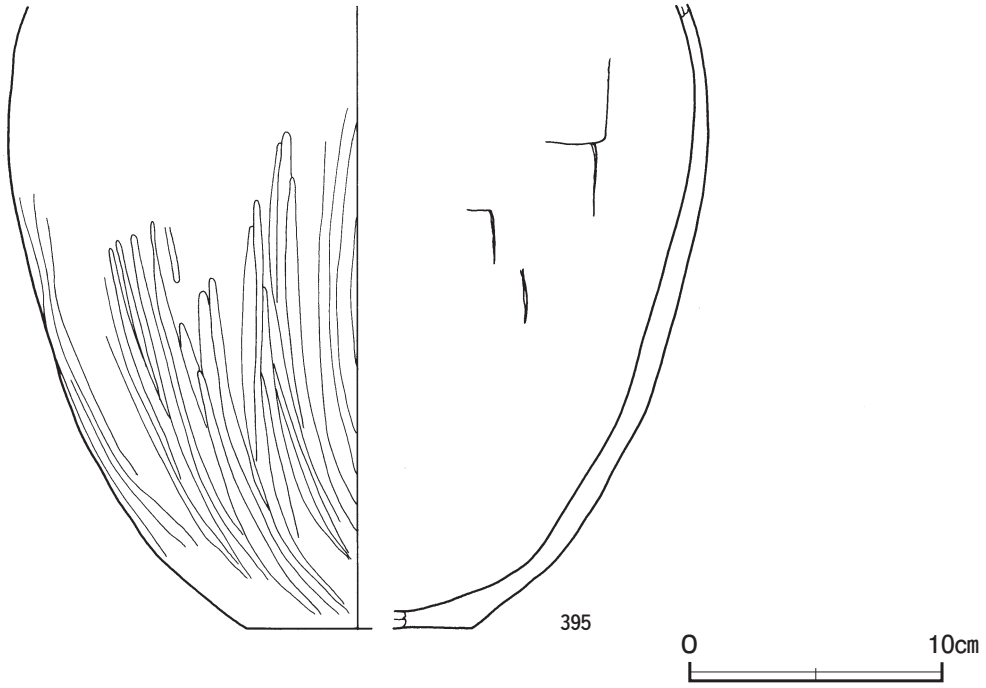
1	暗　褐　色	ロームブロック微量	
2	褐　　色	ローム粒子中量	
3	褐　　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	
4	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	
5	褐　　色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量	
6	褐　　色	ロームブロック中量（締まりあり）	

遺物出土状況　土師器片 398 点（坏 154, 椀２, 甕類 242), 須恵器片 10 点（蓋３, 瑳３, 甕類４), 鉄製品２点（釘, 不明)，鉄滓 29 点（433 g）が北東部と南西部の覆土中層から出土している。出土遺物のほとんどが細片である。390 は南東部，389・392・394 は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。395 は，北東コーナー部と南西コーナー部の覆土下層から出土した小片が接合したものである。391・393 は，南東部の覆土上層から出土している。TP41 は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀末～７世紀初頭と考えられる。本跡は，第 82 B 号竪穴建物が拡張されたものと思われる。



第 32 図　第 82 A 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 33 図　第 82 A号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 82 A号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 32・33 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
389	土師器	坏	11.2	4.7	－	長石・石英	灰黄	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土下層	80%
390	土師器	坏	[12.6]	(5.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土下層	50%
391	土師器	坏	[11.8]	(3.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土上層	25%
392	土師器	椀	[10.8]	(8.8)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面工具痕	覆土下層	20%
393	須恵器	蓋	[10.6]	(3.7)	－	長石・石英	黄灰	普通	ロクロナデ　体部外面上端横位のヘラ削り	覆土上層	10%
394	須恵器	瓶	10.8	(3.9)	－	長石	灰白	良好	ロクロナデ	覆土下層	10%
395	土師器	甕	－	(24.7)	[9.0]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下半縦位のヘラ磨き	覆土下層	30%

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP41	須恵器	甕	長石・石英・雲母	灰	外面縦位の平行叩き　内面拳状の当て具痕	覆土中	PL47

第 82 B号竪穴建物跡（第 34 図）

位置　調査区中央部のＣ８i8 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　上部に第 82 A号竪穴建物が構築されている。

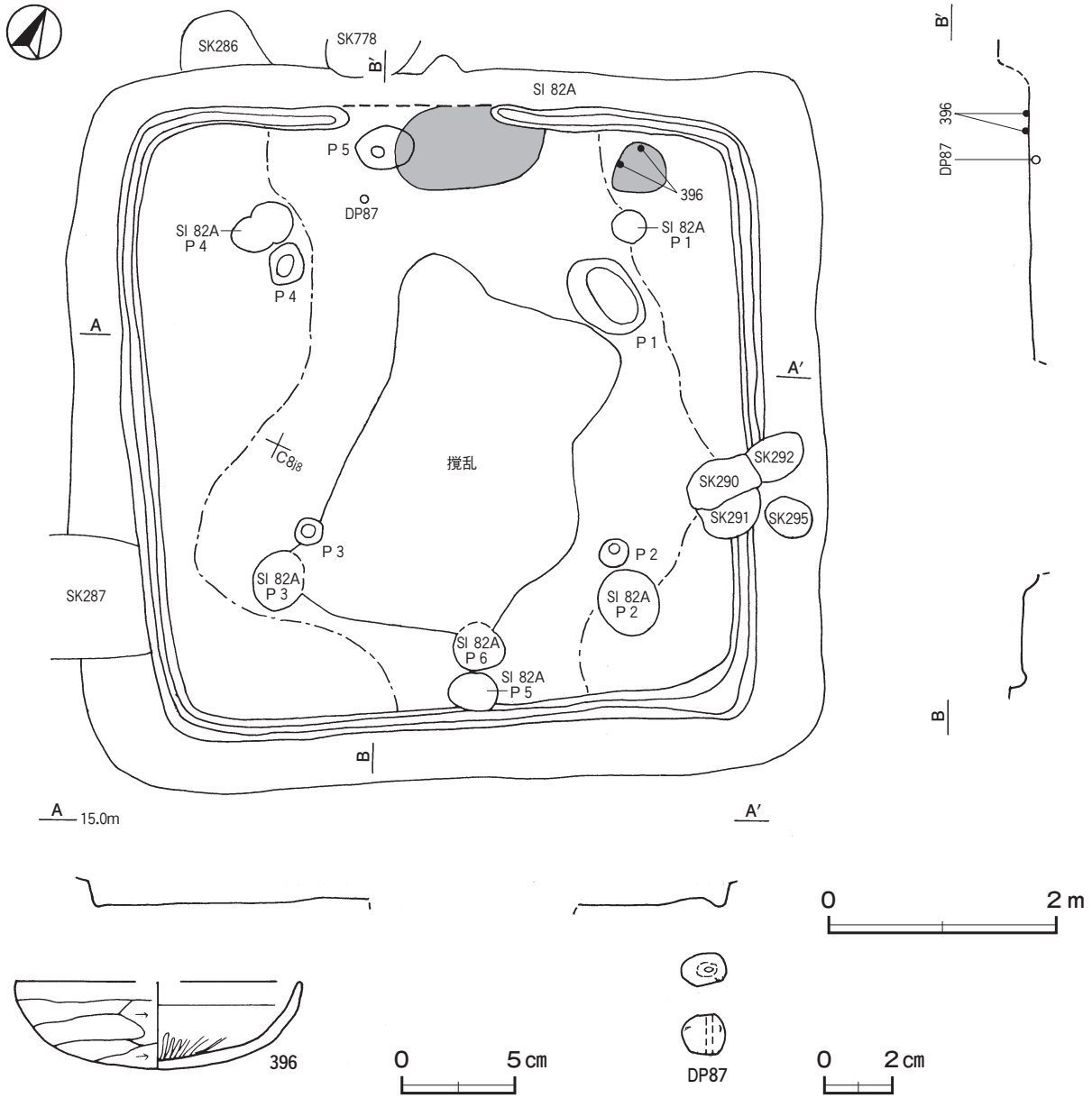
規模と形状　長軸 5.69 m，短軸 5.65 mの方形で，主軸方向はＮ－ 28°－Ｗである。確認できた壁高は 30cmほどで外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。北壁のやや東寄りに粘土の散らばりを確認した。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 28 ～ 66cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 34cmで，性格は不明である。

遺物出土状況　土師器片２点（坏），土製品１点（土玉）が出土している。396 は北東部，DP87 は北西部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。床面直上には，第 82 A 号竪穴建物の貼床構築土があることから，時間を置かずに第 82 A 号竪穴建物に作り替えられたと想定できる。



第 34 図　第 82 B 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 82 B 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 34 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
396	土師器	坏	［12.6］	（3.9）	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラ磨き	床面	45%

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP87	土玉	1.3	1.2	0.2	1.7	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	床面	PL48

第 91 号竪穴建物跡（第 35・36 図）

位置　調査区中央部のＣ７e5 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第３・４号掘立柱建物，第 362・472・781 ～ 783 号土坑，第 18 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 7.72 ｍ，短軸 6.60 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｗである。壁高は 24 ～ 33㎝でやや外傾して立ち上がる。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は，全体を平坦に掘り下げ，ロームブロックを含む第 15・16 層を埋土として構築されている。

竈　北壁の中央部に付設されている。左袖上部は残っていない。規模は焚口部から煙道部まで 135㎝，燃焼部幅は 50㎝である。袖部は，床面から 25 ～ 40㎝の階段状に掘りくぼめた部分に褐色の第 20 ～ 26 層を埋土して，粘土粒子を主体とした層を積み上げて構築されている。火床部は，床面から５㎝ほどくぼんでおり，火床面は，火熱を受けて赤く変色している。煙道部は，壁外に 50㎝ほど掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2	褐　色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，粘土ブロック微量
4	にぶい褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・粘土粒子微量
5	暗褐色	炭化物中量，焼土粒子・粘土粒子微量
6	褐　色	焼土粒子・粘土粒子微量
7	褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
8	暗褐色	粘土粒子中量，炭化粒子微量
9	褐　色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10	褐　色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
11	暗赤褐色	焼土ブロック中量，粘土ブロック微量
12	褐　色	焼土粒子・粘土粒子微量
13	暗褐色	砂質ブロック中量，焼土粒子微量
14	褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
15	褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量
16	褐　色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
17	褐　色	焼土粒子少量，ロームブロック・粘土粒子微量
18	褐　色	焼土ブロック少量
19	褐　色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
20	にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化材微量
21	褐　色	焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
22	褐　色	炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
23	褐　色	焼土ブロック微量
24	褐　色	焼土ブロック・炭化粒子微量
25	褐　色	ローム粒子中量
26	暗褐色	ロームブロック中量

ピット　11 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 30 ～ 35㎝で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 15㎝で，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。Ｐ６・Ｐ 11 はともに深さ 30㎝ほどで，補助柱穴と考えられる。Ｐ７～Ｐ 10 は深さ 15 ～ 30㎝で，性格は不明である。

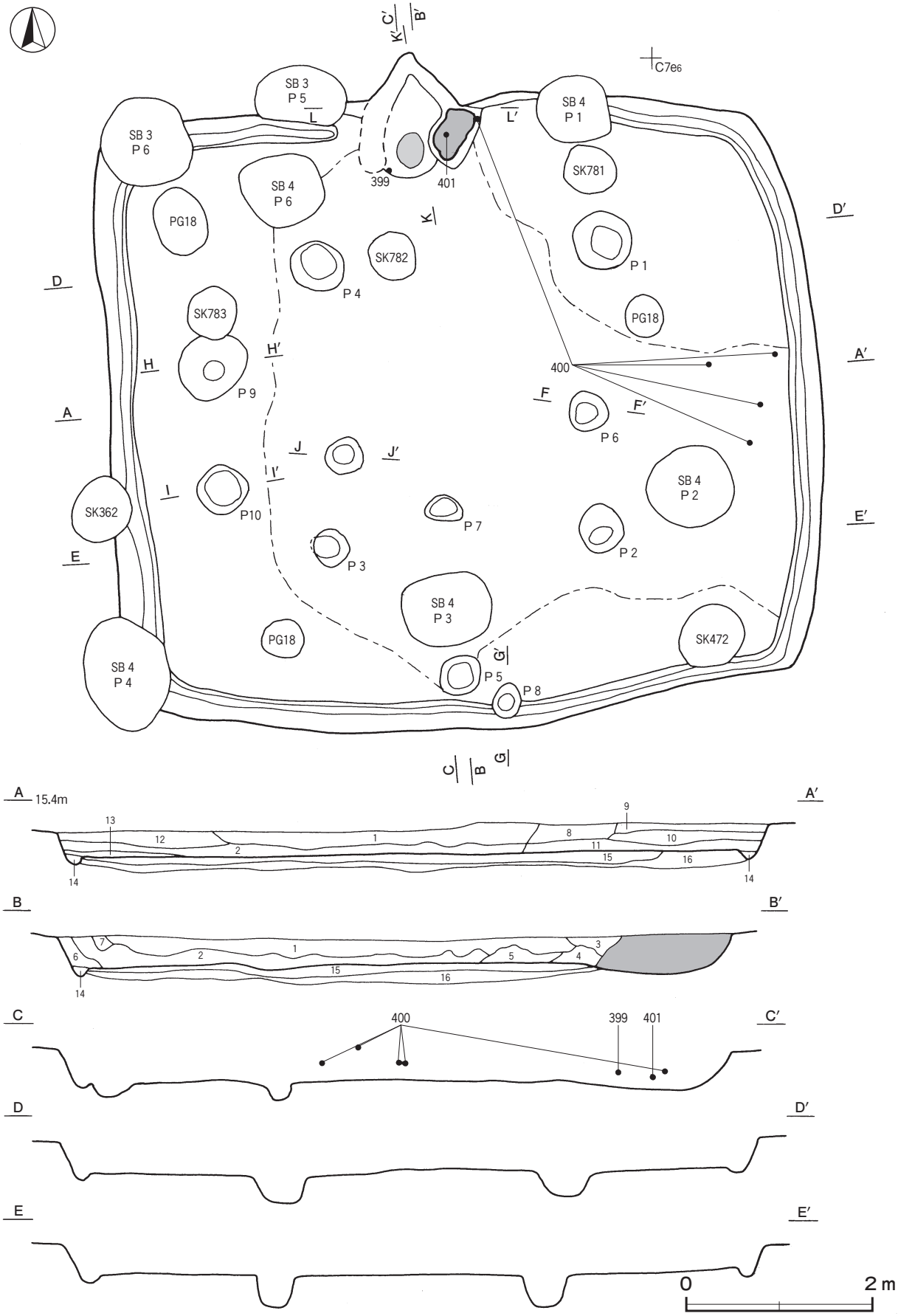
覆土　14 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 15・16 層は，貼床の構築土である。

土層解説

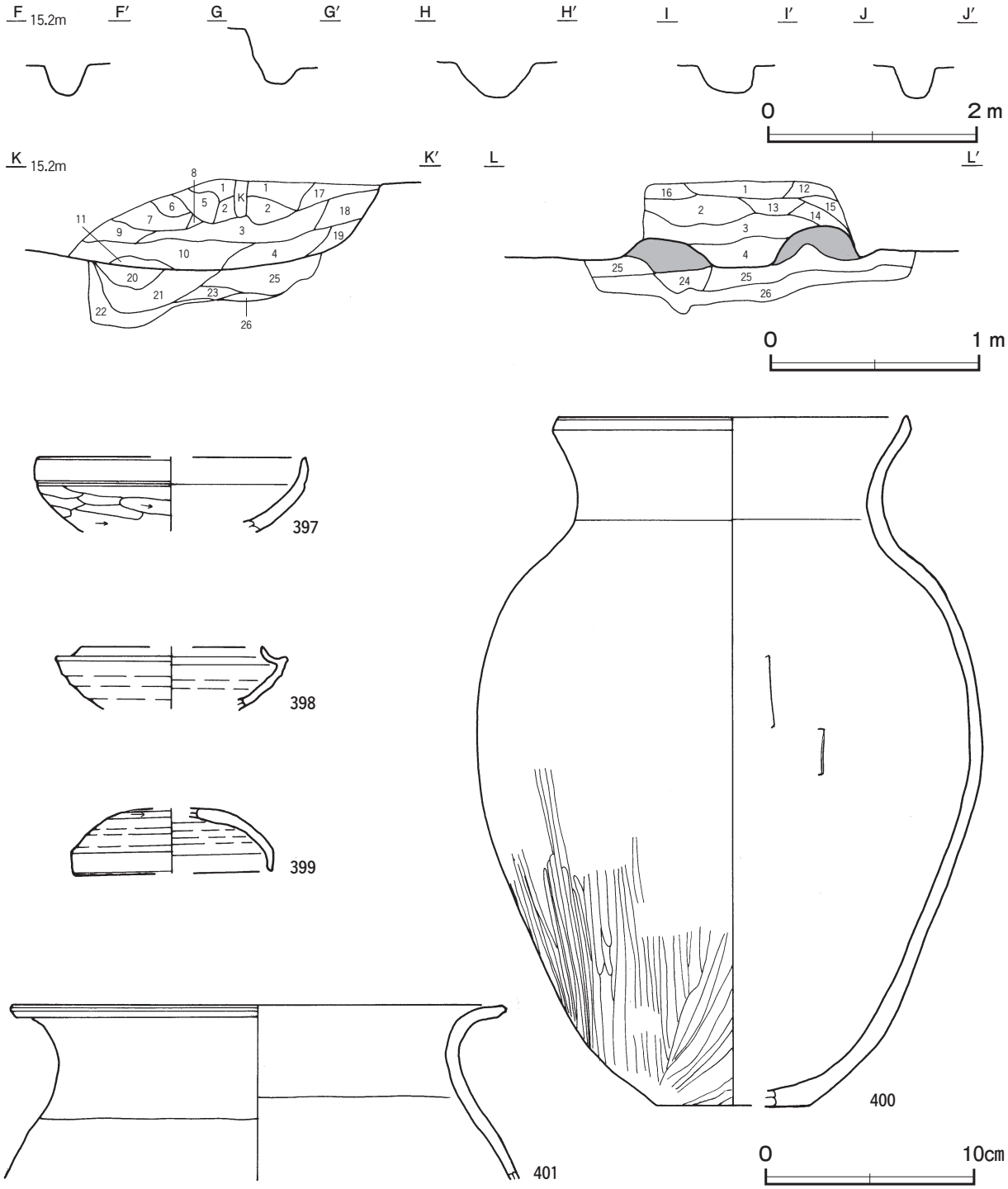
1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4	暗褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
5	暗褐色	粘土粒子少量，焼土粒子微量
6	褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック微量
9	褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10	褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量
11	褐　色	ロームブロック少量
12	暗褐色	焼土ブロック多量，炭化粒子少量
13	褐　色	ロームブロック・炭化粒子少量
14	黒褐色	ロームブロック少量
15	暗褐色	ロームブロック少量（締まりあり）
16	暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 343 点（坏 96，椀４，甕類 243），須恵器片５点（坏２，蓋３），鉄製品３点（刀子２，釘１），鉄滓 135 点（1724 ｇ）が北東部の覆土中層から出土している。出土遺物のほとんどが細片である。399 は竈の焚口部，398 は竈の覆土中，401 は竈の右袖部の下層からそれぞれ出土している。400 は北東部の覆土上層に散在している破片が接合したものである。397 は南西部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。



第 35 図　第 91 号竪穴建物跡実測図



第 36 図　第 91 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

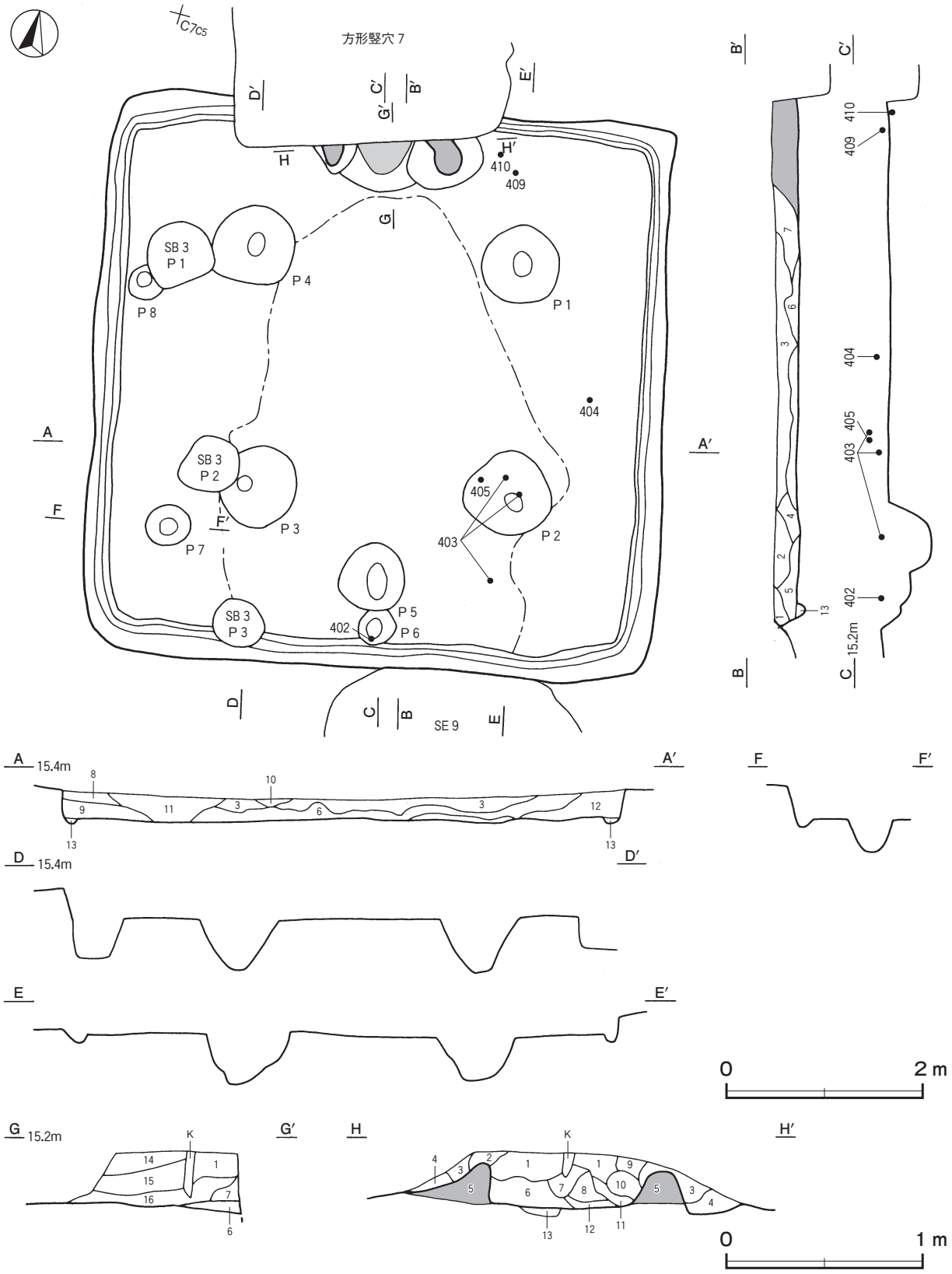
第 91 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 36 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
397	土師器	坏	[12.8]	(3.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土中層	25%
398	須恵器	坏	[8.6]	(3.0)	－	長石・石英	灰	良好	ロクロナデ	竈覆土中	10%
399	須恵器	蓋	[9.4]	(3.1)	－	長石・石英	灰	良好	ロクロナデ　体部外面上端横位のヘラ削り 天井部回転ヘラ削り	竈焚口部	50%
400	土師器	甕	16.6	(33.2)	[7.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半縦位のヘラ磨き	覆土上層	60%
401	土師器	甕	23.4	(8.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	竈右袖部	10%

第 93 号竪穴建物跡（第 37 ～ 39 図）

位置　調査区中央部のＣ７c5 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第７号方形竪穴遺構，第３号掘立柱建物，第９号井戸に掘り込まれている。



第 37 図　第 93 号竪穴建物跡実測図

規模と形状　長軸 5.82 m，短軸 5.76 mの方形で，主軸方向はN－13°－Wである。壁高は 19 ～ 30cmでほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。北半部は第７号方形竪穴遺構に掘り込まれているため，焚口部と両袖部の一部しか遺存していない。規模は焚口部から残存部まで 50cm，燃焼部幅は 55cmである。袖部は，床面を同じ高さに焼土ブロックと粘土粒子を含むにぶい褐色土の第５層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を５cmほど掘りくぼめた部分に焼土粒子混じりの粘土ブロックを含む第 13 層を埋土して構築されている。火床面は，火熱を受けて赤く変色している。

竈土層解説

1	褐　色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2	にぶい褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
3	褐　色	粘土粒子少量，焼土粒子微量
4	にぶい褐色	粘土ブロック多量，焼土粒子微量
5	にぶい褐色	粘土粒子多量，焼土ブロック微量
6	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化物微量
7	灰　褐　色	焼土粒子・粘土粒子微量
8	にぶい赤褐色	粘土ブロック・炭化粒子微量
9	暗　褐　色	粘土粒子少量，ローム粒子微量
10	にぶい橙色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
11	暗　褐　色	焼土粒子少量，粘土粒子微量
12	黒　褐　色	焼土粒子・粘土粒子微量
13	暗　褐　色	焼土粒子少量，粘土ブロック微量
14	にぶい褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
15	にぶい褐色	粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
16	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 45cm～ 55cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ 45cm・20cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７・Ｐ８は深さ 35cm・30cmで，性格は不明である。

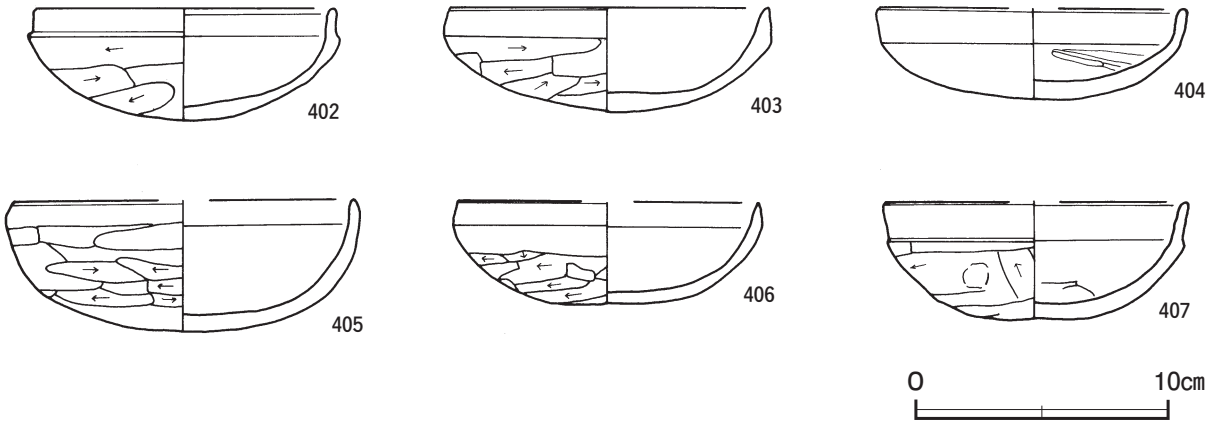
覆土　13 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

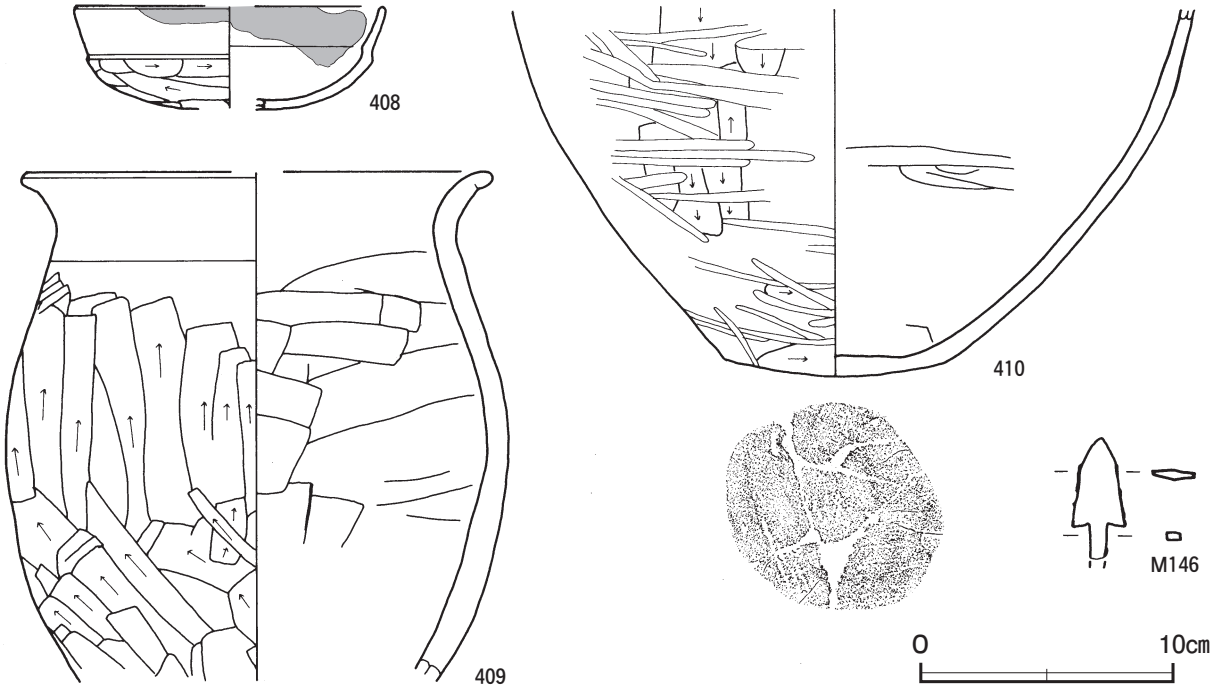
1	暗　褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗　褐　色	ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化材微量
3	極暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
4	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
5	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
7	暗　褐　色	炭化粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
8	極暗褐色	炭化粒子少量，ローム粒子微量
9	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子少量
10	褐　色	粘土ブロック中量，焼土粒子微量
11	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
12	暗　褐　色	ロームブロック中量
13	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 382 点（坏 123, 椀２, 器台３, 高坏２, 甕類 252), 須恵器片１点（蓋), 土製品１点（不明），鉄製品３点（刀子，鏃，釘），鉄滓 23 点（795 ｇ）が南東部の覆土下層から出土している。出土遺物のほとんどが細片である。409・410 は，竈の東側の床面からそれぞれ出土している。402 ～ 405 は，南東部の覆土上層からそれぞれ出土している。406 ～ 408・M 146 は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。



第 38 図　第 93 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 39 図　第 93 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 93 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 38・39 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
402	土師器	坏	11.8	4.4	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土上層	95%　PL36
403	土師器	坏	12.6	4.1	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土上層	80%　PL34
404	土師器	坏	［12.0］	3.6	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	淡黄	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部内面横位のヘラナデ	覆土上層	70%
405	土師器	坏	［13.4］	5.1	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土上層	50%
406	土師器	坏	［12.0］	4.0	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土中	40%
407	土師器	坏	［12.0］	4.6	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り 指頭圧痕	覆土中	40%
408	土師器	坏	［12.2］	4.1	－	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土中	30%
409	土師器	甕	［18.2］	(20.3)	－	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	床面	30%
410	土師器	甕	－	(14.6)	8.7	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り後横位のヘラ磨き 内面横位のヘラナデ　底部ヘラ削り	床面	30%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 146	鏃	(4.8)	2.1	0.3	(5.1)	鉄	基部欠損	覆土中	PL54

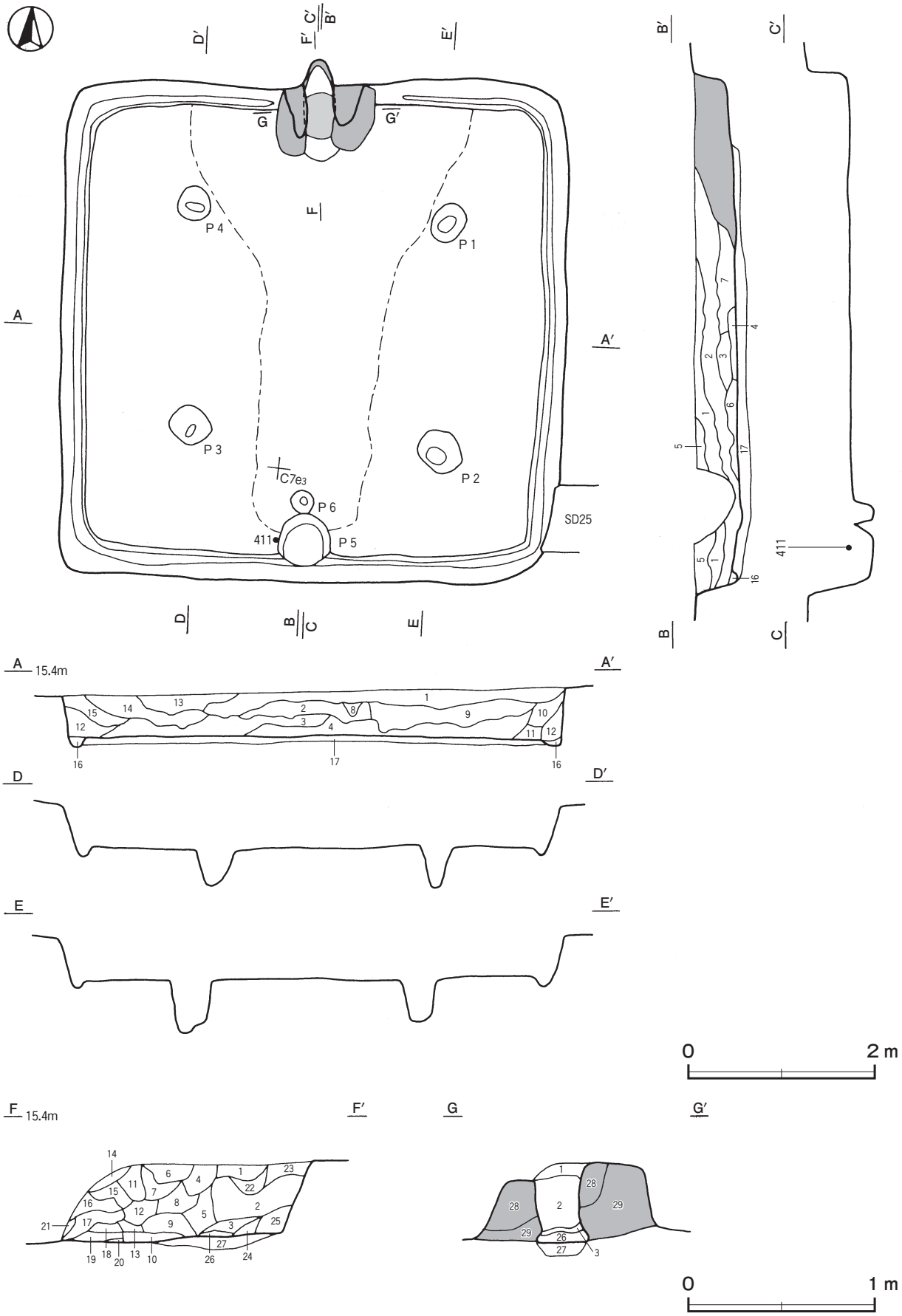
第 95 号竪穴建物跡（第 40・41 図）

位置　調査区中央部のＣ 7 d2 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 419 号土坑，第 25 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.46 m，短軸 5.43 mの方形で，主軸方向はＮ－ 13°－Ｗである。壁高は 42 ～ 45cmでほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は，全体を平坦に掘り下げ，ロームブロックを含む第 17 層を埋土して構築されている。



第 40 図　第 95 号竪穴建物跡実測図

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cm，燃焼部幅は26cmである。袖部は，床面と同じ高さの地山に，粘土粒子を主体とした第28・29層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を10cmほど掘りくぼめた部分に焼土粒子やロームブロックを含む第27層を埋土して構築されている。火床面は，火熱を受けて赤く変色している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　粘土粒子中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　炭化粒子・粘土粒子微量
7　暗　褐　色　粘土粒子少量，炭化粒子微量
8　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，炭化粒子少量
9　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子少量
11　褐　　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　褐　　色　粘土粒子中量，炭化粒子少量
13　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
14　暗　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
15　暗　褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
16　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
17　にぶい黄褐色　粘土粒子少量，炭化粒子微量
18　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
19　暗　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
20　暗　褐　色　焼土粒子微量
21　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
22　にぶい褐色　粘土ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子微量
23　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
24　褐　　色　焼土粒子・粘土粒子微量
25　灰　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
26　にぶい褐色　焼土ブロック中量，粘土粒子微量
27　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
28　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
29　灰　褐　色　粘土粒子多量

ピット　6か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ40cm～55cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ20cm・25cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

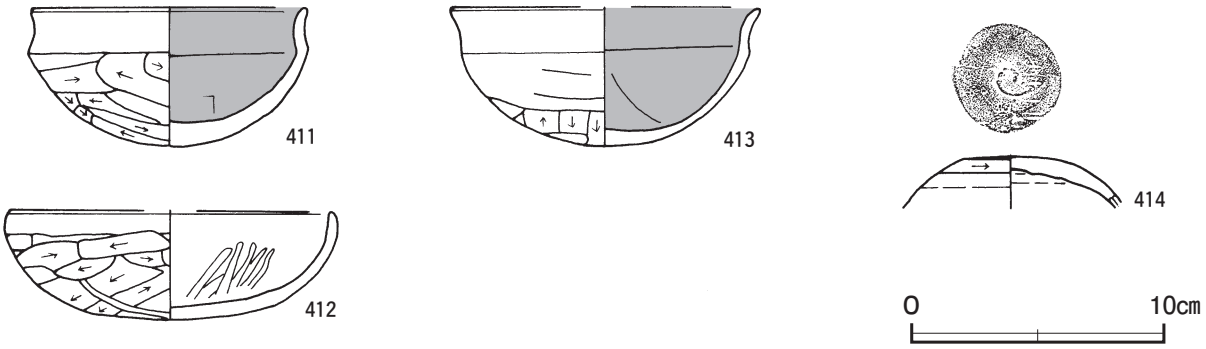
覆土　16層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第17層は，貼床の構築土である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　極 暗 褐 色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量
12　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
13　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
14　極 暗 褐 色　ロームブロック中量
15　黒 褐 色 色　ロームブロック・炭化粒子微量
16　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
17　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片97点（坏39，甕類58），須恵器片５点（蓋），土製品３点（支脚），鉄製品２点（釘），鉄滓54点（624ｇ）が出土している。出土遺物のほとんどが細片である。411は，南側の出入り口付近の床面から出土している。413は，北東部の覆土中層から出土している。412は北東部，414は南東部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀中葉に比定できる。



第41図　第95号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 95 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 41 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
411	土師器	坏	10.8	5.5	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面放射状のヘラナデ	床面	90%
412	土師器	坏	[12.8]	4.3	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り 内面斜位のヘラ磨き	覆土上層	50%
413	土師器	坏	[12.4]	5.5	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り	覆土中層	50%
414	須恵器	蓋	－	(2.0)	－	長石・石英	黄灰	普通	ロクロナデ　体部外面上端横位のヘラ削り 天井部回転ヘラ削り	覆土上層	30%

表３　古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規　模	壁 高	床面	壁溝	内　部　施　設					覆土	主な出土遺物	時　期	備　考
				長軸×短軸（m）	(cm)			主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
66	F 11g1	[N－10°－E]	[方形・長方形]	(5.70)×(1.50)	42～55	平坦	－	1	－	－	－	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品	6 世紀後葉	SI70→本跡
68	F 11d2	N－35°－W	[方形・長方形]	4.08 ×(2.03)	60～73	平坦	－	1	2	1	－	－	人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	6 世紀中葉	
69	E 11i5	[N－27°－W]	[方形]	(5.60)×(5.60)	50	平坦	一部	2	1	－	－	1	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品	6 世紀後葉	本跡→SI72
70	F 11g1	N－36°－W	[方形・長方形]	(4.35)×(1.50)	43～47	平坦	一部	－	1	－	－	－	人為	－	6 世紀後葉	本跡→SI66
71	G 10b8	－	－	(2.55)×(0.80)	－	平坦	－	2	－	－	－	－	人為	鉄製品	古墳時代	本跡→SK117
75	E 11e5	N－19°－W	[方形・長方形]	7.00 ×(5.30)	30～38	平坦	一部	2	2	3	竈 1	1	人為	土師器片，須恵器片，土製品，石製品	6 世紀後葉	本跡→SK170・351
78	D 12g1	N－22°－W	[長方形]	(4.44)× 3.68	14～18	平坦	全周	－	－	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	6 世紀後葉	本跡→SK155
79	C 7h8	N－17°－W	方　形	6.10 × 6.10	40～44	平坦	全周	4	1	1	竈 2	1	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品	6 世紀末～7 世紀初頭	本跡→SK273
80	C 8f1	N－35°－W	方　形	5.50 × 5.50	18～32	平坦	全周	1	1	－	竈 1	1	人為	土師器片，須恵器片，土製品，石器，鉄滓	7 世紀後葉	
81	C 8h0	N－30°－W	方　形	6.42 × 6.08	20～25	平坦	全周	3	1	2	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品	7 世紀前葉	本跡→UP 2，SK239・242
82 A	C 8i8	N－28°－W	方　形	6.70 × 6.25	24～36	平坦	－	4	2	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，鉄製品	6 世紀末～7 世紀初頭	SI82 B，SK286→本跡→SK287・290～292・295・778
82 B	C 8i8	N－28°－W	方　形	5.69 × 5.65	30	平坦	全周	4	－	1	－	－	人為	土師器片，土製品	6 世紀後葉	本跡→SI82 A
91	C 7e5	N－ 4°－W	長方形	7.72 × 6.60	24～33	平坦	全周	4	1	6	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，鉄製品	7 世紀前葉	本跡→SB 3・4，SK362・472・781～783，PG18
93	C 7c5	N－13°－W	方　形	5.82 × 5.76	19～30	平坦	全周	4	2	2	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品	7 世紀前葉	本跡→SB 3，方形竪穴 7，SE 9
95	C 7d2	N－13°－W	方　形	5.46 × 5.43	42～45	平坦	全周	4	2	2	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品	6 世紀中葉	本跡→SK419，SD25

3　奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡８棟，竪穴遺構１基，掘立柱建物跡８棟，鍛冶工房跡３基，土坑４基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第 73 号竪穴建物跡（第 42・43 図）

位置　調査区東部のＥ 11g6 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　東部の大半が調査区域外へ延びているため，北東・南西軸は 5.22 mで，北西・南東軸は 1.40 m しか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，北東・南西軸方向はＮ－ 25°－Ｅである。南西壁には幅 32㎝，長さ 28㎝ほどの張り出し部の一部を確認した。壁高は 30 ～ 38㎝で各壁ともほぼ直立し，張り出し部は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，北西壁際を除いて踏み固められている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。貼床は，コーナー部と北西壁際中央部を深く掘りくぼめ，ロームブロック主体の橙色土などの第 12 ～ 15 層を埋土して構築している。

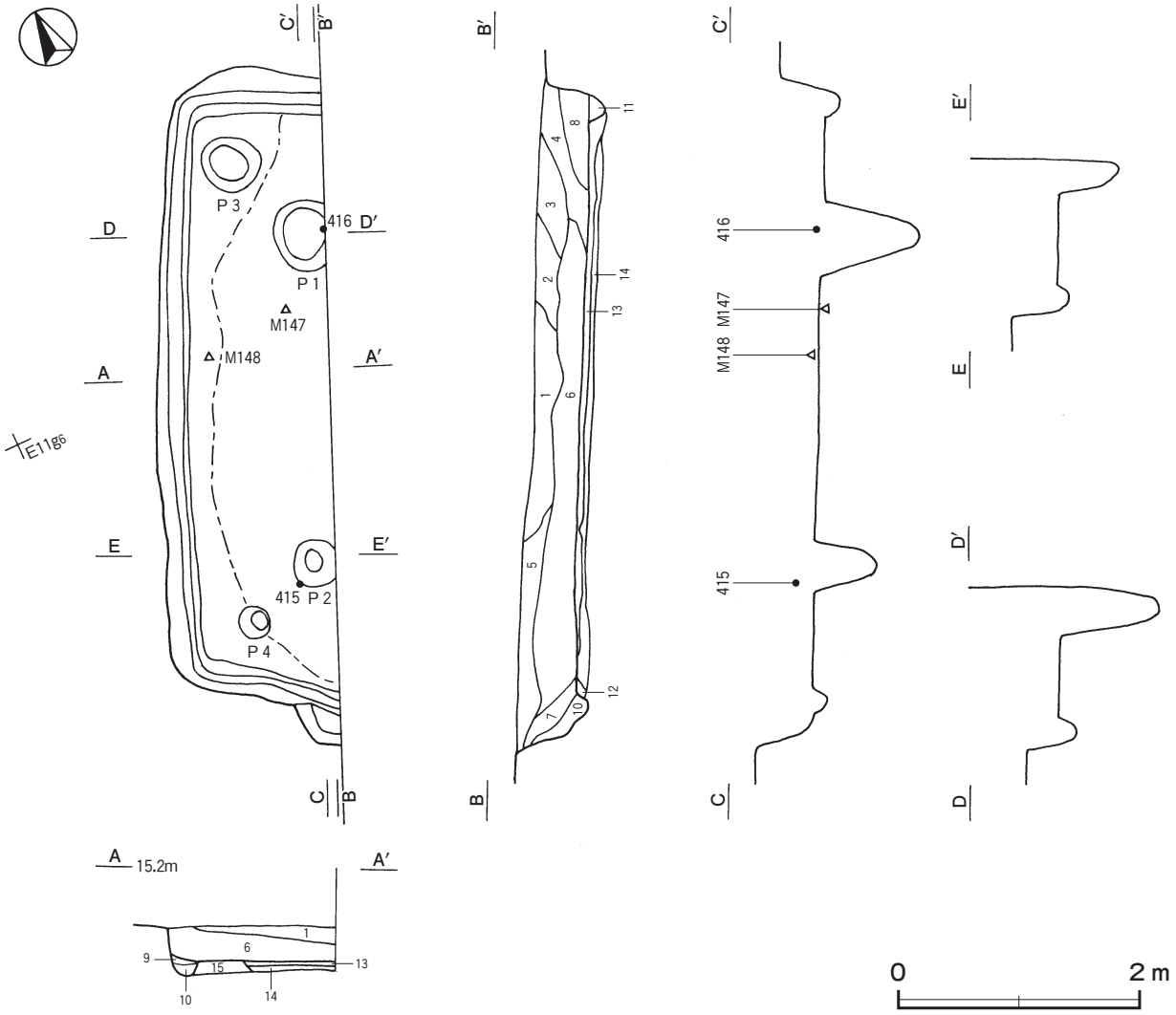
ピット　４か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ81cm・52cmで規模と配置から主柱穴である。掘方調査時に確認したＰ３・Ｐ４は深さ17cm・51cmで，それぞれＰ１・Ｐ２の外側に位置することから，Ｐ１とＰ２への立て替え前の柱穴の可能性がある。

覆土　11層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第12～15層は貼床の構築土で，第13・14層は締まりが強い。

土層解説

1	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量	
2	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・細砂微量	
3	暗褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子・細砂微量	
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子・細砂微量	
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
6	暗褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量	
7	暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	
8	褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量	
9	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	
10	暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	
11	灰褐色	粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量	
12	褐色	ロームブロック中量	
13	橙色	ロームブロック多量	
14	明褐色	ロームブロック中量	
15	黒褐色	ロームブロック中量	

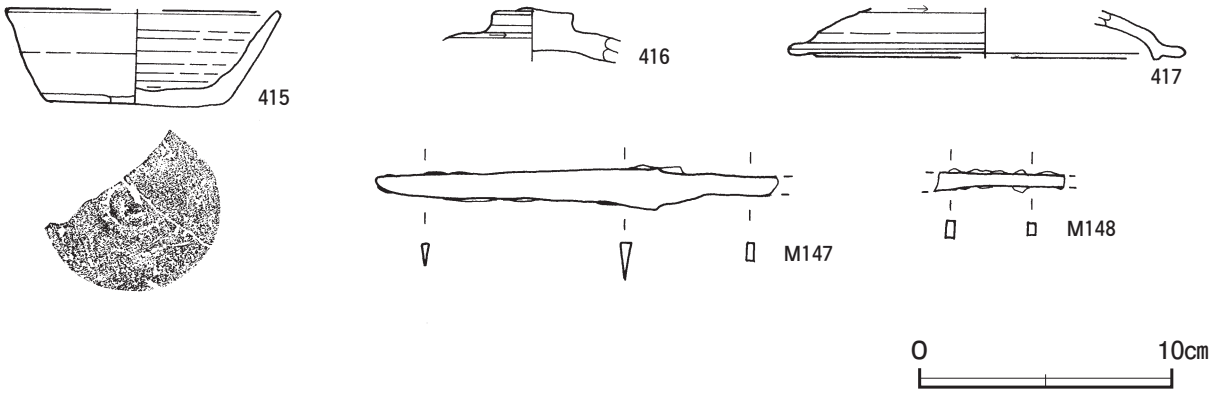
遺物出土状況　土師器片344点（坏97, 甕類246, 甑１），須恵器片96点（坏67, 蓋23, 甕類６），土製品６点（土玉１，支脚５），鉄製品４点（刀子２，不明２），鉄滓43点（402.9ｇ）が，全域の覆土上層から下層にかけて出土している。416・M147は北西部，M148は北西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。415は南西部の覆土中層から出土している。417は覆土中から出土している。鉄滓は，Ｐ３覆土から18.0ｇ，覆土下層か



第42図　第73号竪穴建物跡実測図

ら 197.1 g，覆土上層から 187.8 g出土しており，南部から多く出土している。建物の廃絶過程で意図的に投棄したものか，あるいは混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。Ｐ３からＰ１へ，Ｐ４からＰ２へ柱の立て替えを行った可能性があるが，土層断面や床面からは建物を縮小した痕跡は確認できなかったので，柱の立て替えのみ行ったと推測できる。



第 43 図　第 73 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 73 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 43 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
415	須恵器	坏	[11.8]	3.7	7.1	長石・石英	オリーブ灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	覆土中層	50%
416	須恵器	蓋	－	(2.1)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	10%
417	須恵器	蓋	[15.8]	(1.9)	－	長石・石英・雲母	灰黄	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 147	刀子	(16.1)	1.7	0.4	(24.0)	鉄	刃部断面三角形　茎部一部欠損	覆土下層	PL53
M 148	刀子	(5.2)	(0.8)	(0.3)	(3.4)	鉄	刃部欠損　茎部一部欠損	覆土下層	

第 76 号竪穴建物跡（第 44 ～ 47 図）

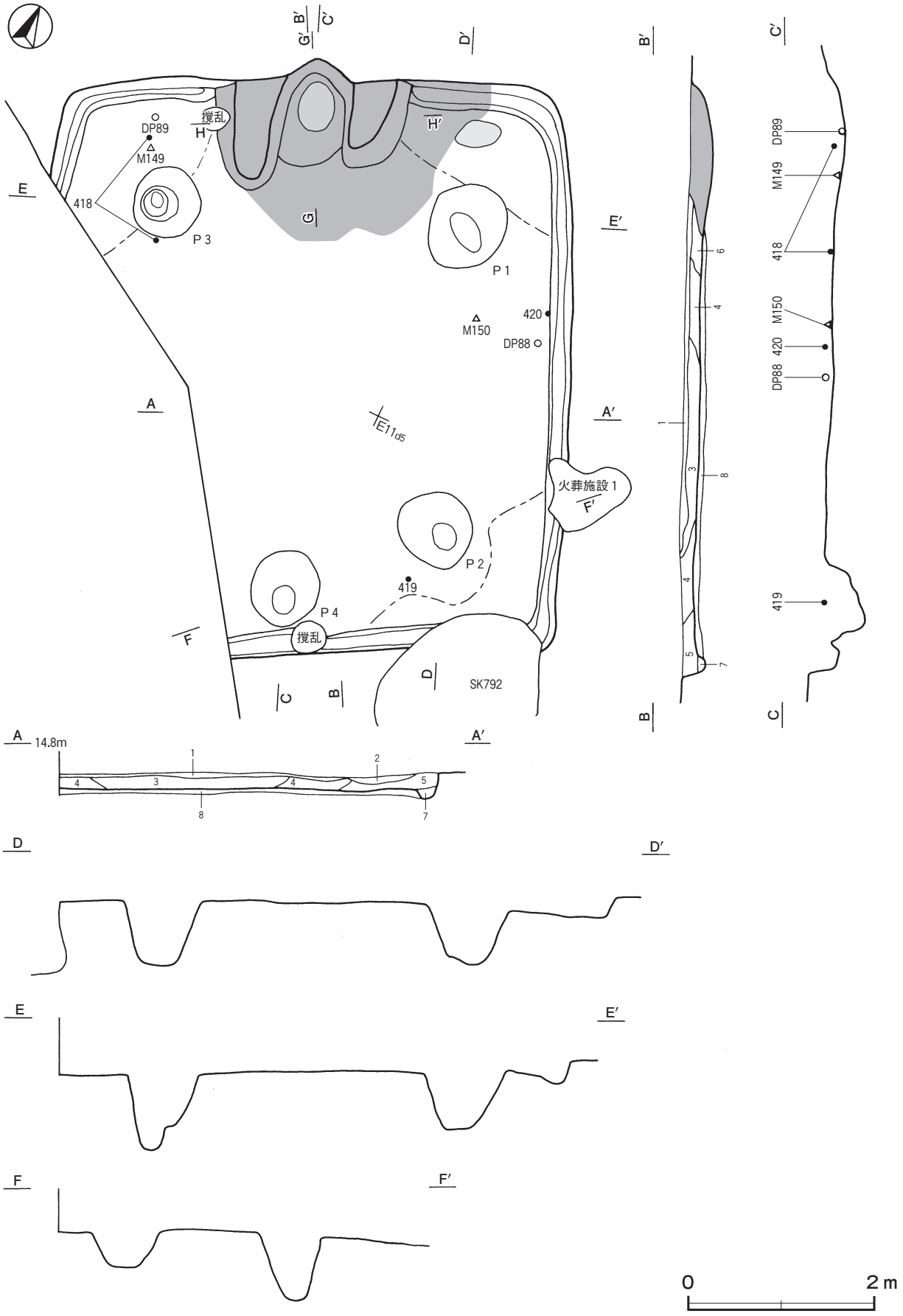
位置　調査区東部のＥ 11c4 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第１号火葬施設，第 792 号土坑に掘り込まれている。

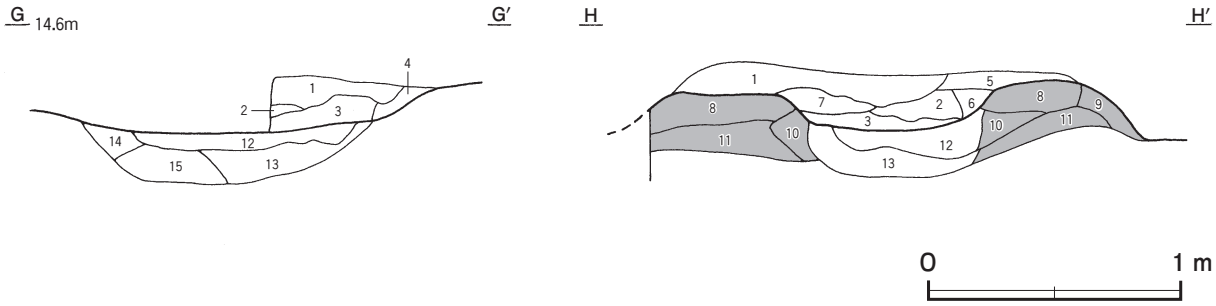
規模と形状　南西コーナー部が調査区域外に延びている。長軸 6.18 m，短軸 5.60 mの長方形で，主軸方向はＮ－ 23°－Ｗである。壁高は 18 ～ 20cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦な貼床で，コーナー部を除いて壁際まで踏み固められている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。北壁際の竈周辺で，幅 2.9 m，長さ 1.9 mの範囲で，砂粒や粘土粒子の広がりを確認した。北東コーナー部で，幅 20 ～ 50cm，高さ 12cmほどの焼土塊を確認した。貼床は，ロームブロック主体の黒褐色土の第８層を埋土して構築している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 116cmで，燃焼部幅は 68cmである。袖部は，地山を掘り残して基部とし，粘土粒子を主体とした第８～ 11 層を積み上げて構築している。火床部は床面を 20cmほど皿状に掘りくぼめた部分に，第 12 ～ 15 層を埋土して構築しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 22cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。



第 44 図　第 76 号竪穴建物跡実測図(1)



第45図　第76号竪穴建物跡実測図(2)

竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子微量
2　極 暗 褐 色　焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，粘土ブロック微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
5　褐　灰　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　灰　褐　色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
8　褐　　色　焼土粒子・粘土粒子少量
9　にぶい褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
10　褐　　色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
11　褐　　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
13　褐　　色　焼土粒子微量，炭化粒子・粘土粒子微量
14　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量
15　暗　褐　色　焼土ブロック微量，炭化粒子・粘土粒子微量

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ60～82cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ４は深さ38cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

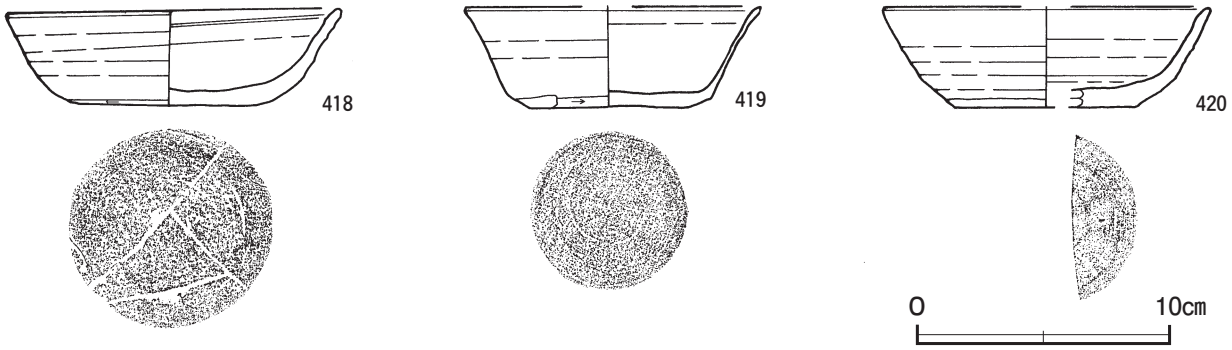
覆土　７層に分層できる。多くの層にロームや焼土のブロックなどが含まれていることから埋め戻されている。第８層は貼床の構築土で，締まりは強い。

土層解説

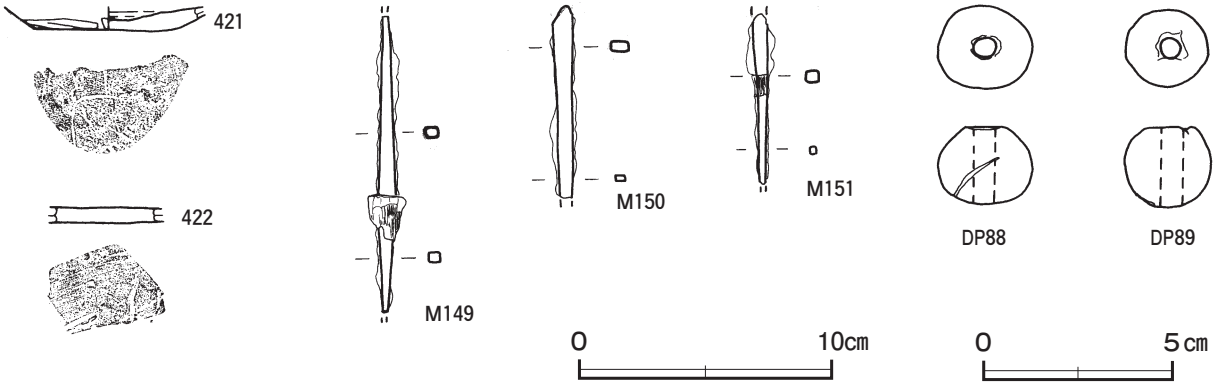
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
6　褐　　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・粘土粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子中量
8　黒　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片779点（坏135，甕類644），須恵器片137点（坏121，高台付坏１，蓋10，甕類５），土製品16点（土玉２，支脚14），鉄製品３点（鏃，釘，不明），鉄滓100点（605.6ｇ）が，北部を中心に全域の覆土上層から床面にかけて出土している。DP89は竈左袖付近の壁際，M149はＰ３付近，M150はＰ１付近の床面からそれぞれ出土している。418は北西コーナー部，DP88は東壁際の中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。419は南壁際の覆土下層から正位で，420は東壁際中央部の覆土下層から逆位で出土している。421，422，M151は覆土中からそれぞれ出土している。鉄滓は，Ｐ２覆土中から25.4ｇ，竈内から113.9ｇ，覆土下層から155.2ｇ，覆土上層から311.1ｇ出土しており，北部からの出土が多い。建物の廃絶過程で意図的に投棄したものか，あるいは混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。



第46図　第76号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 47 図　第 76 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 76 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 46・47 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
418	須恵器	坏	13.1	3.9	8.1	長石・石英	灰黄	良好	体部下端回転ヘラ削り　口縁部内面に沈線	覆土下層	60%　PL36
419	須恵器	坏	[11.6]	4.0	6.2	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	覆土下層	60%　PL36
420	須恵器	坏	[12.8]	4.0	[7.1]	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	覆土下層	40%
421	須恵器	坏	－	(1.0)	[5.9]	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部雑な多方向のヘラ削り　底部ヘラ記号	覆土中	10%
422	須恵器	坏	－	(0.7)	－	長石・石英	外 にぶい橙 内 灰白	良好	底部ヘラ記号	覆土中	5 %

番号	器　種	径	孔径	厚さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP88	土玉	2.2～2.5	0.6	2.1	9.3	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL48
DP89	土玉	2.2	0.6	2.1	6.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	ナデ　一方向からの穿孔	床面	PL48

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 149	不明鉄製品	(12.0)	(1.5)	0.5	(11.6)	鉄	両端欠損　断面四角形　木質付着	床面	
M 150	鏃ヵ	(7.6)	(0.9)	0.3～0.5	(6.6)	鉄	端部欠損　断面四角形	床面	PL54
M 151	釘	(7.3)	(0.7)	0.3～0.5	(5.6)	鉄	両端欠損　断面四角形　木質付着	覆土中	

第 77 号竪穴建物跡（第 48 図）

位置　調査区東部のＤ 11j8 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 3.70 m，短軸 3.54 mの不整方形で，主軸方向はＮ－ 16°－Ｗである。壁高は６～ 10cmで，緩やかに傾斜して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際まで硬化している。

竈　北壁中央部に付設されている。火床部まで削平されているため，詳細な規模は不明である。火床部は，床面を 14cmほど皿状に掘り込み，第６・７層を埋土して構築されている。第１～５層は袖部及び天井部の崩落土層と考えられる。

竈土層解説

1　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化物・粘土粒子微量
3　赤　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
6　暗 赤 褐 色　粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗 赤 褐 色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量

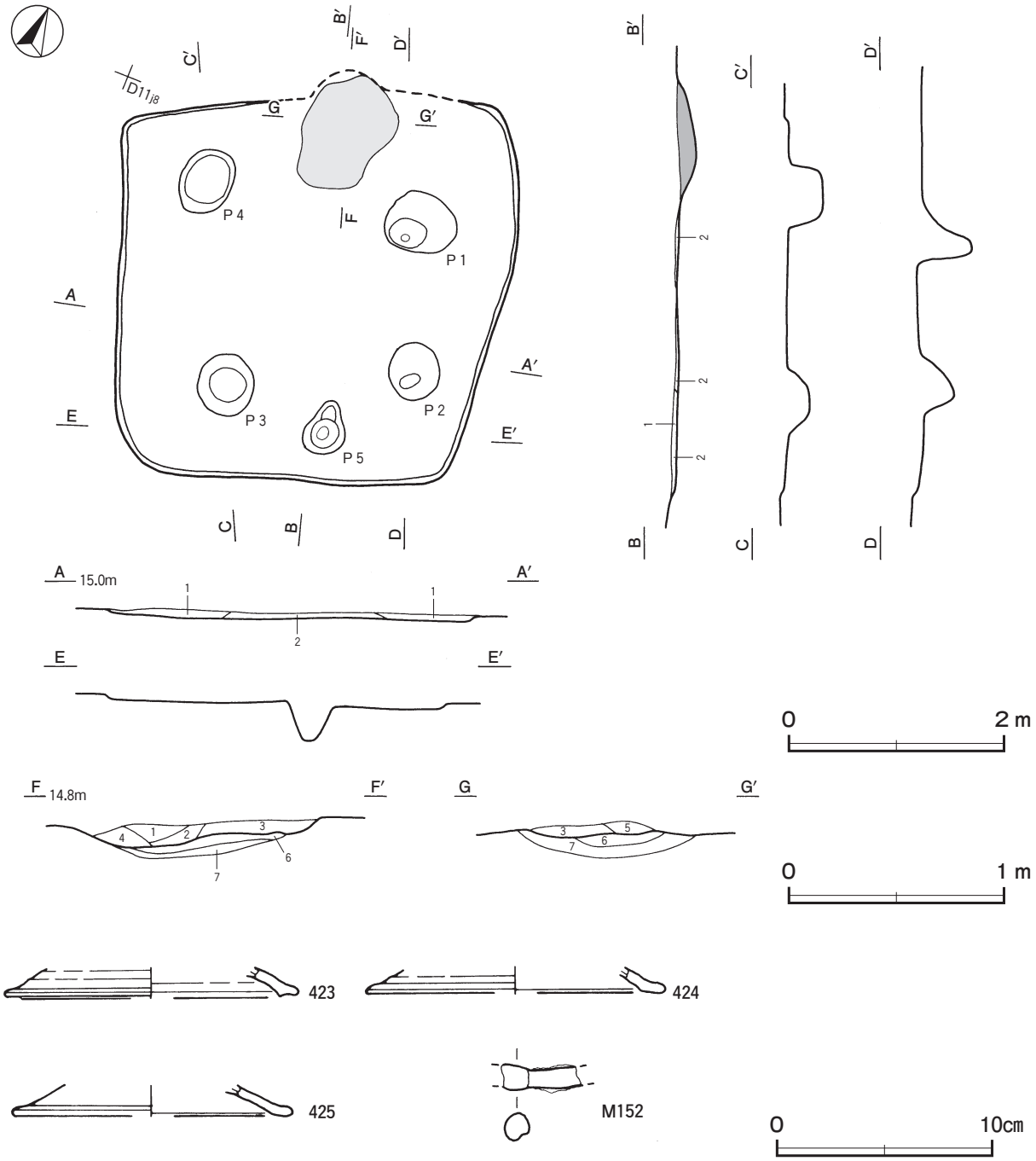
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 13～ 51cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 36cmで南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　２層に分層できる。ロームのブロックが含まれる不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説
１　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量　　２　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片 97 点（坏４，甕類 93），須恵器片 22 点（坏 15，蓋３，甕類４），鉄製品１点（不明），鉄滓 10 点（59.6 ｇ）が出土している。M 152 はＰ１の覆土中から出土している。423 ～ 425 は覆土中から出土している。鉄滓は全て覆土中から出土しており，少量であることから埋め戻しの際の混入と考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。



第 48 図　第 77 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 77 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 48 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
423	須恵器	蓋	［13.8］	（1.4）	－	長石・石英・雲母	褐灰	良好	外・内面ロクロナデ	覆土中	10%
424	須恵器	蓋	［14.0］	（1.2）	－	長石・石英・雲母	灰白	良好	外・内面ロクロナデ	覆土中	10%
425	須恵器	蓋	［13.0］	（1.5）	－	長石・石英・雲母	にぶい黄	良好	外・内面ロクロナデ	覆土中	10%

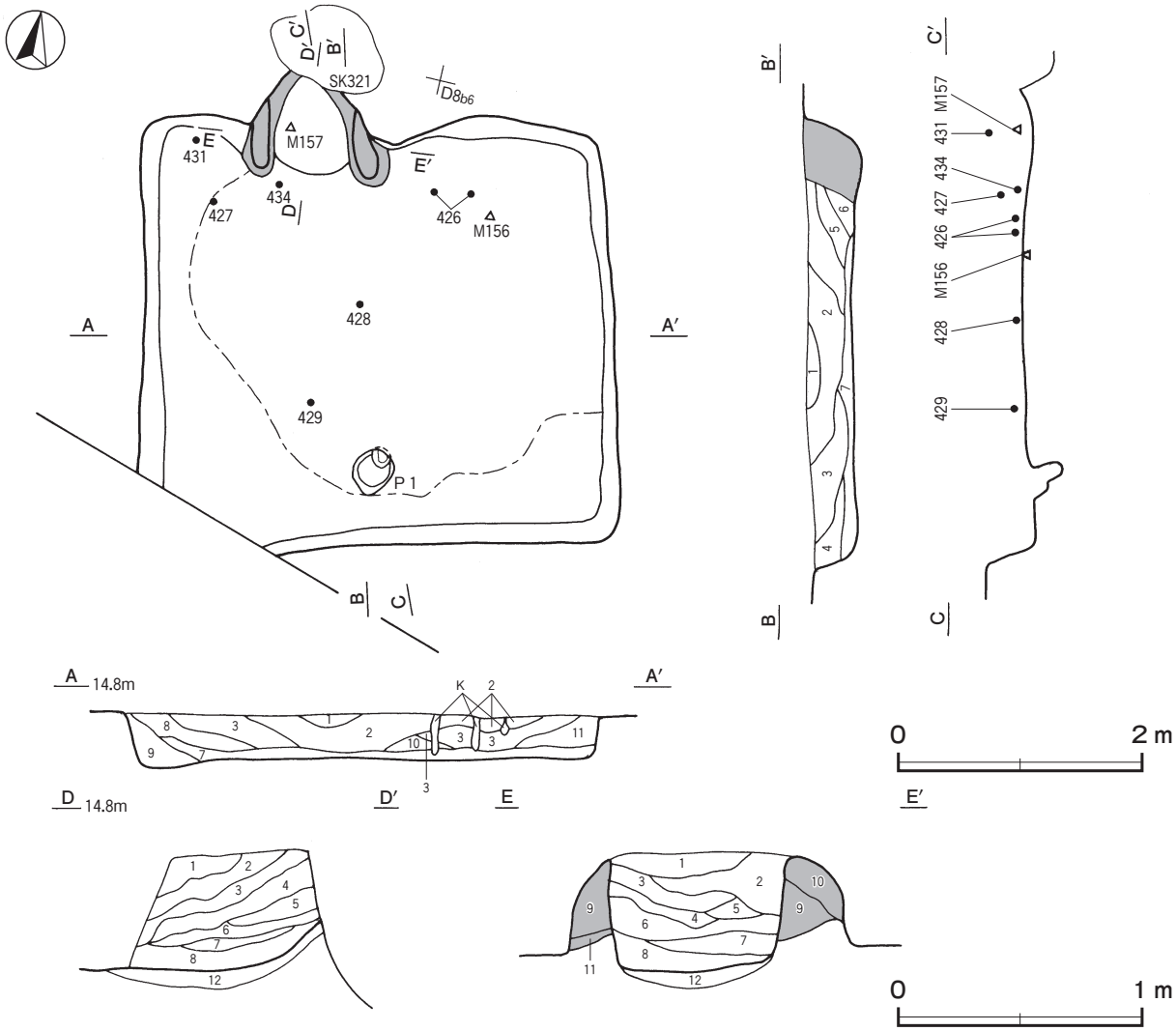
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 152	不明鉄製品	（3.8）	1.2	1.4	（9.2）	鉄		P 1 覆土中	

第 86 号竪穴建物跡（第 49 ～ 51 図）

位置　調査区中央部のＤ８b5 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 321 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南西コーナー部は調査区域外へ延びている。長軸 3.96 m，短軸 3.50 mの長方形で，主軸方向はＮ－ 16°－Ｗである。壁高は 36 ～ 40cmで，外傾して立ち上がっている。



第 49 図　第 86 号竪穴建物跡実測図

床　ほぼ平坦で，中央部から北東コーナー部にかけて踏み固められている。

竈　北壁のやや西寄りに付設されている。煙道部は第321号土坑に掘り込まれているため，規模は焚口部から煙道部まで78cmしか確認できなかった。燃焼部幅は64cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし，粘土粒子を主体とした第９～11層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を７cmほど皿状に掘り込み，第12層を埋土して構築されており，火床部ではわずかに焼土の広がりを確認した。確認できた煙道部は，壁外に40cm掘り込まれている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子少量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　焼土粒子少量
9　灰　褐　色　粘土粒子多量
10　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
12　黒　褐　色　焼土粒子微量

ピット　Ｐ１は深さ24cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

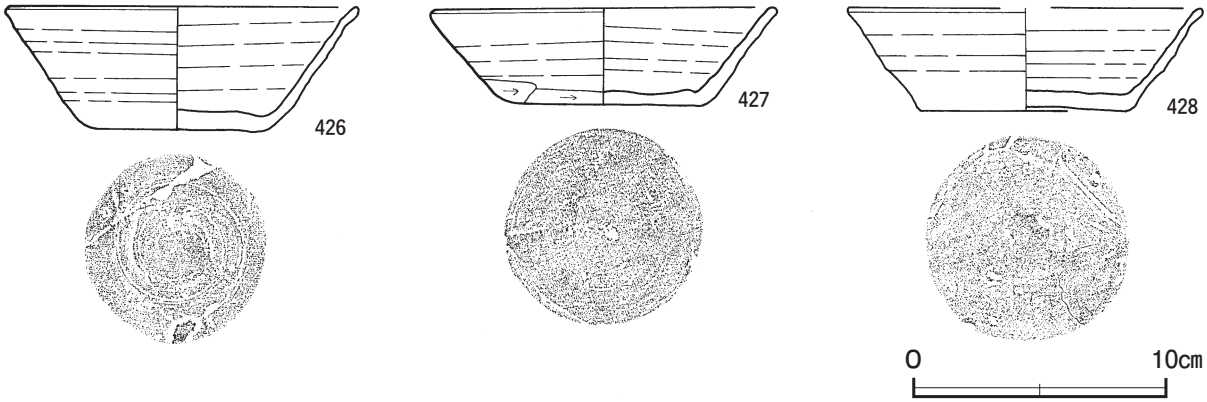
覆土　11層に分層できる。ロームブロックが含まれ，不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

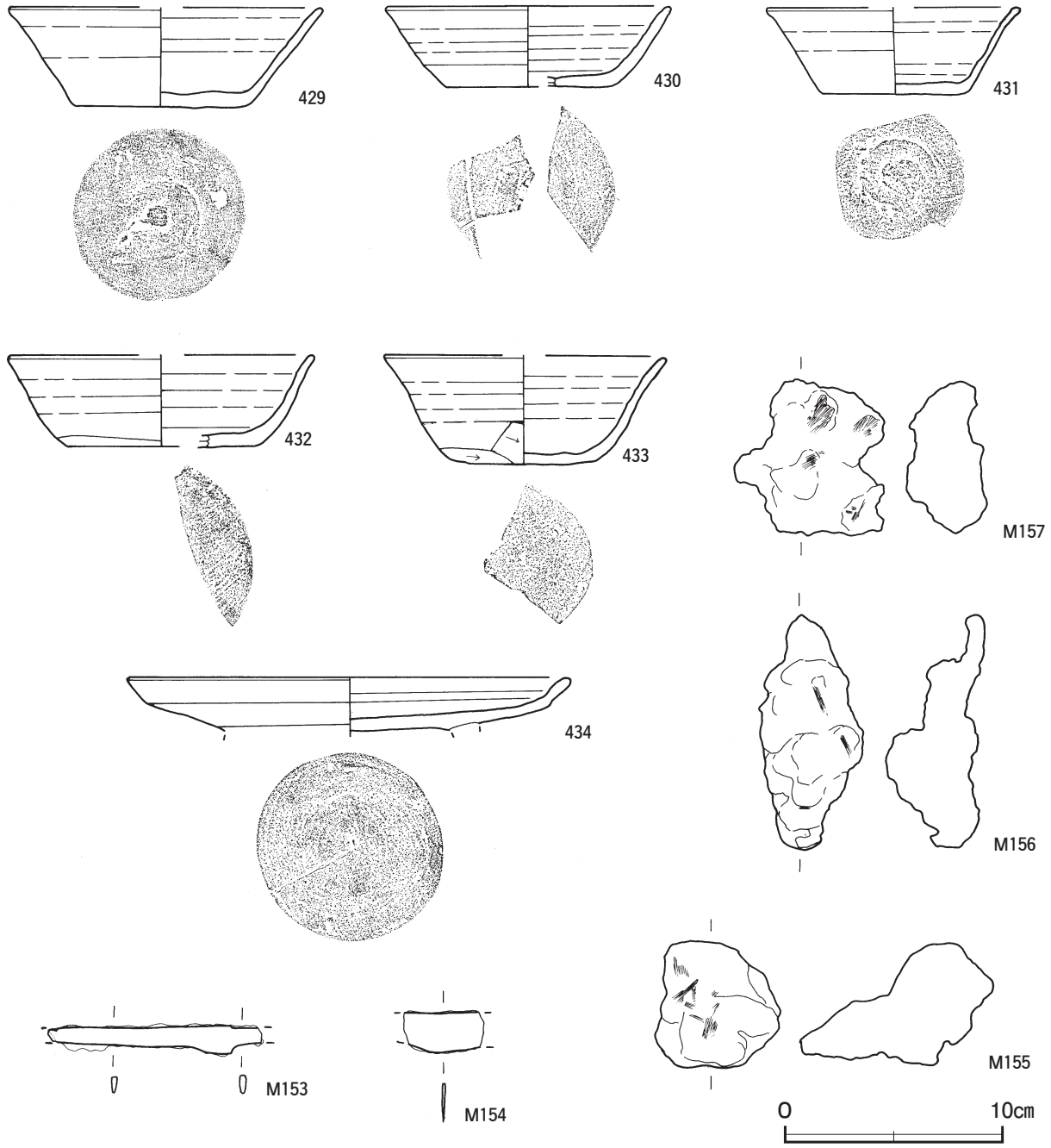
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
5　黒　褐　色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　粘土ブロック少量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
8　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子少量
9　黒　褐　色　ローム粒子少量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片76点（坏11，甕類65），須恵器片82点（坏65，高台付坏１，蓋２，盤１，鉢１，短頸壺１，甕10，甑１），土製品24点（支脚），鉄製品２点（刀子），炉内滓５点（701.3ｇ），鉄滓111点（1036.0ｇ）が，全域の覆土上層から下層にかけて出土している。M 156は北東コーナー部付近の床面から出土している。M 157は竈内から出土している。426は北壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。428は中央部，429は中央部南寄り，434は竈前の覆土下層からそれぞれ出土している。427は北西コーナー部付近の覆土中層から，431は北西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。430・432・433・M 153～M 155は覆土中からそれぞれ出土している。鉄滓等の鍛冶関連遺物は，竈の覆土中から鉄滓5.9ｇ，炉内滓128.5ｇ，覆土下層及び床面から鉄滓187.3ｇ，炉内滓145.6ｇ，覆土中層から鉄滓278.0ｇ，覆土上層から鉄滓243.4ｇ，覆土中から鉄滓321.4ｇが出土している。鉄滓の出土層位に大きな隔たりがなく，一括投棄された様相ではないことから，埋め戻しの過程で混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。



第50図　第86号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 51 図　第 86 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 86 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 50・51 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
426	須恵器	坏	13.8	4.9	7.0	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り	覆土下層	100%　PL36
427	須恵器	坏	13.5	4.0	8.0	長石・石英	黄灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り	覆土中層	80%　PL36
428	須恵器	坏	[14.0]	4.1	8.2	長石・石英・雲母	灰	良好	底部一方向のナデ	覆土下層	60% 新治窯産
429	須恵器	坏	[14.2]	4.6	8.0	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ切り離し痕を残すナデ	覆土下層	60%
430	須恵器	坏	13.1	3.7	7.8	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部切り離し後，不調整	覆土中	70%
431	須恵器	坏	[11.6]	4.0	[6.8]	長石・石英・黒色粒子	灰白	良好	底部回転ヘラ切り離し後，不調整	覆土上層	35%
432	須恵器	坏	[14.0]	4.2	[8.7]	長石・石英・黒色粒子	灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部切り離し後一方向のナデ	覆土中	25%
433	須恵器	坏	[13.0]	5.0	[6.7]	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部切り離し後一方向のヘラ削り	覆土中	25%
434	須恵器	盤	20.4	(3.0)	－	長石・石英・黒色粒子	黄灰	良好	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り　高台欠損	覆土下層	70%　PL37

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 153	刀子	(9.9)	1.2	0.3	(9.6)	鉄	刃部断面三角形　茎部断面台形　両端欠損	覆土中	PL53
M 154	刀子	(3.7)	(1.9)	0.1	(3.5)	鉄	刃部断面三角形　両端欠損	覆土中	
M 155	炉内滓	5.8	5.7	8.9	225.8	鉄	一部発泡　全面銹化　酸化土砂付着のため褐色を呈す　木質付着　着磁性なし	覆土中	
M 156	炉内滓	10.8	4.8	4.6	145.6	鉄	一部発泡　全面銹化　酸化土砂付着のため明褐色を呈す　木質付着　着磁性なし	床面	
M 157	炉内滓	7.2	7.0	3.7	128.5	鉄	一部発泡　全面銹化　酸化土砂付着のため褐色を呈す　木質付着　着磁性なし	竈	

第 88 号竪穴建物跡（第 52・53 図）

位置　調査区中央部のＣ７c7 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第３号方形竪穴遺構，第 354・356 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺 5.80 ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－ 17°－Ｗである。壁高は 24 ～ 30cmで，外傾して立ち上がっている。南東コーナー部から南壁中央部にかけて，長さ 2.5 ｍの範囲で，最大 30cmほど壁が張り出している。

床　ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。南壁際の中央部を除いて，壁下には壁溝が巡っている。貼床は，ローム粒子主体の褐色土の第 10 層を埋土して構築している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 170cmで，燃焼部幅は 73cmである。袖部は，床面と同じ高さに砂質粘土粒子を主体とした第 24・25 層を積み上げて構築している。また，右袖部内には，439 の土師器甕が補強材として転用されている。火床部は床面を 14cmほど皿状に掘りくぼめた部分に，第 26・27 層を埋土して構築しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 78cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第８・14 層は粘土粒子の含有量から天井部の崩落土層と考えられる。

竈土層解説

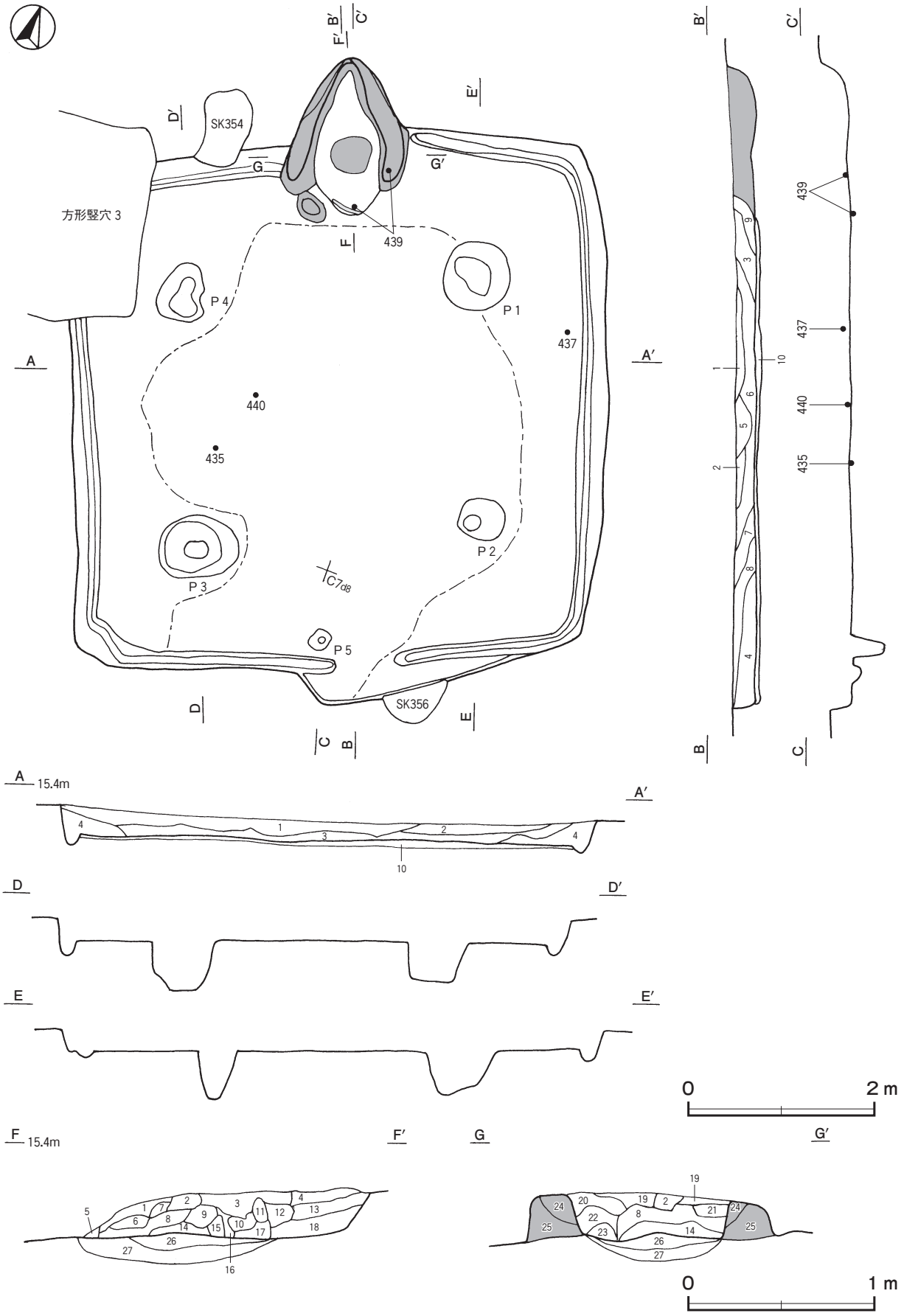
1　褐　　色　粘土粒子多量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
9　褐　　色　粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
10　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
11　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
12　暗赤褐色　炭化粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
13　暗赤褐色　焼土ブロック少量
14　暗赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子中量
15　にぶい赤褐色　炭化粒子中量，焼土ブロック・粘土粒子少量
16　褐　　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
17　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，粘土粒子微量
18　暗赤褐色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
19　暗　褐　色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
20　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
21　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
22　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子微量
23　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
24　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
25　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
26　にぶい赤褐色　焼土粒子中量
27　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 38 ～ 50cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 35cmで，南壁際中央に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　９層に分層できる。ロームブロックが含まれる層があることから埋め戻されている。第 10 層は貼床の構築土で，締まりは強い。

土層解説

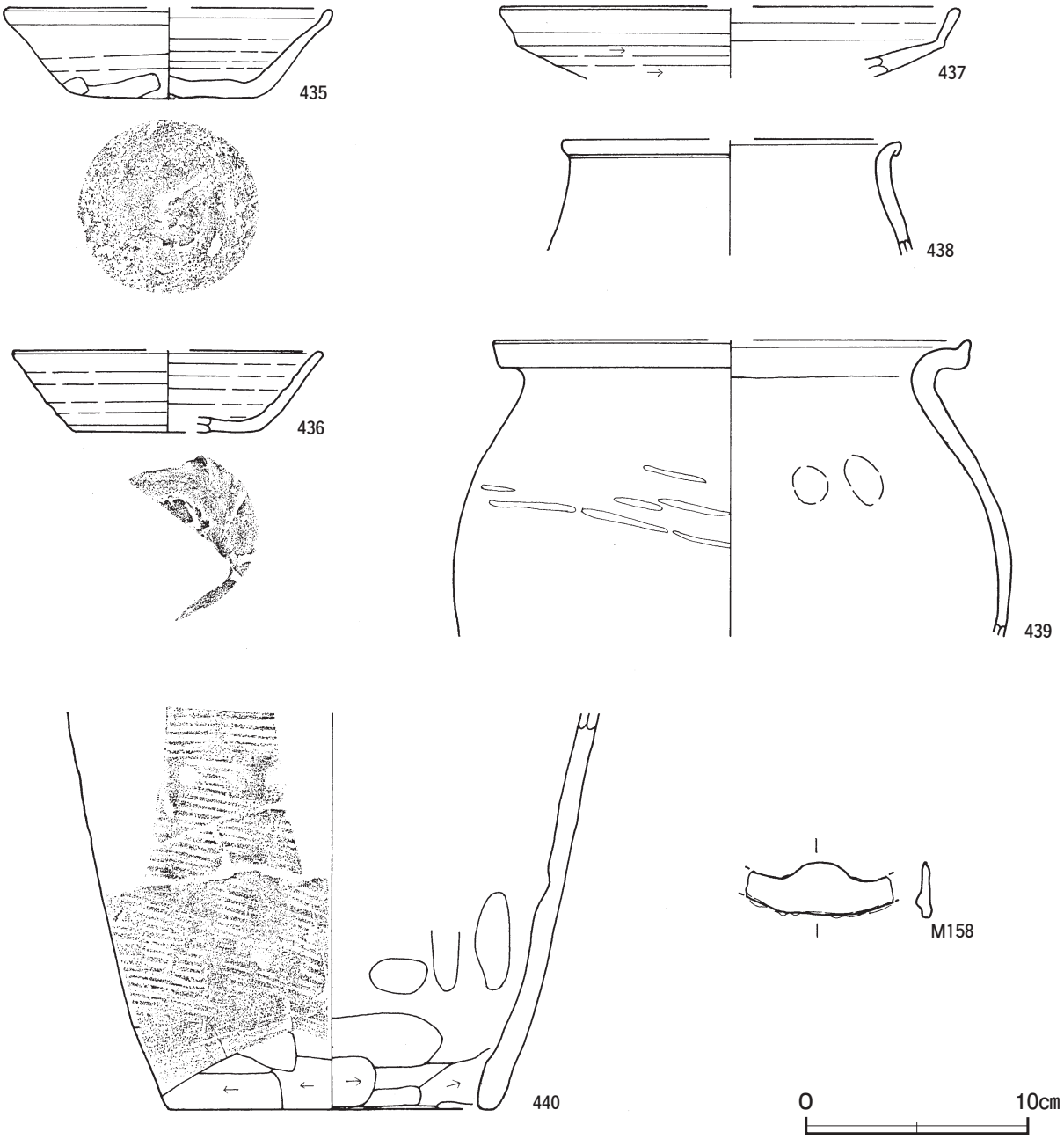
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量
9　暗　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
10　褐　　色　ローム粒子中量



第 52 図　第 88 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片 297 点（坏 32，高坏２，鉢１，甕類 262），須恵器片 80 点（坏 70，蓋２，甕６，甑２），土製品 30 点（支脚），鉄製品１点（燧鉄），鉄滓 186 点（1732.7 ｇ），椀状滓５点（141.1 ｇ）が出土している。439 は竈の右袖部内と火床部掘方の構築土から出土した破片が接合したものである。435 はＰ３付近の床面から逆位で，440 は中央部の床面からそれぞれ出土している。437 は東壁際の覆土下層から出土している。436・438・M 158 は覆土中から出土している。出土層位が確認できた鉄滓等の鍛冶関連遺物 2089.2 ｇは，柱穴内から 4.3 ｇ，覆土下層から 972.8 ｇ，覆土上層から 823.6 ｇ出土し，南部からの出土が多い。建物の廃絶過程で意図的に投棄したものか，または混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。



第 53 図　第 88 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 88 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 53 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
435	須恵器	坏	［14.6］	4.1	8.0	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	床面	70%　PL36
436	須恵器	坏	［14.0］	3.7	［8.3］	長石・石英・赤色粒子	灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	50%　PL36
437	須恵器	盤	［20.6］	（3.2）	－	長石・石英・雲母	灰	良好	底部回転ヘラ削り	覆土下層	15% 新治窯産
438	土師器	甕	［15.0］	（5.3）	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	５％
439	土師器	甕	［21.4］	（13.4）	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面工具痕　内面指頭圧痕	竈右袖・火床部掘方構築土	25%
440	須恵器	甑	－	（17.9）	［14.8］	長石・石英	にぶい黄	良好	体部斜位の平行叩き　体部下端ヘラ削り　内面指頭圧痕を残すナデ　内面下端ヘラ削り	床面	30%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 158	燧鉄	（6.6）	2.5	0.4	（16.0）	鉄	断面両丸　両端欠損	覆土中	PL55

第 89 号竪穴建物跡（第 54 図）

位置　調査区中央部のＤ８a4 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 417 号土坑を掘り込み，第 22 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.40 ｍ，短軸 3.00 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－ 11°－Ｗである。壁高は 22 ～ 26cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。竈前には幅 0.6 ｍ，長さ 1.6 ｍで，高さ４cmほどの不整形の高まりがある。貼床は，ローム粒子主体の褐色土の第 10 層を埋土して構築している。

竈　北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120cmで，燃焼部幅は 44cmである。袖部は，地山を削り出して基部とし，粘土粒子を主体とした第 10 層を積み上げて構築している。火床部は，床面を６cmほど皿状に掘り込み，粘土粒子を含んだ第 11 層を埋土して構築しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 56cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。第６層は，焼土粒子や粘土粒子の含有量から天井部の崩落土層と考えられる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
4　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
6　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子中量
7　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
8　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
9　黒　褐　色　粘土ブロック中量
10　灰　褐　色　粘土粒子多量
11　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子微量

ピット　Ｐ１は深さ 10cmで，南壁際の中央に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　９層に分層できる。不自然な堆積状況であり，ロームブロックが含まれる層もあることから埋め戻されている。第 10 層は貼床の構築土で，締まりは強い。

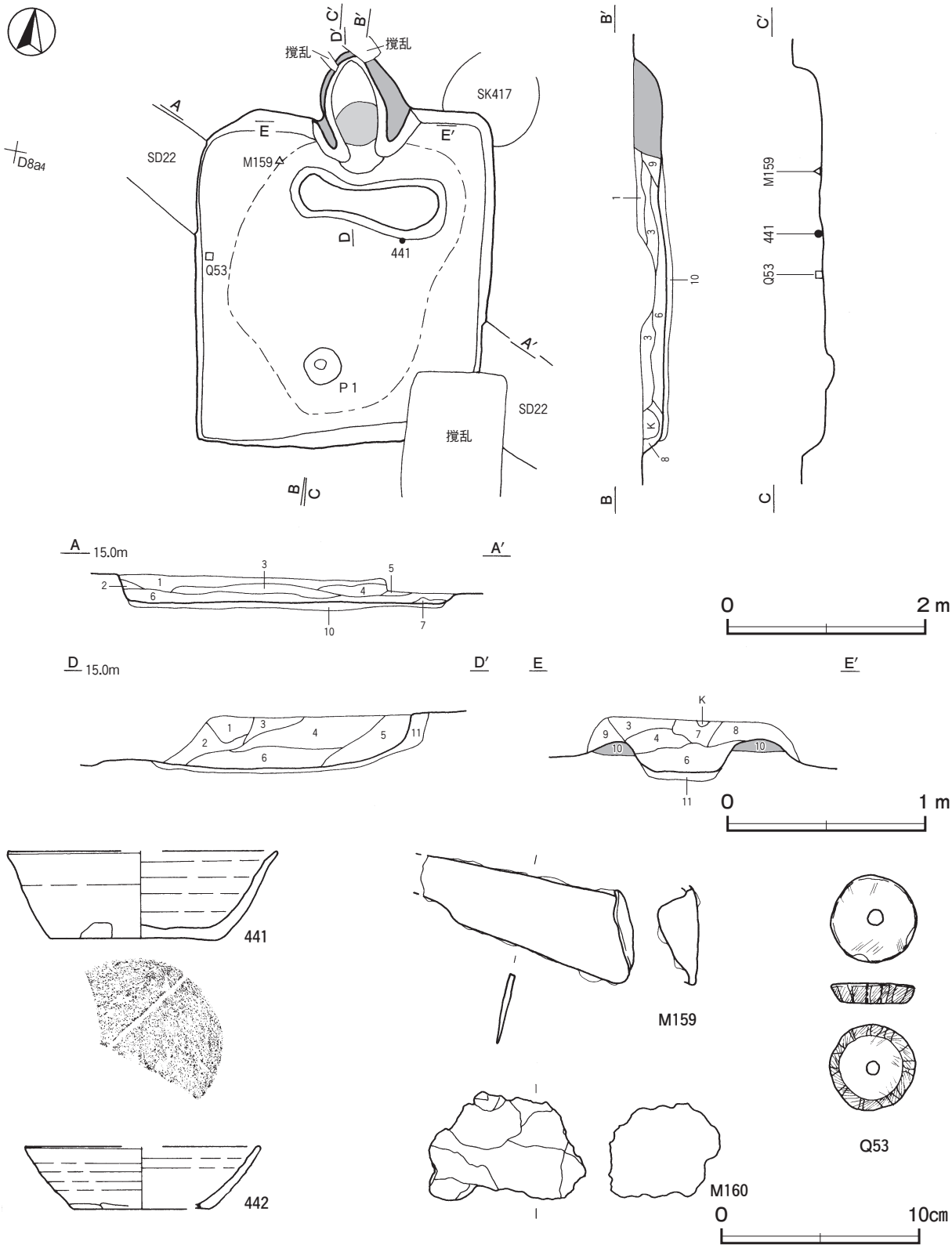
土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子中量（締まり普通）
8　暗　褐　色　ローム粒子中量
9　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子中量（締まり強い）

遺物出土状況　土師器片８点（坏２，甕類６），須恵器片８点（坏４，甕類４），土製品７点（支脚４，羽口３），石器１点（紡錘車），鉄製品１点（鎌），鉄滓 21 点（585.7 ｇ）が出土している。441 は竈前の床面の高まり付近から逆位で，Ｑ 53 は西壁際の床面から正位でそれぞれ出土している。Ｍ 159 は北壁際西寄りの覆土下層から出土している。442・Ｍ 160 は覆土中から出土している。鉄滓はＰ１から 15.9 ｇ，覆土下層から 199.2 ｇ，

覆土上層から 370.6 g 出土し，南部からの出土のみである。建物の廃絶過程で意図的に投棄したものか，あるいは混入したものと考えられる。

所見　時期は出土土器から８世紀中葉と推定できる。



第 54 図　第 89 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 89 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 54 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
441	須恵器	坏	［13.6］	4.4	［8.6］	長石・石英	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部ナデ	床面	50%
442	須恵器	坏	［11.8］	3.1	［6.8］	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	20%

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 53	紡錘車	4.4	1.0	0.8	29.9	凝灰岩	全面研磨　一方向からの穿孔	床面	PL52

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 159	鎌	(10.9)	4.8	0.3	(66.5)	鉄	刃部断面三角形　端部折り返し　刃部先端欠損　直刃鎌	覆土下層	PL54
M 160	鉄滓	5.5	8.0	5.6	295.5	鉄	一部発泡し，酸化土砂付着のため明褐色を呈する　一部銹化しているが着磁性有り	覆土中	

第 92 号竪穴建物跡（第 55 図）

位置　調査区中央部のＣ７a6 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第８号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.06 m，短軸 3.72 mの方形で，主軸方向はＮ－ 12°－Ｗである。壁高は 24 ～ 34cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北西コーナー部を除いて，壁下には壁溝が巡っている。西壁際の北部で，長軸 2.30 m，短軸 0.70 mの隅丸長方形で，深さ 20cmの土坑状の掘り込みを確認した。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 92cmで，燃焼部幅は 46cmである。袖部は，地山とほぼ同じ高さに，粘土粒子を主体とした第 13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を６cmほど浅い皿状に掘りくぼめた部分に，ローム粒子を含む第 14 層を埋土して構築されており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 40cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　炭化粒子少量，粘土ブロック微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
6　暗　褐　色　炭化粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
7　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　極暗褐色　粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　炭化粒子・粘土粒子微量
10　極暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
11　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
12　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
13　灰　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量
14　にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ 14cm・27cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ３～Ｐ５は，深さ 10 ～ 16cmで，性格不明である。

覆土　９層に分層できる。ロームブロックが含まれる不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。第 10・11 層は西壁際の掘り込みの覆土である。

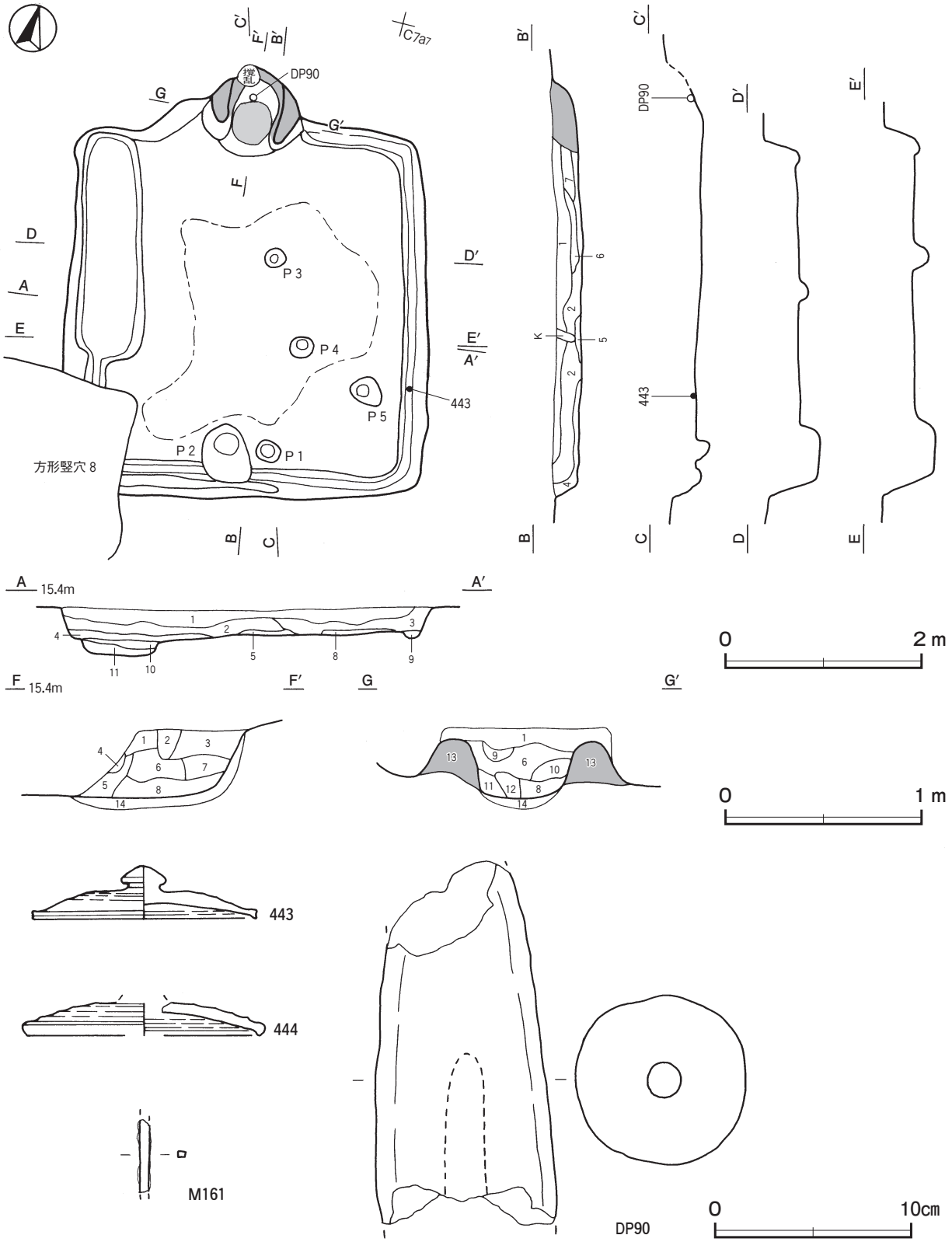
土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量
8　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
11　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片 167 点（坏 55，甕類 112），須恵器片 12 点（坏１，高台付坏１，蓋４，鉢１，甕類５），土製品７点（支脚），炉壁材２点，鉄製品１点（釘），鉄滓 14 点（191.3 ｇ）が出土している。DP90 は竈内から横位で出土している。443 は，東壁際の覆土下層から出土している。444・M 161 は覆土中から出土している。

鉄滓は，全て覆土中からの出土で量も少ないことから，埋め戻しの際の混入であると考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。西壁際の土坑状の掘り込みは，底面の硬化が認められないことや，床面と連続する土坑上面が硬化していないことから，貯蔵や保管のために掘り込まれたものか寝間であったと考えられる。



第 55 図　第 92 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 92 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 55 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
443	須恵器	蓋	11.4	2.7	－	長石・石英	灰黄	良好	外面回転ヘラ削り	覆土下層	80%　PL37
444	須恵器	蓋	［11.8］	（1.7）	－	長石・石英	灰黄	良好	外面回転ヘラ削り	覆土中	30%

番号	器　種	高さ	最小径	最大径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP90	支脚	（18.7）	（7.0）	（9.2）	（1238.4）	長石・石英	外面一部ヘラ削り　底部から径 2.0cm，長さ 7.5cmの円筒状の穿孔	竈	PL48

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 161	釘	（3.7）	（0.5）	（0.3）	（1.6）	鉄	断面長方形　両端欠損	覆土中	

第 99 号竪穴建物跡（第 56 ～ 58 図）

位置　調査区中央部のＢ４g7 区，標高 16 mほどの東へ下る緩斜面に位置している。

重複関係　第 17 号掘立柱建物，第 572・586 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南半部が調査区域外へ延びているため，北西・南東軸は 6.50 mで，北東・南西軸は 4.76 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，主軸方向はN － 53° －Wである。壁高は４～ 11cmで，外傾して立ち上がっている。北東壁は削平されているため，壁の立ち上がりは確認できなかった。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。確認できた壁下には，壁溝が断続的に巡っている。

竈　北西壁中央部に付設されている。煙道部が第 17 号掘立柱建物のＰ５に掘り込まれているため，規模は焚口部から煙道部まで 136cmしか確認できなかった。燃焼部幅は 86cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さに，粘土粒子やロームブロックを主体とした第８～ 10 層を積み上げて構築されている。左袖部では 450 の土師器甕，右袖部では 451 の土師器甕が袖の芯材として使用されている。火床部は床面を 15cmほど皿状に掘り込み，第 11・12 層を埋土して構築されており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。火床面の中央には，445 の須恵器坏が逆位で据えられ，支脚として使用されている。確認できた煙道部は，壁外へ 40cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量
3　明 赤 褐 色　焼土ブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子微量
8　にぶい褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
9　暗 赤 褐 色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
10　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
11　にぶい赤褐色　焼土粒子中量
12　暗 赤 褐 色　焼土粒子微量

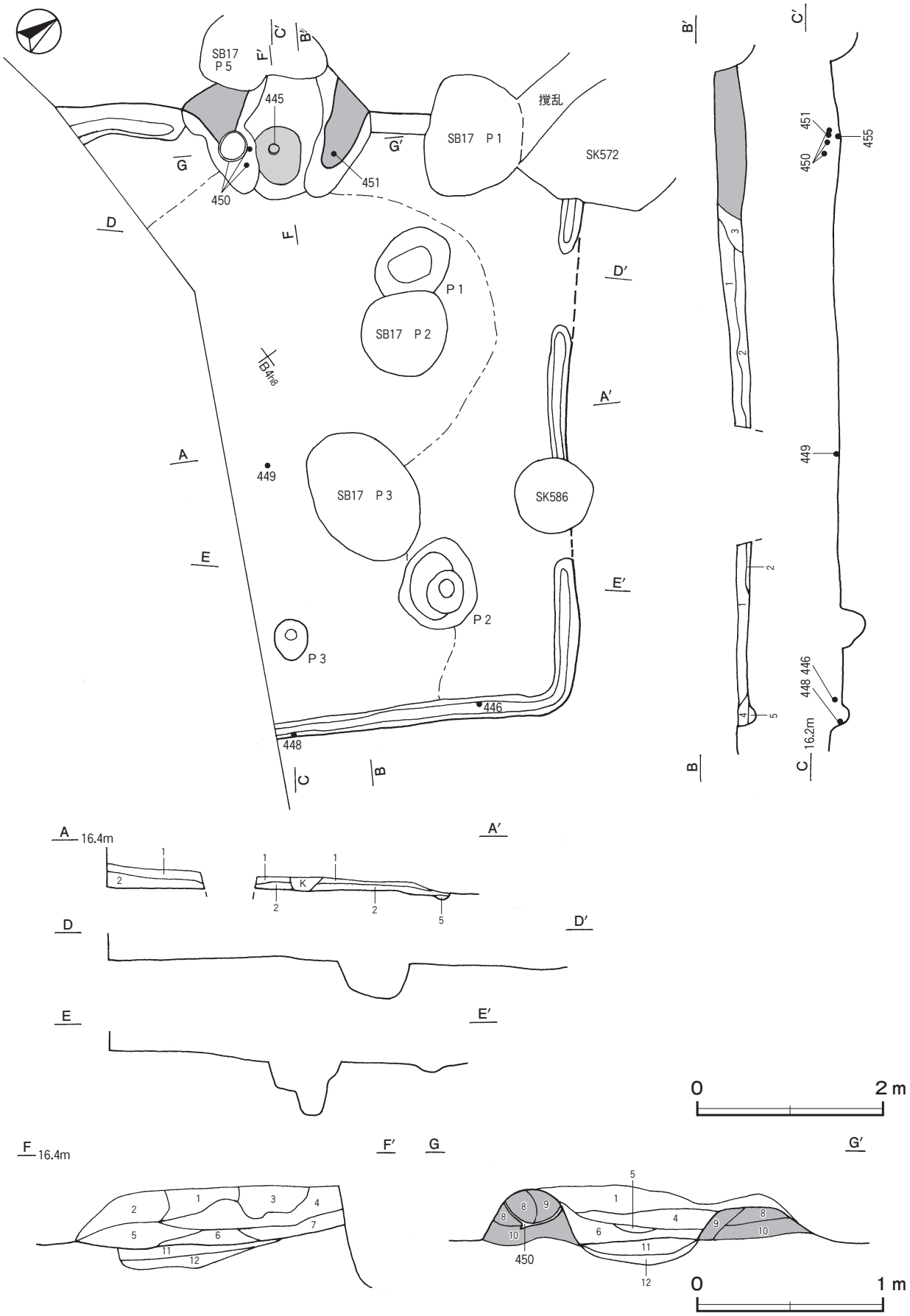
ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ 40cm・60cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ３は深さ 28cmで，南東壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　５層に分層できる。多くの層にロームや粘土のブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
3　褐　　色　粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量

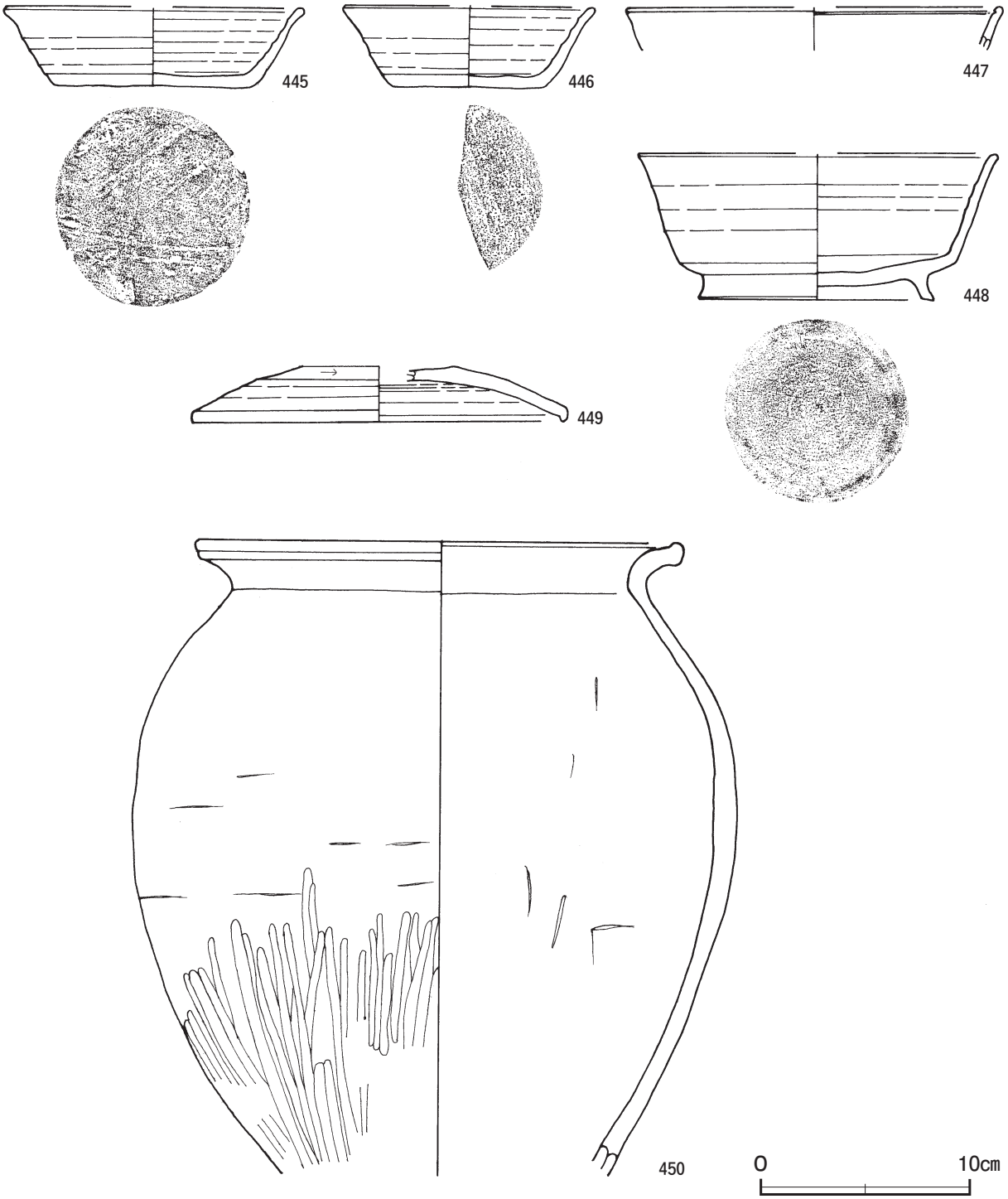
遺物出土状況　土師器片 285 点（坏６，甕類 279），須恵器片 151 点（坏 112，高台付坏４，蓋 16，盤１，甕類 17，甑１），土製品 16 点（支脚１，羽口 13，炉壁材２），鉄製品２点（釘$_{カ}$），鉄滓 177 点（2395.2 ｇ），椀状滓２点（290.8 ｇ）が，全域の覆土上層から床面にかけて出土している。445 は竈の火床面から逆位で出土し



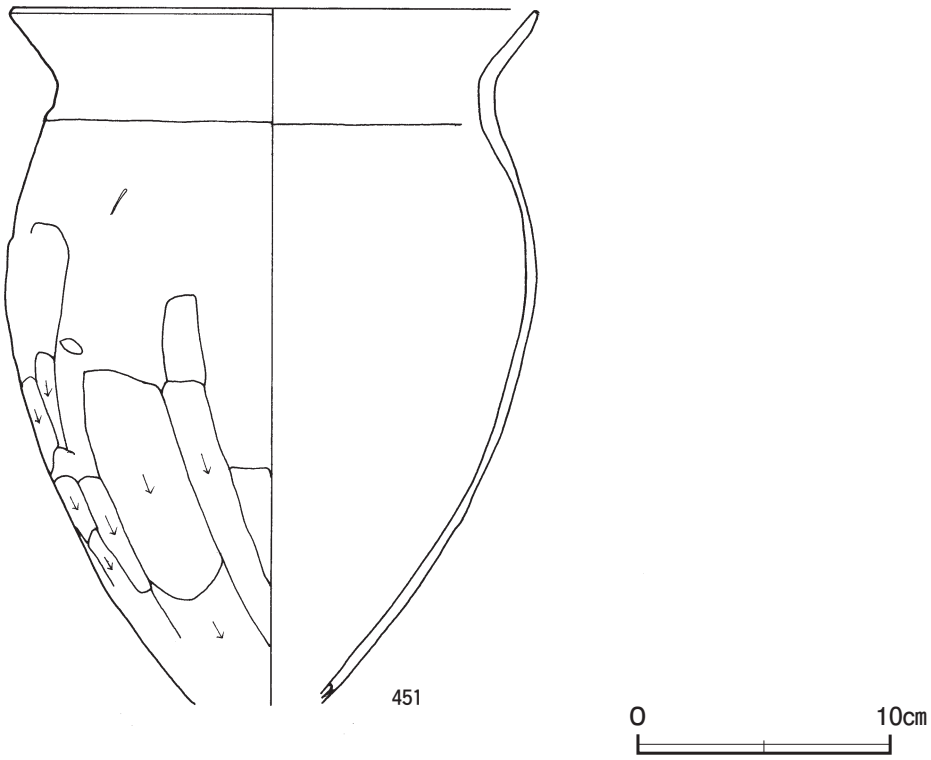
第 56 図　第 99 号竪穴建物跡実測図

ており，支脚に転用されたものである。450･451 は，いずれも竈袖部の芯材として使用されていたものである。450 は竈の左袖部内から口縁部から体部にかけてが逆位で出土している。451 は竈の右袖部内から出土している。449 は中央部の床面から逆位で，446 は東部の壁溝から正位で，448 は南東壁中央部の壁溝から逆位でそれぞれ出土している。447 は覆土中からの出土である。鉄滓及び椀状滓は，柱穴内から鉄滓 116.5 g，竈の覆土中から鉄滓 33.3 g，壁溝内から鉄滓 82.1 g，覆土中からは鉄滓 2163.3 g・椀状滓 290.8 g が広い範囲から出土している。埋め戻しの際に意図的に投棄したものか，あるいは混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。



第 57 図　第 99 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 58 図　第 99 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 99 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 57・58 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
445	須恵器	坏	[14.4]	3.8	9.3	長石・石英・雲母	外面にぶい褐 内面　灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部二方向のヘラ削り	竈火床面	70%　PL36 新治窯産
446	須恵器	坏	[12.0]	3.9	[7.1]	長石・石英	外面灰白 内面　灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部ナデ	壁溝	40%
447	須恵器	坏	[17.9]	(2.0)	－	長石・石英	灰	良好	口縁部内面に沈線	覆土中	5 %
448	須恵器	高台付坏	[17.0]	7.0	11.2	長石・石英	オリーブ灰	良好	切り離し後丁寧なナデ　一部鉄滓付着	壁溝	60%　PL37 堀ノ内窯産
449	須恵器	蓋	[17.8]	(2.7)	－	長石・石英	青灰	良好	天井部回転ヘラ削り	床面	20%
450	土師器	甕	23.0	(30.4)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端ヘラ磨き　内面ヘラ状工具痕	竈左袖	70%　PL38
451	土師器	甕	20.9	(27.6)	－	長石・石英	明赤褐	普通	外面縦位のヘラ削り	竈右袖	80%　PL38

表 4　奈良時代竪穴建物跡一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規　模	壁 高	床面	壁溝	内　部　施　設					覆土	主な出土遺物	時　期	備　考
				長軸×短軸（m）	(cm)			主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
73	E 11g6	N － 25° － E	[方形・長方形]	5.22 ×(1.40)	30 ～ 38	平坦	全周	2	－	2	－	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品，鉄滓	8 世紀前葉	
76	E 11c4	N － 23° － W	長 方 形	6.18 × 5.60	18 ～ 20	平坦	全周	3	1	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品，鉄滓	8 世紀後葉	本跡→火葬施設 1，SK792
77	D 11j8	N － 16° － W	不　整 方　形	3.70 × 3.54	6 ～ 10	平坦	－	4	1	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，鉄製品，鉄滓	8 世紀前葉	
86	D 8 b5	N － 16° － W	長 方 形	3.96 × 3.50	36 ～ 40	平坦	－	－	1	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品，鉄滓	8 世紀後葉	本跡→ SK321
88	C 7 c7	N － 17° － W	方　形	5.80 × 5.80	24 ～ 30	平坦	－	4	1	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品，鉄滓	8 世紀後葉	本跡→方形竪穴 3，SK354・356
89	D 8 a4	N － 11° － W	長 方 形	3.40 × 3.00	22 ～ 26	平坦	－	－	1	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，石器，鉄製品，鉄滓	8 世紀中葉	SK417 →本跡 → SD22
92	C 7 a6	N － 12° － W	方　形	4.06 × 3.72	24 ～ 34	平坦	全周	－	2	3	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品，鉄滓	8 世紀後葉	本跡→方形竪穴 8
99	B 4 g7	N － 53° － W	[方形・長方形]	6.50 ×(4.76)	4 ～ 11	平坦	断続	2	1	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品，鉄滓	8 世紀後葉	本跡→ SB17，SK572・586

(2) 竪穴遺構

第１号竪穴遺構（第 59・60 図）

位置　調査区中央部のＢ５j9 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 34 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　東部が調査区域外に延びているため，南北軸 2.57 mで，東西軸は 2.56 mしか確認できなかった。隅丸方形または隅丸長方形と推定できる。西壁のほぼ中央部は三角形状に張り出し，底面に向かってスロープ状を呈している。深さは 57㎝で，底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　７層に分層できる。粘土ブロックや焼土粒子が含まれていることから埋め戻されている。

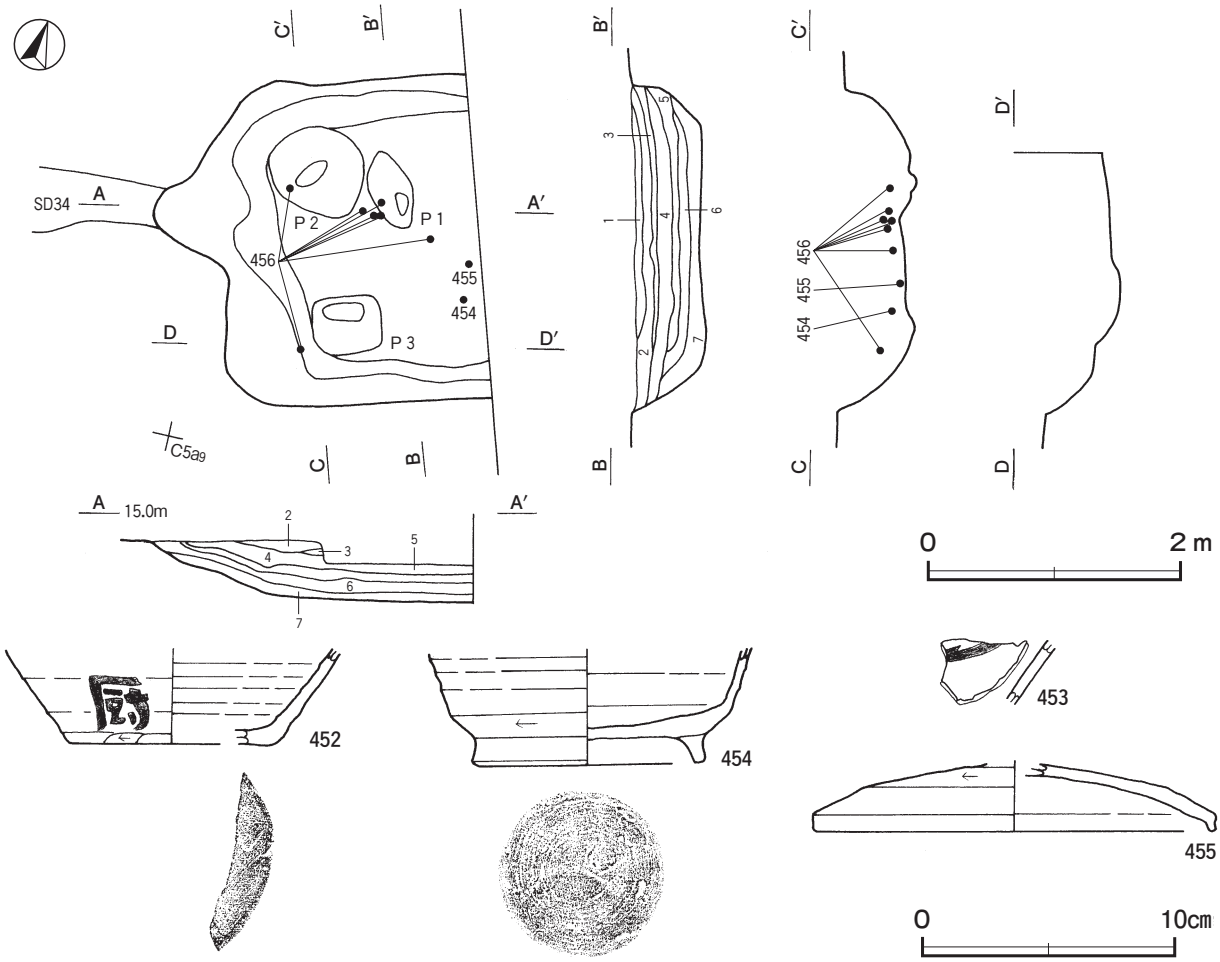
土層解説

1　褐　　色　粘土ブロック中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　灰　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量

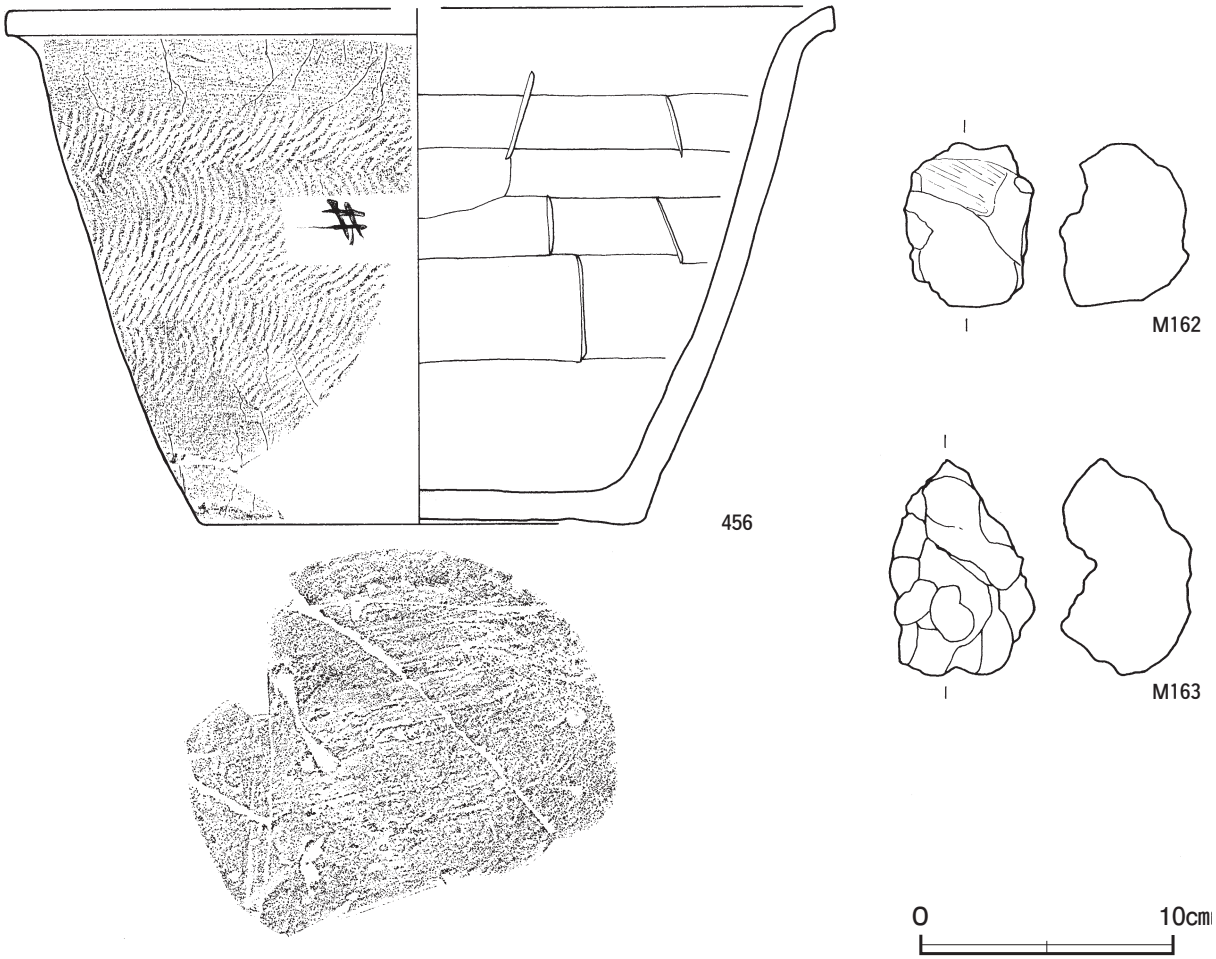
ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ８～ 16㎝で，性格は不明である。

遺物出土状況　土師器片 31 点（坏７，鉢１，甕 23），須恵器片 64 点（坏 26，高台付坏６，蓋７，高盤３，甕 22），鉄滓 21 点（1278.8 ｇ）が出土している。454・455 は東部の覆土下層から出土している。456 は中央部から西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。452・453 は覆土中から出土している。

所見　「厨」と墨書された須恵器坏が出土しているが，覆土中からの出土であり，本遺構に伴うかは不明である。遺構の周囲に柱穴は確認できず，上屋の存在は不明である。時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。



第 59 図　第１号竪穴遺構・出土遺物実測図



第60図　第１号竪穴遺構出土遺物実測図

第１号竪穴遺構出土遺物観察表（第59・60図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
452	須恵器	坏	－	(3.7)	[8.0]	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向への手持ちヘラ削り　体部外面に墨書「厨」	覆土中	10%　PL45
453	須恵器	坏	－	(2.5)	－	長石・石英	灰白	良好	体部内面に墨書「□」	覆土中	5％
454	須恵器	高台付坏	－	(4.5)	9.0	長石・石英・雲母	灰褐	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	覆土下層	60% 新治窯産
455	須恵器	蓋	[15.8]	(2.7)	－	長石・石英・雲母	黄褐	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	30%
456	土師器	鉢	[32.7]	20.5	17.5	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面同心円叩き 内面ナデ　体部外面に墨書「井」	覆土下層	60%　PL37

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 162	炉内滓	8.6	5.8	5.1	285.0	鉄	一部発泡　全面銹化　酸化土砂付着のため赤褐色を呈する 着磁性弱い	覆土中	
M 163	炉内滓	6.4	5.2	5.1	185.0	鉄	一部発泡　全面銹化　酸化土砂付着のため暗褐色を呈する 着磁性弱い	覆土中	

(3)　掘立柱建物跡

第３号掘立柱建物跡（第61図）

位置　調査区中央部のＣ７d4区，標高15ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第91・93号竪穴建物跡，第460号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－ 21°－Ｗの南北棟である。規模は，桁行 5.40 m，梁行 4.20 mで，面積は 22.68㎡である。柱間寸法は，東桁行が北妻から 2.1 m（７尺）･1.8 m（６尺）･1.5 m（５尺），北梁行が 2.1 m（７尺）の等間隔で，間尺にばらつきがあるが，柱筋は揃っている。

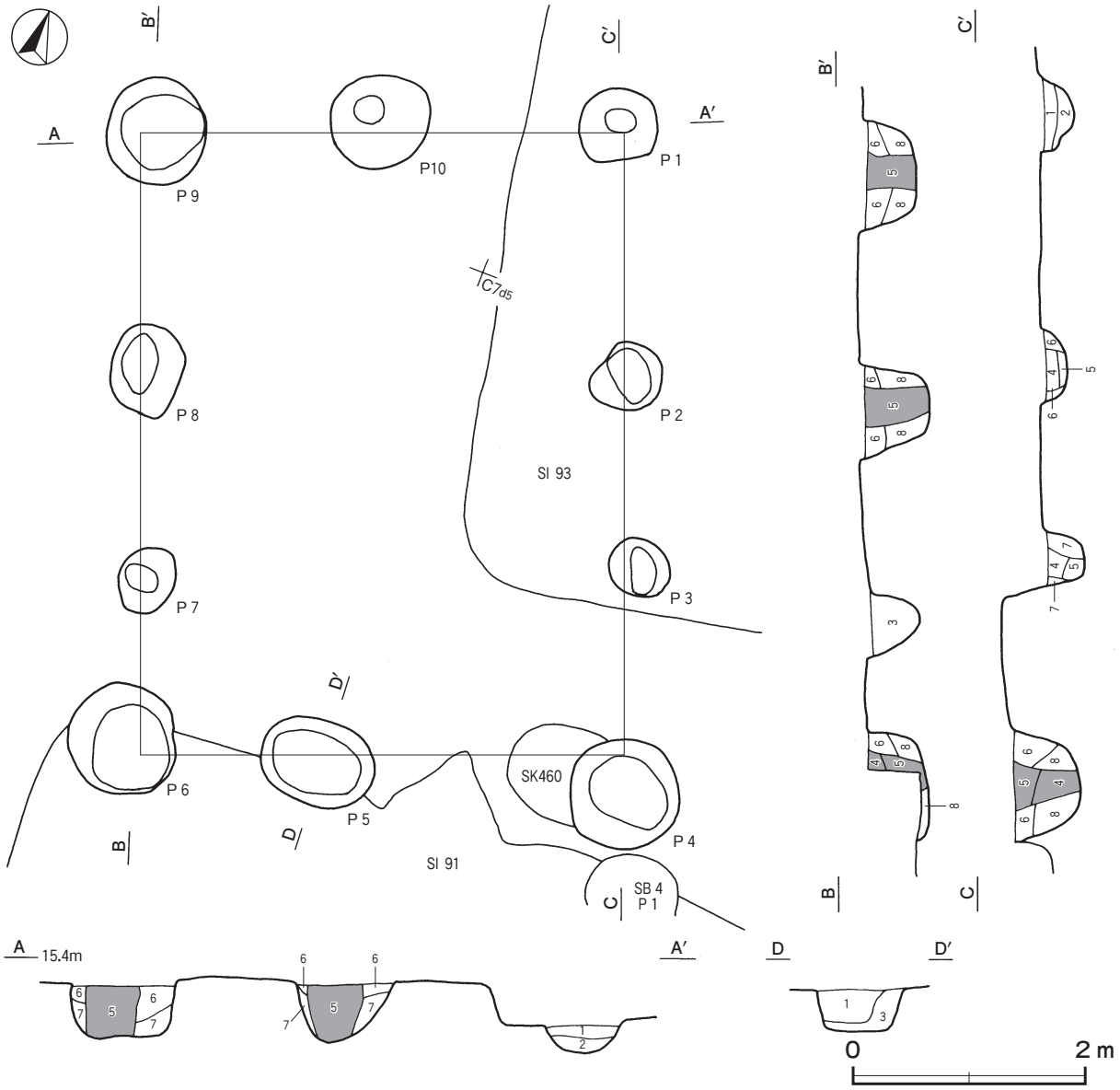
柱穴　10 か所。長径 52 ～ 102㎝，短径 48 ～ 96㎝の円形または楕円形である。深さは 22 ～ 60㎝で，掘方の断面はＵ字状または逆台形である。第１～３層は柱抜き取り後の覆土，第４・５層は柱痕跡，第６～８層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1	暗褐	色	炭化物・ローム粒子微量	5	暗褐	色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2	褐	色	ロームブロック少量	6	褐	色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
3	暗褐	色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	7	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	褐	色	ローム粒子多量	8	褐	色	ローム粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片 10 点（坏４，甕類６），須恵器片８点（坏４，甕類４），鉄滓９点（67.6 ｇ）が，Ｐ２・Ｐ６～Ｐ 10 の各柱穴から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，他の遺構と重複関係のないＰ７～Ｐ 10 の出土土器の様相から，８世紀後葉に比定できる。本

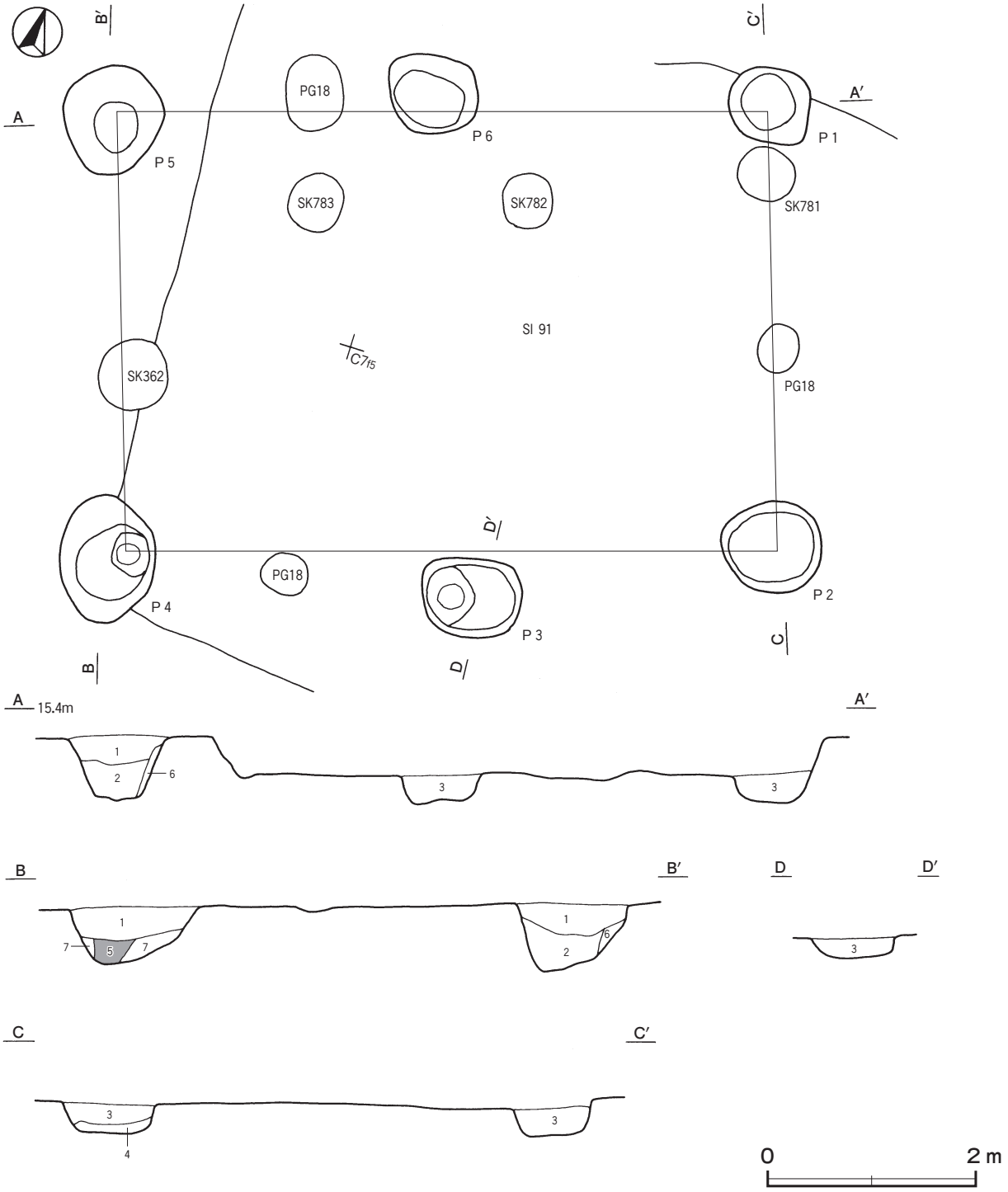


第 61 図　第３号掘立柱建物跡実測図

跡から東へ15ｍほどに位置する第88号竪穴建物と北に隣接する第５号掘立柱建物とは，軸方向がほぼ揃っており，いずれも８世紀後葉に比定できることから，同時に機能していたと考えられる。

第４号掘立柱建物跡（第62図）

位置　調査区中央部のＣ７f5区，標高15ｍほどの平坦な台地上に位置している。



第62図　第４号掘立柱建物跡実測図

重複関係　第91号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第362・781～783号土坑，第18号ピット群とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行２間，梁行１間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－72°－Ｅの東西棟である。規模は，桁行6.30ｍ，梁行4.20ｍで，面積は26.46㎡である。柱間寸法は，北桁行が西妻から3.3ｍ（11尺）･3.0ｍ（10尺），梁行は4.2ｍ（14尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　６か所。長径90～124㎝，短径78～92㎝の円形または楕円形である。深さは18～64㎝で，掘方の断面はＵ字状または逆台形である。第１～４層は柱抜き取り後の覆土，第５層は柱痕跡，第６・７層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

１	褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	
２	褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	
３	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
４	暗褐色	ローム粒子中量	
５	暗褐色	ローム粒子微量	
６	褐　色	ローム粒子多量	
７	褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師器片７点（坏４，甕類３），鉄滓26点（356.6ｇ）が，各柱穴から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器が細片のため明確には断定できないが，本跡の南に隣接し８世紀後葉に比定できる第６号掘立柱建物とＬ字型の位置関係となり，同時に機能していたと考えられることから８世紀後葉に比定できる。また，第６号掘立柱建物の出土土器の様相は，第５号掘立柱建物の出土土器の様相よりも古い段階のものとみられることから，同じ８世紀後葉でも第88号竪穴建物及び第３・５号掘立柱建物の一群より古段階の８世紀後葉と考えられる。

第５号掘立柱建物跡（第63図）

位置　調査区中央部のＣ７b4区，標高15ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第384・385・401号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行，梁行ともに２間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－18°－Ｗの南北棟である。東平にのみ３間の柱の並びを確認した。規模は，桁行・梁行ともに4.50ｍで，面積は20.25㎡である。柱間寸法は，西桁行が北妻から2.4ｍ（８尺）・2.1ｍ（７尺），東桁行が北妻から1.8ｍ（６尺）・1.5ｍ（５尺）・1.2ｍ（４尺）で，梁行は西平から2.4ｍ（８尺）・2.1ｍ（７尺）で，間尺にばらつきがあるが，柱筋は揃っている。

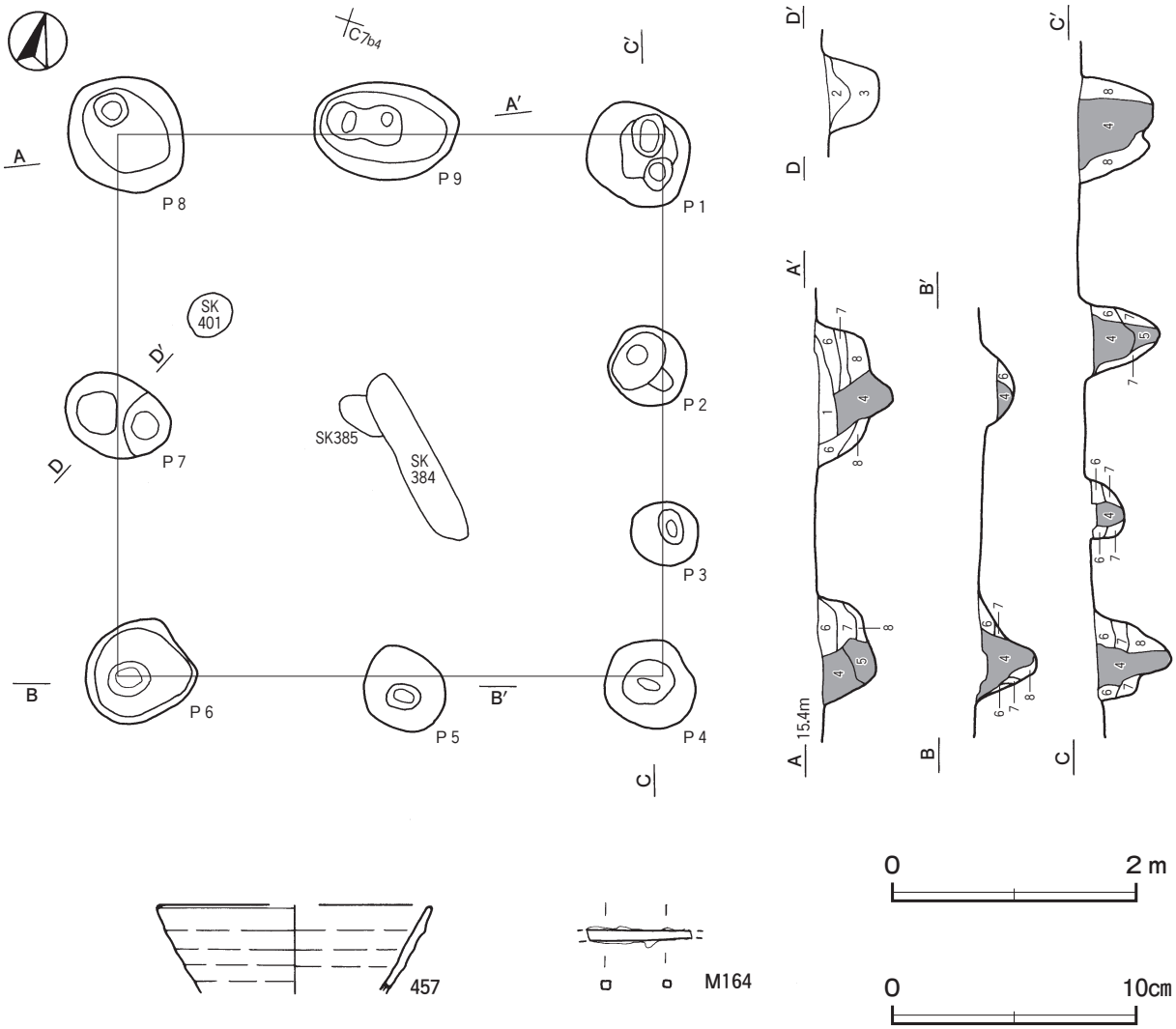
柱穴　９か所。長径56～120㎝，短径53～94㎝の円形または楕円形である。深さは30～64㎝で，掘方の断面はＵ字状である。第１～３層は柱抜き取り後の覆土，第４・５層は柱痕跡，第６～８層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

１	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	
２	暗褐色	ロームブロック微量	
３	暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	
４	暗褐色	ロームブロック少量	
５	暗褐色	ローム粒子少量	
６	暗褐色	ローム粒子中量	
７	暗褐色	ローム粒子多量	
８	暗褐色	ロームブロック中量	

遺物出土状況　土師器片14点（甕類），須恵器片８点（坏５，甕３），鉄製品１点（刀子），鉄滓19点（196.8ｇ）が，Ｐ２・Ｐ４～Ｐ７・Ｐ９の各柱穴から出土している。457はＰ４の覆土中から出土している。Ｍ164はＰ６の埋土から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。東平のみ３間で，Ｐ２・Ｐ３間が出入り口部と考えられる。本跡は，南に隣接する第３号掘立柱建物と東へ15ｍほどに位置する第88号竪穴建物と軸方向がほぼ揃っており，出土土器から同時に機能していたと考えられる。



第 63 図　第５号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第５号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 63 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
457	須恵器	坏	[11.2]	(3.7)	－	長石・石英	灰	良好	外・内面ロクロナデ	Ｐ４覆土中	５％

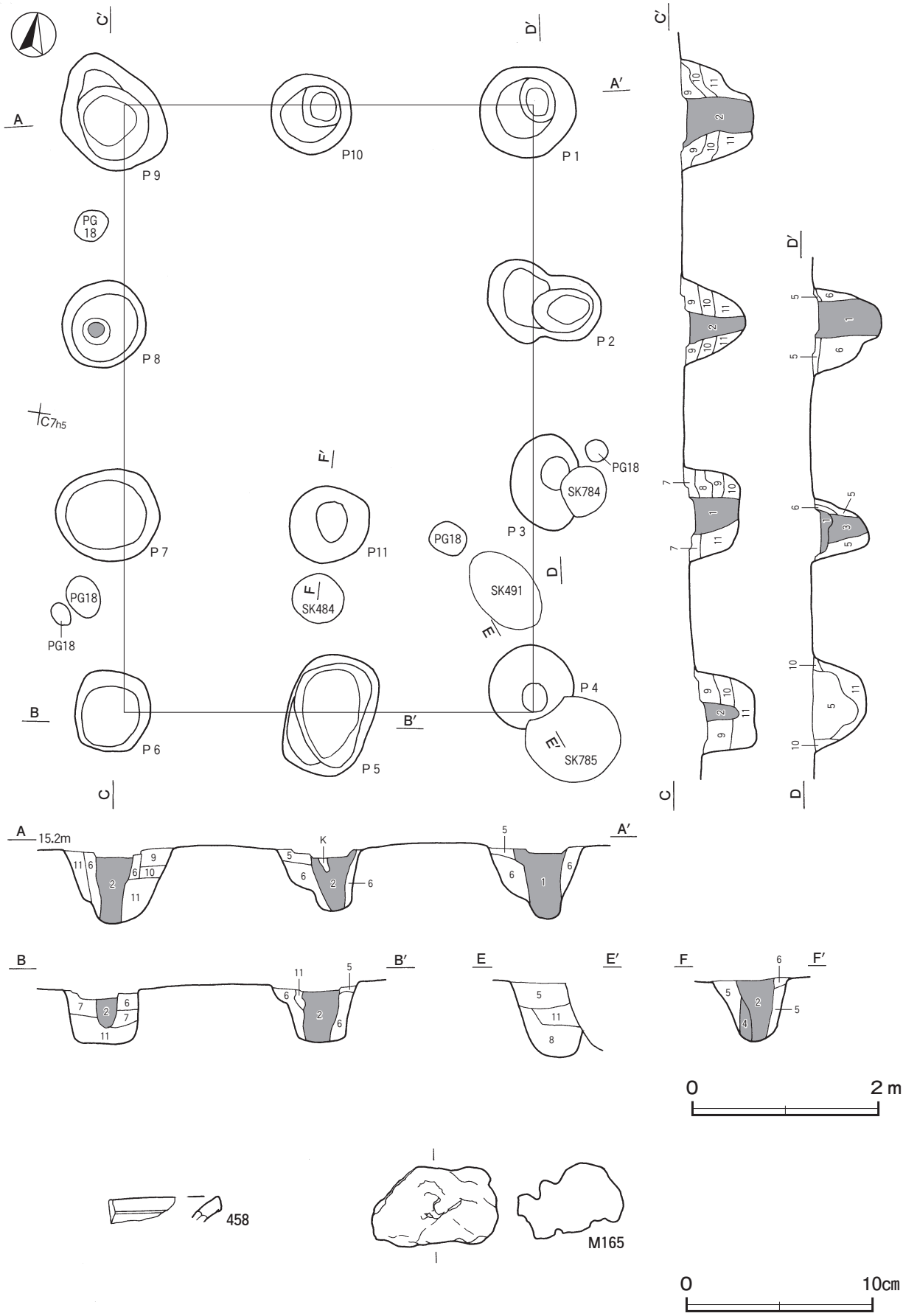
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 164	鏃	(4.4)	(0.4)	0.4	(3.0)	鉄	茎部　断面正方形　両端欠損	Ｐ６埋土	

第６号掘立柱建物跡（第 64 図）

位置　調査区中央部のＣ７g5 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 784・785 号土坑に掘り込まれている。第 484・491 号土坑，第 18 号ピット群とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－９°－Ｗの南北棟である。規模は，桁行 6.60 m，梁行 4.50 mで，面積は 29.70㎡である。柱間寸法は，東桁行が北妻から 2.4 m（８尺）・2.1 m（７尺）・2.1 m（７尺），北梁行が西平から，2.1 m（７尺）・2.4 m（８尺）で，間尺にばらつきがあるが，柱筋はほぼ



第 64 図　第 6 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

揃っている。また，Ｐ３とＰ７を結ぶ軸線上には，Ｐ 11 が位置し，土層断面から柱痕跡が確認できることから，束柱穴と考えられる。

柱穴　11 か所。長径（軸）88 ～ 134cm，短径（軸）72 ～ 104cmの円形，隅丸長方形または楕円形である。深さは 58 ～ 80cmで，掘方の断面はＵ字状または逆台形である。第１～４層は柱痕跡，第５～ 11 層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
9　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
10　褐　　色　ローム粒子中量
11　暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片 52 点（坏９，甕類 43），須恵器片７点（坏２，蓋２，甕３），鉄滓 12 点（364.2 ｇ）が各柱穴から出土している。458 はＰ８，Ｍ 165 はＰ１の柱痕跡からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。北に隣接する第４号掘立柱建物とはＬ字型の位置関係となり，同時に機能していたと考えられる。出土土器が，８世紀後葉に比定できる第５号掘立柱建物の出土土器よりも古い様相を呈していることから，第 88 号竪穴建物及び第３・５号掘立柱建物の一群よりは古段階の８世紀後葉に比定できる。また，Ｐ 11 は束柱穴と考えられることから，床が貼られていたと想定できる。

第６号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 64 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
458	須恵器	甕	－	(1.3)	－	長石・石英・雲母	灰白	良好	外・内面ロクロナデ	Ｐ８柱痕跡	５％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Ｍ 165	鉄滓	4.4	6.8	5.8	224.3	鉄	全面銹化　酸化土付着のため明褐色を呈す　一部発泡 着磁性なし	Ｐ１柱痕跡	

第７号掘立柱建物跡（第 65・66 図）

位置　調査区中央部のＢ５e3 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 515・538 号土坑，第 17 号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

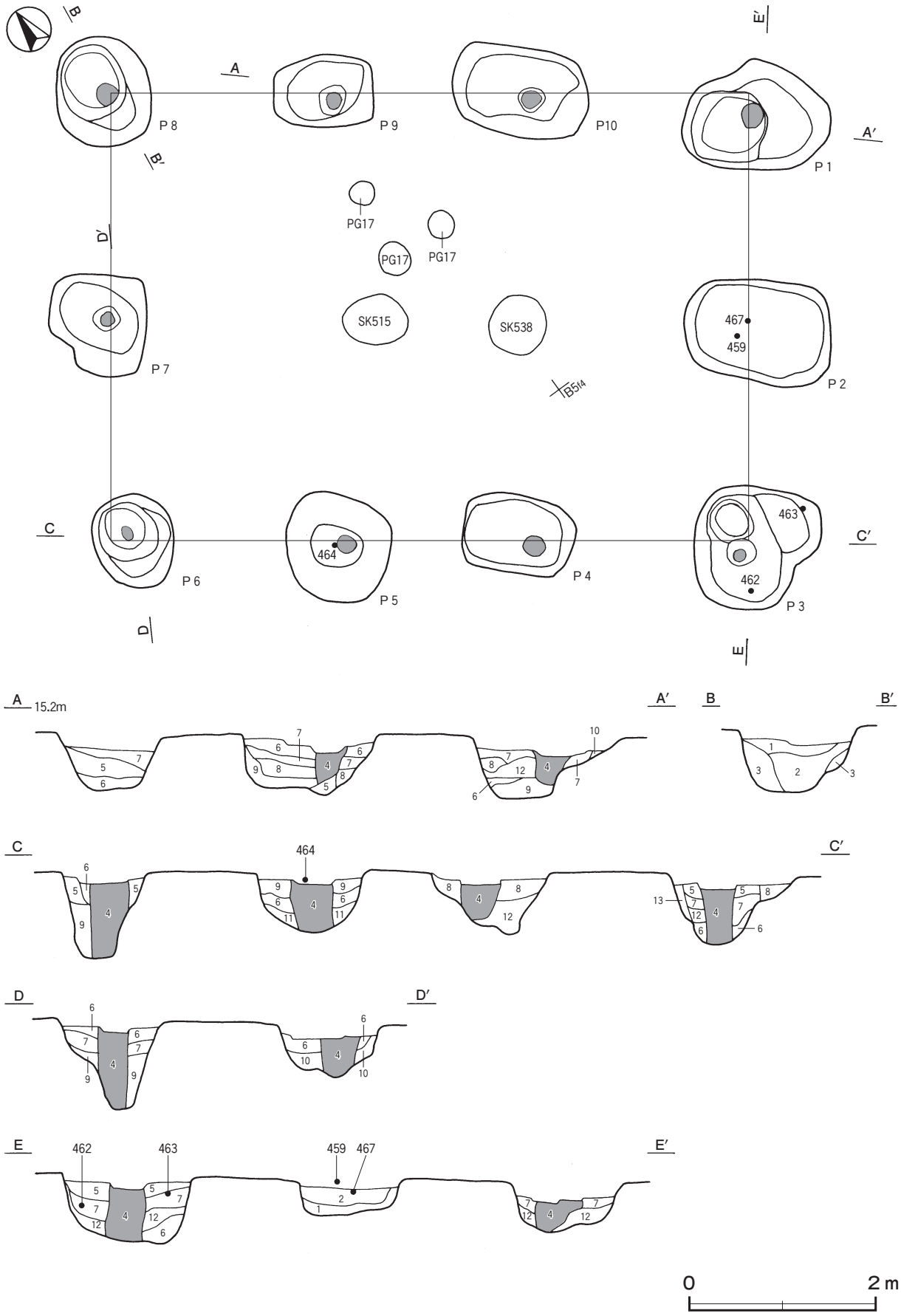
規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－ 53°－Ｗの東西棟である。規模は，桁行 6.90 ｍ，梁行 4.80 ｍで，面積は 33.12㎡である。柱間寸法は桁行が西妻から 2.4 ｍ（８尺）・2.1 ｍ（７尺）・2.4 ｍ（８尺）で，梁行が 2.4 ｍ（８尺）の等間隔であり，柱筋は揃っている。

柱穴　10 か所。長径（軸）104 ～ 160cm，短径（軸）76 ～ 120cmの隅丸長方形または楕円形である。深さは 38 ～ 88cmで，掘方の断面はＵ字状または逆台形である。第１～３層は柱抜き取り後の覆土，第４層は柱痕跡，第５～ 12 層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子・粘土粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　黒　　色　ロームブロック中量
8　黒　褐　色　ローム粒子中量
9　暗　褐　色　ロームブロック微量
10　黒　　色　ローム粒子少量
11　黒　褐　色　ロームブロック中量
12　暗　褐　色　ローム粒子微量

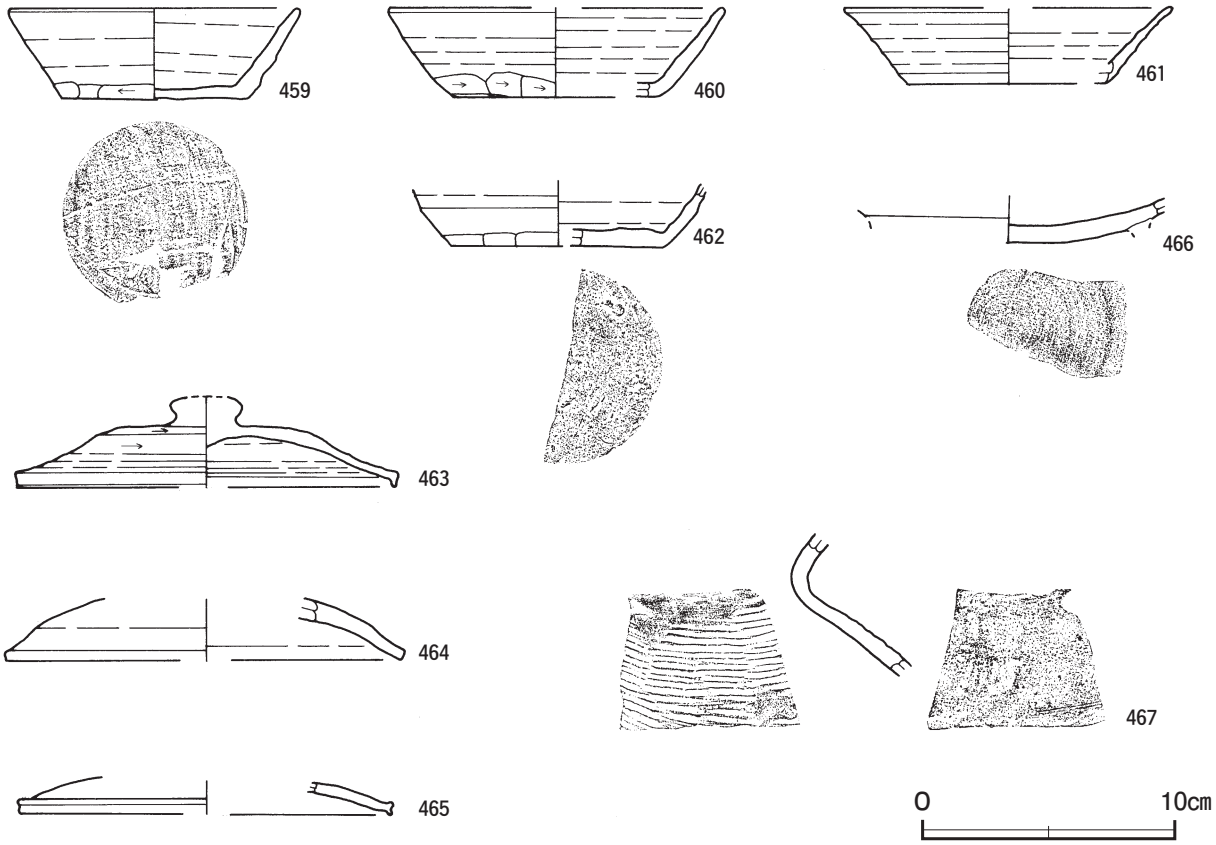
遺物出土状況　土師器片 35 点（甕類），須恵器片 44 点（坏 35，蓋４，盤１，甕類４），土製品２点（支脚，羽口），鉄滓 10 点（158.8 ｇ）が各柱穴から出土している。466 はＰ１，460・465 はＰ７の埋土からそれぞれ出土している。462・463 はＰ３の覆土中層から出土している。459・467 はＰ２，464 はＰ５の覆土上層からそれぞれ



第 65 図　第 7 号掘立柱建物跡実測図

出土している。461 はＰ７の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。



第 66 図　第７号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第７号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 66 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
459	須恵器	坏	11.4	3.6	7.4	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	Ｐ２覆土上層	80%　PL36
460	須恵器	坏	[13.2]	3.5	[8.1]	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り	Ｐ７埋土	20%
461	須恵器	坏	[13.0]	3.0	[7.8]	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	Ｐ７覆土中	10%
462	須恵器	坏	－	(2.6)	[8.4]	長石・石英	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部雑な一方向のヘラ削り	Ｐ３覆土中層	20%
463	須恵器	蓋	[15.0]	(3.5)	－	長石・石英・雲母	褐灰	良好	天井部回転ヘラ削り	Ｐ３埋土	20%
464	須恵器	蓋	[16.0]	(2.5)	－	長石・石英	灰白	良好	外・内面摩耗顕著のため調整不明瞭	Ｐ５覆土上層	５%
465	須恵器	蓋	[14.8]	(1.3)	－	長石・石英	黄灰	良好	外・内面ロクロナデ	Ｐ７埋土	５%
466	須恵器	盤	－	(1.9)	－	長石・石英	灰	良好	高台欠損	Ｐ１埋土	10%
467	須恵器	甕	－	(5.7)	－	長石・石英	灰	良好	外面横位の平行叩き　内面当具痕	Ｐ２覆土上層	５%

第 10 号掘立柱建物跡（第 67・68 図）

位置　調査区中央部のＢ５g5 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

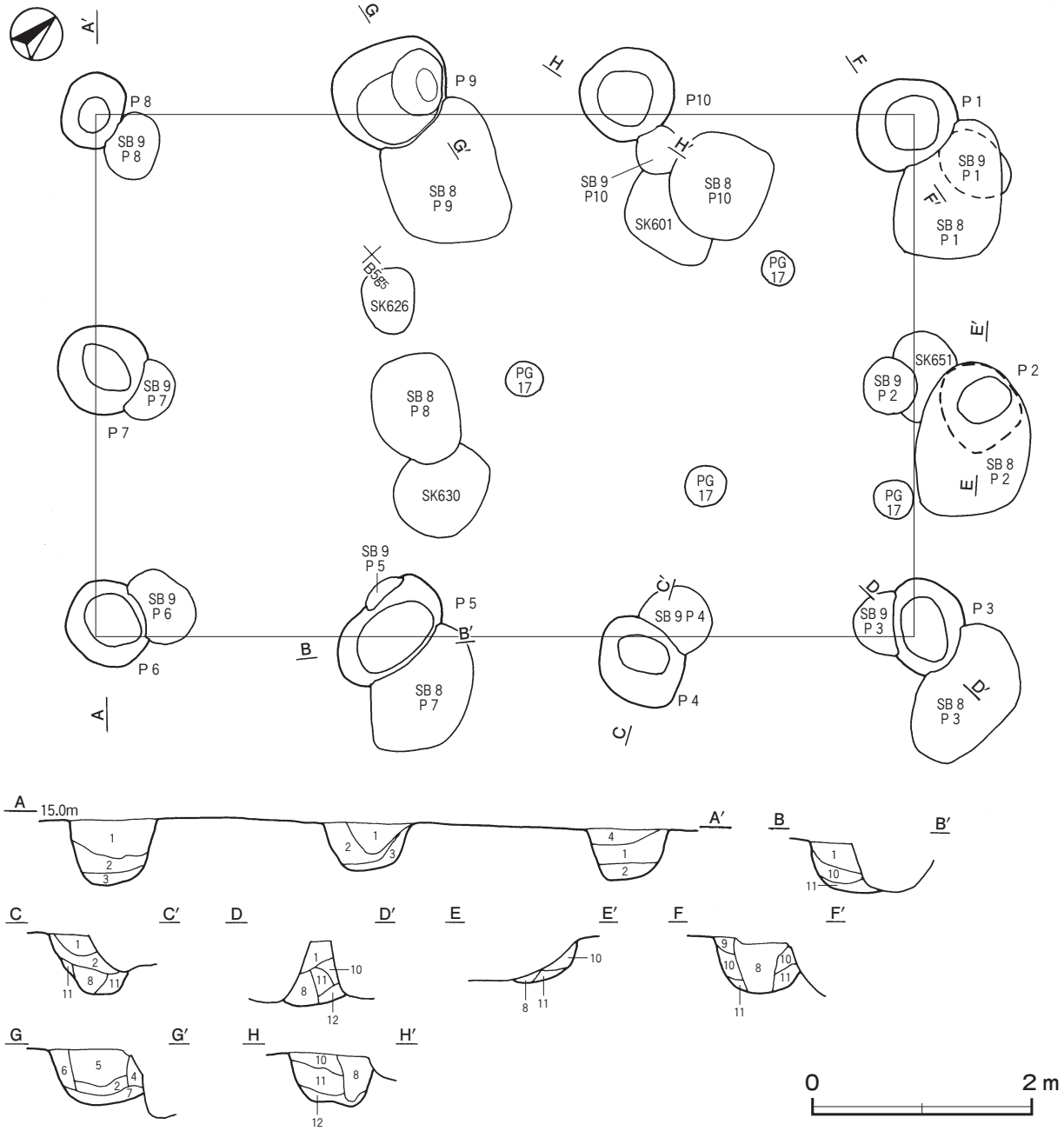
重複関係　第 651 号土坑を掘り込み，第８・９号掘立柱建物に掘り込まれている。第 601・626・630 号土坑，第 17 号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－ 42°－Ｅの南北棟である。規模は，桁行 7.50 m，梁行 4.80 mで，面積は 36.00㎡である。柱間寸法は，桁行が 2.5 m（8.3 尺），梁行が 2.4 m（８尺）の等間隔であり，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10 か所。長径 72 ～ 112㎝，短径 55 ～ 98㎝の円形または楕円形である。深さは 40 ～ 63㎝で，掘方の断面は逆台形状またはＵ字状である。Ｐ２の大部分は第８号掘立柱建物のＰ２に掘り込まれているため，規模は不明である。第１～８層は柱抜き取り後の覆土，第９～ 12 層は埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量

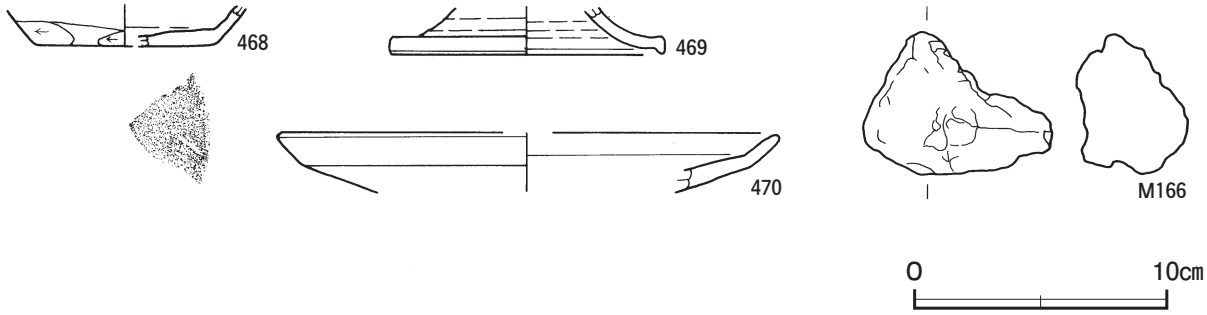


第 67 図　第 10 号掘立柱建物跡実測図

5　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒　　色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
11　極 暗 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
12　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 12 点（坏３，甕類９），須恵器片 25 点（坏 19，蓋２，盤１，甕類３），土製品１点（支脚），鉄滓 29 点（661.9 ｇ），鉄塊系遺物１点（11.4 ｇ）が，Ｐ７・Ｐ８を除く各柱穴から出土している。M 326 はＰ６の埋土から出土している。469 はＰ６の柱抜き取り後の覆土中から，468 はＰ９，470 はＰ３の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，第９号掘立柱建物との重複関係と出土遺物から，８世紀後葉に比定できる。倉庫として機能していたと考えられる。



第 68 図　第 10 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 10 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 68 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
468	須恵器	坏	－	(1.6)	[7.2]	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部ナデ	Ｐ９覆土中	５％
469	須恵器	高盤	－	(1.8)	[10.8]	長石・石英	黄灰	良好	外・内面ロクロナデ	Ｐ６覆土中	10％
470	須恵器	盤	[19.8]	(2.4)	－	長石・石英・雲母	灰	良好	外・内面ロクロナデ	Ｐ３覆土中	５％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 166	鉄滓	5.7	7.6	4.4	206.3	鉄	全面銹化　酸化土付着のため明褐色を呈す　一部発泡 着磁性なし	Ｐ６埋土	

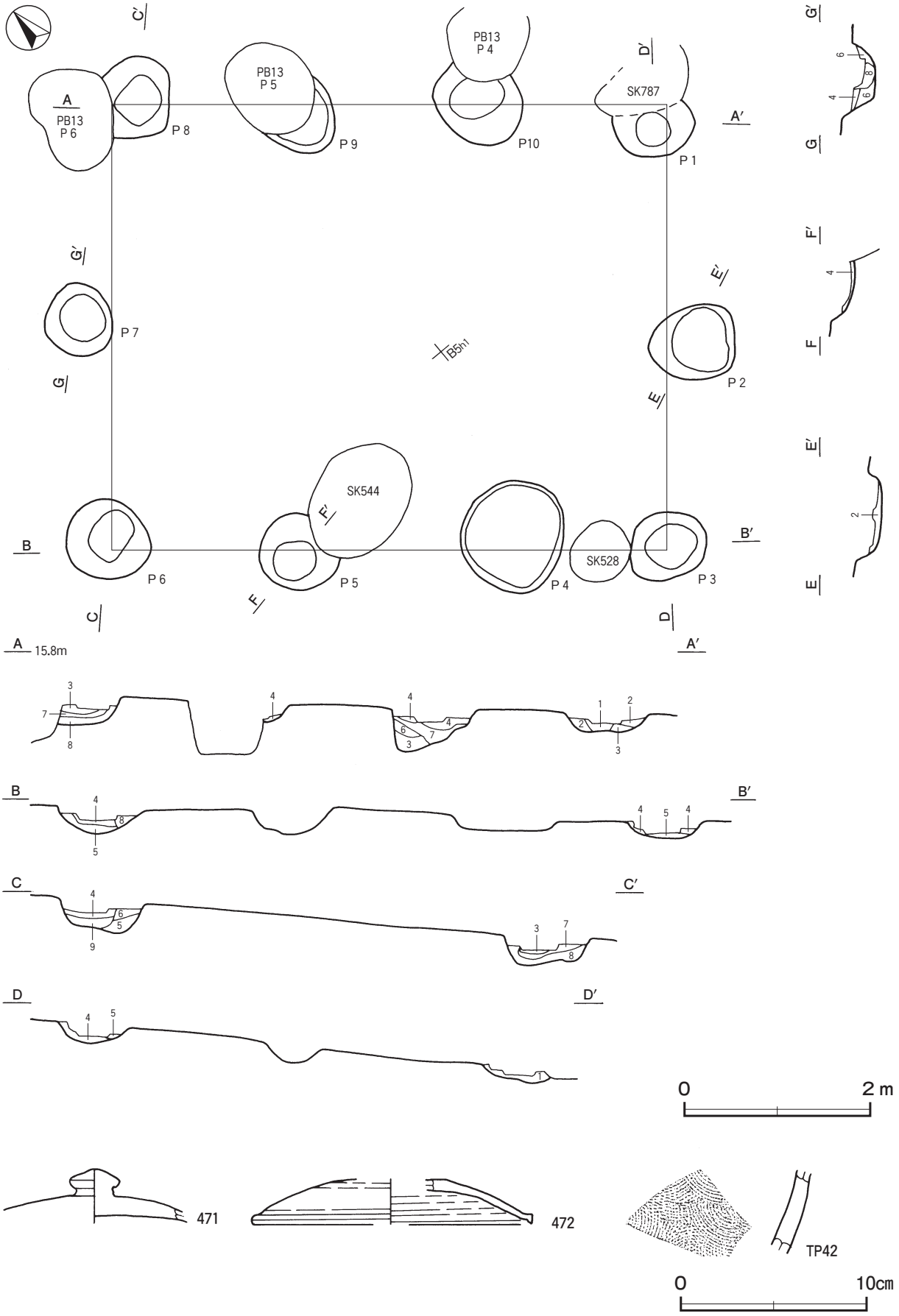
第 12 号掘立柱建物跡（第 69 図）

位置　調査区中央部のＢ５g1 区，標高 15 ｍほどの東へ下る緩斜面部に位置している。

重複関係　第 13 号掘立柱建物，第 544・787 号土坑に掘り込まれている。第 528 号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－ 51°－Ｗの東西棟である。規模は，桁行 6.00 ｍ，梁行 4.80 ｍで，面積は 28.80㎡である。柱間寸法は，桁行が西妻から 2.1 ｍ（７尺）・2.1 ｍ（７尺）・1.8 ｍ（６尺）で，梁行は 2.4 ｍ（８尺）の等間隔であり，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10 か所。長径 70 ～ 123㎝，短径 74 ～ 110㎝の円形または楕円形である。深さは 10 ～ 32㎝で，掘方の断面は浅いＵ字状である。Ｐ２・Ｐ７は柱筋の外側に位置し棟持柱の可能性がある。いずれの層も柱抜き取り後の覆土である。



第 69 図　第 12 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子少量
2　黒　褐　色　粘土粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック少量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック微量
7　黒　褐　色　粘土ブロック中量
8　暗　褐　色　ローム粒子微量
9　極暗褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片14点(坏３, 高台付坏１, 甕類10), 須恵器片５点(坏３, 蓋１, 甕１), 土製品１点(羽口), 鉄滓８点（66.7 g）が, Ｐ１・Ｐ４・Ｐ５・Ｐ８・Ｐ10から出土している。471はＰ２の覆土中から出土している。472はＰ８の覆土中から出土しており，第13号掘立柱建物のＰ６の埋土から出土した破片と接合関係にある。

所見　時期は，出土土器と重複関係から８世紀中葉に比定できる。472が第13号掘立柱建物の埋土から出土している破片と接合関係にあることから，本跡の廃絶と第13号掘立柱建物の構築の時期差はほとんどないものと考えられる。

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
471	須恵器	蓋	－	(2.9)	－	長石・石英	灰白	良好	外・内面ナデ　摩耗顕著	Ｐ２覆土中	25%
472	須恵器	蓋	[14.9]	(2.4)	－	長石・石英	灰	良好	外・内面ナデ	Ｐ８覆土中	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP42	須恵器	甕	長石・石英	灰	外面同心円叩き	Ｐ10埋土	PL47

第13号掘立柱建物跡（第70図）

位置　調査区中央部のＢ５f1区，標高15ｍほどの東へ下る緩斜面部に位置している。

重複関係　第12号掘立柱建物跡，第579・600・602・787号土坑を掘り込み，第14号井戸，第580・786号土坑に掘り込まれている。第540号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－58°－Ｗの東西棟である。規模は，桁行6.30ｍ，梁行3.60ｍで，面積は22.68㎡である。柱間寸法は，北桁行が2.1ｍ（７尺），梁行は1.8ｍ（６尺）の等間隔で，柱筋はほぼ揃っている。

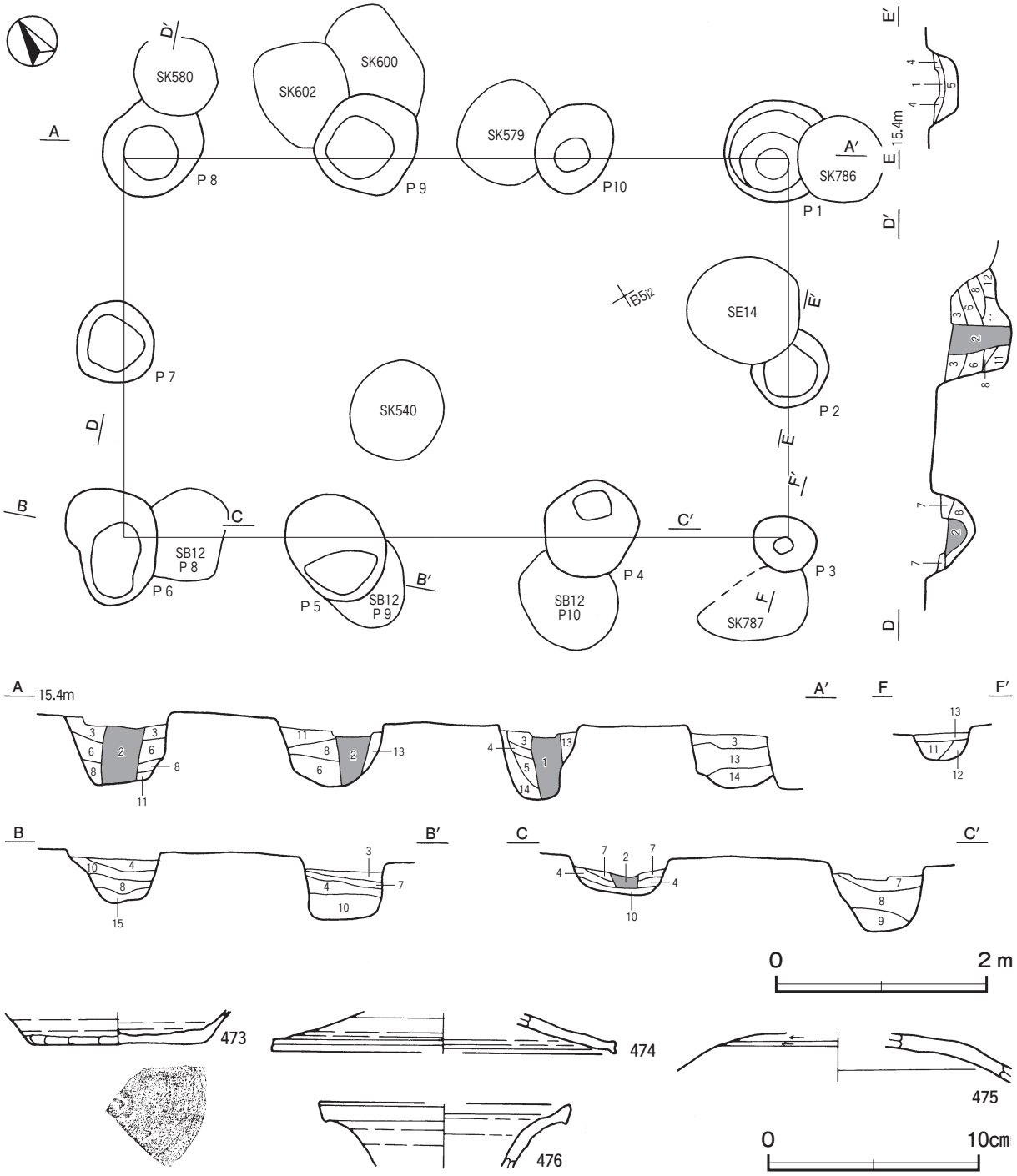
柱穴　10か所。長径60～112㎝，短径54～100㎝の円形または楕円形である。深さは26～72㎝で，掘方の断面は逆台形または浅いＵ字状である。第１・２層は柱痕跡，第３～15層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　黒　　色　ローム粒子微量
6　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
8　黒　褐　色　粘土ブロック中量
9　灰　褐　色　粘土粒子中量
10　灰　褐　色　粘土粒子少量
11　黒　褐　色　粘土ブロック微量
12　黒　　色　粘土粒子微量
13　暗　褐　色　ローム粒子微量
14　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
15　黒　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片37点（坏１，甕類36），須恵器片33点（坏22，高台付坏１，蓋２，長頸瓶１，短頸壺１，甕類４，甑２），土製品１点（支脚），鉄滓22点（282.2 g）が，各柱穴から出土している。473・475はＰ８，474はＰ７，476はＰ９の埋土からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や８世紀後葉に比定できる第７号掘立柱建物跡と軸方向がほぼ揃っていることから，８世紀中葉から後葉にかけて機能していたと考えられる。



第 70 図　第 13 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 13 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 70 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
473	須恵器	坏	－	(1.6)	[8.4]	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向へのヘラ削り	Ｐ８埋土	10%
474	須恵器	蓋	[16.4]	(1.9)	－	長石・石英・赤色粒子	灰	良好	外・内面ロクロナデ	Ｐ７埋土	10%
475	須恵器	蓋	－	(2.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	良好	天井部ヘラ削り	Ｐ８埋土	20%
476	須恵器	長頸瓶	[11.8]	(3.1)	－	長石	外面灰黄褐 内面灰オリーブ	良好	内面自然釉	Ｐ９埋土	10%

表５　奈良時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱穴				主な出土遺物	時期	備考
			桁×梁(間)	桁×梁(m)	(㎡)	桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
3	C 7 d4	N－21°－W	3×2	5.40×4.20	22.68	1.5～2.1	2.1	側柱	10	円形・楕円形	22～60	土師器片，須恵器片，鉄滓	8世紀後葉	SI91・93，SK460→本跡
4	C 7 f5	N－72°－E	2×1	6.30×4.20	26.46	3.0～3.3	4.2	側柱	6	円形・楕円形	18～64	土師器片，鉄滓	8世紀後葉	SI91→本跡
5	C 7 b4	N－18°－W	2×2	4.50×4.50	20.25	1.2～2.4	2.1・2.4	側柱	9	円形・楕円形	30～64	土師器片，須恵器片，鉄製品，鉄滓	8世紀後葉	
6	C 7 g5	N－9°－W	3×2	6.60×4.50	29.70	2.1～2.4	2.1・2.4	側柱	11	円形・隅丸長方形・楕円形	58～80	土師器片，須恵器片，鉄滓	8世紀後葉	本跡→SK784・785
7	B 5 e3	N－53°－W	3×2	6.90×4.80	33.12	2.1～2.4	2.4	側柱	10	隅丸長方形・楕円形	38～88	土師器片，須恵器片，土製品，鉄滓	8世紀中葉	
10	B 5 g5	N－42°－E	3×2	7.50×4.80	36.00	2.5	2.4	側柱	10	円形・楕円形	40～63	土師器片，須恵器片，土製品，鉄滓，鉄塊系遺物	8世紀後葉	SK651→本跡→SB８・９
12	B 5 g1	N－51°－W	3×2	6.00×4.80	28.80	1.8～2.1	2.4	側柱	10	円形・楕円形	10～32	土師器片，須恵器片，土製品，鉄滓	8世紀中葉	本跡→SB13，SK544・787
13	B 5 f1	N－58°－W	3×2	6.30×3.60	22.68	2.1	1.8	側柱	10	円形・楕円形	26～72	土師器片，須恵器片，土製品，鉄滓	8世紀中葉～後葉	SB12，SK579・600・602・787→本跡→SE14，SK580・786

(4)　鍛冶工房跡

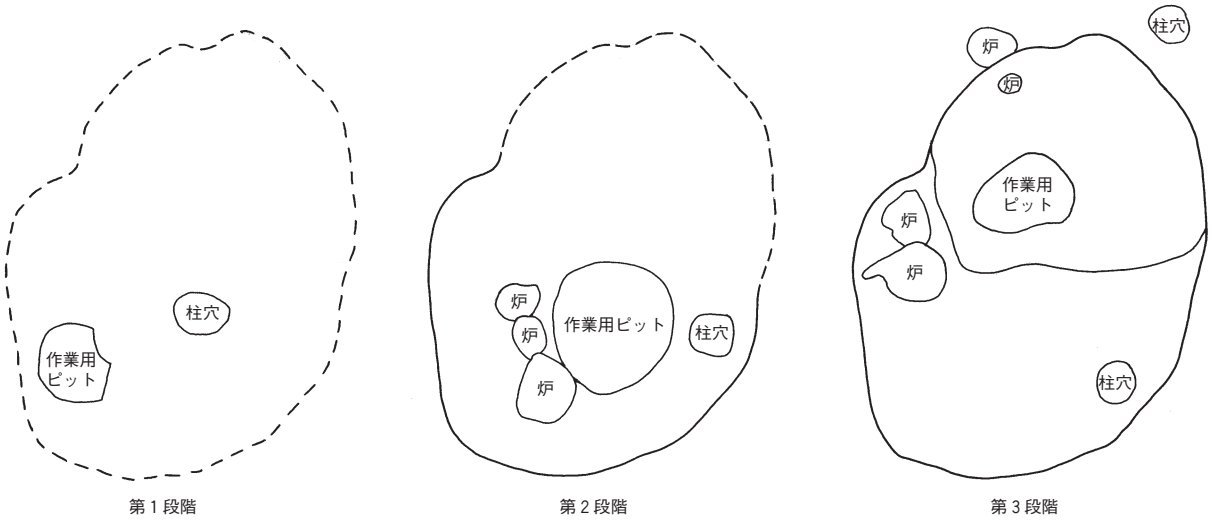
第１号鍛冶工房跡（第71～80図）

位置　調査区東部のD 10g7区，標高14 mほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

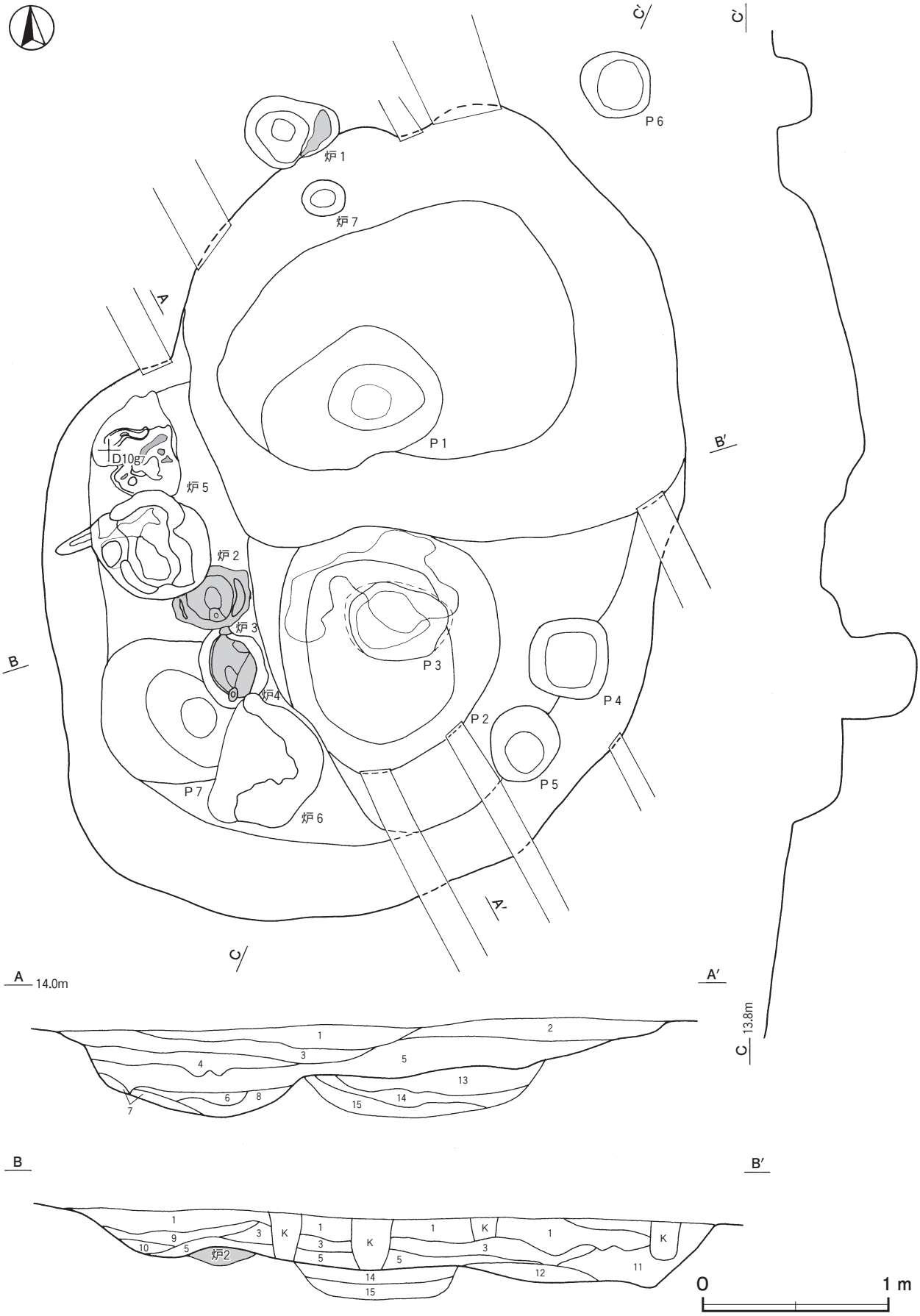
確認状況　東西3.5 m，南北4.5 mの黒褐色土の範囲から鉄滓及び炉跡を確認した。

規模と形状　確認した施設は，炉７基，ピット７か所である。東西軸3.50 m，南北軸4.40 mの不整楕円形で，北壁の外側に位置する炉１及びＰ６を含めた南北軸は4.67 mである。底面は凹凸がある皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。覆土の堆積状況，炉の重複関係及び配置から，３次期の重複遺構を確認した。古い次期を第１段階とし，順次，第２段階，第３段階とした。

覆土　12層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれており，不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。第１～12層は第３段階終了後，第13～15層はＰ２の覆土で第２段階終了後に埋め戻された層である。Ｐ２は第３段階ではほぼ平坦に埋め戻されている。



第71図　第１号鍛冶工房跡使用段階模式図



第72図　第1号鍛冶工房跡実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
2　黒　褐　色　炭化物・鉄滓少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　鉄滓多量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
7　橙　　色　粘土ブロック中量
8　褐　　色　粘土粒子多量，ロームブロック中量，焼土粒子微量
9　暗赤褐色　焼土粒子・鉄滓中量，ローム粒子・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微
11　暗　褐　色　ロームブロック微量
12　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
13　極暗褐色　ローム粒子少量
14　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
15　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

ピット・炉の使用段階

第１段階は，作業用ピットがＰ７で，炉は確認できなかった。

第２段階は，作業用ピットがＰ２で，使用された炉は，炉３・炉４・炉６である。

第３段階は，作業用ピットがＰ１で，使用された炉は，炉１・炉２・炉５・炉７である。

段階ごとの詳細は後述する。

遺物出土状況　土師器片 141 点（坏 12，高坏２，甕類 127），須恵器片 35 点（坏 15，蓋１，鉢１，甕類 18），土製品 266 点（羽口 264，支脚２），炉壁材 66 点，石器 25 点（金床石 22，砥石３），鉄製品５点（鏃１，鑿２，不明２），鉄滓 13748 点（63318.5 ｇ），炉底塊 185 点（7431.6 ｇ），炉内滓 263 点（5707.8 ｇ），椀状滓 20 点（723.3 ｇ），鉄塊系遺物 10 点（487.5 ｇ），鍛造剥片 2047.3 ｇ，粒状滓 388.6 ｇが，遺構全域の覆土上層から床面にかけて出土している。

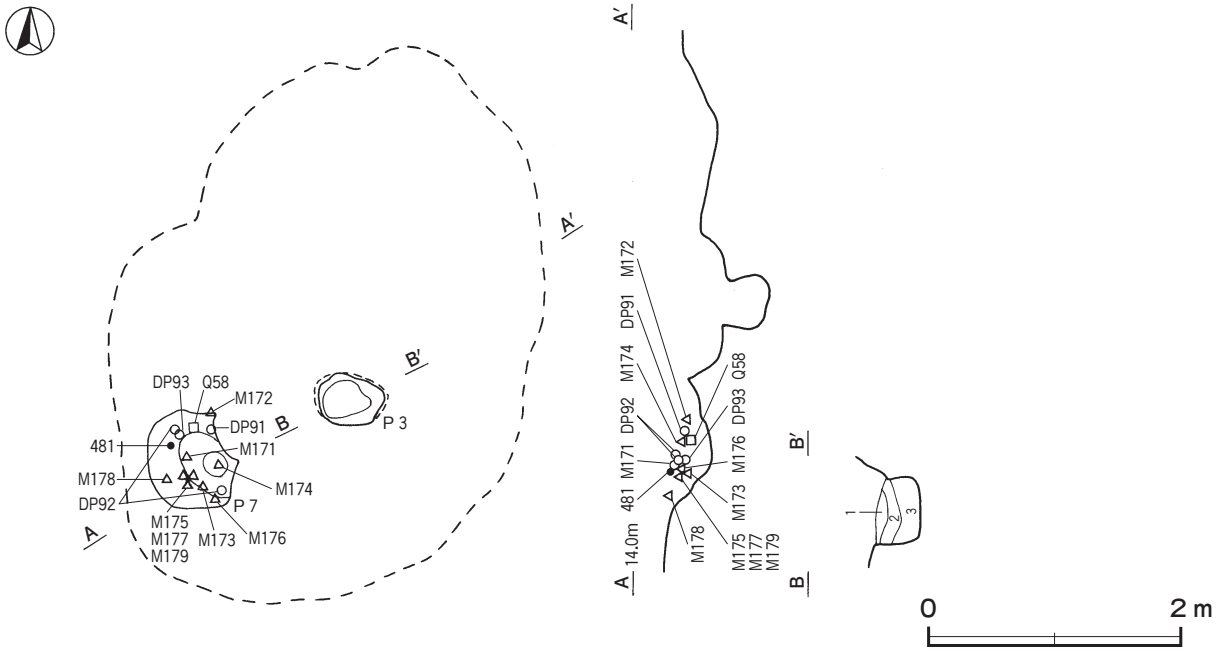
帰属する段階が明確なものは段階ごとに記載し，帰属する段階が明確でない主なものは末尾にまとめて記載する。

第１段階（第 73 ～ 75 図）

位置　調査区東部のＤ 10g7 区，標高 14 ｍほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

確認状況　第２段階の炉４･炉６の下からＰ７，Ｐ２の底面に広がる鉄滓の下からＰ３を，それぞれ確認した。

規模と施設　Ｐ３・Ｐ７のみ確認したため，規模は不明である。炉が付設されていたとみられるが，Ｐ７よ



第 73 図　第１号鍛冶工房跡第１段階実測図

り南側及び西側には炉などが確認できなかったため，後続の第１・２段階の所作により炉は全て破壊されていると考えられる。構成施設は，ピット２か所（作業用ピット１，柱穴１）である。

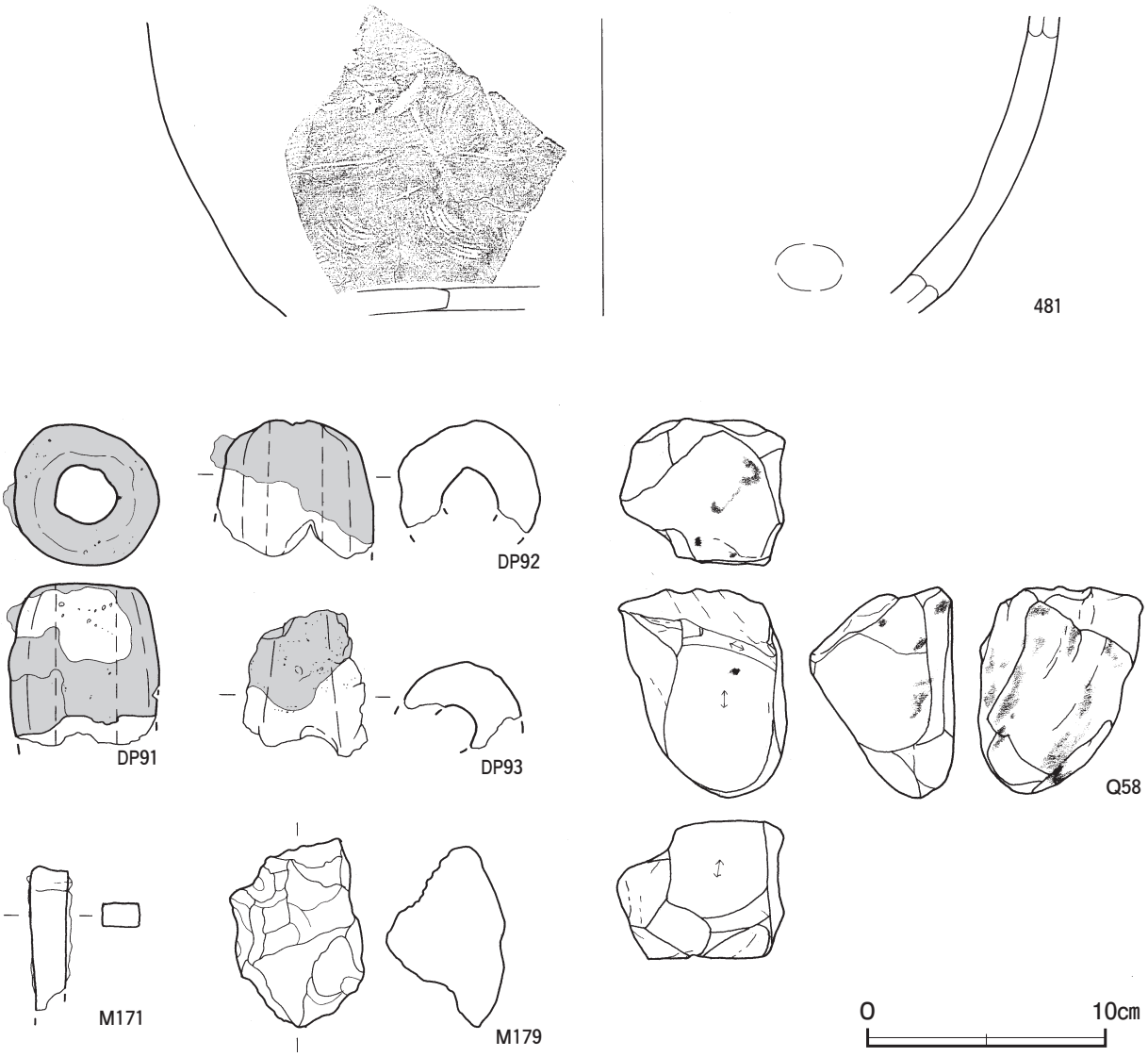
ピット　２か所。Ｐ３は，深さは35cmである。Ｐ７は深さ30cmで炉４・６に掘り込まれている。規模と位置から，Ｐ７は作業用ピットである。Ｐ３は柱穴と考えられるが，対応するピットは確認できなかった。

Ｐ３土層解説

1　にぶい褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　にぶい褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　にぶい褐色　ロームブロック・粘土粒子微量

遺物出土状況　当段階に帰属すると考えられる出土遺物はＰ７内から出土した，須恵器片１点（甕類），土製品３点（羽口），石器２点（砥石），鉄製品１点（鏨），炉底塊２点，炉内滓５点である。481，DP91～DP93，Ｑ58，Ｍ171～Ｍ179は，いずれもＰ７の覆土上層から投棄された状態で出土している。当段階の鍛冶作業により発生したと考えられる鍛造剥片および粒状滓は，鍛造剥片が228.6ｇ，粒状滓が12.8ｇ出土しており，その70％以上がＰ７から出土している。

所見　当段階の時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。当段階は，炉が確認できなかったため，鍛錬作業面の詳細は不明である。また，鍛造剥片や粒状滓がＰ７から集中して出土していることから，当段階

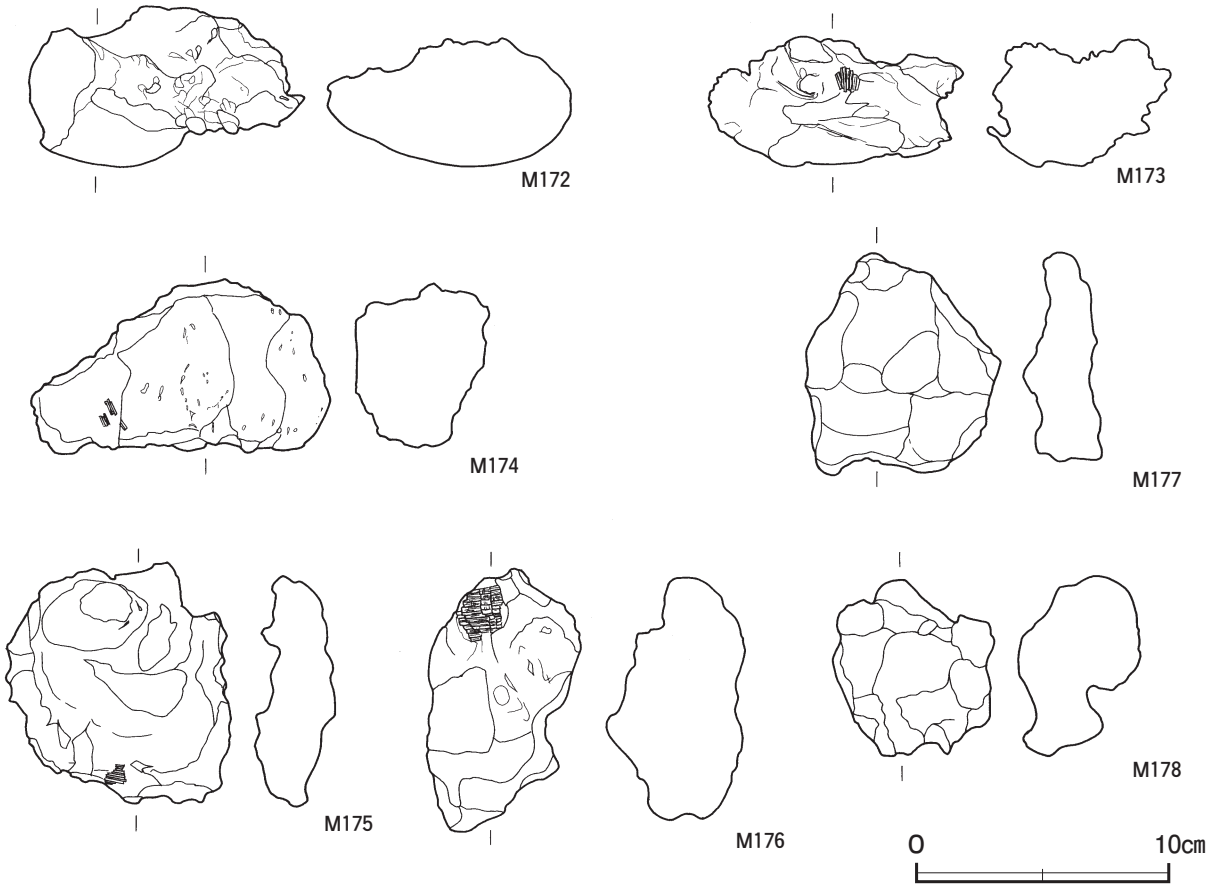


第74図　第１号鍛冶工房跡第１段階出土遺物実測図(1)

の終了後に，鍛造剥片や粒状滓を含む土でＰ７を埋め戻して平坦にした後，第２段階の炉を構築したと考えられる。

第１号鍛冶工房跡第１段階出土鍛造剥片・粒状滓集計表

単位（g）	ピット内覆土		合計
	Ｐ３	Ｐ７	
鍛造剥片	65.8	162.8	228.6
粒状滓	2.6	10.2	12.8



第75図　第１号鍛冶工房跡第１段階出土遺物実測図(2)

第１号鍛冶工房跡第１段階出土遺物観察表（第74・75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
481	須恵器	甕	－	(12.4)	－	長石・石英・雲母	灰	良好	外面同心円文の叩き　内面指頭圧痕 体部下端手持ちヘラ削り	Ｐ７覆土上層	５％ 新治窯産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP91	羽口	(6.7)	6.3	5.8	(198.9)	長石・石英	孔径 2.4cm　外面ほぼ滓化　一部還元炎により青灰色を呈す 一部発泡	Ｐ７覆土上層	PL49
DP92	羽口	(5.8)	(6.8)	(4.7)	(122.3)	長石・石英	推定孔径 2.3cm　外面一部滓化　一部銹化	Ｐ７覆土上層	
DP93	羽口	(6.1)	(5.2)	(3.5)	(66.2)	長石・石英・雲母	推定孔径 2.0cm　外面一部滓化　一部還元炎により青灰色を呈す	Ｐ７覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 58	砥石	8.8	7.0	6.0	394.7	砂岩	砥面２面	Ｐ７覆土上層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 171	鏨	(6.1)	1.5	0.9	(41.4)	鉄	断面長方形　刃部欠損	P７覆土上層	PL55
M 172	炉底塊	9.7	10.9	6.3	540.0	鉄	一部銹化　底部に炉壁が薄く付着　着磁性なし	P７覆土上層	
M 173	炉底塊	7.2	10.1	5.1	370.3	鉄	上面発泡　全面銹化　底部に炉壁が薄く付着　木質付着 着磁性なし	P７覆土上層	
M 174	炉内滓	7.0	11.8	5.3	538.8	鉄	一部銹化　酸化土砂付着のため明褐色を呈する　木質付着 着磁性弱い	P７覆土上層	
M 175	炉内滓	9.6	8.7	3.2	349.3	鉄	一部発泡　一部銹化　酸化土砂付着のため赤褐色を呈する 木質付着　着磁性弱い	P７覆土上層	
M 176	炉内滓	10.4	6.1	5.5	430.6	鉄	一部発泡　一部銹化　酸化土砂付着のためにぶい赤褐色を呈する 木質付着　着磁性弱い	P７覆土上層	
M 177	炉内滓	8.7	7.8	3.0	286.7	鉄	一部銹化　酸化土砂付着のため明赤褐色を呈する　着磁性なし	P７覆土上層	
M 178	炉内滓	7.1	6.4	4.8	215.9	鉄	一部発泡　酸化土砂付着のため赤褐色を呈する　木質付着 着磁性なし	P７覆土上層	
M 179	鉄塊系遺物	8.0	5.7	4.9	307.9	鉄	一部銹化　酸化土砂付着のため赤褐色を呈する　着磁性弱い	P７覆土上層	

第２段階（第 76 図）

位置　調査区東部のＤ 10g7 区，標高 14 ｍほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

規模と施設　後続の第３段階の所作により，北部が破壊されているので詳細な規模は不明であるが，炉とピットの位置関係から，東西軸は 3.0 ｍほど，南北軸は 3.0 ｍ以上であったと推測できる。底面は，南部のＰ２を中心として確認面から深さ 10 ～ 38cmの北へ向かう緩斜面部と，西部確認面から深さ 20 ～ 30cmの炉の付設された部分，北部で構成されている。北部の形状は，第３段階のＰ１を中心とした北部のくぼんだ部分が構築される前の段階であるため詳細は不明であるが，鍛錬作業面であった可能性が高いことから，平坦であった考えられる。構成施設は炉３基，ピット２か所（作業用ピット１，柱穴１）である。

炉　３基。炉３・炉４・炉６はＰ２の西側に南北に連なって配置されている。炉３は炉４の北に付設されており，炉４を掘り込んでいる。長径 42cm，短径 34cmの楕円形で，確認面から炉床面までの深さは８cmである。炉床は，確認面から深さ 16cmほど皿状に掘りくぼめ，砂粒を中心とした第５～９層を埋土して構築されている。炉床面は火熱を受け赤変･硬化している。第１～４層が覆土で，各層に焼土粒子を含んでいる。炉４は炉３・炉６の間に付設されている。炉３・炉６に掘り込まれているため，短径は 35cmで，長径は 45cmしか確認できなかった。楕円形で，確認面から炉床面までの深さは 10cmである。炉床は，確認面から深さ 24cmほどの断面Ｖ字状に掘りくぼめ，砂粒を中心とした第 13 ～ 19 層を埋土して構築されている。炉床面は火熱を受け赤変・硬化している。第 10 ～ 12 層が覆土で，各層に焼土粒子や鍛造剥片を含んでいる。炉６は炉４の南に付設されており，炉４を掘り込んでいる。長軸 73cm，短軸 55cmの不整形で，確認面から炉床面までの深さは５cmである。炉床は確認面から深さ 15cmほど浅い皿状に掘りくぼめ，焼土粒子を含む第 21 ～ 25 層を埋土して構築されている。炉床面は火熱を受け赤変硬化している。覆土は第 20 層のみで，焼土粒子や鍛造剥片を含んでいる。重複関係から，炉４が最も古い段階のものである。炉３・炉６は炉４よりは新しいが，その新旧関係は不明である。

炉３・４・６土層解説（第１～９層が炉３，第 10 ～ 19 層が炉４，第 20 ～ 25 層が炉６に相当）

1　褐　　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
3　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・砂粒微量
4　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土粒子・砂粒・鉄滓微量
6　にぶい赤褐色　砂粒多量，焼土粒子微量
7　暗赤褐色　砂粒中量，焼土粒子少量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
9　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
10　暗赤褐色　鍛造剥片多量，砂粒少量，焼土粒子微量
11　黒　褐　色　炭化粒子・鍛造剥片少量，焼土粒子微量
12　暗赤褐色　焼土粒子中量，鍛造剥片少量
13　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒・細礫微量
14　暗赤褐色　砂粒中量，焼土粒子微量
15　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子少量
16　にぶい赤褐色　砂粒多量，ローム粒子中量
17　にぶい褐色　ローム粒子・砂粒多量
18　にぶい赤褐色　砂粒多量，粘土粒子少量
19　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

20　黒　褐　色　鍛造剥片多量，焼土粒子微量
21　暗　褐　色　鉄滓多量，焼土粒子・砂粒微量
22　極 暗 褐 色　鉄滓・鍛造剥片多量，焼土粒子中量
23　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子微量
24　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
25　暗　褐　色　焼土粒子微量

ピット　２か所。Ｐ２･Ｐ４とも深さ26cmである。Ｐ２は，規模と位置から作業用ピットである。底面では，鉄滓の広がりを確認した。Ｐ４は柱穴と考えられるが，対応するピットは確認できなかった。

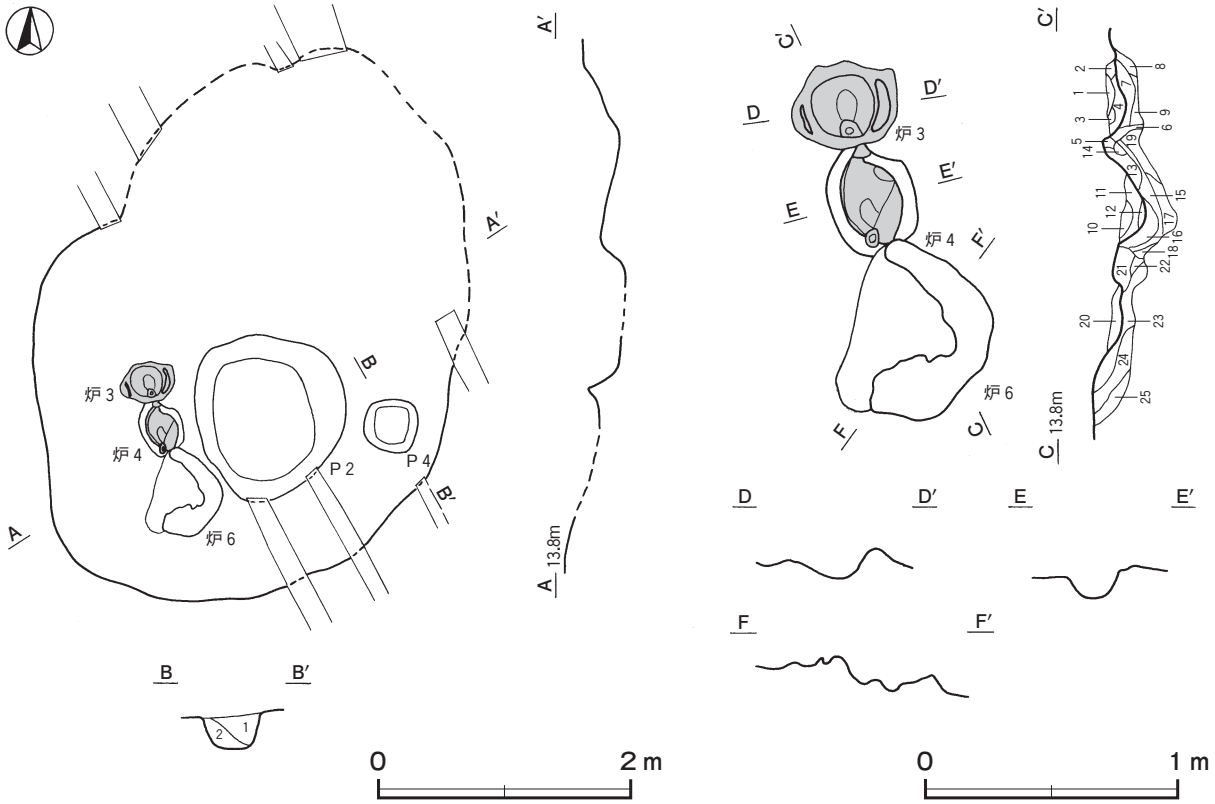
Ｐ４土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　当段階に帰属すると考えられる出土遺物はＰ２の覆土中から出土した，土製品５点（羽口），炉壁材２点，石器３点（金床石）である。いずれも細片のため図示できない。当段階の鍛冶作業により発生したと考えられる鍛造剥片および粒状滓は，鍛造剥片が1646.0 g，粒状滓が272.3 g出土しており，その80％以上がＰ２から出土している。

所見　当段階の時期は，出土土器からは断定できないが，炉の重複関係から第３段階より前の８世紀中葉から後葉に比定できる。当段階では，炉と作業用ピットの位置関係から，Ｐ２の北側が鍛錬作業面であった可能性が高い。また，鍛造剥片や粒状滓がＰ２から集中して出土していることから，当段階の終了後に，鍛造剥片や粒状滓を含む土でＰ２を埋め戻して平坦にした後，第３段階の鍛錬作業面としたと考えられる。

第１号鍛冶工房跡第２段階出土鍛造剥片・粒状滓集計表

単位（g）	ピット内覆土		炉覆土			合計
	Ｐ２	Ｐ４	炉３	炉４	炉６	
鍛造剥片	1342.2	67.0	124.0	33.5	79.3	1646.0
粒状滓	232.9	2.3	17.0	3.0	17.1	272.3



第76図　第１号鍛冶工房跡第２段階実測図

第３段階（第 77・78 図）

位置　調査区東部のＤ 10g7 区，標高 14 ｍほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

規模と施設　南北軸 4.67 ｍ，東西軸 3.50 ｍの不整形である。床面は，北部のＰ１を中心とした南北軸 2.38 ｍ，東西軸 2.72 ｍの範囲で，確認面から 47㎝ほどくぼんでいる部分と，南部の確認面から深さ 10 ～ 38㎝の北へ向かう緩斜面部，西部の確認面から深さ 10㎝の炉の付設された部分で構成されている。構成施設は，炉４基，ピット３か所（作業用ピット１，柱穴２）である。

炉　４基。炉１と炉７は北部，炉２と炉５は西部に位置し，Ｐ１を挟んでＬ字状に配置されている。炉１は北部の壁外に付設されている。長径 52㎝，短径 40㎝の不整円形で，確認面から炉床面までの深さは６㎝の地床炉である。炉床面の赤変・硬化はともに弱い。５層に分層でき，多くの層に焼土のブロックや粒子が含まれている。炉７は北部の壁際，炉１の南に付設されている。長径 24㎝，短径 20㎝の楕円形で，確認面から炉床面までの深さは６㎝の地床炉である。炉床面の赤変・硬化はともに確認できなかった。覆土は第６層のみで，焼土粒子や粘土粒子を含んでいる。炉１と炉７の新旧関係は不明である。炉２は西部に付設されており，炉５を掘り込んでいる。径 60㎝ほどの円形で，確認面から炉床面までの深さは９㎝である。西部には羽口を据えた痕跡と考えられる，幅９㎝，長さ 20㎝の掘り込みがある。炉床は，確認面から深さ 17㎝ほどの浅い皿状に掘りくぼめ，砂粒を中心とした第９～ 17 層を埋土して構築されている。炉床面は火熱を受け赤変・硬化している。第１～８層が覆土で，多くの層に砂粒が含まれている。埋土内からは，火熱を受けて大変脆くなった羽口が出土している。炉５は炉２の北に付設されている。炉２に掘り込まれているため，短軸は 45㎝で，長軸は 50㎝しか確認できなかった。不整形で，確認面から炉床面までの深さは６㎝である。炉床は，確認面から深さ 15㎝ほど浅い皿状に掘りくぼめ，砂粒を中心とした第 21 ～ 27 層を埋土して構築されている。炉床面は火熱を受けて赤変・硬化している。第 18 ～ 20 層が覆土で，各層に焼土粒子を含んでいる。重複関係から，最終使用時の炉は炉２で，炉５は炉２を構築する前に使用されていたものである。炉１・炉７は，赤変・硬化がともに認められないことから，簡易的もしくは一時的に使用されていたと考えられ，Ｐ１との位置関係から当段階に属するものとした。

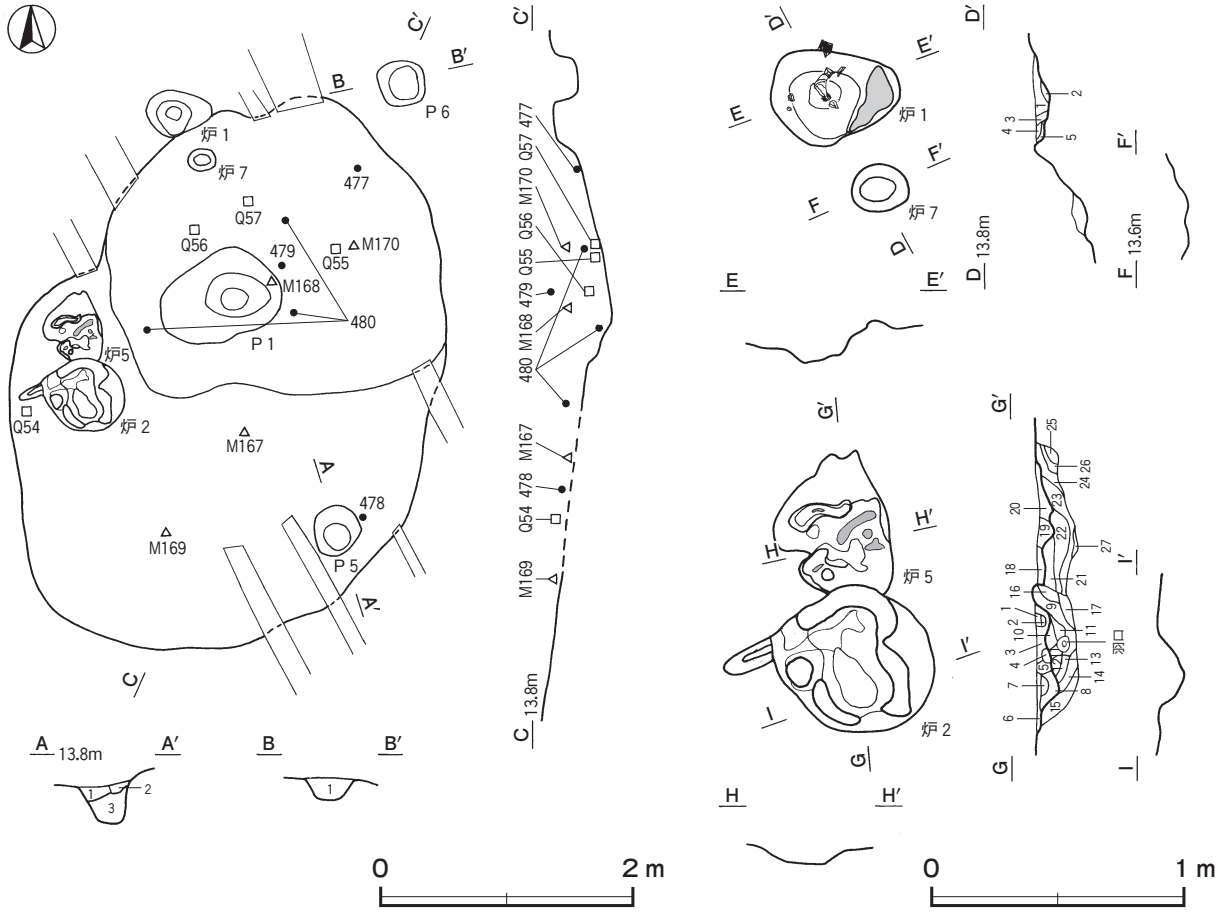
炉１・７土層解説（第１～５層が炉１，第６層が炉７に相当）

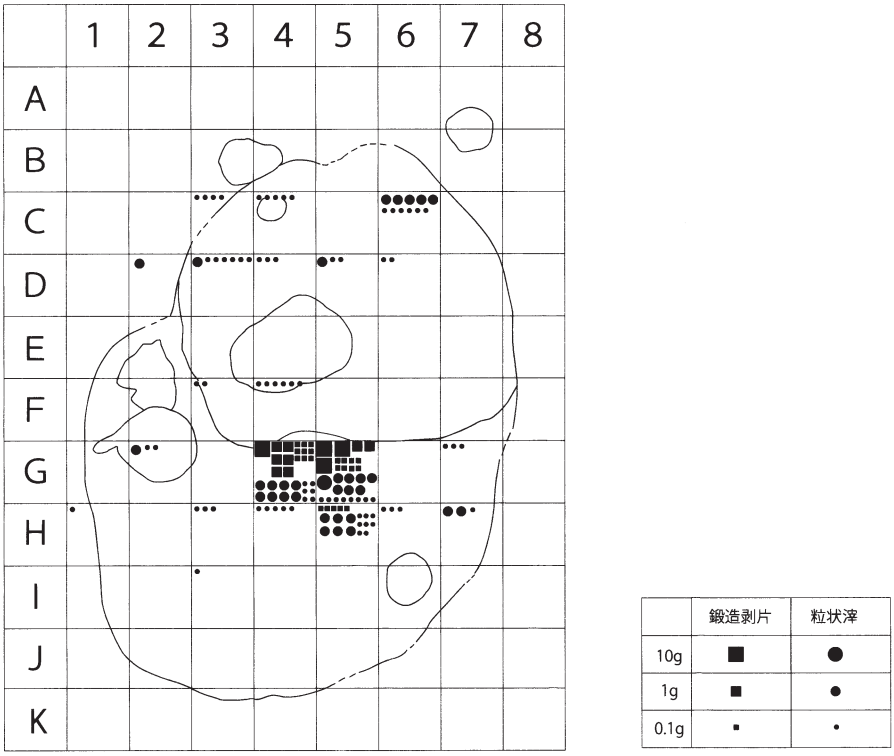
1　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
5　極 暗 褐 色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，粘土粒子少量

炉２・５土層解説（第１～ 17 層が炉２，第 18 ～ 27 層が炉５に相当）

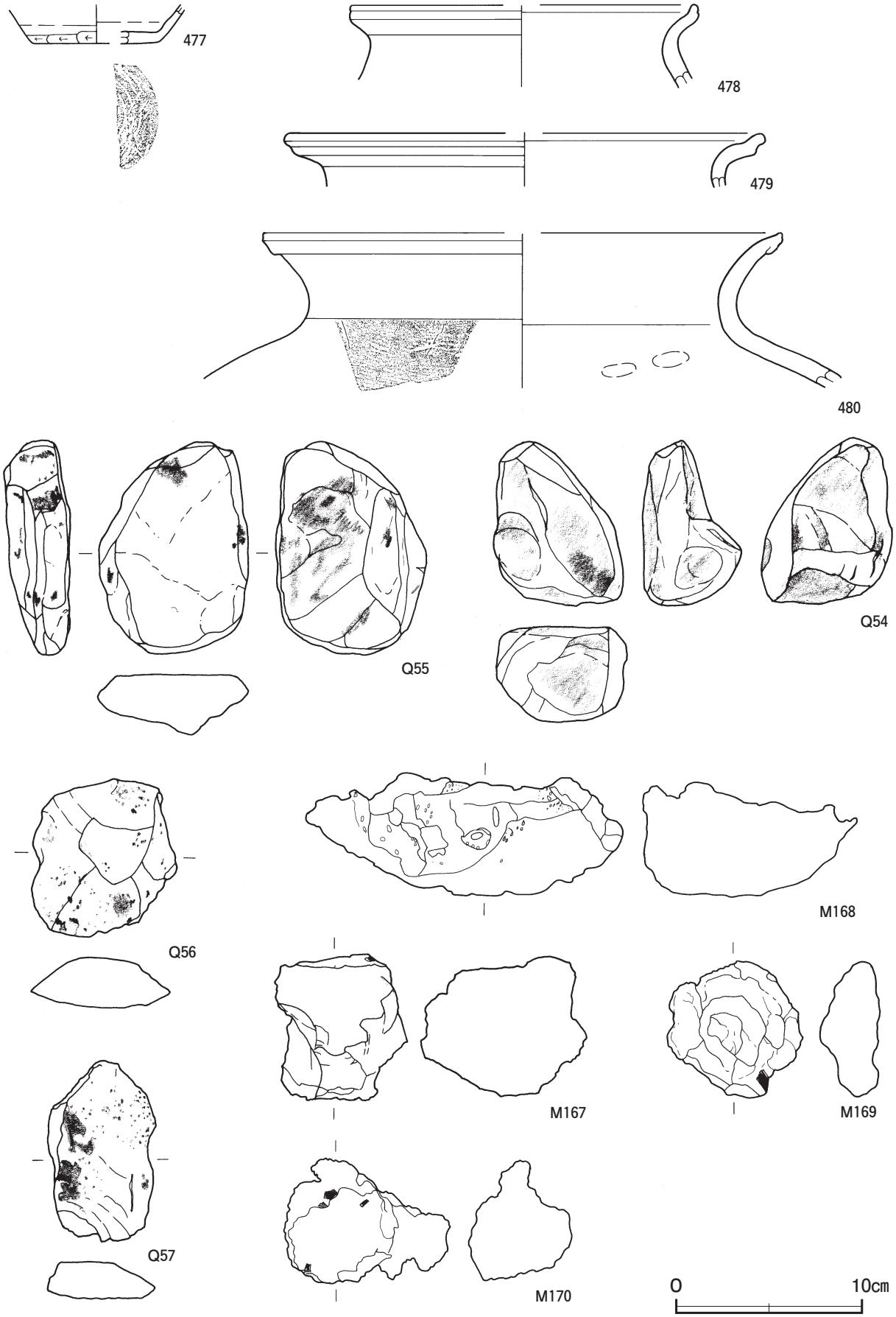
1　橙　　色　ローム粒子微量
2　灰　褐　色　砂粒中量，ローム粒子微量
3　灰　褐　色　砂粒微量
4　にぶい褐色　砂粒中量
5　褐　灰　色　砂粒多量
6　にぶい赤褐色　赤色鉄分中量，砂粒微量
7　暗 赤 褐 色　赤色鉄分中量，砂粒微量
8　褐　灰　色　砂粒中量
9　赤　褐　色　焼土粒子・砂粒中量（赤味弱い）
10　暗　褐　色　砂粒中量
11　黒　褐　色　焼土粒子・砂粒中量（明るい）
12　黒　褐　色　焼土粒子・砂粒中量（暗い）
13　にぶい褐色　砂粒多量（明るい）
14　にぶい褐色　砂粒多量（暗い）
15　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子微量
16　赤　褐　色　焼土粒子・砂粒中量（赤味強い）
17　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，砂粒中量
18　赤　褐　色　焼土粒子中量，砂粒・粘土粒子微量
19　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
20　黒　褐　色　焼土粒子・砂粒微量
21　黄　橙　色　砂粒多量（暗い）
22　黄　橙　色　砂粒多量（明るい）
23　にぶい橙色　砂粒多量
24　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
25　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，砂粒少量
26　暗　褐　色　ローム粒子多量
27　明 褐 灰 色　砂粒多量

ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ５・Ｐ６は，深さ 14㎝・30㎝・18㎝である。規模と位置から，Ｐ１は作業用ピットである。Ｐ５・Ｐ６は柱間が 3.6 ｍ（２間）であることから柱穴と判断した。対応するピットがないため，上屋構造は確認できない。





第77図　第1号鍛冶工房跡第3段階実測図，鍛造剥片・粒状滓分布状況図



第 78 図　第１号鍛冶工房跡第３段階出土遺物実測図

土層解説（Ｐ５・Ｐ６共通）
１　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
２　黒　褐　色　ローム粒子微量
３　極 暗 褐 色　ローム粒子微量

遺物出土状況　当段階に帰属すると考えられる出土遺物は，Ｐ１を中心とした北部のくぼんでいる部分や覆土中から出土した，土師器片２点（甕類），須恵器片２点（坏，甕類），石器４点（金床石），炉底塊２点，炉内滓２点である。477・Ｑ 55・Ｑ 57 は北部のくぼんでいる部分，478 はＰ５付近，Ｍ 167 は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。480 は北部のくぼんでいる部分の覆土中層から下層にかけて出土したものが接合したものである。Ｑ 56・Ｍ 168・Ｍ 170 は北部のくぼんでいる部分，Ｑ 54 は炉２付近，Ｍ 169 は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。479 は北部のくぼんでいる部分の覆土上層から出土している。当段階の鍛冶作業により発生したと考えられる鍛造剥片および粒状滓は，鍛造剥片が 119.9 ｇ，粒状滓が 89.0 ｇ出土している。床面から出土した，鍛造剥片 50.2 ｇ，粒状滓 49.7 ｇは，鍛造剥片･粒状滓分布状況図のＧ４・Ｇ５グリッドを中心に出土している。

所見　当段階の時期は，出土土器から，８世紀後葉を中心に鍛冶作業を行い，９世紀前葉には埋め戻されたと考えられる。床面から出土した鍛造剥片および粒状滓の分布状況から，Ｐ１を作業用ピットとし，炉２・炉５で熱した鉄を南部の鍛錬作業面で鍛えていたと考えられる。

第１号鍛冶工房跡第３段階出土鍛造剥片・粒状滓集計表

単位（ｇ）	床面	ピット内覆土			炉覆土				合計
		Ｐ１	Ｐ５	Ｐ６	炉１	炉２	炉５	炉７	
鍛造剥片	50.2	35.2	0.0	0.0	20.7	12.0	1.8	0.0	119.9
粒状滓	49.7	28.3	0.0	0.0	7.3	2.7	1.0	0.0	89.0

第１号鍛冶工房跡第３段階出土遺物観察表（第 78 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
477	須恵器	坏	－	(2.1)	[6.6]	長石・石英	灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ削り	覆土下層	20％
479	土師器	甕	[25.5]	(2.9)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土上層	５％
478	土師器	甕	[18.6]	(4.4)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土下層	５％
480	須恵器	甕	[28.0]	(8.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	良好	口縁部外・内面ナデ　体部外面横位の平行叩き内面指頭圧痕	覆土中層～下層	５％

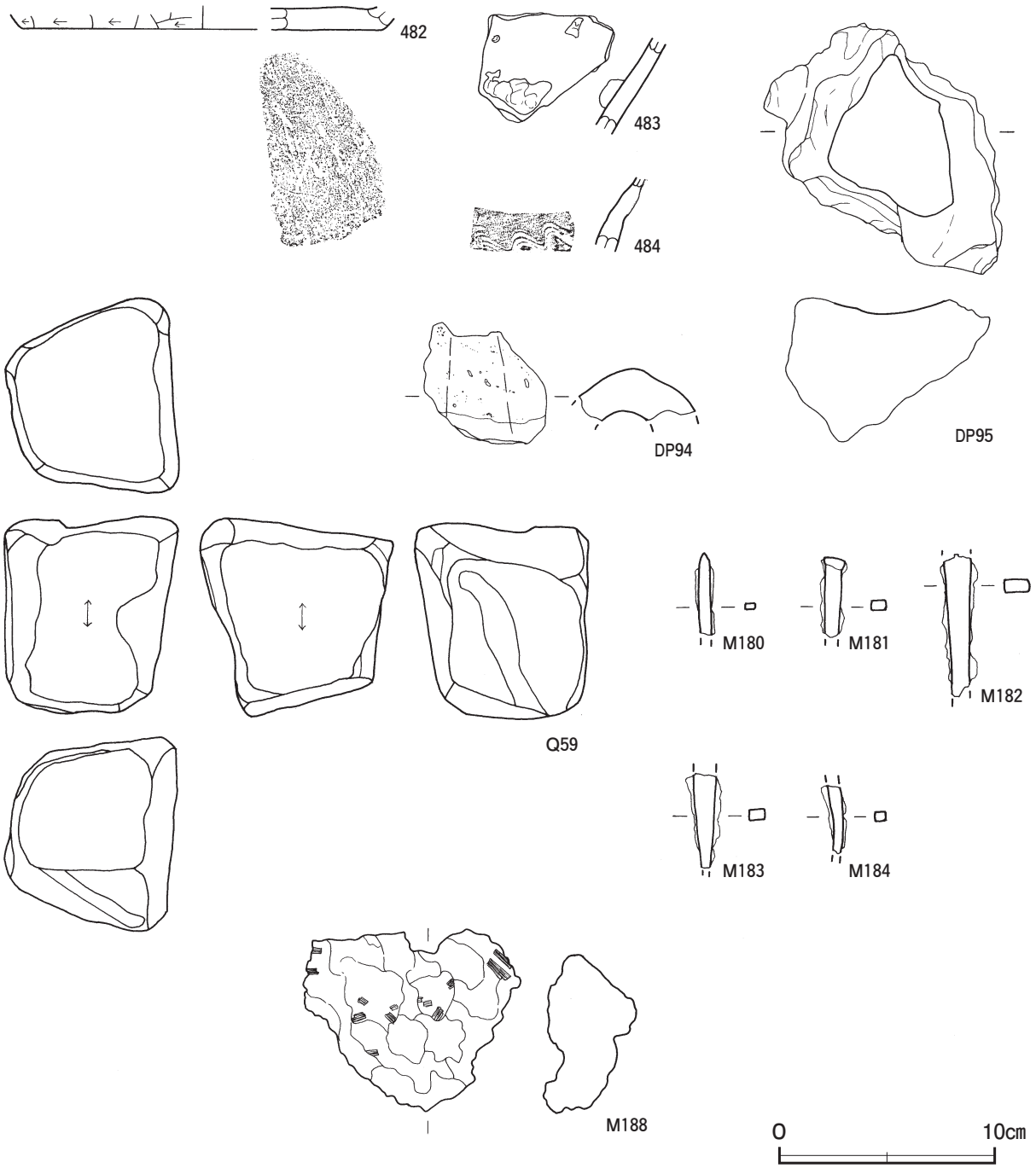
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Ｑ 54	金床石	8.8	7.0	5.2	316.9	砂岩	火熱を受け一部赤褐色を呈す	覆土中層	
Ｑ 55	金床石	11.5	8.0	3.6	319.7	安山岩	火熱を受け一部赤褐色を呈す	覆土下層	
Ｑ 56	金床石	8.6	7.7	2.8	190.0	安山岩	一部鉄滓付着　一部火熱を受け赤褐色を呈す	覆土中層	
Ｑ 57	金床石	9.8	5.9	2.0	128.8	安山岩	一部鉄滓付着	覆土下層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Ｍ 168	炉底塊	11.6	17.1	6.6	1305.1	鉄	上面発泡　一部錆化　底部に炉壁が薄く付着　着磁性なし	覆土中層	PL56
Ｍ 167	炉底塊	8.9	7.2	7.9	585.1	鉄	一部発泡　全面錆化　底部に炉壁が薄く付着　着磁性なし	覆土下層	
Ｍ 169	炉内滓	7.3	7.3	3.1	150.9	鉄	一部発泡　全面錆化　酸化土砂付着のため暗赤褐色を呈する　木質付着　着磁性なし	覆土中層	
Ｍ 170	炉内滓	6.6	9.0	5.5	222.8	鉄	全面錆化　酸化土砂付着のため橙色を呈する　木質付着　着磁性なし	覆土中層	

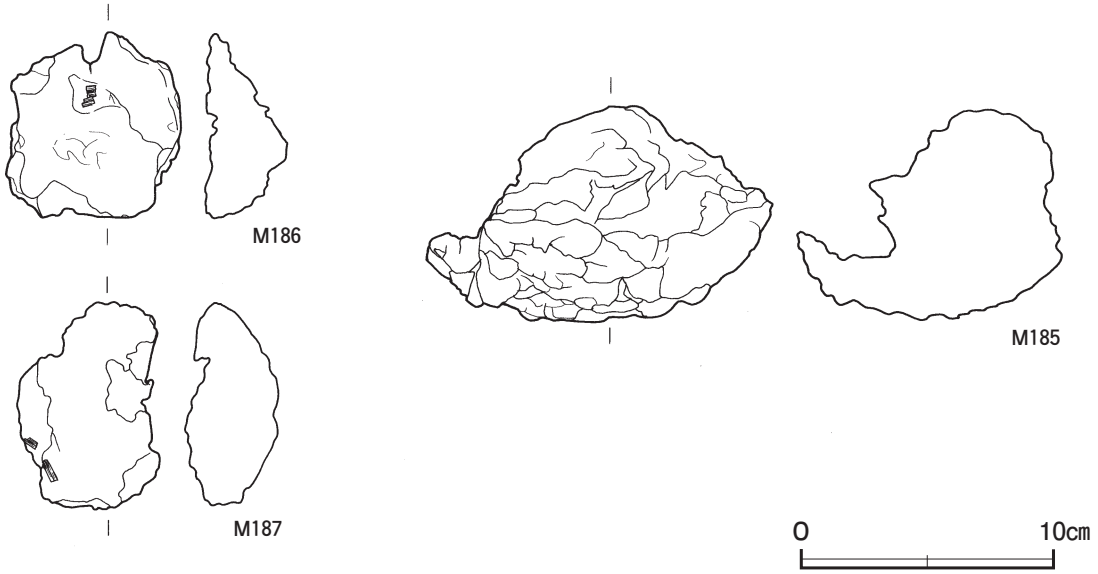
その他の遺物出土状況　第１段階から第３段階に帰属する遺物のほか，土師器片 139 点（坏 12，高坏２，甕類 125），須恵器片 32 点（坏 14，蓋１，鉢１，甕類 16），土製品 258 点（支脚２，羽口 256），炉壁材 64 点，石器 16 点（砥石１，金床石 15），鉄製品５点（鏃１，鑿２，不明２），鉄滓 13748 点（63318.5 ｇ），椀状滓 20

点（723.3 g），炉底塊 181 点（4631.1 g），炉内滓 256 点（3512.8 g），鉄塊系遺物 9 点（179.6 g），粒状滓 14.5 g，鍛造剥片 52.8 g が遺構全体から出土している。482 ～ 484，DP94・DP95，Q 59，M 180 ～M 188 はそれぞれ覆土中から出土している。

総合所見　本跡は，鍛造剥片や粒状滓が出土していることから，８世紀中葉から後葉を中心に，炉を作り替えながら操業していた小鍛冶の工房であると考えられ，９世紀前葉には埋め戻されたとみられる。



第 79 図　第１号鍛冶工房跡その他の出土遺物実測図(1)



第 80 図　第１号鍛冶工房跡その他の出土遺物実測図(2)

第１号鍛冶工房跡その他の出土遺物観察表（第 79・80 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
482	須恵器	鉢	－	(1.1)	[16.7]	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部雑な一方向のヘラ削り	覆土中	5％
483	土師器	甕	－	(4.5)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	内面鉄滓付着	覆土中	5％
484	須恵器	甕	－	(3.3)	－	長石・石英・雲母	灰白	良好	外面櫛歯状工具（４条１単位）による波状文	覆土中	5％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP94	羽口	(5.6)	(5.7)	(2.4)	(60.4)	長石・石英	推定孔径 2.8cm　外面一部滓化　一部銹化　一部発泡	覆土中	
DP95	炉壁材	11.9	11.0	6.8	560.2	長石・石英・雲母	火熱を受け全面著しく硬化	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 59	砥石	9.0	8.0	9.0	926.4	安山岩	砥面２面　砥面１面は火熱を受け赤褐色を呈す　金床石の転用ヵ	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 180	鏃	(3.8)	(0.5)	(0.3)	(4.1)	鉄	断面長方形　茎部欠損	覆土中	
M 181	鏨	(3.8)	0.9	0.5	(7.6)	鉄	断面長方形　刃部欠損	覆土中	PL55
M 182	鏨	(6.7)	(1.3)	(0.6)	(12.1)	鉄	断面長方形　両端欠損	覆土中	PL55
M 183	不明鉄製品	(4.4)	(1.1)	(0.5)	(15.9)	鉄	断面長方形　両端欠損	覆土中	
M 184	不明鉄製品	(3.2)	(0.8)	(0.4)	(4.6)	鉄	断面長方形　両端欠損	覆土中	
M 185	炉底塊	10.4	13.7	8.6	929.8	鉄	全面銹化　底部に炉壁が付着　着磁性弱い	覆土中	PL56
M 186	炉内滓	7.4	7.0	3.3	197.0	鉄	一部発泡　全面銹化　酸化土砂付着のため暗赤褐色を呈する 木質付着　着磁性なし	覆土中	
M 187	炉内滓	8.2	5.6	3.8	149.5	鉄	一部発泡　一部銹化　酸化土砂付着のため橙色を呈する 木質付着　着磁性弱い	覆土中	
M 188	炉内滓	8.5	10.1	4.2	233.1	鉄	一部銹化　酸化土砂付着のため暗赤褐色を呈する　木質付着 着磁性弱い	覆土中	

第２号鍛冶工房跡（第 81 ～ 85 図）

位置　調査区中央部のＢ４f5 区，標高 16 mほどの東へ下る緩斜面部に位置している。

重複関係　第 562・581・582 号土坑，第 46・60 号溝，第 20 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状　東西軸 5.38 m，南北軸 4.98 mの不整形で，東部が幅 1.04 m，長さ 1.44 mほど張り出している。深さは 14cmほどで，底面はほぼ平坦であり，全面が踏み固められている。壁は外傾して立ち上がっている。

炉　中央部に付設されている。北西部が第 582 号土坑に掘り込まれているため，長径 77cmの楕円形で，短径は 60cmしか確認できなかった。炉は土層断面から３次期の使用段階が確認できた。最も古い段階は，底面から 26cmほど皿状に掘りくぼめ第５・６層を埋土して炉床としている。第５層上面が炉床面であり，還元のため第５層は褐灰色を呈している。続く段階では，前段階の炉床面の上に第２～４層を埋土して炉床としている。第３層上面が炉床面であり，還元のため第３層は灰色を呈している。最も新しい段階では，前段階の炉床面の上に第１層を埋土して炉床としている。第１層の最上面が炉床面である。多くの層に砂粒が含まれていることから，埋土には砂粒が中心として使用されていたと考えられる。

炉土層解説

1　浅　黄　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
2　明 黄 褐 色　砂粒・粘土粒子中量，焼土粒子少量
3　灰　　色　砂粒中量
4　暗 赤 褐 色　砂粒・焼土粒子中量，炭化粒子微量
5　褐　灰　色　焼土粒子・砂粒・粘土粒子中量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１は炉の東に位置し，深さ 28cmである。底面の第６・７層には，鉄滓が水平に硬く締まって堆積している。Ｐ２は炉の北西に位置している。第 582 号土坑，第 60 号溝に掘り込まれている。深さ 60cmである。Ｐ３は炉の南東に位置している。第 46 号溝，第 20 号ピット群に掘り込まれている。深さ 15cmである。底面で不定形の粘土塊を確認した。Ｐ１は覆土下層に鉄滓が水平に堆積した層があることと位置から，鉄滓の廃棄坑であったと考えられる。Ｐ２は規模と配置から，作業用ピットと考えられる。Ｐ３の性格は不明である。

Ｐ１土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗 赤 褐 色　鉄滓中量，焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗 赤 褐 色　鉄滓多量，焼土粒子中量
7　暗 赤 褐 色　鉄滓多量，焼土粒子少量

Ｐ２土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　極 暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量

Ｐ３土層解説

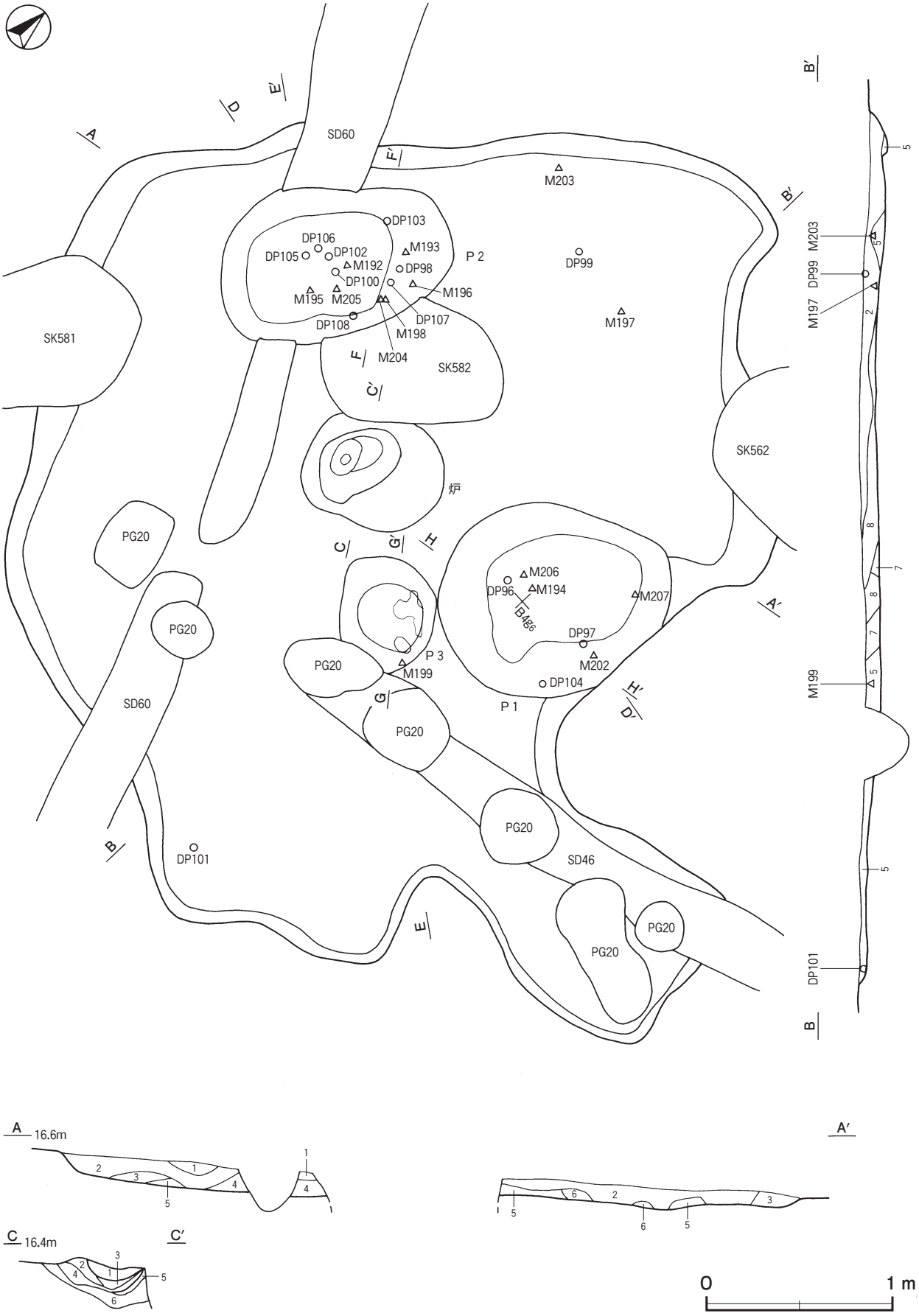
1　褐　　色　炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　粘土粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　８層に分層できる。ブロック状の不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

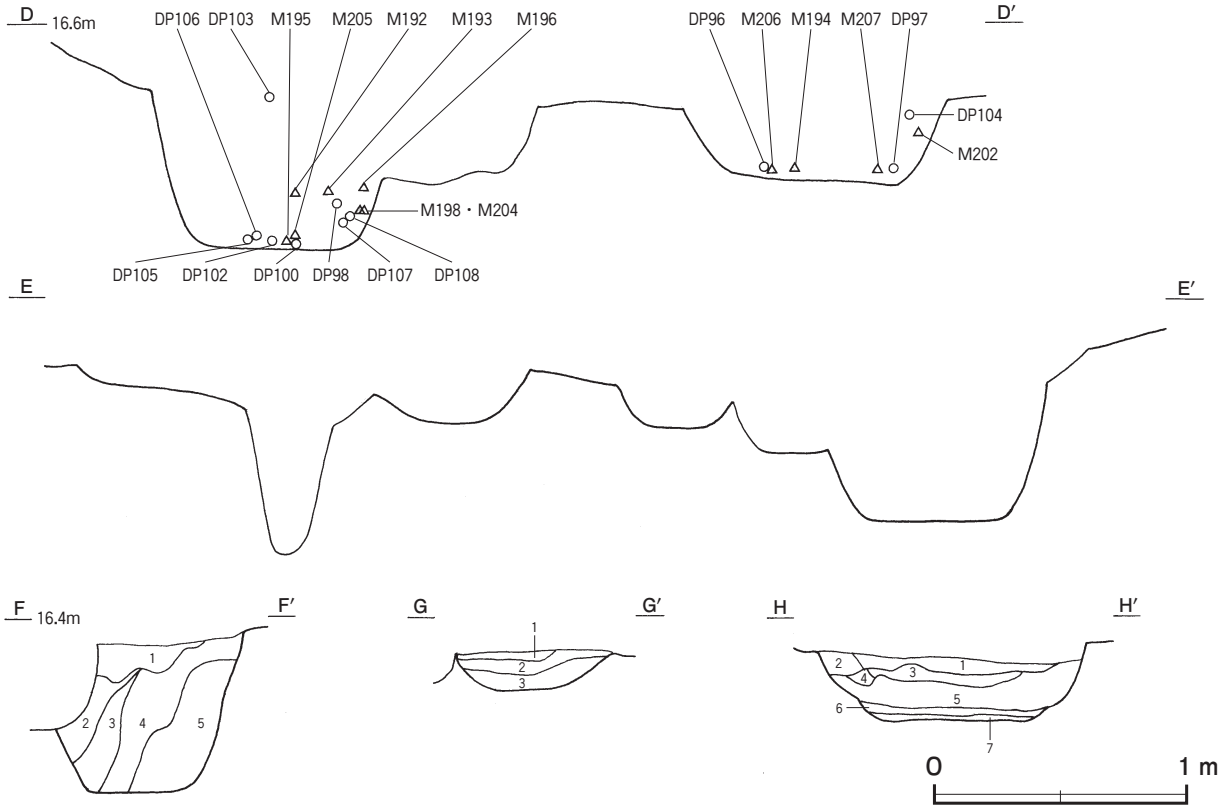
土層解説

1　灰　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量（鉄滓含む）

遺物出土状況　土師器片 31 点（坏２，甕類 29），須恵器片６点（坏１，甕類５），土製品 112 点（羽口），炉壁材４点，石器３点（金床石），鉄製品２点（鉄槌，不明），鉄滓 3156 点（13066.2 ｇ），椀状滓 12 点（703.5 ｇ），炉底塊 45 点（5013.7 ｇ），炉内滓 16 点（199.5 ｇ），鍛造剥片 3911.6 ｇ，粒状滓 167.2 ｇが，Ｐ１・Ｐ２を中心として遺構全体から出土している。DP96・DP97・M 194・M 206・M 207 はＰ１，DP98・DP100・DP102・DP105 ～ DP108・M 195・M 198・M 204・M 205 はＰ２の覆土下層からそれぞれ出土している。M 192・M 193・M 196 はＰ２，M 199 はＰ３の覆土中層からそれぞれ出土している。DP104・M 202 はＰ１，DP103 はＰ２の覆土上層からそれぞれ出土している。M 201 はＰ１，M 189 はＰ３，M 191・M 200 は炉の覆土中からそれぞれ出土している。DP101 は覆土下層から，M 197・M 203 は覆土中層から，DP99 は覆土上層か



第 81 図　第２号鍛冶工房跡実測図(1)



第 82 図　第２号鍛冶工房跡実測図(2)

ら，DP109・M 190 は覆土中からそれぞれ出土している。Ｐ１・Ｐ２の下層から出土した遺物はいずれも破片で出土していることから，遺構廃絶時に投棄されたものと考えられる。鍛造剥片及び粒状滓はＰ１からの出土が際立っていることから，Ｐ１が廃棄坑として継続的に利用された後，廃絶時に鍛造剥片や粒状滓を含む土で埋め戻された可能性が高い。

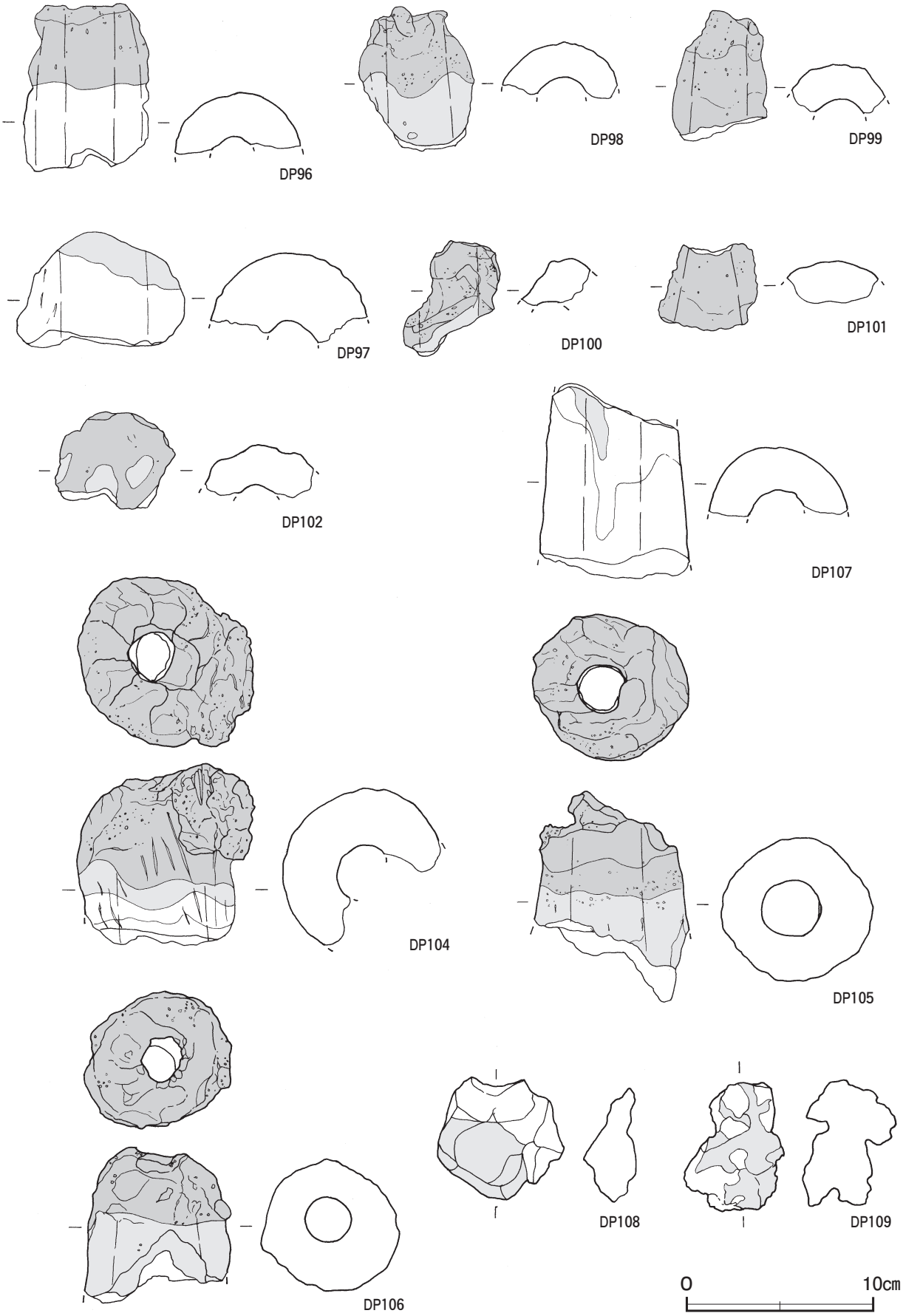
所見　鉄槌や鍛造剥片，粒状滓が出土していることから，小鍛冶の工房と考えられる。時期を特定できる土器が出土していないため明確な時期は不明であるが，隣接する第３号鍛冶工房跡と規模や炉の形状が似ていることから８世紀中葉と推定できる。また，上屋構造をもつと考えられるが，柱穴ととらえられるピットは確認できなかった。

第２号鍛冶工房跡出土鍛造剥片・粒状滓集計表

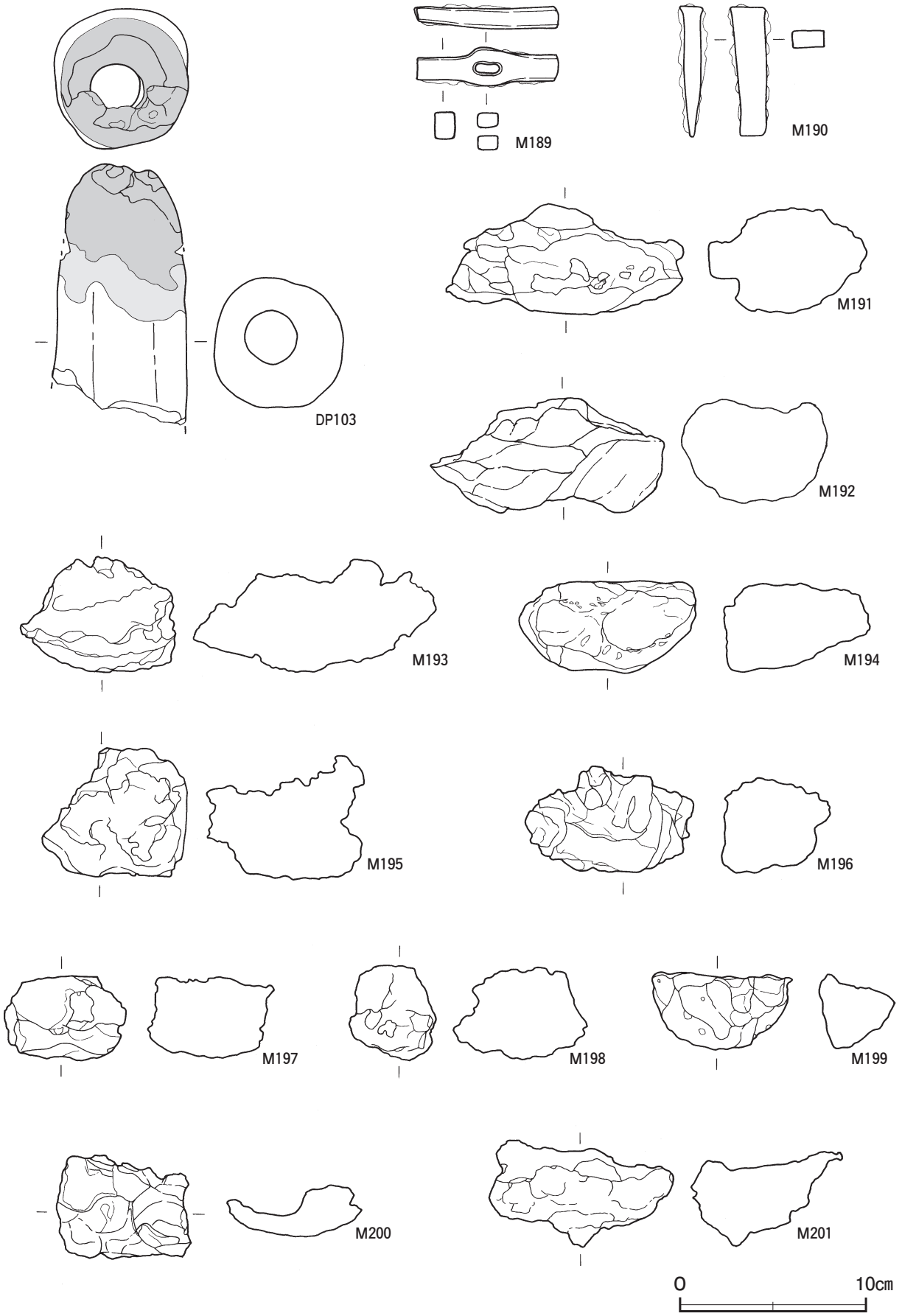
単位（g）	覆土中	ピット内覆土			炉構築土	合計
		Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３		
鍛造剥片	0.0	3679.0	13.2	201.0	18.4	3911.6
粒状滓	22.1	134.3	3.4	6.2	1.2	167.2

第２号鍛冶工房跡出土遺物観察表（第 83 ～ 85 図）

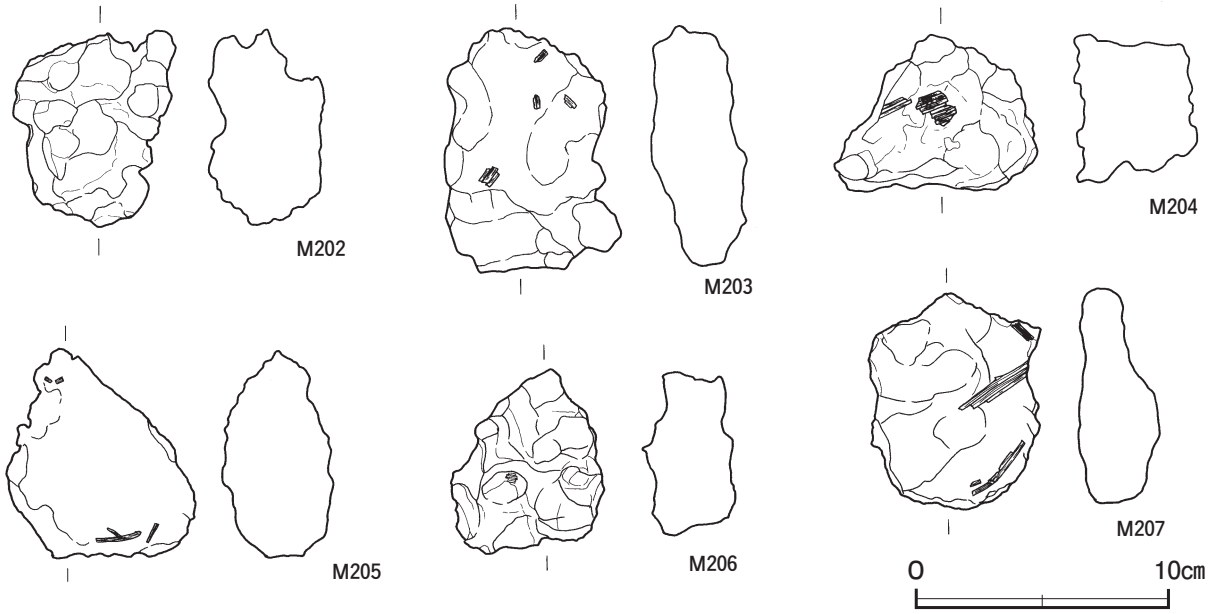
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	色　　調	出土位置	備　考
DP96	羽口	(9.1)	(5.7)	(3.4)	(155.1)	長石・石英	推定孔径 2.5cm　先端部滓化　ナデ	Ｐ１覆土下層	
DP97	羽口	(6.2)	(9.0)	(4.9)	(186.5)	長石・石英	推定孔径 2.5cm　一部還元　一部ヘラ削り痕を残すナデ	Ｐ１覆土下層	
DP98	羽口	(7.7)	(6.2)	(3.0)	(110.3)	長石・石英	推定孔径 2.8cm　先端部滓化　一部還元　一部ヘラ削り痕を残すナデ	Ｐ２覆土下層	



第 83 図　第２号鍛冶工房跡出土遺物実測図(1)



第 84 図　第２号鍛冶工房跡出土遺物実測図(2)



第 85 図　第２号鍛冶工房跡出土遺物実測図(3)

第２号鍛冶工房跡出土遺物観察表（第 83 ～ 85 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	色　　調	出土位置	備　考
DP99	羽口	(7.1)	(5.1)	(2.6)	(69.5)	長石・石英	推定孔径 3.0cm　全面滓化　ナデ	覆土上層	
DP100	羽口	(6.2)	(5.2)	(2.7)	(57.2)	長石・石英	推定孔径 2.5cm　ほぼ全面滓化　一部還元　ナデ	Ｐ２覆土下層	
DP101	羽口	(4.6)	(5.3)	(2.2)	(45.9)	長石・石英	全面滓化　ナデ	覆土下層	
DP102	羽口	(5.2)	(6.5)	(2.9)	(56.0)	長石・石英	推定径 8.6cm　推定孔径 3.0cm　全面滓化　一部滓が剥がれ還元面が露出　ナデ	Ｐ２覆土下層	
DP103	羽口	(14.0)	(7.3)	7.1	(455.7)	長石・石英・赤色粒子	径 7.3cm　孔径 2.8cm　先端部滓化　一部還元のため青灰色化　ナデ	Ｐ２覆土上層	PL49
DP104	羽口	(9.7)	9.5	(8.4)	(567.6)	長石・石英	径 9.0cm　孔径 3.0cm　先端部に溶解鉄付着　一部還元のため青灰色化　ナデ	Ｐ１覆土上層	PL49
DP105	羽口	(11.4)	8.4	7.7	(354.3)	長石・石英	径 8.4cm　孔径 3.0cm　先端部に溶解鉄付着　一部還元のため青灰色化　ナデ	Ｐ２覆土下層	PL49
DP106	羽口	(8.4)	7.9	7.0	(288.3)	長石・石英	径 7.9cm　孔径 2.5cm　先端部滓化　一部還元のため青灰色化　ナデ	Ｐ２覆土下層	PL49
DP107	羽口	(10.4)	(8.1)	(3.8)	(223.9)	長石・石英	推定径 7.9cm　推定孔径 3.0cm　一部還元のため青灰色化　断面にスサの練り込み痕　ナデ	Ｐ２覆土下層	
DP108	炉壁材	6.6	6.8	2.9	67.6	長石・石英	一部還元	Ｐ２覆土下層	
DP109	炉壁材	6.8	5.3	5.1	109.3	長石・石英	一部ガラス質の滓化　木質痕あり	覆土中	

	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 189	鉄槌	7.8	2.0	1.1	65.8	鉄	断面長方形　頭部両端敲打による歪み	Ｐ３覆土中	PL55
M 190	鏨	6.9	2.1	0.9	67.8	鉄	断面長方形　上面敲打による歪み	覆土中	PL55
M 191	炉底塊	8.5	12.8	5.9	593.7	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁が薄く付着　着磁性なし	炉覆土中	PL56
M 192	炉底塊	7.9	12.5	6.2	658.1	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁が薄く付着　着磁性弱い	Ｐ２覆土中層	
M 193	炉底塊	13.0	8.3	6.2	601.1	鉄	上面発泡　一部銹化　底部に炉壁が薄く付着　木質付着　着磁性弱い	Ｐ２覆土中層	PL56
M 194	炉底塊	7.8	9.6	5.0	554.4	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁が薄く付着　着磁性弱い	Ｐ１覆土下層	
M 195	炉底塊	8.6	7.7	6.9	589.1	鉄	上面発泡　全面銹化　底部に炉壁が薄く付着　着磁性弱い	Ｐ２覆土下層	
M 196	炉底塊	5.8	9.2	5.8	309.8	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁が薄く付着　着磁性弱い	Ｐ２覆土中層	
M 197	炉底塊	6.7	6.5	4.5	278.0	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁が薄く付着　木質付着　着磁性弱い	覆土中層	
M 198	炉底塊	7.2	4.7	5.0	203.7	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁が薄く付着　着磁性弱い	Ｐ２覆土下層	
M 199	炉底塊	4.0	7.5	4.1	166.7	鉄	一部発泡　上面銹化　底部に炉壁が厚く付着　着磁性なし	Ｐ３覆土中層	
M 200	炉底塊	5.6	7.3	2.7	79.0	鉄	一部発泡　一部銹化　底部に炉壁が薄く付着　着磁性弱い	炉覆土中	
M 201	炉底塊	8.1	10.0	5.8	356.2	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁が厚く付着　着磁性なし	Ｐ１覆土中	
M 202	炉内滓	7.8	6.4	4.5	155.3	鉄	全面発泡　全面銹化　酸化土砂付着のため暗褐色を呈す　木質付着　着磁性なし	Ｐ１覆土上層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 203	炉内滓	9.7	7.1	3.9	217.9	鉄	一部発泡　全面銹化　酸化土砂付着のため暗赤褐色を呈す 木質付着　着磁性強い	覆土中層	
M 204	炉内滓	6.3	8.0	4.8	250.3	鉄	一部発泡　全面銹化　酸化土砂付着のため暗赤褐色を呈す 木質付着　着磁性弱い	Ｐ２覆土下層	
M 205	炉内滓	8.3	7.6	4.5	319.0	鉄	一部発泡　全面銹化　酸化土砂付着のため暗赤褐色を呈す 木質付着　着磁性強い	Ｐ２覆土下層	
M 206	炉内滓	7.4	6.1	3.7	181.9	鉄	一部発泡　全面銹化　酸化土砂付着のため明赤褐色を呈す 木質付着　着磁性弱い	Ｐ１覆土下層	
M 207	炉内滓	8.7	6.7	3.2	187.1	鉄	一部発泡　全面銹化　酸化土砂付着のため赤褐色を呈す 木質付着　着磁性強い	Ｐ１覆土下層	

第３号鍛冶工房跡（第 86・87 図）

位置　調査区東部のＢ４d3 区，標高 16 ｍほどの東へ下る緩斜面部に位置している。

規模と形状　南部が調査区域外へ延びているため，南北軸は 3.80 ｍしか確認できなかった。また，西部が大きく削平されているため，東部から続く床面の範囲と周辺の地山の土質の違いから，東西軸は 3.18 ｍと推定できる。平面形は，隅丸長方形または楕円形と推定でき，南北軸（径）方向はＮ－ 22°－Ｗである。確認面からの深さは 12cmほどで，底面はほぼ平坦であり，硬化は認められない。確認できた壁は緩やかに立ち上がっている。

炉　中央部に付設されている。長径 100cm，短径 63cmの楕円形で，上部が耕作による撹乱を受けている。炉床は，確認面から深さ 18cmほど皿状に掘りくぼめ，砂粒を含む第１～６層を埋土して構築されている。最終使用時の炉床面は第１層上面と考えられ，第１・２・４層は還元のため灰色化し，強く硬化している。

炉土層解説

1　灰　　色　砂粒多量
2　灰　白　色　砂粒多量（鉄滓含む）
3　にぶい黄色　砂粒多量（鉄滓含む）
4　黄　灰　色　砂粒多量，焼土ブロック微量（鉄滓含む）
5　明 赤 褐 色　砂粒多量，焼土粒子中量
6　明 赤 褐 色　焼土粒子・粘土粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１は炉の南，Ｐ２の西側に位置し，Ｐ２を掘り込んでいる。深さ 44cmで，壁は一部段を有して外傾して立ち上がっている。西壁面を中心に粘土が貼られている。Ｐ２は炉の南東，Ｐ１の東に位置し，Ｐ１に掘り込まれている。深さ 24cmである。Ｐ１は位置と規模から作業ピットと考えられる。Ｐ２は性格不明である。第１～８層がＰ１の覆土，第９～ 16 層がＰ２の覆土である。

土層解説（Ｐ１・Ｐ２共通）

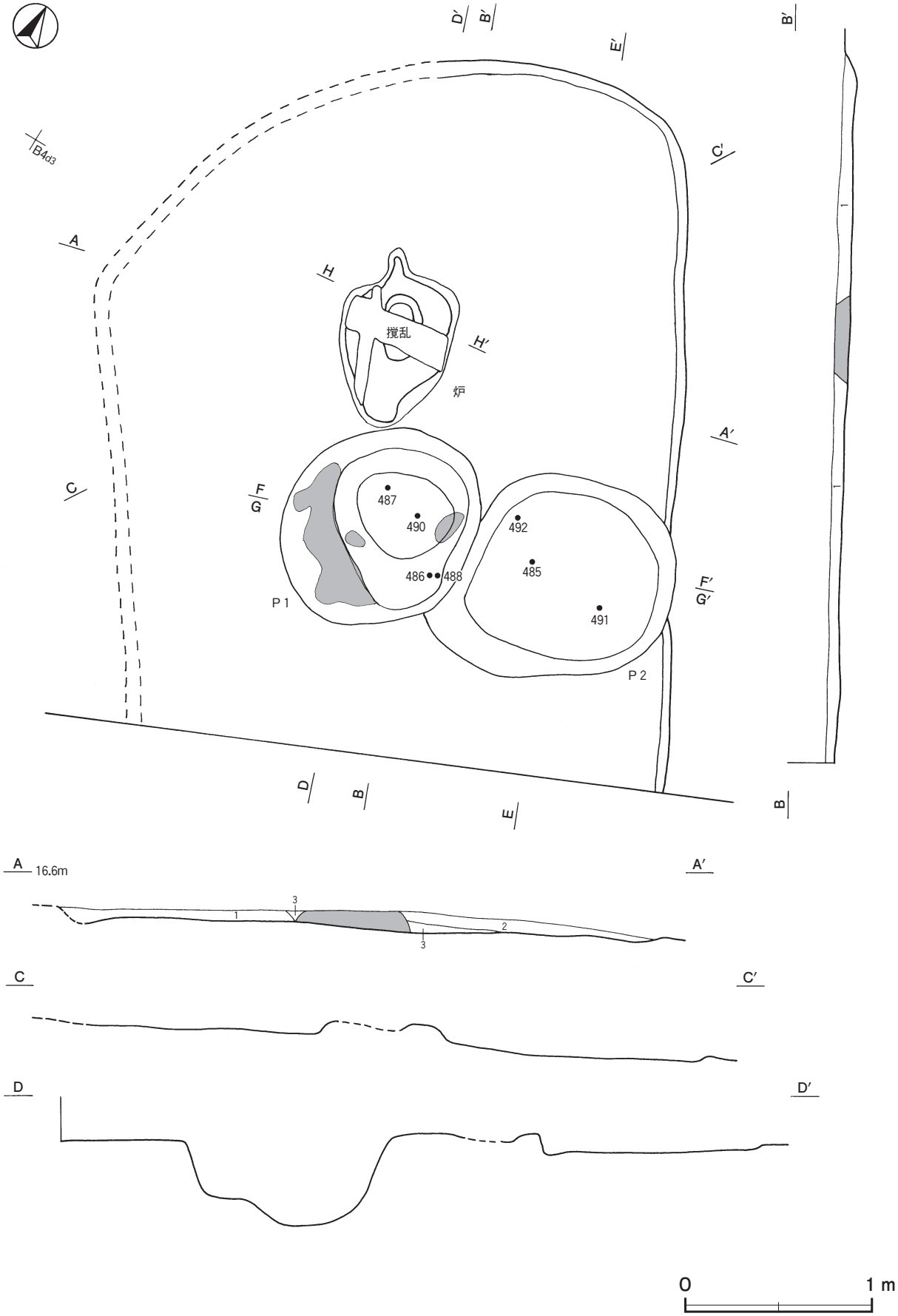
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
7　黒　褐　色　粘土ブロック微量（鉄滓を含む）
8　黒　褐　色　ローム粒子微量（鉄滓を含む）
9　極 暗 褐 色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐　灰　色　焼土粒子微量
12　褐　灰　色　ローム粒子・粘土粒子微量
13　褐　　色　ローム粒子少量
14　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
15　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
16　暗　褐　色　ローム粒子少量

覆土　３層に分層できる。層厚が薄いことから，堆積状況は不明である。

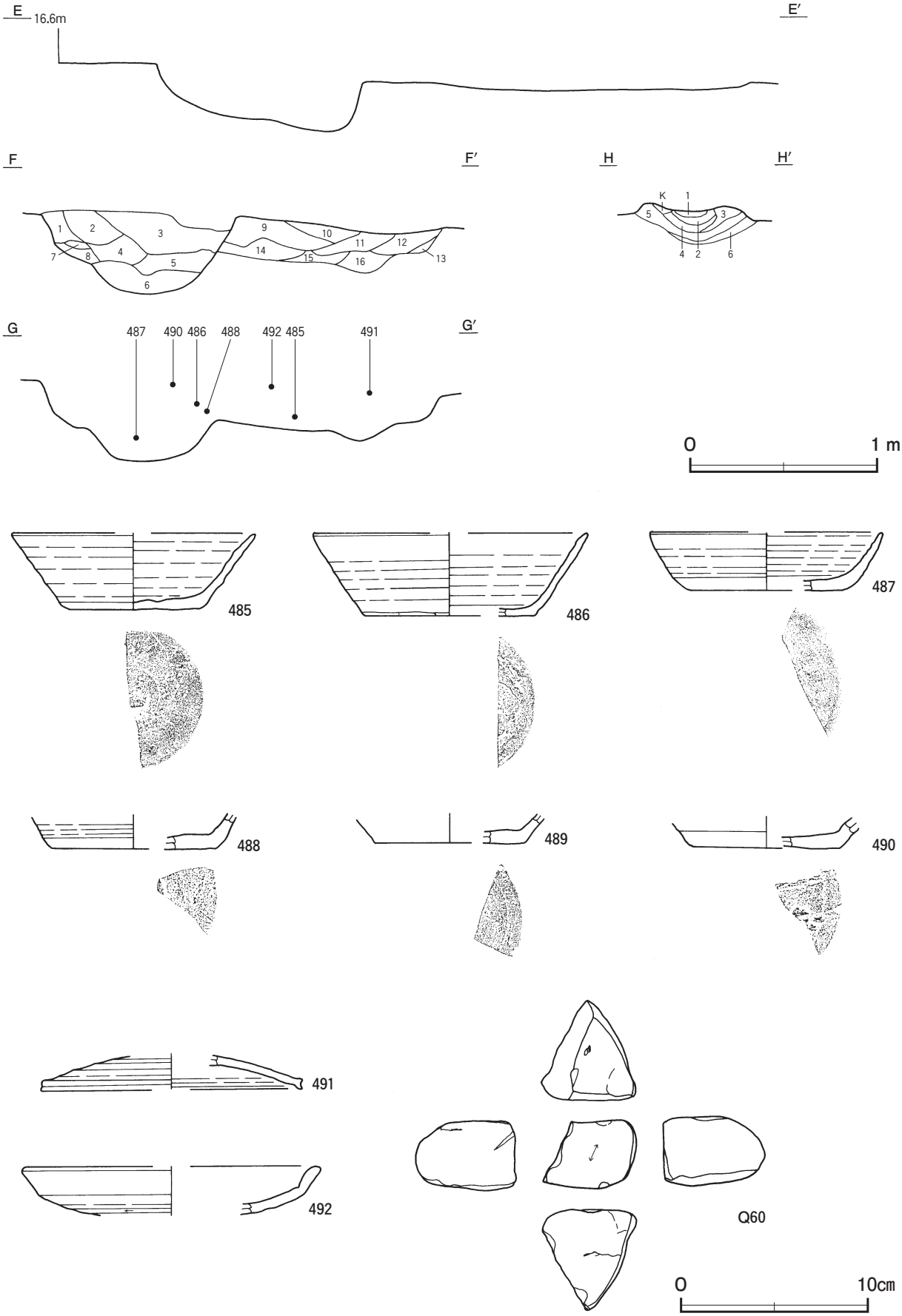
土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　　色　焼土粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片 128 点（坏 13, 甕類 115），須恵器片 153 点（坏 132, 高台付坏１, 蓋 10, 盤１, 甕類９），炉壁材 156 点，粘土塊７点，石器１点（砥石），鉄製品１点（釘$_{カ}$），木炭片 77.1 ｇ，鉄滓 1096 点（5301.0 ｇ），炉内滓４点（254.5 ｇ），炉底塊２点（6.8 ｇ），鉄塊系遺物１点（20.6 ｇ），鍛造剥片 277.9 ｇ，粒状滓 65.2 ｇが，Ｐ１・Ｐ２を中心とした遺構全体から出土している。485 はＰ２の覆土下層から，486 ～ 488 はＰ１の覆土中層から，490 はＰ１，491・492 はＰ２の覆土上層からそれぞれ出土している。489・Ｑ 60 はＰ１の覆土中から出土している。鍛造剥片及び粒状滓は，Ｐ１からの出土が際立っており，Ｐ１は廃絶時に鍛造剥片と粒状滓を含む土で埋め戻されている。



第 86 図　第３号鍛冶工房跡実測図



第 87 図　第 3 号鍛冶工房跡・出土遺物実測図

所見　鍛造剥片や粒状滓が出土していることから，小鍛治の工房と考えられる。時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。上屋構造をもつと考えられるが，遺構内外に柱穴ととらえることのできるピットは確認できなかった。また，Ｐ２から鍛造剥片及び粒状滓が出土していないことから，Ｐ２の性格は不明である。

第３号鍛冶工房跡出土鍛造剥片・粒状滓集計表

単位（g）	覆土中	ピット覆土		炉構築土	合計
		Ｐ１	Ｐ２		
鍛造剥片	5.0	272.9	0.0	0.0	277.9
粒状滓	13.3	49.5	0.0	2.4	65.2

第３号鍛冶工房跡出土遺物観察表（第 86・87 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
485	須恵器	坏	[12.9]	4.1	7.6	長石・石英・赤色粒子	灰	良好	底部切り離し痕を残すナデ	Ｐ２覆土下層	60%
486	須恵器	坏	[14.7]	4.5	[9.0]	長石・石英	灰白色	良好	体部下端回転ヘラ削り	Ｐ１覆土中層	25%
487	須恵器	坏	[12.4]	3.1	[8.2]	長石・石英	灰	良好	底部切り離し後一方向のヘラ削り	Ｐ１覆土中層	30%
488	須恵器	坏	－	(1.9)	[8.9]	長石・石英	黄灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部切り離し後ナデ	Ｐ１覆土中層	５%
489	須恵器	坏	－	(1.6)	[8.0]	長石	灰黄	良好	底部切り離し痕を残すナデ	Ｐ１覆土中	５%
490	須恵器	坏	－	(1.7)	[8.0]	長石・石英	にぶい赤褐	良好	底部ヘラ書き「一」ヵ	Ｐ１覆土上層	５%
491	須恵器	蓋	[14.0]	(1.9)	－	長石・石英	灰黄	良好	外・内面ロクロナデ	Ｐ２覆土上層	10%
492	須恵器	盤	[15.6]	(2.6)	－	長石・石英・雲母	灰	良好	体部回転ヘラ削り	Ｐ２覆土上層	５%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 60	砥石	5.4	5.1	3.7	72.3	軽石	砥面１面	Ｐ１覆土中	

表６　奈良時代鍛冶工房跡一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規　模	壁 高	床面	壁溝	内　部　施　設					覆土	主な出土遺物	時　期	備　考
				長軸×短軸（m）	(cm)			柱穴	出入口	作業用ピット	ピット	炉				
1	D 10g7	－	不　整 楕 円 形	4.67 × 3.50	10 ～ 47	凹凸	－	4	－	3	－	7	人為	土師器片，須恵器片，土製品，炉壁材，石器，鉄製品，鉄滓，椀状滓，炉内滓炉底塊，鉄塊系遺物，鍛造剥片，粒状滓	８世紀 中葉～後葉	
2	B 4 f5	－	不 整 形	5.38 × 4.98	14	平坦	－	－	－	1	2	1	人為	土師器片，須恵器片，土製品，石器，鉄製品，鉄滓，椀状滓，炉内滓，炉底塊，鍛造剥片，粒状滓	８世紀中葉	本跡→ SK562・581・582，SD46・60，PG20
3	B 4 d3	N － 22° － W	[隅丸長方形・楕円形]	(3.80) × [3.18]	12	平坦	－	－	－	1	1	1	人為	土師器片，須恵器片，炉壁材，粘土塊，石器，鉄製品，木炭片，鉄滓，炉内滓，炉底塊，鉄塊系遺物，鍛造剥片，粒状滓	８世紀中葉	

(5)　土坑

第 180 号土坑（第 88・89 図）

位置　調査区東部のＤ 10g0 区，標高 14.0 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径 80㎝，短径 73㎝の円形で，深さは 29㎝である。底面は平坦で，壁は緩やかに立ち上がっている。底面は不整形で，厚さ２㎝ほどの鉄滓の層が水平に堆積している。

覆土　６層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。第６層は鉄滓を中心とした層である。

土層解説

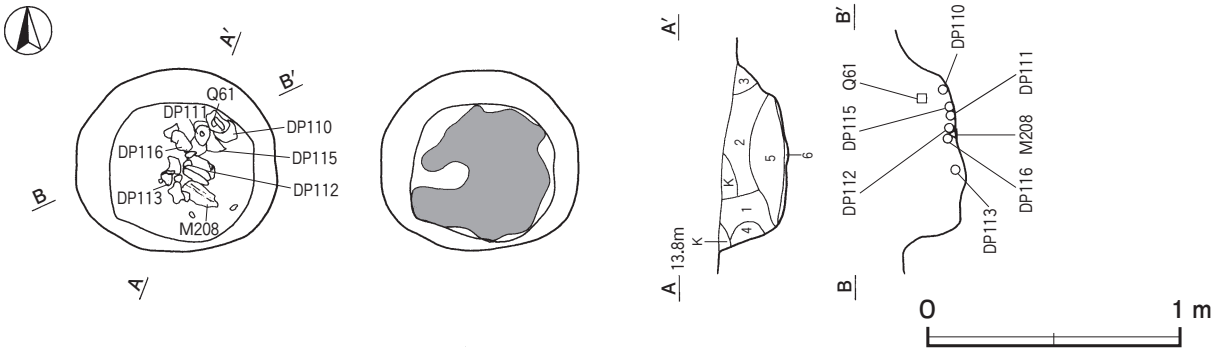
1　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
5　極暗褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　極暗褐色　鉄滓中量，ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片 16 点（甕類），須恵器片２点（坏），土製品７点（羽口），石器１点（砥石），鉄滓 282.7 g，炉内滓１点（394.8 g），粒状滓 5.6 g，鍛造剥片 89.2 g が出土している。DP110 ～ DP113・DP115・DP116・M 208 は，覆土下層から一括投棄された状態で出土している。Q 61 は覆土中層から，DP114 は覆土中から出土している。

第 180 号土坑出土鍛造剥片・粒状滓集計表

単位（g）	覆土中	底面	合計
鍛造剥片	87.4	1.8	89.2
粒状滓	4.6	1.0	5.6

所見　底面に鉄滓が広がっていることや，鍛冶関連遺物が投棄された状態で出土していることから，廃棄土坑と考えられる。位置的にみて，隣接する第１号鍛冶工房跡との関連する可能性がある。時期は，出土土器が細片のため明確な時期を断定できないが，第１号鍛冶工房跡と同時の８世紀中葉から後葉にかけて機能していたと考えられる。



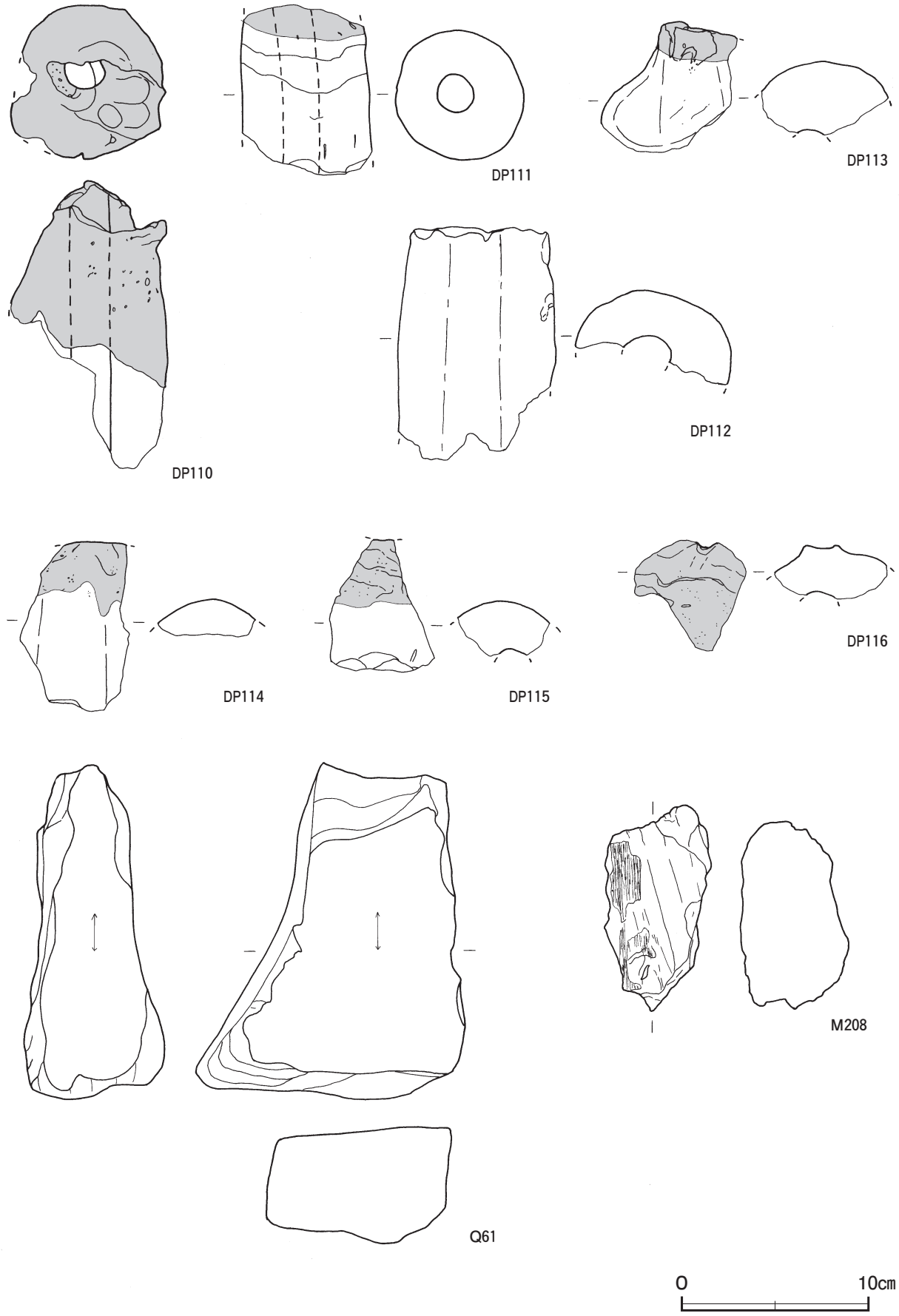
第 88 図　第 180 号土坑・出土遺物実測図

第 180 号土坑出土遺物観察表（第 88・89 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	色　　調	出土位置	備　考
DP110	羽口	(15.5)	(8.4)	(8.3)	(515.5)	長石・石英	径 8.4cm　孔径 2.0cm	覆土下層	PL49
DP111	羽口	(9.3)	(7.0)	(7.0)	(332.2)	長石・石英・細礫	径 7.0cm　孔径 2.0cm	覆土下層	
DP112	羽口	(12.6)	(8.6)	(5.1)	(380.5)	長石・石英	推定径 8.6cm　推定孔径 2.5cm	覆土下層	
DP113	羽口	(7.0)	(7.3)	(4.0)	(157.3)	長石・石英	推定孔径 2.5cm　先端部滓化　内面一部にガラス質の滓付着　ナデ	覆土下層	
DP114	羽口	(9.0)	(5.9)	(2.0)	(97.3)	長石・石英・赤色粒子	先端部滓化　一部還元　ナデ	覆土中	
DP115	羽口	(7.0)	(5.6)	(2.7)	(85.0)	長石・石英	推定孔径 2.0cm　先端部滓化　一部還元　ナデ	覆土下層	
DP116	羽口	(5.9)	(5.9)	(2.7)	(58.9)	長石・石英	全面滓化	覆土下層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 61	砥石	18.0	14.5	7.5	2231.0	雲母片岩	砥面２面	覆土中層	PL51

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 208	炉内滓	11.1	5.8	5.7	394.8	鉄	全面銹化　酸化土砂付着のため暗赤褐色を呈す　木質付着　着磁性強い	覆土下層	



第 89 図　第 180 号土坑出土遺物実測図

第 336 号土坑（第 90 図）

位置　調査区南東部のＣ８d4 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　径 1.30 mの円形である。深さは 25cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

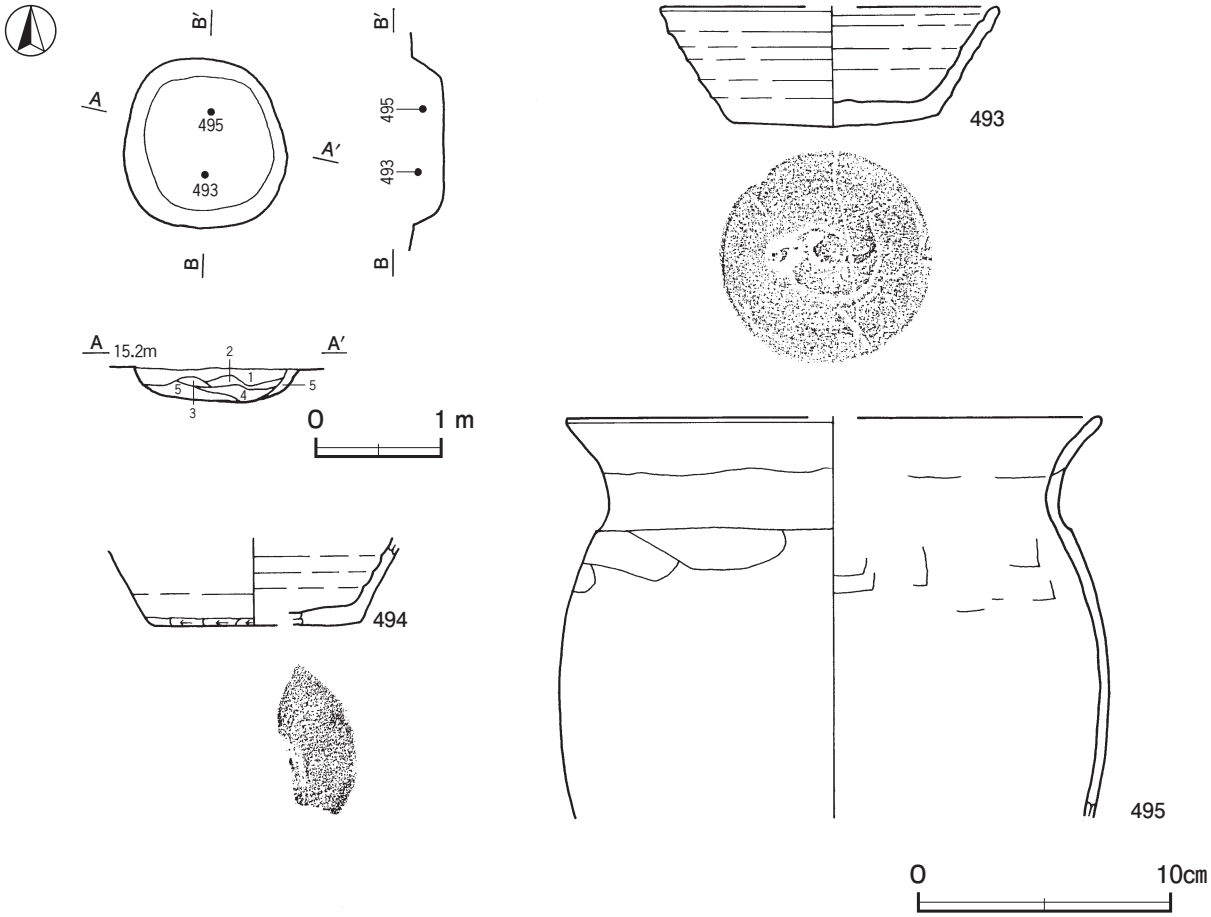
覆土　５層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックを含む不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量
5　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 14 点（坏１，甕 13），須恵器片 36 点（坏 29，高台付坏１，甕６），鉄滓３点（10.7 ｇ）が出土している。495 は北部の覆土中層から，493 は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。性格は不明である。



第 90 図　第 336 号土坑・出土遺物実測図

第 336 号土坑出土遺物観察表（第 90 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
493	須恵器	坏	［13.4］	4.8	8.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	良好	底部回転ヘラ切り後，ヘラナデ	覆土上層	70%
494	須恵器	坏	－	（3.5）	［8.1］	長石・石英	灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土中	20%
495	土師器	甕	［21.0］	（15.8）	－	長石・石英・雲母・黒色粒子	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	20%

第 565 号土坑（第 91・92 図）

位置　調査区中央部のＢ５i7 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 4.21 m，短軸 2.12 mの不定形で，長軸方向はＮ－ 60°－Ｗである。深さ 54㎝，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。軸方向に沿ってピット状の窪みを３か所確認した。

覆土　５層に分層できる。多くの層にブロックや粘土粒子が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　灰　褐　色　粘土粒子中量
4　暗　褐　色　粘土粒子微量
5　暗　褐　色　粘土ブロック微量

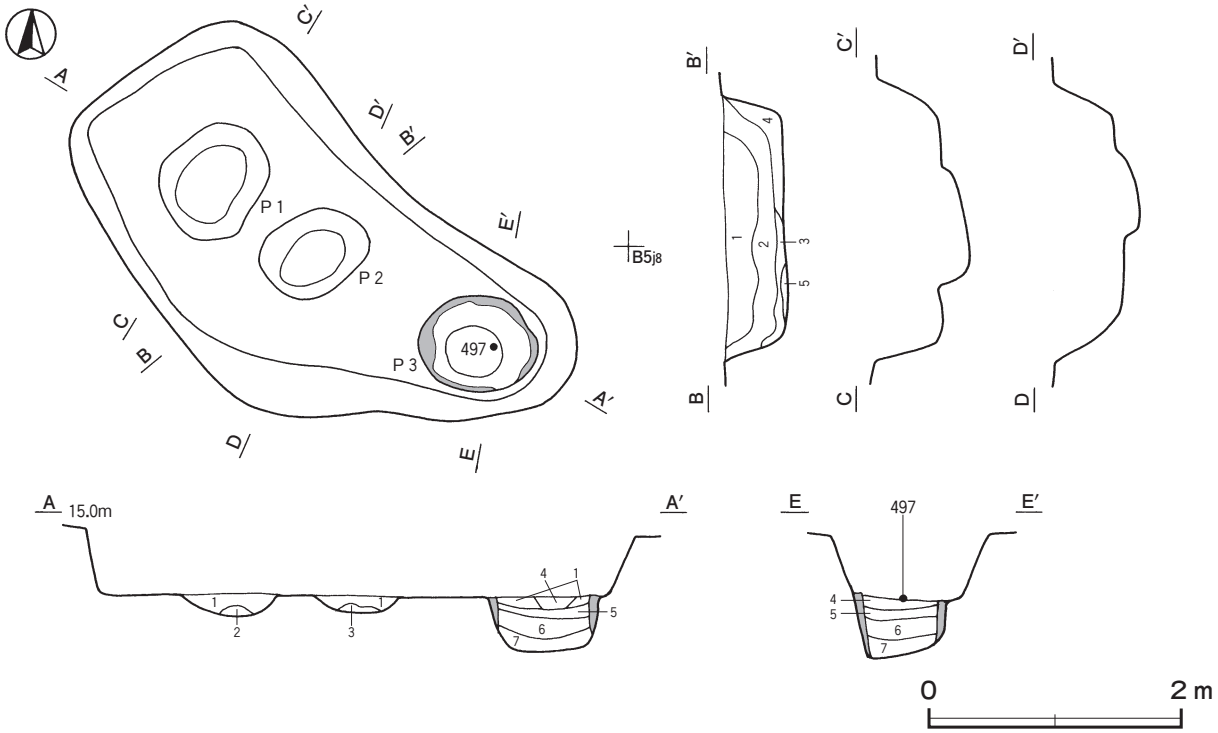
ピット　３か所。Ｐ１は長径 0.96 m，短径 0.75 mの楕円形で，深さ 14㎝，Ｐ２は長径 0.92 m，短径 0.63 mの楕円形で，深さ 12㎝，Ｐ３は長径 0.95 m，短径 0.82 mの楕円形で，深さ 44㎝である。Ｐ３の壁面には，厚さ６～８㎝ほどの粘土が貼られている。

土層解説（Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３共通）

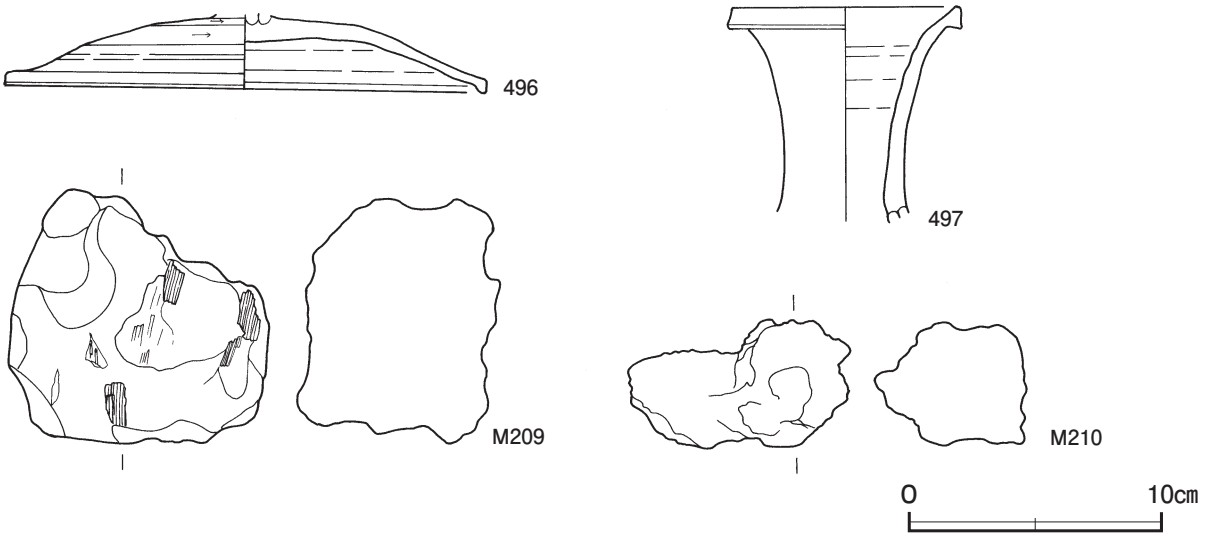
1　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
2　褐　　色　粘土粒子多量
3　極 暗 褐 色　粘土粒子中量
4　黒　　色　粘土粒子微量
5　にぶい黄褐色　粘土ブロック多量
6　暗　褐　色　シルト多量
7　黒　　色　粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 22 点（坏２，甕 20），須恵器片 62 点（坏 35，高台付坏４，蓋３，盤１，長頸瓶１，甕 18），鉄滓 20 点（2053.0 ｇ）が出土している。497 は南東部の覆土下層，496 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，第 514 号竪穴遺構の北西部に隣接している。Ｐ３の壁面には粘土が貼られており，規模と形状から甕などを据え付けた跡と思われる。上屋構造をもつ可能性があるが，柱穴が確認できないため詳細は不明である。時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。



第 91 図　第 565 号土坑実測図



第 92 図　第 565 号土坑出土遺物実測図

第 565 号土坑出土遺物観察表（第 92 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
496	須恵器	蓋	19.0	(3.0)	－	長石・石英・赤色粒子	灰白	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土中	80%　PL37
497	須恵器	長頸瓶	8.9	(8.5)	－	長石・石英・赤色粒子	褐灰	良好	ロクロナデ　自然釉付着	覆土下層	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 209	炉内滓	9.8	10.3	8.0	1000.5	鉄	一部発泡　全面銹化　酸化土砂付着のため暗褐色を呈する　着磁性弱い	覆土中	
M 210	炉内滓	5.0	8.9	6.0	248.5	鉄	一部発泡　一部銹化　酸化土砂付着のため赤褐色を呈する　着磁性弱い	覆土中	

第 768 号土坑（第 93 図）

位置　調査区北西部のＡ２f4 区，標高 18 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 54 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長径 4.93 m，短径 4.43 mの楕円形で，深さ 209cmまで擂鉢状に掘り込まれている。長径方向はＮ－ 50°－Ｗである。底部は径 1.68 mでわずかに平場を有し，中央部には径 1.04 mほどで深さ 20cmの円形の窪みが設けられている。北西壁の中位に最大幅 55cmで，平面形が三日月形をしたテラス状の段をもち，南東壁に比べやや緩やかに立ち上がっている。

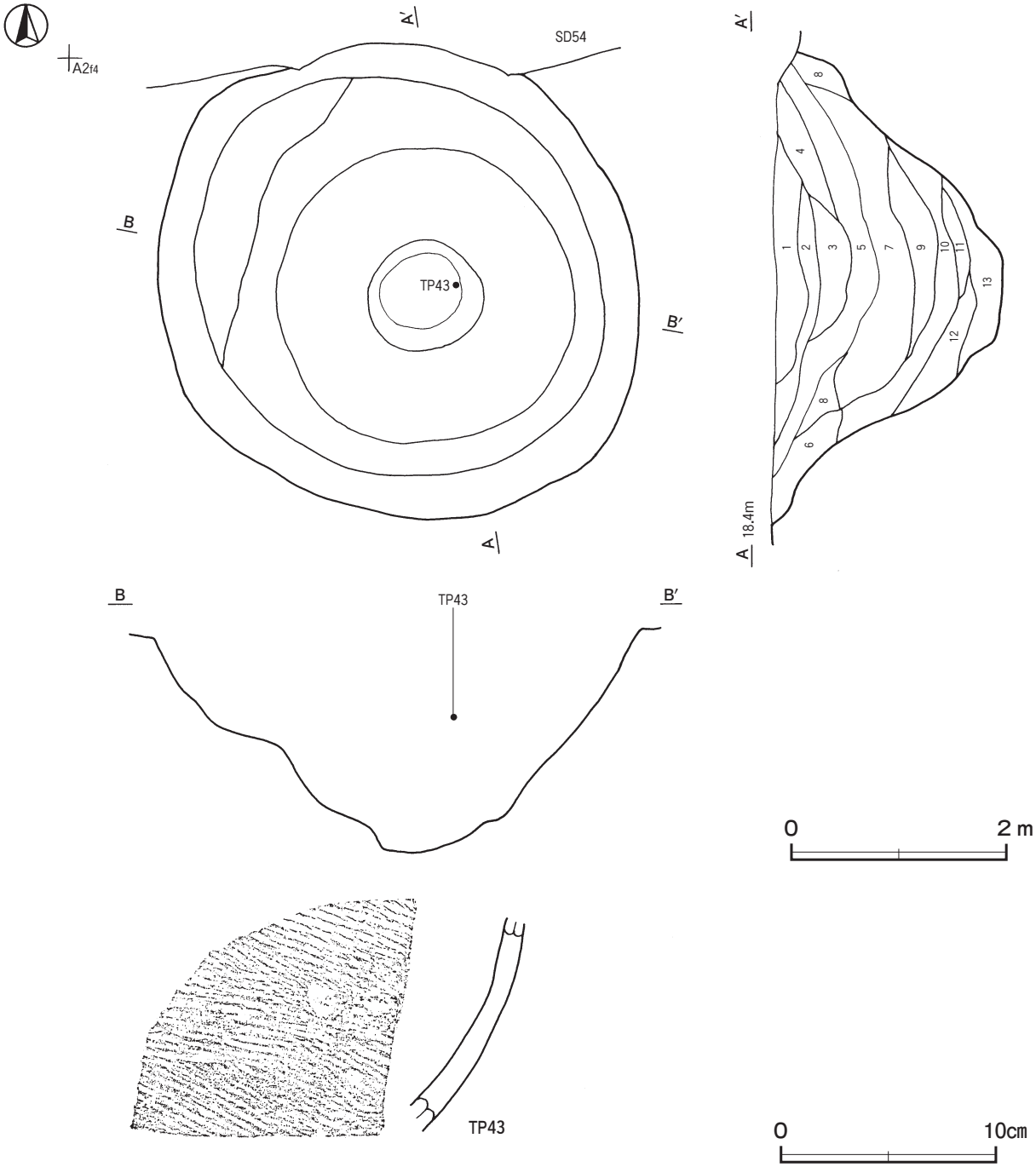
覆土　13 層に分層できる。第１～３層は含有物が少なく，周囲からの土の流入を示す堆積状況から自然堆積である。第４層～ 13 層は多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　炭化粒子中量，骨片少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック微量
6　褐　　色　ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック微量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
12　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
13　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物微量

遺物出土状況　土師器片２点（甕），須恵器片２点（坏，甕）が覆土中層から下層にかけて出土している。TP43 は覆土中層から出土している。

所見　出土遺物が少なく詳細な時期は不明であるが，出土土器から８世紀代と推測される。規模や形状から，氷室状土坑の可能性もある大形の円形土坑である。



第 93 図　第 768 号土坑・出土遺物実測図

第 768 号土坑出土遺物観察表（第 93 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP43	須恵器	甕	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	体部横位の平行叩き	覆土中層	PL47

表７　奈良時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
180	D 10g0	－	円形	0.80 × 0.73	29	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片，土製品，石器，鉄滓	８世紀中～後葉
336	C 8d4	－	円形	1.30 × 1.30	25	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	８世紀後葉
565	B 5i7	N － 60° －W	不定形	4.21 × 2.12	54	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	８世紀中葉
768	A 2f4	N － 50° －W	楕円形	4.93 × 4.43	209	有段	緩斜	自然 人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SD54 ８世紀代

４　平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡 15 棟，掘立柱建物跡５棟，井戸跡１基，土坑６基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第 72 号竪穴建物跡（第 94 図）

位置　調査区東部のＢ 11i5 区，標高 14 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 69 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　大部分が調査区域外に延びているため，南東コーナー部しか確認できなかった。確認できた東西軸は 2.28 m，南北軸は 0.86 mで，隅丸方形または隅丸長方形と推定できる。壁高は 46cmで，直立している。

床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

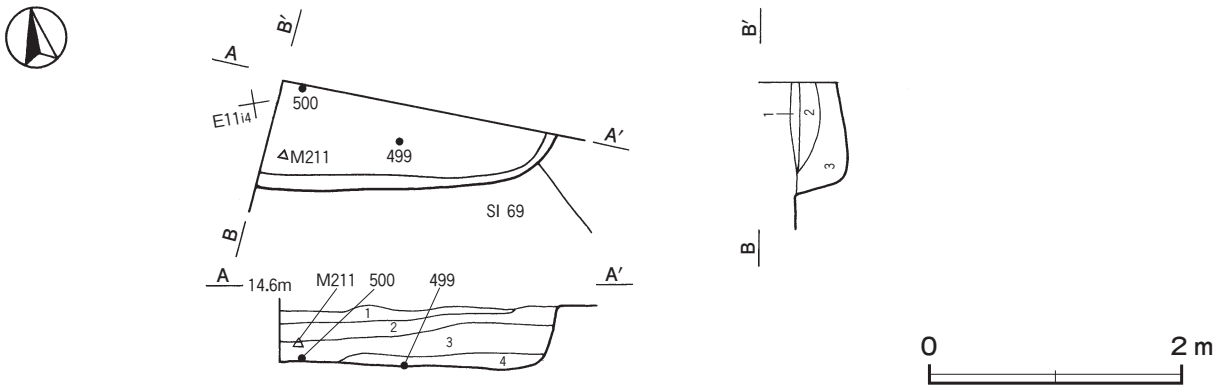
覆土　４層に分層できる。周囲から流入した堆積状況から，自然堆積である。

土層解説

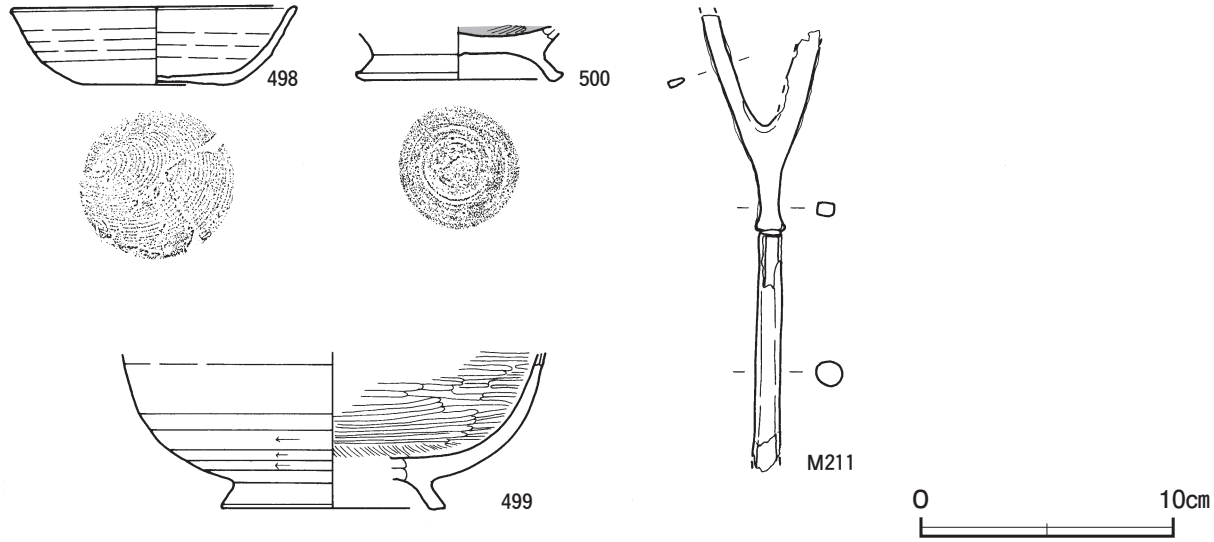
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
4　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 25 点（坏 10, 高台付坏２, 甕類 13), 須恵器片 15 点（坏２, 甕類 13), 鉄製品１点（鏃）が出土している。499・500 は床面からそれぞれ出土している。M 211 は南壁際の覆土下層から出土している。498 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 94 図　第 72 号竪穴建物跡実測図



第 95 図　第 72 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 72 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 95 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
498	土師器	坏	11.2	3.1	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面ロクロナデ　底部回転糸切り	覆土中	50%
499	土師器	高台付坏	－	(6.2)	[8.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き	床面	20%
500	土師器	高台付坏	－	(2.1)	[7.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	床面	60%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 211	鏃	(18.2)	(4.8)	0.3～0.9	(28.2)	鉄	断面三角形　頸部断面長方形　木質付着　雁又	覆土下層	PL54

第 83 号竪穴建物跡（第 96 ～ 98 図）

位置　調査区中央部のＣ８f7 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 84 号竪穴建物跡を掘り込み，第 328 号土坑に掘り込まれている。

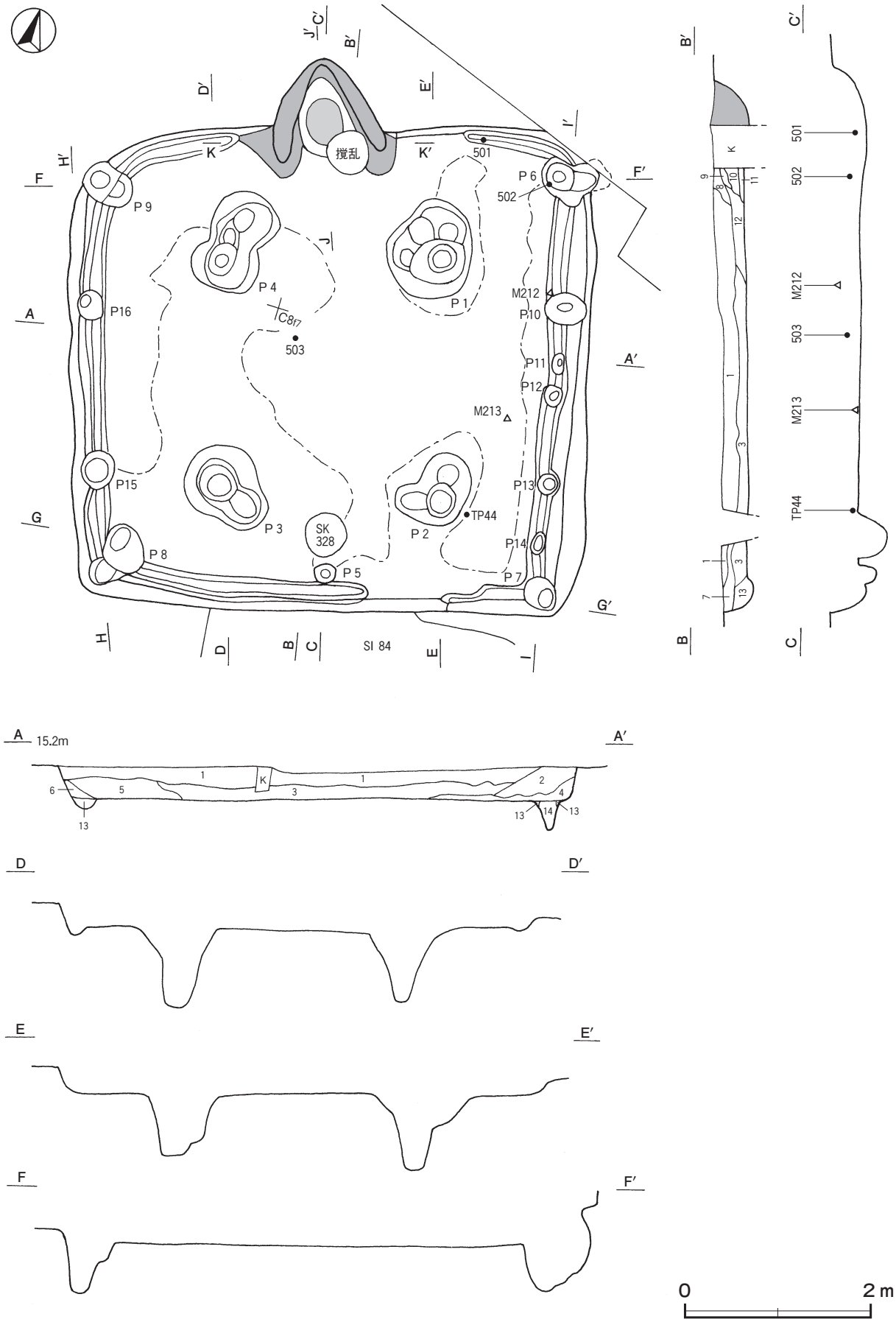
規模と形状　長軸 5.70 m，短軸 5.20 mの方形で，主軸方向はＮ－ 16°－Ｗである。壁高は 18 ～ 32cmで，北壁は直立し，ほかは外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，西壁際と中央部から東壁際までが踏み固められている。竈の東側の一部と南壁の一部を除いて，壁下には壁溝が巡っている。

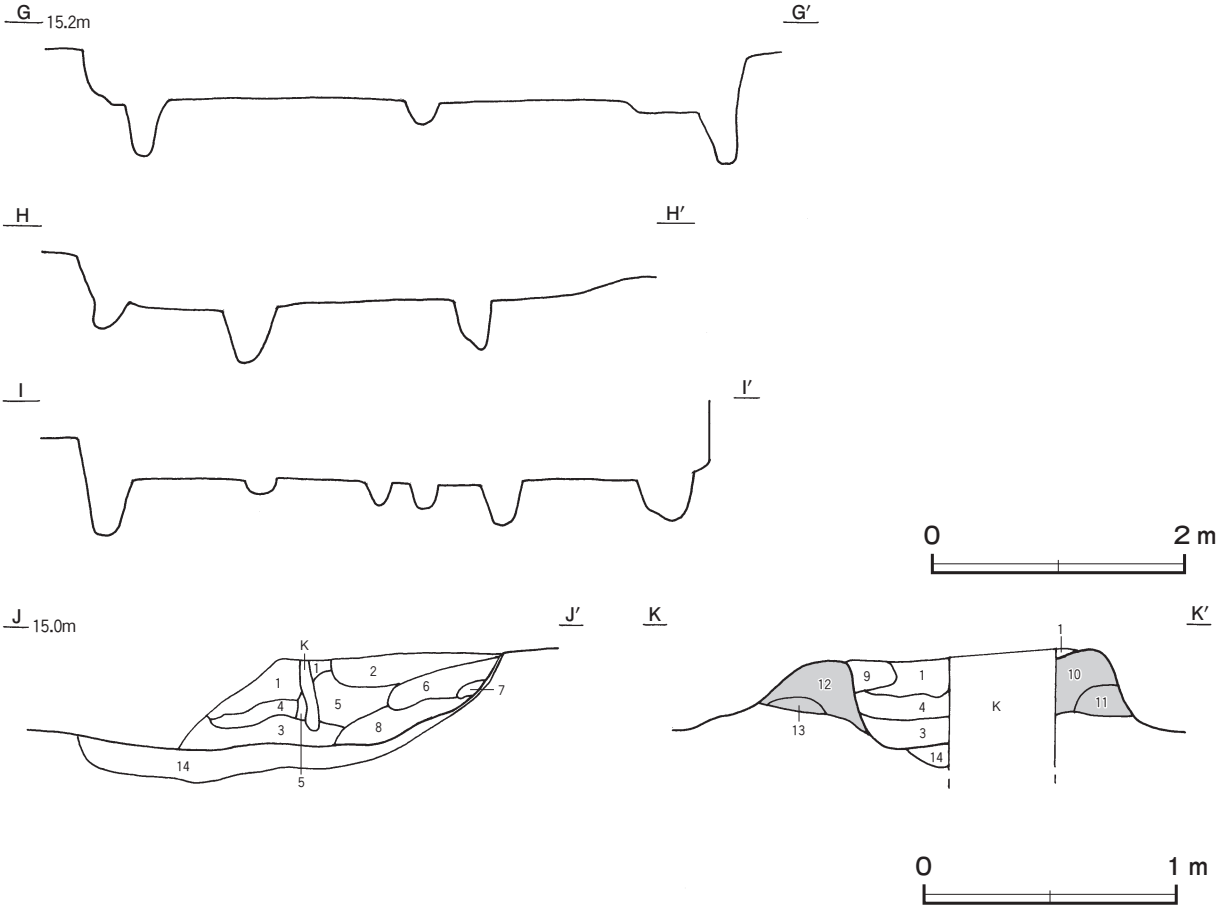
竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 100cmで，燃焼部幅は 58cmである。袖部は地山を削り出して基部とし，砂質粘土粒子を主体とした第 10 ～ 13 層を積み上げて構築している。火床部は床面を 13cmほど皿状に掘り込み，暗褐色土の第 14 層を埋土して構築している。火床面は赤変しているが硬化は弱い。煙道部は壁外に 66cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
3　にぶい赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，粘土粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・細砂少量
6　褐　　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物微量
8　褐　　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
10　にぶい褐色　粘土粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
11　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
12　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
13　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，炭化粒子少量
14　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量



第 96 図　第 83 号竪穴建物跡実測図(1)



第 97 図　第 83 号竪穴建物跡実測図(2)

ピット　16 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 66 ～ 84cmで，規模と配置から主柱穴である。また，Ｐ１～Ｐ４には最深部以外にも掘り込みがあり，柱の立て替えを行った可能性があるが，新旧関係は不明である。Ｐ５は深さ 16 cmで南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～Ｐ 16 は深さ 10 ～ 50cmで，壁柱穴である。東西壁間でＰ 10 とＰ 16，Ｐ 13 とＰ 15 がそれぞれ対応している。

覆土　13 層に分層できる。ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。第 14 層は P11 の覆土である。

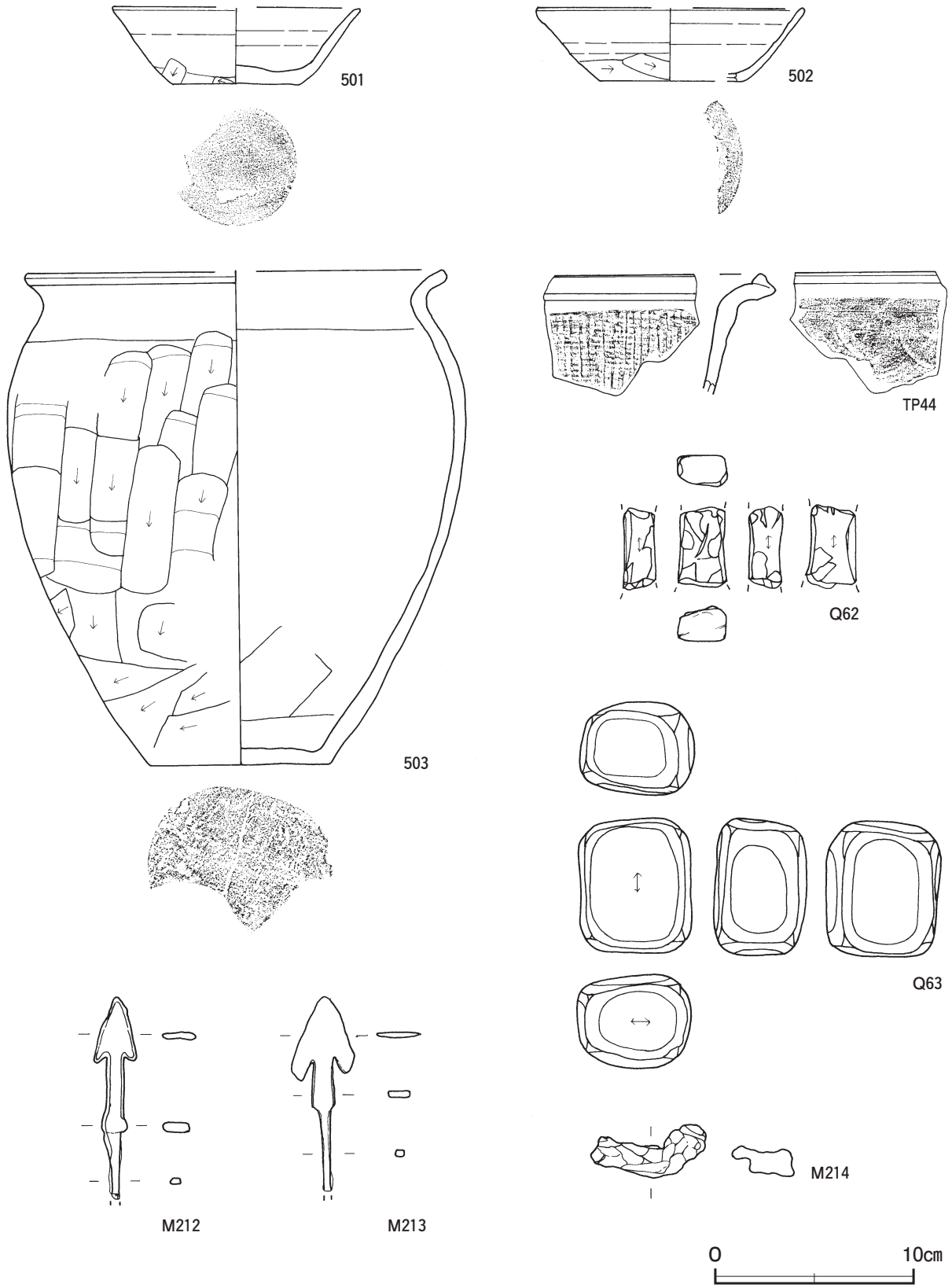
土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
2	褐　　色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量	
3	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量	
4	褐　　色	ローム粒子中量，焼土粒子微量	
5	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	
6	褐　　色	ロームブロック少量	
7	黒　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	
8	黒　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量	
9	褐　　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	
10	褐　　色	ローム粒子中量	
11	暗　褐　色	焼土ブロック少量	
12	褐　　色	ローム粒子中量，焼土ブロック微量	
13	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量	
14	暗　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師器片 1169 点（坏 86，甕類 1079，甑３，ミニチュア土器１），須恵器片 459 点（坏 279，高台付坏４，蓋６，甕類 164，甑６），土製品 27 点（支脚），石器２点（砥石），鉄製品７点（鏃２，鉄製品４，不明１），鉄滓 286 点（2574.3 ｇ），椀状滓９点（92.7 ｇ），炉底塊１点（51.8 ｇ）が，全域の覆土中層から下層にかけて出土している。Q 63 はＰ１の覆土中から，501 は北壁際，TP44 は南東部，M 213 は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。502 は北東コーナー部，503 は中央部の覆土中層から出土している。M 212 は東壁中央部の覆土上層から出土している。Q 62, M 214 は覆土中から出土している。鉄滓等の鍛冶関連遺物は，柱穴内から 297.5 ｇ，竈覆土中から 43.5 ｇ，覆土下層から 1296.7 ｇ，覆土上層から 1547.3 ｇ出土し，覆土中の

広い範囲から出土している。建物の廃絶過程で意図的に投棄したものか，あるいは混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。Ｐ６～16の壁柱穴は，東西壁のみに位置しており，垂木材を支える性格であったと考えられる。



第98図　第83号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 83 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 98 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
501	須恵器	坏	[12.5]	3.9	6.4	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土下層	50%
502	須恵器	坏	[13.4]	3.7	[7.1]	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土中層	20%
503	土師器	甕	[21.0]	25.0	9.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部上半から下端にかけ縦位のヘラ削り後，下端斜位のヘラ削り　内面下半ヘラナデ	覆土中層	60%

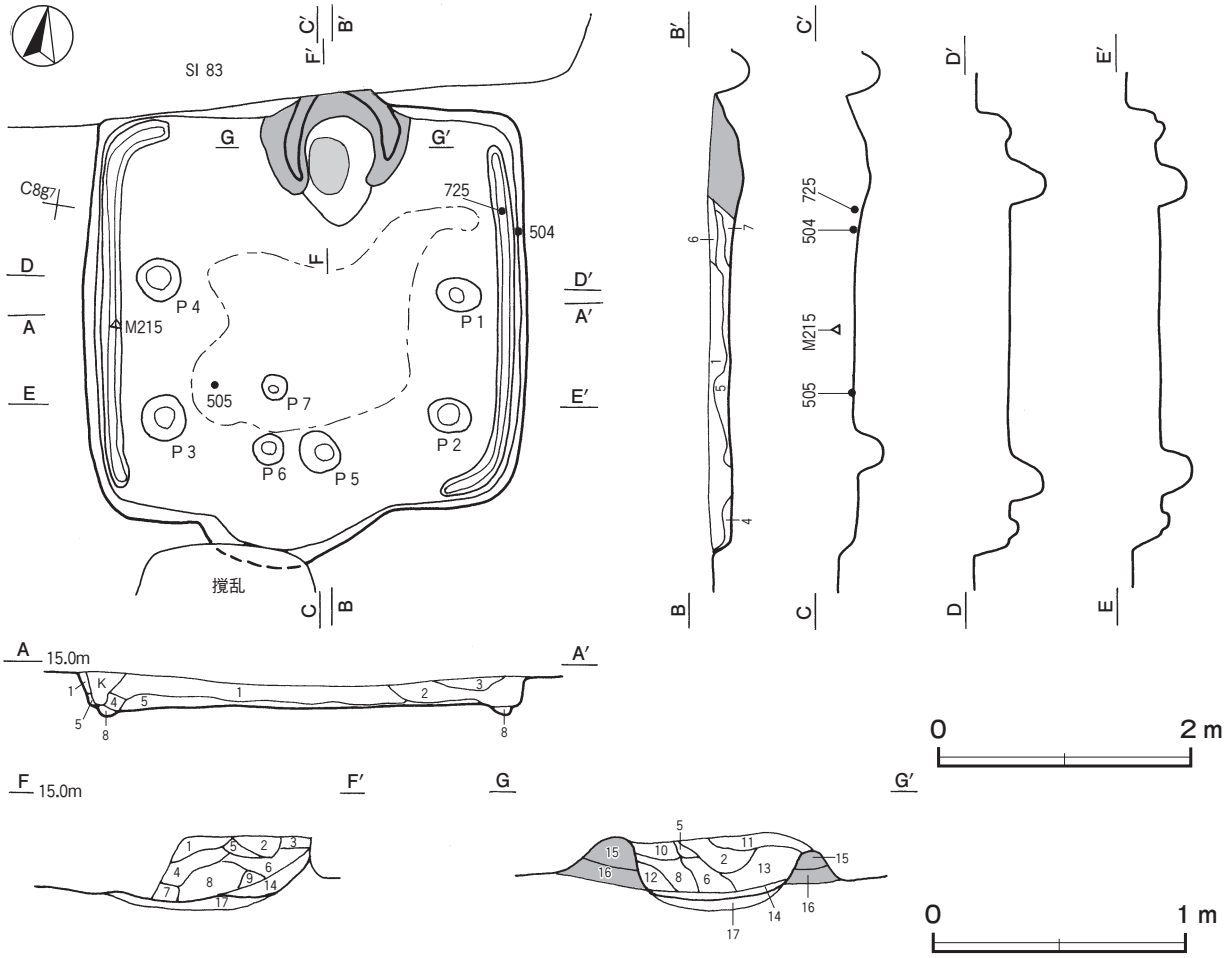
番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP44	須恵器	甑	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	体部外面横位の平行叩き後，縦位の平行叩き	覆土下層	PL47

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 62	砥石	(4.1)	(2.5)	(1.7)	(21.6)	安山岩	砥面３面	覆土中	
Q 63	砥石	6.9	5.7	4.7	369.6	安山岩	砥面２面	Ｐ１覆土中	PL51

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 212	鏃	(10.2)	2.1	0.3～0.6	(12.9)	鉄	鏃身部断面両丸　篦被部断面長方形　茎部断面長方形　茎部欠損	覆土上層	PL54
M 213	鏃	(9.9)	3.2	0.4	(15.2)	鉄	鏃身部断面両丸　頸部断面長方形　茎部断面長方形　茎部欠損	覆土下層	PL54
M 214	炉底塊	2.7	5.9	1.6	51.8	鉄	底面に炉壁が薄く付着　上面一部発泡　着磁性弱い	覆土中	

第 84 号竪穴建物跡（第 99 ～ 101 図）

位置　調査区中央部のＣ８g7 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。



第 99 図　第 84 号竪穴建物跡実測図

重複関係　第83号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.52 m，短軸3.30 mの方形で，主軸方向はN－8°－Wである。壁高は16～30cmで，外傾して立ち上がっている。南壁の中央部は，奥行0.4 m，幅1.5 mの範囲で弧状に張り出している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。東西の壁下に壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。第83号竪穴建物に掘り込まれているため，確認できた規模は，焚口部から煙道部まで105cmで，燃焼部幅は56cmである。袖部は床面と同じ高さに粘土のブロックと粒子を主体とした第15・16層を積み上げて構築されている。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめた部分に，ロームブロックを主体とした第17層を埋土して構築されており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。確認できた煙道部は壁外に14cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子多量・炭化粒子・粘土粒子少量
3　暗　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
5　暗　褐　色　炭化粒子・粘土粒子微量
6　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
10　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
11　褐　　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
12　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
13　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
14　暗赤褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
15　灰　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量
16　灰　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子少量
17　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

ピット　7か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ22～30cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ24cm・42cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７は深さ40cmで性格不明である。

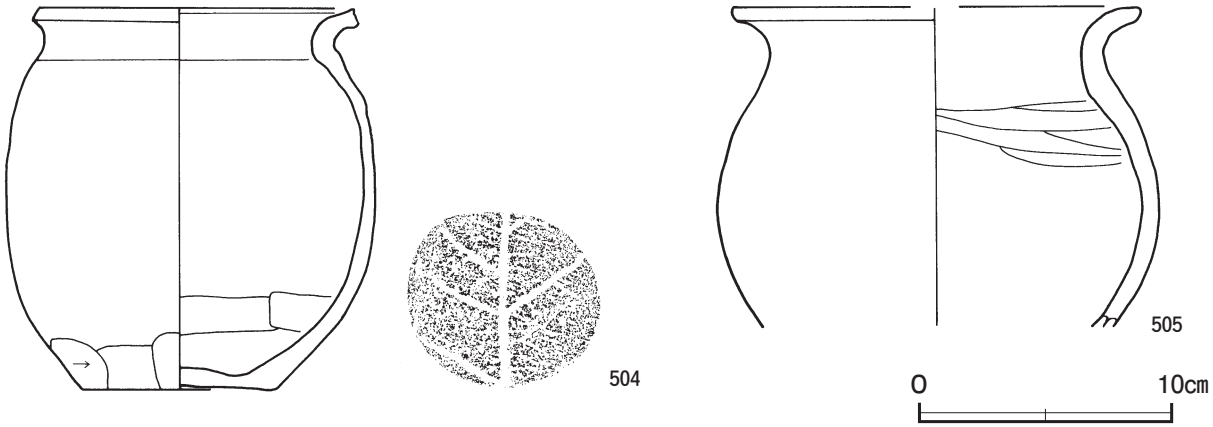
覆土　８層に分層できる。ブロック状の不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

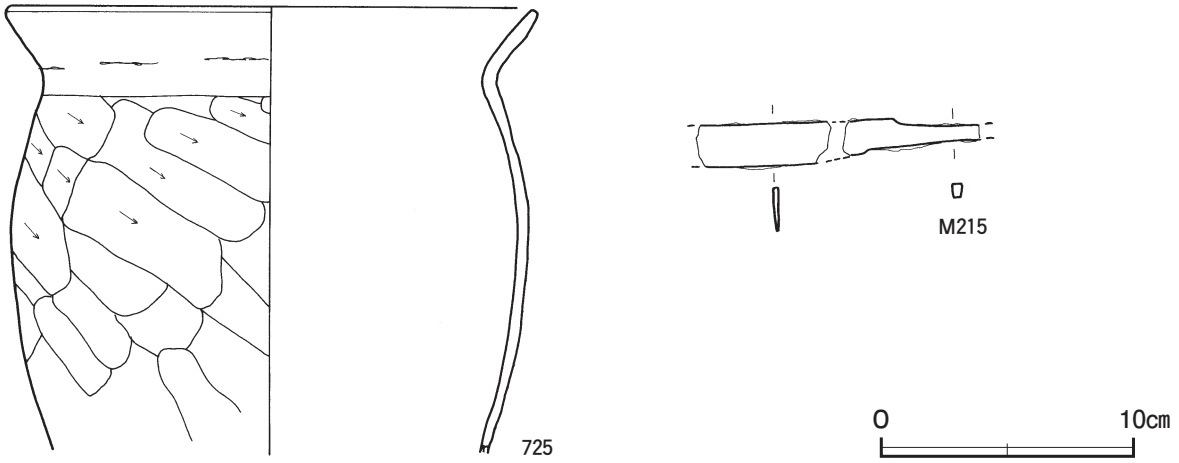
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片149点（坏15, 甕類134），須恵器片36点（坏28, 蓋1，瓶類1，甕類6），鉄製品1点（刀子），鉄滓15点（100.9 g）が出土している。505は中央部西寄りの床面から出土している。504・725は東壁際の覆土下層から出土している。M 215は西壁際の覆土上層から出土している。鉄滓は，全て覆土中からの出土であり，量も少ないことから埋め戻しの際の混入と考えられる。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀前葉に比定できる。



第100図　第84号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 101 図　第 84 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 84 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 100・101 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
504	土師器	小形甕	12.6	15.1	7.8	長石・石英	黒褐	普通	体部下端横位のヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	70%　PL41
505	土師器	小形甕	[16.0]	(12.7)	－	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	外面摩耗のため調整不鮮明　内面横ナデ	床面	20%
725	土師器	甕	20.8	(17.7)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部輪積痕　体部外面斜位のヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	30%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 215	刀子	(11.4)	1.8	0.5	(8.6)	鉄	刃部断面三角形　茎部断面台形	覆土上層	PL53

第 85 号竪穴建物跡（第 102 ～ 105 図）

位置　調査区中央部のＣ７e9 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 780 号土坑を掘り込み，第 474・779 号土坑に掘り込まれている。

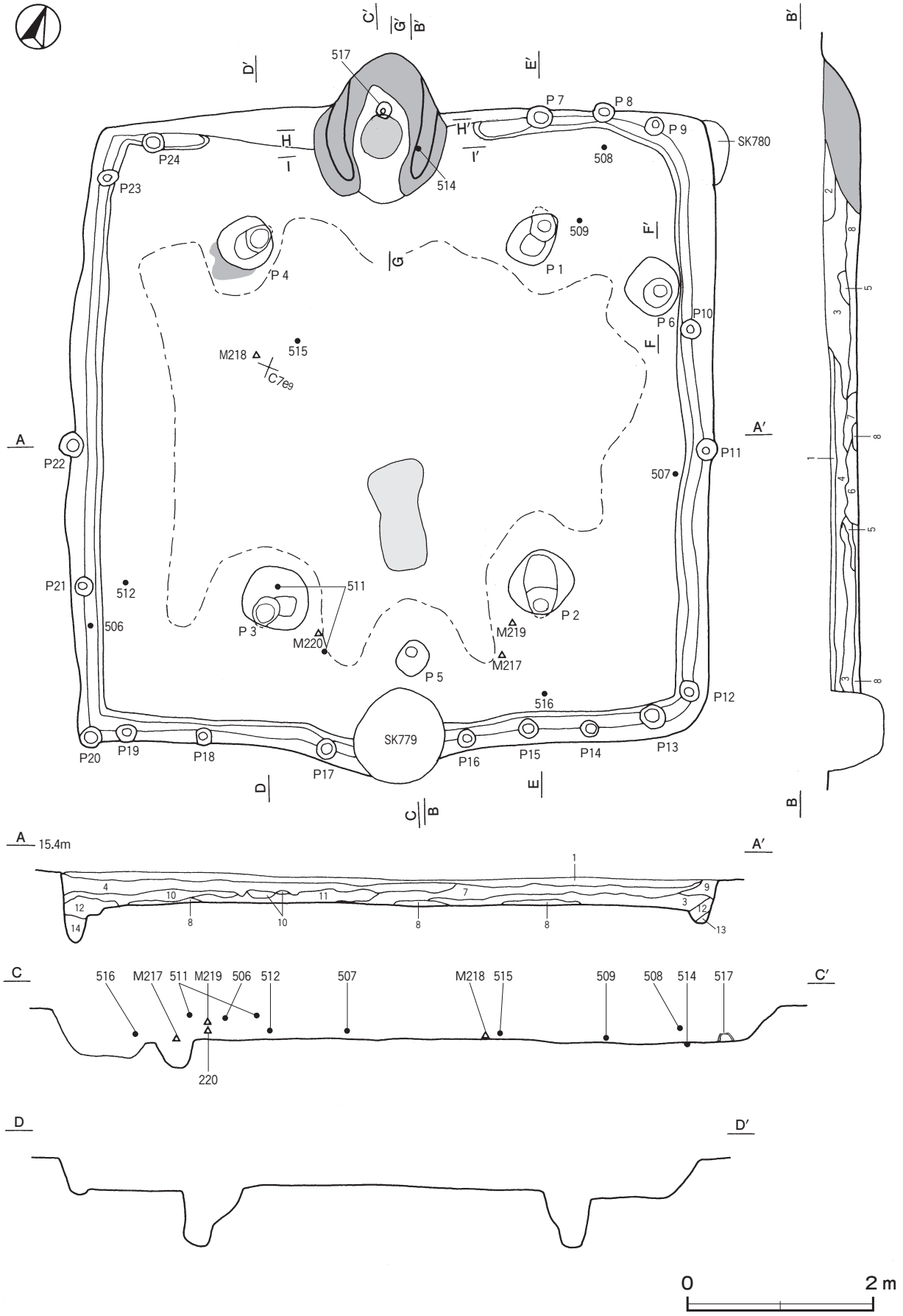
規模と形状　一辺 7.00 mほどの方形で，主軸方向はＮ－ 24°－Ｗである。壁高は 30 ～ 44cmで，外傾して立ち上がっている。南東壁の中央部は，奥行 0.3 m，幅 1.8 mの範囲で弧状に張り出している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。竈両袖脇の一部を除いて，壁下には壁溝が巡っている。Ｐ４付近で，最大幅 1.2 m，高さ５cmほどの不定形の粘土塊を確認した。

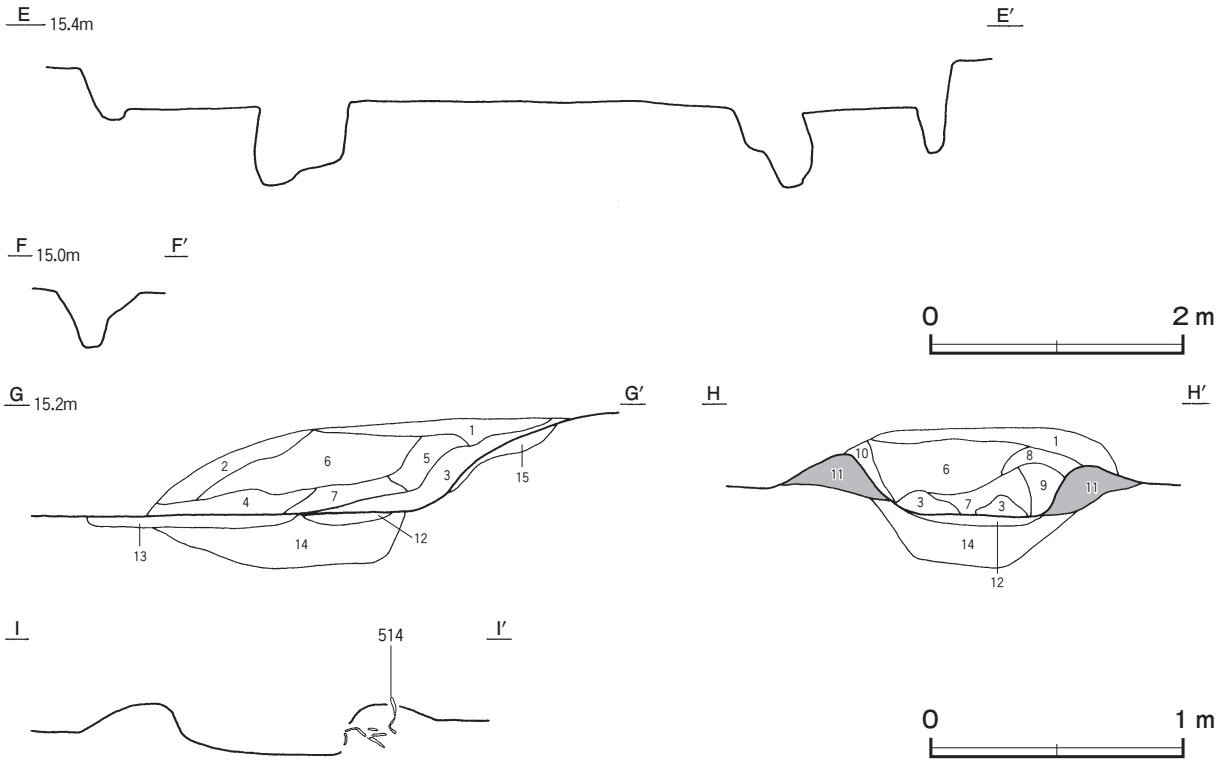
竈　北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 164cmで，燃焼部幅は 62cmである。袖部は，粘土粒子を主体とした第 11 層を積み上げて構築している。右袖部内には 514 の土師器甕が芯材として逆位で据えられている。火床部は，床面から深さ 21cmの皿状に掘りくぼめた部分に暗赤褐色及び暗褐色土の第 12 ～ 14 層を埋土して構築しており，火床面は硬化が弱く，焼土の広がりを確認した。火床部には 517 の土師器甕が逆位で据えられ，支脚に転用されている。煙道部は壁外に 60cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
4　褐　　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
6　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7　極暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，粘土ブロック微量
8　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
9　暗　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
10　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
12　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子中量
13　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，粘土粒子微量
14　暗　褐　色　ローム粒子微量
15　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量



第 102 図　第 85 号竪穴建物跡実測図(1)



第 103 図　第 85 号竪穴建物跡実測図(2)

ピット　24 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 60 ～ 66cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 30cmで，南東壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ 46cmで，性格は不明である。Ｐ７～Ｐ 24 は深さ 25 ～ 60cmで，壁柱穴である。北東・南西壁間でＰ 11 とＰ 22，北西・南東壁間でＰ９とＰ 13，Ｐ８とＰ 14，Ｐ７とＰ 15，Ｐ 24 とＰ 19 がそれぞれ対応している。

覆土　13 層に分層できる。床面上の第３・８層に焼土ブロックが含まれていることや，ブロック状の不自然な堆積状況であることから埋め戻されている。第 14 層はＰ 22 の覆土である。

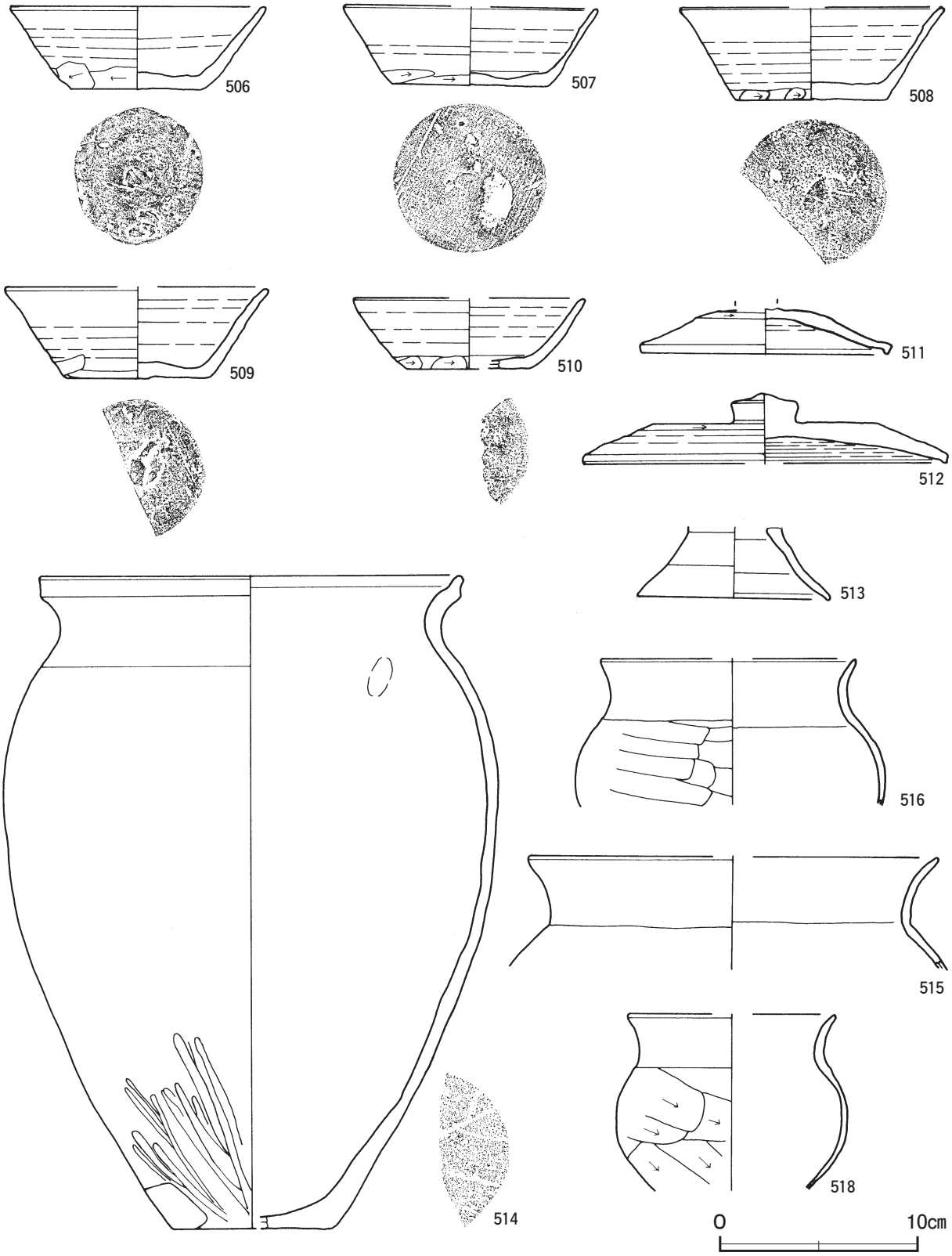
土層解説

1	にぶい褐色	ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
2	暗　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子少量
3	暗　褐　色	炭化物・ローム粒子少量，焼土ブロック微量
4	褐　　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
5	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6	褐　　色	焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
7	褐　　色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8	極暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
9	褐　　色	ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
10	褐　　色	焼土粒子・炭化粒子少量
11	暗　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
12	暗　褐　色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
13	褐　　色	炭化粒子微量
14	暗　褐　色	ローム粒子微量

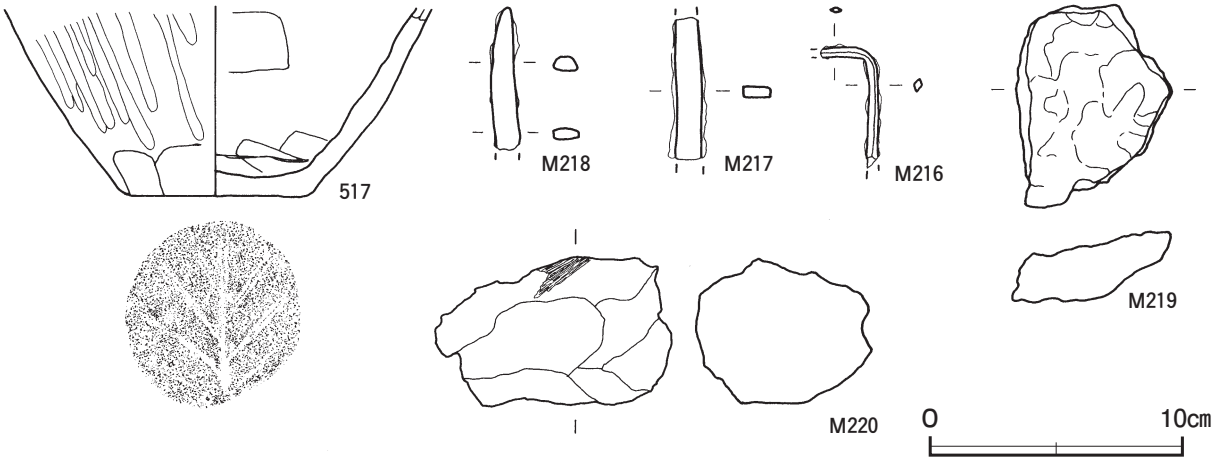
遺物出土状況　土師器片 1161 点（坏 76，高坏１，甕類 1083，甑１），須恵器片 609 点（坏 436，高台付坏７，蓋 36，盤２，壺１，甕類 127），土製品 31 点（支脚 28，羽口３），鉄製品 13 点（鎹ヵ１，不明 12），鉄滓 383 点（4761.2 ｇ），椀状滓７点（47.9 ｇ），炉底塊１点（94.5 ｇ），炉内滓１点（497.3 ｇ）が，北西部を中心とした全域の覆土上層から下層にかけて出土している。517 は竈の火床部に逆位で据えられ，支脚に転用されている。514 は竈の右袖部内から出土しており，袖の芯材として使用されている。M 217 はＰ２とＰ５の中間の床面から出土している。507 は北東壁際，509 は北東部，512 は南西壁際，515 はほぼ中央部，516 は南東壁際，M 218 は中央部やや西寄り，M 220 は中央部南寄りのそれぞれ覆土下層から出土している。508 は北コーナー部付近，M 219 は中央部やや南東寄りのそれぞれ覆土中層から出土している。511 は南部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。506 は南西壁際の覆土上層から出土している。510・513・518・M 216 はいずれも覆土

中からの出土である。炉底塊及び炉内滓を除く鉄滓等の鍛冶関連遺物は，柱穴内から 43.6 g，竈の覆土から 196.1 g，覆土下層から 1762.5 g，覆土上層から 2806.9 g 出土し，覆土中の広い範囲から出土している。建物の廃絶過程で意図的に投棄したものか，あるいは混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 104 図　第 85 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 105 図　第 85 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 85 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 104・105 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
506	須恵器	坏	12.8	4.2	6.8	長石・石英・細礫	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部ナデ	覆土上層	80%　PL38
507	須恵器	坏	[12.8]	4.0	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土下層	60%　PL38 新治窯産
508	須恵器	坏	[13.3]	4.7	7.5	長石・石英・細礫	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部雑なナデ	覆土中層	50%
509	須恵器	坏	[13.2]	4.7	7.0	長石・石英・細礫	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土下層	40% 新治窯産
510	須恵器	坏	[11.6]	3.6	[6.2]	長石・石英	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ削り	覆土中	40%
511	須恵器	蓋	[12.4]	(2.3)	−	長石・石英・細礫	灰	良好	天井部回転ヘラ削り　内面自然釉	覆土上層	90%　PL37
512	須恵器	蓋	[18.2]	3.5	−	長石・石英	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	40%　PL37
513	土師器	台付甕	−	(3.6)	[9.8]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	台部下半ナデ　摩耗のため調整一部不鮮明	覆土中	5 %
514	土師器	甕	21.1	33.2	[8.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下端ヘラ磨き一部ヘラ削り　内面指頭圧痕 摩耗のため一部調整不鮮明	竈右袖内	60%　PL41
515	土師器	甕	[20.8]	(5.8)	−	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部上半横位のヘラ削り後，口縁部・頸部ナデ 体部内面ヘラナデ	覆土下層	10%
516	土師器	甕	[12.8]	(7.5)	−	長石・石英	橙	普通	体部上半横位のヘラ削り後，斜位のヘラ削り 口縁部外・内面ナデ	覆土下層	20%
517	土師器	甕	−	(7.5)	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下半ヘラ磨き　下端ヘラ削り　内面輪積み痕を残すヘラナデ　木葉痕	竈火床部	30%
518	土師器	小形甕	[10.4]	(8.9)	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下半斜位のヘラ削り後，上半横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	20%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 216	鎹ヵ	(4.9)	(2.4)	0.4 ～ 0.5	(5.5)	鉄	両端欠損	覆土中	PL54
M 217	不明鉄製品	(5.7)	1.0	0.5	(25.9)	鉄	両端欠損	床面	PL55
M 218	不明鉄製品	(5.7)	1.1	0.2 ～ 0.6	(8.5)	鉄	端部欠損	覆土下層	
M 219	炉底塊	8.1	6.2	2.8	94.5	鉄	上面発泡　一部銹化　底部に炉壁が薄く付着　着磁性なし	覆土中層	
M 220	炉内滓	5.8	9.5	6.9	497.3	鉄	一部発泡　酸化土砂付着のため明褐色を呈する　一部銹化しているが着磁性有り　木質付着	覆土下層	

第 87 号竪穴建物跡（第 106・107 図）

位置　調査区中央部のＣ７b9 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 323 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北部が調査区域外へ延びているため，東西軸は 5.24 mで，南北軸は 4.70 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，主軸方向はＮ－４°－Ｗである。壁高は 38 ～ 40cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。確認できた壁下には，壁溝が巡っている。西壁付近で，幅

20 ～ 28cm，高さ８cmほどの焼土塊を確認した。

ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２ともに深さ 32cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ３は深さ 18cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　９層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

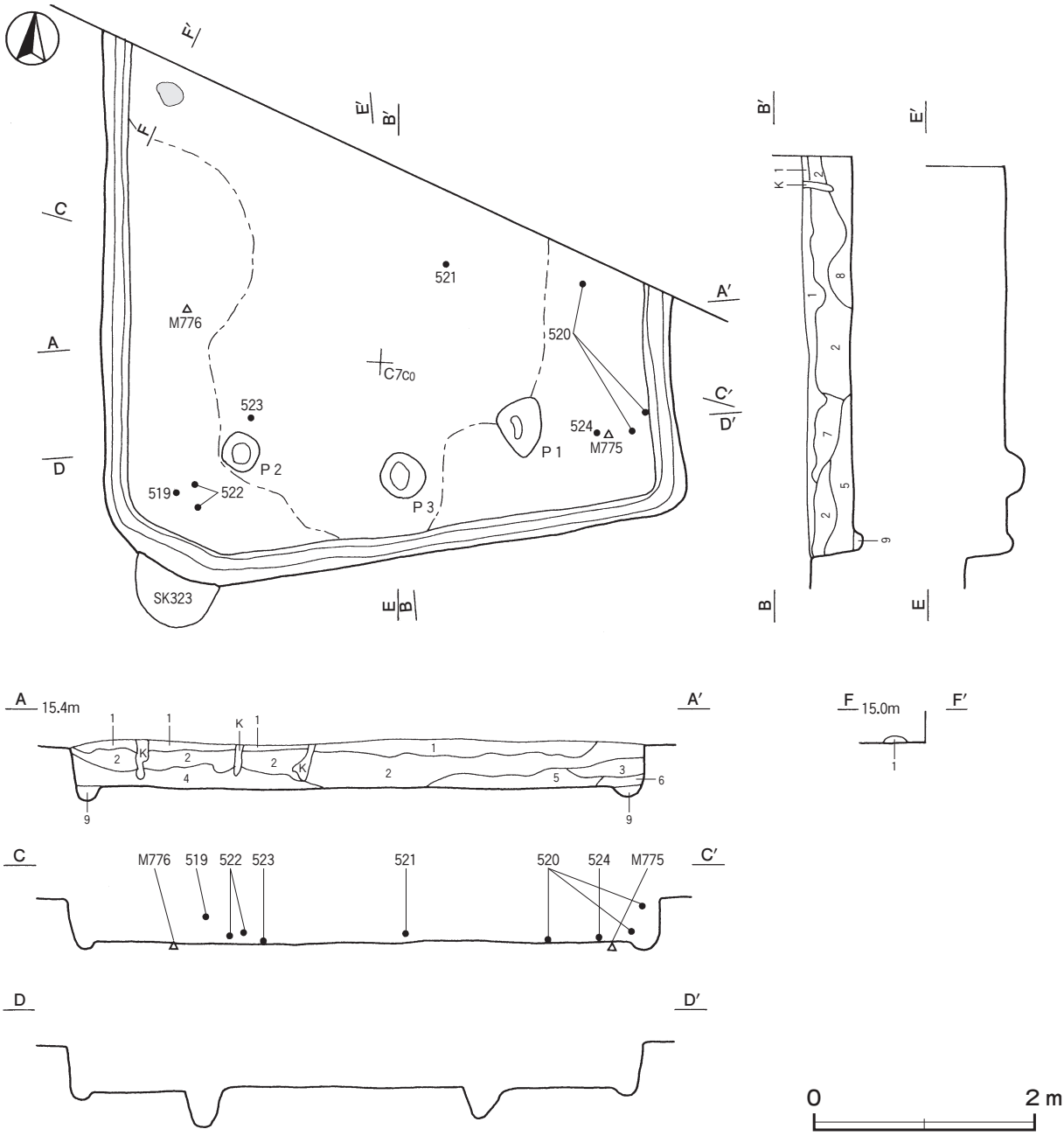
土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
9　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量

焼土塊土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量

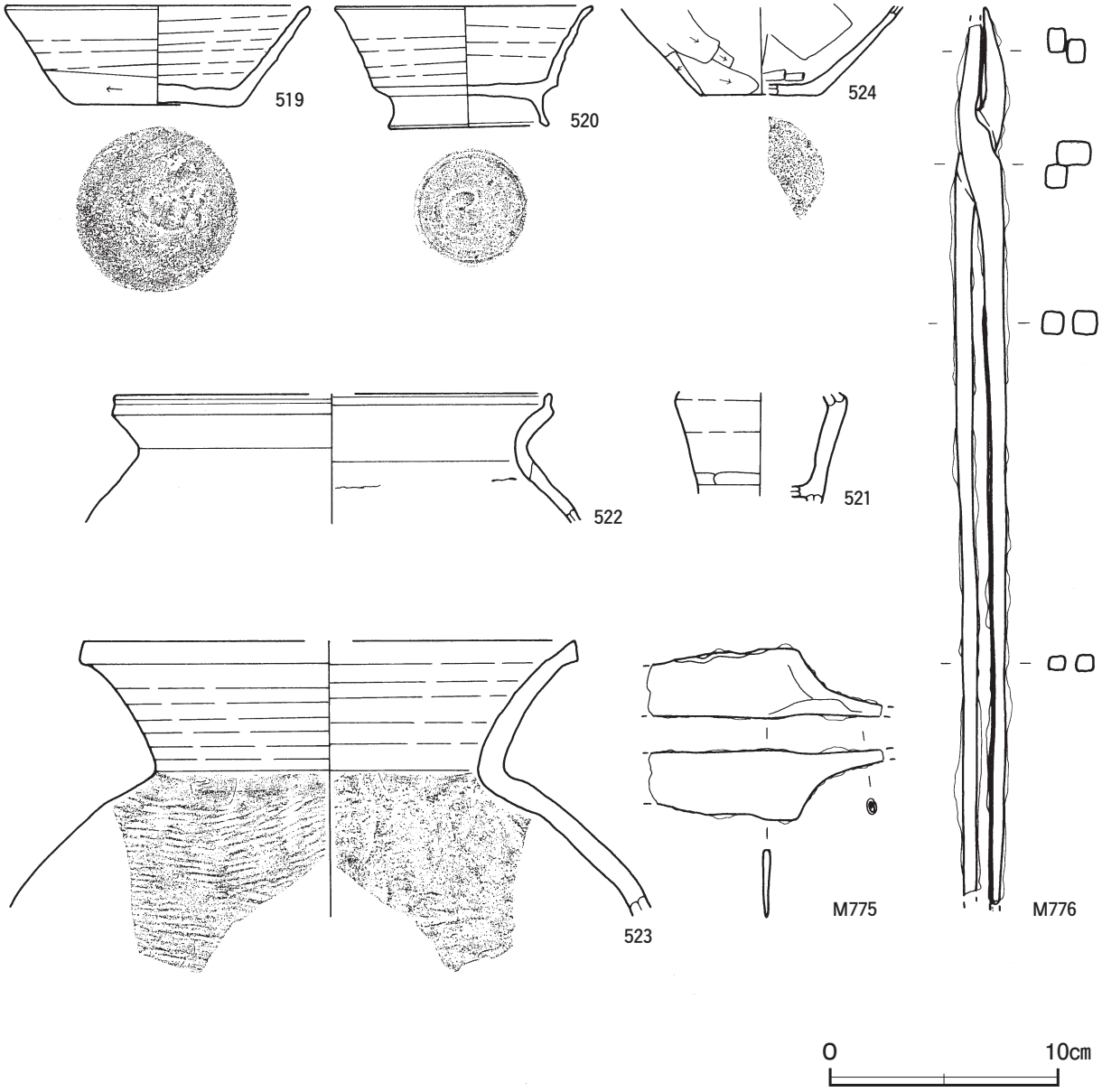
遺物出土状況　土師器片 371 点（坏 18, 高坏１, 甕類 351, 小形甕１), 須恵器片 98 点（坏 68, 高台付坏１, 蓋６,



第 106 図　第 87 号竪穴建物跡実測図

盤１，高盤１，広口壺１，長頸瓶２，甕類 17，甑１），土製品 15 点（支脚 14，羽口１），鉄製品２点（鎌，鉄鉗），鉄滓 126 点（1179.3 ｇ）が，全域の覆土中層から床面にかけて出土している。M 776 は西壁際，M 775 は南東コーナー付近のそれぞれ床面から出土している。521 は中央部，522 は南西コーナー付近，524 は南東コーナー付近，523 はＰ２付近のそれぞれ覆土下層から出土している。520 は東壁際の覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。519 は南西コーナー付近の覆土中層から出土している。出土層位が確認できた鉄滓 1009.5 ｇは，柱穴内から 49.7 ｇ，覆土下層から 336.3 ｇ，覆土中層から 547.1 ｇ，覆土上層から 78.4 ｇ出土している。覆土下層から中層にかけての出土が多いことから，建物の廃絶過程の比較的早い段階で意図的に投棄したものか，あるいは混入したものと考えられる。

所見　焼土塊は，直下の床面が火熱を受けていないことから，埋め戻しの際に混入したものと考えられる。床面から鉄鉗が出土したが，炉がないことや，床面上から鍛造剥片や粒状滓の出土がないことから鍛冶工房とは考えにくく，鍛冶工人が居住していた可能性がある。時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。



第 107 図　第 87 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 87 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 107 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
519	須恵器	坏	13.2	4.4	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部ヘラ削り後ナデ	覆土中層	90%　PL38 新治窯産
520	須恵器	高台付坏	11.2	5.5	7.0	長石・石英・細礫	灰	良好	体部外・内面自然釉	覆土上～下層	60%　PL40
521	須恵器	小形短頸壺	－	(4.3)	－	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	20%
522	土師器	甕	[19.2]	(5.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	にぶい褐	普通	口縁部外・内面ナデ　輪積み痕	覆土下層	10%
523	須恵器	甕	[21.6]	(12.3)	－	長石・石英・細礫	灰	良好	体部外面横位の平行叩き　内面指頭圧痕　口縁部外・内面ナデ	覆土下層	10%
524	土師器	小形甕	－	(3.8)	[5.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端斜位のヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	5 %

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 775	包丁	(10.4)	3.0	0.4	(45.5)	鉄	刃部断面三角形　端部折り返し　刃部先端欠損	床面	PL54
M 776	鉄鉗	(39.6)	2.7	2.0	(254.1)	鉄	一部欠損	床面	PL55

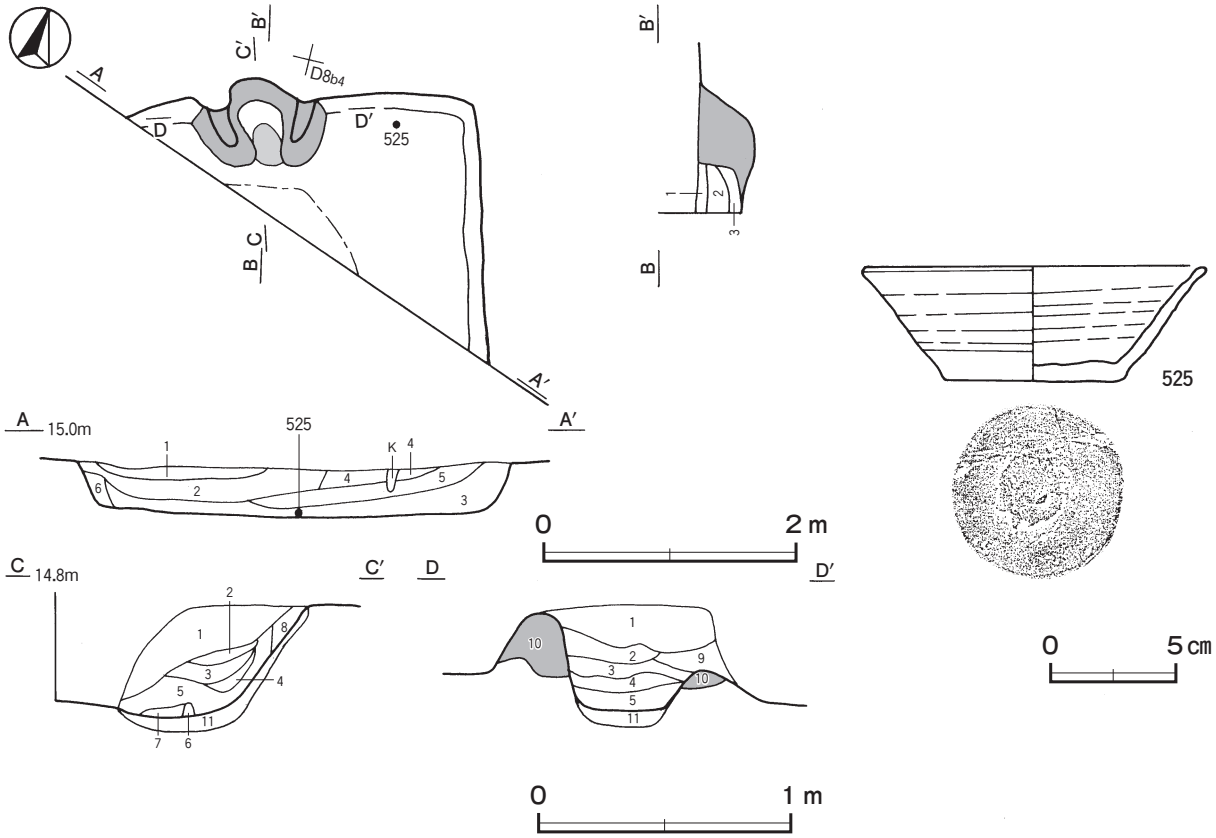
第 90 号竪穴建物跡（第 108 図）

位置　調査区中央部のＤ８b4 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　南西半部が調査区域外へ延びているため，東西軸は 2.76 m，南北軸は 2.00 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，主軸方向は，Ｎ－ 16°－Ｗである。壁高は 35 ～ 40cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前が踏み固められている。

竈　北壁に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 70cmで，燃焼部幅は 30cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし，粘土や焼土の粒子を含む第 10 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を 6 cm



第 108 図　第 90 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ほど浅い皿状に掘りくぼめた部分に，第11層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量
5　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量
7　黒　褐　色　焼土粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
9　黒　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子微量
10　灰　褐　色　焼土粒子多量，粘土粒子中量
11　にぶい褐色　ローム粒子中量

覆土　6層に分層できる。ロームブロックが含まれ，不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
6　極暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片4点（坏1，甕類3），須恵器片8点（坏1，甕類7），土製品1点（支脚），鉄滓4点（89.8 g）が出土している。525は北東コーナー部の床面から逆位で出土している。鉄滓は全て覆土中からの出土であり量も少ないことから，埋め戻しの際の混入であると考えられる。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。

第90号竪穴建物跡出土遺物観察表（第108図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
525	須恵器	坏	13.3	4.6	6.8	長石・石英	灰黄	良好	底部ヘラ切り痕を残すナデ	床面	80%　PL38

第94号竪穴建物跡（第109～111図）

位置　調査区中央部のB7j2区，標高15 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　一辺4.40 mほどの方形で，主軸方向はN－15°－Wである。壁高は34～38cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は，ローム粒子を多く含む褐色土の第10層を埋土して構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cmで，燃焼部幅は78cmである。袖部は，地山を掘り残して基部とし，ローム粒子を主体とした第9層を積み上げて構築されている。火床部は床面を7cmほど皿状に掘り込み，ローム粒子を主体とした第10層を埋土して構築されている。火床面の赤変硬化は認められない。煙道部は，壁外に60cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量
3　褐　　色　焼土粒子少量
4　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5　褐　　色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
6　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8　黒　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子微量
9　にぶい褐色　ローム粒子中量，粘土粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　3か所。P1は深さ32cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3は深さ16cm・20cmで，性格不明である。

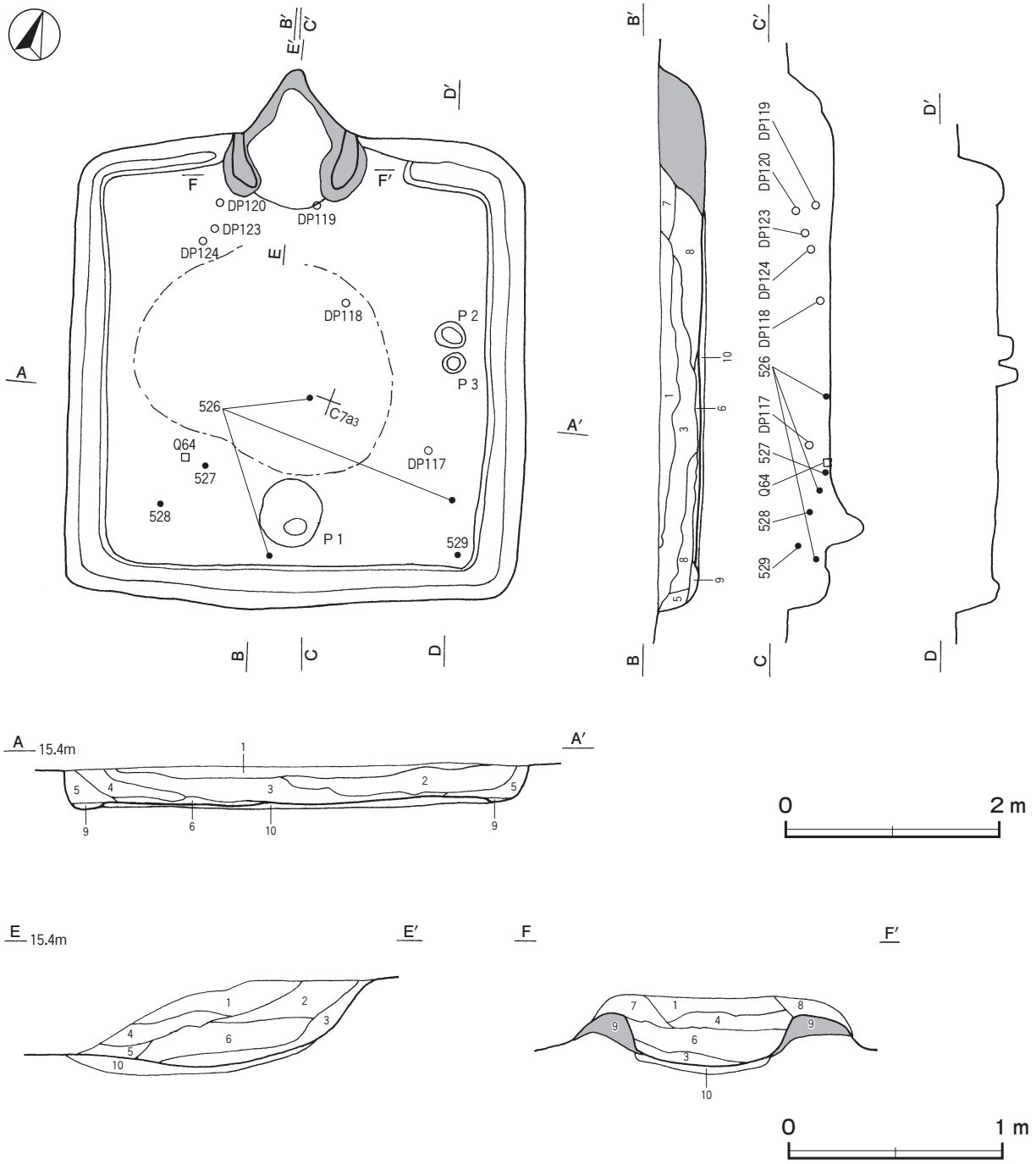
覆土　9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれる不自然な堆積状況を示していることから埋め

戻されている。第10層は貼床の構築土で，締まりは強い。

土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　炭化物・焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
9　褐　　色　ローム粒子少量
10　にぶい褐色　ローム粒子中量

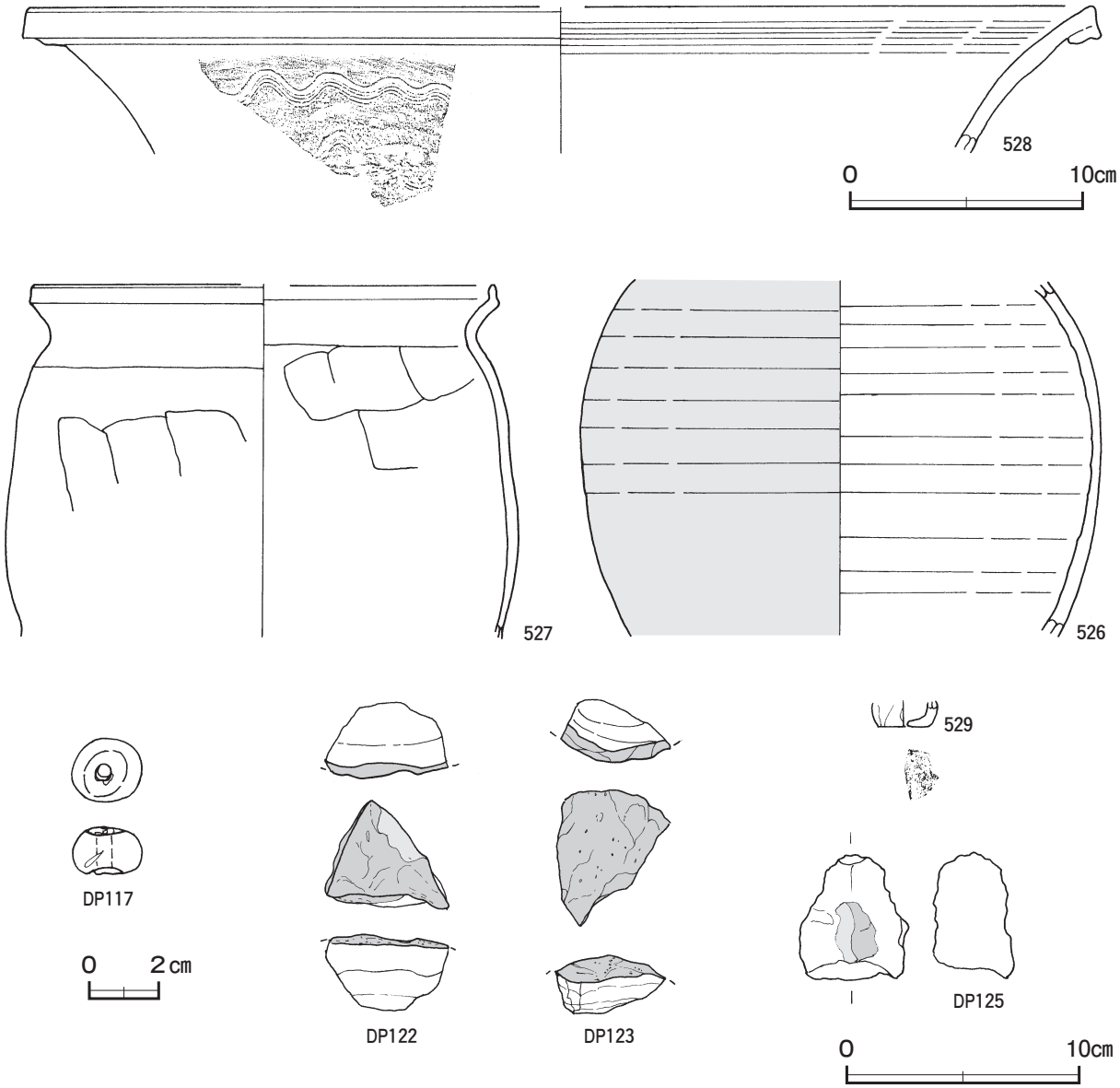
遺物出土状況　土師器片242点（坏40，高台付坏1，甕類201），須恵器片55点（坏21，蓋6，高盤1，短頸壺1，甕類26），灰釉陶器1点（長頸瓶），手捏土器1点（坏），土製品151点（土玉1，支脚137，羽口9），炉壁材4点，石器2点（凹石，砥石），鉄製品4点（不明），鉄滓117点（4320.8 g），椀状滓1点（196.1 g）



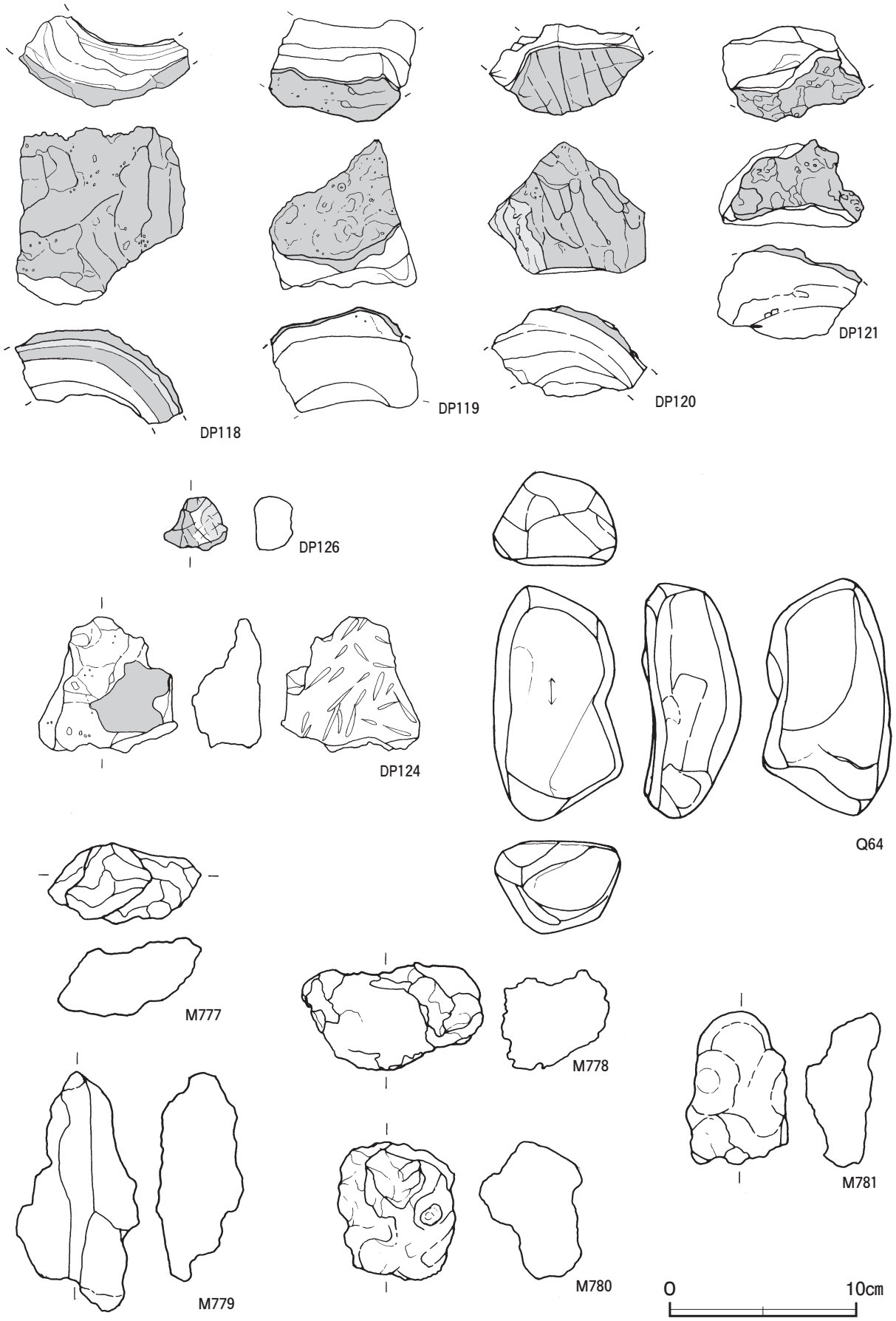
第109図　第94号竪穴建物跡実測図

が，北東部を中心とした覆土中層から下層にかけて出土している。Q 64 は南西部の床面から出土している。526 は南部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。527 は南西部，DP118 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。528 は南西部，DP117 は南東部，DP119・DP123・DP124 は北部の覆土中層からそれぞれ出土している。529 は南東コーナー部，DP120 は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。DP121・DP122・DP125・DP126，M 777 ～M 781 は覆土中から出土している。出土層位が確認できた鉄滓 3570.1 g は，竈の覆土中から 21.6 g，覆土下層から 416.8 g，覆土中層から 2361.7 g，覆土上層から 770.0 g 出土しており，北東部から多く出土している。覆土中層からの出土が多いことから，埋め戻しの過程で北東側から投棄されたものと考えられる。

所見　DP118 ～ DP120･DP123 は推定径 14.6 ～ 19.0cm, 推定孔径が 6.0 ～ 10.0cmの羽口片で大型であることから，製鉄炉用の羽口と考えられる。また，出土した炉壁材も胎土がガラス質に滓化しており，製鉄炉の炉壁の可能性がある。本跡付近に製鉄炉があり，その廃材等を北東側から投棄したと考えられる。時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。



第 110 図　第 94 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 111 図　第 94 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 94 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 110・111 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
526	灰釉陶器	長頸瓶	－	(15.3)	－	長石・石英	灰黄	良好	外面ロクロナデ	覆土下層	20%
527	土師器	甕	[19.8]	(15.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り痕を残すナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	40%
528	須恵器	甕	[51.0]	(7.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	良好	口縁部外面櫛歯状工具（４条１単位）による波状文２列　口縁部内面工具痕	覆土中層	10% 新治窯産
529	手捏土器	坏	－	(1.1)	[2.2]	赤色粒子	橙	普通	外内面ナデ	覆土上層	30%

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP117	土玉	1.8 ～ 2.0	1.4	0.5	4.6	長石	全面ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	PL48

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	色　　調	出土位置	備　考
DP118	羽口	(9.8)	(9.1)	(4.8)	(238.7)	長石・石英・赤色粒子	外面全面滓化　推定径 19.0cm　推定孔径 8.0cm	覆土下層	
DP119	羽口	(8.0)	(7.9)	(5.5)	(183.7)	長石・石英	外面滓化　一部ガラス質の滓付着　推定径 17.0cm 推定孔径 10.0cm	覆土中層	
DP120	羽口	(7.0)	(8.3)	(4.9)	(123.4)	長石・石英	外面ほぼ滓化　推定径 15.0cm　推定孔径 6.0cm	覆土上層	
DP121	羽口	(4.7)	(7.6)	(5.0)	(93.8)	長石・石英	外面全面滓化　一部発泡　推定径 20.0cm	覆土中	
DP122	羽口	(4.6)	(5.4)	(3.3)	(53.0)	長石・石英	外面全面滓化　一部ガラス質の滓付着	覆土中	
DP123	羽口	(5.8)	(4.8)	(2.6)	(40.7)	長石・石英	外面全面滓化　一部ガラス質の滓付着　推定径 14.6cm	覆土中層	
DP124	炉壁材	7.2	7.5	3.7	161.5	長石・石英	断面一部ガラス質に滓化　スサを練り込んだ痕跡あり	覆土中層	
DP125	炉壁材	5.4	4.8	3.5	79.2	長石・石英	断面一部ガラス質に滓化　鉄滓付着	覆土中	
DP126	炉壁材	2.9	3.3	2.1	17.6	石英	一部ガラス質に滓化	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 64	砥石	12.6	6.8	5.3	493.5	流紋岩	砥面一面	床面	PL51

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 777	椀状滓	4.3	8.1	3.9	196.1	鉄	全面銹化　一部発泡　ガラス質の滓付着　着磁性なし	覆土中	
M 778	鉄滓	5.8	9.8	5.7	440.1	鉄	一部銹化　全面に酸化土砂が付着し黄褐色を呈する　着磁性弱い	覆土中	
M 779	鉄滓	12.8	6.6	4.6	390.4	鉄	一部銹化　一部酸化土砂が付着し赤褐色を呈する　着磁性弱い	覆土中	
M 780	鉄滓	7.4	6.3	5.5	304.2	鉄	全面に酸化土砂が付着し黄褐色を呈する　着磁性弱い	覆土中	
M 781	鉄滓	8.3	5.5	3.9	210.0	鉄	酸化土砂が付着し褐色を呈する　一部銹化　着磁性弱い	覆土中	

第 96 号竪穴建物跡（第 112 図）

位置　調査区中央部のＣ８j5 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 418 号土坑に掘り込まれている。第 422 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状　長軸 3.62 m，短軸 3.24 mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－ 13°－Ｗである。壁高は 14 ～ 20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，東西壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は，確認面から最大 32cmほど平坦に掘りくぼめ，ローム粒子主体の暗褐色土の第 11 層を埋土して構築されている。

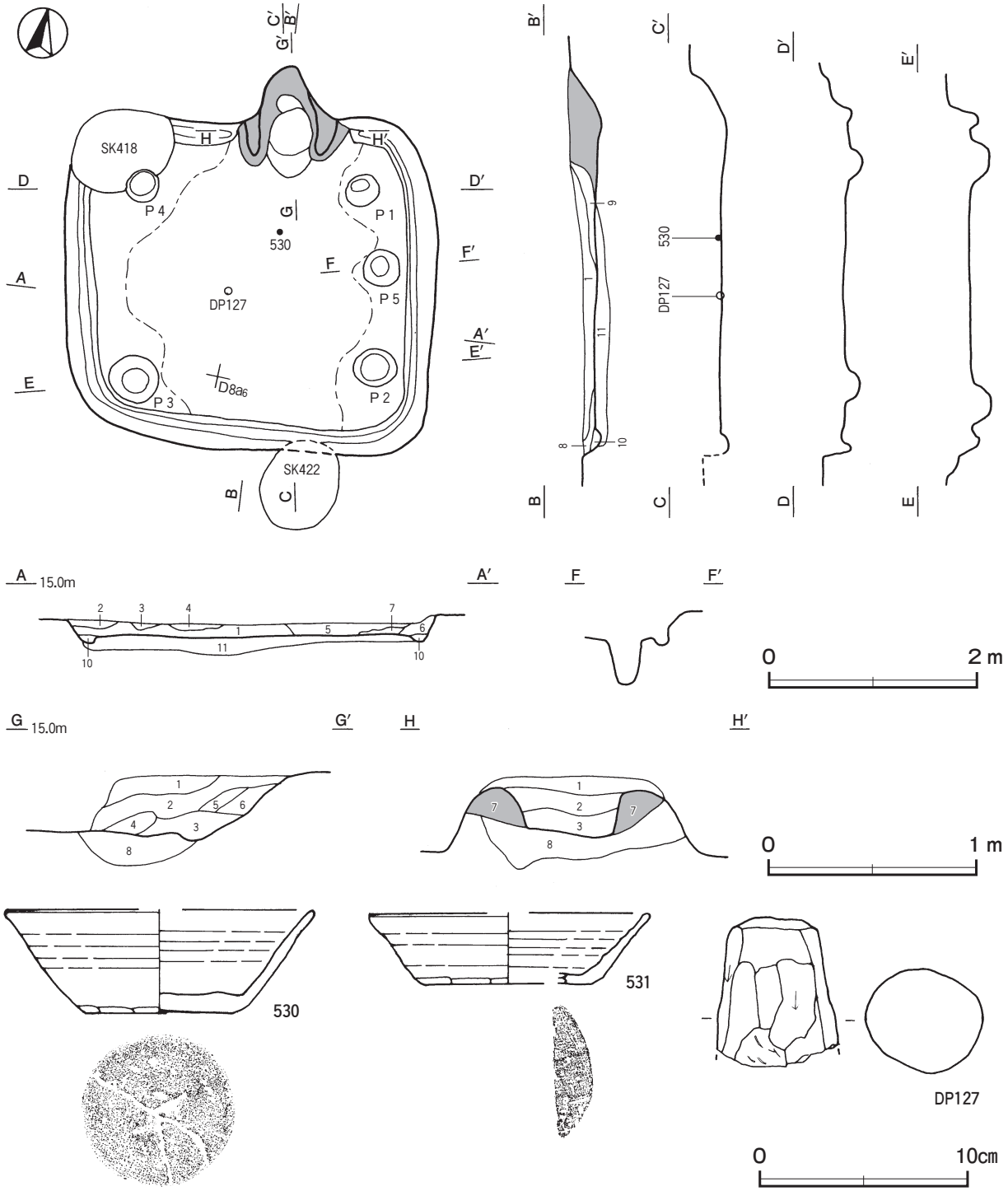
竈　北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 108cmで，燃焼部幅は 42cmである。袖部は，左袖部に一部地山を掘り残し，その内側から右袖部にかけてを床面から深さ 16cmの皿状に掘りくぼめた部分に，第８層を埋土して，粘土粒子を含む第７層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は赤変，硬化ともに弱い。煙道部は壁外に 54cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　灰　褐　色　粘土粒子中量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量

ピット　5か所。P 1～P 4は深さ12～18cmで，配置から主柱穴である。P 5は深さ48cmで，東壁際の中央部に位置していることや，硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　10層に分層できる。ロームや焼土のブロックが含まれており，ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。第11層は貼床の構築土で，締まりは強い。



第112図　第96号竪穴建物跡・出土遺物実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　炭化粒子少量
4　極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
9　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量
11　暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片 30 点（坏 6，甕類 24），須恵器片 34 点（坏 29，長頸瓶 1，甕類 4），土製品 14 点（支脚 13，羽口 1），鉄滓 9 点（87.2 g）が出土している。DP127 は中央部の床面から，530 は中央部やや竈寄りの覆土下層から，531 は覆土中からそれぞれ出土している。鉄滓は，竈の覆土中から 5.1 g，覆土中から 82.1 g 出土している。出土位置に偏りがないことや少量の出土であることから，埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。

第 96 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 112 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
530	須恵器	坏	[14.8]	5.0	7.2	長石・石英	灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部ナデ	覆土下層	60%　PL38
531	須恵器	坏	[13.4]	3.4	[8.0]	長石・石英	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土中	30%

番号	器　種	長さ	最小径	最大径	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP127	支脚	(7.2)	4.2	(5.9)	(173.9)	長石・石英・赤色粒子	橙	ヘラ削り	床面	

第 97 号竪穴建物跡（第 113 ～ 115 図）

位置　調査区中央部のＣ６e0 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 456 号土坑を掘り込み，第 26 号溝に掘り込まれている。

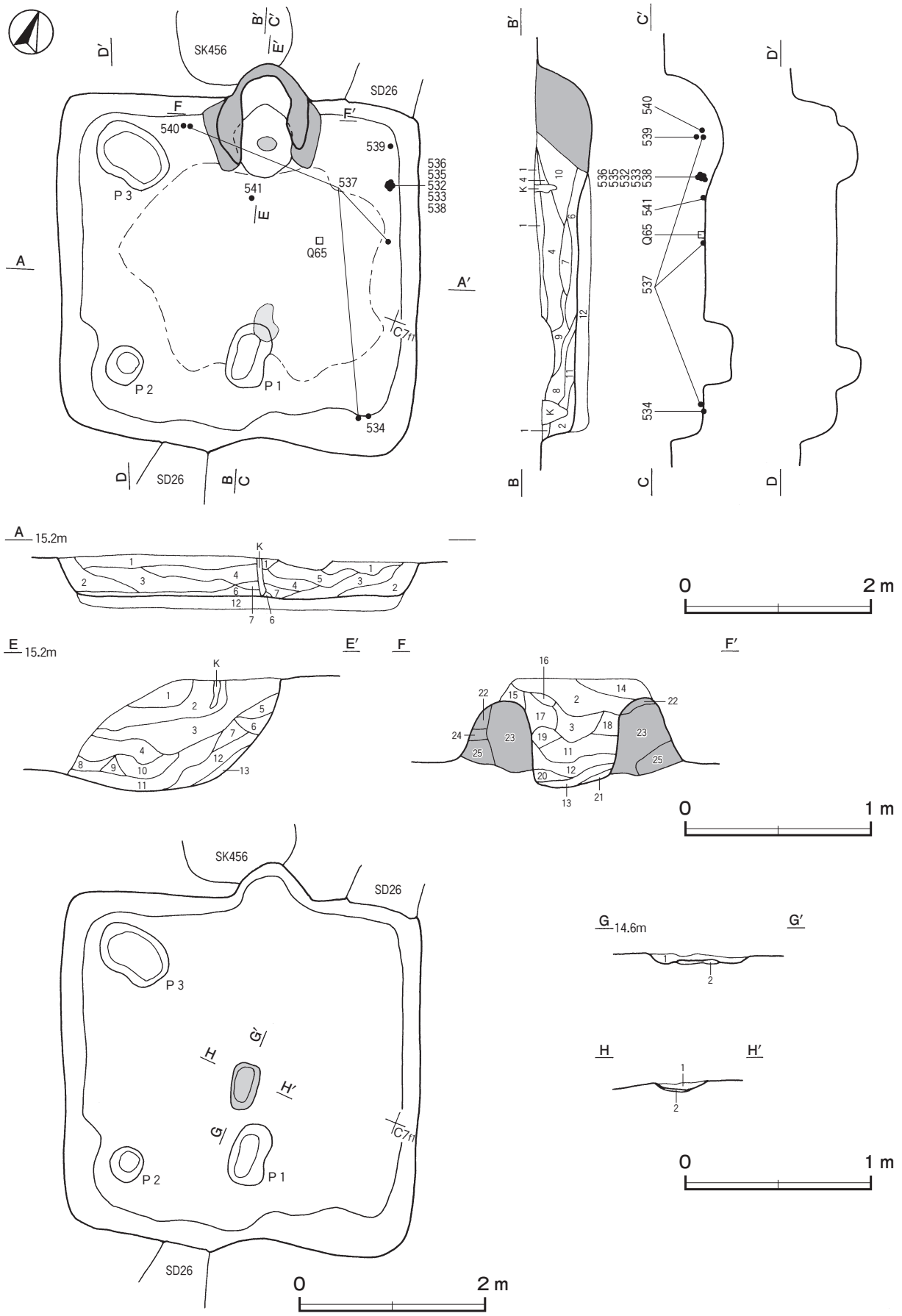
規模と形状　一辺 3.90 mほどの方形で，主軸方向はＮ－ 19°－Ｗである。壁高は 32 ～ 48cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。中央部やや南寄りの床面で，幅 20 ～ 40cm，高さ 13cmほどの不定形の焼土塊を確認した。貼床は，確認面から 50 ～ 58cmほど平坦に掘りくぼめ，ローム粒子を含む暗褐色土の第 12 層を埋土して構築されている。貼床の構築土を除去した後，地山面で炉を確認した。

竈　北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 110cmで，燃焼部幅は 58cmである。袖部は，床面を６～８cmほど掘りくぼめ，粘土粒子を主体とした第 22 ～ 25 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 13cmほど皿状に掘りくぼめており，火床面はわずかに焼土の広がりを確認したのみである。煙道部は壁外へ 25cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量
3　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量
5　褐　　色　粘土粒子少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
7　暗　褐　色　焼土ブロック少量，炭化物・粘土粒子微量
8　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量
9　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土ブロック・粘土粒子少量
11　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
12　暗　褐　色　粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
13　暗　褐　色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
14　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
15　褐　　色　粘土粒子微量
16　灰　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
17　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
18　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
19　暗　褐　色　粘土粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
20　暗　褐　色　焼土粒子微量
21　褐　　色　炭化粒子微量
22　灰　褐　色　粘土粒子多量（粘性弱い）
23　灰　褐　色　粘土粒子多量（粘性普通）
24　褐　　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
25　灰　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子微量



第 113 図　第 97 号竪穴建物跡実測図

炉　地山面の中央部に付設されている。長径53cm，短径30cmの楕円形で，地床炉である。地山面から炉床部までの深さは４cmで，炉床面でわずかに焼土の広がりを確認した。炉床部及び覆土中から鉄滓や椀状滓が出土した。炉周辺からは鍛造剥片や粒状滓等は確認できなかった。第２層は炉の掘方への埋土である。

炉土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量，鉄滓を含む	
2	褐　　色	ローム粒子中量	

ピット　３か所。Ｐ１は深さ28cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２・Ｐ３は深さ26cmで，性格は不明である。

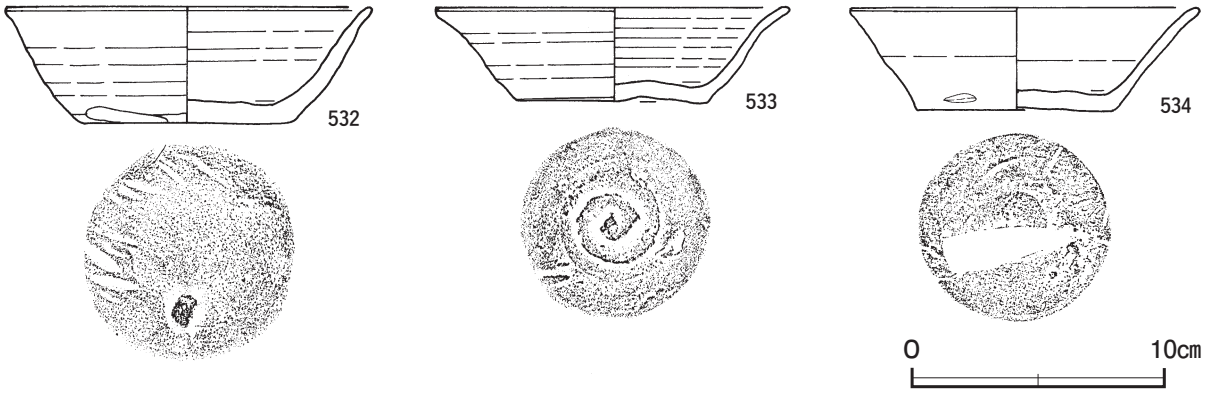
覆土　11層に分層できる。ブロック状の不自然な堆積状況を示すことから埋め戻されている。第12層は貼床の構築土で，締まりは強い。

土層解説

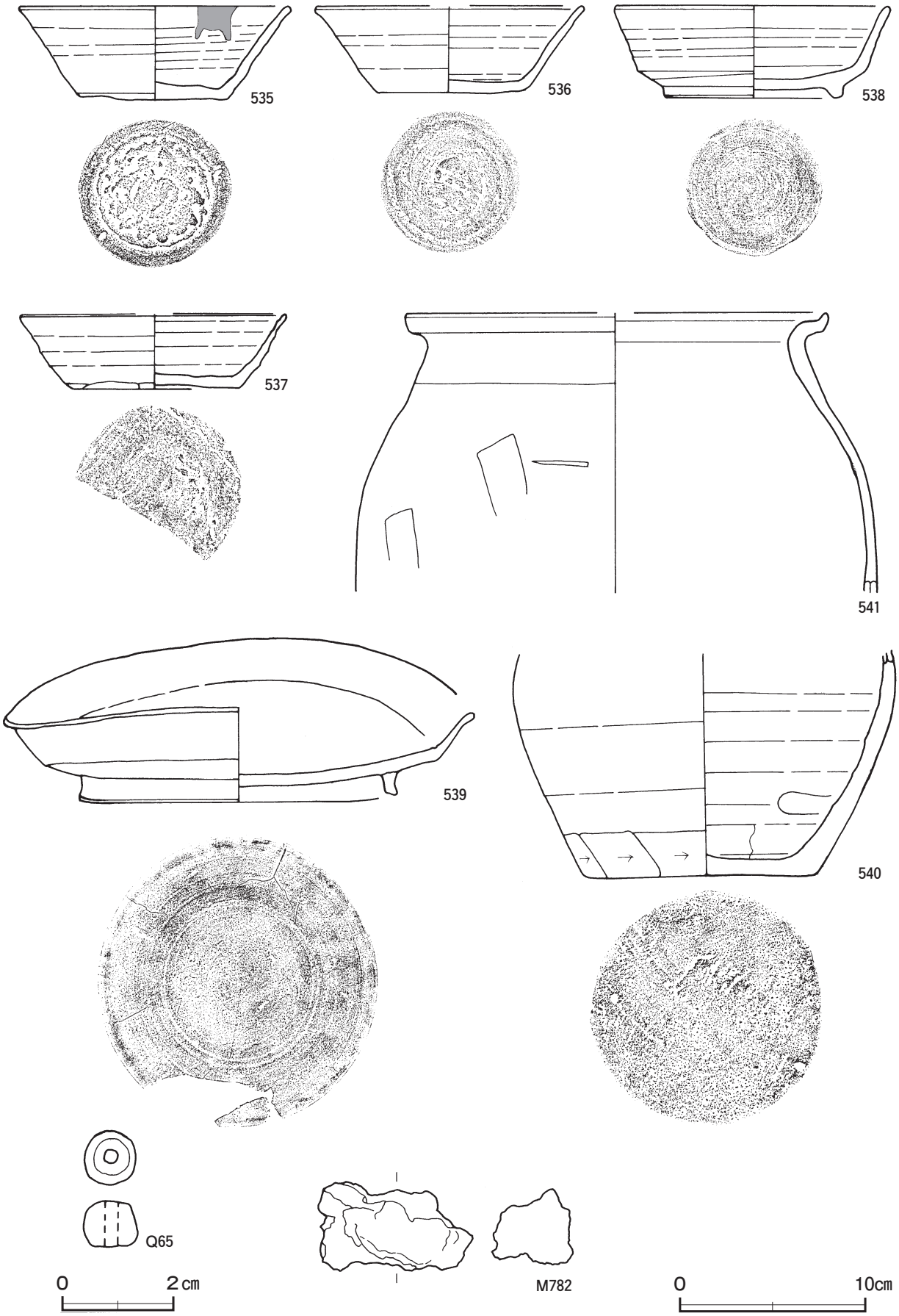
1	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子微量	
2	褐　　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	
3	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
4	極暗褐色	ローム粒子少量，炭化物微量	
5	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	
6	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
7	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量	
8	黒　褐　色	ロームブロック・粘土粒子中量，炭化粒子少量	
9	暗　褐　色	焼土粒子・炭化粒子微量	
10	極暗褐色	炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量	
11	黒　褐　色	ロームブロック微量	
12	暗　褐　色	ローム粒子中量	

遺物出土状況　土師器片62点（坏９，甕類53），須恵器片41点（坏32，高台付坏１，盤１，鉢１，甕類６），土製品４点（支脚３，不明１），炉壁材１点，石器１点（磨石），石製品１点（丸玉），鉄滓327点（1678.3ｇ），椀状滓１点（168.0ｇ）が出土している。東壁際北寄りの床面から，下から538・533・532・535・536の順で，正位で重なって出土している。537は東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。539は北東コーナー部，534は南東コーナー部，540は北壁際の覆土下層からそれぞれ正位で出土している。541は北部，Ｑ65は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。Ｍ782と椀状滓は炉の覆土中から出土している。鉄滓1678.3ｇは，炉の覆土中から862.9ｇ，竈の覆土中から29.6ｇ，床面から86.9ｇ，覆土下層から503.4ｇ，覆土中層から178.2ｇ，覆土上層から17.3ｇ出土している。覆土中層から下層にかけて多く出土していることから，埋め戻しの際に，混入したものと考えられる。

所見　本跡は，地山を床面として使用していた古時期と，その後貼床を構築して床面としていた新時期の二時期が認められる。古時期では，床面中央部に炉が付設されており，鍛冶工房として使用されていた可能性がある。新時期では，炉を廃棄し，竈を設けて住居として使用していたと考えられる。焼土塊は，直下の床面が火を受けていないことや，Ｐ１の上面に堆積していることから，埋め戻しの際に混入したものと考えられる。時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。



第114図　第97号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 115 図　第 97 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第97号竪穴建物跡出土遺物観察表（第114・115図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
532	須恵器	坏	14.4	4.6	8.1	長石・石英	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部多方向のヘラ削り一部工具痕	床面	95%　PL38
533	須恵器	坏	14.0	3.7	7.7	長石・石英	灰白	良好	底部回転ヘラ切り離し後ナデ	床面	90%　PL38
534	須恵器	坏	13.7	4.1	7.8	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ切り離し後ナデ	覆土下層	85%　PL39
535	須恵器	坏	14.6	5.1	8.0	長石・石英	にぶい黄	良好	口縁部内面一部油煙付着　底部回転ヘラ切り離し	床面	90%　PL39
536	須恵器	坏	[14.5]	4.7	7.8	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ切り離し後ナデ	床面	55%
537	須恵器	坏	[14.3]	4.0	9.0	長石・石英	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	覆土下層	50% 新治窯産
538	須恵器	高台付坏	14.6	5.0	9.2	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　高台貼付	床面	80%　PL41
539	須恵器	盤	25.6	6.7	17.0	長石・石英	灰	良好	底部ロクロナデ　変形顕著	覆土下層	90%　PL41
540	須恵器	甕	－	(12.0)	12.5	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　内面ナデ　底部一方向のヘラ削り	覆土下層	50% 新治窯産
541	土師器	甕	[22.6]	(15.2)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面一部ヘラ削り	覆土下層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 65	丸玉	1.0	0.8	0.3	0.9	チャート	一方向からの穿孔　全面研磨	覆土下層	PL52

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 782	鉄滓	4.9	8.3	4.4	119.6	鉄	全面銹化　酸化土砂付着のためにぶい褐色を呈す　一部発泡着磁性なし	炉覆土中	

第98号竪穴建物跡（第116・117図）

位置　調査区中央部のＢ４g2区，標高17ｍほどの東へ下る緩斜面部に位置している。

重複関係　第20号地下式坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺4.90ｍほどの隅丸方形で，主軸方向はＮ－43°－Ｗである。壁高は４～14cmで，外傾して立ち上がっている。

床　確認できた床面は平坦で，硬化面は確認できなかった。西コーナー部から南東壁にかけて壁溝が巡っている。

竈　北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで84cmで，燃焼部幅は64cmである。袖部は，地山を掘り残して基部とし，粘土粒子を主体とした第11層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を10cmほど皿状に掘り込み，第12層を埋土して構築されており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に36cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗褐色　焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
3　暗褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子微量
7　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子微量
9　暗赤褐色　焼土粒子少量
10　暗赤褐色　炭化粒子微量
11　灰褐色　粘土粒子中量，ロームブロック微量
12　にぶい赤褐色　焼土粒子中量

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ40～56cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ26cmで，南東壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～Ｐ８は深さ13～50cmで，性格は不明である。

覆土　２層に分層できる。ロームや焼土のブロック，炭化物が含まれていることから埋め戻されている。

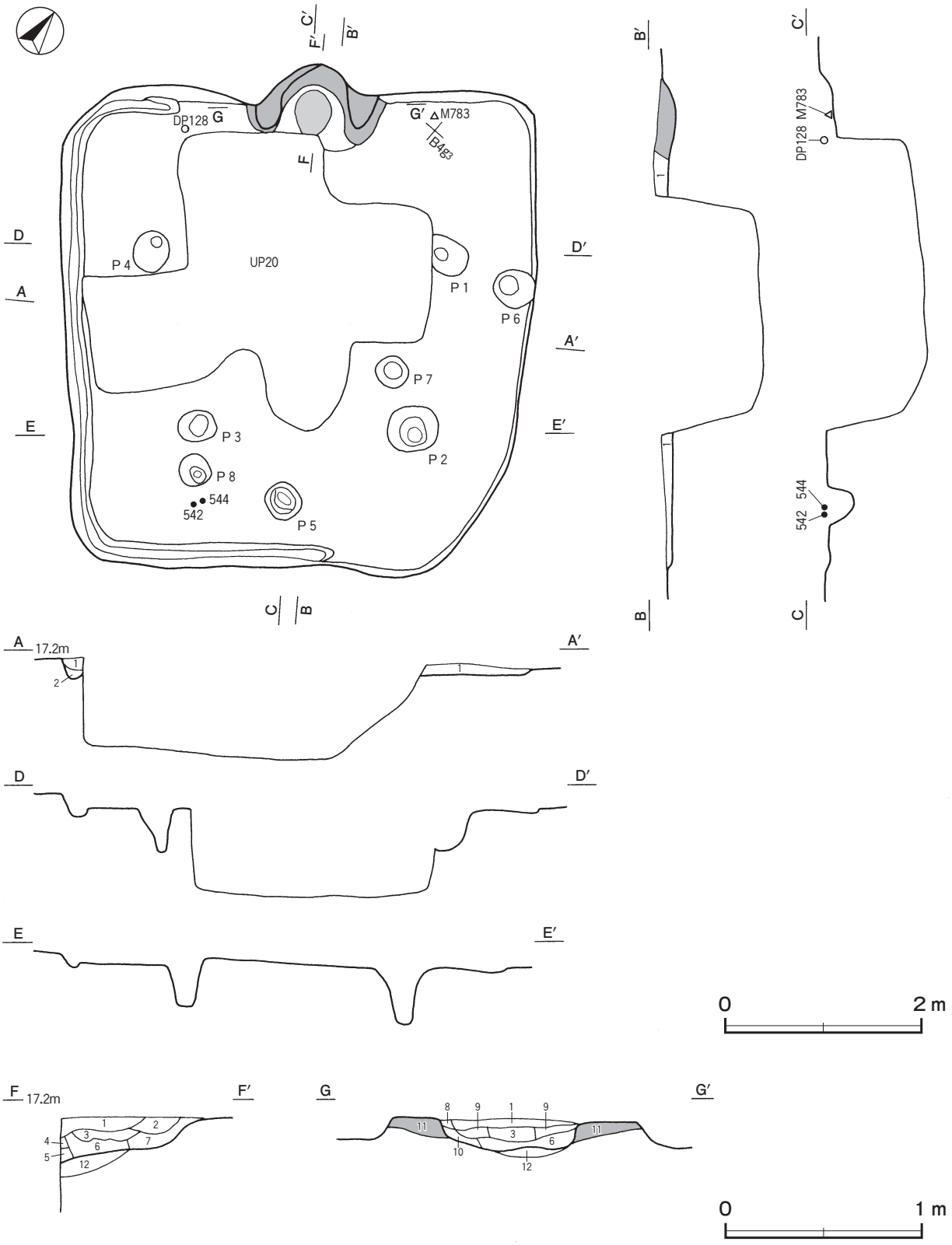
土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
2　暗褐色　炭化粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量

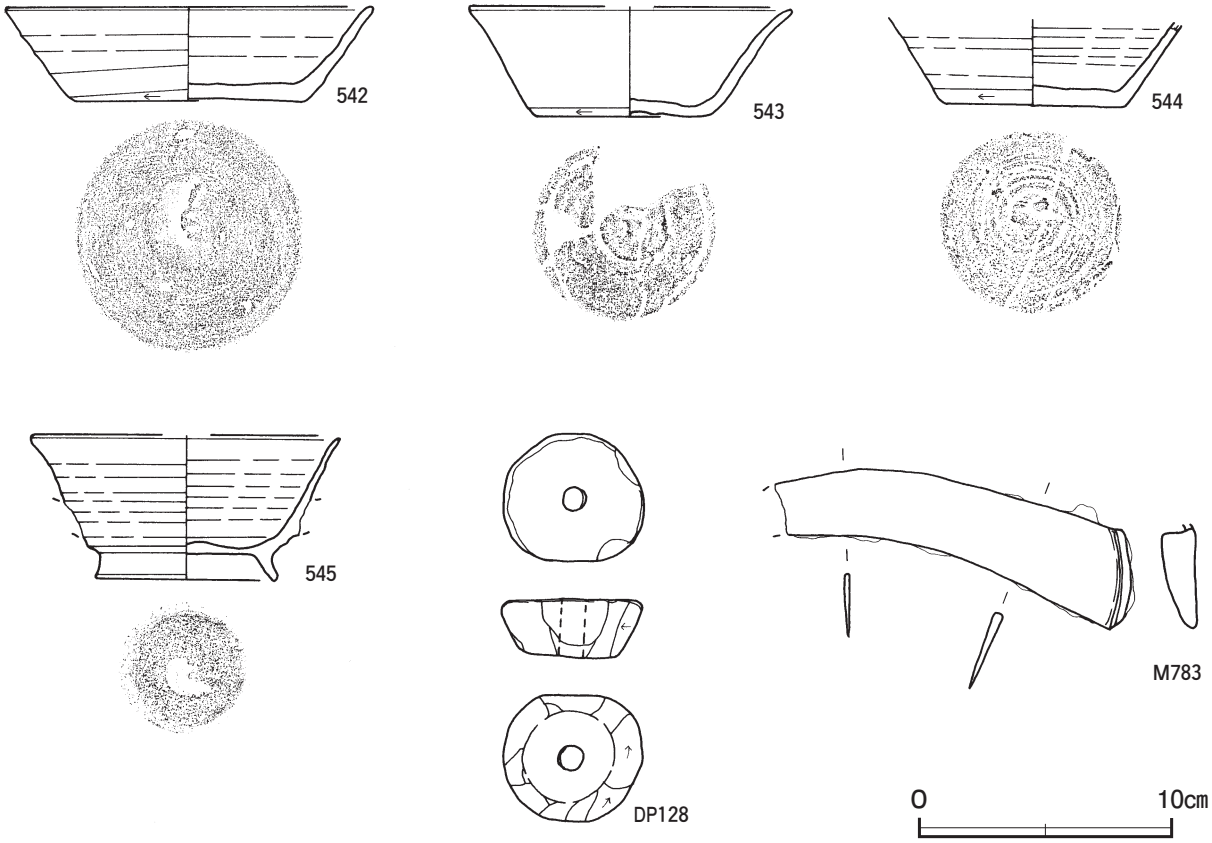
遺物出土状況　土師器片64点（甕類），須恵器片57点（坏48，高台付坏２，双耳坏１，蓋３，甕類３），土製品５点（支脚４，紡錘車１），鉄製品１点（鎌），鉄滓56点（735.3ｇ）が出土している。542・544は南部，

M783は北西壁際北寄りの覆土下層から出土している。DP128は北西壁際西寄りの覆土中層から出土している。543・545は覆土中から出土している。鉄滓は，竈の覆土中から56.8 g，壁溝の覆土中から376.3 g，覆土中から302.2 g出土している。埋め戻しの過程で，混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第116図　第98号竪穴建物跡実測図



第 117 図　第 98 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 98 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 117 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
542	須恵器	坏	14.4	3.7	9.2	長石・石英・雲母	外面　灰 内面浅黄	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部丁寧な回転ヘラ削り	覆土下層	90%　PL39 新治窯産
543	須恵器	坏	[12.8]	4.3	7.0	長石・石英	灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り　外・内面摩耗顕著 底部回転ヘラ切り離し痕を残すナデ	覆土中	60%
544	須恵器	坏	－	(3.4)	7.2	長石・石英	灰白	良好	底部回転ヘラ切り離し痕を残すナデ	覆土下層	50%
545	須恵器	双耳坏	[12.1]	5.7	7.0	長石・石英	灰	良好	体部下端に一対の把手貼り付け痕を残す　底部回転ヘラ切り離し後高台貼付	覆土中	60%　PL40

番号	器　種	径	孔径	厚さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP128	紡錘車	5.1～5.6	1.0	2.3	(67.6)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	側面ヘラ削り　上下面ナデ　一部欠損	覆土中層	PL52

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 783	鎌	(14.2)	6.4	0.3	(68.4)	鉄	端部折り返し　刃部先端欠損　曲刃鎌	覆土下層	PL54

第 100 号竪穴建物跡（第 118 図）

位置　調査区中央部のＢ５i1 区，標高 16 mほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

規模と形状　南半部が調査区域外へ延びているため，北西・南東軸は 2.60 mで，北東・南西軸は 1.44 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，主軸方向はN－ 38°－Wである。壁高は６～ 38cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 100cmで，燃焼部幅は 42cmである。袖部は，床面とほぼ同じ高さに，粘土粒子主体の第８層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を 16cmほど皿状に

掘り込み，第９層を埋土して構築されており，火床面には焼土の広がりを確認した。煙道部は壁外へ26㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子少量
5　黒　褐　色　焼土ブロック少量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量
7　褐　　色　ローム粒子中量
8　灰　褐　色　粘土粒子中量
9　暗赤褐色　焼土ブロック微量

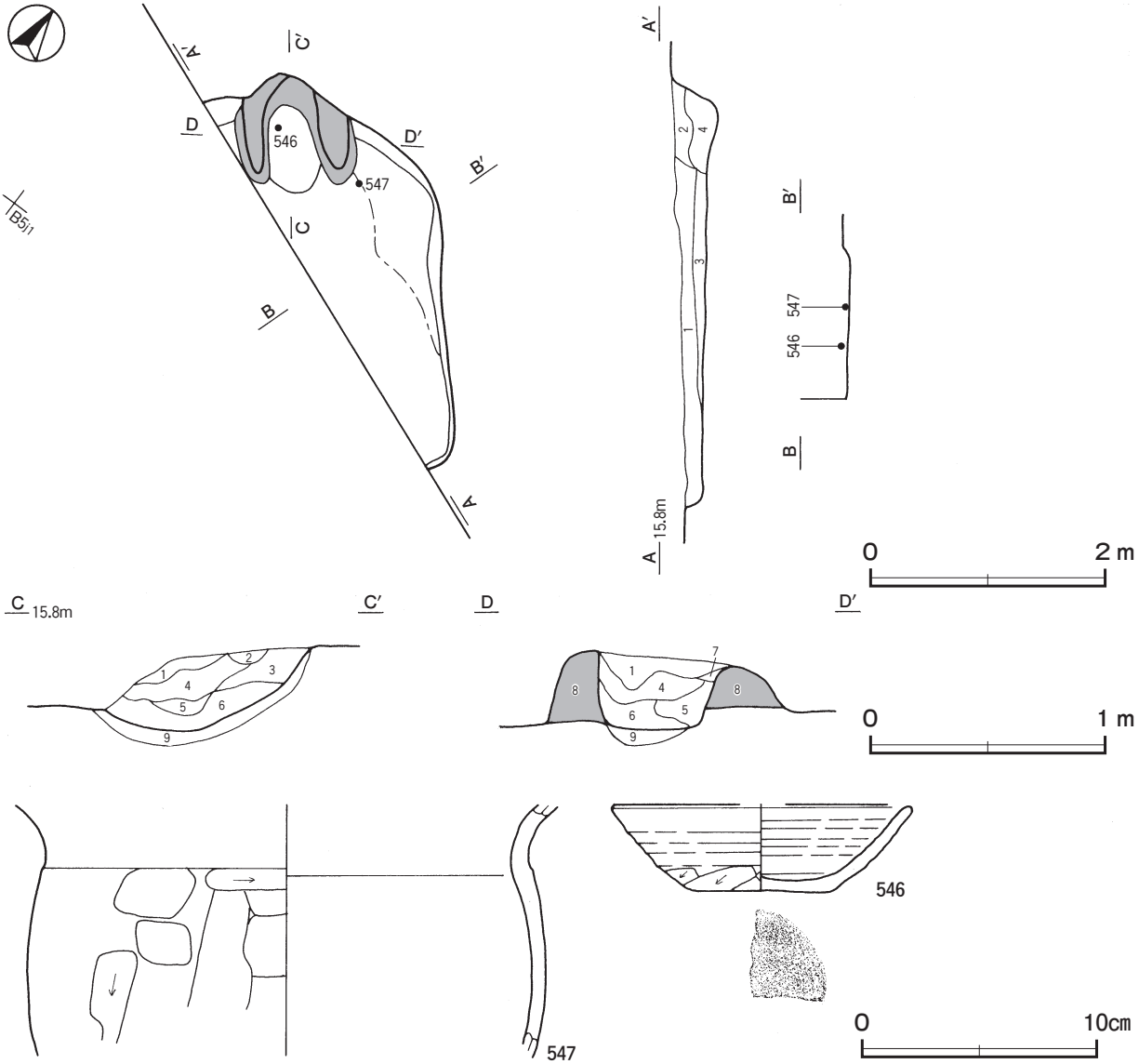
覆土　４層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　褐　灰　色　ローム粒子・粘土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片47点（坏２，甕類45），須恵器片７点（坏１甕類６），土製品11点（支脚），鉄滓１点（10.4ｇ）が出土している。547は覆土下層から，546は竈の覆土中層からそれぞれ出土している。鉄滓は，竈の覆土中から10.4ｇ出土している。鉄滓の出土量は少なく，埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉と推定できる。



第118図　第100号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 100 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 118 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
546	須恵器	坏	[12.6]	3.7	[6.0]	長石・石英	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	竈覆土中層	30%
547	土師器	甕	－	(10.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部上半縦位のヘラ削り後，横位のヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	10%

第 101 号竪穴建物跡（第 119 図）

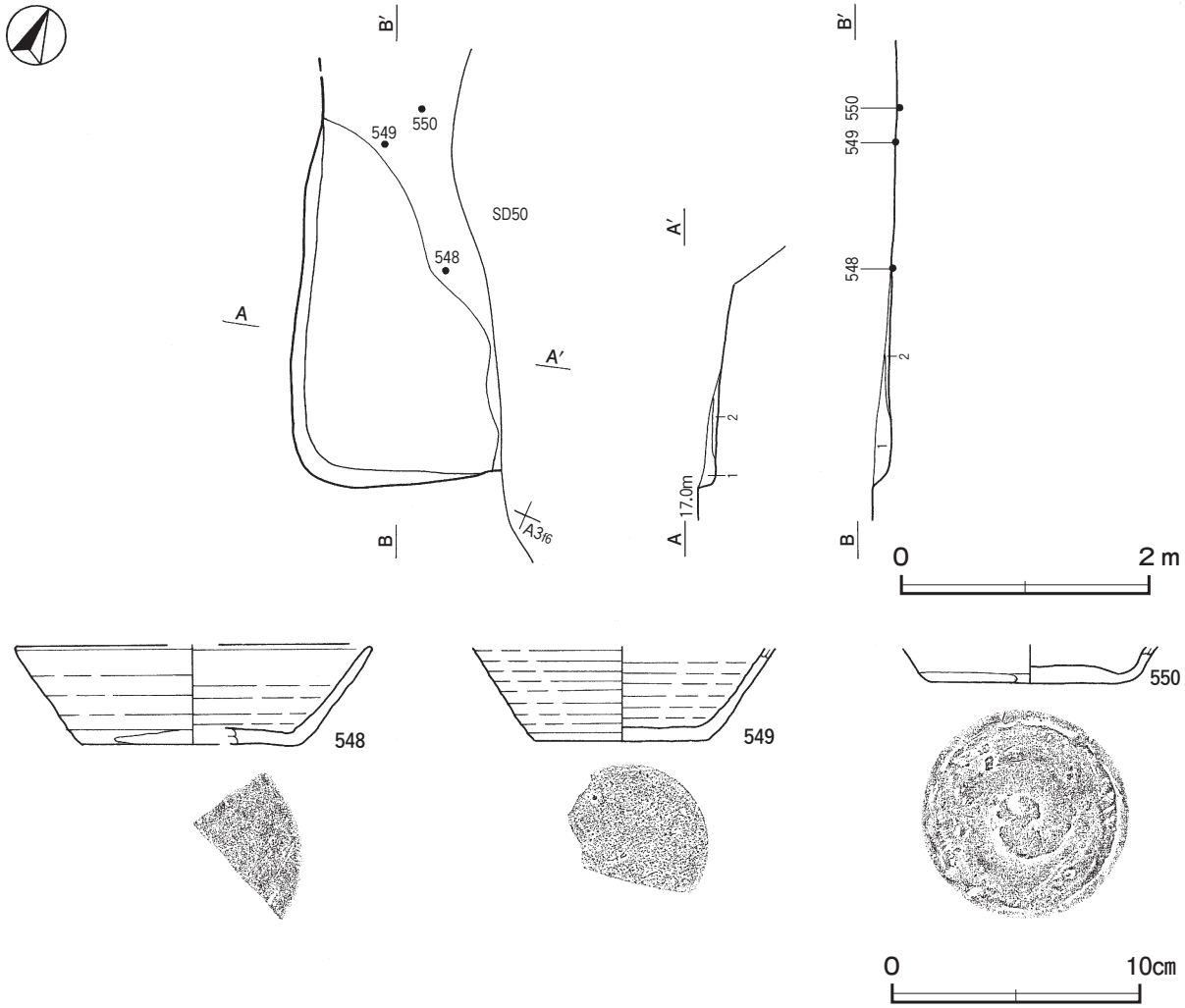
位置　調査区中央部のＡ３e5 区，標高 17 mほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

重複関係　第 50 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　中央部から東部にかけて大きく削平されており，中央部が第 50 号溝に掘り込まれているため，南西コーナー部のみを確認した。そのため，南北軸は 3.14 m，東西軸は 1.78 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，南北軸方向はN－ 20°－Wである。確認できた壁高は 12㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックを含まれていることから埋め戻されていると考えられる。



第 119 図　第 101 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量　　2　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片４点（甕類），須恵器片６点（坏），土製品２点（羽口），鉄滓 311 点（376.0 ｇ）が出土している。548 は中央部，549・550 は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。鉄滓は，全て南部を中心に覆土中から出土している。埋め戻しの際に，混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉と推定できる。

第 101 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 119 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
548	須恵器	坏	［14.2］	4.0	［8.8］	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部ナデ　摩耗顕著	覆土下層	15% 新治窯産
549	須恵器	坏	－	（3.8）	［7.0］	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部丁寧なヘラ削り	覆土下層	30%
550	須恵器	坏	－	（1.5）	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部ヘラ切り離し痕を残す雑なナデ	覆土下層	25% 新治窯産

第 102 号竪穴建物跡（第 120・121 図）

位置　調査区西部のＡ３d3 区，標高 17 ｍほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

規模と形状　長軸 3.80 ｍ，短軸 3.56 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 27°－Ｗである。壁高は 10 ～ 30cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，中央部から南西壁際にかけて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は，確認面から 20 ～ 38cmほど平坦に掘りくぼめ，ローム粒子主体の暗褐色土の第７層を埋土して構築されている。

竈　北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 88cmで，燃焼部幅は 55cmである。袖部は床面と同じ高さに粘土粒子を含む第７・８層を積み上げて構築されている。火床部は床面を最大 18cmほど皿状に掘り込み，第９・10 層を埋土して構築されており，火床面はわずかに焼土の広がりを確認した。煙道部は壁外に 38cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量
2　極 暗 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量
3　灰　褐　色　焼土ブロック中量，粘土粒子少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
7　灰　褐　色　粘土粒子中量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子微量
9　暗 赤 褐 色　焼土粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 32 ～ 46cmで，竈の両側にあたる北西壁下と，南東壁下に位置しており。主柱穴である。Ｐ５は深さ 15cmで，南東壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

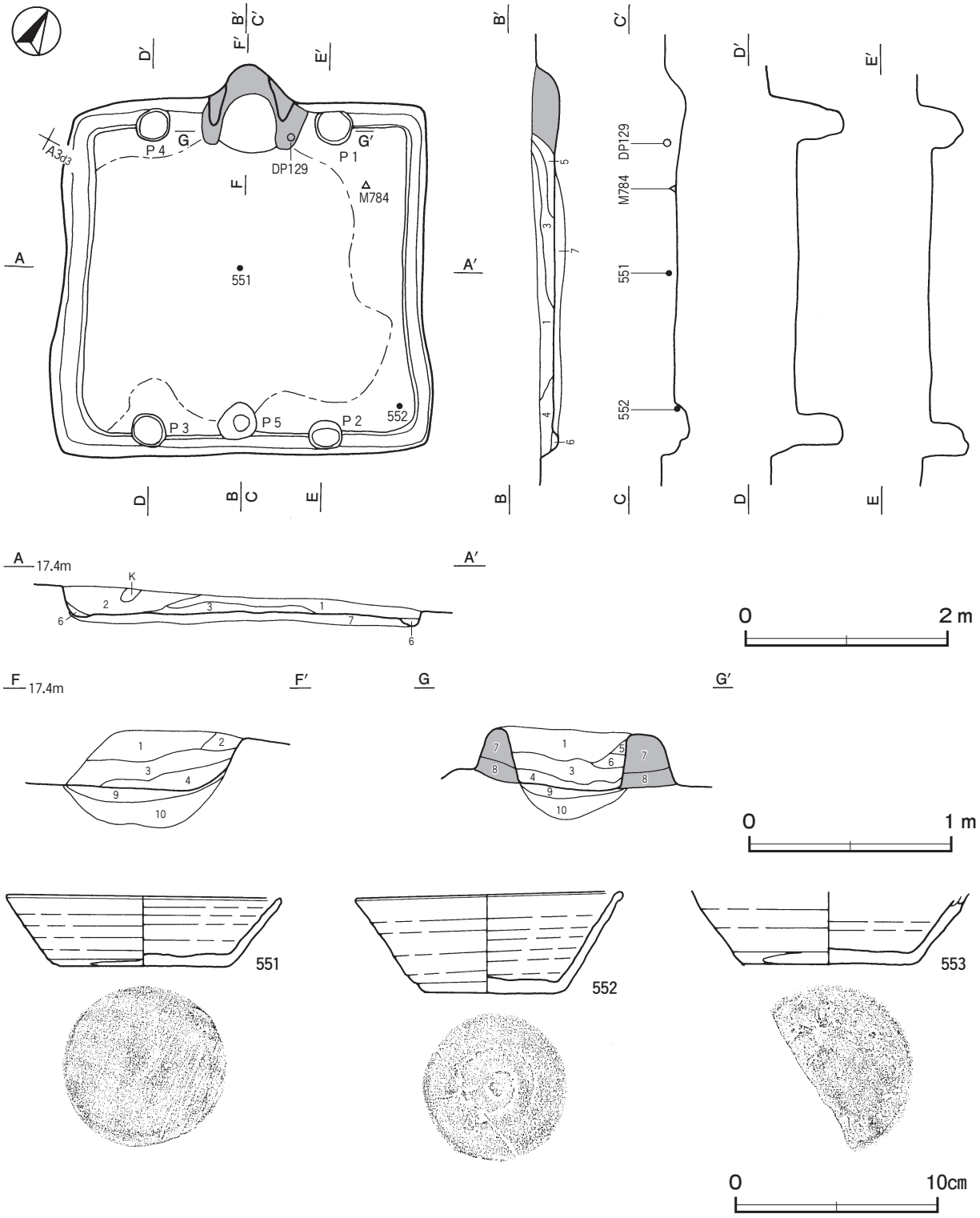
覆土　６層に分層できる。ロームのブロックを含む層があり，不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。第７層は貼床の構築土で，締まりは強い。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量

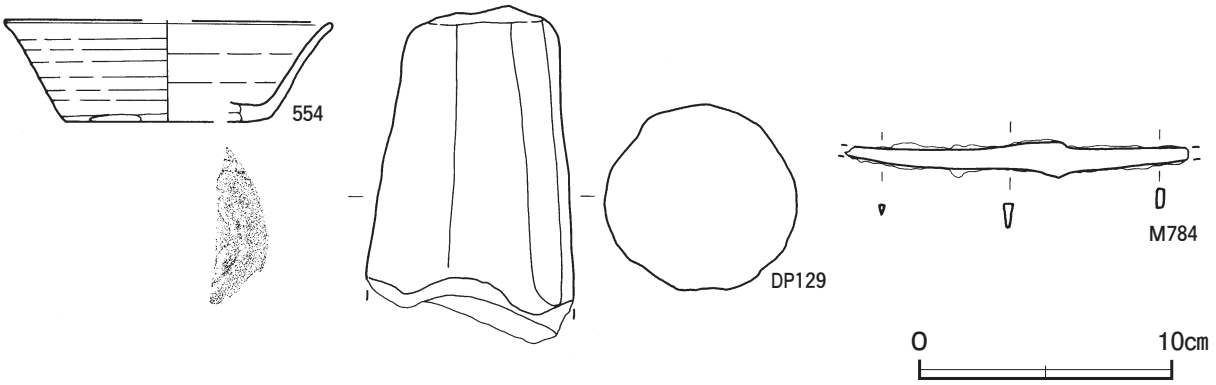
遺物出土状況　土師器片 35 点（甕類 34，小形甕１），須恵器片 18 点（坏 16，甕類２），土製品１点（支脚），炉壁材 24，鉄製品１点（刀子），鉄滓８点（124.6 ｇ）が出土している。M 784 は北コーナー部，552 は東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。DP129 は北西壁際，551 は中央部の覆土中層から出土している。

553・554 は覆土中から出土している。炉壁材が 24 点出土しているが，いずれも細片のため図示できない。鉄滓は竈の覆土中から 3.6 g，覆土中から 121.0 g 出土している。東部及び南部からの出土が多く，出土状況に偏りがあることから，埋め戻しの際に，意図的に投棄したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 120 図　第 102 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 121 図　第 102 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 102 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 120・121 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
551	須恵器	坏	13.3	3.6	8.2	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土中層	65%　PL39
552	須恵器	坏	13.2	5.1	7.0	長石・石英	灰	良好	底部切り離し痕を残すナデ	床面	85%　PL39
553	須恵器	坏	－	(3.6)	8.5	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部ヘラ削り後ナデ	覆土中	30%
554	須恵器	坏	[12.8]	4.0	[8.0]	長石・石英	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	20%

番号	器　種	長さ	最小径	最大径	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP129	支脚	(13.3)	6.2	8.3	(677.3)	長石・石英	橙	ヘラ削り　表面剥離のため一部調整不鮮明	覆土中層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 784	刀子	(13.7)	1.5～0.5	0.2～0.4	(13.3)	鉄	刃部断面三角形　茎部断面四角形　両端欠損	床面	PL53

第 103 号竪穴建物跡（第 122・123 図）

位置　調査区西部のＡ３f4 区，標高 17.0 mの東へ向かう緩斜面部に位置している。

重複関係　第 756 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.32 m，短軸 3.20 mの方形で，主軸方向はＮ－ 18°－Ｗである。壁高は６～ 28cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，南壁の中央部から竈にかけての中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は，ローム粒子主体の褐色土の第９層を埋土して構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。煙道部が第 756 号土坑に掘り込まれているため，規模は焚口部から煙道部まで 82cmしか確認できなかった。燃焼部幅は 52cmである。袖部は，地山を掘り残して基部とし，粘土粒子を主体とした第５～７層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を 10cmほど皿状に掘り込み，焼土粒子を含んだ第８層を埋土して構築されており，火床部はわずかに焼土の広がりを確認した。確認できた煙道部は，壁外に 40cmほど掘り込まれている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5　褐　灰　色　粘土粒子中量
6　褐　灰　色　粘土ブロック微量
7　にぶい褐色　粘土粒子少量
8　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　４か所。Ｐ１・Ｐ２はそれぞれ深さ41cm・16cmで，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ３・Ｐ４はそれぞれ深さ22cm・18cmで，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

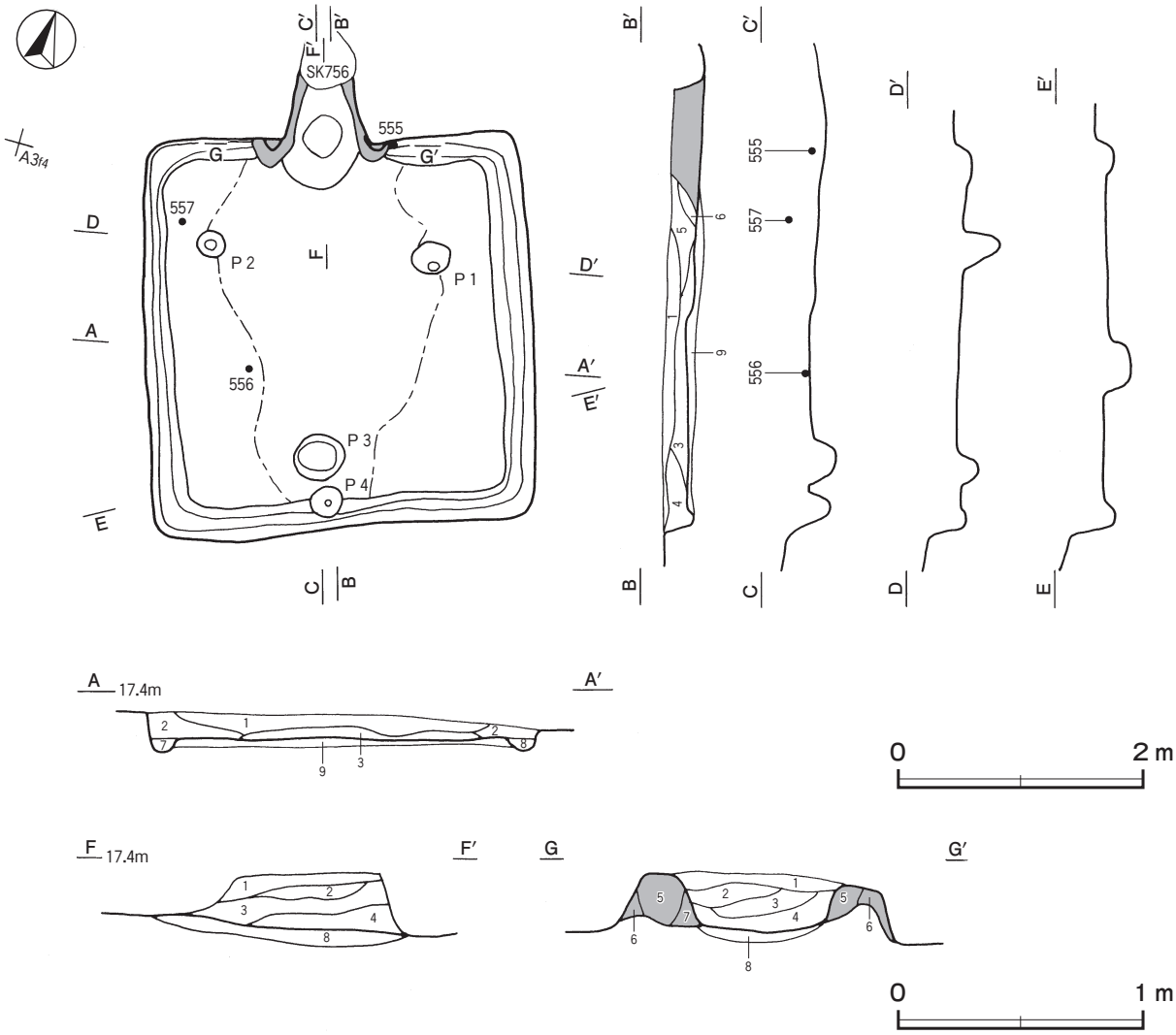
覆土　８層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第９層は貼床の構築土で，締まりが強い。

土層解説

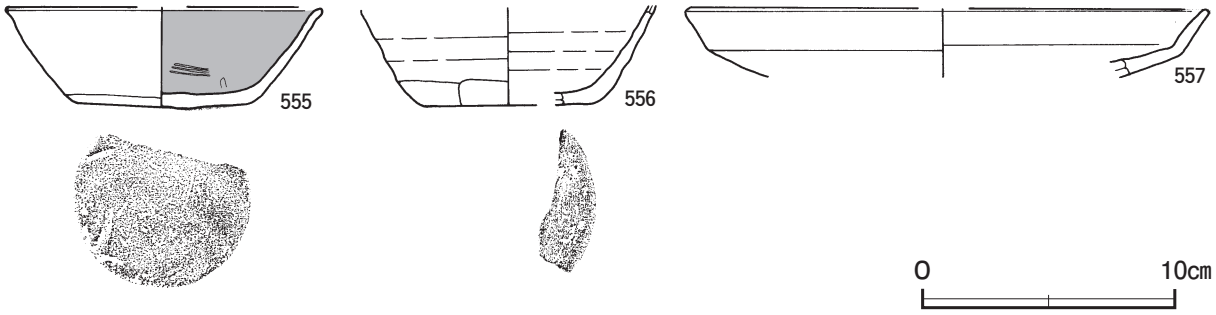
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　極暗褐色　ロームブロック少量
9　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片８点（坏１，甕類７），須恵器片９点（坏６，盤１，甕類２），炉壁材１点，鉄滓１点（6.2 g）が出土している。556は中央部やや西寄りの床面から，555は竈右袖部の壁際の覆土中層から，557は北西コーナー付近の覆土上層からそれぞれ出土している。鉄滓は覆土中から出土しており，埋め戻しの際の混入と考えられる。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。



第122図　第103号竪穴建物跡実測図



第 123 図　第 103 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 103 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 123 図）

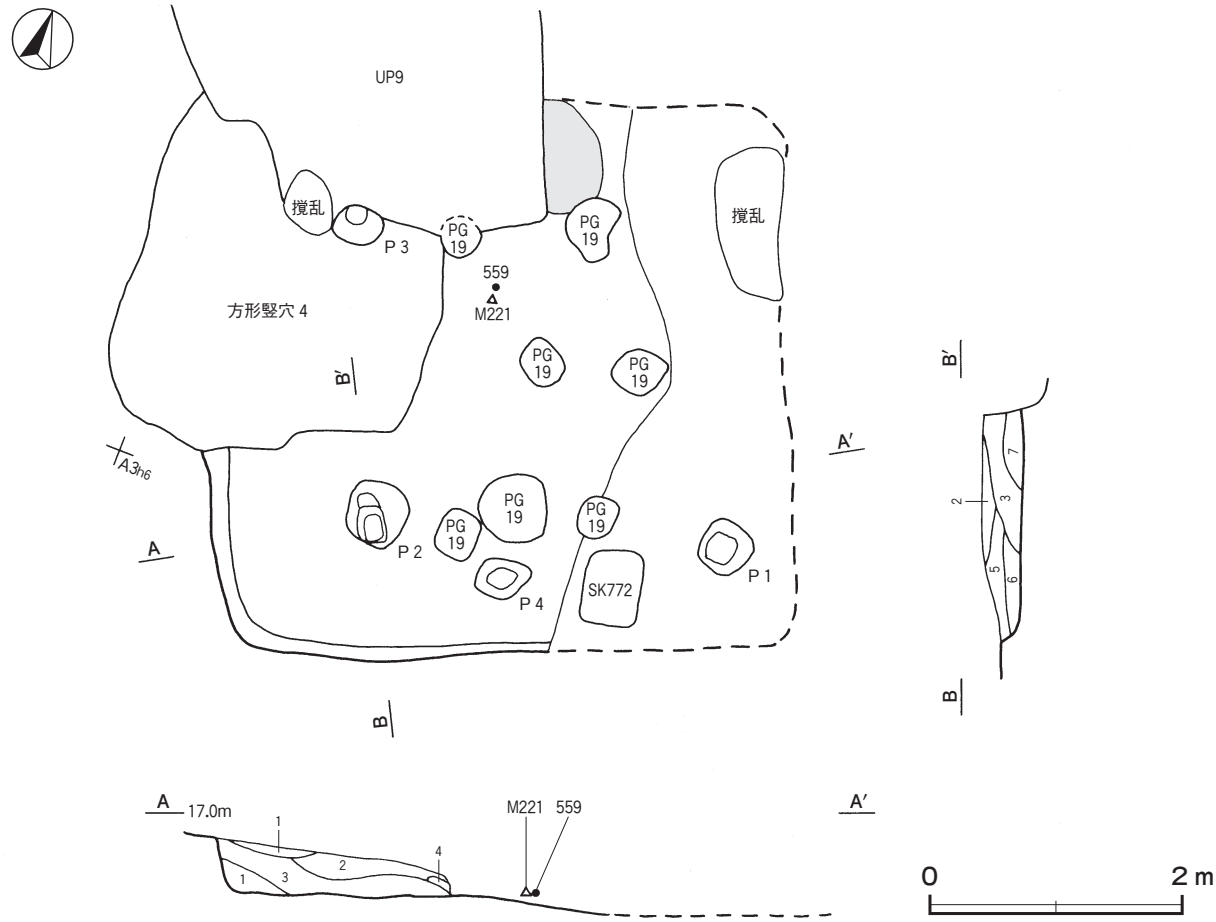
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
555	土師器	坏	［12.4］	3.9	7.0	長石・石英	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部ヘラ削り後ナデ	覆土下層	35%
556	須恵器	坏	－	(3.9)	［7.0］	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	床面	15% 新治窯産
557	須恵器	盤	［20.6］	(2.7)	－	長石・石英・雲母	灰	良好	外・内面ロクロナデ	覆土上層	5％ 新治窯産

第 104 号竪穴建物跡（第 124・125 図）

位置　調査区西部のＡ３g6 区，標高 17 mほどの東へ下る斜面部に位置している。

重複関係　第４号方形竪穴遺構，第９号地下式坑，第 772 号土坑，第 19 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状　東部が削平され，西コーナー部が第４号方形竪穴遺構，第９号地下式坑に掘り込まれているため，



第 124 図　第 104 号竪穴建物跡実測図

中央部から南コーナー部にかけてを確認した。柱穴の位置及び確認できた床面の範囲から，北東･南西軸4.70 m，北西・南東軸 4.30 mの方形で，主軸方向はN－ 23°－Wと推定できる。確認できた壁高は 18 ～ 40cmで，外傾して立ち上がっている。

床　遺存していた床面はほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。北西壁中央部で，幅 46 ～ 70cmの範囲で焼土の広がりを確認した。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 50 ～ 66cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ４は深さ 30cmで南東壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

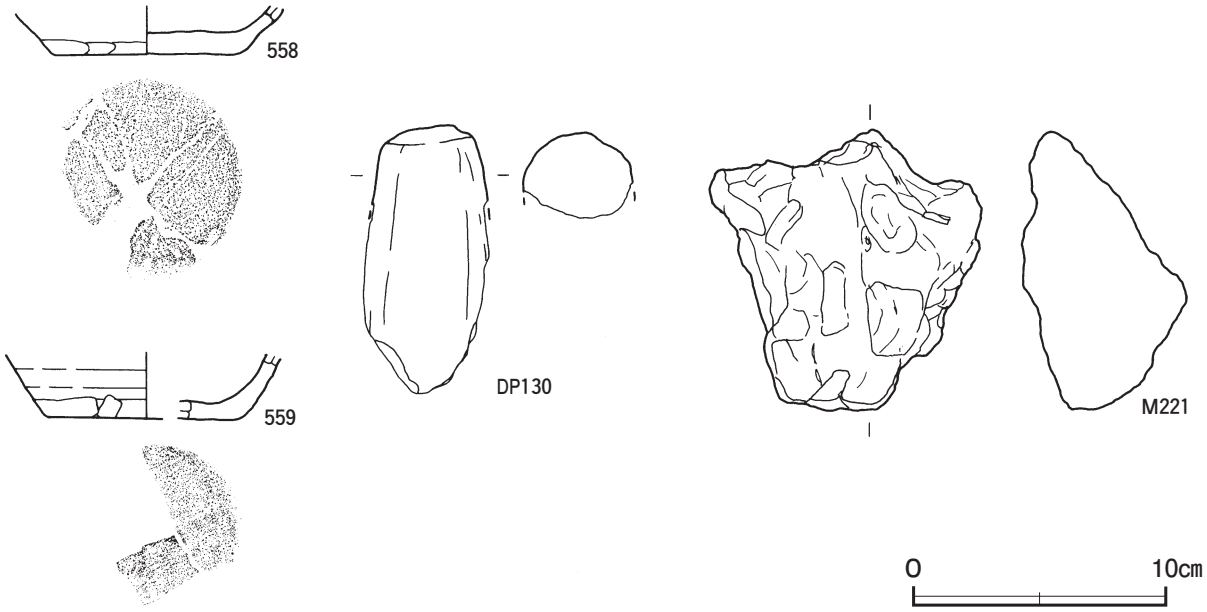
覆土　７層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　灰　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
6　灰　褐　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 78 点（坏４，甕類 74），須恵器片 35 点（坏 25，甕類 10），土製品２点（支脚），炉壁材１点，鉄滓 35 点（1006.2 ｇ）が出土している。559・M 221 は中央部の覆土下層から，558・DP130 は覆土中からそれぞれ出土している。鉄滓は覆土中の広い範囲から出土している。埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見　北西壁中央部の焼土の広がりは，竈に伴う可能性がある。時期は，出土土器から９世紀前葉と推定できる。



第 125 図　第 104 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 104 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 125 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
558	須恵器	坏	－	(1.9)	7.2	長石・石英・赤色粒子	淡黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ削り後ナデ　摩耗顕著	覆土中	40%
559	須恵器	坏	－	(2.7)	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	浅黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り　摩耗顕著	覆土下層	15%

番号	器　種	長さ	最小径	最大径	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP130	支脚	(10.6)	4.0	[6.5]	(134.9)	長石・石英	橙	表面剥離のため調整不鮮明	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 221	鉄滓	11.1	10.8	6.5	672.8	鉄	酸化土砂付着のためにぶい褐色を呈す　全面銹化　一部発泡　着磁性なし	覆土下層	

表８　平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸（m）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	内部施設 出入口	内部施設 ピット	内部施設 炉・竈	内部施設 貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考
72	B 11i5	－	［隅丸方形・隅丸長方形］	(2.28)×(0.86)	46	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器片，須恵器片，鉄製品	10世紀前葉	SI69→本跡
83	C 8f7	N－16°－W	方　形	5.70 × 5.20	18～32	平坦	全周	4	1	11	竈1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，石器，鉄製品，鉄滓	9世紀中葉	SI84→本跡→SK328
84	C 8g7	N－8°－W	方　形	3.52 × 3.30	16～30	平坦	一部	4	2	1	竈1	－	人為	土師器片，須恵器片，鉄製品，鉄滓	9世紀前葉	本跡→SI83
85	C 7e9	N－24°－W	方　形	7.00 × 7.00	30～44	平坦	全周	4	1	19	竈1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品，鉄滓	9世紀前葉	SK780→本跡→SK474・779
87	C 7b9	N－4°－W	［方形・長方形］	5.24 ×(4.70)	38～40	平坦	全周	2	1	－	－	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品，鉄滓	9世紀前葉	本跡→SK323
90	D 8b4	N－16°－W	［方形・長方形］	(2.76)×(2.00)	35～40	平坦	－	－	－	－	竈1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄滓	9世紀中葉	
94	B 7j2	N－15°－W	方　形	4.40 × 4.40	34～38	平坦	全周	－	1	2	竈1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品，鉄滓	9世紀中葉	
96	C 8j5	N－13°－W	隅丸長方形	3.62 × 3.24	14～20	平坦	全周	4	1	－	竈1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄滓	9世紀中葉	本跡→SK418
97	C 6e0	N－19°－W	方　形	3.90 × 3.90	32～48	平坦	－	－	1	2	竈1 炉1	－	人為	土師器片，須恵器片，石器，石製品，鉄滓	9世紀前葉	SK456→本跡→SD26
98	B 4g2	N－43°－W	隅丸方形	4.90 × 4.90	4～14	平坦	一部	4	1	3	竈1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品，鉄滓	9世紀前葉	本跡→UP20
100	B 5i1	N－38°－W	［方形・長方形］	2.60 ×(1.44)	6～38	平坦	－	－	－	－	竈1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄滓	9世紀中葉	
101	A 3e5	N－20°－W	［方形・長方形］	(3.14)×(1.78)	12	平坦	－	－	－	－	－	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄滓	9世紀中葉	本跡→SD50
102	A 3d3	N－27°－W	方　形	3.80 × 3.56	10～30	平坦	全周	4	1	－	竈1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品，鉄滓	9世紀前葉	
103	A 3f4	N－18°－W	方　形	3.32 × 3.20	6～28	平坦	全周	2	2	－	竈1	－	人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	9世紀前葉	本跡→SK756
104	A 3g6	N－23°－W	［方形］	[4.70]×[4.30]	18～40	平坦	－	3	1	－	－	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄滓	9世紀前葉	本跡→方形竪穴4，UP 9，SK772，PG19

(2)　掘立柱建物跡

第８号掘立柱建物跡（第126・127図）

位置　調査区中央部のＢ５g6区，標高15ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第９・10号掘立柱建物跡，第564・601・603・630・651号土坑を掘り込んでいる。第17号ピット群とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－46°－Ｗの東西棟である。規模は桁行7.20ｍ，梁行4.80ｍで，面積は34.56㎡である。柱間寸法は桁行，梁行ともに2.4ｍ（８尺）の等間隔で，柱筋はほぼ揃っている。

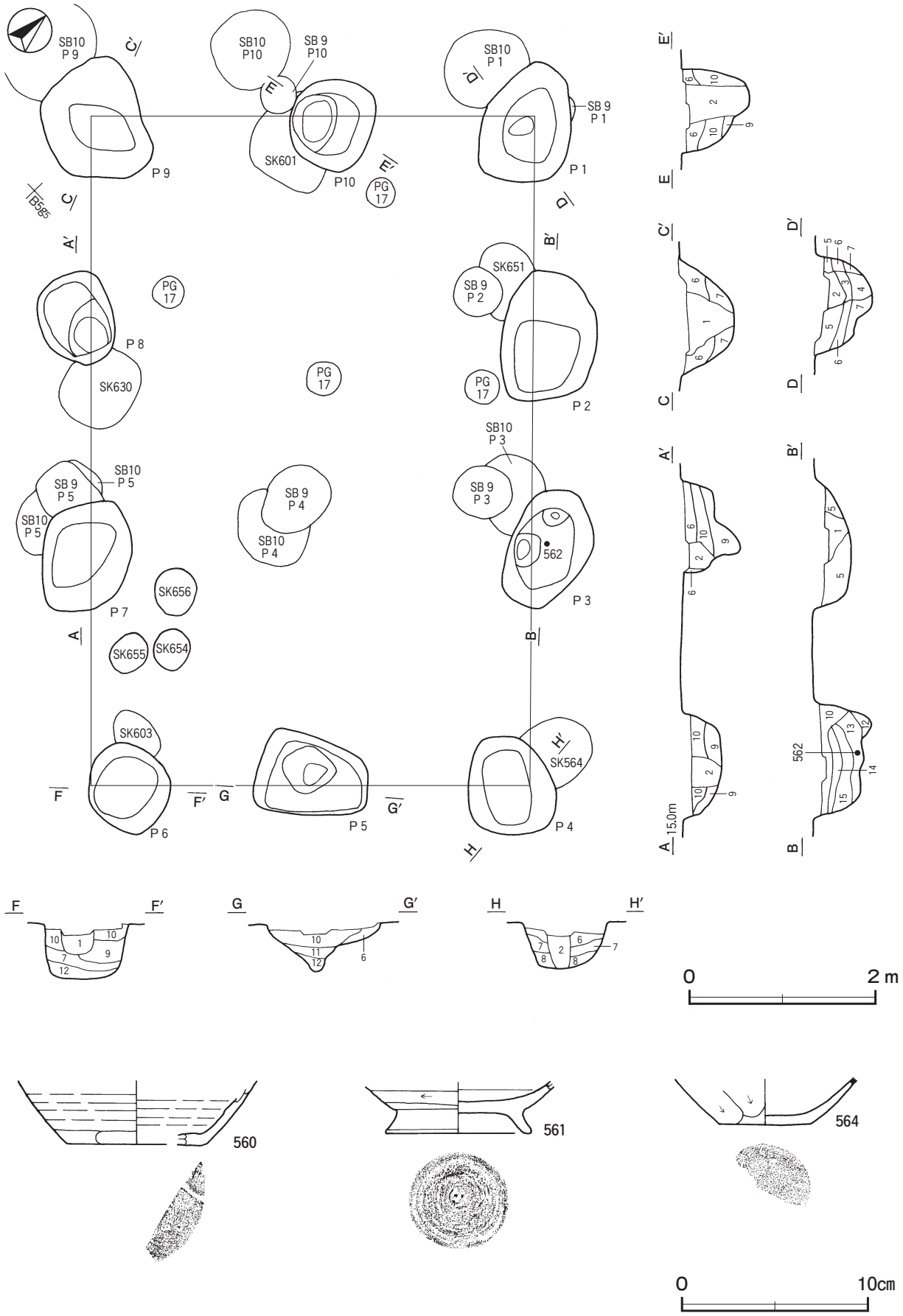
柱穴　10か所。平面形は楕円形または隅丸長方形で，長径（軸）98～142㎝，短径（軸）78～112㎝である。深さは38～72㎝で，掘方の断面はＵ字状またはＶ字状である。第１～４層は柱抜き取り後の覆土，第５～15層は埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

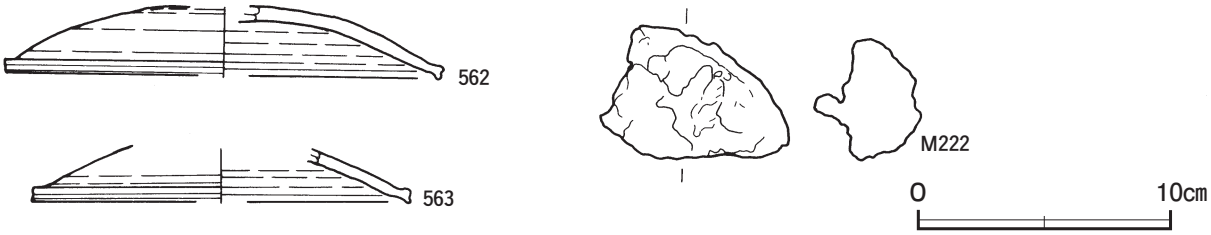
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　極暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
7　黒　褐　色　ローム粒子微量
8　極暗褐色　ローム粒子・粘土粒子微量
9　黒　　色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐　　色　粘土粒子中量，炭化粒子微量
12　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ロームブロック少量
14　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
15　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況　土師器片45点（坏１，高台付坏１，甕類43），須恵器片64点（坏52，蓋５，甕類５，甑２），土製品13点（羽口11，支脚２），鉄滓160点（2016.0ｇ）が，Ｐ９を除く各柱穴から出土している。561はＰ２，562はＰ３，563はＰ６，560・564はＰ５の埋土からそれぞれ出土している。Ｍ222はＰ７の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器と重複関係からから９世紀前葉に比定できる。倉庫として機能していたと考えられる。



第 126 図　第８号掘立柱建物跡・出土遺物実測図



第 127 図　第８号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第８号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 126・127 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
560	須恵器	坏	－	(3.5)	[7.4]	長石・石英	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部丁寧なナデ	Ｐ５埋土	10%
561	土師器	高台付坏	－	(2.8)	7.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　切り離し後高台貼付	Ｐ２埋土	30%
562	須恵器	蓋	[17.1]	(2.7)	－	長石・石英	褐灰	良好	外面回転ヘラ削り	Ｐ３埋土	10%
563	須恵器	蓋	[14.9]	(2.1)	－	長石・石英	褐灰	良好	外面回転ヘラ削り	Ｐ６埋土	５％
564	土師器	甕	－	(2.5)	[4.9]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下端斜位のヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	Ｐ５埋土	５％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 222	鉄滓	5.2	7.6	4.2	169.8	鉄	全面銹化　酸化土付着のため暗赤褐色を呈す　一部発泡 着磁性なし	Ｐ７覆土中	

第９号掘立柱建物跡（第 128 図）

位置　調査区中央部のＢ５g5 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 10 号掘立柱建物跡，第 601・651 号土坑を掘り込み，第８号掘立柱建物に掘り込まれている。第 626・630 号土坑，第 17 号ピット群とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－43°－Ｅの南北棟である。規模は，桁行 6.90 m，梁行 4.50 mで，面積は 31.05㎡である。柱間寸法は，西桁行が北妻から 2.3 m（7.7 尺），梁行は 2.25 m（7.5 尺）の等間隔であり，柱筋は揃っている。

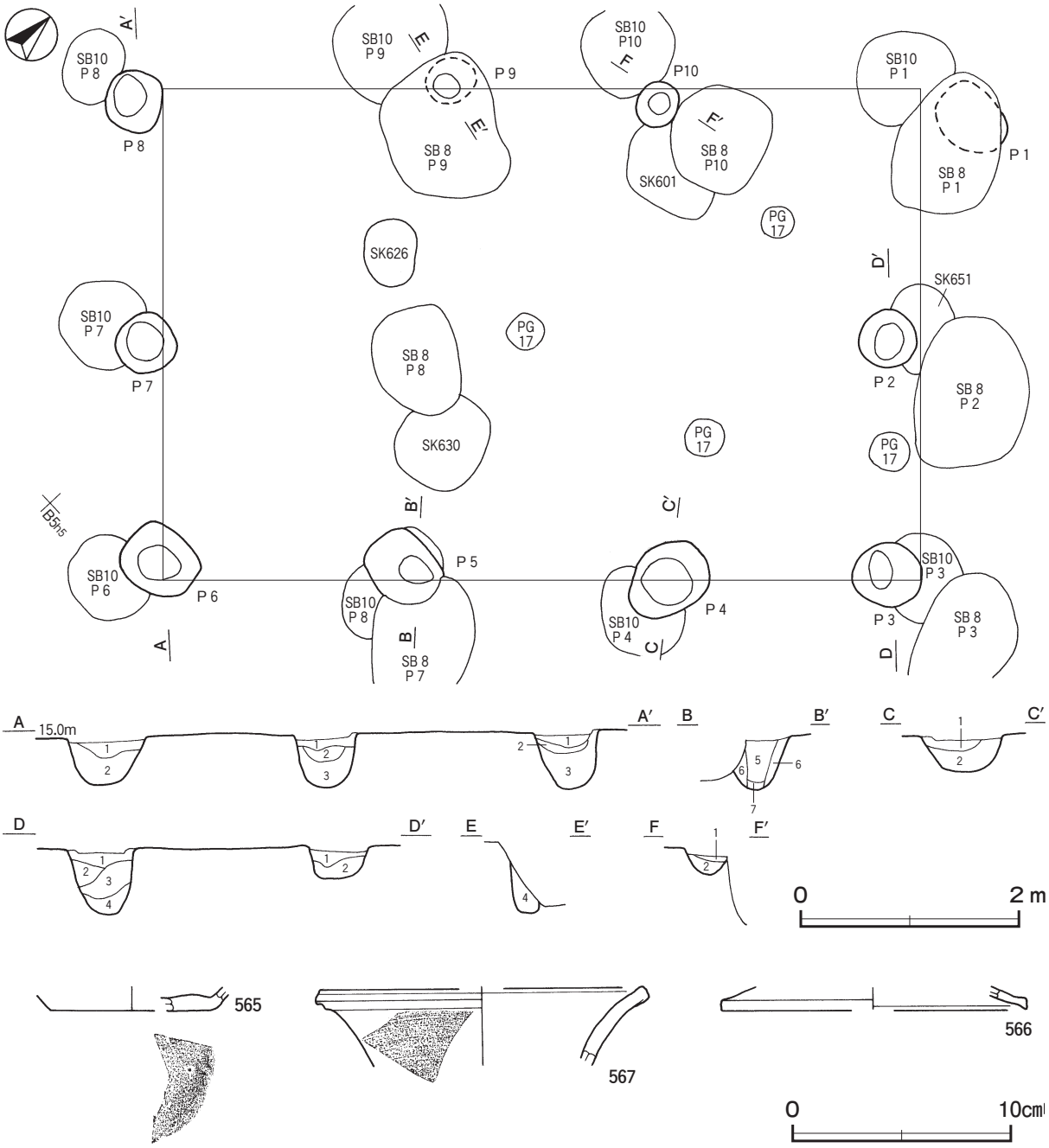
柱穴　10 か所。長径 42 ～ 80㎝，短径 38 ～ 66㎝の円形または楕円形である。深さは 26 ～ 62㎝で，掘方の断面はＵ字状である。Ｐ１の大部分は第８号掘立柱建物のＰ１に掘り込まれているため，規模は不明である。第１～５層は柱抜き取り後の覆土，第６・７層は埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子微量
5　極暗褐色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子微量
7　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 10 点（甕類），須恵器片 24 点（坏 15，蓋５，甕類３，甑１），土製品９点（支脚），鉄滓 13 点（258.0 ｇ）が，Ｐ７を除く各柱穴から出土している。565 はＰ３，566 はＰ 10，567 はＰ８の柱抜き取り後の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器と重複関係からから，第８号掘立柱建物の築造以前の９世紀前葉に比定できる。倉庫として機能していたと考えられる。



第 128 図　第９号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

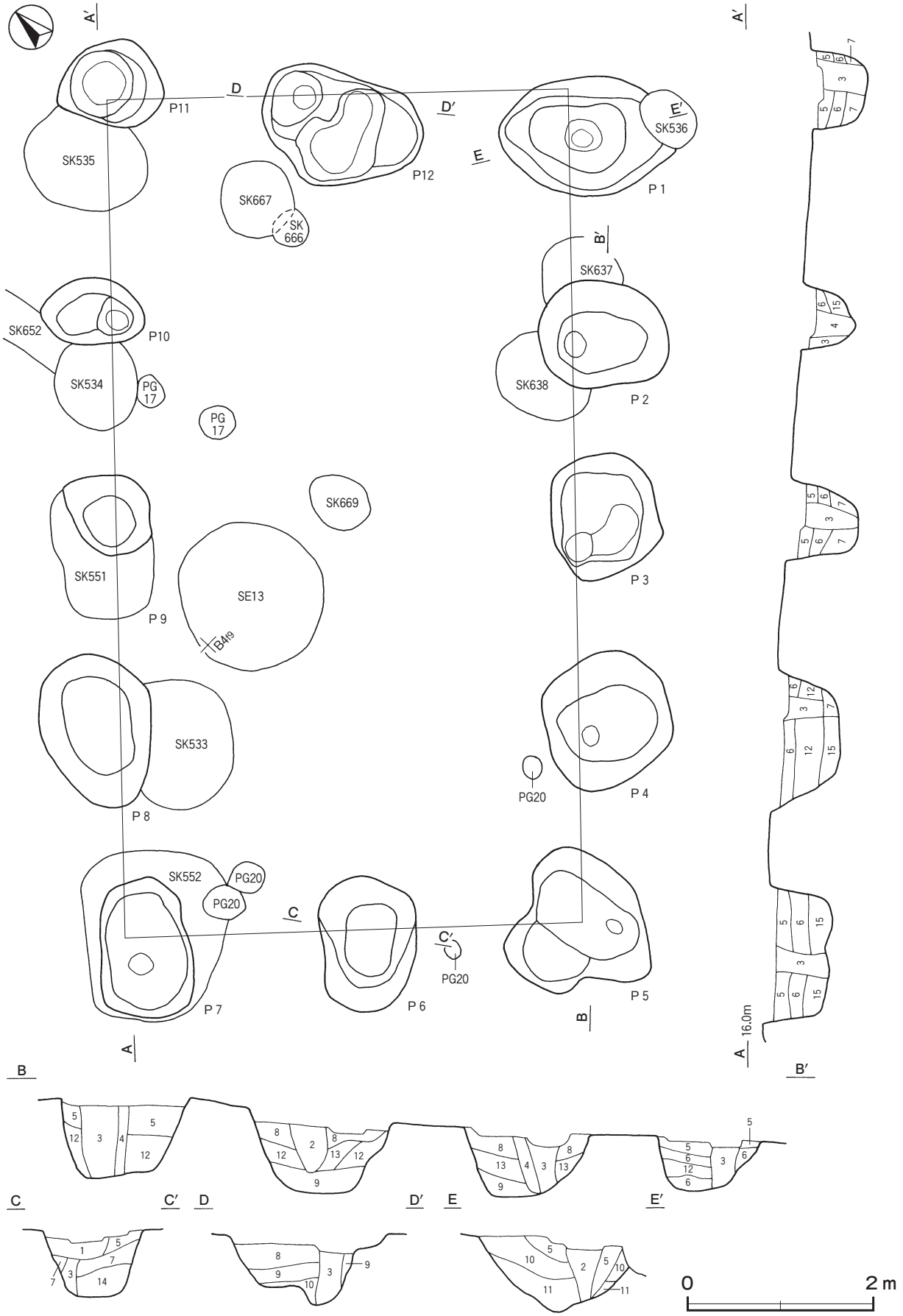
第９号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 128 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
565	須恵器	坏	－	(1.1)	[7.6]	長石・石英	灰	良好	底部切り離し痕を残すナデ	Ｐ３柱抜き取り後覆土中	５％
566	須恵器	蓋	[13.8]	(1.0)	－	長石	灰白	良好	外・内面ロクロナデ	Ｐ 10 柱抜き取り後覆土中	５％
567	須恵器	甕	[14.8]	(3.6)	－	長石・石英	灰	良好	口縁部内面自然釉	Ｐ８柱抜き取り後覆土中	５％

第 11 号掘立柱建物跡（第 129・130 図）

位置　調査区中央部のＢ４f9 区，標高 16 ｍほどの東へ下る緩斜面部に位置している。

重複関係　第 533 ～ 535・551・552・637・638・652 号土坑を掘り込み，第 13 号井戸，第 536 号土坑に掘り込



第 129 図　第 11 号掘立柱建物跡実測図

まれている。第666・667・669号土坑，第17・20号ピット群とも重複しているが新旧関係は不明である。

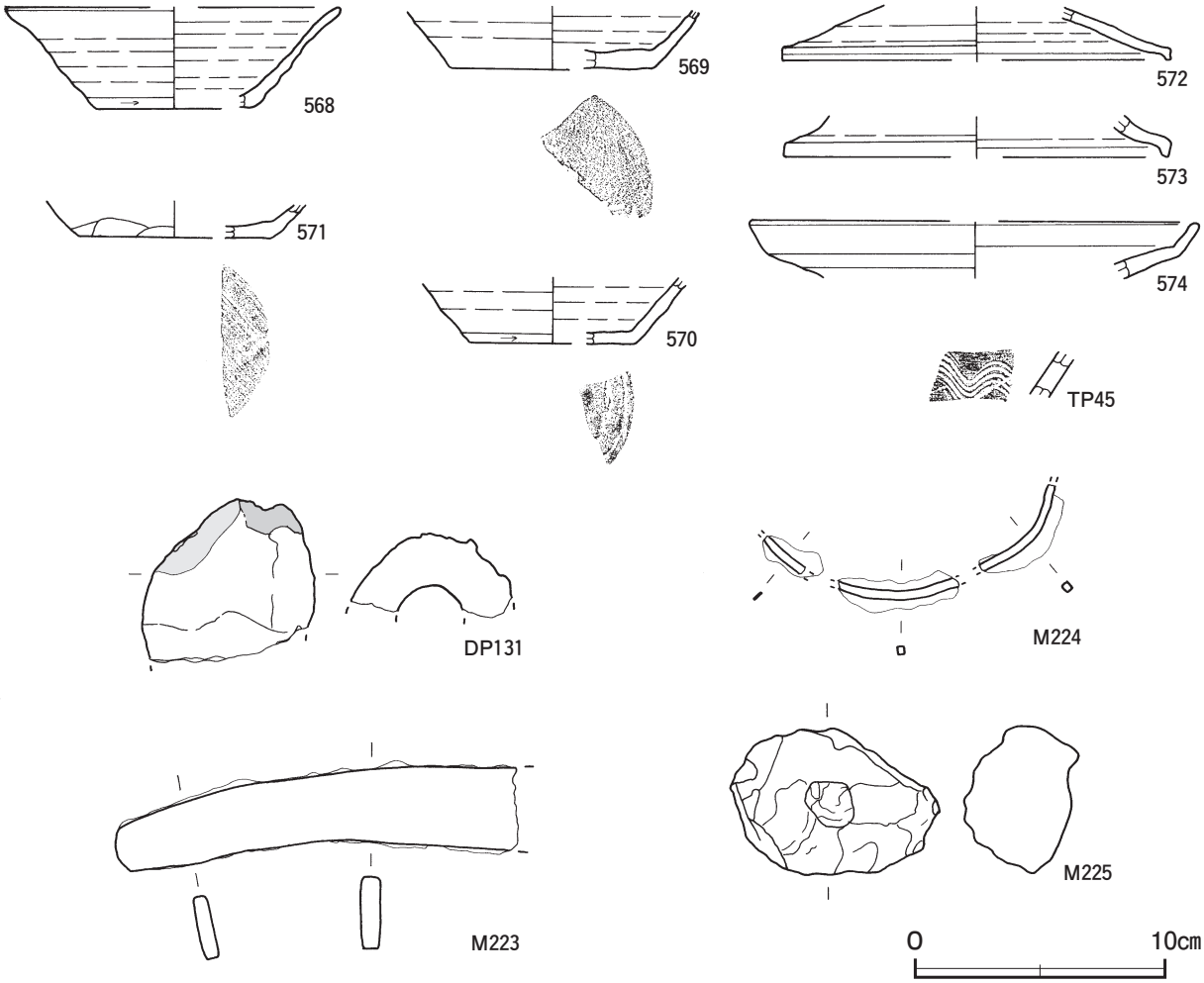
規模と構造　桁行４間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－45°－Ｅの東西棟である。規模は桁行9.00ｍ，梁行5.00ｍで，面積は45.00㎡である。柱間寸法は，北桁行が西妻から2.5ｍ（8.3尺）･2.0ｍ（6.7尺）･2.0ｍ（6.7尺）・2.5ｍ（8.3尺），梁行は北平から2.5ｍ（8.3尺）の等間隔で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　12か所。平面形は不整円形または隅丸長方形で，長径（軸）110～190㎝，短径（軸）74～154㎝である。深さは58～84㎝で，掘方の断面は逆台形状またはＵ字状である。第１～４層は柱抜き取り後の覆土，第５～15層は埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量（締まり普通）
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子微量（締まり強い）
6　黒　褐　色　ロームブロック微量（締まり強い）
7　暗　褐　色　ロームブロック多量
8　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
9　暗　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック微量
10　暗　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
11　暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック少量（締まり強い）
13　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
14　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
15　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片119点（坏８，甕類111），須恵器片88点（坏65，蓋６，盤１，甕類９，甑７），土製品34点（支脚５，羽口29），炉壁材１点，鉄製品２点（鎌，不明）鉄滓222点（2914.2ｇ），炭化材１点が各柱穴から出土している。568はＰ10，570はＰ２，TP45はＰ11の柱抜き取り後の覆土中からそれぞれ出土し



第130図　第11号掘立柱建物跡出土遺物実測図

ている。571はＰ８，574はＰ１，DP131はＰ３の埋土からそれぞれ出土している。569はＰ11，572はＰ１，573はＰ８，Ｍ223はＰ１，Ｍ224はＰ10，Ｍ225はＰ７の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉から９世紀前葉に比定できる。倉庫として機能していたと考えられる。

第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
568	須恵器	坏	[13.3]	4.0	[6.0]	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	Ｐ10柱抜き取り後覆土中	20%
569	須恵器	坏	－	(2.5)	[8.2]	長石・石英・雲母	黄灰	良好	底部多方向のヘラ削り	Ｐ11覆土中	20%
570	須恵器	坏	－	(2.7)	[6.6]	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	Ｐ２柱抜き取り後覆土中	10% 新治窯産
571	須恵器	坏	－	(1.4)	[7.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	にぶい褐	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	Ｐ８埋土	20%
572	須恵器	蓋	[15.3]	(2.2)	－	長石・石英・赤色粒子	灰	良好	外・内面ナデ	Ｐ１覆土中	５%
573	須恵器	蓋	[15.2]	(1.7)	－	長石・石英・赤色粒子	灰	良好	外・内面ナデ	Ｐ８覆土中	５%
574	須恵器	盤	[17.8]	(2.3)	－	長石・石英・細礫	黄灰	良好	外・内面ナデ	Ｐ１埋土	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP45	須恵器	甕	長石・石英・雲母	灰白	外面櫛歯状工具（５本）による波状文	Ｐ11柱抜き取り後覆土中	PL47

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP131	羽口	(6.6)	(7.0)	(3.3)	(108.6)	長石・石英	先端滓化　一部ガラス質の滓付着　推定径7.0cm　推定孔径3.0cm	Ｐ３埋土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｍ223	鎌	(16.2)	(3.4)	(0.8)	(276.7)	鉄	断面長方形　端部欠損	Ｐ１覆土中	PL54
Ｍ224	不明鉄製品	(11.7)	0.3	0.3	(14.4)	鉄	接点はないが一体か　断面正方形	Ｐ10覆土中	
Ｍ225	鉄滓	5.8	8.4	4.6	251.6	鉄	全面銹化　酸化土付着のため明褐色を呈す　着磁性弱い	Ｐ７覆土中	

第14号掘立柱建物跡（第131図）

位置　調査区中央部のＢ４h2区，標高17ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第98号竪穴建物跡，第569号土坑を掘り込み，第20号地下式坑に掘り込まれている。

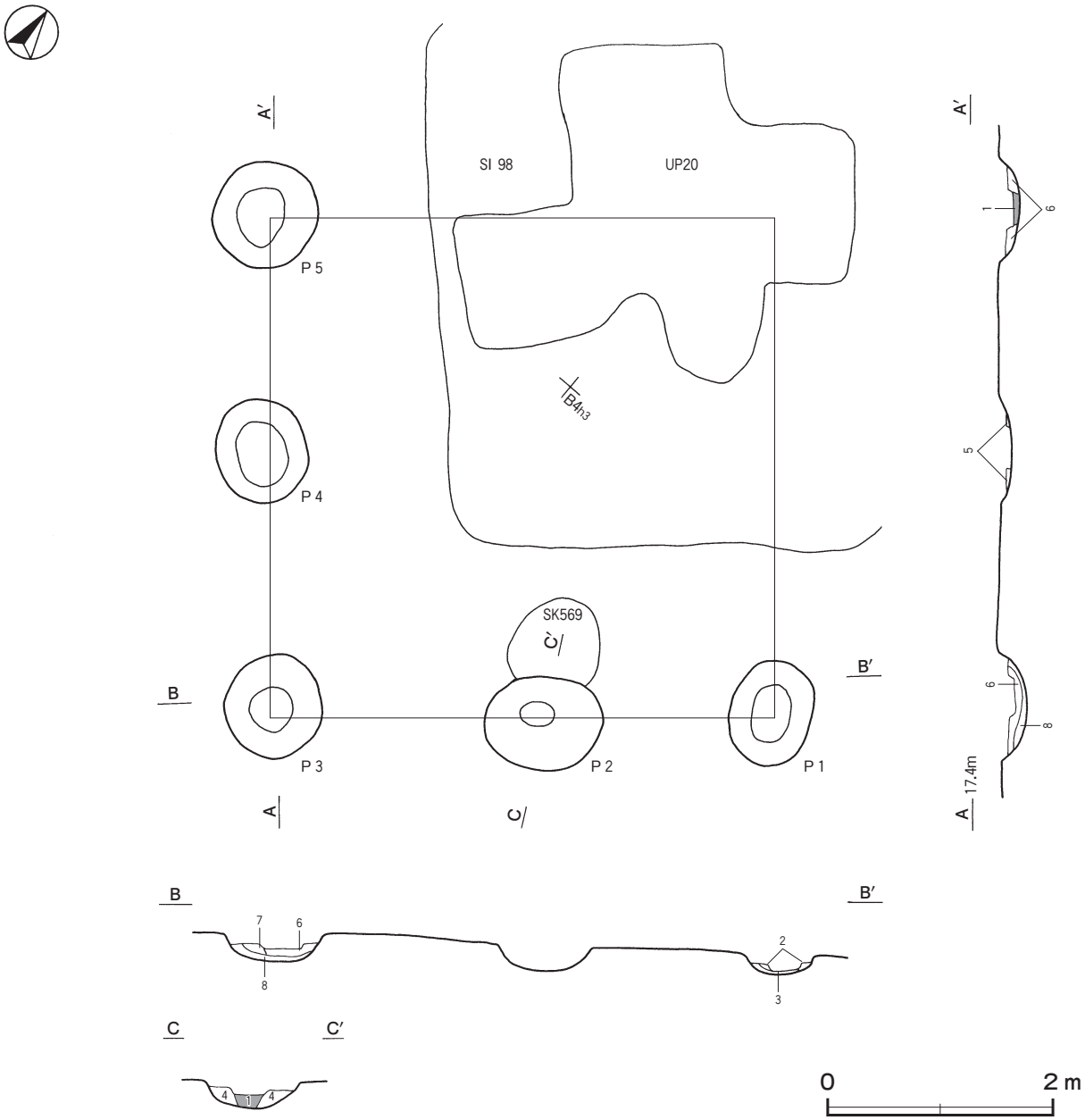
規模と構造　桁行，梁行とも２間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－39°－Ｗの南北棟である。規模は桁行，梁行とも4.50ｍで，面積は20.25㎡である。柱間寸法は，桁行，梁行とも2.25ｍ（7.5尺）の等間隔で，柱筋は揃っている。

柱穴　５か所。平面形は円形または楕円形で，長径80～106cm，短径56～96cmである。深さは８～40cmで，掘方の断面は浅いＵ字状である。第１層は柱痕跡，第２～８層は埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

所見　時期は，伴う遺物が出土していないため断定はできないが，周辺に９世期代の掘立柱建物跡が位置し，倉庫として機能していたと考えられることから，９世紀代と考えられる。



第 131 図　第 14 号掘立柱建物跡実測図

第 17 号掘立柱建物跡（第 132 図）

位置　調査区中央部のＢ４g7 区，標高 16 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第99号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第546･572号土坑とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造　南部が調査区域外へ延びているため，桁行，梁行とも２間しか確認できなかった。側柱建物跡で桁行方向はＮ－ 52°－Ｅの東西棟と推定できる。確認できた規模は，桁行，梁行ともに 4.40 ｍで，面積は 19.36㎡である。柱間寸法は，北桁行が東妻から 2.4 ｍ（８尺）･2.0 ｍ（6.7 尺），東梁行が北平から 2.4 ｍ（８尺）･2.0 ｍ（6.7 尺）で，柱筋は揃っている。

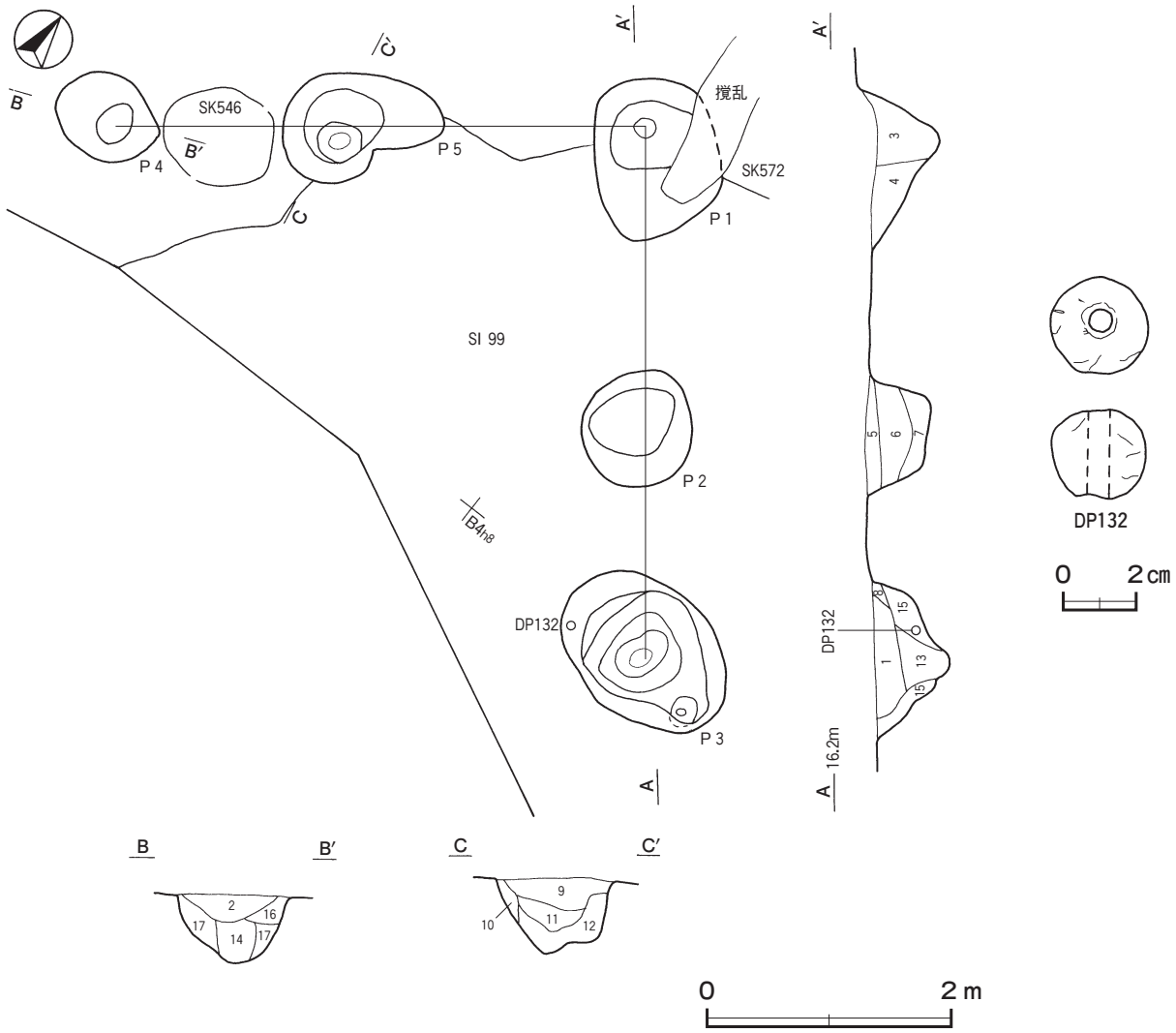
柱穴　５か所。平面形は円形または楕円形で，長径 90 ～ 156cm，短径 68 ～ 112cmである。深さは 50 ～ 62cmで，掘方の断面は逆台形状またはU字状である。第１～ 14 層は柱抜き取り後の覆土，第 15 ～ 17 層は埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　極 暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子微量
6　黒　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
10　褐　　色　ロームブロック少量
11　黒　褐　色　ローム粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
13　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
14　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
15　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
16　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
17　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片 30 点（坏１，甕類 29），須恵器片 17 点（坏 12，甕類４，蓋１），土製品１点（土玉），鉄滓 50 点（983.1 ｇ）が各柱穴から出土している。DP132 はＰ３の埋土から出土している。

所見　時期は，出土土器が細片のため断定できないが，８世紀後葉に比定できる第 99 号竪穴建物跡を掘り込んでいることや，周辺に９世期代の掘立柱建物跡が位置し，倉庫として機能していたと考えられることから，９世紀代と考えられる。



第 132 図　第 17 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 17 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 132 図）

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP132	土玉	2.6	2.3	0.6	14.1	長石・石英	一方向からの穿孔	Ｐ３埋土	PL48

表９　平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位 置	桁行方向	柱間数	規　模	面 積	柱間寸法		柱　穴				主な出土遺物	時　期	備　考
			桁×梁(間)	桁 × 梁(m)	(㎡)	桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平 面 形	深さ(cm)			
8	B５g6	N－46°－W	３×２	7.20 × 4.80	34.56	2.4	2.4	側柱	10	楕円形・隅丸長方形	38 ～ 72	土師器片，須恵器片，土製品，鉄滓	９世紀前葉	SB ９・10，SK564・601・603・630・651 →本跡
9	B５g5	N－43°－E	３×２	6.90 × 4.50	31.05	2.3	2.25	側柱	10	円形・楕円形	26 ～ 62	土師器片，須恵器片，土製品，鉄滓	９世紀前葉	SB10，SK601・651 →本跡→ SB8
11	B４f9	N－45°－E	４×２	9.00 × 5.00	45.00	2.0 ～ 2.5	2.5	側柱	12	不整円形・隅丸長方形	58 ～ 84	土師器片，須恵器片，土製品・炉壁材・鉄製品，鉄滓	８世紀後葉～９世紀前葉	SK533 ～ 535・551・552・637・638・652 →本跡→ SE13，SK536
14	B４h2	N－39°－W	２×２	4.50 × 4.50	20.25	2.25	2.25	側柱	5	円形・楕円形	８～ 40	－	９世紀代	SI98，SK569 →本跡→ UP20
17	B４g7	N－52°－E	（２×２）	(4.40 × 4.40)	(19.36)	2.0 ～ 2.4	2.0 ～ 2.4	側柱	5	円形・楕円形	50 ～ 62	土師器片，須恵器片，土製品，鉄滓	９世紀代	SI99 →本跡

(3)　井戸跡

第７号井戸跡（第 133・134 図）

位置　調査区中央部Ｃ８d2 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　外側の掘方部と内側の井戸部からなる二重構造をしている。掘方部は確認面で長径 3.95 m，短径 3.60 mの円形である。確認面から深さ 2.0 mまでの上部を漏斗状，それより下部を径 1.0 ～ 2.2 mほどの円筒状に掘り込んでいる。井戸部は確認面から深さ 0.8 mほどから確認でき，径 0.98 ～ 1.20 mの円筒状に掘り下げている。確認面から 2.5 mまで掘り下げたが，湧水のため下部の調査を断念した。

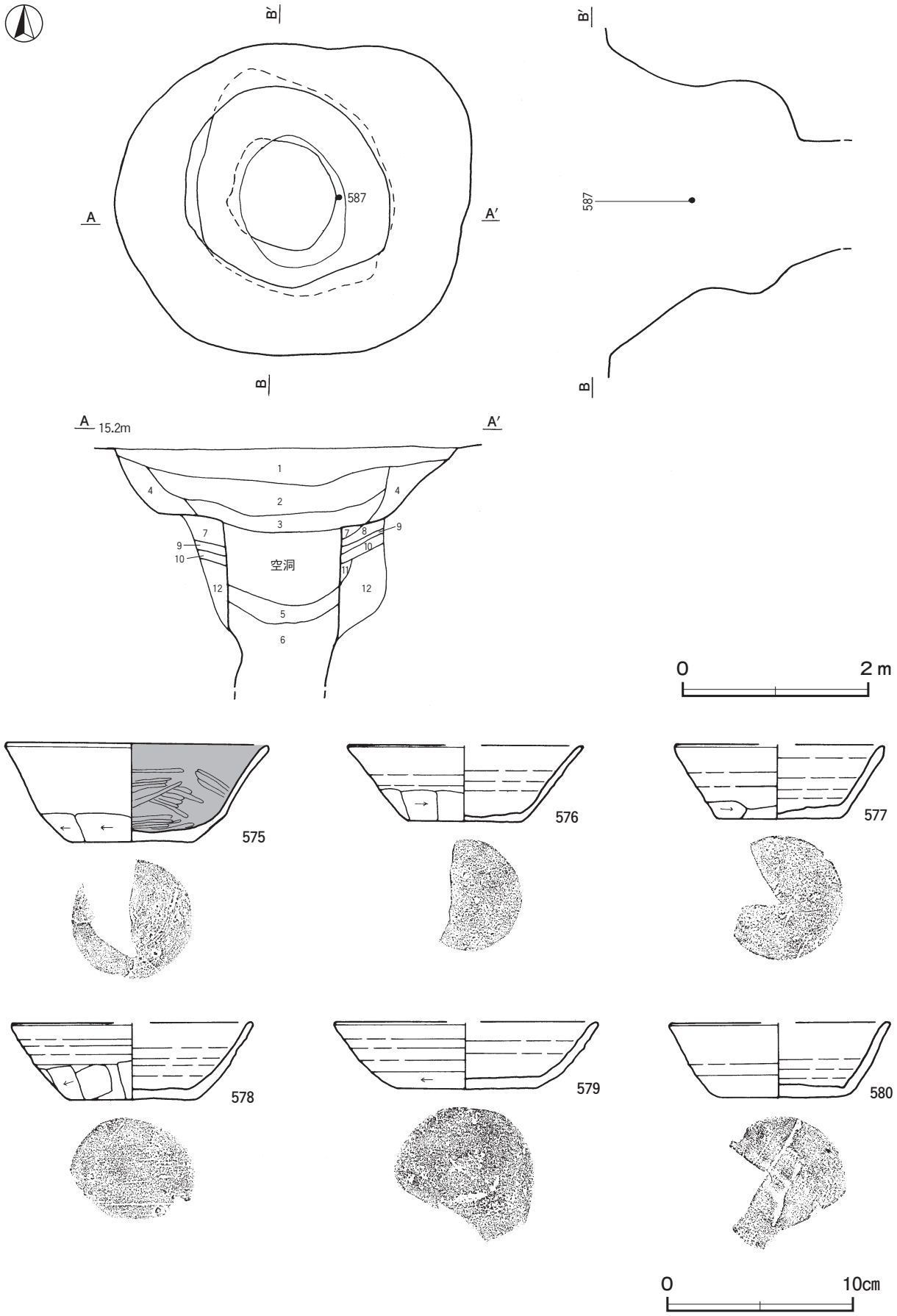
覆土　12 層に分層できる。第１～４層は廃絶後に埋め戻された層，第５・６層は廃絶時に埋め戻された層，第７～ 12 層は褐色土と暗褐色土が互層に積み重なっていることから井戸枠の外側への裏込め土層である。

土層解説

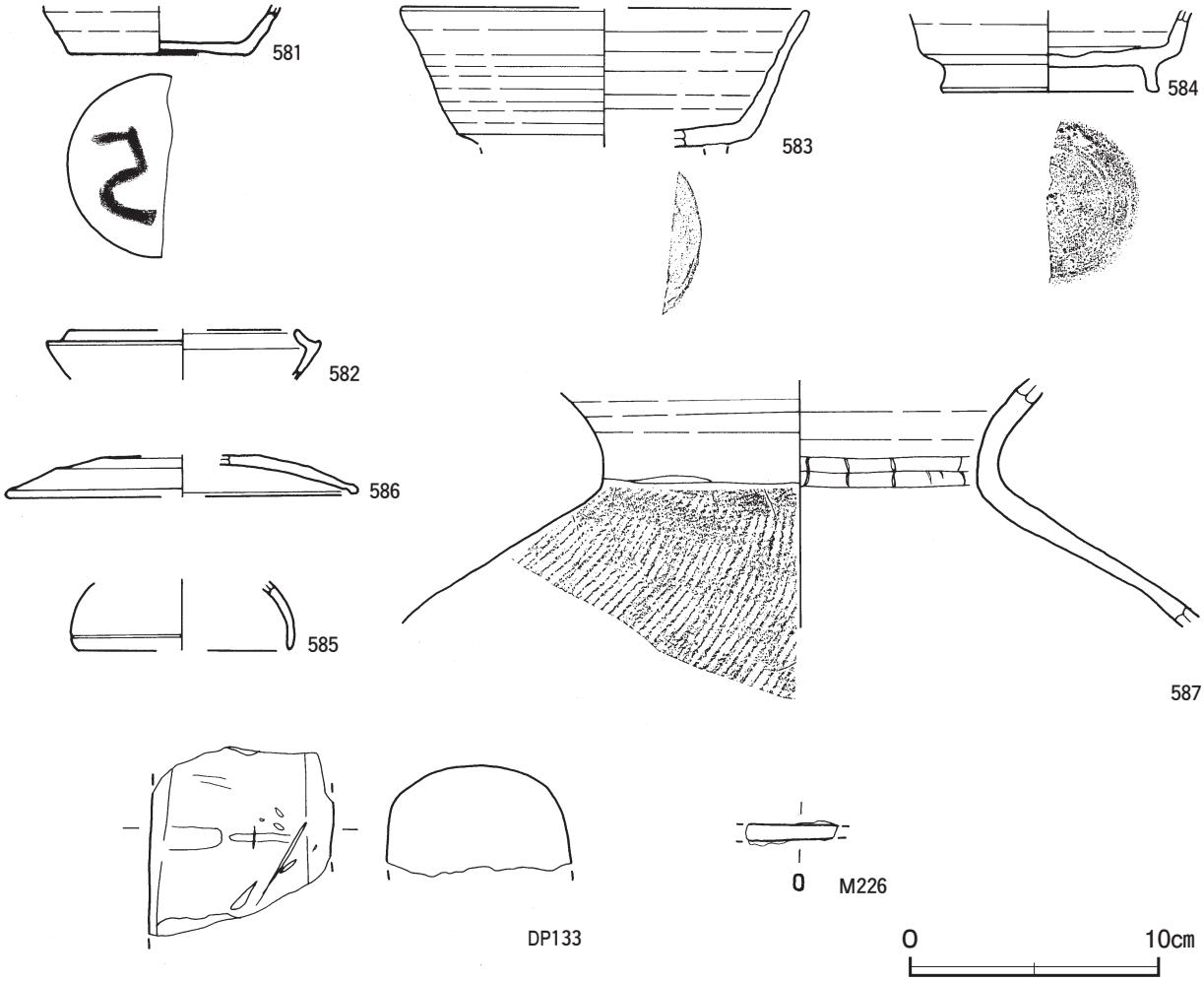
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量
5　褐　　色　ロームブロック中量，粘土粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量
10　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子微量
11　暗　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
12　暗　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片 575 点（坏 87，蓋４，甕 484），須恵器片 619 点（坏 430，高台付坏２，高坏６，蓋 18，鉢１，甕 160，甑２），土製品１点（支脚），鉄製品１点（刀子カ），鉄滓 98 点（1431.8 ｇ），炉底塊２点（12.4 ｇ），炉内滓６点（652.2 ｇ）が，覆土上層から出土している。587 は中央部の覆土中層から出土している。575・576・578 ～ 587・DP133・M 226 は，覆土上層から投棄された状態の破片で出土している。

所見　出土遺物が多量であることや，出土土器に時期差があることから，廃絶後，土器等を廃棄する土坑として使用されたと考えられる。時期は，出土土器から９世紀中葉には廃棄されたと考えられる。土層断面から井戸枠を埋設していた。裏込め土層が確認面まで遺存していないことから，上部を広く掘り返して井戸枠を抜き取ったと考えられる。覆土中の空洞は，廃絶後の陥没の可能性がある。



第 133 図　第７号井戸跡・出土遺物実測図



第 134 図　第７号井戸跡出土遺物実測図

第７号井戸跡出土遺物観察表（第 134 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
575	土師器	坏	14.0	5.4	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き 底部回転糸切り痕を残すナデ	覆土上層	70%　PL39
576	須恵器	坏	[12.6]	4.1	6.2	長石・石英	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	50%
577	須恵器	坏	[11.1]	4.0	6.7	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	50%
578	須恵器	坏	[12.8]	4.2	7.0	長石・石英・赤色粒子	灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	40%
579	須恵器	坏	[14.2]	3.6	7.6	長石・石英	黄灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	覆土上層	40%
580	須恵器	坏	[11.6]	4.1	7.2	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	覆土上層	35%
581	須恵器	坏	－	(2.0)	7.2	長石・石英・雲母	灰	良好	底面墨書「己」カ	覆土上層	25%
582	須恵器	坏	[9.0]	(2.0)	－	長石	灰	良好	外・内面ロクロナデ	覆土上層	５%
583	須恵器	高台付坏	[16.4]	(5.6)	－	長石・石英	灰	良好	高台欠損	覆土上層	30% 堀ノ内窯産
584	須恵器	高台付坏	－	(3.3)	[8.6]	長石・石英	灰	良好	外・内面ロクロナデ	覆土上層	30% 堀ノ内窯産
585	須恵器	坏蓋	[8.6]	(2.7)	－	長石	灰	良好	外・内面ロクロナデ	覆土上層	10%
586	須恵器	蓋	[14.0]	(1.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	不良	ロクロナデ	覆土上層	30% 新治窯産
587	須恵器	甕	－	(10.0)	－	長石・石英	にぶい赤褐	良好	体部外面横位の平行叩き後斜位の平行叩き 頸部内面ナデ痕	覆土中層	５%

番号	器　種	高さ	最小径	最大径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP133	支脚	(7.6)	(7.3)	(8.0)	(243.4)	長石・石英・赤色粒子	外面工具痕	覆土上層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 226	刀子カ	(3.7)	(0.7)	(0.3)	(4.2)	鉄	断面長方形　両端欠損	覆土上層	

(4) 土坑

第532号土坑（第135・136図）

位置　調査区中央部のＢ６a0区，標高15ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第22号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状　長径2.10ｍ，短径1.91ｍの円形で，長径方向はＮ－45°－Ｗである。深さは26㎝で，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

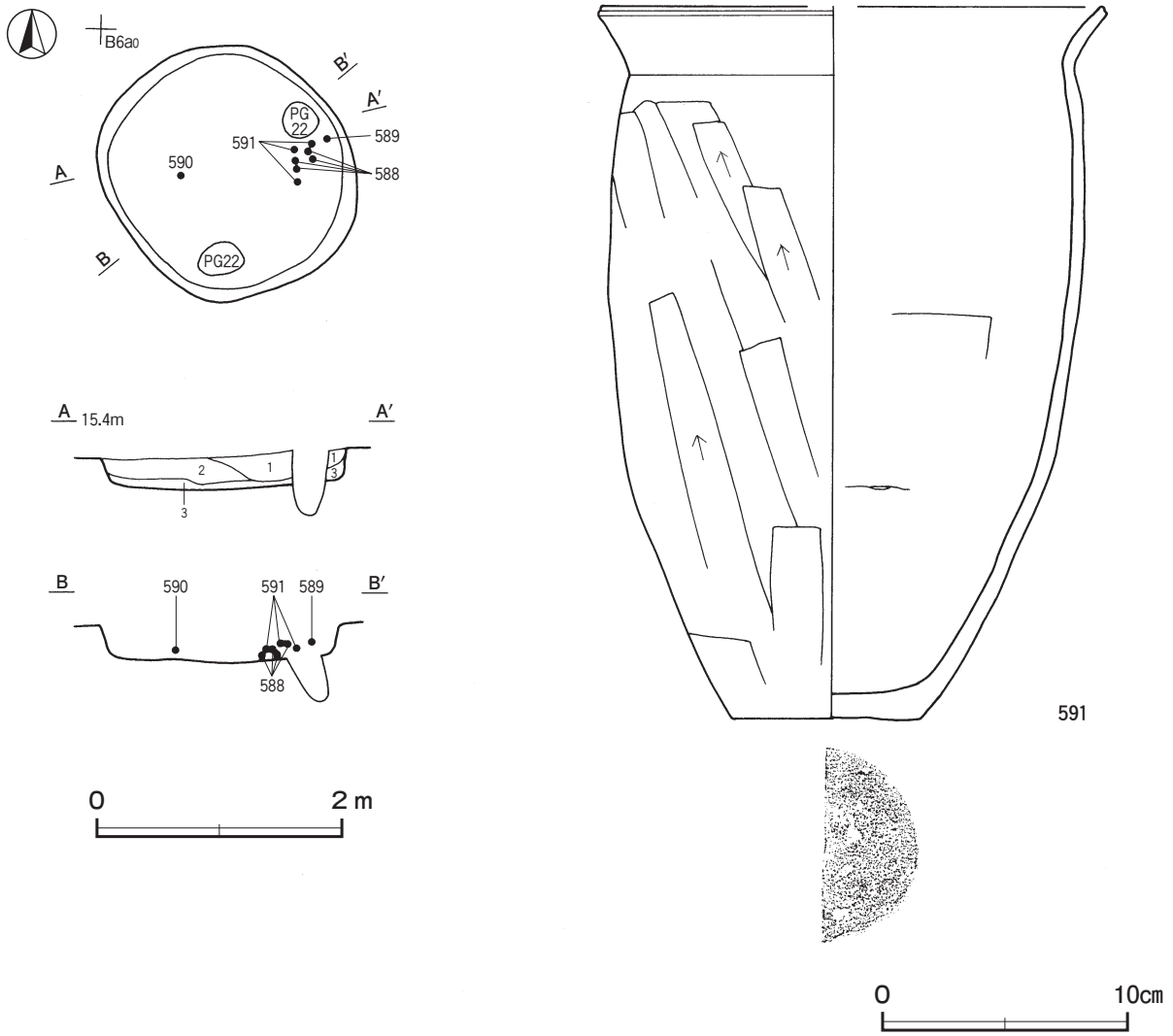
覆土　３層に分層できる。第１層は含有物が少なく，周囲からの土の流入を示す堆積状況から自然堆積である。第２・３層はロームブロックを含む不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

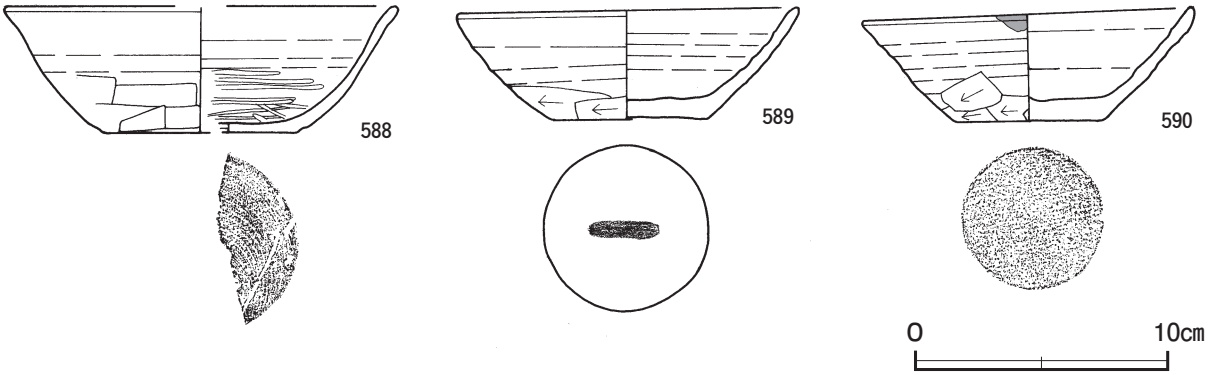
１　黒　褐　色　ローム粒子微量
２　暗　褐　色　ロームブロック微量
３　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片７点（坏４，甕３），須恵器片３点（坏２，甕１）が出土している。588・589・591は東部の覆土下層からまとめて投棄されたような状態で，590は西部の覆土下層から出土している。

所見　南北幅2.40ｍと限られた調査域のため，周囲に竪穴建物跡等の遺構は確認できなかったが，土器をまとめて廃棄したような様相から廃棄土坑と考えられる。時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。



第135図　第532号土坑・出土遺物実測図



第 136 図　第 532 号土坑出土遺物実測図

第 532 号土坑出土遺物観察表（第 135・136 図）

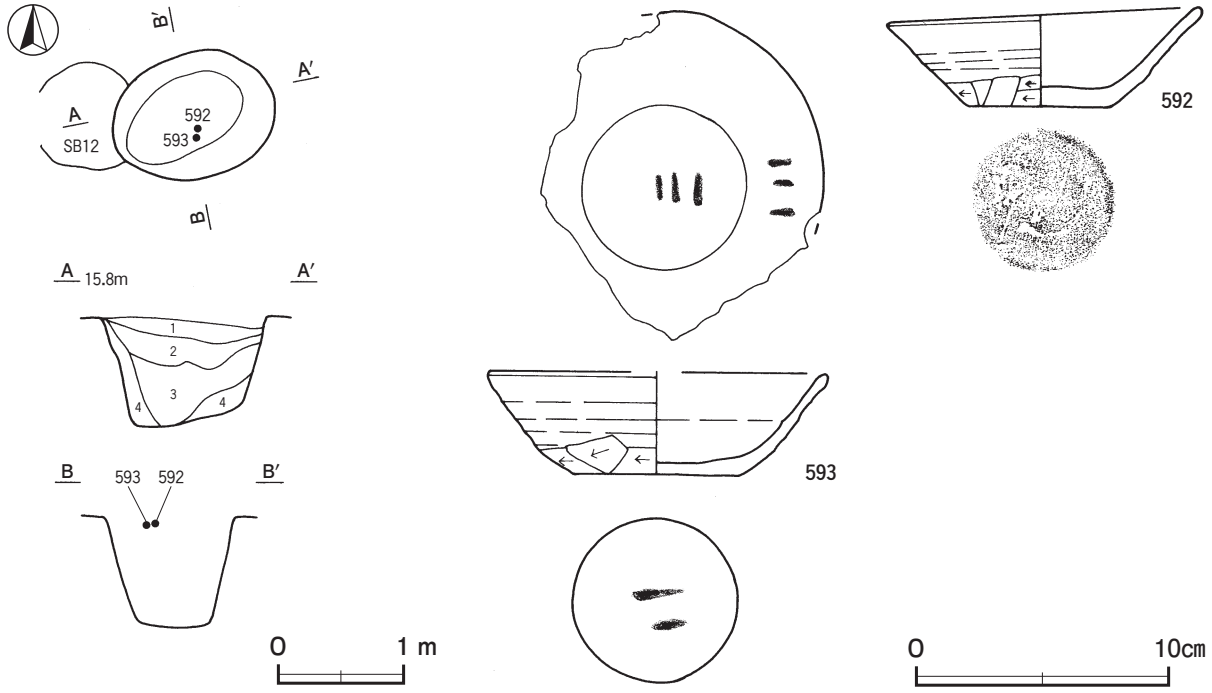
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
588	土師器	坏	[15.3]	5.0	[7.7]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　体部内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	覆土下層	30%
589	須恵器	坏	13.5	4.3	6.2	長石・石英	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向の手持ちヘラ削り　底部墨書「一」	覆土下層	100%
590	須恵器	坏	13.2	4.4	5.8	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向の手持ちヘラ削り　油煙付着	覆土下層	90%
591	土師器	甕	[20.4]	29.0	[7.8]	長石・石英・雲母	暗褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	30%

第 544 号土坑（第 137 図）

位置　調査区中央部のＢ４h0 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 12 号掘立柱建物跡のＰ５を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 1.30 m，短径 0.98 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 75°－Ｅである。深さは 89cmで，底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。



第 137 図　第 544 号土坑・出土遺物実測図

覆土　４層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片１点（坏），須恵器片２点（坏），鉄滓２点（38.2 g）が出土している。592 は正位，593 は斜位の状態で，中央部の覆土上層からまとまって出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。性格は不明である。

第 544 号土坑出土遺物観察表（第 137 図）

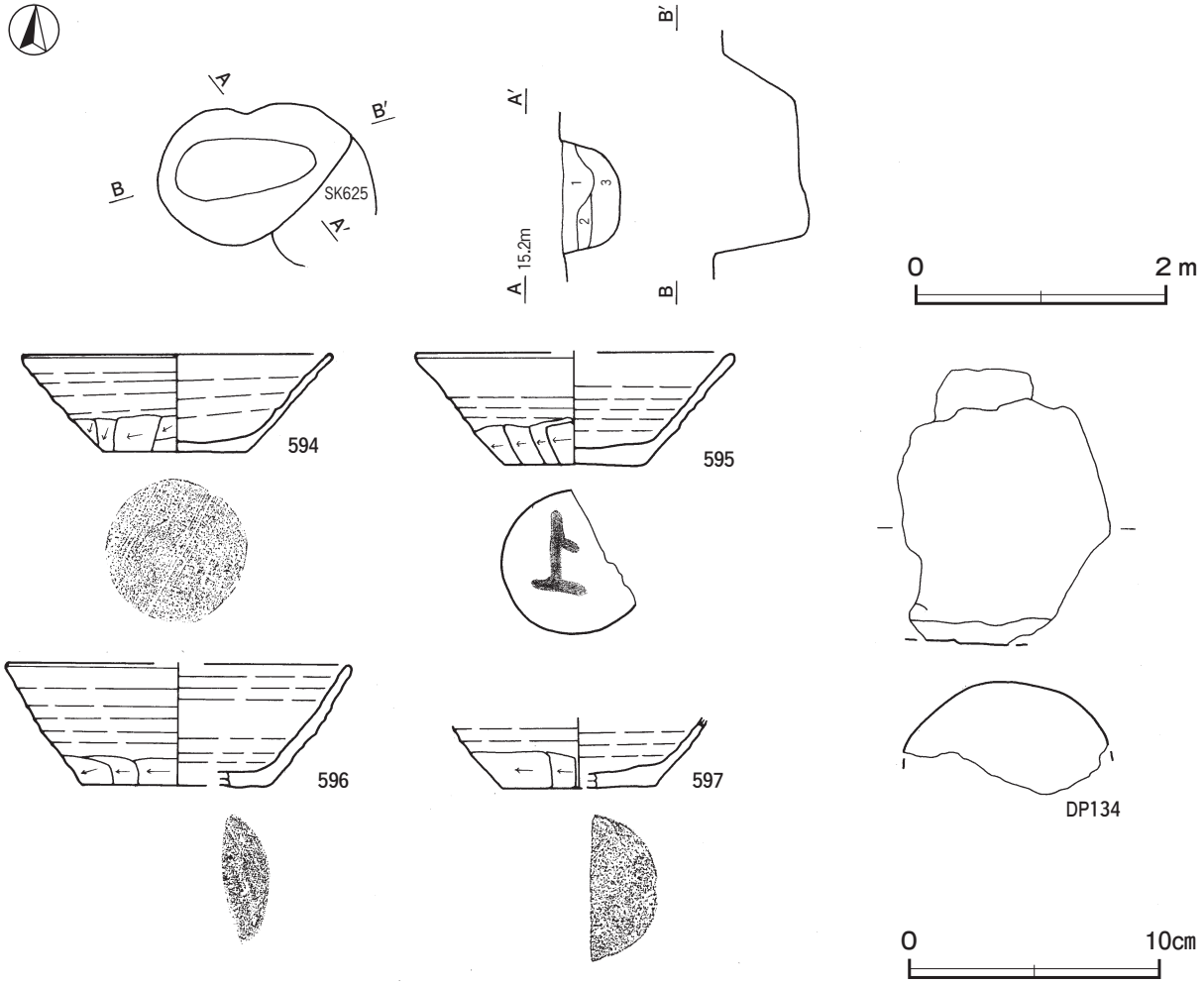
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
592	須恵器	坏	12.3	3.9	5.5	長石・石英	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り痕を残し，一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	70%
593	須恵器	坏	[13.3]	4.1	6.4	長石・石英	灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り痕を残し，一方向の手持ちヘラ削り　底部に墨書「二」　体部内面・底部内面に墨書「三」	覆土上層	60%

第 604 号土坑（第 138 図）

位置　調査区中央部のＢ５i5 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 625 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 1.61 m，短径 1.10 m不整楕円形で，長径方向はＮ－ 76°－Ｅである。確認面からの深さは



第 138 図　第 604 号土坑・出土遺物実測図

73cmで底面はほぼ平坦である。壁はやや外傾して立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。焼土ブロックや粘土ブロックを含む不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　粘土ブロック少量
3　暗　褐　色　焼土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片 174 点（坏７，高台付椀３，甕類 164），須恵器片 45 点（坏 25，蓋３，甕類 17），鉄滓 23 点（707.6 ｇ）が出土している。594 ～ 597，DP134 は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀中葉に比定できる。

第 604 号土坑出土遺物観察表（第 138 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
594	須恵器	坏	12.3	3.9	5.7	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土中	60%
595	須恵器	坏	［12.6］	4.5	5.6	長石・石英	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り 墨書「上ヵ」	覆土中	50%
596	須恵器	坏	［13.6］	4.9	［7.3］	長石・石英・雲母・細礫	灰褐	良好	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	30% 新治窯産
597	須恵器	坏	－	（2.8）	［6.1］	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部二方向のヘラ削り	覆土中	20%

番号	器　種	高さ	最小径	最大径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP134	支脚	（11.1）	－	［10.0］	（319.5）	長石・石英	スサを練り込んだ痕跡あり　工具痕	覆土中	

第 605 号土坑（第 139 図）

位置　調査区中央部のＢ５i5 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 621 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 1.29 ｍ，短径 1.12 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 64°－Ｅである。確認面からの深さは 68 cmで，底面はほぼ平坦である。壁は，外傾して立ち上がっている。

覆土　８層に分層できる。柱穴状の堆積状況を示しており，第１～３層は柱抜き取り後の覆土，第４～７層は埋土である。第１～３層は，自然堆積で，第４～７層は版築状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

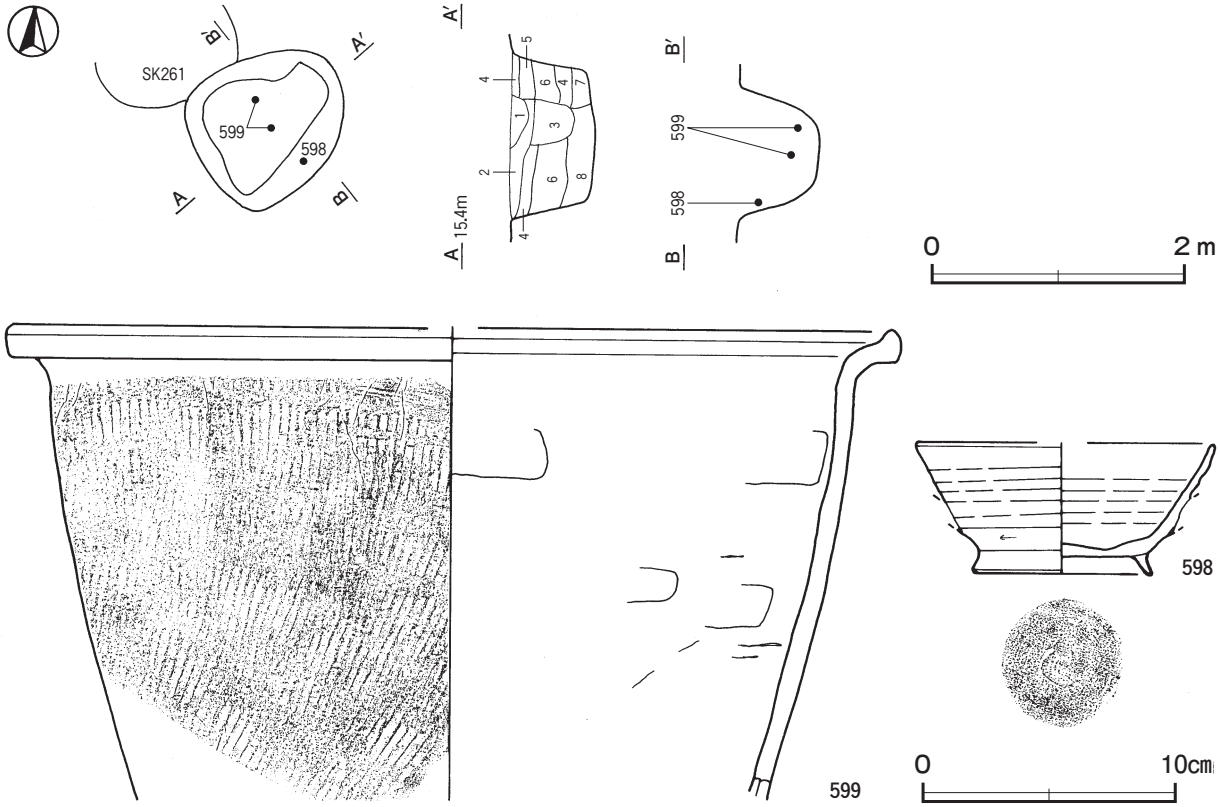
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック微量
7　暗　褐　色　粘土ブロック少量
8　黒　褐　色　粘土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片 46 点（坏５，甕類 41），須恵器片 31 点（坏 19，高台付坏１，甕類 11），鉄滓３点（301.8 ｇ）が出土している。598 は南東部の覆土中層から，599 は中央部の覆土中層から覆土下層にかけてそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。覆土が柱穴状に堆積していることから，掘立柱建物の柱穴と推測できるが，対応するピットが確認できなかったため性格不明である。

第 605 号土坑出土遺物観察表（第 139 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
598	須恵器	双耳坏	［11.8］	5.3	7.0	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り 把手欠損	覆土中層	70%
599	須恵器	甕	［35.0］	（18.7）	－	長石・石英・雲母	灰黄	良好	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き　内面ヘラナデ	覆土中層～下層	20%



第 139 図　第 605 号土坑・出土遺物実測図

第 612 号土坑（第 140 図）

位置　調査区中央部のＢ５i3 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

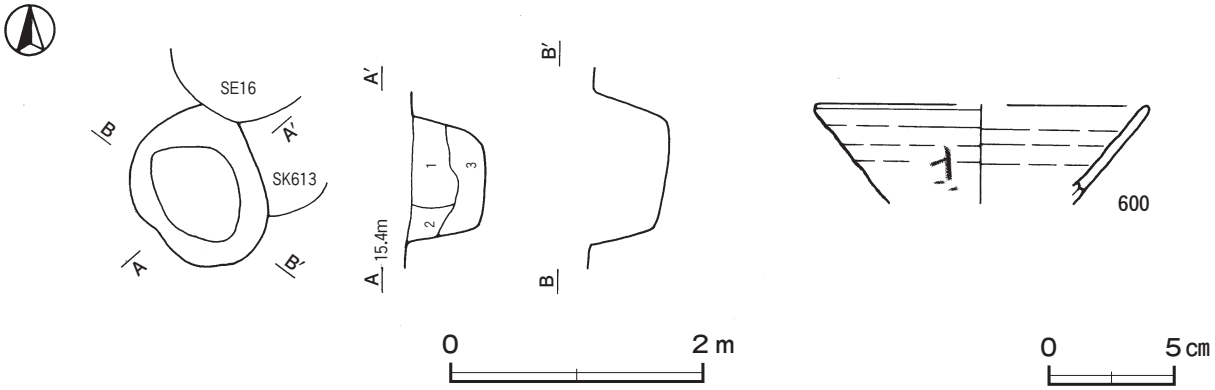
重複関係　第 613 号土坑を掘り込み，第 16 号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　長径 1.24 m，短径 1.04 mの不整楕円形で，長径方向はＮ－ 30°－Ｗである。深さは 62cmで，底面はほぼ平坦である。壁は，外傾して立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量



第 140 図　第 612 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 18 点（坏１，甕類 17），須恵器片６点（坏４，蓋１，甕１），鉄滓 36 点（456.0 ｇ）が出土している。600 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器と重複関係から９世紀中葉に比定できる。

第 612 号土坑出土遺物観察表（第 140 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
600	須恵器	坏	［13.0］	(3.9)	－	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	良好	墨書「□」	Ｐ８覆土中	５％

第 625 号土坑（第 141 図）

位置　調査区中央部のＢ５i5 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 604 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北西部を第 18 号掘立柱建物のＰ２に掘り込まれているため，北東・南西径が 1.06 ｍで，北西・南東径は 0.56 ｍしか確認できなかった。平面形は楕円形と推測でき，長径方向はＮ－ 15°－Ｅである。深さは 45㎝で，底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

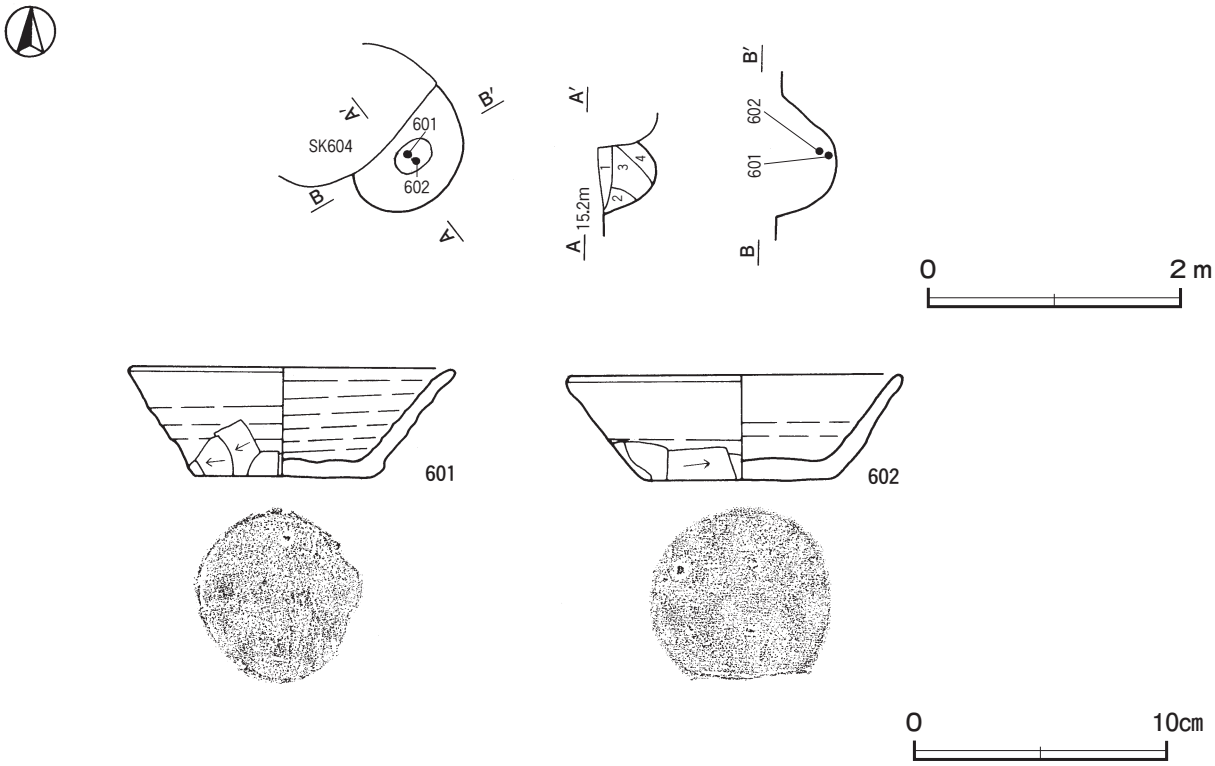
覆土　４層に分層できる。各層に粘土ブロックを含む不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・粘土ブロック微量
2　暗　褐　色　焼土粒子・粘土ブロック微量
3　褐　灰　色　粘土ブロック中量
4　暗　褐　色　粘土ブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片２点（甕），須恵器片２点（坏），鉄滓１点（23.2 ｇ）が出土している。601・602 は，中央部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。



第 141 図　第 625 号土坑・出土遺物実測図

第625号土坑出土遺物観察表（第141図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
601	須恵器	坏	12.7	4.4	7.1	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部二方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	80%　PL40
602	須恵器	坏	13.0	4.3	7.2	長石・石英・細礫	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	60%　PL40

表10　平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
532	B6a0	N－45°－W	円形	2.10　×　1.91	26	平坦	直立	自然 人為	土師器片，須恵器片	本跡→PG22 9世紀中葉
544	B4h0	N－75°－E	楕円形	1.30　×　0.98	89	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	本跡→SB12 9世紀中葉
604	B5i5	N－76°－E	不整楕円形	1.61　×　1.10	73	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	9世紀中葉
605	B5i5	N－64°－E	楕円形	1.29　×　1.12	68	平坦	外傾	自然 人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	SK621→本跡 9世紀前葉
612	B5i3	N－30°－W	不整楕円形	1.24　×　1.04	62	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	SK613→本跡→SE16 9世紀中葉
625	B5i5	N－15°－E	［楕円形］	1.06　×（0.56）	45	皿状	外傾	人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	本跡→SK604 9世紀前葉

5　室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，方形竪穴遺構11基，掘立柱建物跡1棟，井戸跡5基，地下式坑17基，火葬施設5基，屋外炉5基，堀跡1条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　方形竪穴遺構

第2号方形竪穴遺構（第142図）

位置　調査区東部のC9j3区，標高14mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸2.54m，短軸2.50mの不整方形で，長軸方向はN－69°－Eである。壁高は50～64cmで，北壁と西壁は外傾して立ち上がり，東壁と南壁は直立している。北東コーナー部に幅90cm，奥行84cmのスロープがあり，出入り口施設に伴うものと考えられる。

床　北部は，長軸158cm，短軸84cmで，深さ18cmほど土坑状にくぼんでおり，南部はほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。

ピット　2か所。P1・P2は深さ18cm・20cmで，規模と配置から主柱穴である。

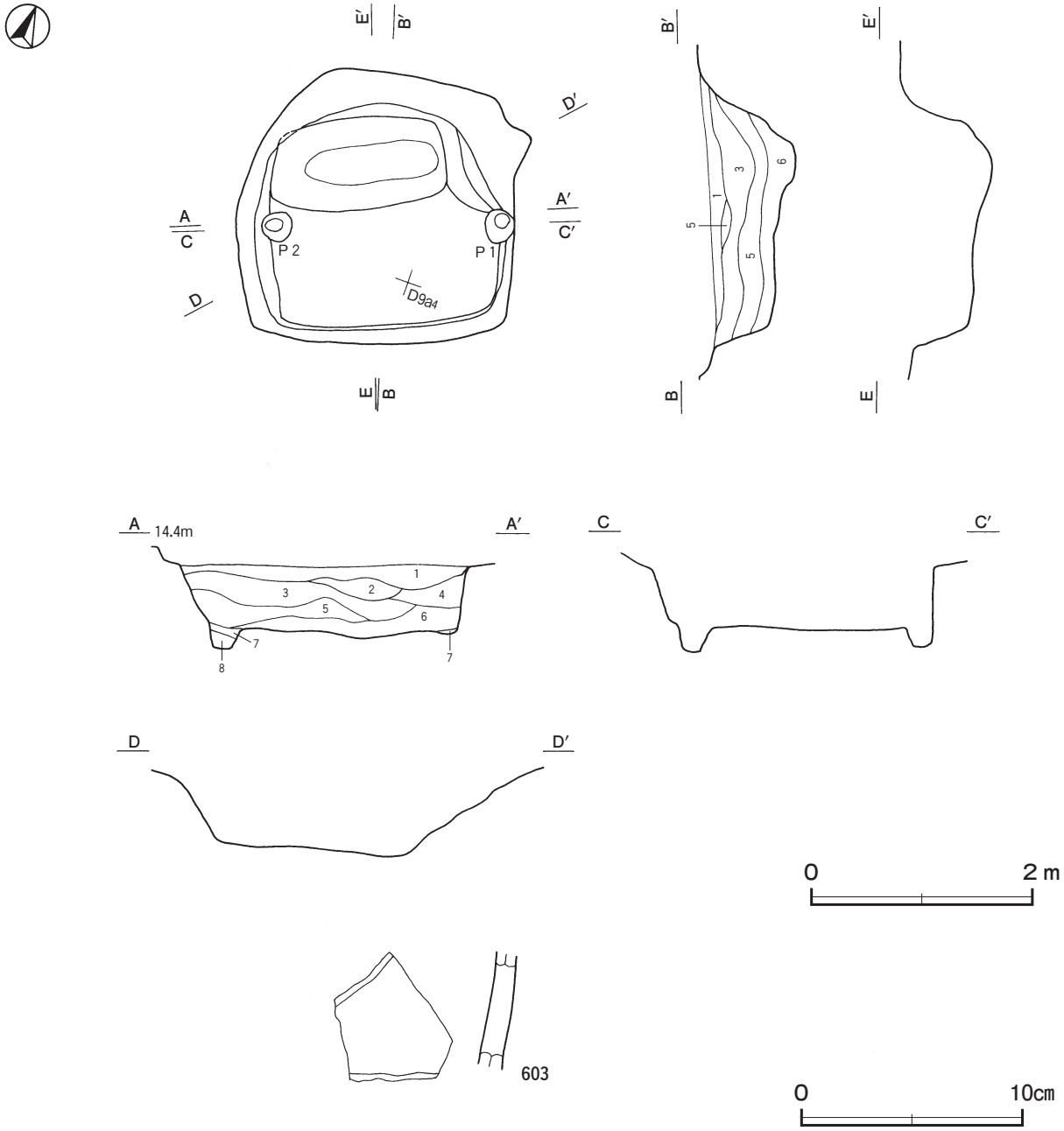
覆土　6層に分層できる。ロームブロックや粘土粒子が含まれる層があることから，埋め戻されている。第7・8層はP2の覆土である。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量（締まり強い）
2　褐　色　ローム粒子微量（締まり強い）
3　暗褐色　ロームブロック微量
4　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量
5　暗褐色　粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
6　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量（締まり普通）
8　褐　色　ローム粒子微量（締まり弱い）

遺物出土状況　陶器片1点（甕）のほか，土師器片5点（甕類），須恵器片2点（坏，甕），鉄滓2点（11.0g）が出土している。603は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は住居と考えられる。



第 142 図　第２号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第２号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第 142 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
603	陶器	甕	－	(5.4)	－	長石・石英	にぶい褐	良好	外・内面ナデ	覆土中	5％ 常滑産

第３号方形竪穴遺構（第 143 図）

位置　調査区中央部のＣ７c6 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 88 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.32 m，短軸 2.20 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 84°－Ｅである。壁高は 41 ～ 50cmで，

ほぼ直立してして立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ34cm・24cmで，規模と配置から主柱穴である。

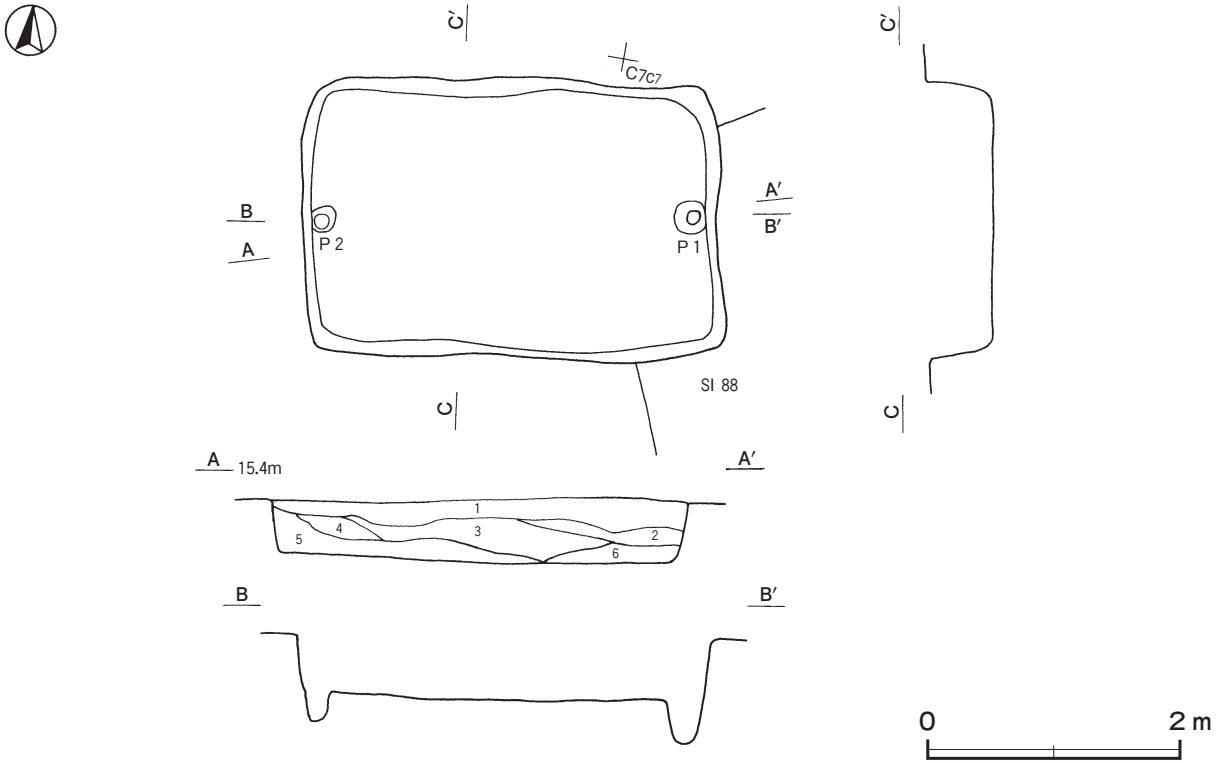
覆土　６層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1	暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量	4	暗　褐　色　ローム粒子少量
2	暗　褐　色　ロームブロック微量	5	暗　褐　色　ロームブロック少量
3	黒　褐　色　ロームブロック中量	6	暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況　陶器片２点（甕）のほか，土師器片14点（坏３，甕類11），須恵器片５点（坏４，甕類１），鉄滓４点（87.8 g）が出土している。

所見　時期は，出土土器と遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は住居と考えられる。



第143図　第３号方形竪穴遺構実測図

第４号方形竪穴遺構（第144図）

位置　調査区西部のＡ３g6区，標高17 mほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

重複関係　第104号竪穴建物跡を掘り込み，第９号地下式坑，第19号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状　北部が第９号地下式坑に掘り込まれているため，東西軸は2.48 mで，南北軸は2.50 mしか確認できなかった。不整方形と推定でき，南北軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は52～85cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。

ピット　Ｐ１は深さ30cmで，規模と配置から主柱穴である。

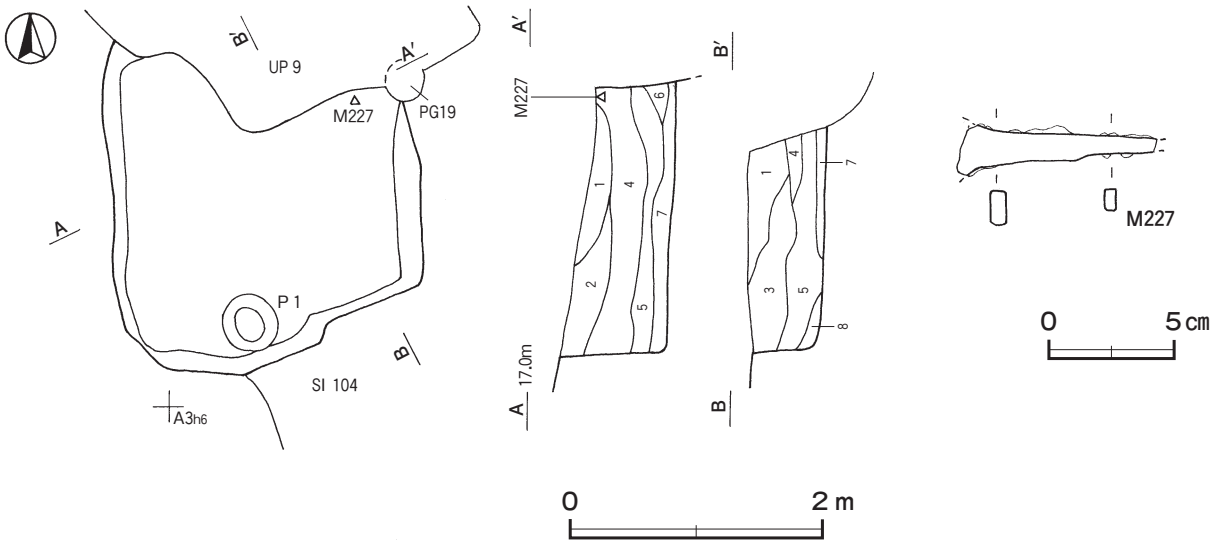
覆土　８層に分層できる。多くの層にロームや粘土のブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック少量
2　灰　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　極暗褐色　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化物微量
6　暗　褐　色　ロームブロック微量
7　暗　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック微量
8　極暗褐色　ローム粒子微量

遺物出土状況　陶器片１点（甕），金属製品１点（刀子）のほか，土師器片５点（甕類），須恵器片１点（坏），鉄滓３点（17.7 g）が出土している。M 227 は東壁際の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器の様相と遺構の形状や，15 世紀中葉に比定される第９号地下式坑に掘り込まれていることからも，15 世紀中葉以前の室町時代と考えられる。性格は住居と考えられる。



第 144 図　第４号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第４号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第 144 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 227	刀子	(8.0)	(2.1)	0.5～0.6	(20.1)	鉄	茎部断面長方形　刃部欠損	覆土上層	PL53

第５号方形竪穴遺構（第 145 図）

位置　調査区中央部のＣ９i1 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第４号火葬施設を掘り込み，第 296・301・304 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺 2.85 mほどの隅丸方形で，長軸方向はN－74°－Eである。壁高は 46 ～ 66cmで，外傾して立ち上がっている。東壁の南部に，幅・奥行とも 72cmの緩やかなスロープがあり，出入り口施設に伴うものと考えられる。

床　ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。西壁のＰ２の南からは長さ 50cm，幅 20cmの範囲で，高さ８cmほどの焼土塊を確認した。

焼土塊土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量
2　暗赤褐色　炭化材少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ 44・46cmで，規模と配置から主柱穴である。

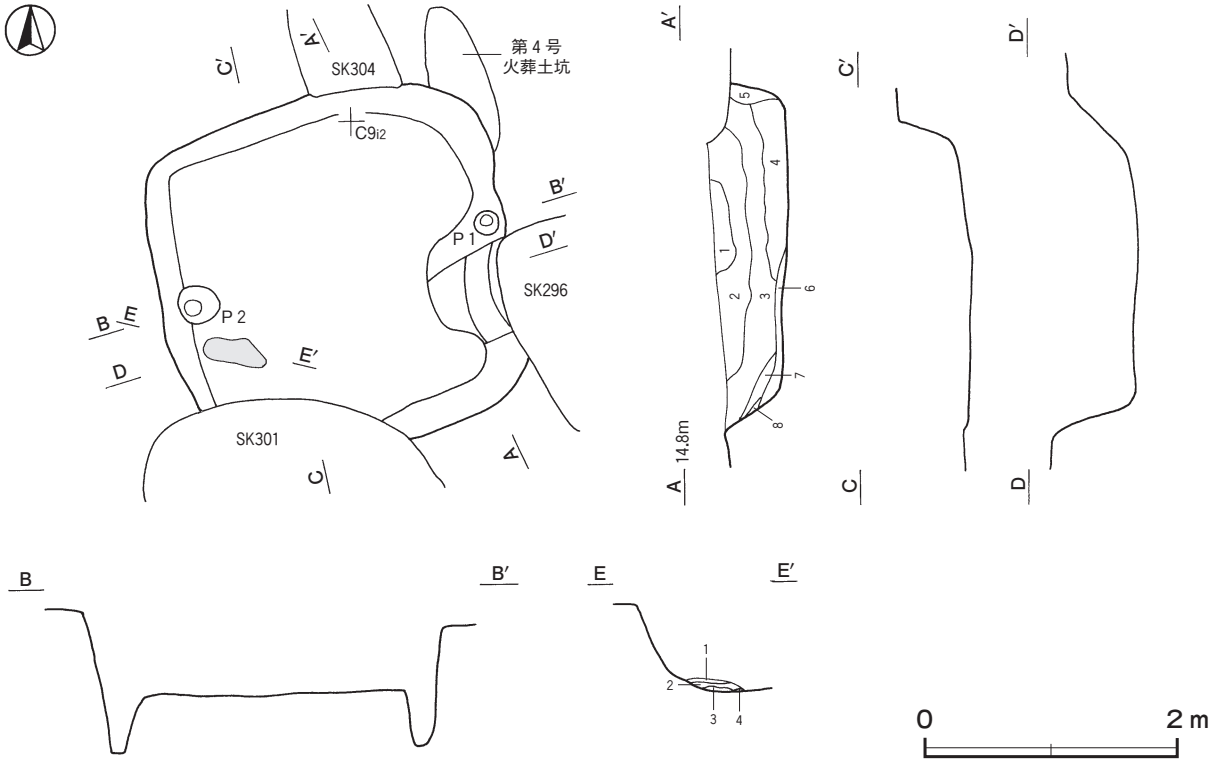
覆土　８層に分層できる。多くの層にロームのブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　陶器片１点（甕類）のほか，土師器片 35 点（坏９，甕類 26），須恵器片 23 点（坏３，甕類 20），鉄滓 22 点（313.1 ｇ）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器の様相と遺構の形状や重複関係から，第４号火葬施設よりも古い室町時代と考えられる。焼土塊は，床面が焼けていないことから，埋め戻しの際の混入と考えられる。性格は住居と考えられる。



第 145 図　第５号方形竪穴遺構実測図

第６号方形竪穴遺構（第 146 図）

位置　調査区中央部のＣ８i1 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 3.37 ｍ，短軸 2.80 ｍの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 13°－Ｗである。壁高は 64 ～ 68㎝で，ほぼ直立している。南西コーナー部に，幅 98㎝，奥行 46㎝ほどのスロープがあり，出入り口施設に伴うものと考えられる。

床　ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は，深さ 12 ～ 24㎝で，規模と配置から主柱穴である。

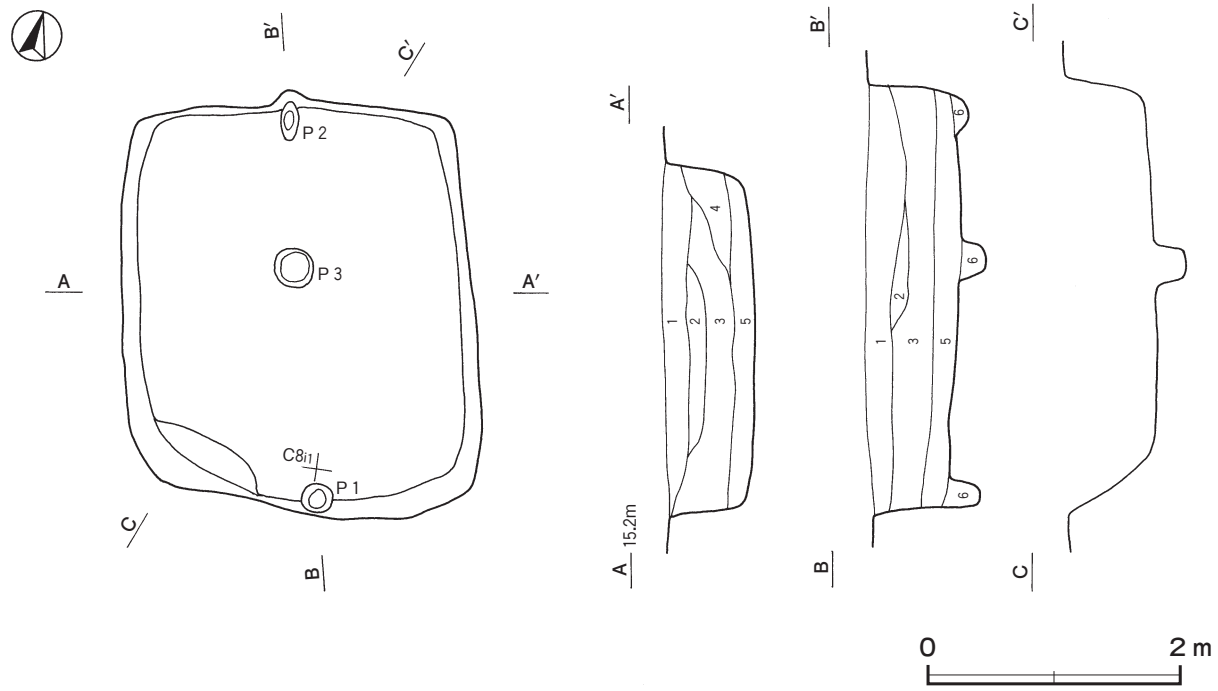
覆土　５層に分層できる。多くの層にロームのブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第６層はＰ１～Ｐ３の覆土である。

土層解説

1　極 暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック，炭化粒子少量
3　極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　陶器片１点（碗）のほか，土師器片８点（甕類），須恵器片 14 点（坏 10，甕類４），鉄滓２点（79.4 ｇ），椀状滓２点（61.3 ｇ）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

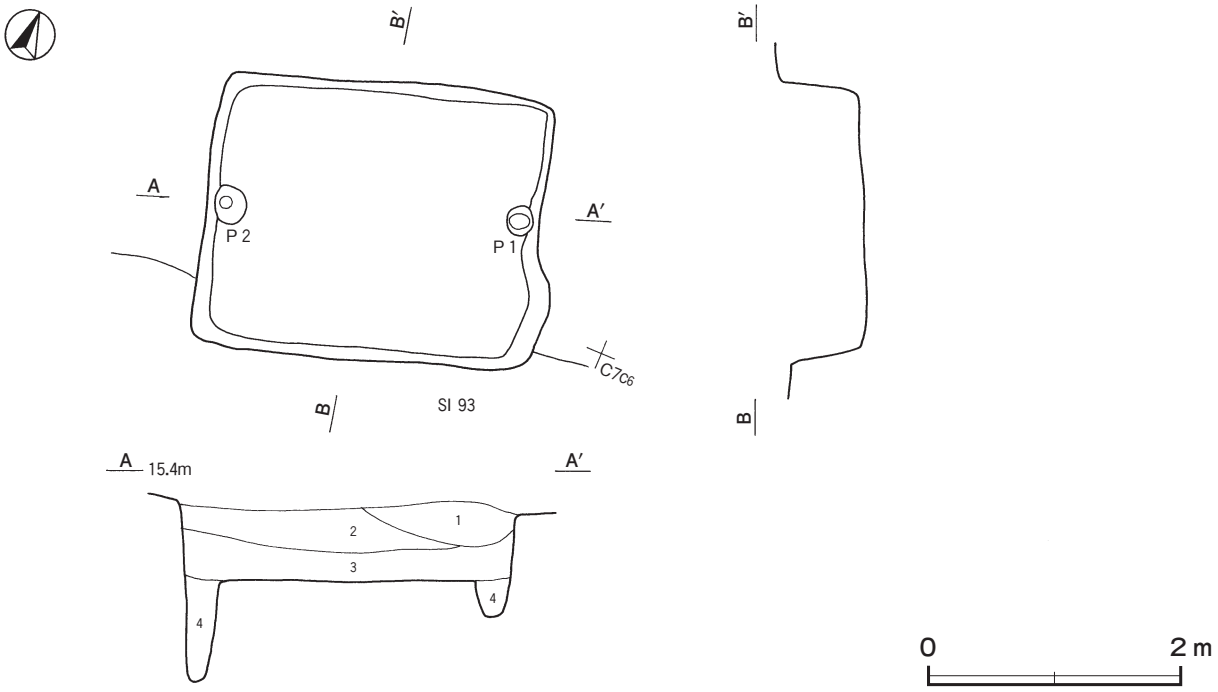
所見　時期は，出土土器と遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は住居と考えられる。



第 146 図　第６号方形竪穴遺構実測図

第７号方形竪穴遺構（第 147 図）

位置　調査区中央部のＣ７b5 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。



第 147 図　第７号方形竪穴遺構実測図

重複関係　第93号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸2.82 m，短軸2.22 mの長方形で，長軸方向はN－70°－Eである。壁高は56～62cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ30cm・80cmで，規模と配置から主柱穴である。

覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第４層はＰ１・Ｐ２の覆土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量

所見　時期は，遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は住居と考えられる。

第８号方形竪穴遺構（第148図）

位置　調査区中央部のＣ７b6区，標高15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第92号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸2.60 m，短軸2.26 mの隅丸長方形で，西壁の南部が幅1.10 m，長さ0.60 mの範囲で，南西方向に張り出している。長軸方向はN－89°－Wである。壁高は50～54cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。南西コーナー部には，長径108cm，短径64cmで，深さ28cmの楕円形のくぼみがあり，出入り口施設に伴うものと考えられる。

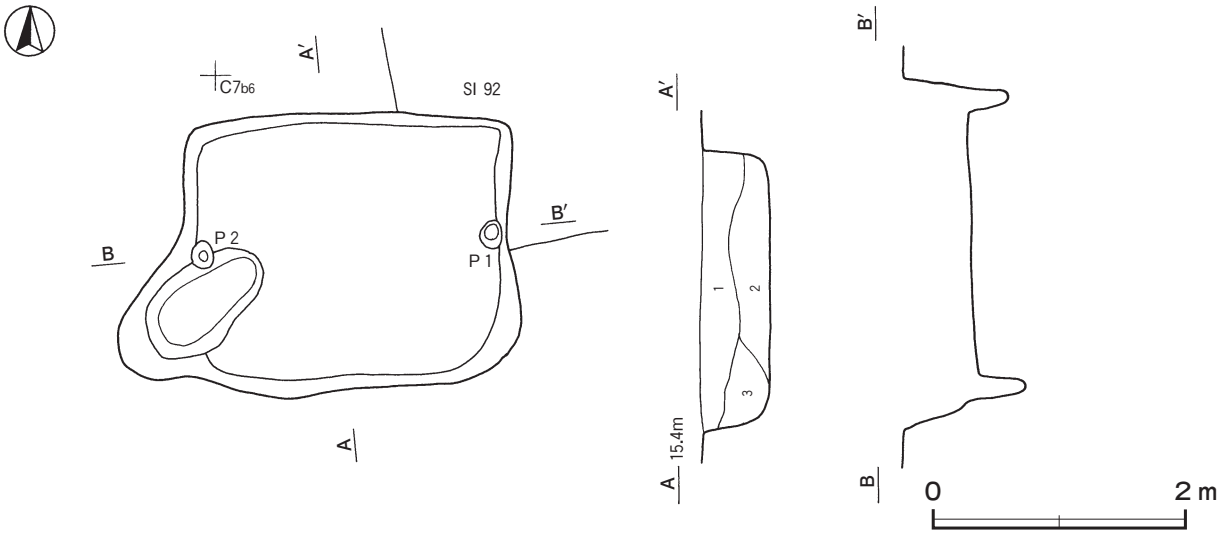
ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ30cm・42cmで，規模と配置から主柱穴である。

覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

所見　時期は，遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は住居と考えられる。



第148図　第８号方形竪穴遺構実測図

第９号方形竪穴遺構（第 149 図）

位置　調査区中央部のＣ７i0 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 3.10 ｍ，短軸 2.50 ｍの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 23°－Ｗである。壁高は 50 ～ 58㎝で，外傾して立ち上がっている。南西コーナー部に幅 100㎝，奥行 48㎝のスロープがあり，出入り口施設に伴うものと考えられる。

床　ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ５は深さ８～ 36㎝で，規模と配置から主柱穴である。

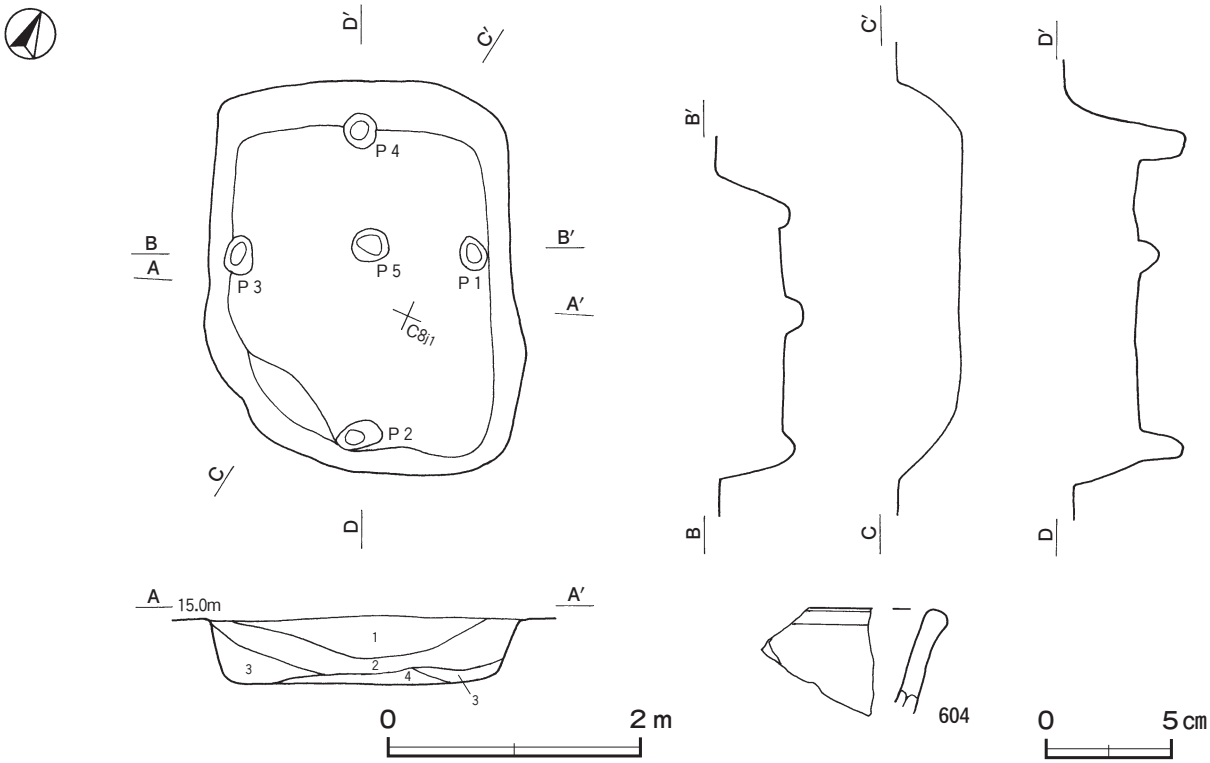
覆土　４層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　陶器片１点（甕）のほか，土師器片 12 点（坏１，甕類 11），須恵器片 10 点（坏５，高台付坏２，甕類３），鉄滓１点（8.5 ｇ）が出土している。604 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器と遺構の形状から，15 世紀中葉に比定できる。性格は住居と考えられる。



第 149 図　第９号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第９号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第 149 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
604	陶器	甕	－	(4.1)	－	長石・石英	にぶい橙	良好	外・内面ナデ	覆土中	５％ 常滑産

第 10 号方形竪穴遺構（第 150 図）

位置　調査区中央部のＣ８j2 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 4.10 m，短軸 3.00 mの長方形で，長軸方向はN－73°－Eである。壁高は 50 ～ 56cmで，外傾して立ち上がっている。北西コーナー部に幅 125cm，奥行 50cmほどのスロープがあり，出入り口施設に伴うものと考えられる。

床　ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 18 ～ 25cmで，規模と配置から主柱穴である。

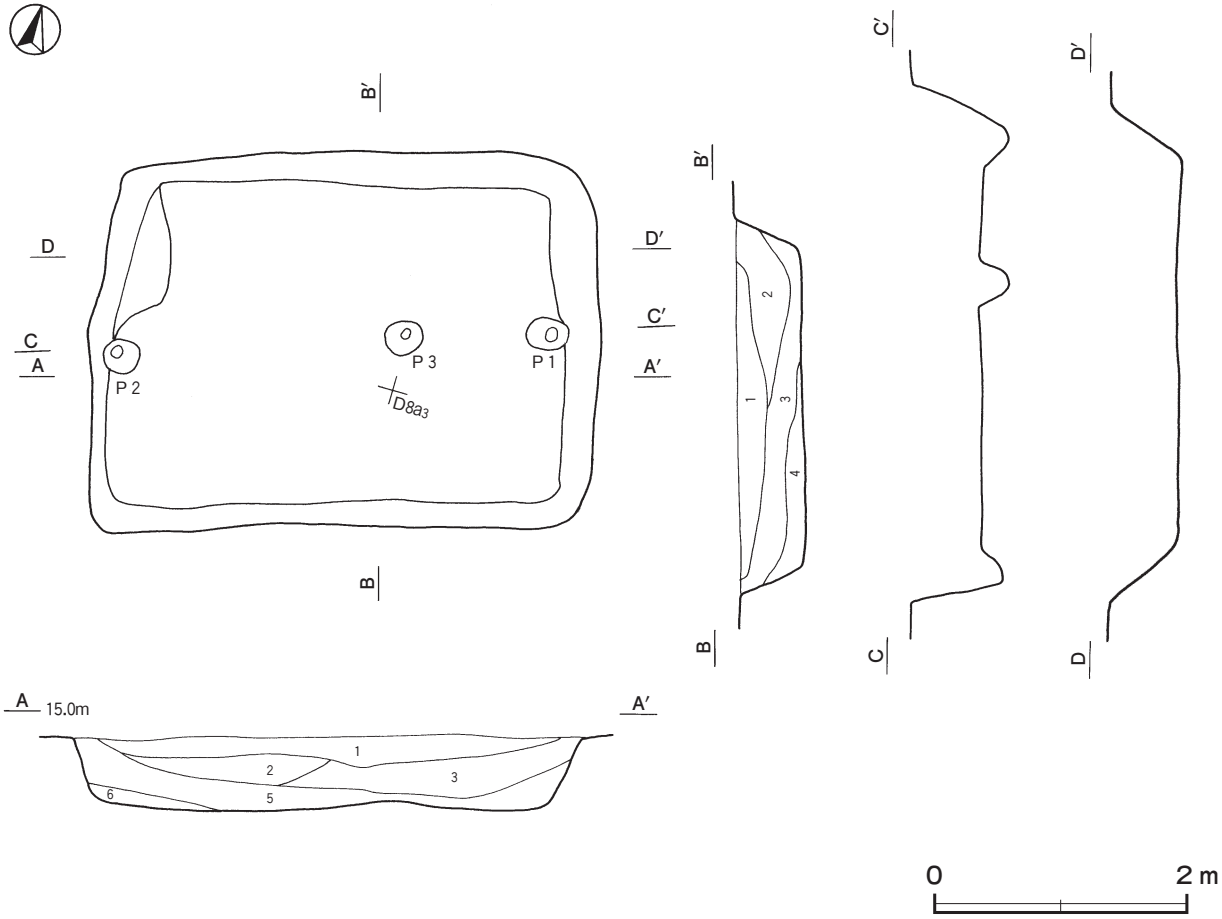
覆土　６層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子中量	4	暗　褐　色	ロームブロック多量
2	暗　褐　色	焼土ブロック・ローム粒子中量	5	暗　褐　色	ロームブロック少量
3	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子少量	6	褐　　色	ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 10 点（坏２，甕類８），須恵器片 18 点（坏９，甕類９），鉄滓 11 点（63.0 g）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，伴う土器が出土していないが，遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は住居と考えられる。



第 150 図　第 10 号方形竪穴遺構実測図

第 11 号方形竪穴遺構（第 151 図）

位置　調査区西部のＡ３i6 区，標高 17 mほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

重複関係　第 722 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 2.67 m，短軸 2.20 mの五角形で，長軸方向はN－80°－Eである。壁高は 38 ～ 52cmで，ほぼ直立している。南東コーナー部に，幅 120cm，奥行 40cmのスロープがあり，出入り口施設に伴うものと考えられる。

床　ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ 10cm・20cmで，規模と配置から主柱穴である。

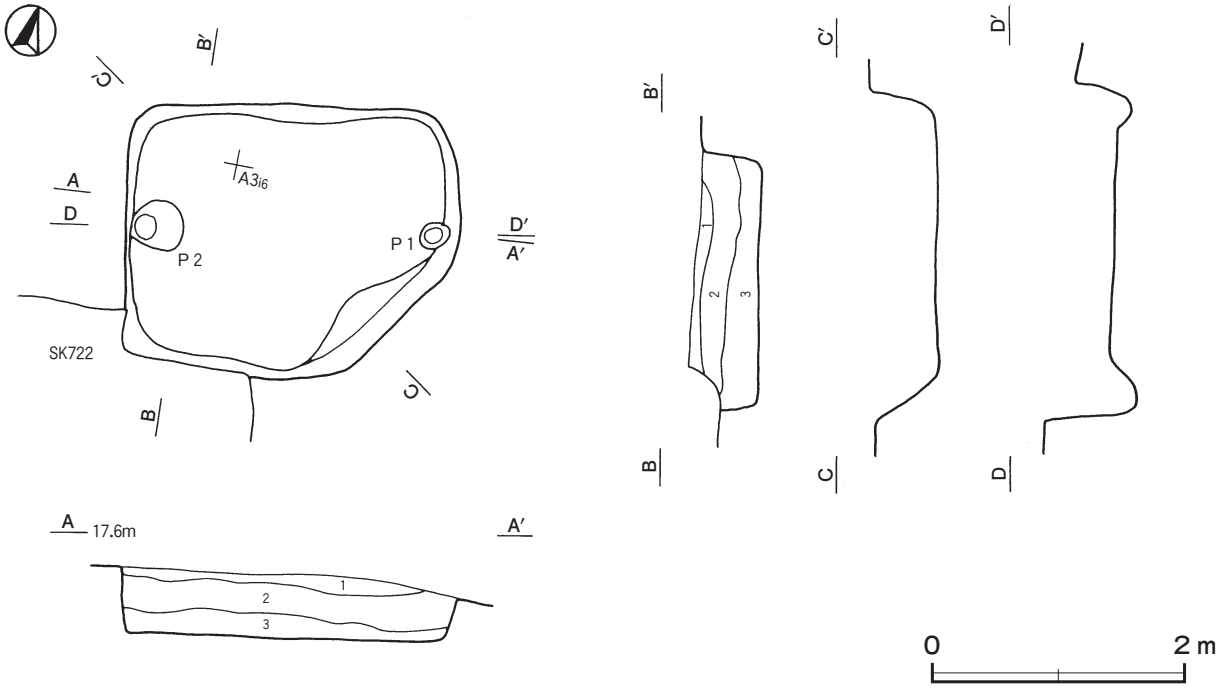
覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片３点（甕類），須恵器片１点（坏），鉄滓４点（44.0 g）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は住居と考えられる。



第 151 図　第 11 号方形竪穴遺構実測図

第 12 号方形竪穴遺構（第 152 図）

位置　調査区中央部のＣ７a5 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 2.68 m，短軸 1.86 mの長方形で，長軸方向はN－65°－Eである。壁高は 48 ～ 54cmで，北壁を除いた三方の壁は外傾して立ち上がっている。北壁は内傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。

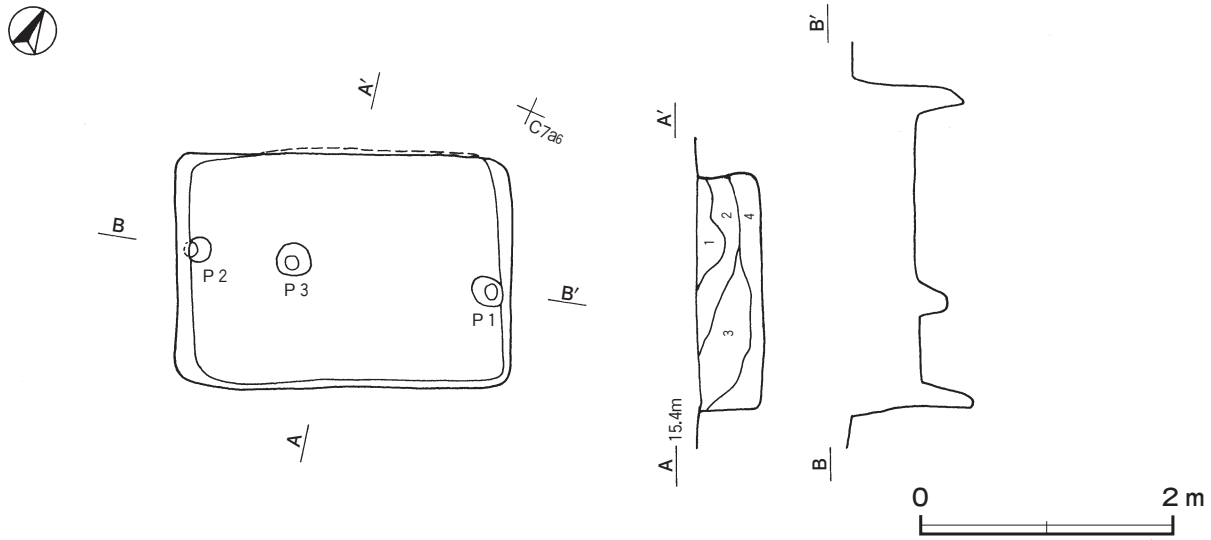
ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 24 ～ 40cmで，規模と配置から主柱穴である。

覆土　４層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

所見　時期は，遺構の形状から室町時代と考えられる。性格は住居と考えられる。



第 152 図　第 12 号方形竪穴遺構実測図

表 11　室町時代方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	長軸方向	平面形	規模	壁高	床面	内部施設			覆土	主な出土遺物	備考
				長軸×短軸(m)	(cm)		柱穴	出入口	ピット			
2	C 9 j3	N − 69° − E	不整方形	2.54 × 2.50	50 ～ 64	平坦	2	−	−	人為	陶器片，土師器片，須恵器片，鉄滓	
3	C 7 c6	N − 84° − E	隅丸長方形	2.32 × 2.20	41 ～ 50	平坦	2	−	−	人為	陶器片，土師器片，須恵器片，鉄滓	SI88 →本跡
4	A 3 g6	N − 3° − W	[不整方形]	(2.50) × 2.48	52 ～ 85	平坦	1	−	−	人為	陶器片，金属製品，土師器片，須恵器片，鉄滓	SI104 →本跡→ UP 9，PG19
5	C 9 i1	N − 74° − E	隅丸方形	2.88 × 2.85	46 ～ 66	平坦	2	−	−	人為	陶器片，土師器片，須恵器片，鉄滓	第 4 号火葬施設→本跡→ SK296・301・304
6	C 8 i1	N − 13° − W	隅丸長方形	3.37 × 2.80	64 ～ 68	平坦	3	−	−	人為	陶器片，土師器片，須恵器片，鉄滓，椀状滓	
7	C 7 b5	N − 70° − E	長方形	2.82 × 2.22	56 ～ 62	平坦	2	−	−	人為	−	SI93 →本跡
8	C 7 b6	N − 89° − W	隅丸長方形	2.60 × 2.26	50 ～ 54	平坦	2	−	−	人為	−	SI92 →本跡
9	C 7 i0	N − 23° − W	隅丸長方形	3.10 × 2.50	50 ～ 58	平坦	5	−	−	人為	陶器片，土師器片，須恵器片，鉄滓	
10	C 8 j2	N − 73° − E	長方形	4.10 × 3.00	50 ～ 56	平坦	3	−	−	人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	
11	A 3 i6	N − 80° − E	五角形	2.67 × 2.20	38 ～ 52	平坦	2	−	−	人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	本跡→ SK722
12	C 7 a5	N − 65° − E	長方形	2.68 × 1.86	48 ～ 54	平坦	3	−	−	人為	−	

(2)　掘立柱建物跡

第 15 号掘立柱建物跡（第 153 図）

位置　調査区中央部のＡ４i0 区，標高 15 mの平坦な台地上に位置している。

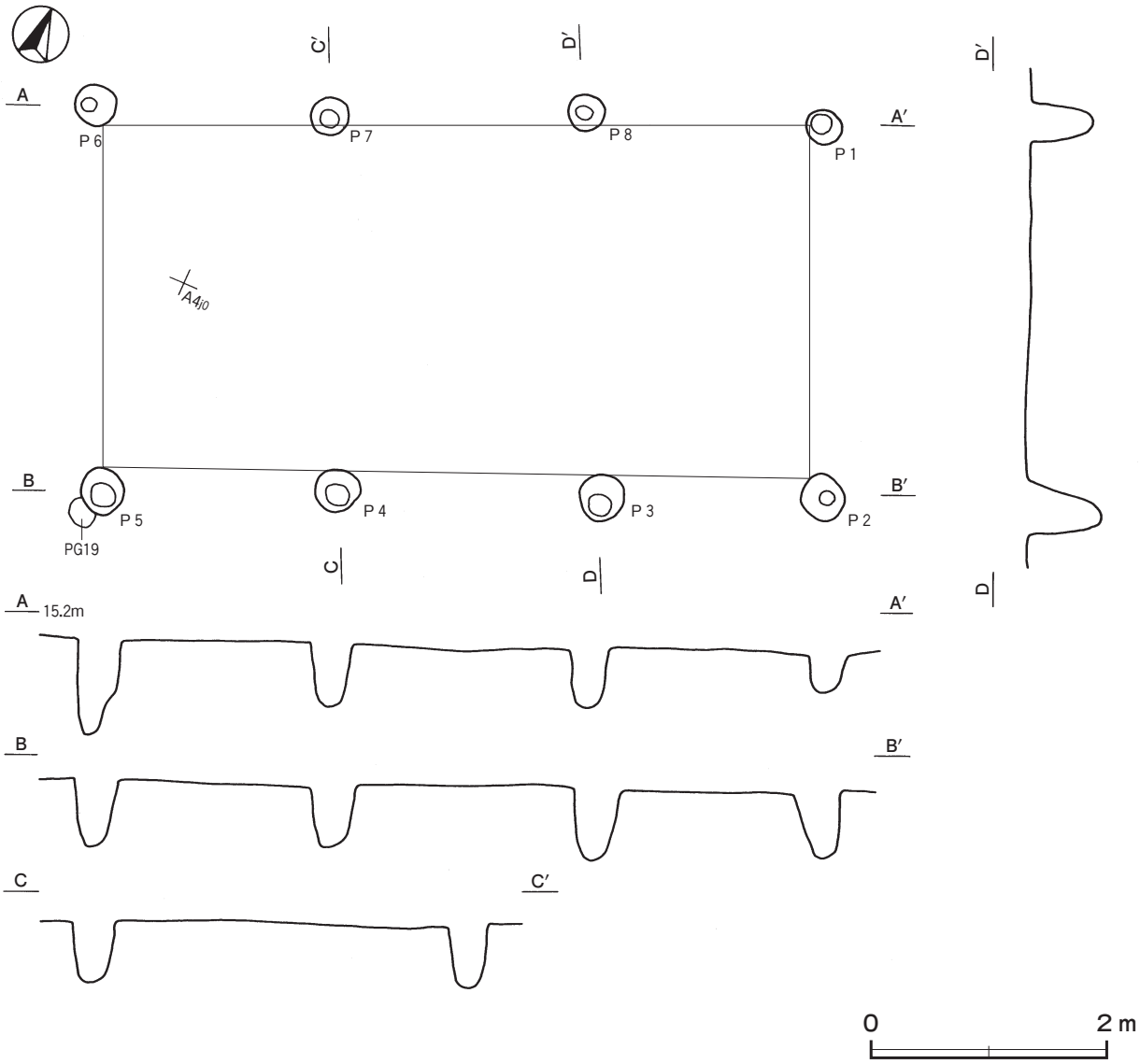
重複関係　第 19 号ピット群を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行３間，梁行１間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ − 67° − Ｅの東西棟である。規模は桁行 6.00 m，梁行 3.00 mで，面積は 18.00㎡である。柱間寸法は，桁行が西妻から 1.8 m（６尺）・2.1 m（７尺）・2.1 m（７尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　８か所。平面形は円形で，長軸 30 ～ 40㎝，短軸 30 ～ 38㎝である。深さは 30 ～ 82㎝で，掘方の断面はＵ字状である。柱穴の覆土は，すべて単一層の炭化粒子を含む暗褐色土である。

遺物出土状況　土師器片３点（甕類），須恵器片４点（坏３，甕１），鉄滓２点（17.8 ｇ）が，Ｐ１～Ｐ５の各柱穴から出土しているが，いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，遺構の形状と周辺の遺構配置から室町時代と推定できる。性格は不明である。



第 153 図　第 15 号掘立柱建物跡実測図

(3)　井戸跡

第６号井戸跡（第 154 図）

位置　調査区東部のＤ 10d6 区，標高 14 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造　確認面は長径 1.34 m，短径 1.22 mの円形である。確認面から深さ 0.94 mまで緩やかにすぼまる円筒状に掘り下げている。深さ 1.14 mで湧水し，崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

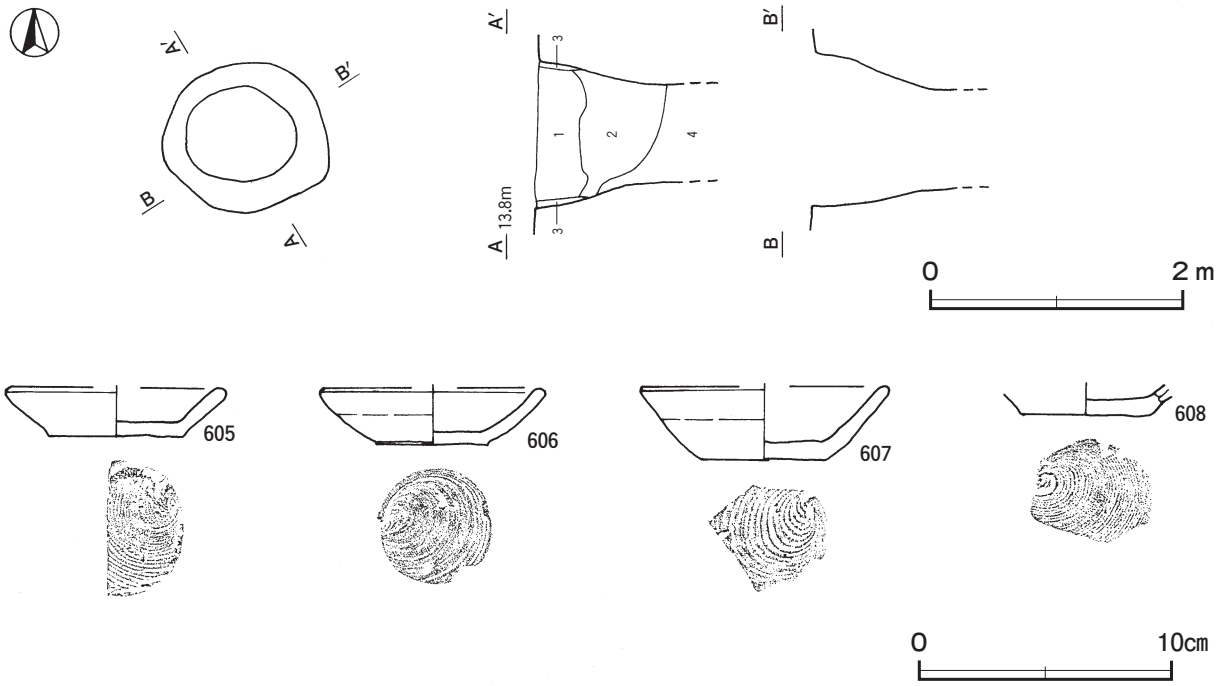
覆土　４層に分層できる。多くの層にロームや粘土のブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　粘土ブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量

遺物出土状況　土師質土器片４点（小皿），陶器片１点（碗）のほか，土師器片２点（坏，甕類），須恵器片４点（甕類），鉄滓５点（92.5 ｇ）が出土している。605 ～ 608 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 15 世紀代と考えられる。



第 154 図　第６号井戸跡・出土遺物実測図

第６号井戸跡出土遺物観察表（第 154 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
605	土師質土器	小皿	[8.4]	1.9	5.4	長石・石英	にぶい黄褐	普通	底部回転糸切り　外・内面ナデ	覆土中	50%　PL42
606	土師質土器	小皿	[8.7]	2.3	4.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	底部回転糸切り後ナデ　外・内面ナデ	覆土中	40%
607	土師質土器	小皿	[9.5]	3.0	5.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	底部回転糸切り　外・内面ナデ	覆土中	30%
608	土師質土器	小皿	－	(1.3)	[5.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	20%

第 10 号井戸跡（第 155 図）

位置　調査区東端部のＣ 12f3 区，標高 12 mほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

重複関係　第３号粘土貼土坑に掘り込まれている。

規模と構造　南東部が第３号粘土貼土坑に掘り込まれ，北西部が調査区外に延びているため，南北軸は 1.90 m，東西軸は 1.14 mしか確認できなかったが，円形と推測できる。確認面から深さ 0.78 mまで漏斗状に掘り込み，径 0.9 mの円筒状に掘り下げている。深さ 1.66 mで湧水し，崩落の恐れがあることから下部の調査を断念した。

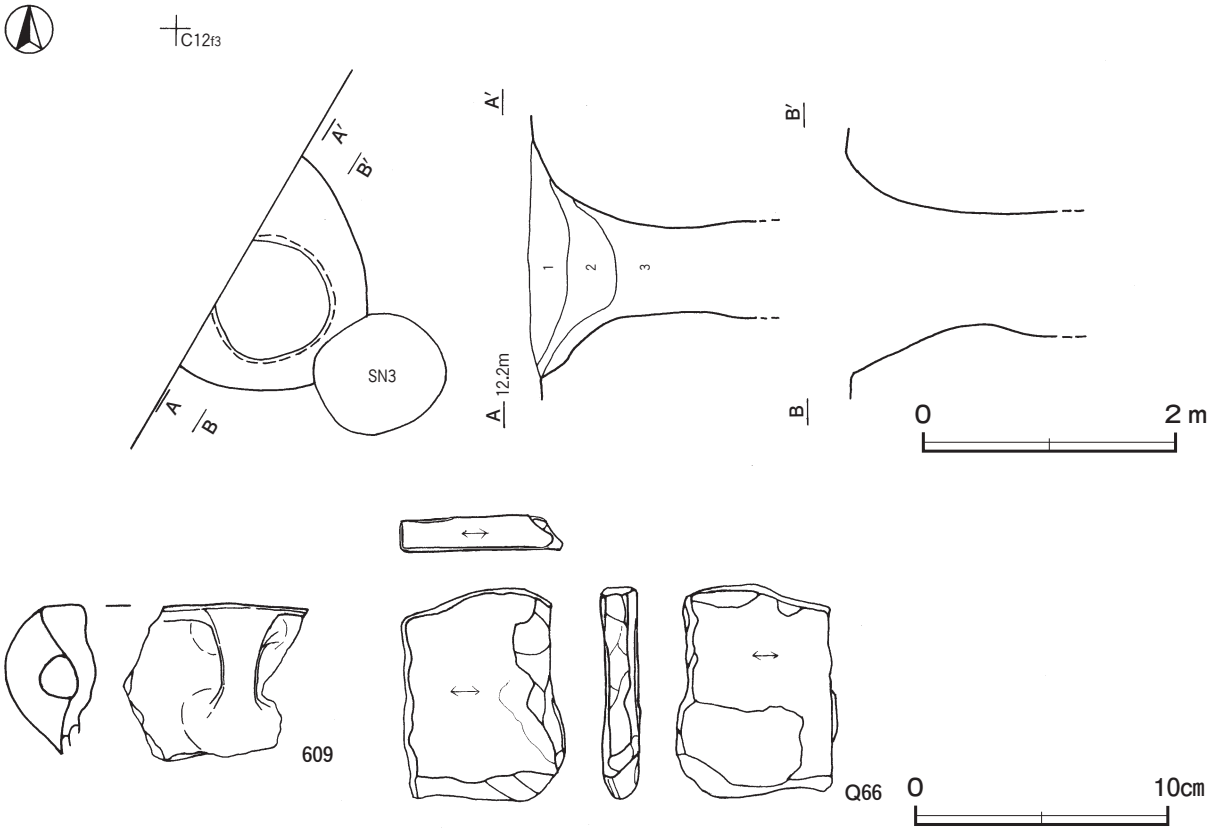
覆土　３層に分層できる。不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

１　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
２　黒　褐　色　焼土粒子少量
３　暗　褐　色　粘土ブロック少量

遺物出土状況　土師質土器片１点（内耳鍋），石器１点（砥石）のほか，土師器片３点（坏１，甕類２）が出土している。609・Ｑ 66 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から室町時代と考えられる。



第 155 図　第 10 号井戸跡・出土遺物実測図

第 10 号井戸跡出土遺物観察表（第 155 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
609	土師質土器	内耳鍋	－	(6.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内耳１か所残存　外・内面ナデ	覆土中	5％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 66	砥石	8.4	6.5	1.5	136.8	雲母片岩	砥面３面	覆土中	

第 13 号井戸跡（第 156・157 図）

位置　調査区中央部のＢ４f9 区，標高 16 mほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

重複関係　第 11 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　確認面は長径 1.64 m，短径 1.56 mの円形である。確認面から深さ 1.00 mまで漏斗状に掘り込み，下部は径 0.92 mの円筒状に掘り下げている。深さ 1.42 mで湧水し，崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

覆土　５層に分層できる。不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

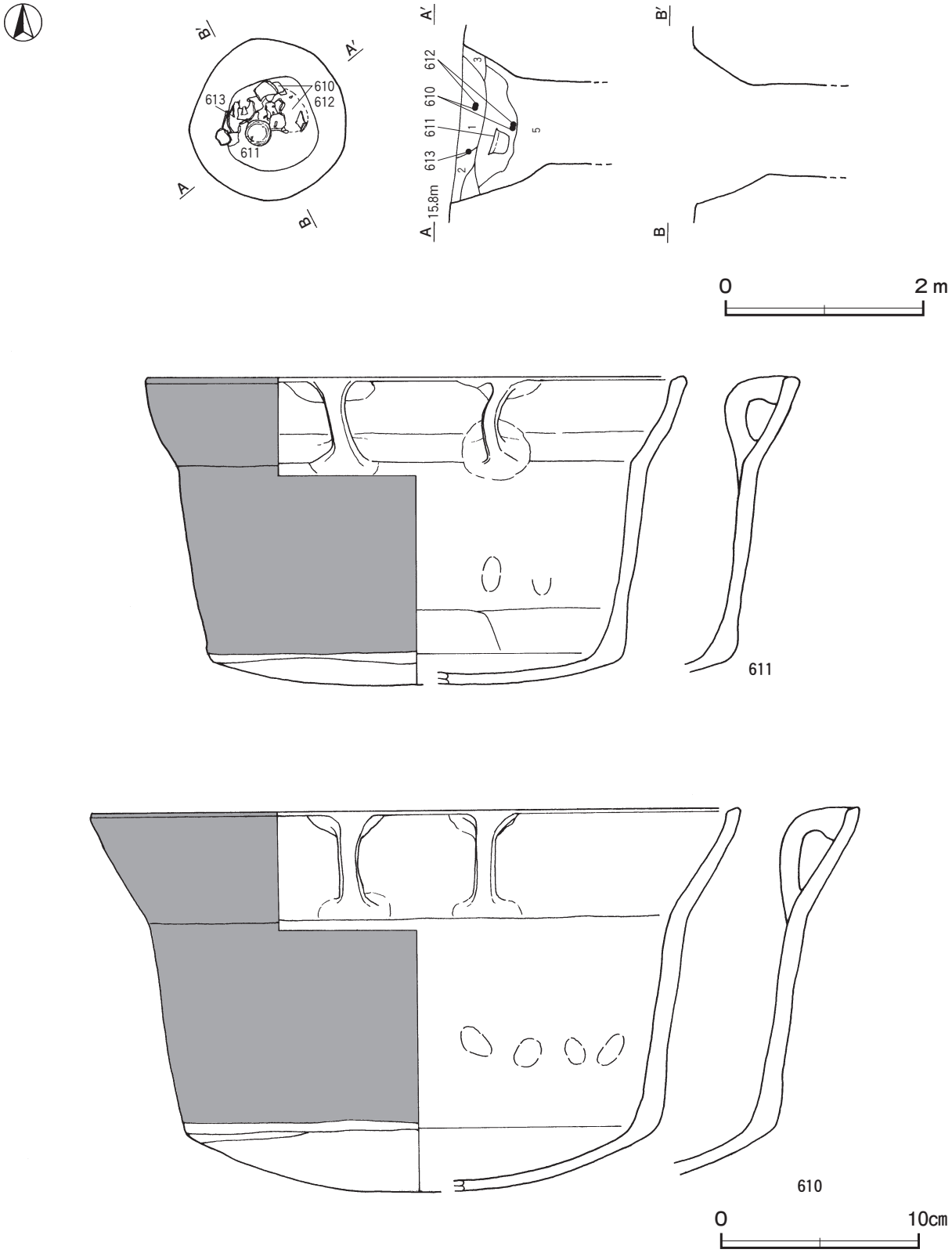
土層解説

1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量（締まり普通）
3　黒　　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子微量（締まり弱い）

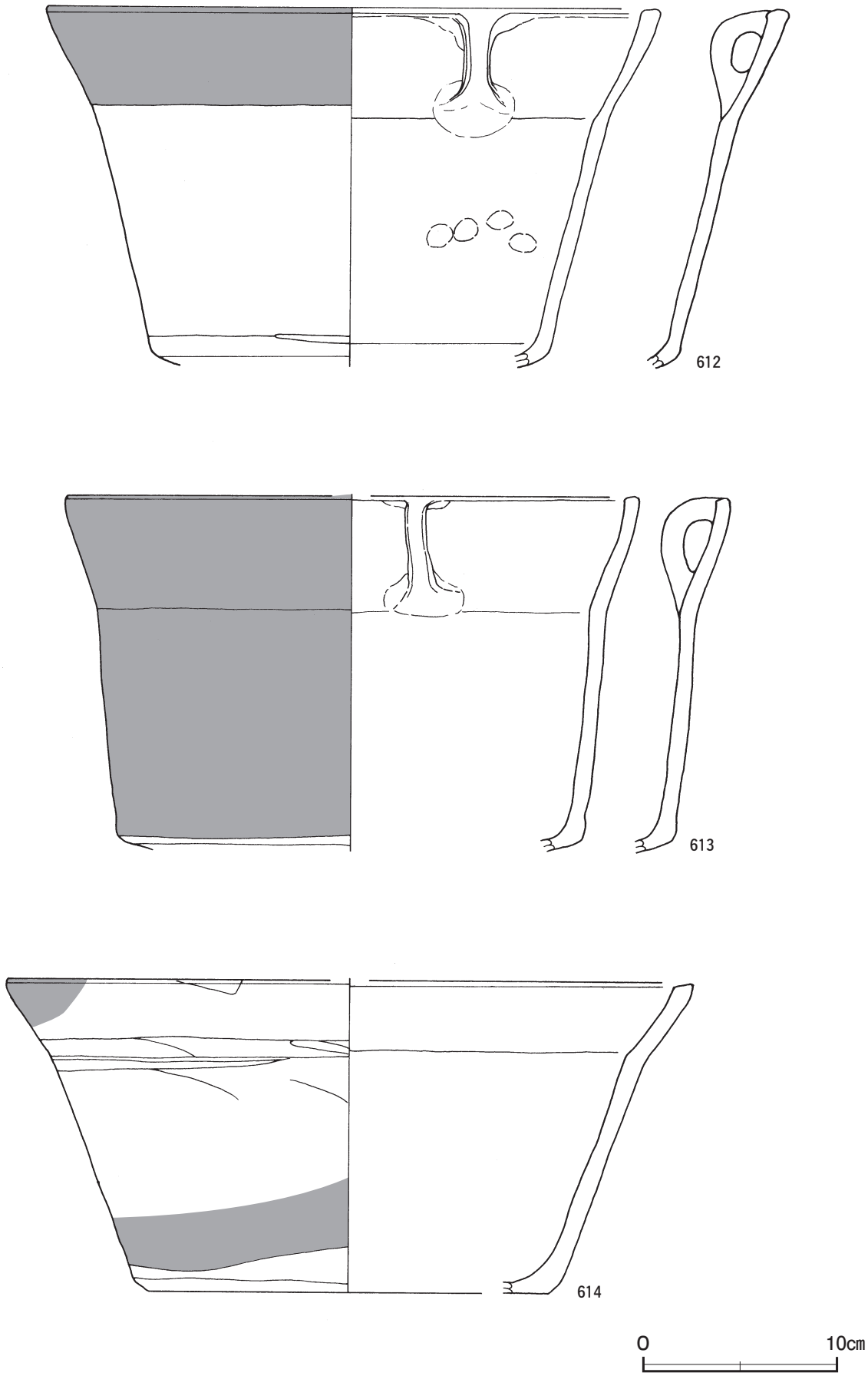
遺物出土状況　土師質土器片６点（内耳鍋），瓦質土器片４点（内耳鍋）のほか，土師器片 28 点（坏２，甕類 26），須恵器片 15 点（坏 12，甕類３），炉壁材１点（227.0 ｇ），鉄滓 37 点（1566.5 ｇ），炉底塊１点（22.2 ｇ），

鉄製品1点（不明）が出土している。611は覆土中層からほぼ完形で出土している。610・612は覆土上層から中層にかけてから出土した破片が接合したものである。613は覆土上層から破片の状態で出土している。614は覆土中から出土している。610～614は，いずれも投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から15世紀中葉から後葉と考えられる。



第156図　第13号井戸跡出土遺物・実測図



第 157 図　第 13 号井戸跡出土遺物実測図

第 13 号井戸跡出土遺物観察表（第 156・157 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
610	土師質土器	内耳鍋	32.8	19.2	24.0	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	内耳３か所残存　体部下端ヘラ削り　内面指頭圧痕	覆土上層～中層	80%　PL42 武蔵型
611	瓦質土器	内耳鍋	27.4	15.6	20.8	長石・石英	灰	普通	内耳３か所残存　内面指頭圧痕　内面下部ヘラナデ痕	覆土中層	80%　PL42 武蔵型
612	瓦質土器	内耳鍋	［31.7］	（18.5）	［20.0］	長石・石英・黒色粒子	灰白	普通	内耳１か所残存　外・内面ナデ　内面指頭圧痕	覆土上層～中層	30% 武蔵型ヵ
613	瓦質土器	内耳鍋	［29.6］	（18.4）	［24.0］	長石・石英	黄灰	普通	内耳１か所残存　外面同心円状のナデ痕　内面ナデ	覆土上層	40%　PL42
614	瓦質土器	内耳鍋	［35.4］	16.1	［20.8］	長石・石英	黄灰	普通	体部下端ヘラ削り　外・内面ナデ	覆土中	20% 常陸型

第 19 号井戸跡（第 158 ～ 160 図）

位置　調査区中央部のＢ４a1 区，標高 16 mほどの平坦な台地上に位置している。

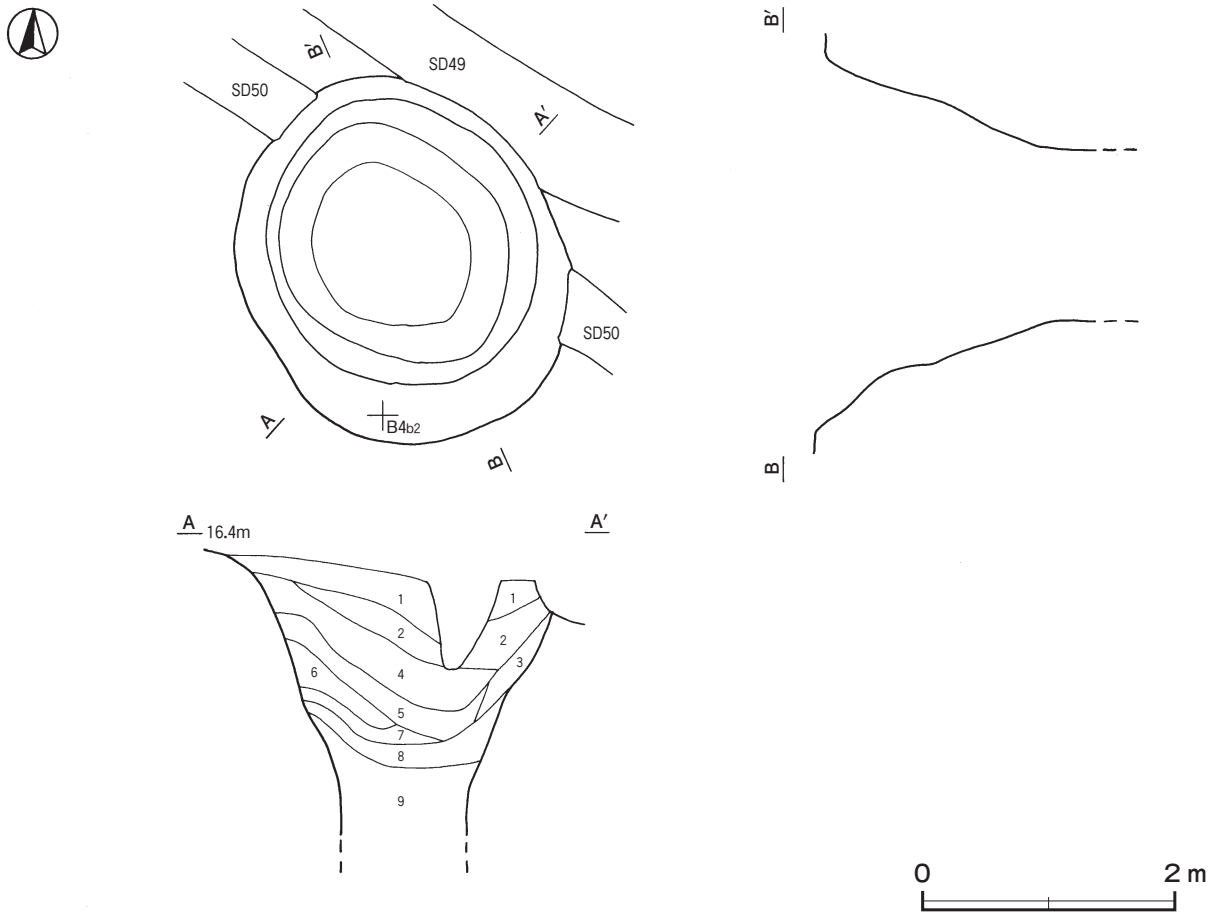
重複関係　第 49・50 号溝に掘り込まれている。

規模と構造　確認面は長径 2.96 m，短径 2.50 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 24°－Ｗである。確認面から深さ 1.82 mまで漏斗状に掘り込み，下部は径 1.4 mほどの円筒状に掘り下げている。深さ 2.24 mほどで湧水し，崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

覆土　９層に分層できる。不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

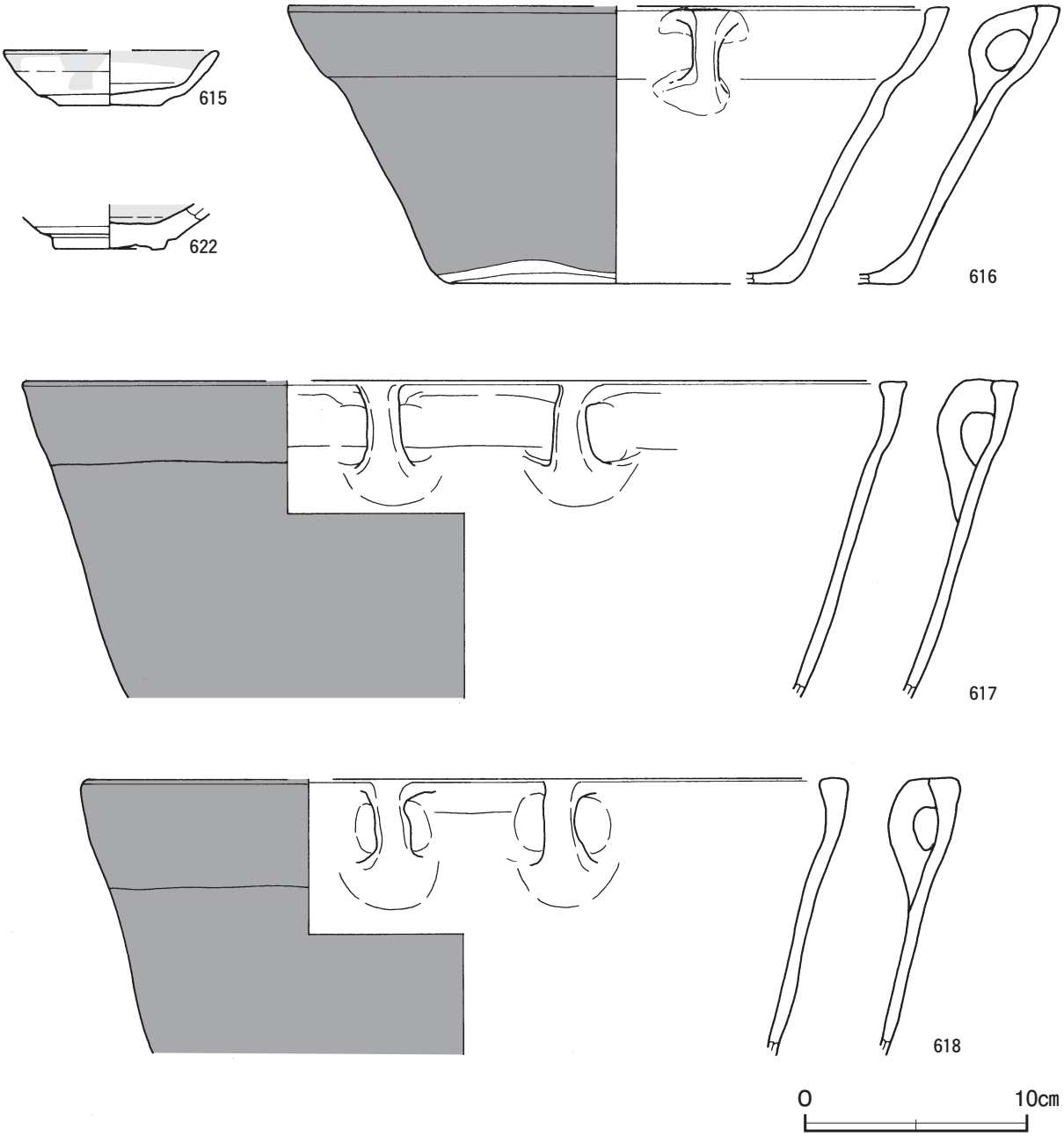


第 158 図　第 19 号井戸跡実測図

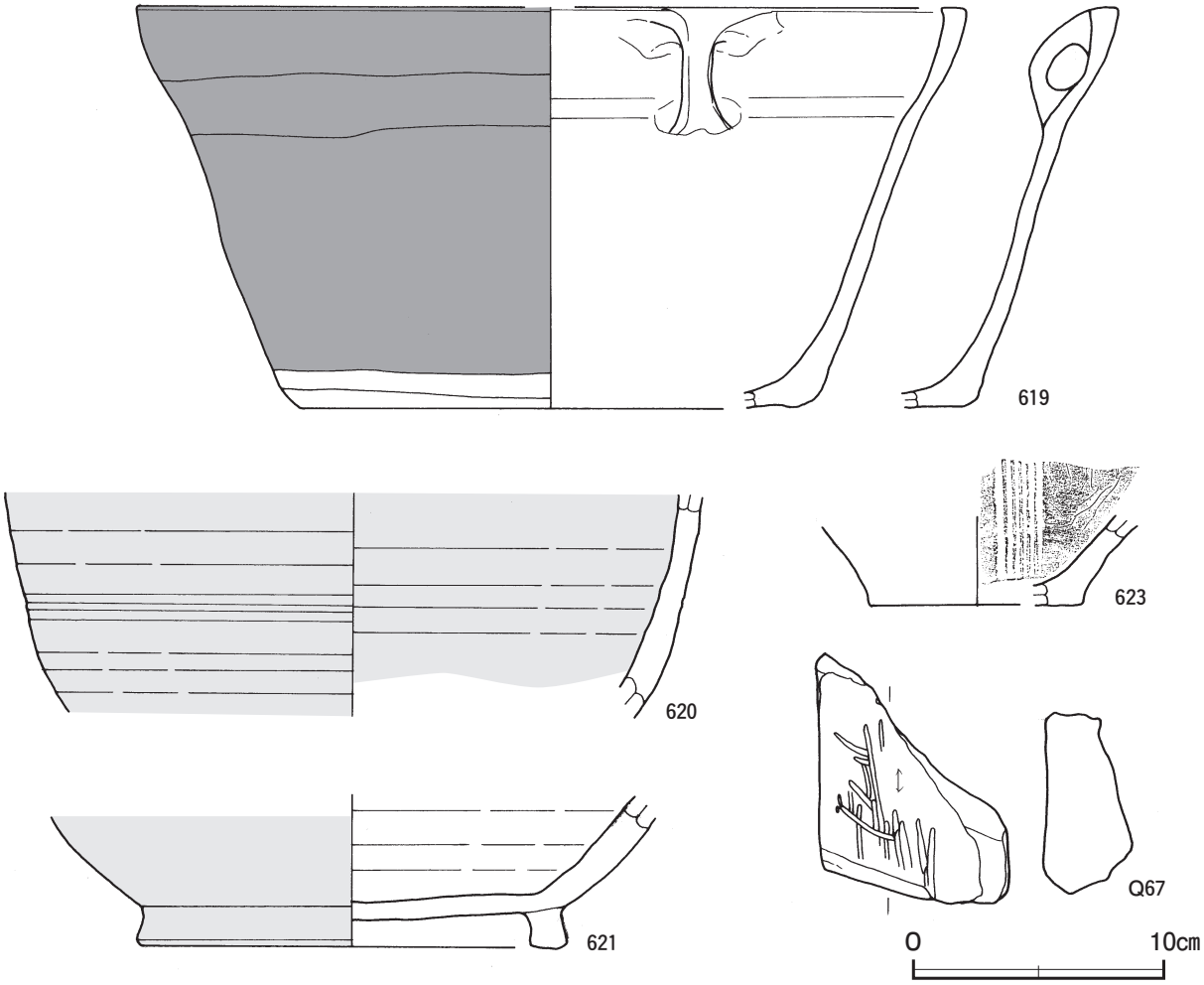
5　暗　褐　色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片 70 点（内耳鍋 68，小皿 1，擂鉢 1），瓦質土器片 34 点（内耳鍋 33，甕類 1），陶器片 4 点（小皿 1，鉢 3），石器 1 点（砥石），石製品 1 点（板碑）のほか，須恵器片 6 点（甕 4，鉢 2），土製品片 1 点（支脚），炉底塊 2 点（198.1 g），炉内滓 1 点（178.1 g），鉄滓 13 点（1758.6 g）が出土している。615 ～ 623，Q 67 は覆土中から出土している。620 は第 20 号井戸の覆土上層から出土した 627 と，接点はないが胎土や釉薬の特徴から同一個体の可能性が極めて高い。621 は第 9 号地下式坑の覆土中から出土した破片と接合関係にある。

所見　時期は，出土土器から 15 世紀中葉から後葉と考えられる。また，620 と 627 が同一個体の可能性が高いことや，621 の接合関係から，本跡と第 20 号井戸，第 9 号地下式坑は同時期に埋め戻されたと考えられる。



第 159 図　第 19 号井戸跡出土遺物実測図(1)



第 160 図　第 19 号井戸跡出土遺物実測図(2)

第 19 号井戸跡出土遺物観察表（第 159・160 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
615	陶器	小皿	［9.6］	2.5	［4.6］	長石・石英	にぶい黄褐	良好	底部回転糸切り　鉄釉	覆土中	20% 瀬戸美濃系
616	土師質土器	内耳鍋	［29.8］	12.5	［15.6］	長石・石英	黒褐	普通	内耳１か所残存　体部下端回転ヘラ削り　内面当て具痕	覆土中	20% 常陸型
617	土師質土器	内耳鍋	［40.0］	（14.3）	－	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	黒褐	普通	内耳２か所残存	覆土中	10%
618	土師質土器	内耳鍋	［34.0］	（12.5）	－	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	黒褐	普通	内耳２か所残存	覆土中	10%
619	瓦質土器	内耳鍋	［33.5］	16.0	［20.0］	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　内耳１か所残存	覆土中	25% 常陸型
620	陶器	鉢	－	（9.0）	－	長石	暗褐	良好	体部に２条１単位の沈線　外・内面ナデ　鉄釉	覆土中	５% 瀬戸美濃系
621	陶器	碗形鉢	－	（6.1）	17.0	長石・石英	明赤褐	良好	鉄釉	覆土中	20%　PL42 瀬戸美濃系
622	陶器	鉢	－	（2.0）	4.9	長石・石英	灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り　高台削り出し　灰釉	覆土中	20%
623	土師質土器	擂鉢	－	（3.6）	［8.5］	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄褐 黒褐	普通	６条１単位の擂目	覆土中	５%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 67	砥石	10.0	7.9	3.5	251.8	玄武岩	砥面１面　砥面にＶ字状の砥痕	覆土中	PL51

第 20 号井戸跡（第 161・162 図）

位置　調査区西部のＡ３e6 区，標高 16 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造　確認面は長径 2.14 m，短径 2.10 mの円形である。確認面から深さ 1.70 mまで緩やかな漏斗状に

掘り込まれていることを確認した時点で，湧水のため崩落のおそれがあることから調査を断念したため，下部の構造は不明である。

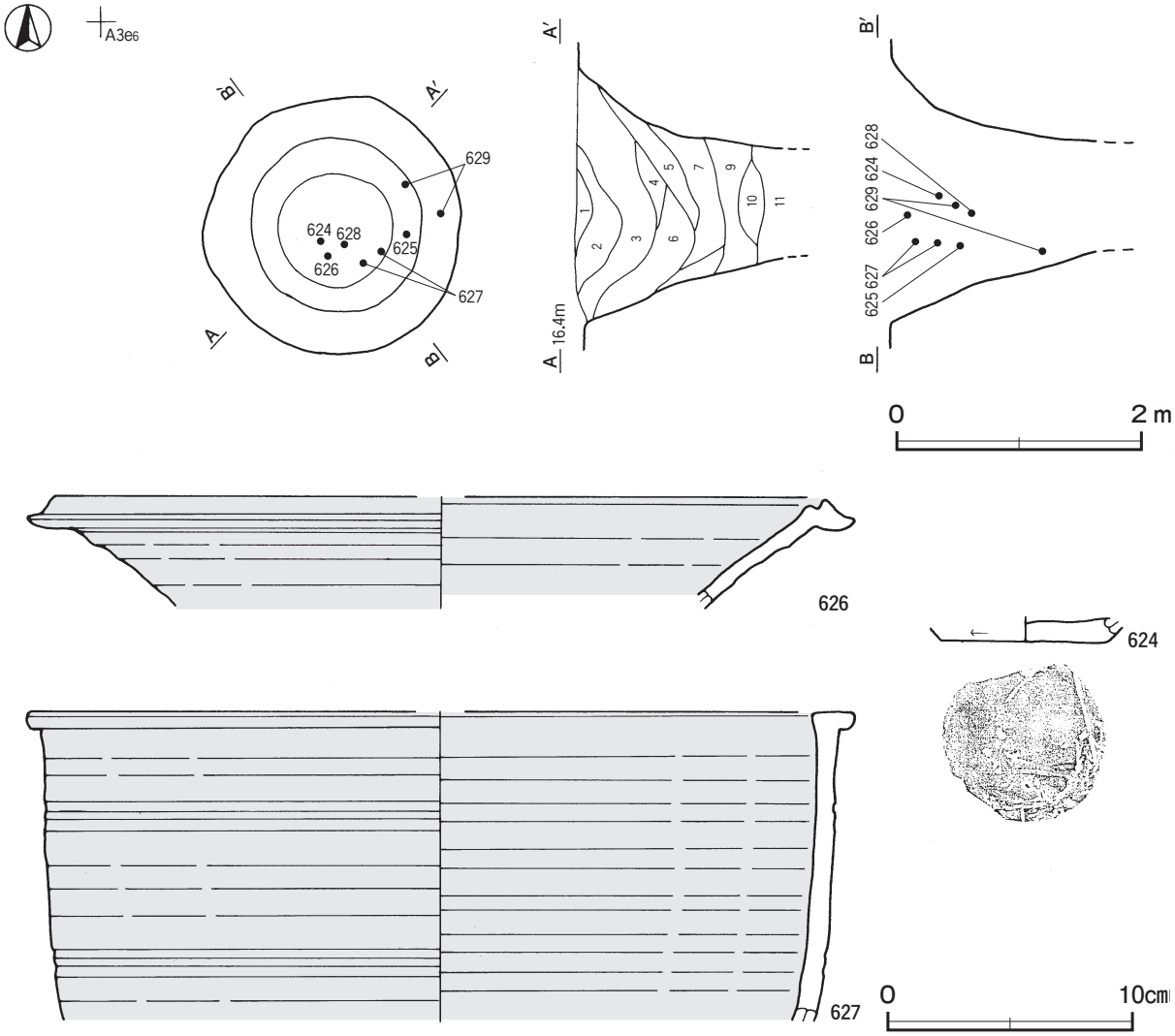
覆土　11 層に分層できる。粘土や焼土を含み不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

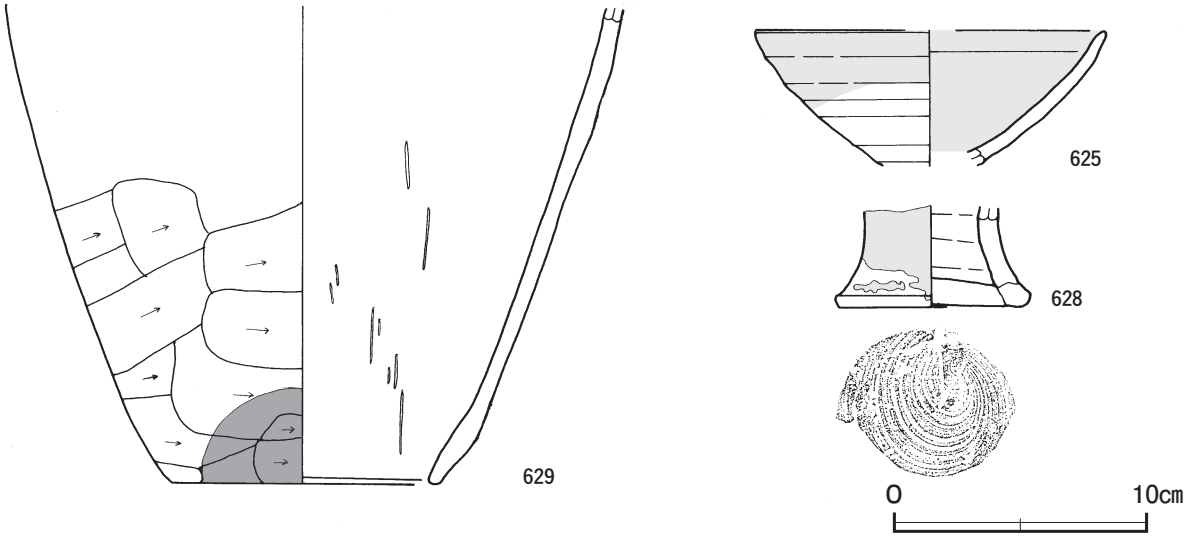
1　灰　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量（締まり普通）
7　暗　褐　色　ローム粒子中量
8　褐　　色　ローム粒子多量
9　黒　褐　色　ローム粒子中量（締まり強い）
10　褐　　色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量
11　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況　瓦質土器片１点（内耳鍋），陶器片４点（平碗，折縁皿，花瓶，鉢），石製品１点（板碑）のほか，土師器片９点（甕８，甑１），須恵器片２点（坏），炉壁材 49 点（808.0 ｇ），鉄滓１点（67.5 ｇ）が出土している。629 は覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。627 は覆土上層から覆土中層にかけて出土した破片が接合したものである。625・628 は覆土中層から，624・626 は覆土上層からそれぞれ出土している。627 は第 19 号井戸跡の覆土中から出土した 620 と，接点はないが胎土や釉薬の観察から，同一個体の可能性が極めて高い。624・629 は埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から 15 世紀代中葉から後葉と考えられる。また，627 と 620 が同一個体である可能性が高いことから，第 19 号井戸跡と本跡は同時に埋め戻されたと考えられる。



第 161 図　第 20 号井戸跡・出土遺物実測図



第 162 図　第 20 号井戸跡出土遺物実測図

第 20 号井戸跡出土遺物観察表（第 161・162 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
624	須恵器	坏	－	(1.0)	6.8	長石・石英	黄灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土上層	20%
625	陶器	平碗	[13.9]	(5.4)	－	長石・石英	にぶい黄橙	良好	外・内面ロクロナデ　灰釉	覆土中層	20%　PL42 瀬戸美濃系
626	陶器	折縁深皿	[34.0]	(4.6)	－	長石	浅黄	良好	外・内面ロクロナデ　灰釉	覆土上層	5％ 瀬戸美濃系
627	陶器	鉢	[33.8]	(12.7)	－	長石	暗褐	良好	体部外面に２条１単位の沈線２か所　鉄釉	覆土上層	5％ 瀬戸美濃系
628	陶器	花瓶	－	(4.0)	[7.2]	長石・石英・ 赤色粒子	灰白	良好	底部回転糸切り　灰釉	覆土中層	30%　PL42 瀬戸美濃系
629	土師器	甑	－	(18.9)	10.7	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部下端横位のヘラ削り　内面工具痕	覆土中～下層	70%

表 12　室町時代井戸跡一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主 な 出 土 遺 物	備　考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
6	D 10d6	－	円形	1.34　×　1.22	(114)	－	円筒状	人為	土師質土器片	
10	C 12f3	－	[円形]	1.90　×（1.14）	(166)	－	漏斗状・ 円筒状	人為	土師質土器片，石器	本跡→ SN 3
13	B 4 f9	－	円形	1.64　×　1.56	(142)	－	漏斗状・ 円筒状	人為	土師質土器片，瓦質土器片	SB11 →本跡
19	B 4 a1	N － 24° － W	楕円形	2.96　×　2.50	(224)	－	漏斗状・ 円筒状	人為	陶器片，土師質土器片， 瓦質土器片，石器	本跡→ SD49・50
20	A 3 e6	－	円形	2.14　×　2.10	(170)	－	漏斗状	人為	土師器片，須恵器片，陶器片	

(4)　地下式坑

第２号地下式坑（第 163 図）

位置　調査区中央部のＣ８i9 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 81 号竪穴建物跡，第 242 号土坑を掘り込んでいる。

軸長・軸方向　軸長は 3.22 mで，軸方向はＮ－ 70°－Ｅである。

竪坑　主室の西壁中央部に位置し，奥行 1.08 m，横幅 1.44 mの長方形である。確認面から底面までの深さは

116cmで，壁は直立している。底面は緩やかに上り主室に至っている。

主室　奥行 1.78 m，横幅 2.13 mの長方形である。天井部は崩落しており，北西部の壁の崩落が顕著である。確認面から底面までの深さは 106cmである。底面は平坦で，壁際まで踏み固められている。壁は外傾して立ち上がっている。

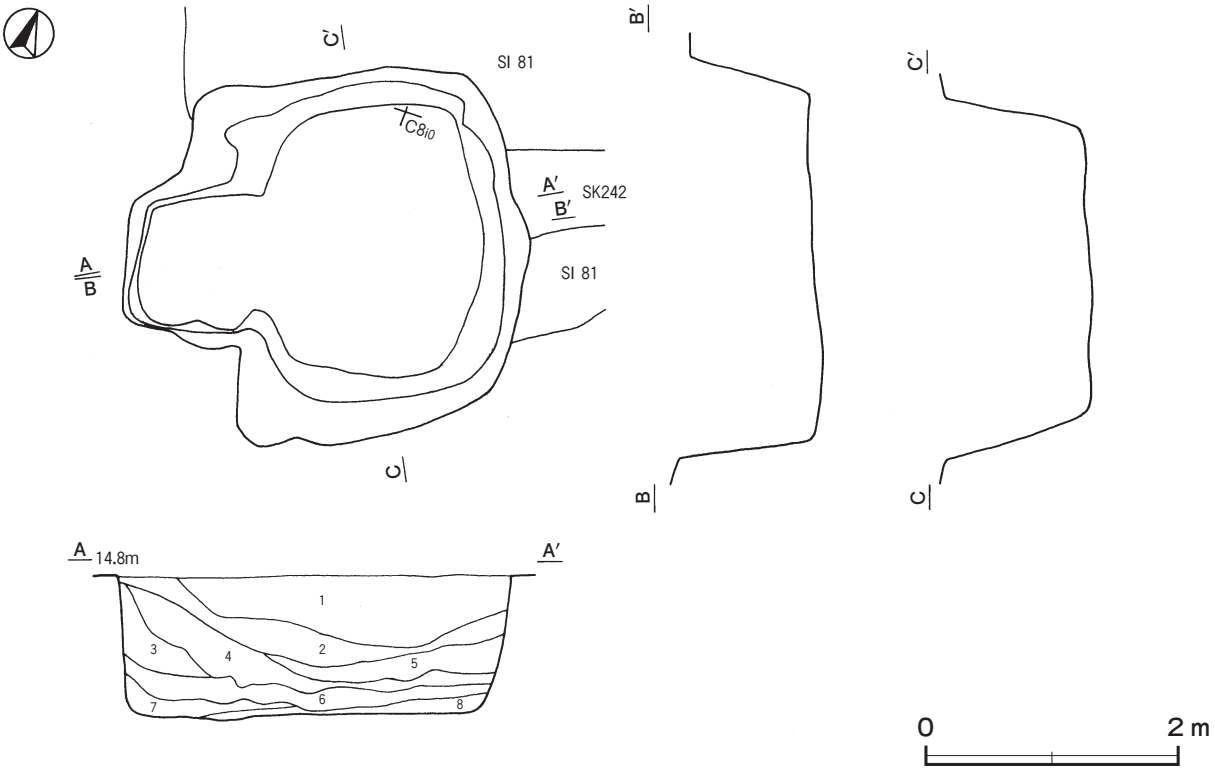
覆土　８層に分層できる。第３～５層は天井部の崩落土層で，第６～８層は竪坑からの流入土層である。第１・２層は，不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	
2	黒　褐　色	ローム粒子中量，炭化物微量	
3	褐　　色	ロームブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子微量	
4	極暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量	
5	黒　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量	
6	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子少量	
7	極暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量	
8	黒　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師器片 15 点（坏３，甕類 12），須恵器片 10 点（坏６，甕類４），鉄滓５点（67.4 g）が出土している。いずれも細片のため図示できない。いずれも覆土中から出土していることから，埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見　時期は，遺構の形状と周辺の遺構配置から室町時代と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。



第 163 図　第２号地下式坑実測図

第３号地下式坑（第 164 図）

位置　調査区中央部のＣ８j0 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第５号地下式坑，第 312 号土坑に掘り込まれている。

軸長・軸方向　竪坑を含む南部が第５号地下式坑に掘り込まれているため，確認できた軸長は 2.46 ｍで，軸方向はＮ－０°と推定できる。

主室　南部を第５号地下式坑に掘り込まれているため，確認できた奥行は 2.13 ｍで，横幅が 1.78 ｍの長方形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは 90㎝である。底面は平坦で，壁際まで踏み固められている。壁はほぼ直立している。

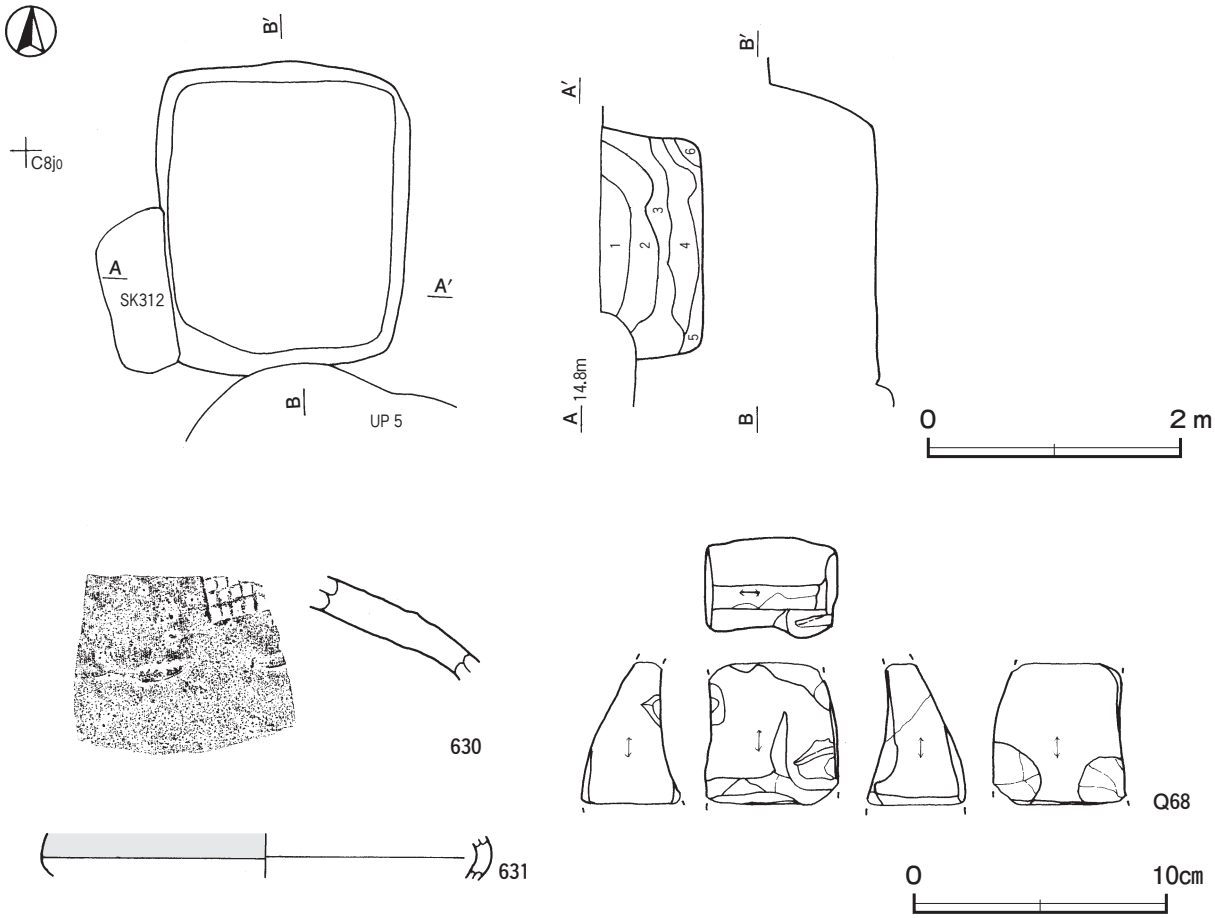
覆土　６層に分層できる。第３～６層は天井部の崩落土層である。第１・２層はローム粒子や焼土粒子が含まれ，不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

１	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
２	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量	
３	褐　　色	ローム粒子多量（締まり普通）	
４	褐　　色	ローム粒子多量（締まり強い）	
５	褐　　色	ロームブロック中量	
６	褐　　色	ロームブロック多量	

遺物出土状況　陶器片２点（甕），石器１点（砥石）のほか，土師器片 23 点（坏６，甕類 17），須恵器片 22 点（坏 11，甕類 11）が出土している。630・631・Ｑ 68 は崩落土層より上層の覆土中から出土していることから，埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器と重複関係から第５号地下式坑よりも古い 15 世紀中葉と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。



第 164 図　第３号地下式坑・出土遺物実測図

第３号地下式坑出土遺物観察表（第 164 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
630	陶器	甕	－	(4.3)	－	長石・石英	にぶい赤褐	良好	外面に格子状の叩き目　外・内ナデ	覆土中	５％ 常滑産
631	陶器	甕	－	(1.8)	－	長石	にぶい橙	良好	内面ロクロナデ　灰釉	覆土中	５％ 瀬戸美濃系

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 68	砥石	(5.6)	5.3	3.9	(128.0)	花崗岩	砥面５面	覆土中	

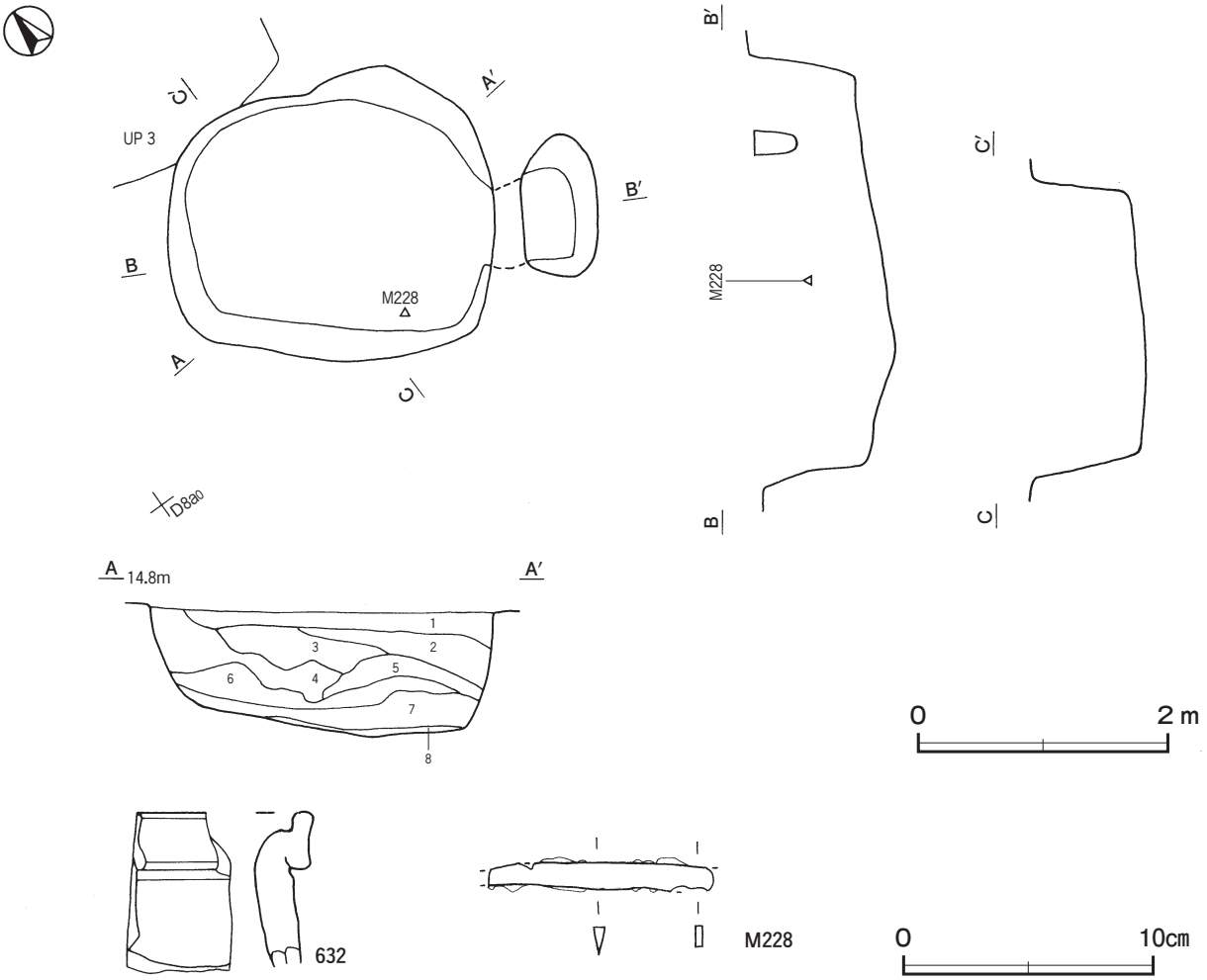
第５号地下式坑（第 165 図）

位置　調査区中央部Ｃ８j0 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第３号地下式坑を掘り込んでいる。

軸長・軸方向　軸長は 3.46 ｍで，軸方向はＮ－ 59°－Ｗである。

竪坑　主室の南東壁中央部に位置し，奥行 0.80 ｍ，横幅 1.14 ｍの楕円形である。確認面からの深さは 82㎝で，壁はほぼ直立している。底面は主室の底面中央部まで20㎝ほど緩やかに下っている。主室との連結部は長さ 0.26 ｍ，幅 0.60 ｍで，天井部が遺存しており，トンネル状を呈している。底面から天井部までの高さは 52㎝である。



第 165 図　第５号地下式坑・出土遺物実測図

主室　奥行 2.37 m，横幅 1.82 mの隅丸長方形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは 110cmである。底面の中央部が 20cmほどくぼんでおり，壁際まで踏み固められている。壁はほぼ直立している。

覆土　８層に分層できる。第７・８層は天井部の崩落土層で，第１～６層は多くの層にロームブロック含まれ，不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量
5　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック多量
8　褐　　色　ローム粒子多量，粘土粒子中量

遺物出土状況　陶器片１点（甕），鉄製品１点（刀子）のほか，土師器片６点（甕類），須恵器片９点（坏４，高台付坏１，盤１，甕類３），鉄滓４点（64.4 ｇ）が出土している。M 228 は南西壁際の覆土中層から出土している。632 は覆土中から出土している。いずれも天井部の崩落土層から上層の覆土中から出土していることから，埋め戻しの際の混入と考えられる。

所見　時期は，出土土器と重複関係から 15 世紀中葉と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。

第５号地下式坑出土遺物観察表（第 165 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
632	陶器	甕	－	(6.2)	－	長石・石英	にぶい赤褐	良好	外・内面ロクロナデ	覆土中	５％ 常滑産

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 228	刀子	(9.0)	1.0	0.4	(19.2)	鉄	一部層状の剥がれ　刃部断面三角形　茎部断面長方形	覆土中層	PL53

第６号地下式坑（第 166 図）

位置　調査区中央部のＣ８e6 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

軸長・軸方向　軸長は 3.76 mで，軸方向はＮ－０°である。

竪坑　主室の南西隅に位置し，奥行 1.00 m，横幅 0.82 mの長方形である。確認面から底面までの深さは 140cmで，壁は直立している。底面は平坦である。

主室　奥行 2.28 m，横幅 2.57 mの長方形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは 140 cmである。底面は平坦で，壁際まで踏み固められている。壁はほぼ直立している。

覆土　９層に分層できる。第１～３層は竪坑，第４～９層は主室の覆土である。第８・９層は天井部の崩落土層である。第１～３層，第４～７層はロームブロックを含む層があり，不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

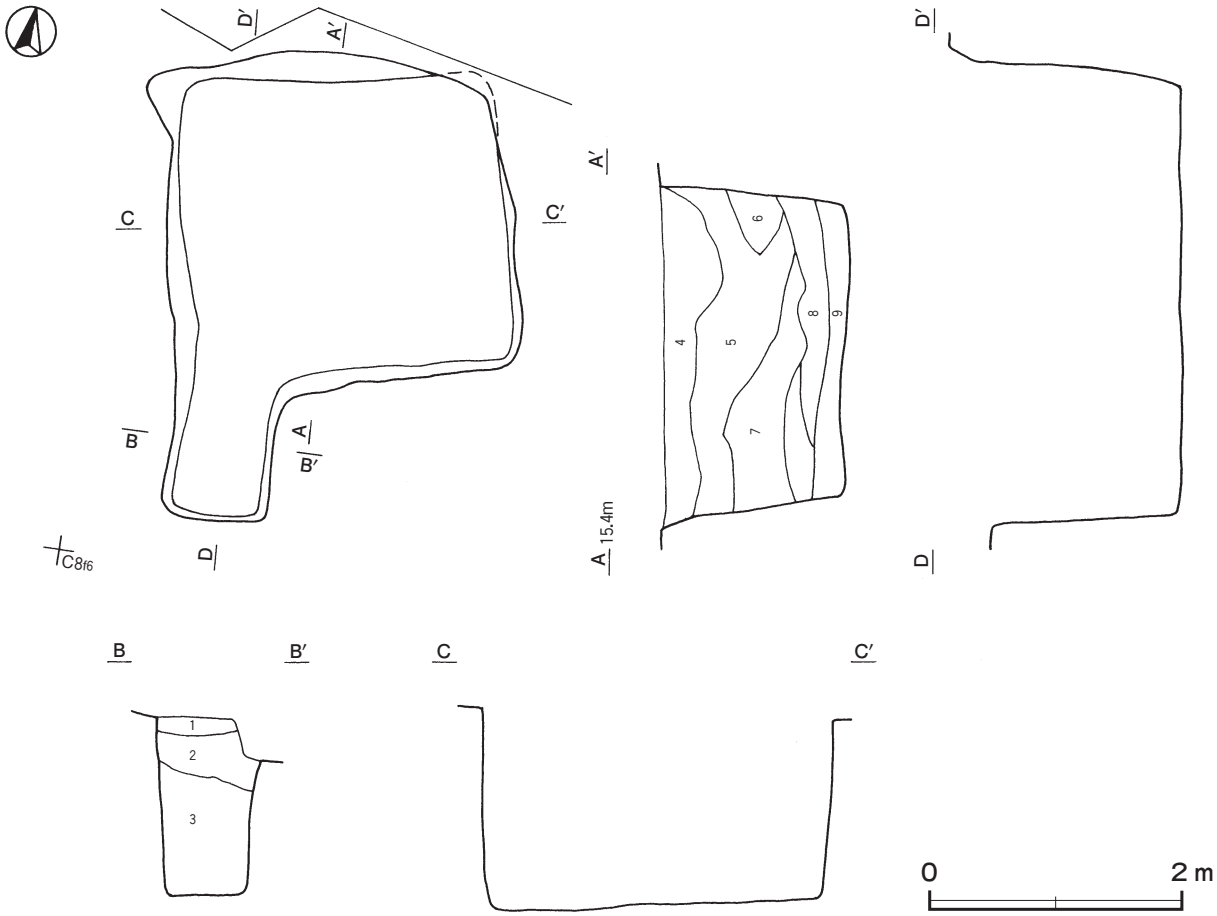
土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
5　極 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
7　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
8　褐　　色　ローム粒子多量
9　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片４点（甕類），須恵器片６点（坏２，甕類４），鉄滓４点（77.3 ｇ）が出土している。いずれも細片のため図示できない。いずれも崩落土層より上層の覆土中から出土していることから，埋め戻し

の際に混入したものと考えられる。

所見　時期は，遺構の形状から室町時代と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。



第 166 図　第６号地下式坑実測図

第７号地下式坑（第 167 図）

位置　調査区中央部のＤ８a0 区，標高 14 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 324 号土坑を掘り込んでいる。第 389 号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

軸長・軸方向　軸長は 3.26 mで，軸方向はＮ－ 98°－Ｗである。

竪坑　主室の東壁中央部に位置し，奥行 1.00 m，横幅 0.92 mの楕円形である。確認面から底面までの深さは 82㎝で，壁は外傾して立ち上がっている。底面は緩やかに上り主室に至っている。

主室　奥行 2.13 m，横幅 1.13 mの長方形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは 72㎝である。底面は平坦で，壁際まで踏み固められている。壁は外傾して立ち上がっている。

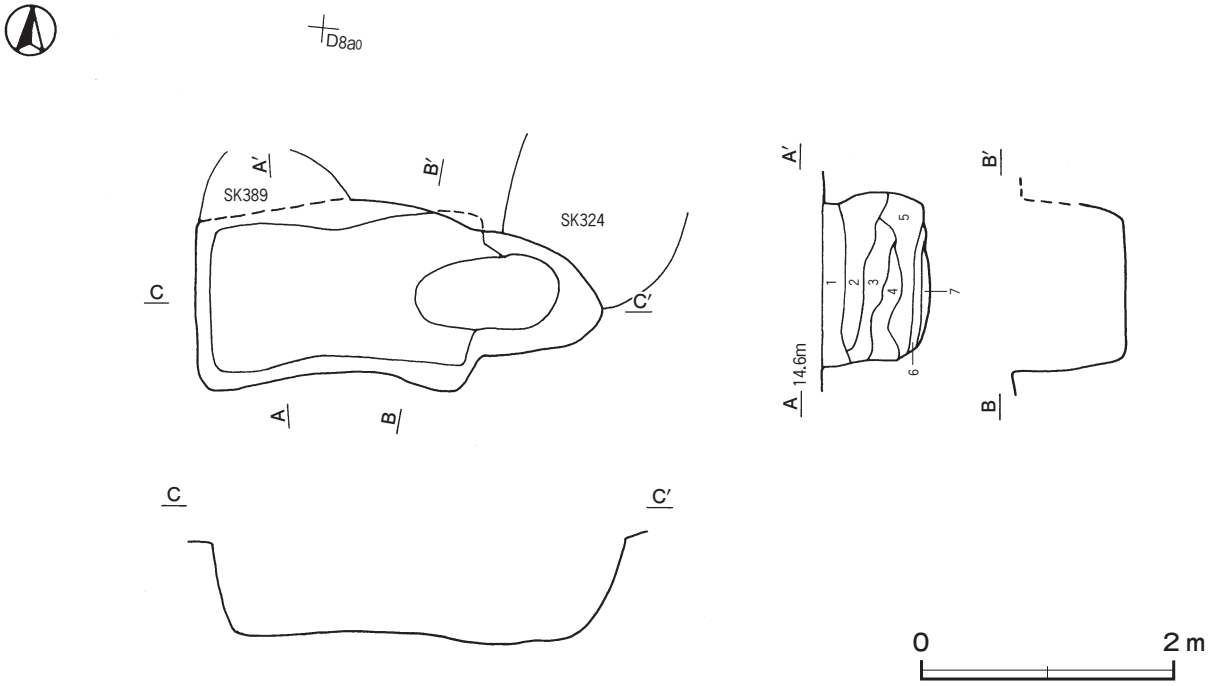
覆土　７層に分層できる。第３～５・７層は天井部及び壁部の崩落土層である。第６層は竪坑から流入した自然堆積層である。第１・２層はローム粒子や炭化物などを含む不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化物微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　陶器片１点（甕類）のほか，土師器片４点（甕類），須恵器片６点（坏５，盤１）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，遺構の形状と周辺の遺構の配置から室町時代と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。



第 167 図　第７号地下式坑実測図

第８号地下式坑（第 168 図）

位置　調査区西部のＡ３d4 区，標高 17 mほどの平坦な台地上に位置している。

軸長・軸方向　軸長は 3.40 mで，軸方向はＮ－ 97°－Ｗである。

竪坑　主室の東壁中央部に位置し，奥行 1.00 m，横幅 1.08 mの楕円形である。確認面から底面までの深さは 138㎝で，壁は内彎気味に立ち上がっている。底面は緩やかに下り主室に至っている。

主室　奥行 2.20 m，横幅 2.22 mの方形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは 168㎝である。底面は竪坑から緩やかに上り奥壁に至っており，壁際まで踏み固められている。壁は内彎気味に立ち上がっている。

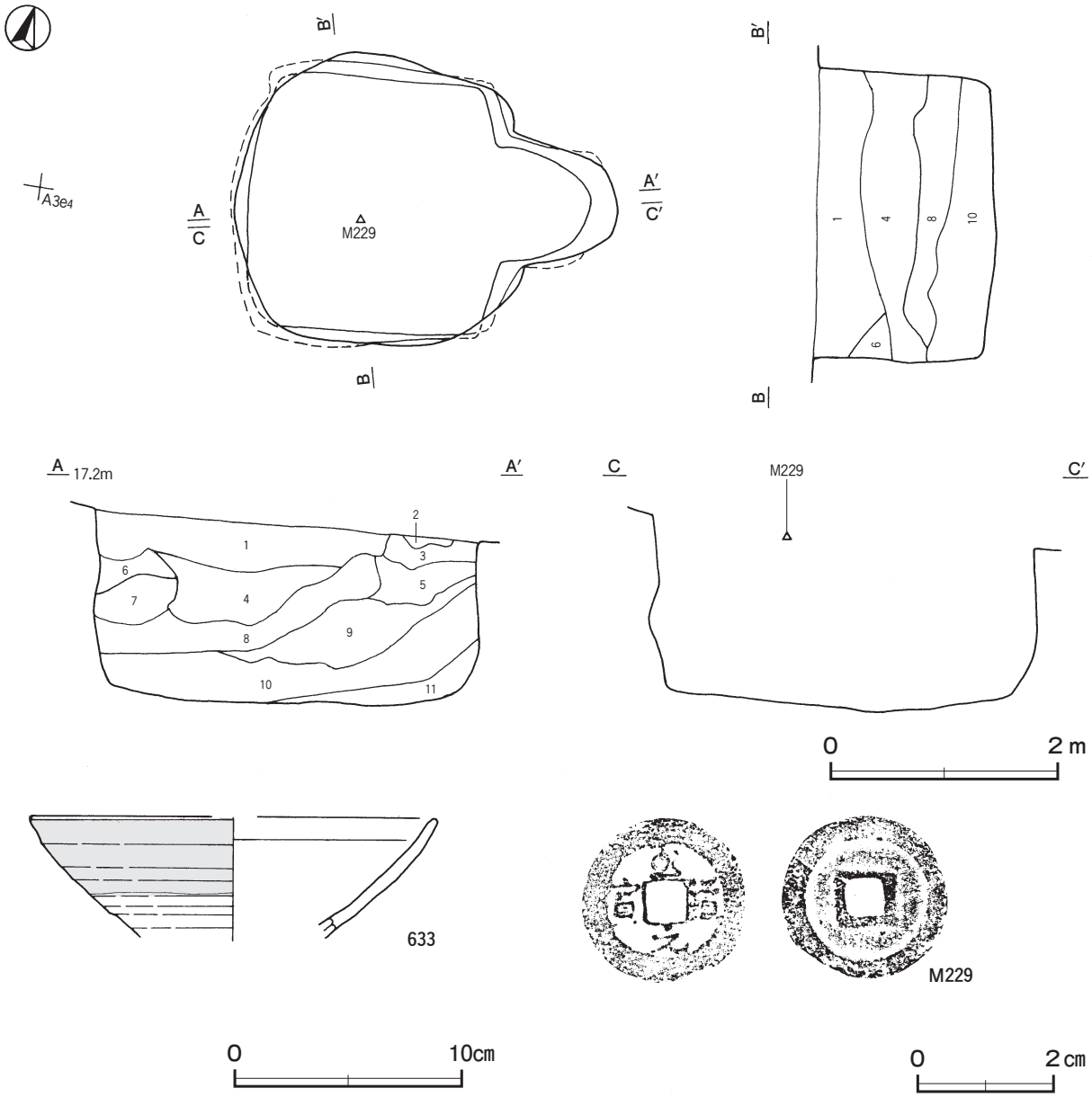
覆土　11 層に分層できる。第６～８層は天井部の崩落土層である。第５・９～ 11 層は竪坑からの流入土層である。第１～４層は，不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　にぶい褐色　焼土粒子・粘土粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック多量
8　褐　　色　ロームブロック中量
9　褐　　色　ローム粒子中量
10　褐　　色　ロームブロック少量
11　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　陶器片１点（平碗），土師質土器片１点（内耳鍋），銭貨１点（至道元寶）のほか，土師器片８点（坏１，甕類７），須恵器片２点（坏，甕類），鉄滓３点（369.8 g）が出土している。M 229 は主室中央部の覆土上層から出土している。633 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土遺物と周辺の遺構配置から，15 世紀前葉から中葉と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。



第 168 図　第８号地下式坑・出土遺物実測図

第８号地下式坑出土遺物観察表（第 168 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
633	陶器	平碗	［18.0］	（5.3）	－	長石	にぶい黄褐	良好	外・内面ロクロナデ　灰釉	覆土中	20% 瀬戸美濃系

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 229	銭貨	至道元寶	2.43	0.56	2.26	銅	995	北宋銭　行書	覆土上層	PL58

第９号地下式坑（第 169・170 図）

位置　調査区西部のＡ３f5 区，標高 17 mほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

重複関係　第 104 号竪穴建物跡，第４号方形竪穴遺構を掘り込み，第９号粘土貼土坑，第 19 号ピット群に掘り込まれている。

軸長・軸方向　軸長は 3.80 mで，軸方向はＮ－ 36°－Ｗである。

竪坑　竪坑は確認できなかったが，底面に地山の粘土がステップ状に掘り残されていることから，出入り口に伴うものと考えられる。南コーナー部には開口部があり，出入りをしていた可能性がある。

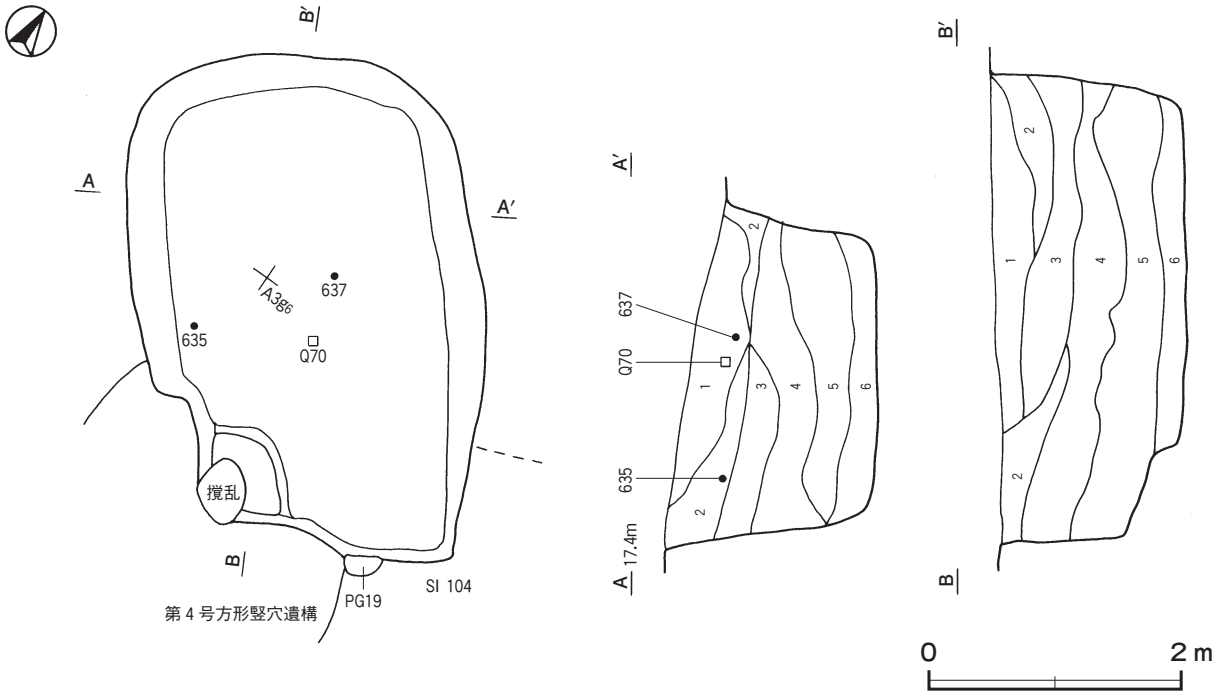
主室　奥行 3.62 m，横幅 2.13 mの隅丸長方形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは 160㎝である。底面は平坦で，壁際まで踏み固められている。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　６層に分層できる。第５・６層は天井部の崩落土層である。第１～４層は不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量
4　暗　褐　色　ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量

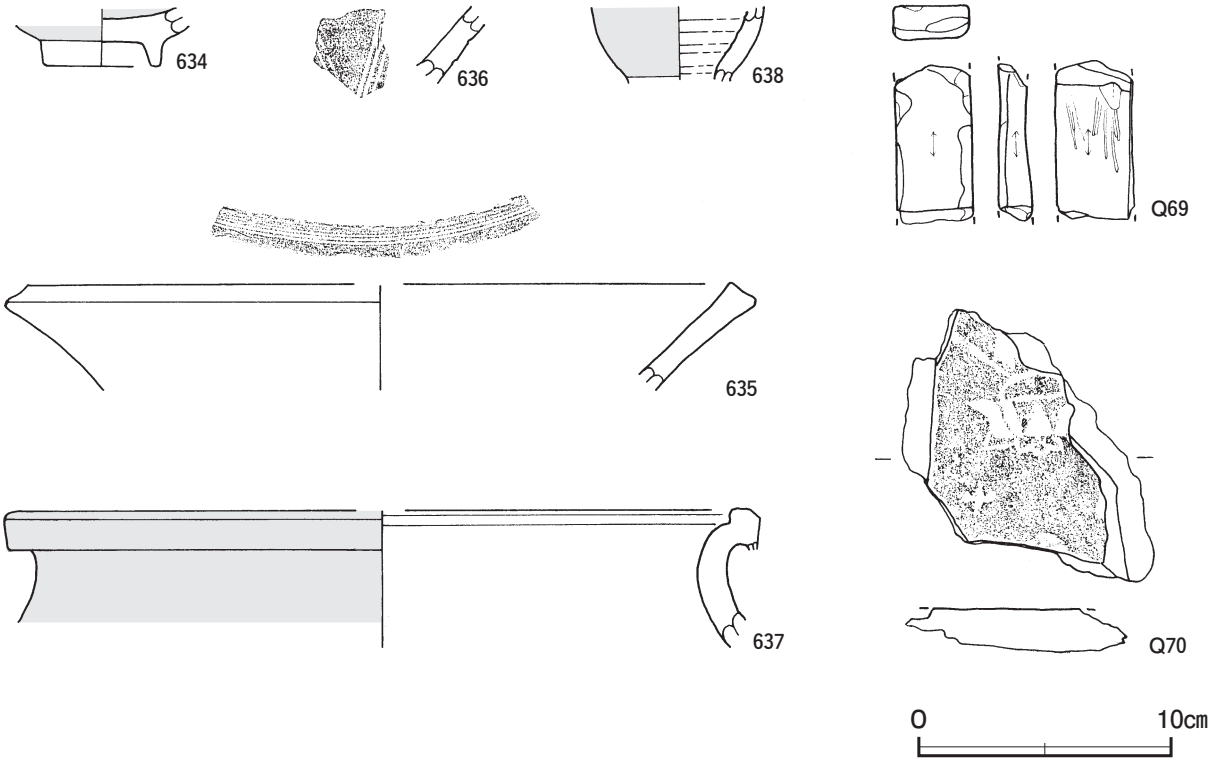
遺物出土状況　陶器片６点（碗，碗形鉢，鉢，擂鉢，甕，茶入ヵ），石器４点（石臼２，砥石２），石製品１点（板碑），



第 169 図　第９号地下式坑実測図

銭貨２点（銭種不明）のほか，土師器片 93 点（坏８，甕類 85），須恵器片 43 点（坏 30，甕類 13），鉄滓 19 点（1198.5 ｇ）が出土している。637，Q 70 は主室中央部，635 は南西壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。634・636・638・Q 69・M 230・M 231 は覆土中から出土している。いずれも崩落土層より上層からの出土していることから，埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土遺物と遺構の形状から，15 世紀中葉と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。



第 170 図　第９号地下式坑出土遺物実測図

第９号地下式坑出土遺物観察表（第 170 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
634	陶器	碗	－	(2.3)	[4.6]	長石	にぶい橙	良好	外・内面ナデ　銀砂釉	覆土中	10% 常滑産
635	陶器	鉢	[29.8]	(4.2)	－	長石・石英	にぶい赤褐	良好	外・内面ナデ　鉄釉	覆土上層	10%
636	陶器	擂鉢	－	(3.0)	－	長石・赤色粒子	明赤褐	良好	擂目３条残存　鉄釉	覆土中	５% 瀬戸美濃系
637	陶器	甕	[29.2]	(5.5)	－	長石・石英	にぶい赤褐	良好	外・内面ナデ　鉄釉	覆土上層	５% 常滑産
638	陶器	茶入ヵ	－	(2.9)	－	長石	オリーブ黄	良好	外・内面ナデ　灰釉	覆土中	10% 瀬戸美濃系

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 69	砥石	(6.3)	3.1	1.4	(40.3)	泥岩	砥面４面	覆土中	
Q 70	板碑	(11.0)	(9.9)	(1.7)	(204.7)	緑泥片岩	蓮弁の一部残存	覆土上層	PL50

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　徴	出土位置	備　考
M 230	銭貨	不明	－	－	(0.18)	－	－	破片のため詳細不明	覆土中	計測のみ
M 231	銭貨	不明	－	－	(0.10)	－	－	破片のため詳細不明	覆土中	計測のみ

第 10 号地下式坑（第 171・172 図）

位置　調査区西部のＡ３j3 区，標高 18 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 757 号土坑を掘り込み，第 791 号土坑に掘り込まれている。

軸長・軸方向　主室奥壁の上部が第 791 号土坑に掘り込まれているため，確認できた軸長は 3.68 ｍで，軸方向はＮ－ 83°－Ｗである。

竪坑　主室の東壁中央部に位置し，奥行 0.72 ｍ，横幅 1.04 ｍの楕円形である。確認面から底面までの深さは 100㎝で，壁は直立している。底面は中位に段を有し，スロープ状を呈して主室に至っている。

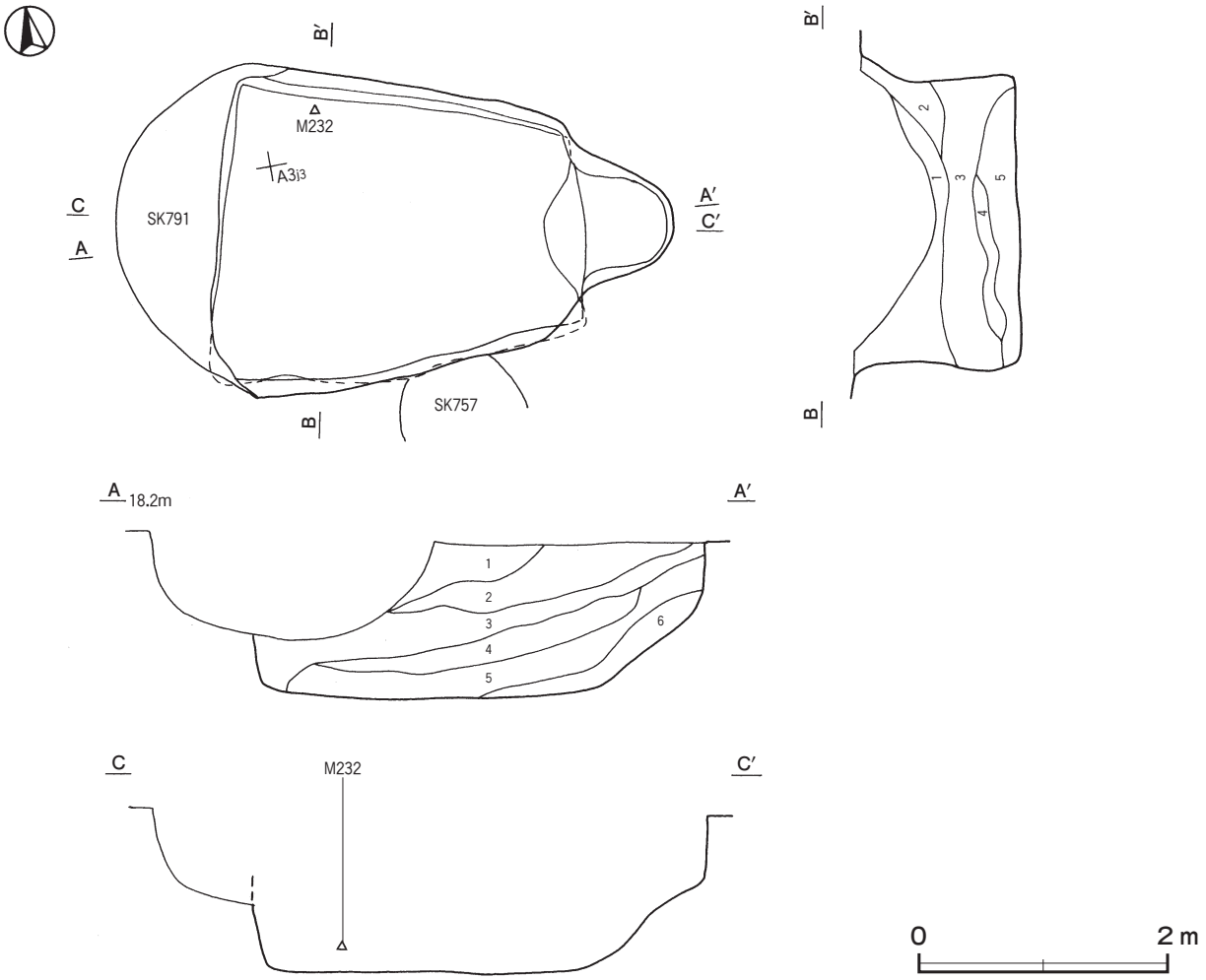
主室　奥行 2.56 ｍ，横幅 2.36 ｍの台形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは 130㎝である。底面は平坦で，壁際まで踏み固められている。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　６層に分層できる。第４・５層は天井部の崩落土層で，第６層が竪坑からの流入土層である。第１～３層はロームのブロックや粒子を含み，不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　極 暗 褐 色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　橙　　色　ローム粒子多量
5　にぶい橙色　ローム粒子多量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 161 点（坏１，甕 160），須恵器片 94 点（坏 22，鉢２，甕 70），磁器片１点（碗），鉄滓 109 点（2413.4 ｇ），鉄塊系遺物３点（1649.2 ｇ）が出土している。M 232 は北壁際の覆土下層から出土し



第 171 図　第 10 号地下式坑実測図

ている。いずれも，天井部崩落後の覆土中から出土している。

所見　時期は，遺構の形状と周辺の遺構配置から室町時代と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。

第 172 図　第 10 号地下式坑出土遺物実測図

第 10 号地下式坑出土遺物観察表（第 172 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 232	鉄塊系遺物	7.4	13.0	8.3	1192.7	鉄	全面発泡　一部銹化　酸化土砂付着のため暗赤褐色を呈す 木質付着　着磁性弱い	覆土下層	

第 11 号地下式坑（第 173 図）

位置　調査区西部のＡ３h5 区，標高 17 mほどの平坦な台地上に位置している。

軸長・軸方向　軸長は 4.10 mで，軸方向はＮ－ 90°－Ｗである。

竪坑　主室の東壁中央部に位置し，奥行 1.04 m，横幅 0.86 mの楕円形である。確認面から底面までの深さは 100cmで，壁は直立している。底面はスロープ状に下り主室に至っている。

主室　奥行 2.94 m，横幅 2.31 mの隅丸長方形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは 154cmである。底面は西壁に向け緩やかに傾斜しており，壁際まで踏み固められている。西壁は内彎気味に立ち上がり，北壁と南壁は直立している。

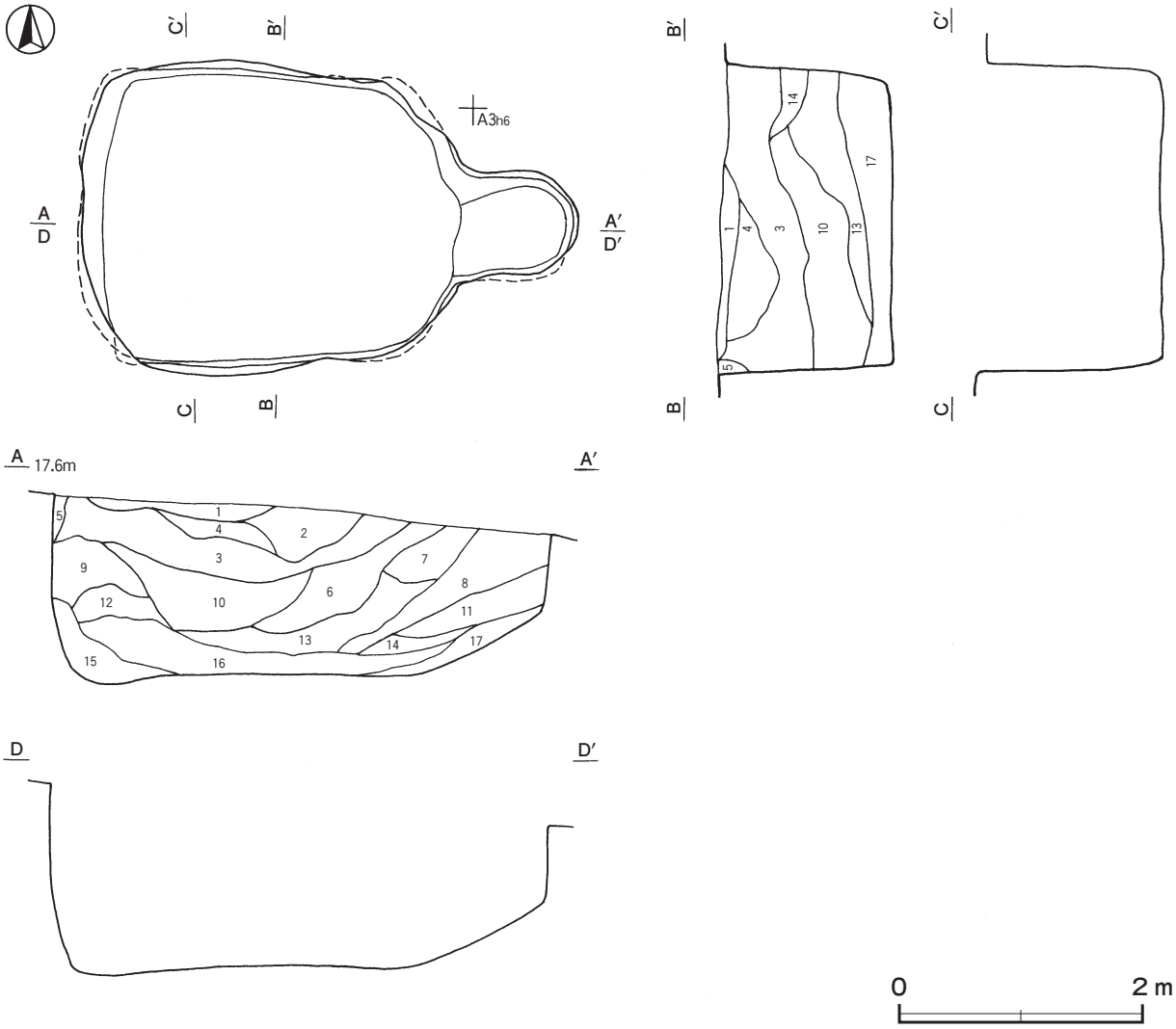
覆土　17 層に分層できる。第 15・16 層は天井部の崩落土層である。第 17 層は，竪坑からの流入土層である。第 1 ～ 14 層は，ブロック状の不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量（締まり普通）
2　褐　　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　褐　　色　ローム粒子多量（締まり強い）
6　褐　　色　ローム粒子多量（締まり普通）
7　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量
9　褐　　色　ロームブロック中量
10　褐　　色　ロームブロック微量
11　黒　褐　色　ロームブロック微量
12　褐　　色　ロームブロック少量
13　褐　　色　ロームブロック多量
14　黒　褐　色　ローム粒子微量
15　暗　褐　色　ロームブロック少量（締まり弱い）
16　褐　　色　ローム粒子中量
17　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片３点（甕類），須恵器片４点（坏２，甕類２），鉄塊系遺物２点（208.0 g）が出土している。いずれも細片のため図示できない。いずれも，崩落土層より上層の覆土中からの出土していることから，埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見　時期は，遺構の形状と周辺の遺構配置から室町時代と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。



第 173 図　第 11 号地下式坑実測図

第 12 号地下式坑（第 174 図）

位置　調査区西部のＡ３g3 区，標高 18 mほどの平坦な台地上に位置している。

軸長・軸方向　軸長は 5.00 mで，軸方向はN－ 118°－Wである。

竪坑　主室の東壁北部に位置し，奥行 1.00 m，横幅 0.86 mの楕円形である。確認面から底面までの深さは 100㎝で，壁は外傾して立ち上がっている。底面は緩やかに下り主室に至っている。

主室　奥行 3.75 m，横幅 1.33 mの不整長方形である。天井部は，北西コーナー部及び南西コーナーにわずかに遺存しているほかは，崩落している。北西コーナー部及び南西コーナー部の底面から天井部までの高さは

90cmほどで，確認面から底面までの深さは140cmである。底面は平坦で，壁際まで踏み固められている。壁は中位まで内傾して立ち上がっている。

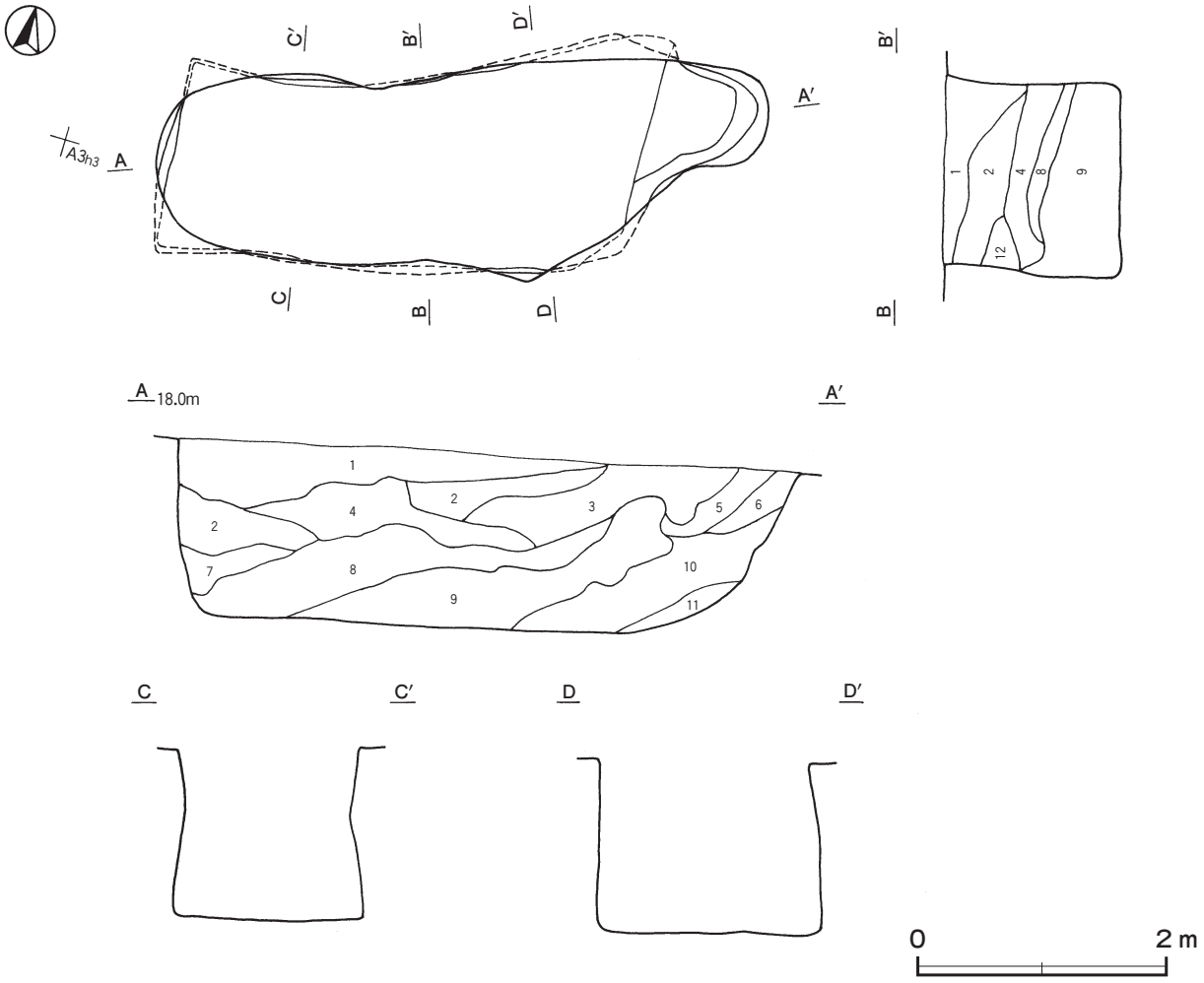
覆土　12層に分層できる。第９層は天井部の崩落土層で，第10･11層は竪坑からの流入土層である。第１～８･12層はロームブロックが含まれ，不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック微量（締まり普通）
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　灰　褐　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量
7　極暗褐色　ロームブロック少量
8　極暗褐色　ローム粒子少量
9　にぶい褐色　ロームブロック中量
10　暗　褐　色　ロームブロック微量（締まり弱い）
11　極暗褐色　ローム粒子微量
12　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片７点（甕類），須恵器片９点（坏５，壺類１，甕類３），鉄滓１点（1.8 g）が出土している。いずれも細片のため図示できない。いずれも崩落土層より上層の覆土中から出土していることから，埋め戻しの際の混入と考えられる。

所見　時期は，遺構の形状と周辺の遺構配置から室町時代と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。



第174図　第12号地下式坑実測図

第 13 号地下式坑（第 175 図）

位置　調査区西部のＡ３h2 区，標高 18 mほどの平坦な台地上に位置している。

軸長・軸方向　軸長は 3.56 mで，軸方向はＮ－ 26°－Ｗである。

竪坑　主室の東壁中央部に位置し，奥行 0.86 m，横幅 0.84 mの隅丸方形である。確認面から底面までの深さは 60cmで，壁は直立している。底面は，ステップ状の段を有し，スロープ状に 48cmほど下り，主室の底面に至っている。

主室　奥行 2.41 m，横幅 1.97 mの隅丸長方形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは 124cmである。底面は平坦で，壁際まで踏み固められている。壁は直立している。

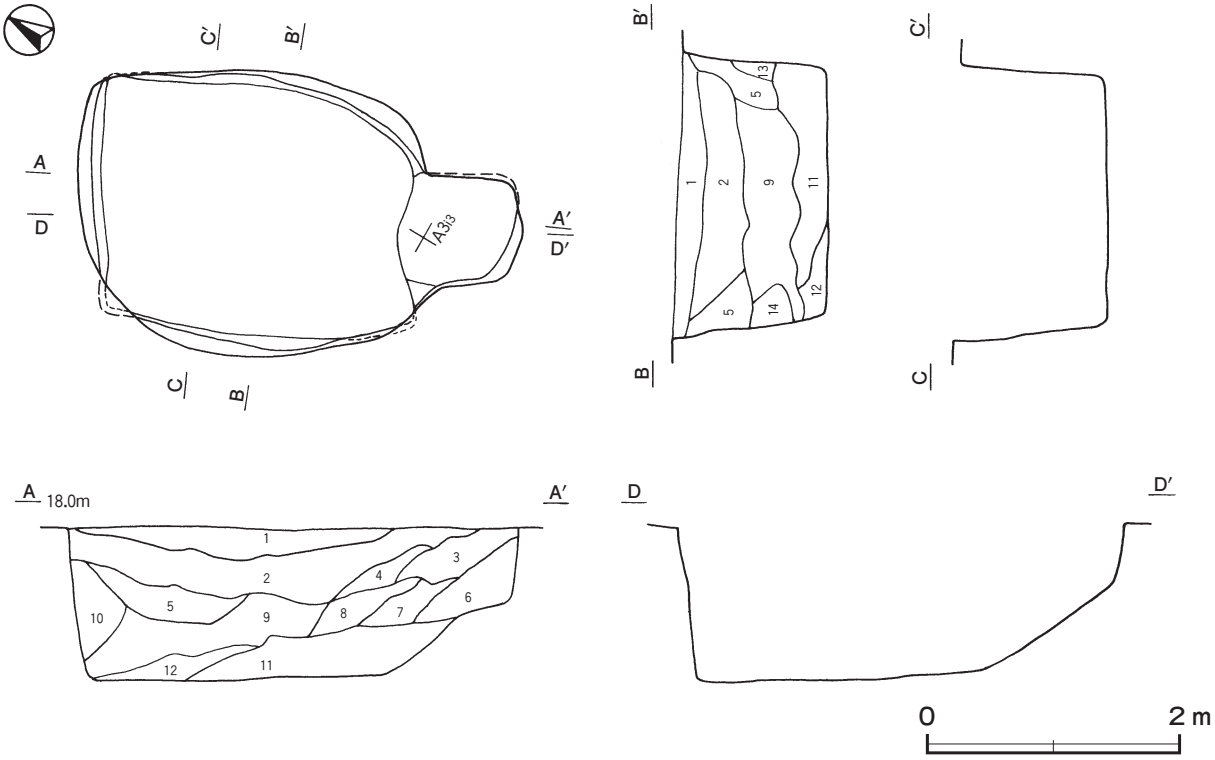
覆土　14 層に分層できる。第 11・12 層は天井部の崩落土層である。第 1 ～ 10・13・14 層は，ブロック状の不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗　褐　色	ロームブロック微量	
2	黒　褐　色	ローム粒子中量	
3	暗　褐　色	ローム粒子少量	
4	暗　褐　色	ロームブロック中量	
5	暗　褐　色	ローム粒子中量	
6	暗　褐　色	ロームブロック少量	
7	黒　褐　色	ロームブロック微量	
8	褐　　色	ロームブロック中量	
9	暗　褐　色	ローム粒子微量	
10	暗　褐　色	ローム粒子微量	
11	黒　褐　色	ロームブロック中量	
12	黒　褐　色	ロームブロック多量	
13	褐　　色	ロームブロック多量	
14	褐　　色	ローム粒子中量	

遺物出土状況　土師器片５点（甕類），須恵器片 14 点（坏５，壺１，甕類８），炉壁材２点，鉄滓１点（147.2 ｇ）が出土している。いずれも細片のため図示できない。いずれも崩落土層より上層の覆土中から出土していることから，埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見　時期は，遺構の形状と周辺の遺構配置から室町時代と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。



第 175 図　第 13 号地下式坑実測図

第 14 号地下式坑（第 176・177 図）

位置　調査区Ｂ３b8 区，標高 18 ｍほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

重複関係　第 23 号井戸に掘り込まれている。

軸長・軸方向　軸長は 2.40 ｍで，軸方向はＮ－ 123°－Ｗである。

竪坑　主室の北東壁中央部に位置し，奥行 0.80 ｍ，横幅 0.94 ｍの楕円形である。確認面から底面までの深さは 146cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で緩やかに 20cmほど上り主室に至っている。

主室　奥行 1.31 ｍ，横幅 2.18 ｍの隅丸長方形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは 150cmである。底面はほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。壁は内傾して立ち上がっている。

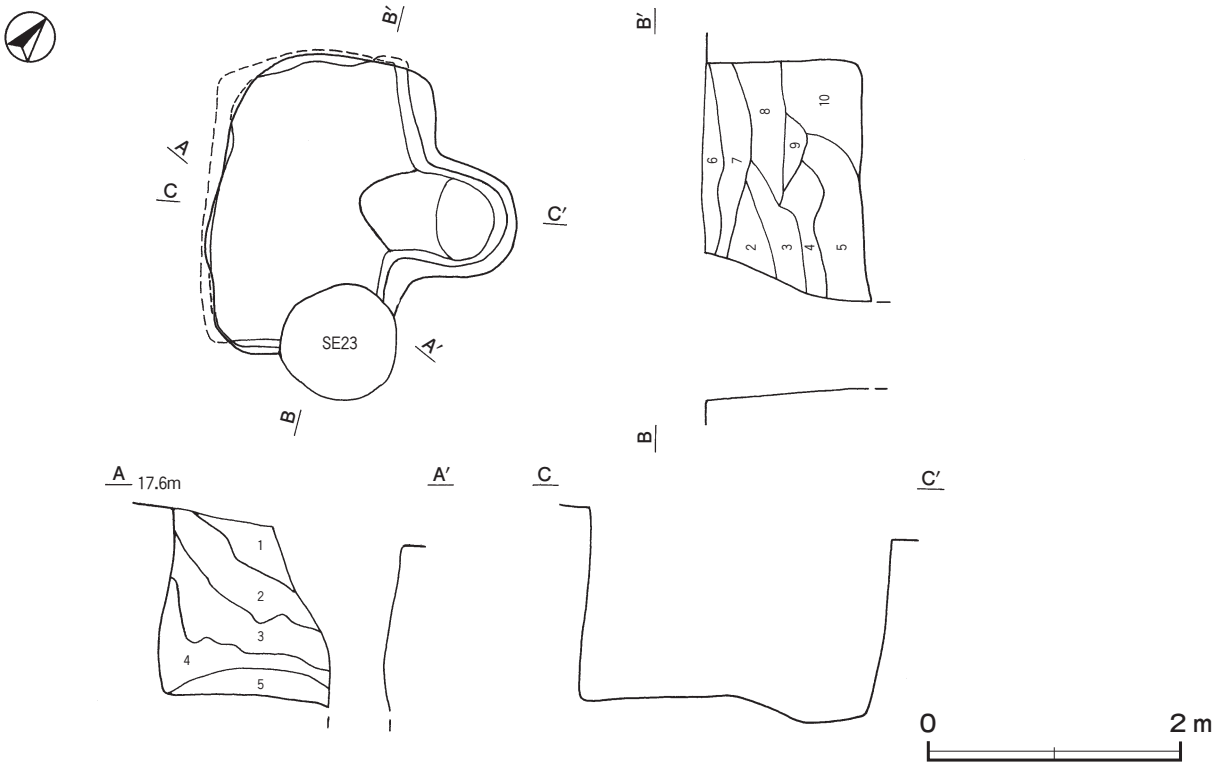
覆土　10 層に分層できる。第４・５・９・10 層は天井部の崩落土層である。第１～３・６～８層はロームブロックを含み不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

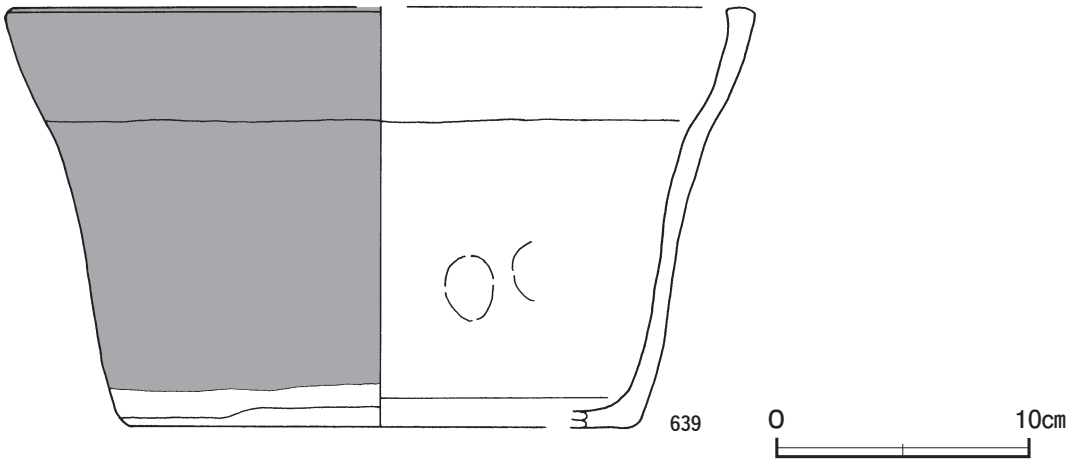
1	褐　色	ロームブロック中量	
2	褐　色	ローム粒子中量（締まり弱い）	
3	褐　色	ローム粒子中量（締まり普通）	
4	褐　色	ロームブロック多量（締まり普通）	
5	暗褐色	ロームブロック中量	
6	暗褐色	ロームブロック少量	
7	暗褐色	焼土ブロック微量	
8	暗褐色	ローム粒子中量	
9	暗褐色	ロームブロック多量	
10	褐　色	ロームブロック多量（締まり強い）	

遺物出土状況　土師質土器片２点（内耳鍋），瓦質土器片４点（内耳鍋）のほか，土師器片２点（甕類），鉄滓２点（153.2 ｇ）が出土している。639 は覆土中から出土している。いずれも崩落土層より上層の覆土中から出土していることから，埋め戻しの際の混入と考えられる。

所見　時期は，出土土器と遺構の形状及び周辺の遺構配置から 15 世紀中葉から後葉と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。



第 176 図　第 14 号地下式坑実測図



第 177 図　第 14 号地下式坑出土遺物実測図

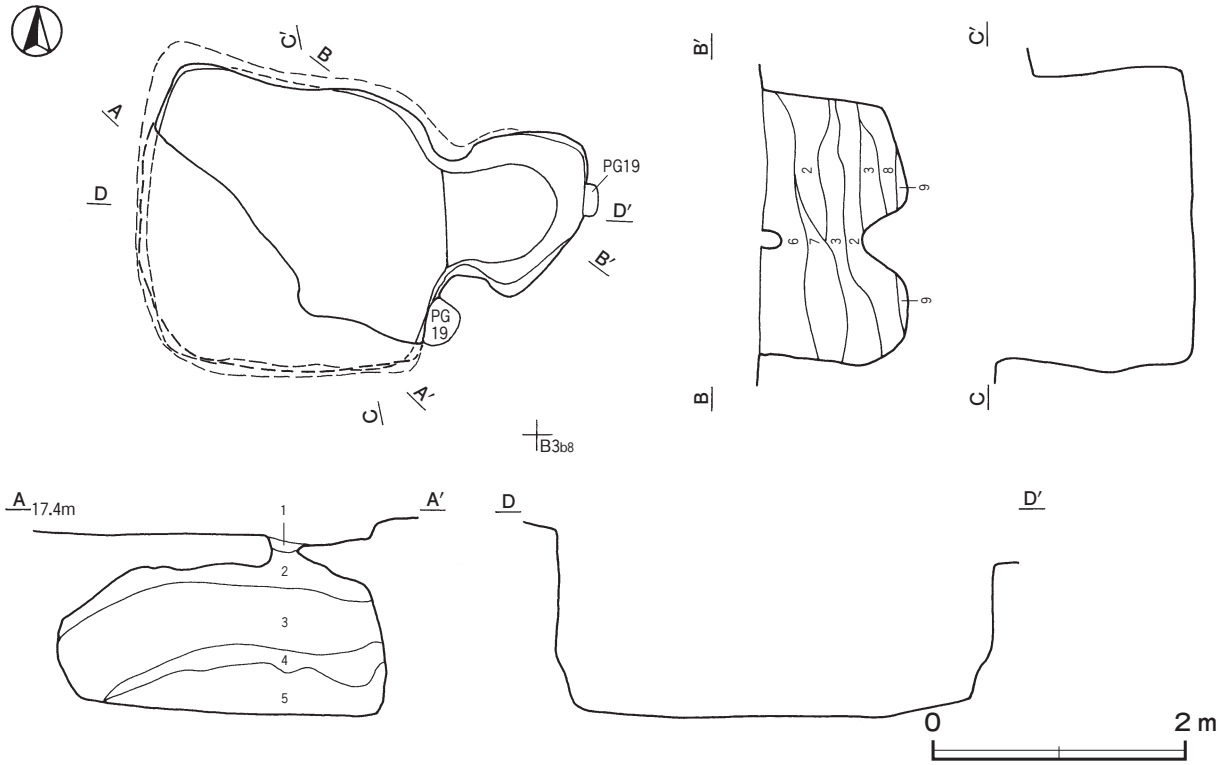
第 14 号地下式坑出土遺物観察表（第 177 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
639	瓦質土器	内耳鍋	［29.0］	16.7	［21.0］	長石・石英	黒	普通	内面指頭圧痕	覆土中	20%

第 15 号地下式坑（第 178 図）

位置　調査区西部のＢ３a7 区，標高 17 mほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

重複関係　第 19 号ピット群に掘り込まれている。



第 178 図　第 15 号地下式坑実測図

軸長・軸方向　軸長は3.54 mで，軸方向はN－90°－Wである。

竪坑　主室の東壁中央部に位置し，奥行1.10 m，横幅1.30 mの不定形である。確認面から底面までの深さは108㎝で，壁は直立している。底面は緩やかに下り主室に至っている。主室の底面とは18㎝の段差をなしている。

主室　奥行2.35 m，横幅2.30 mの隅丸方形である。南西コーナー部で，広く天井部が遺存していた。底面から天井部までの高さは120㎝ほどで，確認面から底面までの深さは152㎝である。底面は平坦で，壁際まで踏み固められている。北・南壁は内傾して立ち上がっており，西壁は直立している。

覆土　９層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック中量
5　黒　褐　色　炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量
6　褐　　色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック多量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量
9　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片10点（甕類），須恵器片10点（坏５，甕類５）が出土している。いずれも細片のため図示できない。いずれも覆土中から出土していることから，埋め戻しの際の混入と考えられる。

所見　時期は，遺構の形状と周辺の遺構配置から室町時代と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。

第16号地下式坑（第179図）

位置　調査区西部のＡ３i6区，標高17 mほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

軸長・軸方向　軸長は2.68 mで，軸方向はN－103°－Wである。

竪坑　主室の東壁中央部に位置し，奥行0.88 m，横幅0.80 mの隅丸方形である。確認面から底面までの深さは80㎝で，北壁と東壁の一部は直立し，南壁は外傾して立ち上がっている。底面は緩やかに下り主室に至っている。主室の底面とは30㎝の比高差がある。

主室　奥行1.78 m，横幅1.93 mの隅丸台形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは124㎝である。底面は平坦で，壁際まで踏み固められている。壁は内彎して立ち上がっており，推定天井高は1.0 mである。

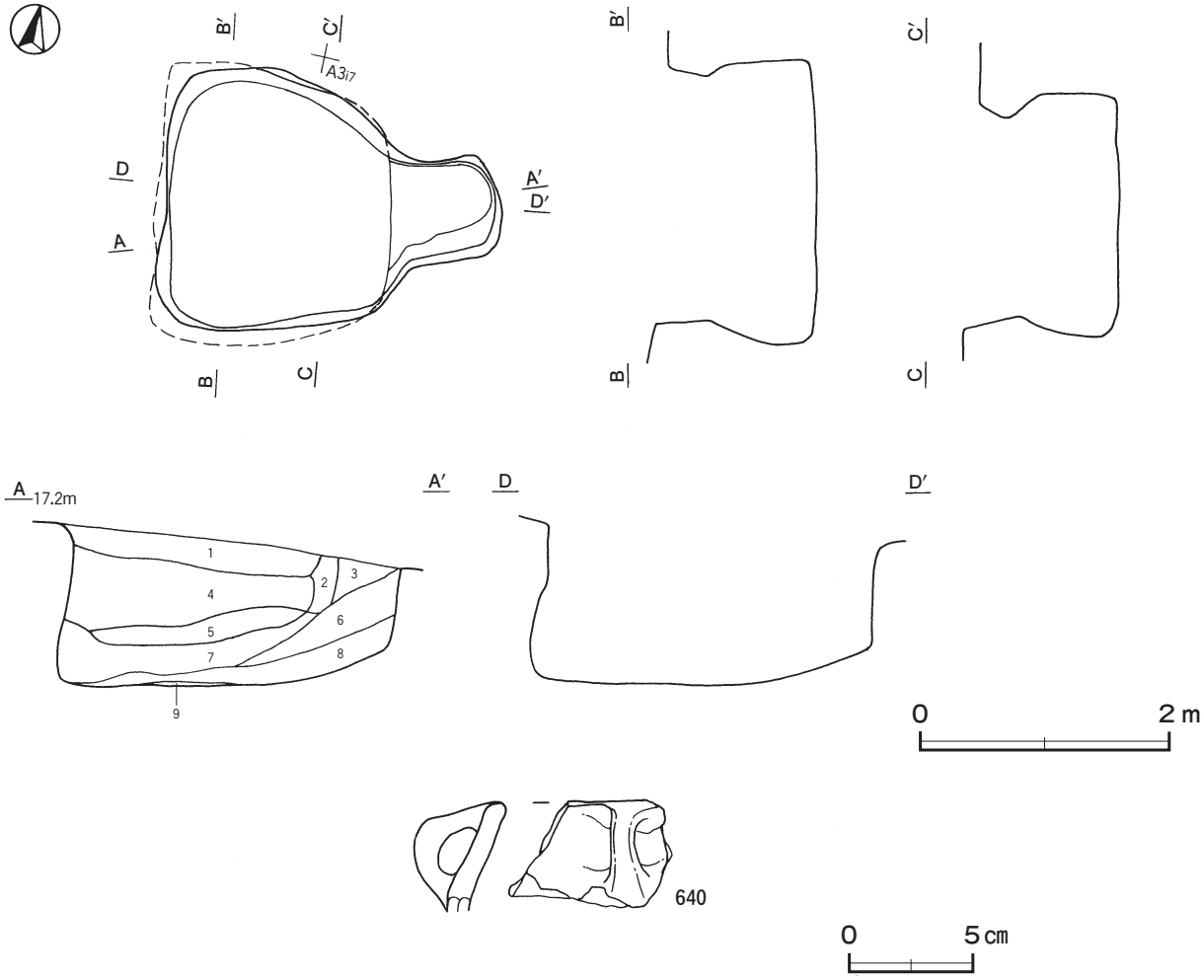
覆土　９層に分層できる。第５・７層は天井部の崩落土層で，第３・６・８・９層は竪坑からの流入土層である。第１・２・４層はロームブロックが含まれ，不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ローム粒子多量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量
9　黒　褐　色　ロームブロッ微量

遺物出土状況　瓦質土器片３点（内耳鍋）のほか，土師器片２点（坏，甕類），須恵器片１点（壺），鉄滓１点（36.9 g）が出土している。640は覆土中から出土している。いずれも崩落土層より上層の覆土中から出土していることから，埋め戻しの際の混入と考えられる。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状，周辺の遺構配置から室町時代と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。



第 179 図　第 16 号地下式坑・出土遺物実測図

第 16 号地下式坑出土遺物観察表（第 179 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
640	瓦質土器	内耳鍋	－	(4.3)	－	長石・石英	黒褐	普通	内耳 1 か所残存	覆土中	5 %

第 17 号地下式坑（第 180 図）

位置　調査区東部D 10f6 区，標高 14 mほどの平坦な台地上に位置している。

軸長・軸方向　軸長は 3.00 mで，軸方向はN － 115° －Wである。

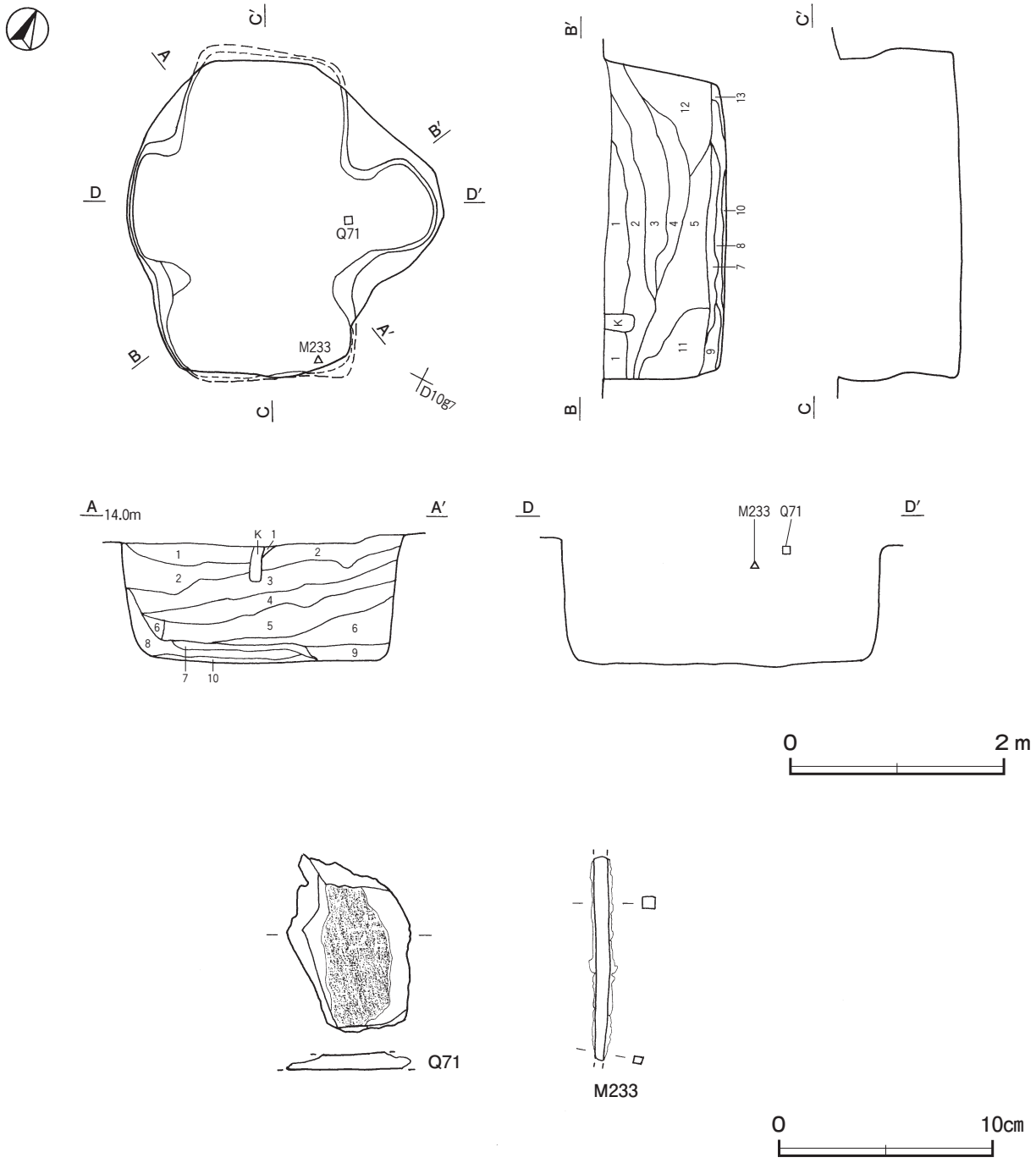
竪坑　主室の東壁中央部に位置し，奥行 0.90 m，横幅 0.88 mの楕円形である。確認面から底面までの深さは 110㎝で，壁は直立している。底面は平坦である。

主室　奥行 1.52 m，横幅 3.00 mの長方形で，西壁の中央部が，横幅 1.00 m，奥行 0.40 mほどコの字状に突出している。西壁及び東壁には，地山を若干掘り残した括れが確認できる。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは 118㎝である。底面は平坦で，壁際まで踏み固められている。壁は直立している。

覆土　13 層に分層できる。第７～９層は天井部の崩落土層である。第 10･13 層は竪坑からの流入土層である。第１～６・11・12 層はブロック状の不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量
6　褐　　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量
8　褐　　色　ロームブロック多量
9　暗　褐　色　ローム粒子多量
10　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
13　極暗褐色　ロームブロック少量，粘土粒子微量



第 180 図　第 17 号地下式坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師質土器片７点（小皿１，内耳鍋６），石器１点（砥石），石製品１点（板碑）のほか，土師器片 41 点（坏８，甕類 33），須恵器片 18 点（坏６，甕類 12），土製品７点（羽口），鉄製品２点（釘），鉄滓 327 点（3645.4 ｇ）が出土している。Q 71 は主室と竪坑の接続部付近，M 233 は主室の南壁際の覆土上層から出土している。いずれも崩落土層より上層の覆土中から出土していることから，埋め戻しの際の混入と考えられる。

所見　時期は，遺構の形状から室町時代と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。

第 17 号地下式坑出土遺物観察表（第 180 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 71	板碑	(8.4)	(5.8)	0.8	(56.4)	緑泥片岩	「年」の碑文残存	覆土上層	PL50

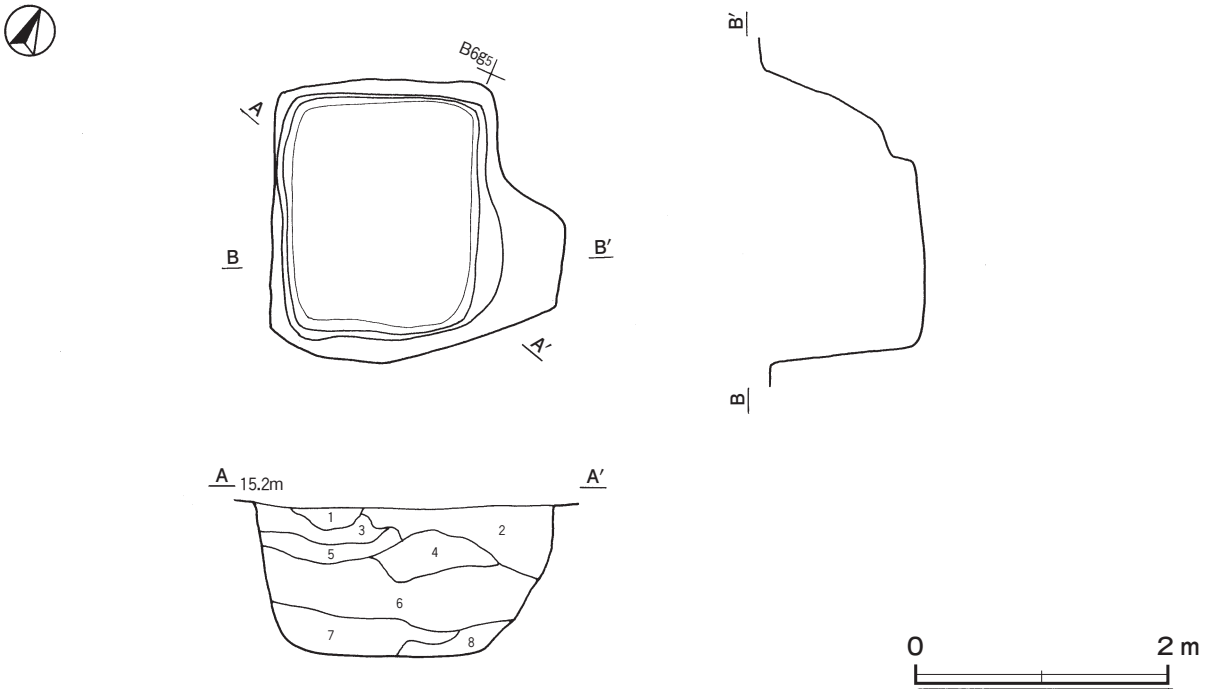
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 233	釘	(9.6)	(0.7)	(0.4～0.6)	(20.5)	鉄	断面方形　両端欠損	覆土上層	

第 19 号地下式坑（第 181 図）

位置　調査区中央部のＢ６h6 区，標高 15 mほどの平坦な台地上に位置している。

軸長・軸方向　軸長は 2.32 mで，軸方向はＮ－ 117°－Ｗである。

竪坑　主室の東壁南部に位置し，奥行 0.52 m，横幅 1.00 mの台形である。確認面から底面までの深さは 98㎝で，壁は外傾して立ち上がっている。底面はスロープ状を呈し，段を有して主室に至っている。主室の底面と



第 181 図　第 19 号地下式坑実測図

は20㎝の段差をなしている。

主室　奥行1.40 m，横幅1.75 mの隅丸長方形である。天井部は崩落しており，確認面から底面までの深さは118㎝である。底面は平坦で，壁際まで踏み固められている。西壁は直立し，北及び南壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　８層に分層できる。第６層は天井部の崩落土層である。第７・８層は竪坑からの流入土層で，第１～５層はブロック状の不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1	褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	褐　色	ローム粒子中量，焼土ブロック少量
4	褐　色	ローム粒子中量
5	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
6	褐　色	ロームブロック中量
7	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況　須恵器片１点（坏），鉄滓１点（5.5 g）が出土している。細片のため図示できない。いずれも崩落土層より上層の覆土中から出土していることから，埋め戻しの際の混入と考えられる。

所見　時期は，遺構の形状から室町時代と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。

第20号地下式坑（第182図）

位置　調査区中央部のＢ４g2区，標高17 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第98号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

軸長・軸方向　軸長は3.06 mで，軸方向はN－35°－Wである。

竪坑　主室の南東壁中央部に位置し，奥行0.94 m，横幅0.94 mの楕円形である。確認面から底面までの深さは84㎝で，壁は外傾して立ち上がっている。底面は緩やかに下り主室に至っている。主室の底面とは24㎝の段差をなしている。

主室　奥行1.95 m，横幅3.42 mの凸形である。３室構造で，北東室は奥行・横幅ともに1.20 mほど，北西室は奥行2.12 m，横幅1.10 mほど，南西室は奥行・横幅とも1.20 mほどである。天井部は崩落しており，各室とも確認面から底面までの深さは106㎝である。底面は竪坑から緩やかに上って奥壁に至っており，壁際まで踏み固められている。壁は直立している。

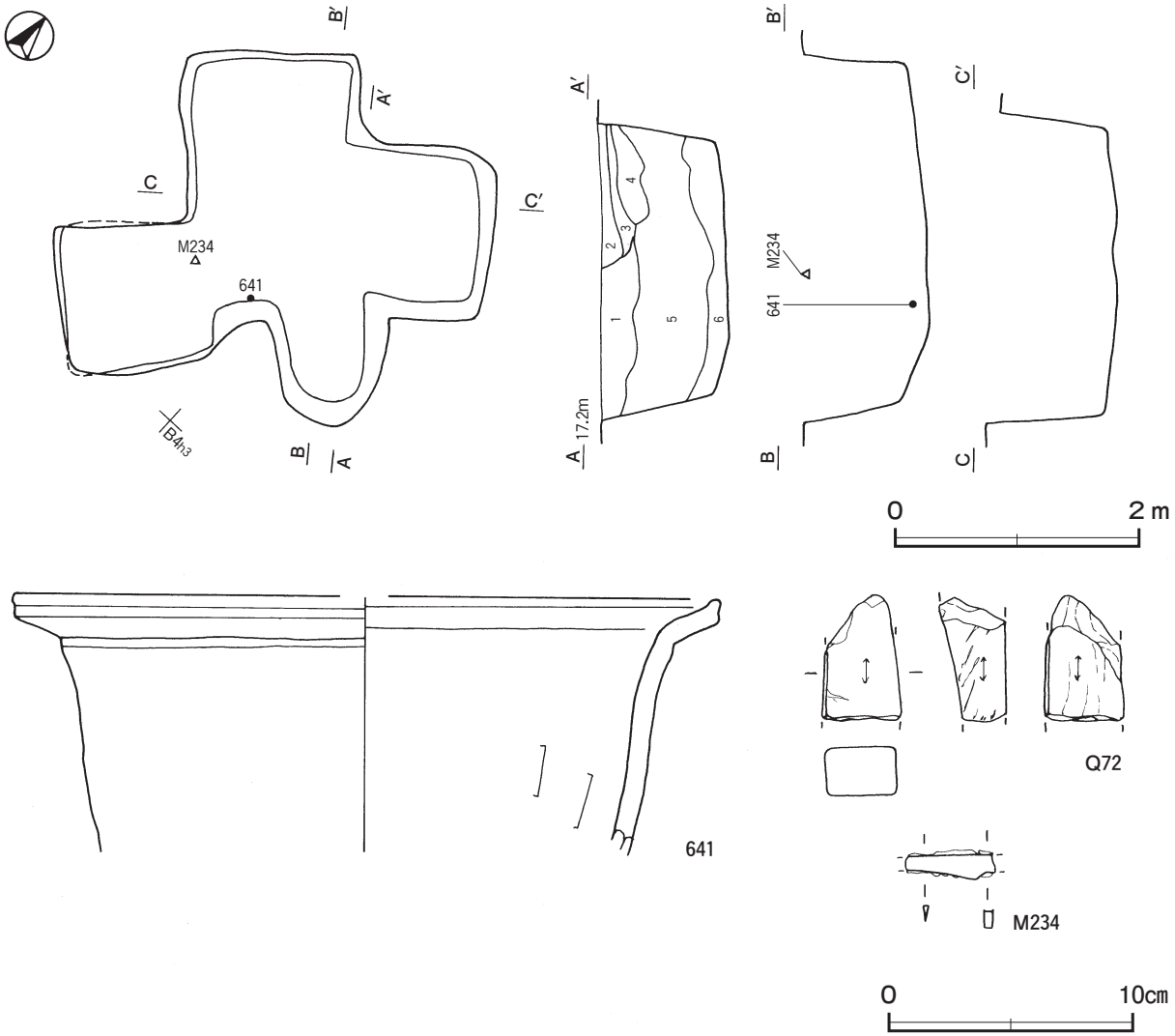
覆土　６層に分層できる。多くの層に炭化粒子や焼土粒子が含まれ，一部ブロック状の不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。天井部の崩落土は確認できなかった。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	炭化粒子少量，ローム粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況　陶器片２点（碗），石器２点（砥石），鉄製品１点（刀子）のほか，土師器片94点（甕類），須恵器片71点（坏45，高坏３，蓋10，甕類13），鉄滓47点（1337.0 g）が出土している。641は南西室の南東壁際の覆土下層から，M 234は南西室北部の覆土上層から，Q 72は覆土中から出土している。いずれも埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見　時期は，遺構の形状から室町時代と考えられる。底面は踏み固められており，出入りが頻繁に行われていたと推測できることから，倉庫として機能していたと考えられる。



第 182 図　第 20 号地下式坑・出土遺物実測図

第 20 号地下式坑出土遺物観察表（第 182 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
641	土師器	甕	[28.9]	(10.4)	－	長石・石英・細礫	灰黄褐	普通	外面ロクロナデ　内面ヘラ状の工具痕	覆土下層	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 72	砥石	(5.1)	3.3	2.7	(50.0)	花崗岩	砥面 4 面	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 234	刀子	(3.7)	(0.9)	0.2～0.3	(4.2)	鉄	刃部断面三角形　茎部断面長方形　両端欠損	覆土上層	

表 13　室町時代地下式坑一覧表

番号	位 置	軸方向	平面形		軸 長	主 室 規 模			竪 坑 規 模			覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
			主室	竪坑	(m)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)			
2	C 8 i9	N－70°－E	長方形	長方形	3.22	1.78	2.13	106	1.08	1.44	116	人為	土師器片，須恵器片	SI81・SK242→本跡
3	C 8 j0	N－0°	長方形	－	(2.46)	2.13	1.78	90	－	－	－	人為	陶器片，石器	本跡→UP 5，SK312
5	C 8 j0	N－59°－W	隅丸長方形	楕円形	3.46	2.37	1.82	110	0.80	1.14	82	人為	陶器片，刀子	UP 3→本跡

番号	位置	軸方向	平面形		軸長	主室規模			竪坑規模			覆土	主な出土遺物	備考
			主室	竪坑	(m)	奥行(m)	横幅(m)	深さ(cm)	奥行(m)	横幅(m)	深さ(cm)			
6	C 8 e6	N－0°	長方形	長方形	3.76	2.28	2.57	140	1.00	0.82	140	人為	土師器片，須恵器片	
7	D 8 a0	N－98°－W	長方形	楕円形	3.26	2.13	1.13	72	1.00	0.92	82	人為	陶器片	SK324 →本跡
8	A 3 d4	N－97°－W	方形	楕円形	3.40	2.20	2.22	168	1.00	1.08	138	人為	陶器片，銭貨	
9	A 3 f5	N－36°－W	隅丸長方形	－	(3.80)	3.62	2.13	160	－	－	－	人為	陶器片，石器，銭貨	SI104, 方形竪穴 4 →本跡→ SN 9，PG19
10	A 3 j3	N－83°－W	台形	楕円形	(3.68)	2.56	2.36	130	0.72	1.04	100	人為	鉄塊系遺物	SK757 →本跡→ SK791
11	A 3 h5	N－90°－W	隅丸長方形	楕円形	4.10	2.94	2.31	154	1.04	0.86	100	人為	土師器片，須恵器片	
12	A 3 g3	N－118°－W	不整長方形	楕円形	5.00	3.75	1.33	140	1.00	0.86	100	人為	土師器片，須恵器片	
13	A 3 h2	N－26°－W	隅丸長方形	隅丸方形	3.56	2.41	1.97	124	0.86	0.84	60	人為	土師器片，須恵器片	
14	B 3 b8	N－123°－W	隅丸長方形	楕円形	2.40	1.31	2.18	150	0.80	0.94	146	人為	土師質土器片，瓦質土器片	本跡→ SE23
15	B 3 a7	N－90°－W	隅丸方形	不定形	3.54	2.35	2.30	152	1.10	1.30	108	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ PG19
16	A 3 i6	N－103°－W	隅丸台形	隅丸方形	2.68	1.78	1.93	124	0.88	0.80	80	人為	瓦質土器片	
17	D 10f6	N－115°－W	長方形	楕円形	3.00	1.52	3.00	118	0.90	0.88	110	人為	土師質土器片，石製品，釘	
19	B 6 h6	N－117°－W	隅丸長方形	台形	2.32	1.40	1.75	118	0.52	1.00	98	人為	須恵器片	
20	B 4 g2	N－35°－W	凸形	楕円形	3.06	1.95	3.42	106	0.94	0.94	84	人為	土師器片，石器，刀子	SI98 →本跡

(5) 火葬施設

第 1 号火葬施設（第 183 図）

位置　調査区東部のＥ 11c5 区，標高 14 mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況　第 76 号竪穴建物跡の調査中に焼土及び骨粉を確認したため，規模と形状は不明な点が多い。

重複関係　第 76 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　平面形はＴ字形と推測でき，主軸方向はＮ－130°－Ｅである。通風溝は，長さ 0.54 m，上幅 0.32 m，下幅 0.16 mしか確認できなかった。確認面からの深さは 20cmほどで，底面は皿状である。燃焼部は，横幅 1.05 m，奥行 0.46 mしか確認できなかった。平面形は不整楕円形と推測でき，主軸と直交している。確認面からの深さは 32cmしか確認できなかった。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

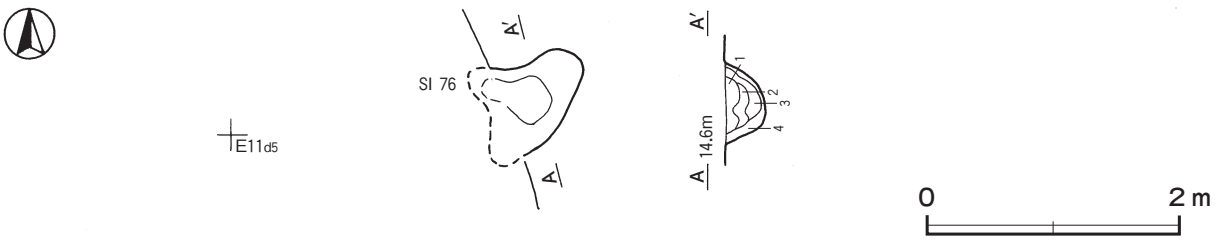
覆土　４層に分層できる。焼土粒子や炭化粒子，骨粉が不規則に混じる堆積状況から，埋め戻されている。

土層解説

1　暗赤褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック・骨粉中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　黒　褐　色　炭化物少量，焼土ブロック微量
4　暗赤褐色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量

遺物出土状況　燃焼部から骨粉や炭化物等が出土している。また，土師器片４点（甕類），須恵器片３点（坏）も出土している。

所見　時期は，伴う遺物が出土していないが，遺構の形状から室町時代と考えられる。



第 183 図　第 1 号火葬施設実測図

第２号火葬施設（第 184 図）

位置　調査区東部のＤ９c3 区，標高 14 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　平面形はＴ字形で，主軸方向はＮ－ 119°－Ｗである。通風溝は，長さ 1.32 m，上幅 0.44 m，下幅で 0.32 mである。確認面からの深さは８cmで，底面はＵ字状を呈し，燃焼部に向かって傾斜している。燃焼部は横幅 1.16 m，奥行 0.80 mの楕円形で，主軸と直交している。確認面からの深さは 26cmで，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

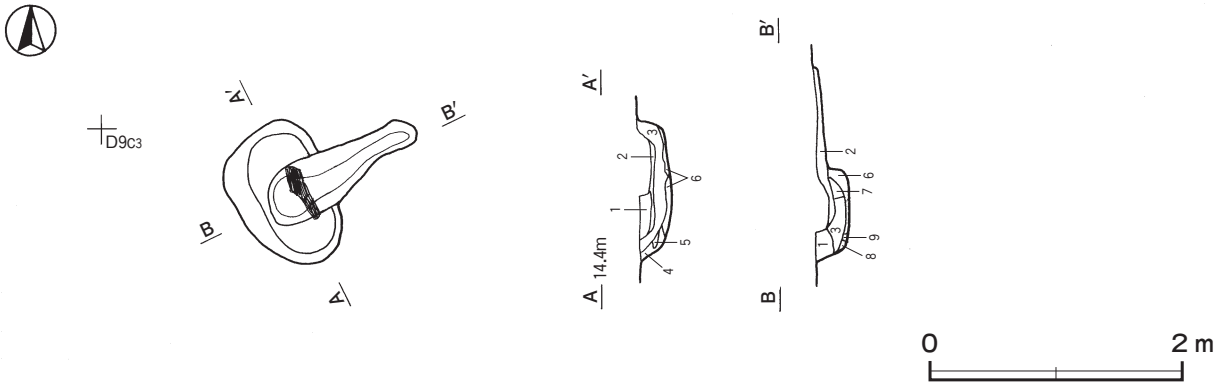
覆土　９層に分層できる。焼土や炭化物，骨片が不規則に混じる堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　赤　褐　色　焼土粒子・骨片中量，炭化物少量
3　黒　褐　色　炭化材多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
4　極 暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　炭化材・焼土粒子少量
6　灰　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
7　黒　褐　色　炭化材・焼土粒子中量，骨粉少量
8　黒　　色　炭化材多量
9　黒　　色　炭化粒子多量，ローム粒子微量

遺物出土状況　燃焼部から骨片や炭化材等が出土している。また，覆土中からは土師器片４点（坏），須恵器片２点（坏），鉄滓３点（11.5 ｇ）が出土している。

所見　時期は，伴う遺物が出土していないが，遺構の形状から室町時代と考えられる。



第 184 図　第２号火葬施設実測図

第３号火葬施設（第 185 図）

位置　調査区東部のＤ９c4 区，標高 14 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　平面形はＴ字形で，主軸方向はＮ－ 173°－Ｅである。通風溝は，長さ 0.94 m，上幅 0.34 m，下幅 0.18 mである。確認面からの深さは６cmで，底面は皿状を呈し，燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部は横幅 1.10 m，奥行 0.74 mの楕円形で，主軸と直交している。底面は皿状である。確認面からの深さは 31cmで，壁は緩やかに立ち上がっている。

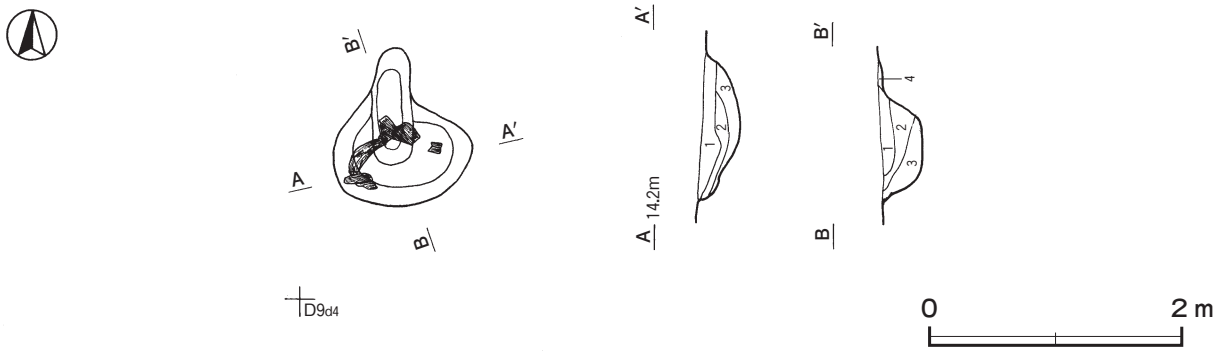
覆土　４層に分層できる。焼土や炭化物，骨片が不規則に混じる堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　極 暗 褐 色　炭化物・ローム粒子・骨片中量，焼土粒子微量
2　極 暗 褐 色　炭化材中量，焼土粒子・骨片微量
3　極 暗 褐 色　炭化物・焼土粒子・骨粉微量
4　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化物少量

遺物出土状況　燃焼部から骨片や炭化材が出土している。また，土師器片３点（坏１，甕２），須恵器片１点（坏）も出土している。

所見　時期は，伴う遺物が出土していないが，遺構の形状から室町時代と考えられる。



第 185 図　第３号火葬施設実測図

第４号火葬施設（第 186 図）

位置　調査区東部のＣ９h2 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第５号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状　第５号方形竪穴遺構に掘り込まれているため，燃焼部の一部しか確認できなかった。確認できた横幅は 1.24 ｍ，奥行は 0.50 ｍである。確認面からの深さは 20㎝で，底面は平坦である。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

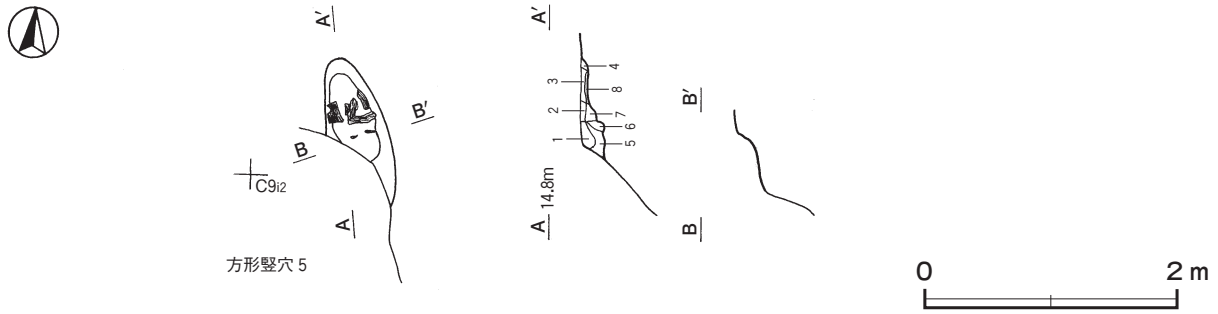
覆土　８層に分層できる。焼土や炭化物，骨片が不規則に混じる堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量	5	黒 褐	色	炭化材中量，焼土粒子・骨片少量
2	暗	褐	色	ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量	6	褐	色	骨片・炭化物・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3	黒	褐	色	炭化物中量，ローム粒子・焼土粒子少量	7	黒	色	炭化粒子多量，骨粉少量，焼土粒子微量
4	黒	褐	色	炭化粒子中量，焼土粒子微量	8	黒	色	炭化材多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　燃焼部から骨片や炭化材が出土している。

所見　時期は，伴う遺物が出土していないが，遺構の形状から室町時代と考えられる。



第 186 図　第４号火葬施設実測図

第５号火葬施設（第 187 図）

位置　調査区中央部のＣ６b6 区，標高 15 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 501 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　平面形はＴ字形で，主軸方向はＮ－ 177°－Ｗである。通風溝は，長さ 1.60 ｍ，上幅 0.68 ｍ，下幅 0.22 ｍである。確認面からの深さは 21㎝で，底面は凹凸がある。燃焼部は奥行 0.52 ｍ，横幅 1.38 ｍの楕円形で，主軸と直交している。底面は浅い皿状である。確認面からの深さは 28㎝で，壁は外傾して立ち上がっ

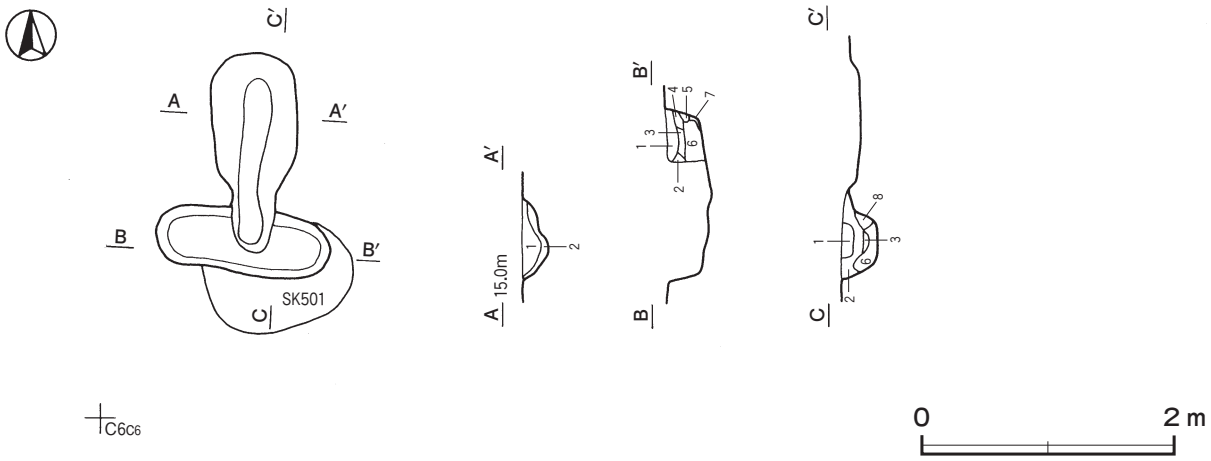
ている。

覆土　８層に分層できる。焼土や炭化物が不規則に混じる堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化物微量
3　黒　褐　色　炭化物少量，焼土粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　黒　　色　炭化物多量，焼土粒子微量
7　極暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
8　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化物少量

所見　時期は，伴う遺物が出土していないが，遺構の形状から火葬施設であり，時期は室町時代と考えられる。



第 187 図　第５号火葬施設実測図

表 14　室町時代火葬施設一覧表

番号	位置	軸方向	平面形	全長（m）	焚口部 奥行（m）	焚口部 横幅（m）	焚口部 深さ（cm）	焚口部 底面	燃焼部 奥行（m）	燃焼部 横幅（m）	燃焼部 深さ（cm）	燃焼部 底面	通風溝 上幅（m）	通風溝 下幅（m）	通風溝 深さ（cm）	覆土	主な出土遺物	備考
1	E 11c5	N－130°－E	［T字形］	［0.82］	－	－	－	－	0.46	1.05	32	皿状	0.32	(0.16)	20	人為	骨粉	SI76→本跡
2	D 9c3	N－119°－W	T字形	1.55	－	－	－	－	0.80	1.16	26	平坦	0.44	0.32	8	人為	骨片　炭化材	
3	D 9c4	N－173°－E	T字形	1.25	－	－	－	－	0.74	1.10	31	皿状	0.34	0.18	6	人為	骨片　炭化材	
4	C 9h2	－	－	－	－	－	－	－	0.50	1.24	(20)	平坦	－	－	－	人為	骨片　炭化材	本跡→方形竪穴５
5	C 6b6	N－177°－W	T字形	1.75	－	－	－	－	0.52	1.38	28	皿状	0.68	0.22	21	人為		

(6)　屋外炉

第１号屋外炉（第 188・189 図）

位置　調査区西部のＢ３j8 区，標高 17 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径 1.37 m，短径 0.96 mの楕円形で，長径方向はＮ－74°－Ｅである。確認面から炉床面までの深さは 12cmほどで，炉床面は凹凸がある。炉床面は火熱を受け赤変硬化している。

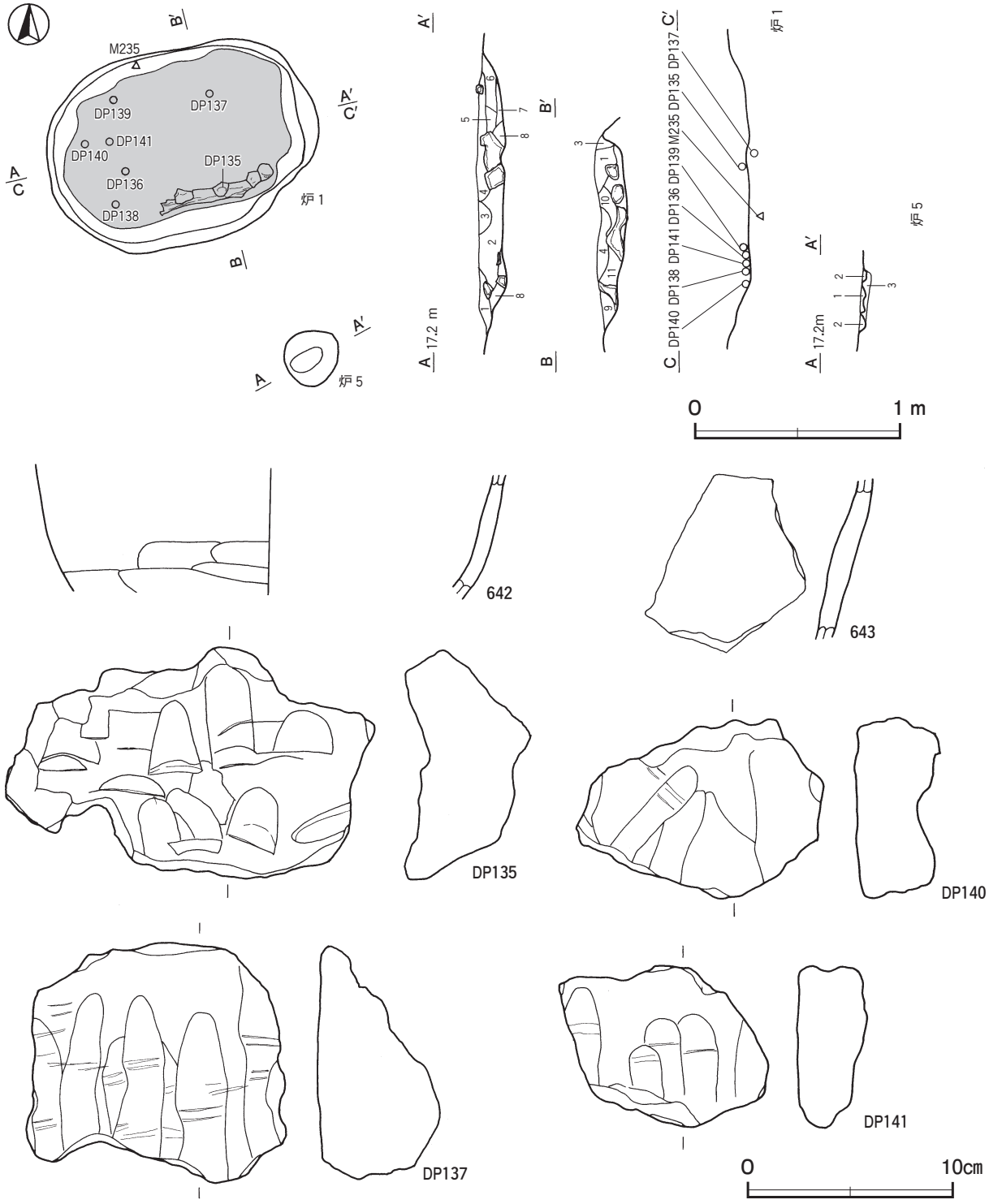
覆土　11 層に分層できる。ブロック状の不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

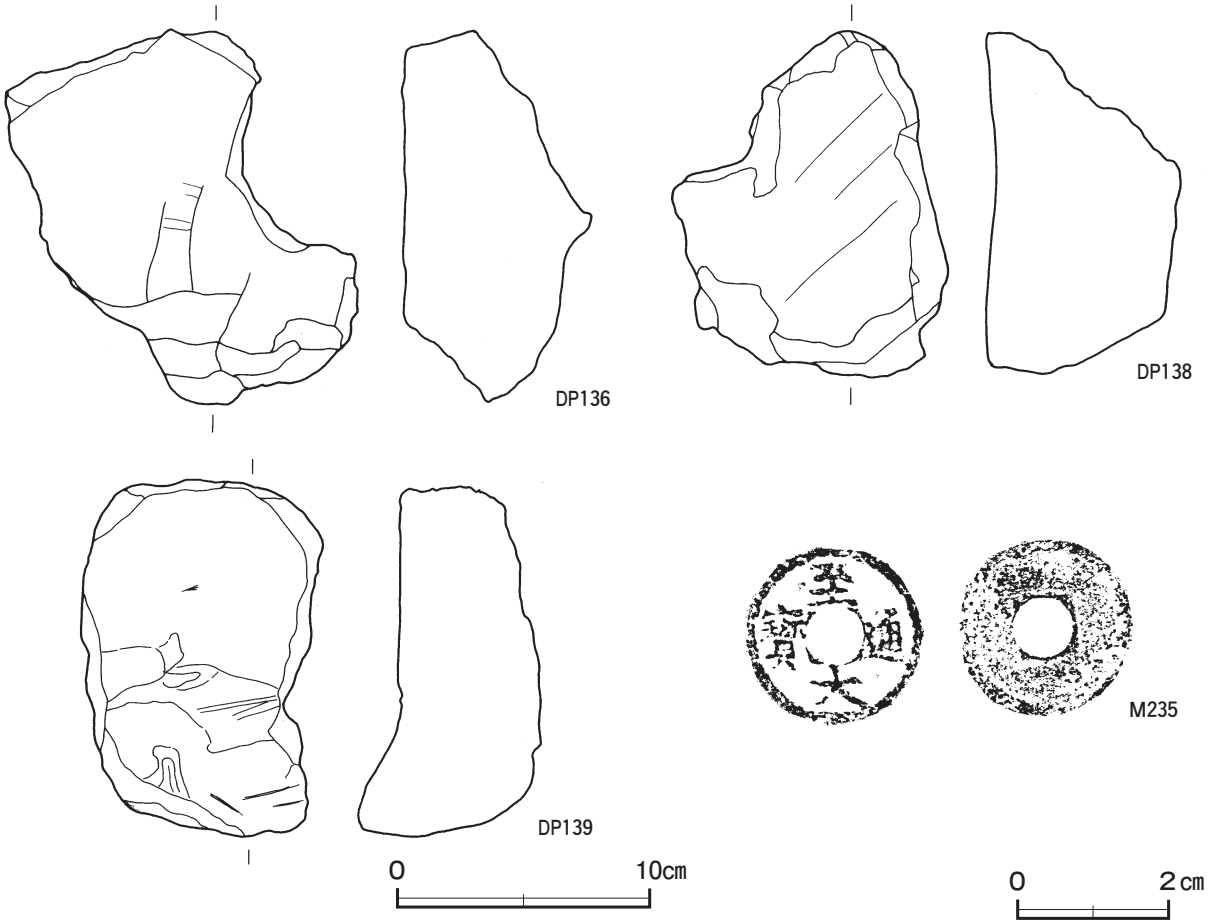
1　褐　　色　炭化物・焼土粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック微量
3　褐　　色　焼土粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子微量
5　褐　　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量
9　褐　　色　ロームブロック微量
10　褐　　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
11　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片１点（甕），陶器片１点（甕），炉壁材 320 点（25273 ｇ），銭貨１点（至大通寶）が出土している。642・643 は覆土中からの出土である。DP135 ～ DP141 の炉壁材は全て炉床面から，崩れ落ちた状態で出土している。M 235 は北部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から室町時代と考えられる。炉壁材が崩れ落ちた状態で出土しているため，上部の構造は不明であるが，屋外窯の可能性がある。また，本跡周辺に柱穴状のピットは確認できなかった。隣接する第５号屋外炉と対を成していた可能性がある。



第 188 図　第１・５号屋外炉・第１号屋外炉出土遺物実測図



第 189 図　第 1 号屋外炉出土遺物実測図

第 1 号屋外炉出土遺物観察表（第 188・189 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
642	土師器	甕	－	(6.2)	－	長石・石英	黒褐	普通	体部下端横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	5％
643	陶器	甕	－	(8.0)	－	長石・石英	にぶい褐	良好	外・内面ナデ　常滑産	覆土中	5％

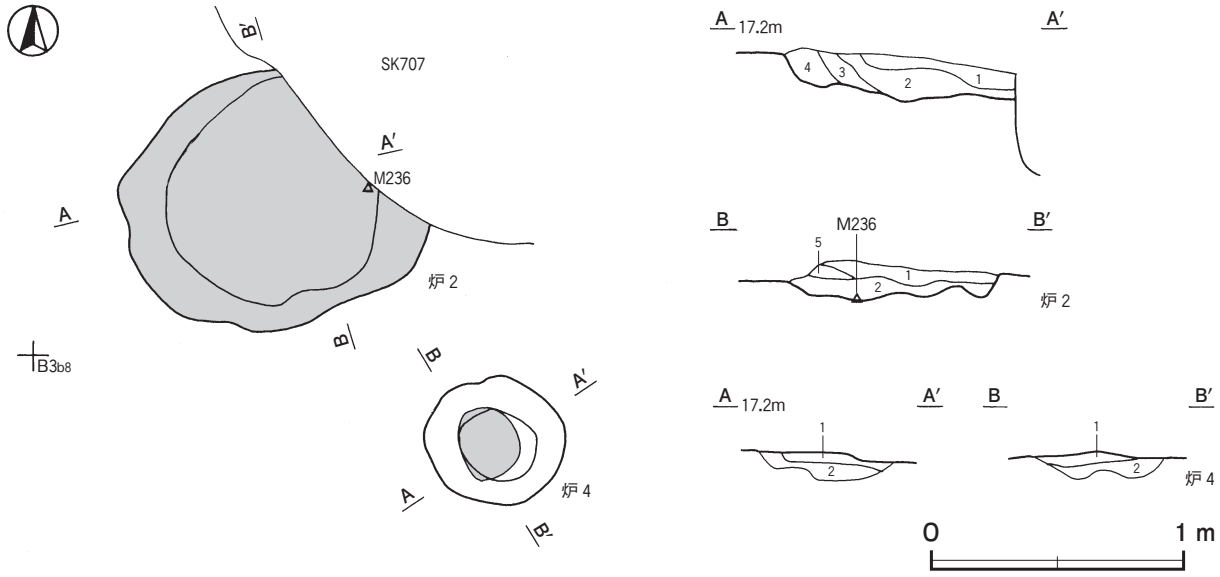
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
DP135	炉壁材	11.3	18.1	6.1	769.0	粘土	表面に竹の節目状の圧痕	覆土中層	PL48
DP136	炉壁材	14.9	14.0	7.7	886.0	粘土	表面に竹の節目状の圧痕	覆土中層	
DP137	炉壁材	11.8	12.8	6.0	536.0	粘土	表面に竹の節目状の圧痕	覆土中層	PL48
DP138	炉壁材	13.7	11.0	7.8	671.0	粘土	表面に工具によるナデ痕	覆土中層	
DP139	炉壁材	14.2	9.6	7.3	693.0	粘土	表面に工具によるナデ痕	覆土中層	
DP140	炉壁材	8.8	12.2	4.1	285.0	粘土	表面に竹の節目状の圧痕	覆土中層	
DP141	炉壁材	7.9	10.2	3.3	191.0	粘土	表面に竹の節目状の圧痕	覆土中層	

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 235	銭貨	至大通寶	2.38	0.74	3.40	銅	1310	元銭	覆土下層	

第２号屋外炉（第 190・191 図）

位置　調査区東部のＢ３a8 区，標高 17 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 707 号土坑に掘り込まれている。



第 190 図　第２・４号屋外炉実測図

規模と形状　北東部が第 707 号土坑に掘り込まれているため，北西・南東軸は 1.04 mで，北東・南西軸は 0.93 mしか確認できなかった。楕円形と推定でき，北東・南西軸方向はN－ 49°－Eである。確認面から炉床面までの深さは 18cmほどである。炉床面は浅い皿状で，凹凸がある。炉床面は火熱を受け赤変硬化している。

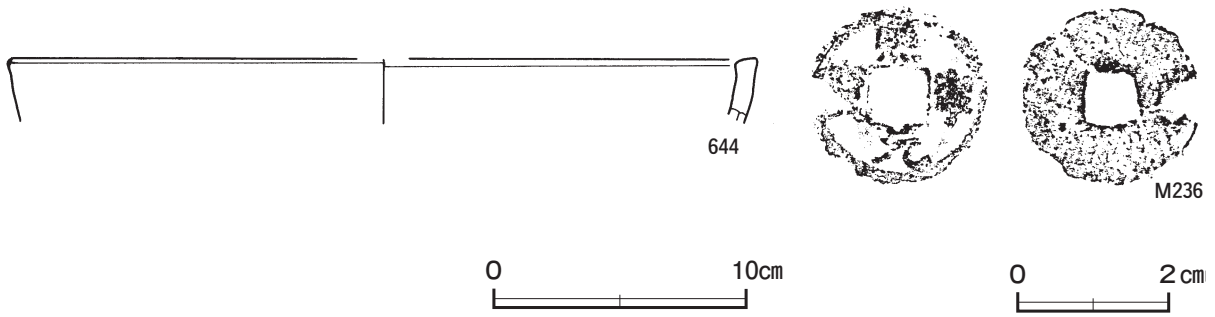
覆土　５層に分層できる。ブロック状の不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量
5　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　瓦質土器片２点（内耳鍋），炉壁材 94 点（3160 g），銭貨１点（熙寧元寳）が出土している。M 236 は東部の覆土下層から出土している。644 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から室町時代と考えられる。炉壁材が崩れ落ちた状態で出土しているため，上部の構造は不明であるが，屋外窯の可能性がある。また，本跡周辺に柱穴状のピットは確認できなかった。隣接する第４号屋外炉と対を成していた可能性がある。



第 191 図　第２号屋外炉出土遺物実測図

第２号屋外炉出土遺物観察表（第 191 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
644	瓦質土器	内耳鍋	［30.0］	（2.5）	－	長石・石英	黒褐	普通	外・内面ナデ	覆土中	5 %

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 236	銭貨	熙寧元寶	2.33	0.72	(1.58)	銅	1068	北宋銭	覆土下層	PL58

第３号屋外炉（第 192 図）

位置　調査区東部のＢ３b9 区，標高 17 mほどの平坦な台地上に位置している。

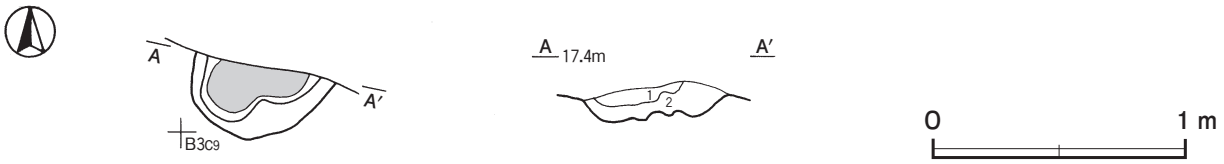
規模と形状　北部が削平されているため，東西軸は 0.52 mで，南北軸は 0.30 mしか確認できなかった。円形または楕円形と推測でき，確認面から炉床面までの深さは 10cmほどの地床炉である。炉床面は皿状で，凹凸がある。炉床面は赤変・硬化ともに弱い。

覆土　２層に分層できる。堆積状況は不明である。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量　　2　黒 赤 褐 色　焼土ブロック少量

所見　出土遺物がないため時期決定は困難であるが，第１・２・４・５号屋外炉と隣接しており，位置的にみて同時に機能していたと考えられることから，室町時代と考えられる。また，第１・５号屋外炉，第２・４号屋外炉がそれぞれ対を成して機能していた可能性があることから，本跡周辺の調査区域外に対を成す屋外炉があったと思われる。



第 192 図　第３号屋外炉実測図

第４号屋外炉（第 190 図）

位置　調査区東部のＢ３b8 区，標高 17 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径 0.56 m，短径 0.50 mの円形で，確認面から炉底までの深さが 12cmほどの地床炉である。炉底はやや凹凸があり，炉床面は平坦である。炉床面は第１層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。

覆土　全て炉床部の構築土である。

土層解説

1　赤　褐　色　焼土ブロック多量　　2　にぶい赤褐色　焼土粒子少量

所見　出土遺物がないため時期決定は困難であるが，第２号屋外炉と隣接し同時期に使用されていたと考えられることから，時期は室町時代であると考えられる。また，本跡周辺に柱穴状のピットが確認できなかった。隣接する第２号屋外炉と対を成していた可能性がある。

第５号屋外炉（第 188 図）

位置　調査区東部のＢ３a8 区，標高 17 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径，短径ともに 0.28 mの不整円形である。確認面から炉底までの深さは５cmほどの地床炉である。炉底は皿状で，炉床面には凹凸がある。炉床面は第３層上面で，赤変・硬化ともに弱い。

覆土　全て炉床部の構築土である。

土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子多量
2　極暗赤褐色　焼土ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子中量

所見　出土遺物がないため時期決定は困難であるが，第１号屋外炉と隣接し同時期に使用されていたと考えられることから，時期は室町時代と考えられる。また，本跡周辺に柱穴状のピットが確認できなかった。隣接する第１号屋外炉と対を成していた可能性がある。

表 15　室町時代屋外炉一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		炉床面	炉底	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	B 3j8	N－74°－E	楕円形	1.37　×　0.96	12	凹凸	－	人為	土師器片，陶器片，銭貨	
2	B 3a8	N－49°－E	［楕円形］	(0.93)　×　1.04	18	皿状	－	人為	瓦質土器片，銭貨	本跡→SK707
3	B 3b9	－	［円形･楕円形］	0.52　×　(0.30)	10	皿状	凹凸	－	－	
4	B 3b8	－	円形	0.56　×　0.50	12	平坦	凹凸	－	－	
5	B 3a8	－	不整円形	0.28　×　0.28	5	凹凸	皿状	－	－	

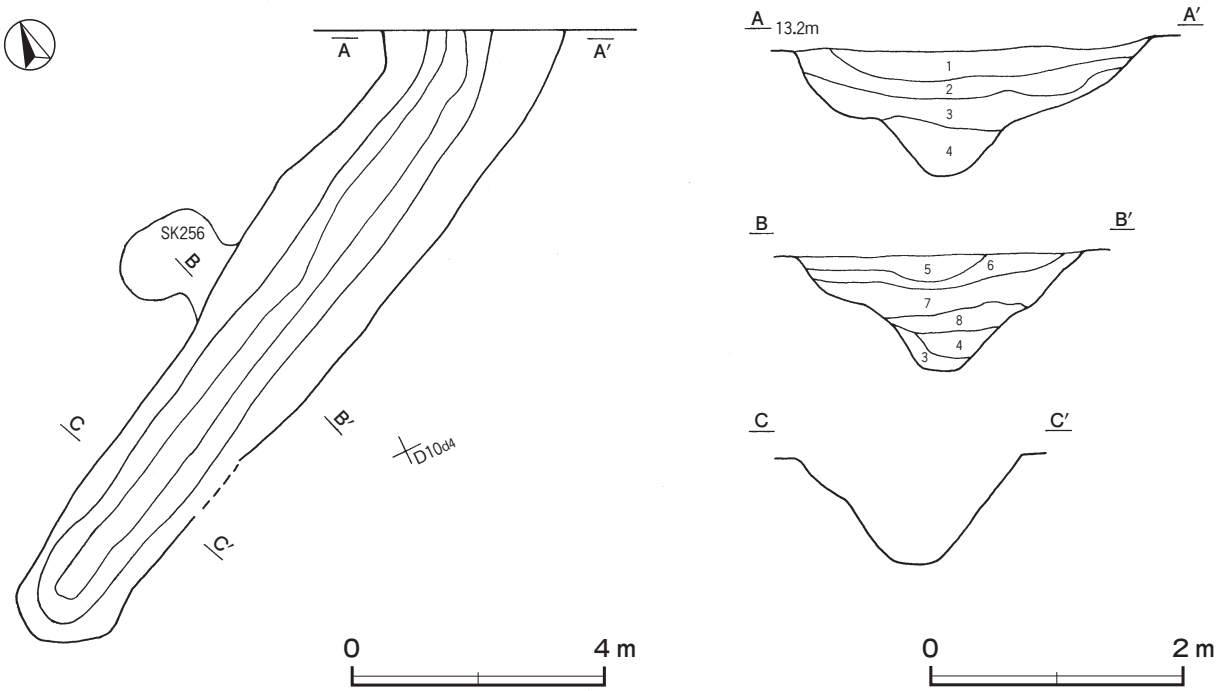
(7)　堀跡

第１号堀跡（第 193・194 図）

位置　調査区東部のＤ 10b4 ～Ｄ 10d2 区，標高 13 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 256 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　北東部が調査区外へ延びているため，長さは 12.0 mしか確認できなかった。Ｂ 10d2 区から北東方向（Ｎ－ 62°－Ｅ）に直線的に延び，上幅 1.60 ～ 2.56 m，下幅 0.14 ～ 0.28 m，深さ 86 ～ 130cmである。底



第 193 図　第１号堀跡実測図

面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。底面は南西部が最も高く，北東部に行くに従って28cmほど低くなっている。

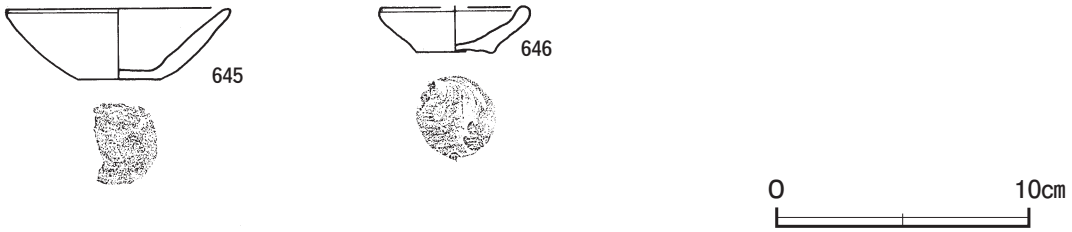
覆土　８層に分層できる。ロームブロックや鹿沼パミス粒子を含み，ブロック状の不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼パミス粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子･鹿沼パミス粒子･粘土粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼パミス粒子少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼パミス粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片22点（小皿２，焙烙20），石製品１点（板碑）のほか，土師器片２点（坏，甕），須恵器片２点（甕類），鉄滓７点（74.1 g）が，覆土中層から下層にかけて出土している。645・646は覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から16世紀前半と考えられる。



第194図　第１号堀跡出土遺物実測図

第１号堀跡出土遺物観察表（第194図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
645	土師質土器	小皿	8.8	2.8	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	底部回転糸切り後ナデ　ロクロナデ	覆土中層	50%　PL42
646	土師質土器	小皿	[5.8]	1.8	3.0	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り　ロクロナデ	覆土中層	60%　PL42

6　江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴遺構１基，掘立柱建物跡１棟，墓坑46基，粘土貼土坑15基，炉跡１基，溝跡６条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

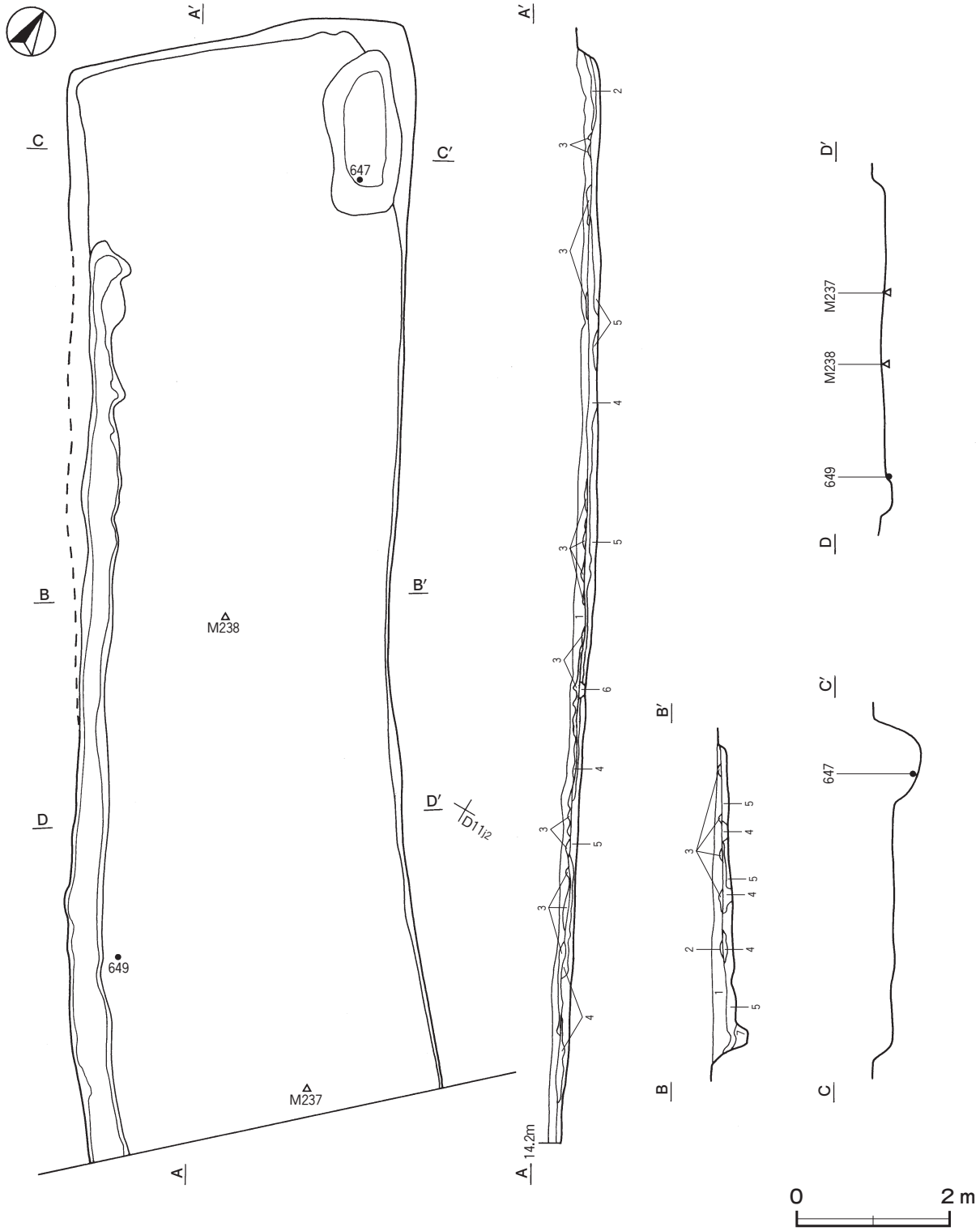
(1)　竪穴遺構

第13号竪穴遺構（第195・196図）

位置　調査区東部のＤ 10h9 ～Ｄ 11j2 区，標高14 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　南東部が調査区域外へ延びているため，短軸は4.70 mで，長軸は14.05 mしか確認できなかった。長大な長方形と推測でき，長軸方向はＮ－ 33°－Ｗである。壁高は25 ～ 40cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で全面が踏み固められている。北東コーナー部に，長軸2.13 m，短軸0.93 m，深さ37cmほどで不整形の掘り込みを確認した。また，南西壁際には，幅0.53 m，深さ13cmの溝がある。



第 195 図　第 13 号竪穴遺構実測図

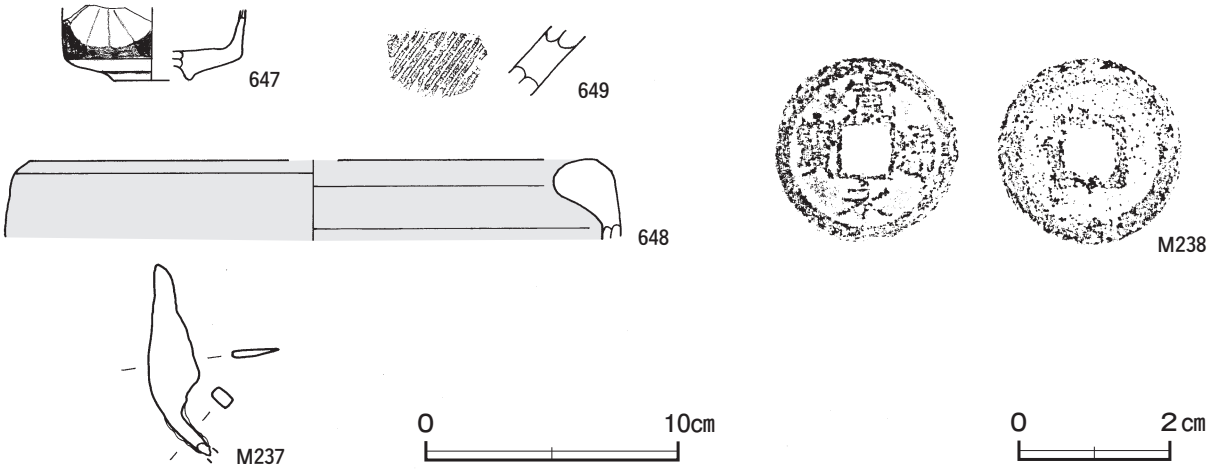
覆土　7 層に分層できる。多くの層にロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・黄色粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　黄色粘土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
6　灰　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
7　黄　褐　色　黄色粘土ブロック多量

遺物出土状況　陶器片 23 点（鉢１，擂鉢１，甕類 21），磁器片４点（碗），土師質土器片１点（小皿），瓦質土器片４点（鍋），石製品１点（板碑），鉄製品１点（鋏），銭貨１点（寛永通寶）のほか，土師器片 75 点（坏 14，高坏１，鉢１，甕類 59），須恵器片 17 点（坏 12，甕類５），鉄滓 29 点（386.8 ｇ），炉内滓２点（55.7 ｇ）が全域の覆土上層から覆土下層にかけて出土している。647 は北東コーナー部の掘り込みの覆土下層から出土している。649 は南部の西壁際，M 238 は中央部，M 237 は南部の中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。648 は覆土中から出土している。

所見　ピットが確認できなかったため上屋構造は不明であるが，墓坑に隣接する位置にあることから，墓坑に関連する施設であった可能性がある。時期は，出土遺物から 18 世紀と考えられる。北東コーナ部の掘り込みと南西壁際の溝の性格は不明である。



第 196 図　第 13 号竪穴遺構出土遺物実測図

第 13 号竪穴遺構出土遺物観察表（第 196 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
647	磁器	碗	－	(2.8)	[3.0]	緻密	灰白	良好	染付	覆土下層	20% 肥前系
648	陶器	鉢	[22.6]	(3.2)	－	長石	暗赤褐	良好	鉄釉	覆土中	５％ 瀬戸美濃系
649	陶器	擂鉢	－	(2.8)	－	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい赤褐	良好	10 条１単位の擂目	覆土下層	５％ 瀬戸美濃系

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 237	鋏	(7.8)	(2.5)	(0.8)	(20.6)	鉄	刃部断面三角形	覆土下層	

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 238	銭貨	寛永通寶	2.44	0.58	3.51	銅	1636	古寛永	覆土下層	PL58

(2)　掘立柱建物跡

第 16 号掘立柱建物跡（第 197 図）

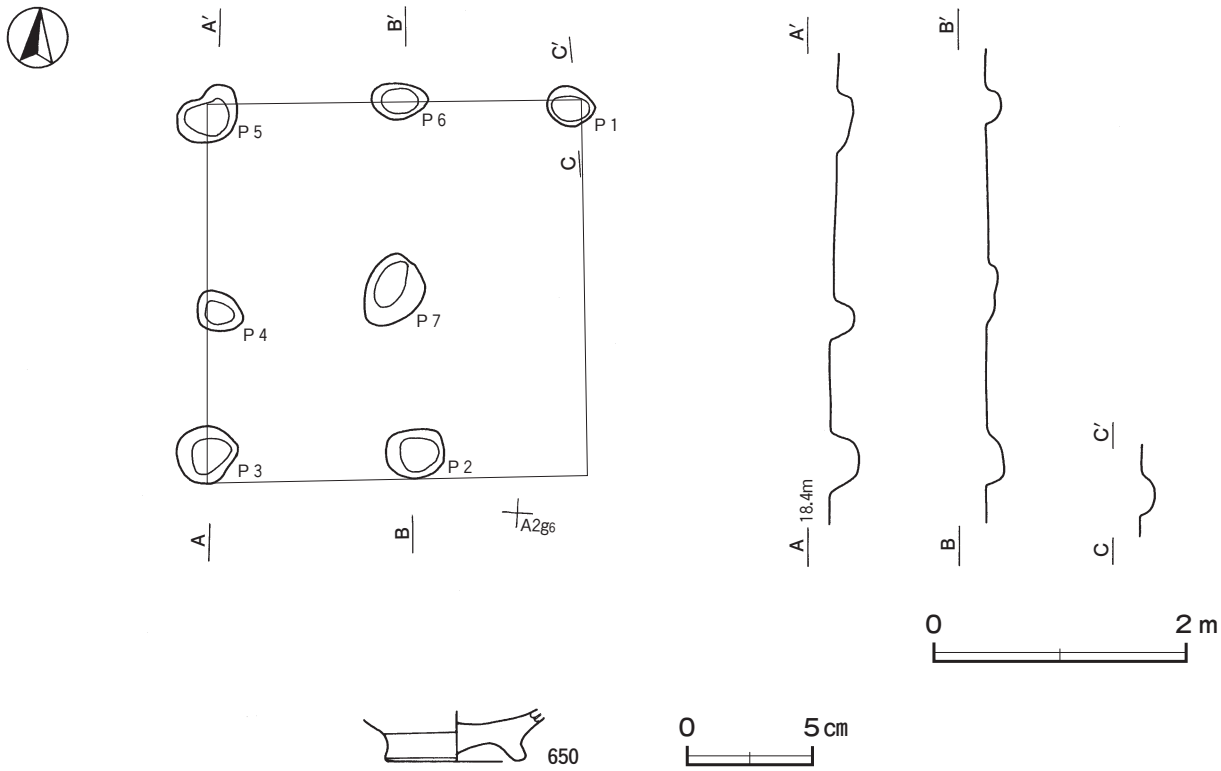
位置　調査区西部のＡ２f5 区，標高 18 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造　南東部の柱穴が確認できなかったが，桁行，梁行ともに２間の総柱建物跡と推定でき，桁行方向はＮ－４°－Ｗの南北棟である。規模は桁行，梁行ともに 3.00 ｍで，面積は 9.00㎡である。柱間寸法は，1.5 ｍ（５尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　7か所。平面形は楕円形または不定形で，長径40～60cm，短径30～46cmである。深さは10～22cmで，掘方の断面はU字状である。覆土は，炭化粒子を含む暗褐色土で全て単一層である。

遺物出土状況　650がＰ２の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から江戸時代と推定できる。本跡の東側及び北側に位置する第53・54号溝跡は区画溝と考えられ，本跡はその区画内の妙光寺後という小字内に位置している。本跡の東妻及び北平が，第53・54号溝跡とほぼ並行する位置関係にあることから，本跡は妙光寺に関連する施設だった可能性がある。



第197図　第16号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

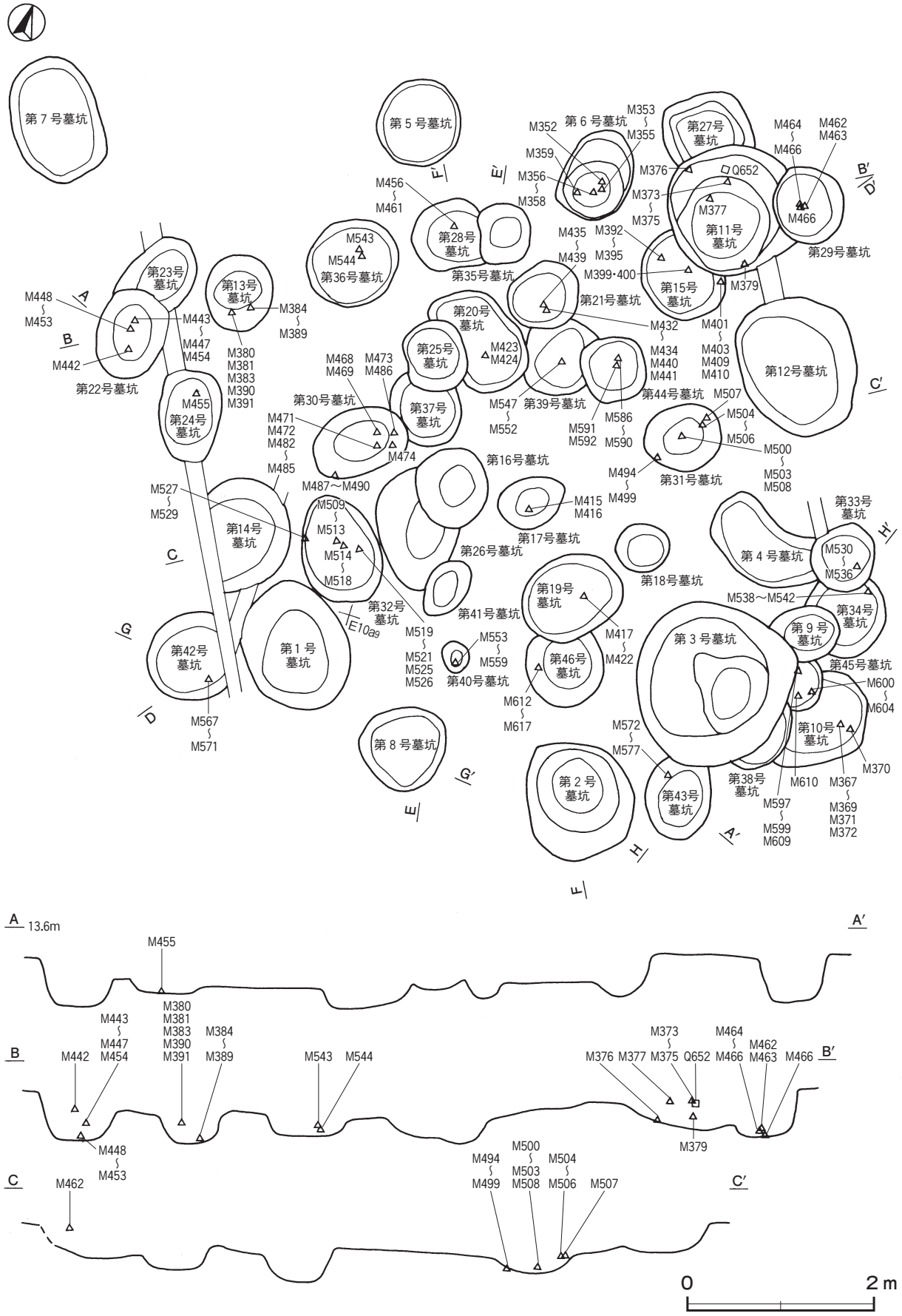
第16号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第197図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
650	磁器	碗	－	(2.0)	[5.4]	緻密	灰白	良好	透明釉	Ｐ２覆土中	10%

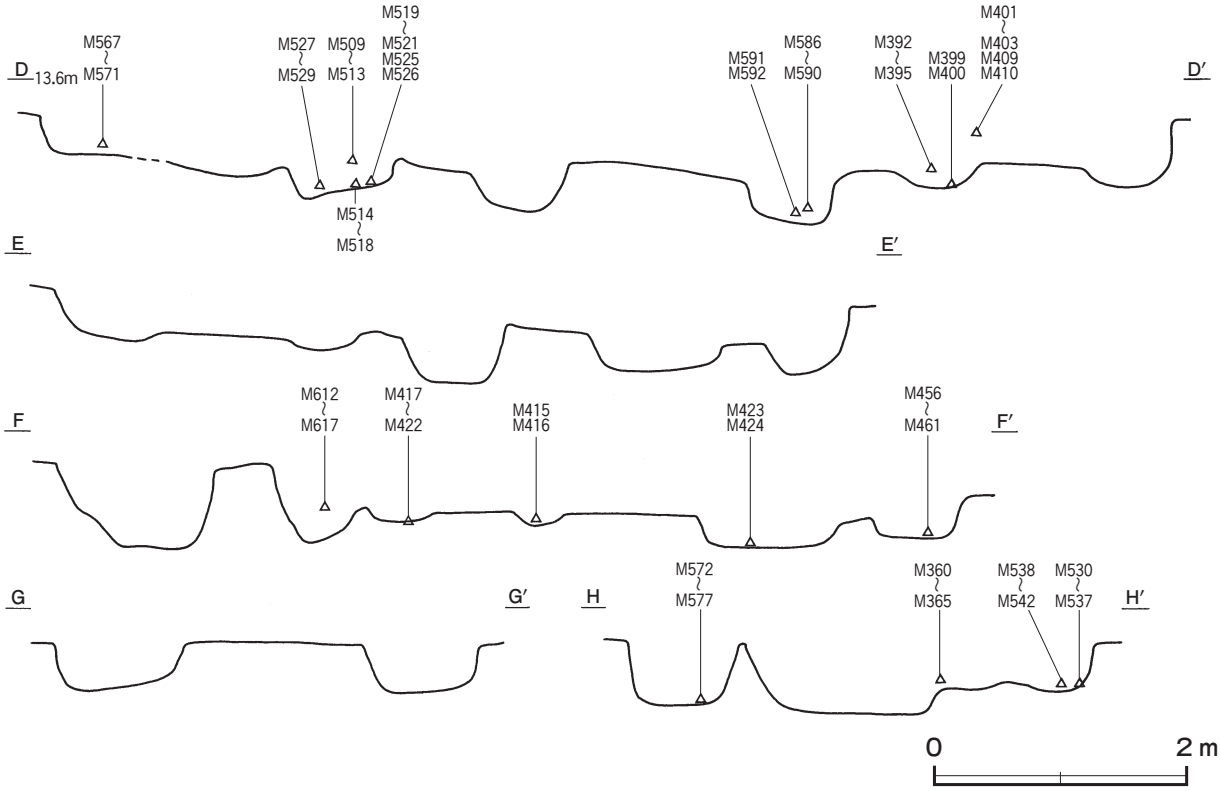
(3)　墓坑

確認した墓坑46基は，全て調査区東部のＤ10i7区からＥ10a0区にかけての範囲に位置しているため，遺構実測図（第198・199図）は一括して掲載する。人骨や主な遺物が出土している８基については文章で解説し，その他の墓坑及び出土遺物（第212～219図）については，一覧表と観察表を掲載する。また，出土した銭貨のうち，融着しているものは可能な限り剥離したが，剥離できなかったものは一括して計測した。

遺物観察表の寛永通寶の初鋳年については，古寛永は1636（寛永13）年とした。新寛永については，背「文」銭は1668（寛文８）年，背「元」銭は1741（寛保元）年，背「長」銭は1767（明和４）年とした。その他の新寛永は，全て1697（元禄10）年に統一した。



第 198 図　墓坑実測図(1)



第 199 図　墓坑実測図(2)

第 1 号墓坑（第 200・201 図）

位置　調査区東部のＥ 10a8 区，標高 13 mほどの平坦な台地上に位置している。

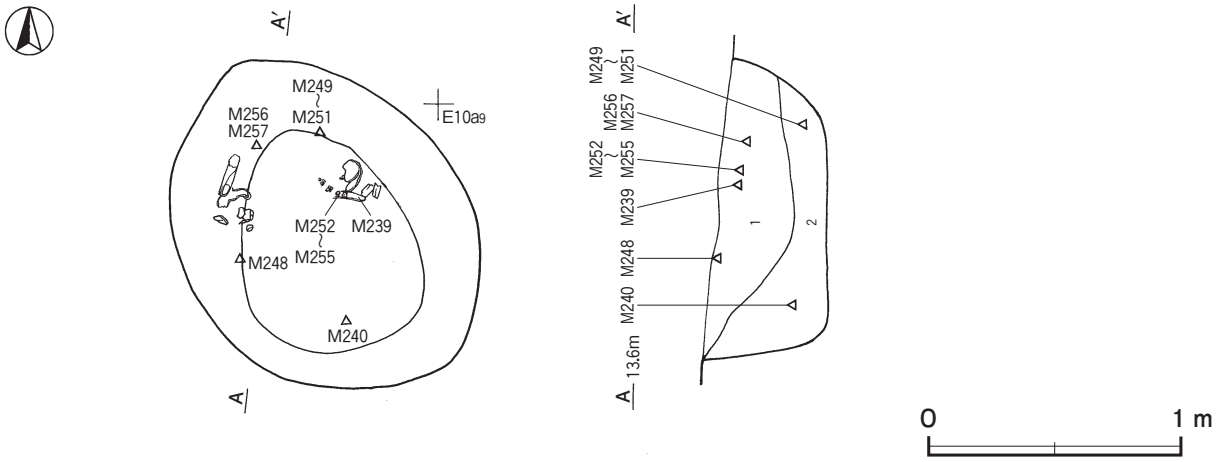
規模と形状　長径 1.44 m，短径 1.12 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 38°－Ｗである。深さは 48cmで，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　褐 暗 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子少量　　2　褐　　色　ローム粒子中量

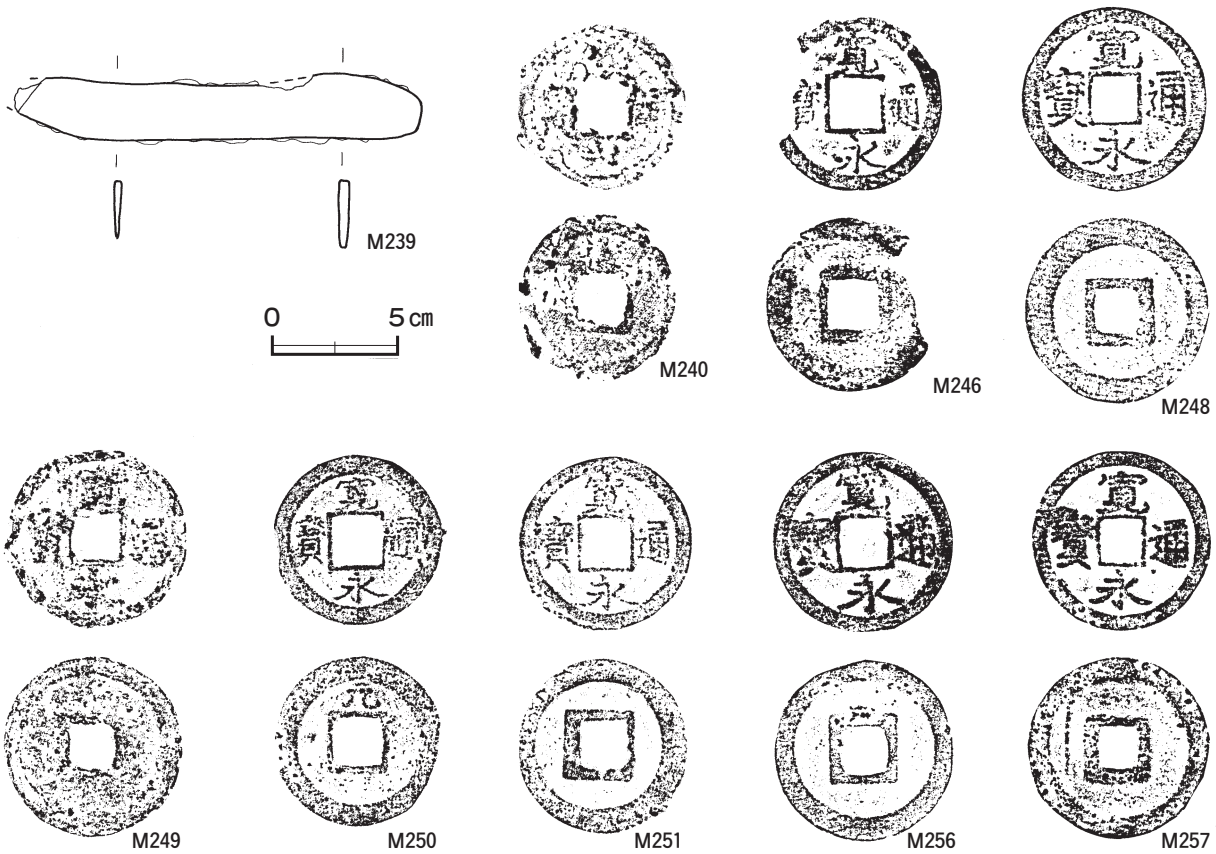
遺物出土状況　銭貨 18 点（寛永通寶８，不明 10），鉄製品１点（小刀），人骨が出土している。M 249 ～



第 200 図　第１号墓坑実測図

M 251 は北部の覆土下層から融着した状態で出土している。M 240 は南部の覆土下層から出土している。M 252 ～M 255 は中央部の人骨付近，M 256・257 は北部の覆土上層から融着した状態で出土している。M 239 は中央部の人骨付近の覆土上層から出土している。M 248 は西部の覆土上層から出土している。M 241 ～M 247 は覆土中から融着した状態で出土している。人骨は頭骨と大腿骨が西部から，頭骨が中央部から出土している。

所見　時期は，M 241 ～M 245 が鉄銭の可能性が高いことから，18 世紀中葉以降に比定できる。頭骨が２体分出土しており，土層に掘り起こした状況が見られないことから，２体同時に埋葬されたと考えられる。埋葬形態は，遺構の形状や頭骨と大腿骨の出土位置が近いことから，座位であったと推測できる。



第 201 図　第１号墓坑出土遺物実測図［銭貨は原寸大］

第１号墓坑出土遺物観察表（第 201 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 239	小刀	(16.2)	2.6	0.4	(53.3)	鉄	刃部断面三角形　茎部断面長方形	覆土上層	PL53

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 240	銭貨	寛永通寶	2.15	0.64	1.74	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 241	銭貨	不明	－	－		鉄$_{カ}$	－		覆土中	計測のみ
M 242	銭貨	不明	－	－		鉄$_{カ}$	－		覆土中	計測のみ
M 243	銭貨	不明	－	－	14.78	鉄$_{カ}$	－	融着により剥離不能	覆土中	計測のみ
M 244	銭貨	不明	－	－		鉄$_{カ}$	－		覆土中	計測のみ
M 245	銭貨	不明	－	－		鉄$_{カ}$	－		覆土中	計測のみ
M 246	銭貨	寛永通寶	2.30	0.65	(1.18)	銅	1697	新寛永	覆土中	

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 247	銭貨	不明	2.49	0.66	(1.38)	銅	−		覆土中	計測のみ
M 248	銭貨	寛永通寶	2.43	0.57	2.55	銅	1636	古寛永	覆土上層	PL58
M 249	銭貨	寛永通寶	2.43	0.60	2.20	銅	1636	古寛永	覆土下層	
M 250	銭貨	寛永通寶	2.27	0.68	1.88	銅	1741	新寛永　背「元」	覆土下層	
M 251	銭貨	寛永通寶	2.33	0.63	2.20	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 252	銭貨	不明	2.30	0.33	2.63	銅	−		覆土上層	計測のみ
M 253	銭貨	不明	2.33	0.46	(2.22)	銅	−		覆土上層	計測のみ
M 254	銭貨	不明	−	−	4.64	鉄カ	−	融着により剥離不能	覆土上層	計測のみ
M 255	銭貨	不明	−	−		鉄カ	−		覆土上層	計測のみ
M 256	銭貨	寛永通寶	2.41	0.60	2.84	銅	1636	古寛永	覆土上層	
M 257	銭貨	寛永通寶	2.42	0.55	4.46	銅	1636	古寛永	覆土上層	PL58

第３号墓坑（第 202・203 図）

位置　調査区東部のＤ 10j9 区，標高 13 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第９・38・43・45 号墓坑を掘り込んでいる。

規模と形状　径 1.76 mの円形で，深さは 52cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

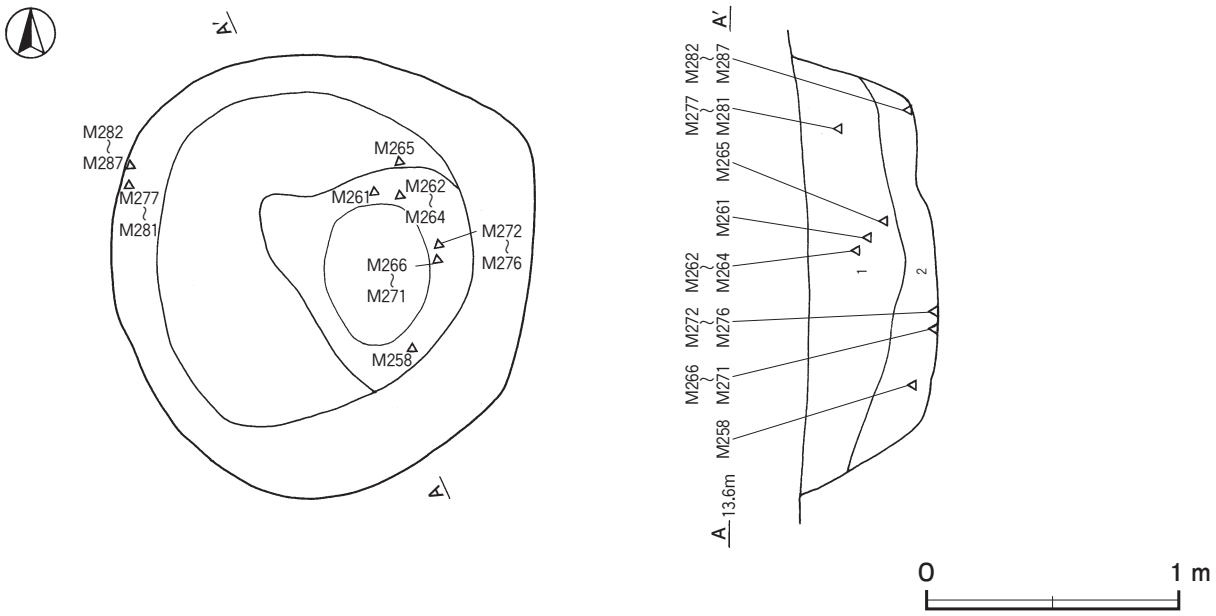
覆土　２層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

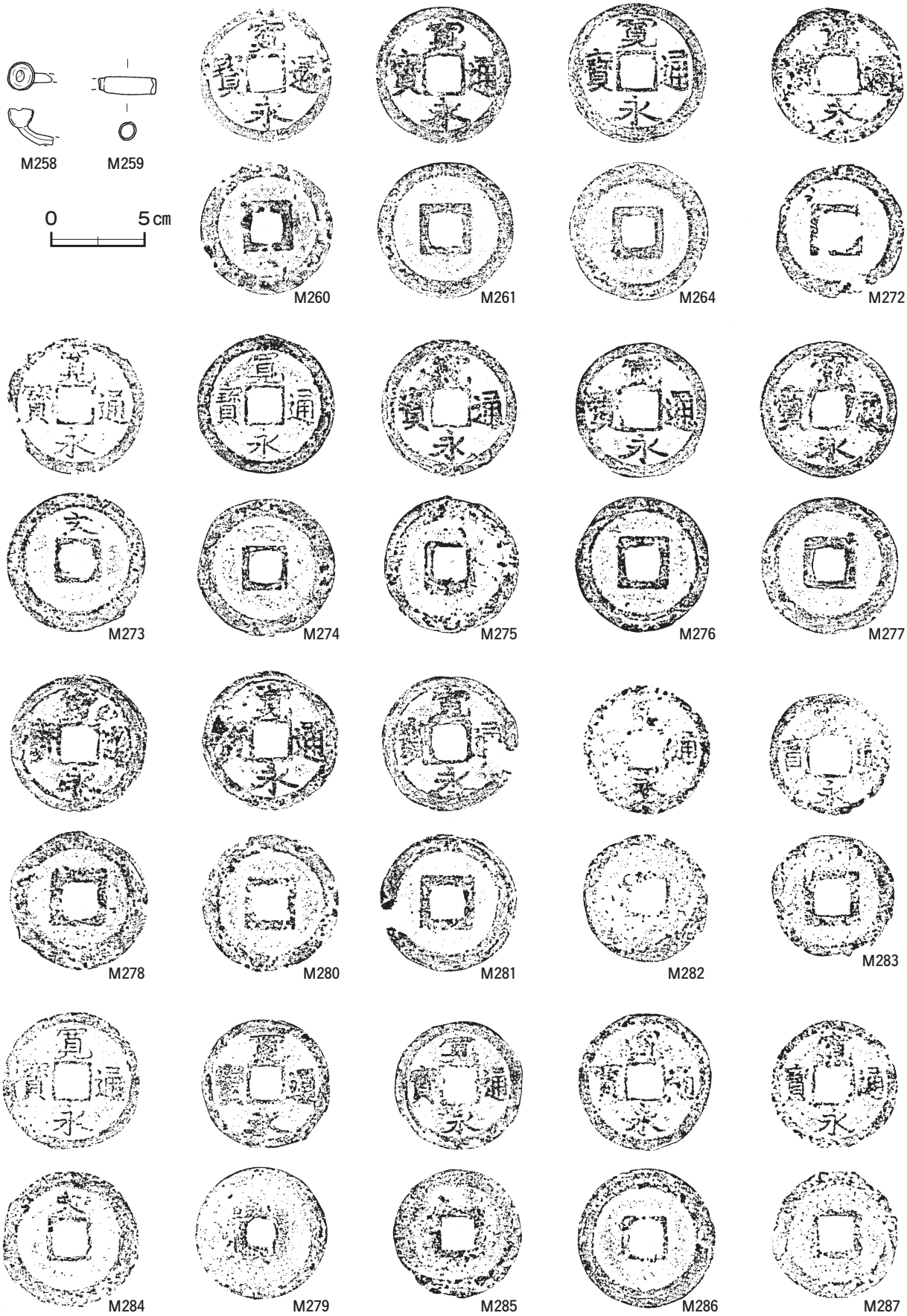
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック・炭化物微量　　2　褐　灰　色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量

遺物出土状況　磁器片１点（碗），銅製品２点（煙管），銭貨 28 点（寛永通寶 23，不明５），ガラス製品１点（不明）が覆土中層から下層にかけて出土している。M 272 ～M 276，M 266 ～M 271 は東壁際，M 282 ～M 287 は西壁際の覆土下層から融着した状態で出土している。M 277 ～M 281 は西壁際，M 262 ～M 264 は中央部の覆土中層から融着した状態で出土している。M 258 は南東部の覆土下層から，M 261・M 265 は中央部の覆土中層から，M 259・M 260 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土遺物から 18 世紀以降に比定できる。人骨は遺存していなかったが，出土遺物から墓坑とみられる。



第 202 図　第３号墓坑実測図



第 203 図　第３号墓坑出土遺物実測図［銭貨は原寸大］

第３号墓坑出土遺物観察表（第 203 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 258	煙管	(2.4)	(1.9)	1.5	(2.6)	銅	雁首部	覆土下層	PL55
M 259	煙管	(3.2)	0.9	0.9	(3.2)	銅	吸口部　端部欠損　羅宇残存	覆土中	PL55

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 260	銭貨	寛永通寶	2.37	0.54	2.35	銅	1636	古寛永	覆土中	
M 261	銭貨	寛永通寶	2.44	0.57	3.11	銅	1636	古寛永	覆土中層	
M 262	銭貨	寛永通寶	2.51	0.57	7.63	銅	1697	新寛永	覆土中層	計測のみ
M 263	銭貨	寛永通寶				銅	1668	新寛永　背「文」	覆土中層	計測のみ
M 264	銭貨	寛永通寶	2.50	0.57	3.07	銅	1636	古寛永	覆土中層	PL58
M 265	銭貨	寛永通寶	－	－	(1.53)	銅	1697	新寛永	覆土中層	計測のみ
M 266	銭貨	寛永通寶	2.52	0.50	4.86	銅	－	判別不能	覆土下層	計測のみ
M 267	銭貨	不明				銅	－		覆土下層	計測のみ
M 268	銭貨	不明	2.53	0.53	11.48	銅	－	融着により剥離不能	覆土下層	計測のみ
M 269	銭貨	不明				銅	－		覆土下層	計測のみ
M 270	銭貨	不明				銅	－		覆土下層	計測のみ
M 271	銭貨	不明				銅	－		覆土下層	計測のみ
M 272	銭貨	寛永通寶	2.37	0.64	1.88	銅	1636	古寛永	覆土下層	
M 273	銭貨	寛永通寶	2.46	0.57	2.22	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土下層	
M 274	銭貨	寛永通寶	2.50	0.56	3.83	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土下層	PL58
M 275	銭貨	寛永通寶	2.43	0.58	2.74	銅	1636	古寛永	覆土下層	
M 276	銭貨	寛永通寶	2.40	0.58	3.45	銅	1636	古寛永	覆土下層	
M 277	銭貨	寛永通寶	2.46	0.54	3.40	銅	1636	古寛永	覆土中層	
M 278	銭貨	寛永通寶	2.48	0.58	2.66	銅	1636	古寛永	覆土中層	
M 279	銭貨	寛永通寶	2.36	0.50	4.09	銅	1636	古寛永	覆土中層	
M 280	銭貨	寛永通寶	2.48	0.59	3.03	銅	1636	古寛永	覆土中層	
M 281	銭貨	寛永通寶	2.40	0.59	(2.98)	銅	1636	古寛永	覆土中層	
M 282	銭貨	寛永通寶	2.24	0.55	2.41	銅	－	判別不能	覆土下層	
M 283	銭貨	寛永通寶	2.21	0.61	(2.13)	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 284	銭貨	寛永通寶	2.47	0.58	2.80	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土下層	PL58
M 285	銭貨	寛永通寶	2.29	0.58	2.35	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 286	銭貨	寛永通寶	2.48	0.58	3.30	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 287	銭貨	寛永通寶	2.24	0.64	1.95	銅	1697	新寛永	覆土下層	

第４号墓坑（第 204 図）

位置　調査区東部のＤ 10j0 区，標高 13 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 33 号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 1.30 m，短軸 0.66 mの不定形で，長軸方向はＮ－ 70°－Ｗである。深さは 32㎝で，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　単一層である。骨粉が含まれており，一括して埋め戻されている。

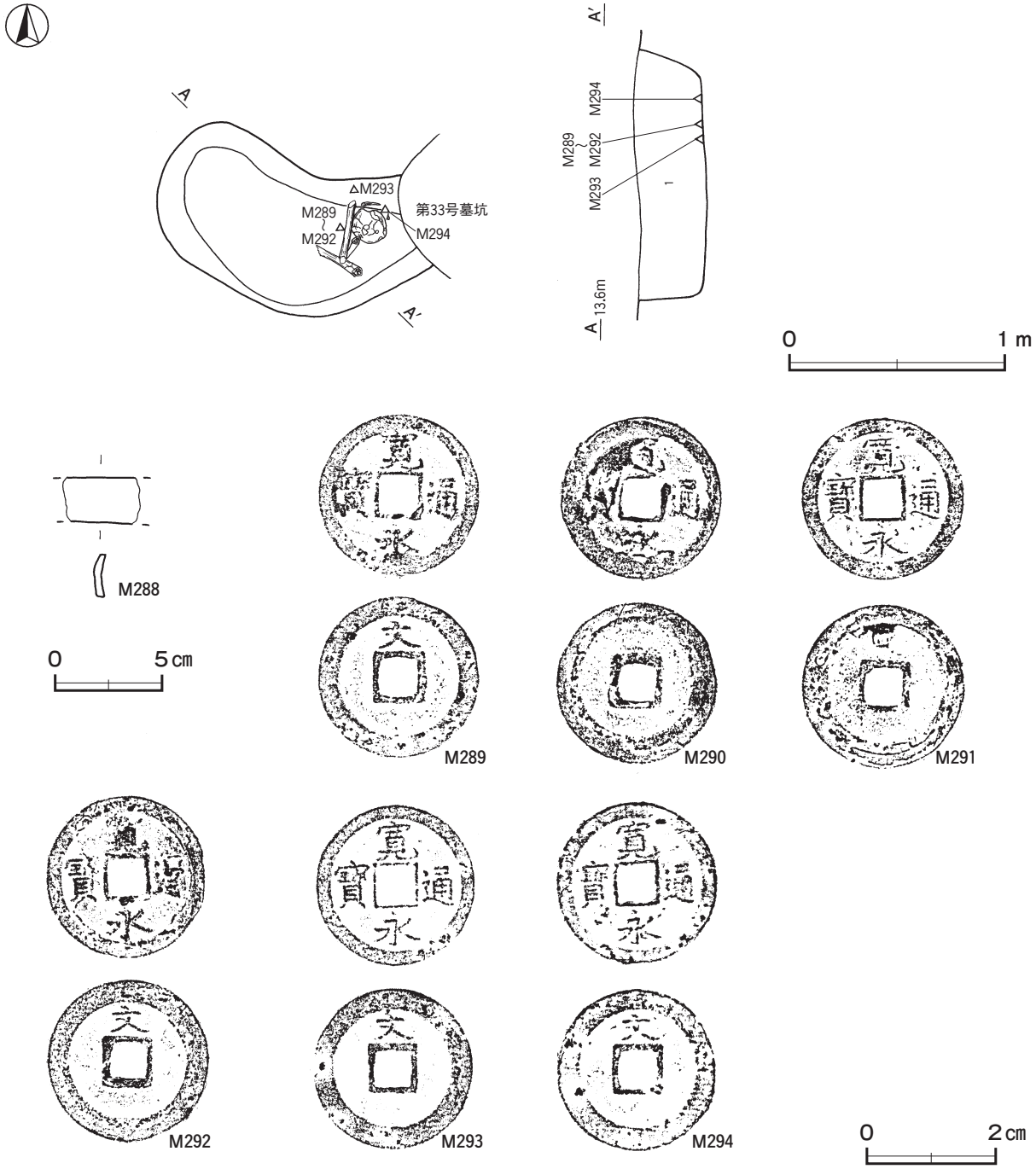
土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，骨粉少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　鉄製品１点（不明），銭貨６点（寛永通寶），ガラス製品１点（不明）が出土している。M 289 ～M 292 は人骨周辺の覆土下層から融着した状態で出土している。M 293 は北壁際，M 294 は人骨周辺の覆土

下層からそれぞれ出土している。M 288 は覆土中から出土している。頭骨と大腿骨が東部から出土している。

所見　時期は，出土遺物から 18 世期以降に比定できる。埋葬形態は，遺構の形状や頭骨と大腿骨の出土位置が近いことから，座位であったと推測できる。



第 204 図　第 4 号墓坑・出土遺物実測図

第 4 号墓坑出土遺物観察表（第 204 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 288	不明鉄製品	(3.7)	(2.2)	0.4	(9.9)	鉄	断面やや彎曲	覆土中	

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 289	銭貨	寛永通寶	2.51	0.58	3.77	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土下層	
M 290	銭貨	寛永通寶	2.51	0.58	3.96	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 291	銭貨	寛永通寶	2.51	0.57	3.42	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 292	銭貨	寛永通寶	2.48	0.54	3.95	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土下層	
M 293	銭貨	寛永通寶	2.48	0.56	3.59	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土下層	PL58
M 294	銭貨	寛永通寶	2.49	0.58	2.47	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土下層	PL58

第 12 号墓坑（第 205・206 図）

位置　調査区東部のＤ 10i9 区，標高 13 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径 1.53 m，短径 1.25 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 37°－Ｗである。深さは 41cmで，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

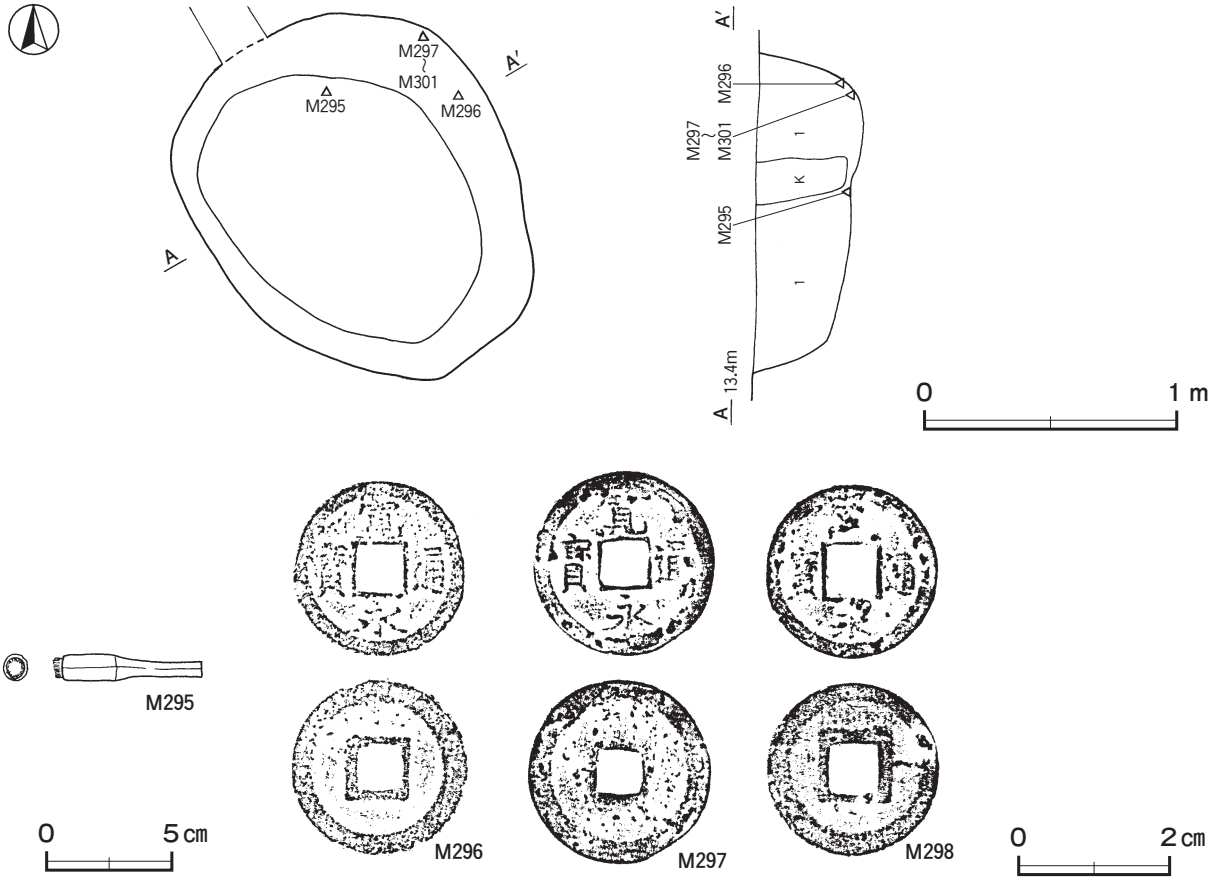
覆土　単一層である。一括して埋め戻されている。

土層解説

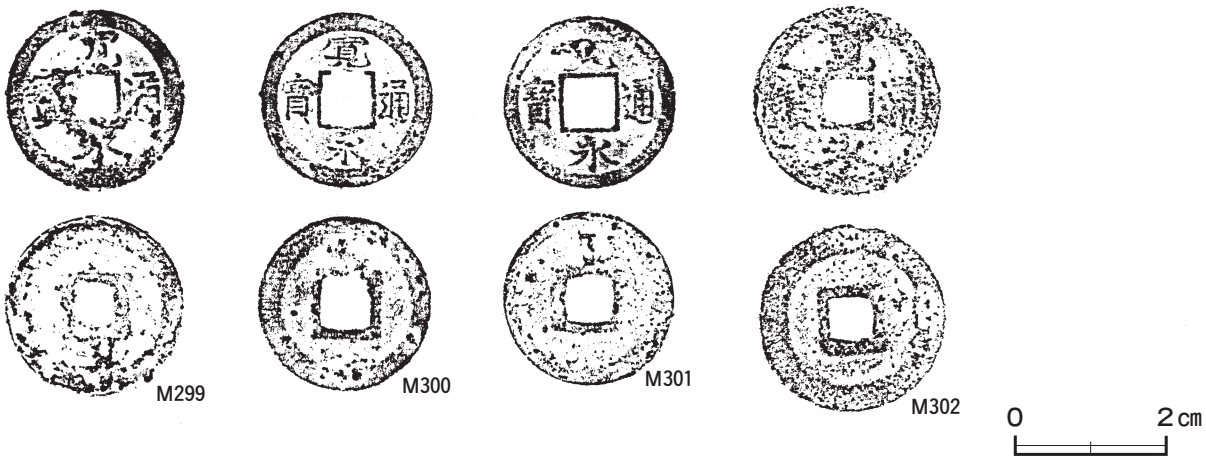
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　銅製品１点（煙管），銭貨７点（寛永通寶）が出土している。M 297 ～M 301 は，北東壁際の覆土下層から融着した状態で出土している。M 295 は北部，M 296 は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。M 302 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から 18 世紀以降に比定できる。人骨は遺存していなかったが，出土遺物から墓坑とみられる。



第 205 図　第 12 号墓坑・出土遺物実測図



第 206 図　第 12 号墓坑出土遺物実測図

第 12 号墓坑出土遺物観察表（第 205・206 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 295	煙管	(5.9)	1.1	1.0	(6.8)	銅	吸口部　羅宇残存	覆土下層	PL55

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 296	銭貨	寛永通寶	2.31	0.59	2.90	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 297	銭貨	寛永通寶	2.43	0.58	3.57	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 298	銭貨	寛永通寶	2.29	0.65	2.56	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 299	銭貨	寛永通寶	2.37	0.52	4.01	銅	1636	古寛永	覆土下層	
M 300	銭貨	寛永通寶	2.30	0.70	2.12	銅	1697	新寛永	覆土下層	PL58
M 301	銭貨	寛永通寶	2.26	0.62	2.83	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 302	銭貨	寛永通寶	2.46	0.55	3.09	銅	1636	古寛永	覆土中	

第 14 号墓坑（第 207・208 図）

位置　調査区東部のＤ 10j8 区，標高 13 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　西部が削平されているため，長径は 1.23 mで，短径は 0.88 mしか確認できなかったが，円形と推測できる。深さは 22㎝で，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

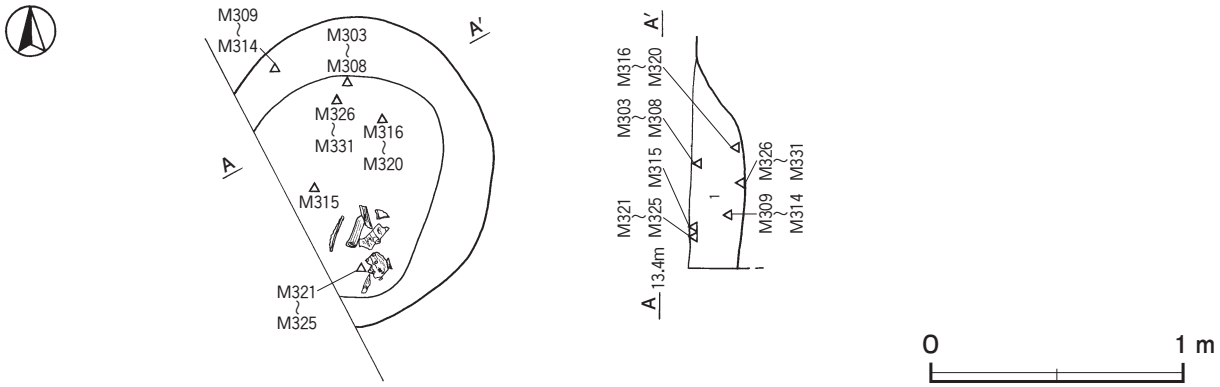
覆土　単一層である。一括して埋め戻されている。

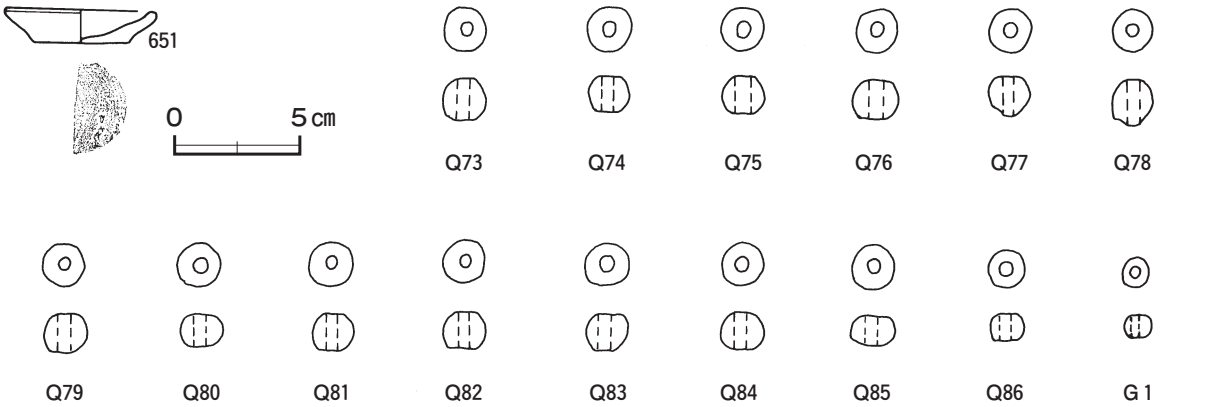
土層解説

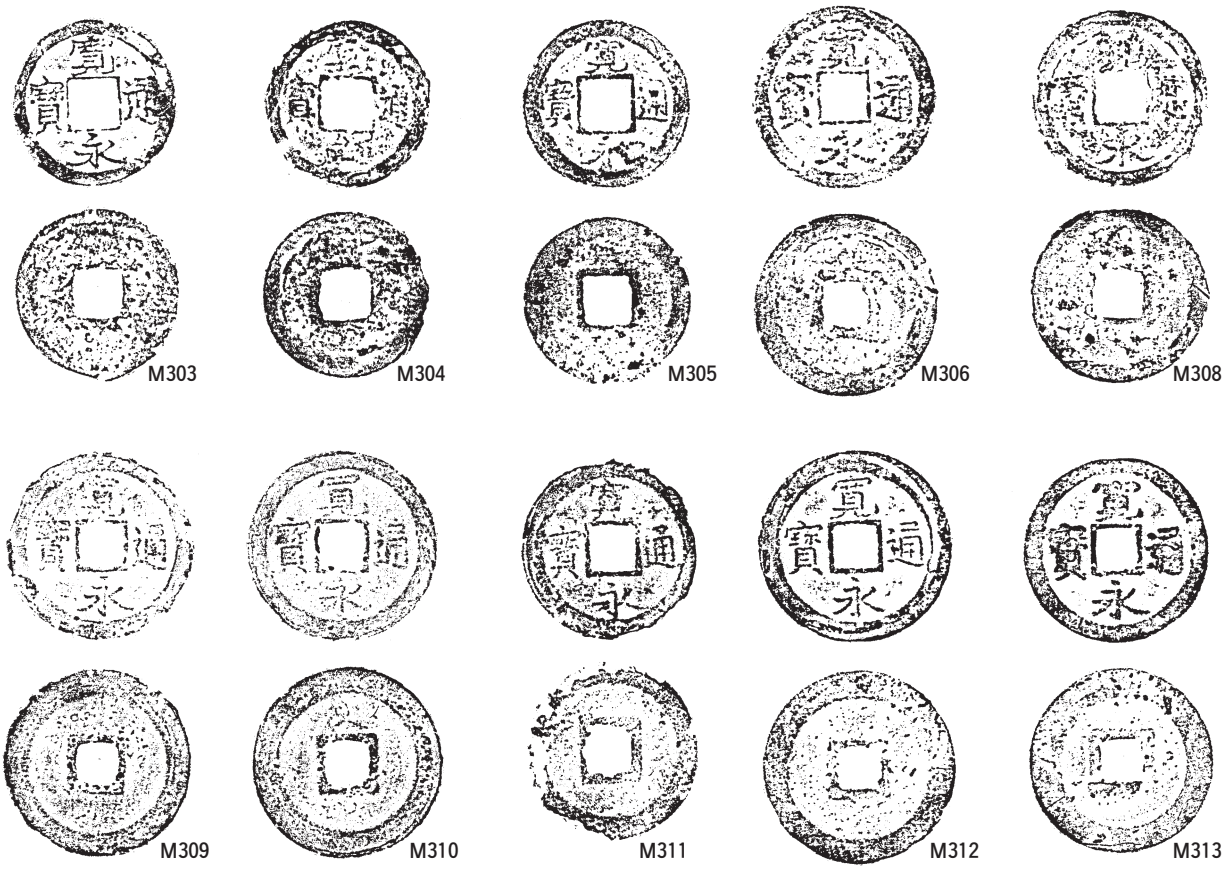
1　暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　陶器片２点（碗・天目茶碗），磁器片２点（碗），土師質土器片８点（小皿），石製品 22 点（数珠玉 15，板碑片７），銭貨 29 点（寛永通寶 28・不明１）が出土している。M 326 ～M 331 は北部の底面から融着した状態で出土している。M 316 ～M 320 は中央部の覆土下層から，M 309 ～M 314 は北壁際の覆土中層から，M 303 ～M 308 は北部の覆土上層から融着した状態で出土している。M 321 ～M 325 は南部の人骨付近の覆土上層から融着した状態で出土している。M 315 は中央部の覆土上層から，651・Q 73 ～Q 86・G 1 は覆土中からそれぞれ出土している。頭骨と大腿骨が南部から出土している。

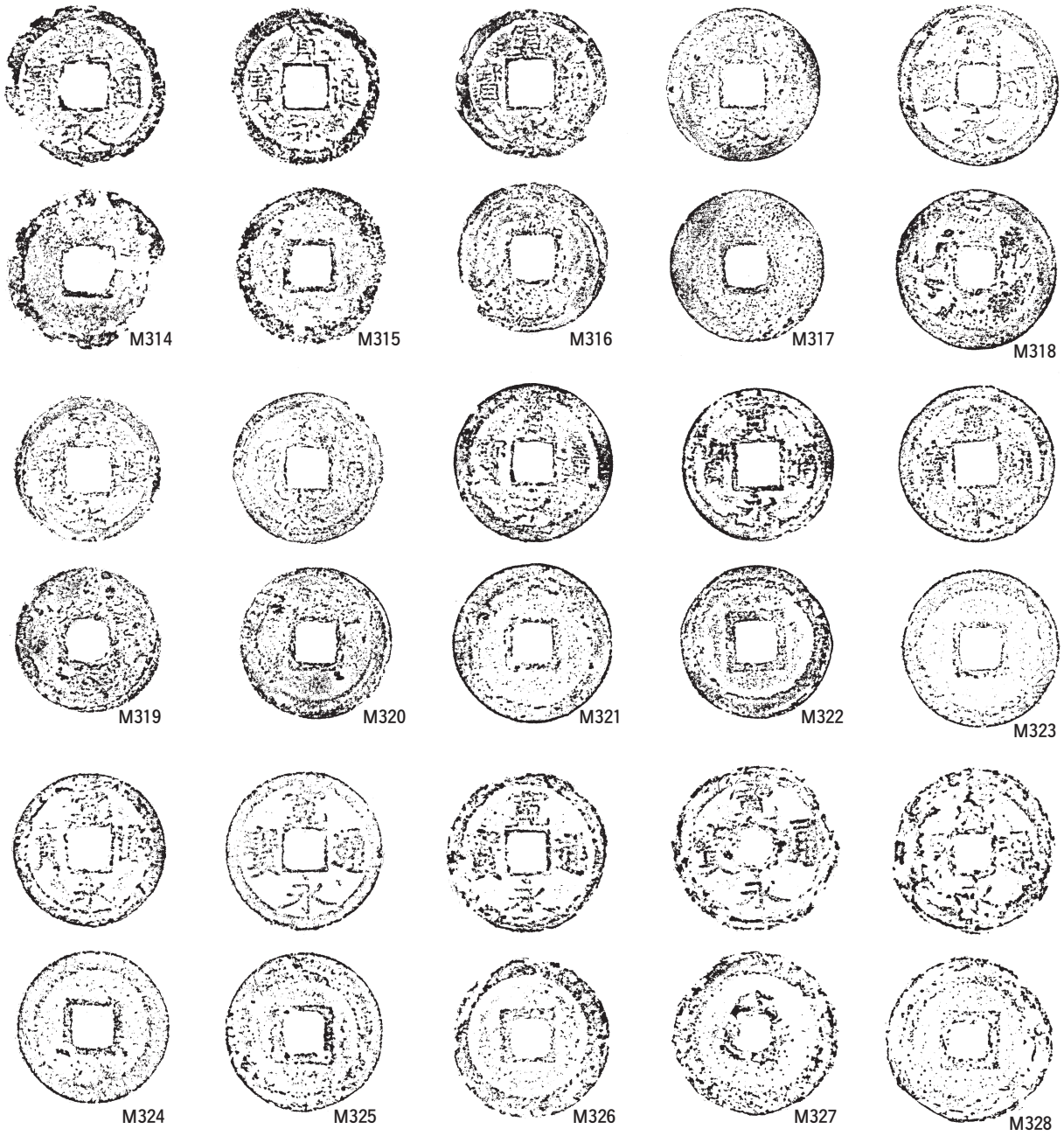
所見　時期は，出土遺物から 18 世紀以降に比定できる。埋葬形態は，遺構の形状や頭骨と大腿骨の出土位置が近いことから，座位であったと考えられる。







第 207 図　第 14 号墓坑・出土遺物実測図［数珠玉・銭貨は原寸大］



第 208 図　第 14 号墓坑出土遺物実測図［銭貨は原寸大］

第 14 号墓坑出土遺物観察表（第 207・208 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
651	土師質土器	小皿	5.9	1.4	3.7	長石・石英	橙	普通	底部切り離し後ナデ　外・内面ナデ	覆土中	50%　PL43

番号	器　種	径	孔径	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 73	数珠玉	0.6	0.2	0.6	0.4	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土中	PL52
Q 74	数珠玉	0.6	0.2	0.5	0.4	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土中	PL52
Q 75	数珠玉	0.6	0.2	0.5	0.4	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土中	PL52
Q 76	数珠玉	0.6	0.2	0.5	0.4	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土中	PL52

番号	器　種	径	孔径	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 77	数珠玉	0.6	0.2	0.5	0.4	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土中	PL52
Q 78	数珠玉	0.6	0.2	0.6	0.4	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土中	PL52
Q 79	数珠玉	0.6	0.2	0.5	0.4	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土中	PL52
Q 80	数珠玉	0.6	0.2	0.4	0.3	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土中	PL52
Q 81	数珠玉	0.6	0.2	0.5	0.3	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土中	PL52
Q 82	数珠玉	0.6	0.2	0.5	0.4	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土中	PL52
Q 83	数珠玉	0.6	0.2	0.5	0.3	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土中	PL52
Q 84	数珠玉	0.6	0.2	0.5	0.3	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土中	PL52
Q 85	数珠玉	0.6	0.2	0.4	0.2	石灰石	一方向からの穿孔	覆土中	PL52
Q 86	数珠玉	0.5	0.2	0.4	0.2	石灰石	一方向からの穿孔	覆土中	PL52

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 303	銭貨	寛永通寶	2.20	0.65	(1.58)	銅	1697	新寛永	覆土上層	PL58
M 304	銭貨	寛永通寶	2.18	0.69	1.72	銅	1697	新寛永	覆土上層	
M 305	銭貨	寛永通寶	2.20	0.64	1.30	銅	1697	新寛永	覆土上層	PL58
M 306	銭貨	寛永通寶	2.41	0.59	3.03	銅	1636	古寛永	覆土上層	
M 307	銭貨	不明	2.42	0.60	2.54	銅	－		覆土上層	計測のみ
M 308	銭貨	寛永通寶	2.30	0.64	2.78	銅	－	判別不能	覆土上層	
M 309	銭貨	寛永通寶	2.45	0.55	3.27	銅	1697	新寛永	覆土中層	
M 310	銭貨	寛永通寶	2.50	0.58	3.40	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土中層	
M 311	銭貨	寛永通寶	2.31	0.63	(1.67)	銅	1697	新寛永	覆土中層	
M 312	銭貨	寛永通寶	2.49	0.57	3.17	銅	1697	新寛永	覆土中層	PL59
M 313	銭貨	寛永通寶	2.44	0.50	3.58	銅	1636	古寛永	覆土中層	
M 314	銭貨	寛永通寶	2.45	0.75	(1.28)	銅	1697	新寛永	覆土中層	
M 315	銭貨	寛永通寶	2.30	0.60	(1.47)	銅	1697	新寛永	覆土上層	
M 316	銭貨	寛永通寶	2.25	0.69	(2.00)	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 317	銭貨	寛永通寶	2.33	0.63	2.25	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 318	銭貨	寛永通寶	2.41	0.55	3.20	銅	1636	古寛永	覆土下層	
M 319	銭貨	寛永通寶	2.19	0.64	2.12	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 320	銭貨	寛永通寶	2.27	0.60	2.33	銅	1697	新寛永	覆土下層	
M 321	銭貨	寛永通寶	2.42	0.57	3.01	銅	1697	新寛永	覆土上層	
M 322	銭貨	寛永通寶	2.21	0.61	3.19	銅	1697	新寛永	覆土上層	
M 323	銭貨	寛永通寶	2.38	0.61	3.32	銅	1697	新寛永	覆土上層	
M 324	銭貨	寛永通寶	2.30	0.60	2.08	銅	1697	新寛永	覆土上層	
M 325	銭貨	寛永通寶	2.41	0.58	3.06	銅	1636	古寛永	覆土上層	
M 326	銭貨	寛永通寶	2.42	0.53	2.28	銅	1636	古寛永	底面	
M 327	銭貨	寛永通寶	2.44	0.46	2.84	銅	1636	古寛永	底面	
M 328	銭貨	寛永通寶	2.50	0.53	2.73	銅	1636	古寛永	底面	
M 329	銭貨	寛永通寶	2.45	0.50	(2.69)	銅	1636	古寛永	底面	計測のみ
M 330	銭貨	寛永通寶	－	－	(1.61)	銅	－	判別不能	底面	計測のみ
M 331	銭貨	寛永通寶	－	－	(1.62)	銅	1636	古寛永	底面	計測のみ

番号	器　種	径	孔径	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
G 1	数珠玉	0.4	0.1	0.3	0.1	ガラス	青色　一方向からの穿孔	覆土中	PL52

第 16 号墓坑（第 209 図）

位置　調査区東部のＤ 10j9 区，標高 13 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 26 号墓坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 0.88 ｍ，短径 0.76 ｍの円形で，深さは 60㎝である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

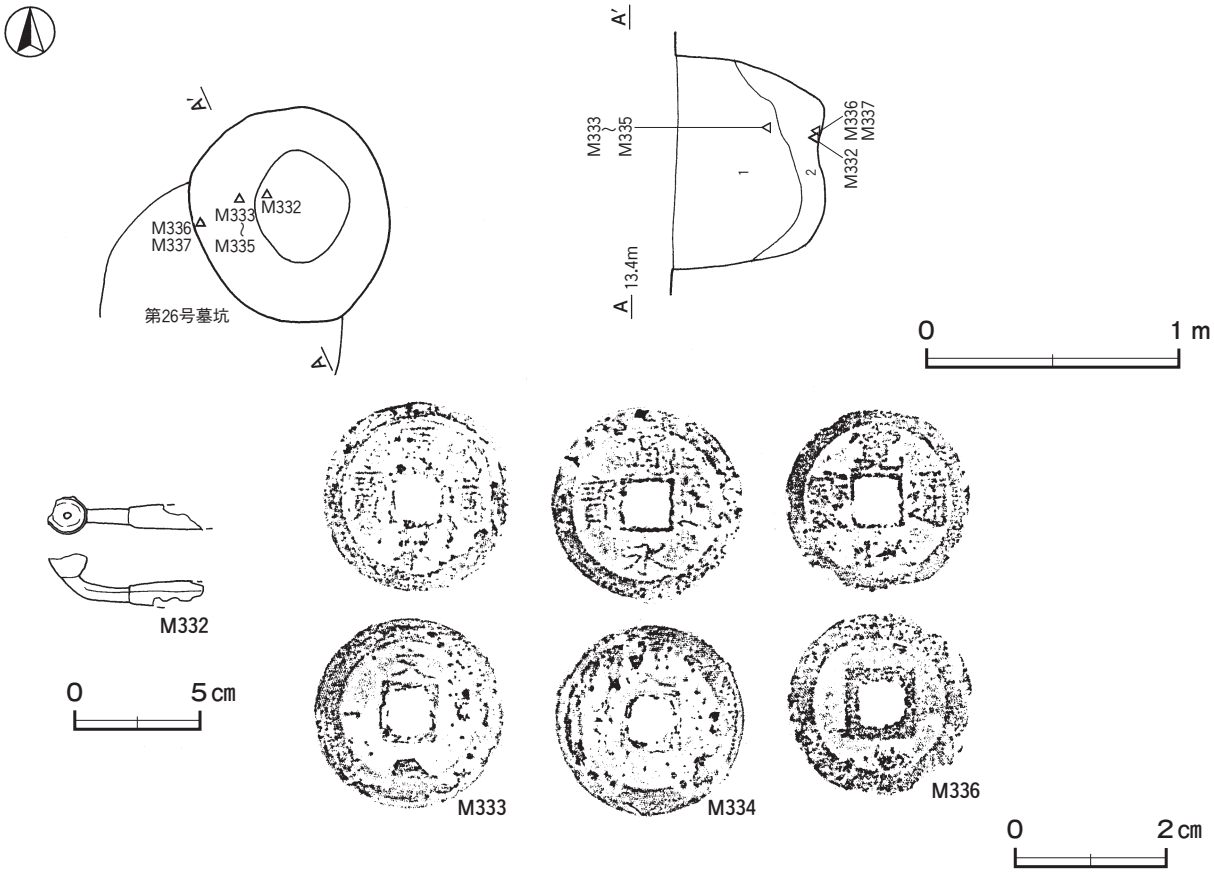
覆土　２層に分層できる。ロームや粘土のブロックが含まれる不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量　　2　褐　　色　粘土ブロック・炭化粒子中量

遺物出土状況　銅製品１点（煙管），銭貨５点（寛永通寶４・不明１）が出土している。M 336・337 は西壁際の覆土下層から融着した状態で出土している。M 332 は中央部の覆土下層から出土している。M 333 ～M 335 は西部の覆土中層から融着した状態で出土している。

所見　時期は，出土遺物から 18 世期以降に比定できる。人骨は遺存していなかったが，出土遺物から墓坑とみられる。



第 209 図　第 16 号墓坑・出土遺物実測図

第 16 号墓坑出土遺物観察表（第 209 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 332	煙管	(6.1)	(2.1)	(1.5)	(5.3)	銅	雁首部	覆土下層	PL55

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 333	銭貨	寛永通寶	2.50	0.56	3.23	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土中層	
M 334	銭貨	寛永通寶	2.50	0.58	2.62	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土中層	
M 335	銭貨	寛永通寶	2.31	0.57	(1.08)	銅	－	判別不能	覆土中層	計測のみ
M 336	銭貨	寛永通寶	2.42	0.56	1.90	銅	1636	古寛永	覆土下層	
M 337	銭貨	不明	－	－	(0.77)	銅	－		覆土下層	計測のみ

第 35 号墓坑（第 210 図）

位置　調査区東部のＤ 10i9 区，標高 13 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 28 号墓坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 0.69 m，短径 0.65 mの不整円形で，深さは 30cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ちあがっている。

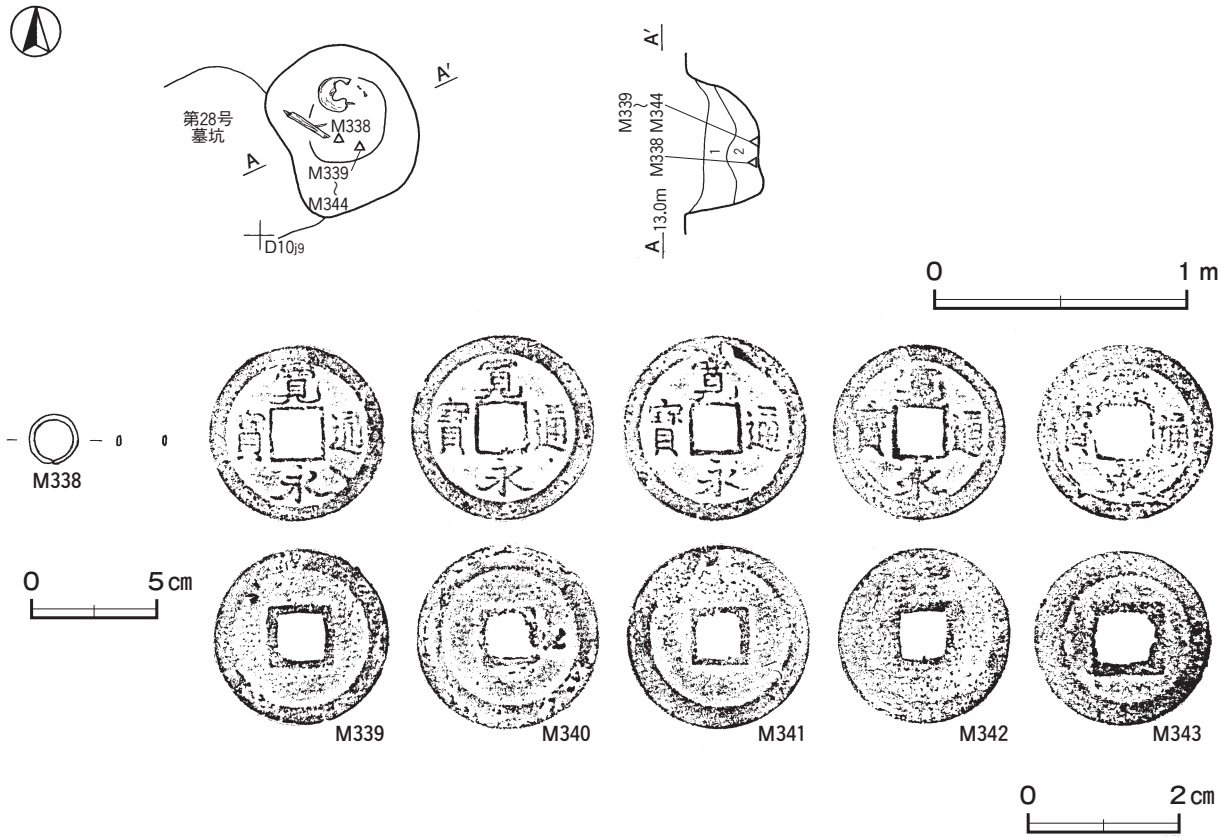
覆土　２層に分層できる。不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　砂粒少量，ロームブロック微量　　2　褐　　色　炭化粒子少量，粘土ブロック微量

遺物出土状況　銅製品１点（指輪），銭貨６点（寛永通寶）が出土している。M 339 ～M 344 は中央部の底面から融着した状態で出土している。M 338 は中央部の覆土下層から出土している。頭骨と大腿骨が中央部から出土している。

所見　時期は，出土遺物から 18 世紀以降に比定できる。埋葬形態は，遺構の形状や頭骨と大腿骨の出土位置が近いことから，座位であったと推測できる。



第 210 図　第 35 号墓坑・出土遺物実測図

第 35 号墓坑出土遺物観察表（第 210 図）

番号	器　種	径	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 338	指輪	2.0	0.2	0.4	2.3	銅	接合部鮮明	覆土下層	PL55

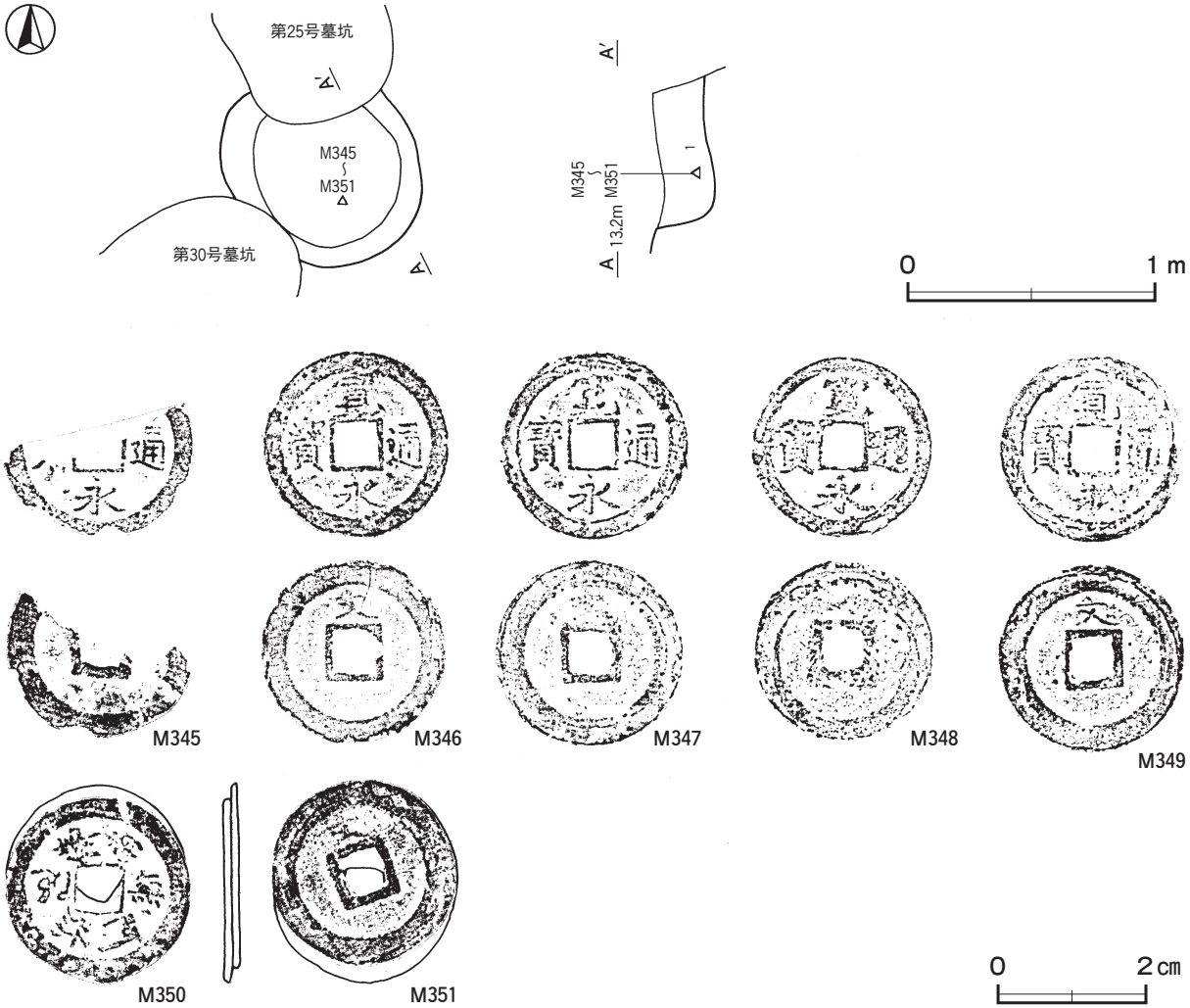
番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 339	銭貨	寛永通寶	2.30	0.62	2.79	銅	1697	新寛永	底面	PL59
M 340	銭貨	寛永通寶	2.40	0.55	2.96	銅	1697	新寛永	底面	PL60
M 341	銭貨	寛永通寶	2.40	0.56	3.11	銅	1697	新寛永	底面	
M 342	銭貨	寛永通寶	2.30	0.60	1.93	銅	1697	新寛永	底面	
M 343	銭貨	寛永通寶	2.32	0.66	2.09	銅	1697	新寛永	底面	
M 344	銭貨	寛永通寶	2.25	0.61	1.97	銅	1697	新寛永	底面	計測のみ

第 37 号墓坑（第 211 図）

位置　調査区東部のＤ 10j9 区，標高 13 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 25・30 号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状　第 25・30 号墓坑に掘り込まれているため，長径は 0.86 mで，短径は 0.76 mしか確認できなかっ



第 211 図　第 37 号墓坑・出土遺物実測図

た。楕円形と推測でき，長径方向はN－38°－Wである。深さは22cmで，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　単一層である。一括して埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，粘土ブロック微量

遺物出土状況　銭貨７点（寛永通寶６，絵銭１）が出土している。M 345 ～M 351 は中央部の覆土中層から融着した状態で出土している。

所見　時期は，出土遺物から18世紀以降に比定できる。M 350 は表面に南無阿弥陀佛と鋳された念仏銭である。念仏銭の出土は，本県では３例目で，これまでに鹿嶋市厨台遺跡群№24 遺跡（LR16 調査区）の第19・21号土坑から１点ずつ出土している。人骨は遺存していなかったが，出土遺物から墓坑とみられる。

第37号墓坑出土遺物観察表（第211図）

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 345	銭貨	寛永通寶	－	(0.54)	(1.06)	銅	1697	新寛永	覆土中層	
M 346	銭貨	寛永通寶	2.50	0.56	2.34	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土中層	
M 347	銭貨	寛永通寶	2.51	0.55	3.05	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土中層	
M 348	銭貨	寛永通寶	2.40	0.51	4.14	銅	1636	古寛永	覆土中層	PL60
M 349	銭貨	寛永通寶	2.50	0.57	3.62	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土中層	
M 350	銭貨	絵銭	2.46	0.60	5.37	銅	－	念仏銭　表「南無阿弥陀佛」	覆土中層	PL58
M 351	銭貨	寛永通寶	2.50	0.61		銅	1668	新寛永　背「文」	覆土中層	

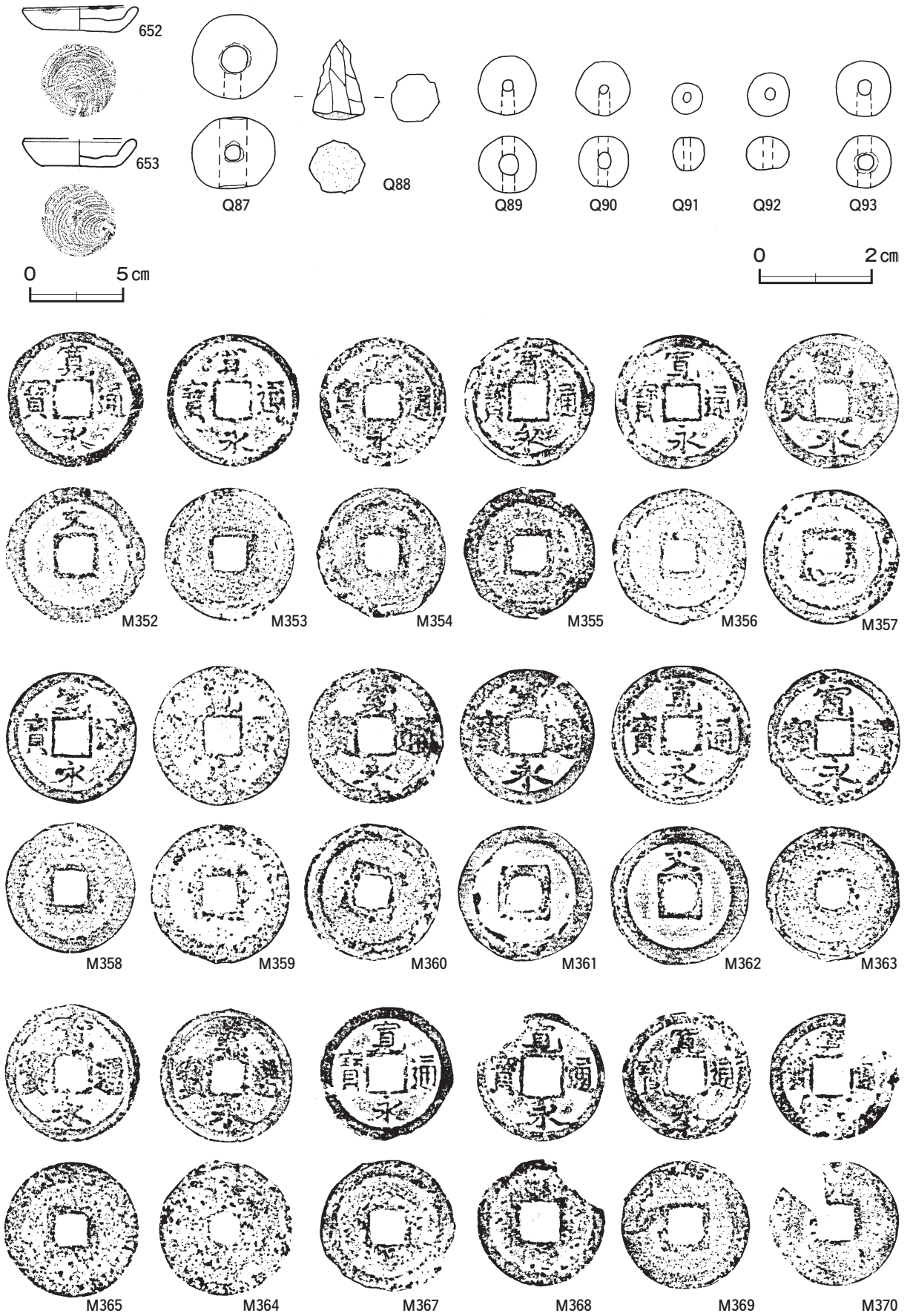
その他の墓坑出土遺物観察表（第212 ～ 219図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
652	土師質土器	小皿	5.9	1.4	4.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り離し　外・内面ナデ	覆土下層	PL43 第７号墓坑
653	土師質土器	小皿	[5.8]	1.5	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り離し　外・内面ナデ	覆土中	第32号墓坑

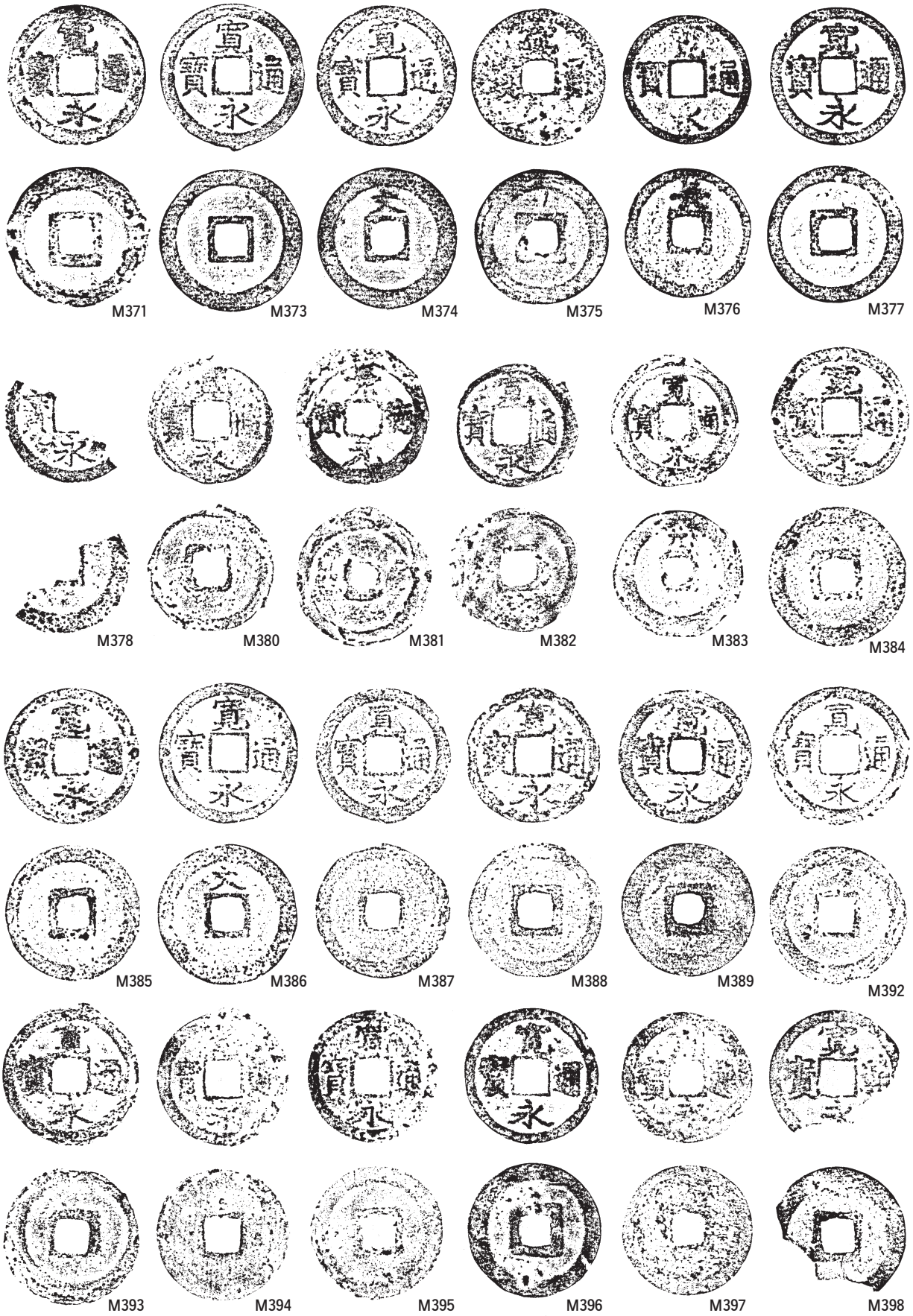
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 88	不明	1.4	1.0	1.0	1.1	水晶	円錐状に加工し側面に細かい面取りが施されている	覆土中	PL52 第20号墓坑

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 87	数珠玉	1.5	1.2	0.3 ～ 0.5	4.6	水晶	二方向からの穿孔	覆土上層	第11号墓坑
Q 89	数珠玉	1.1	1.0	0.2 ～ 0.4	2.0	水晶	二方向からの穿孔	覆土中	PL52 第21号墓坑
Q 90	数珠玉	1.0	0.9	0.2	1.5	瑪瑙	二方向からの穿孔	覆土中	PL52 第33号墓坑
Q 91	数珠玉	0.6	0.6	0.2	0.4	石灰石	一方向からの穿孔	覆土中	PL52 第33号墓坑
Q 92	数珠玉	0.8	0.6	0.2	0.8	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土下層	PL52 第45号墓坑
Q 93	数珠玉	1.0	0.9	0.2 ～ 0.3	1.5	石灰石	二方向からの穿孔	覆土中	PL52 第46号墓坑

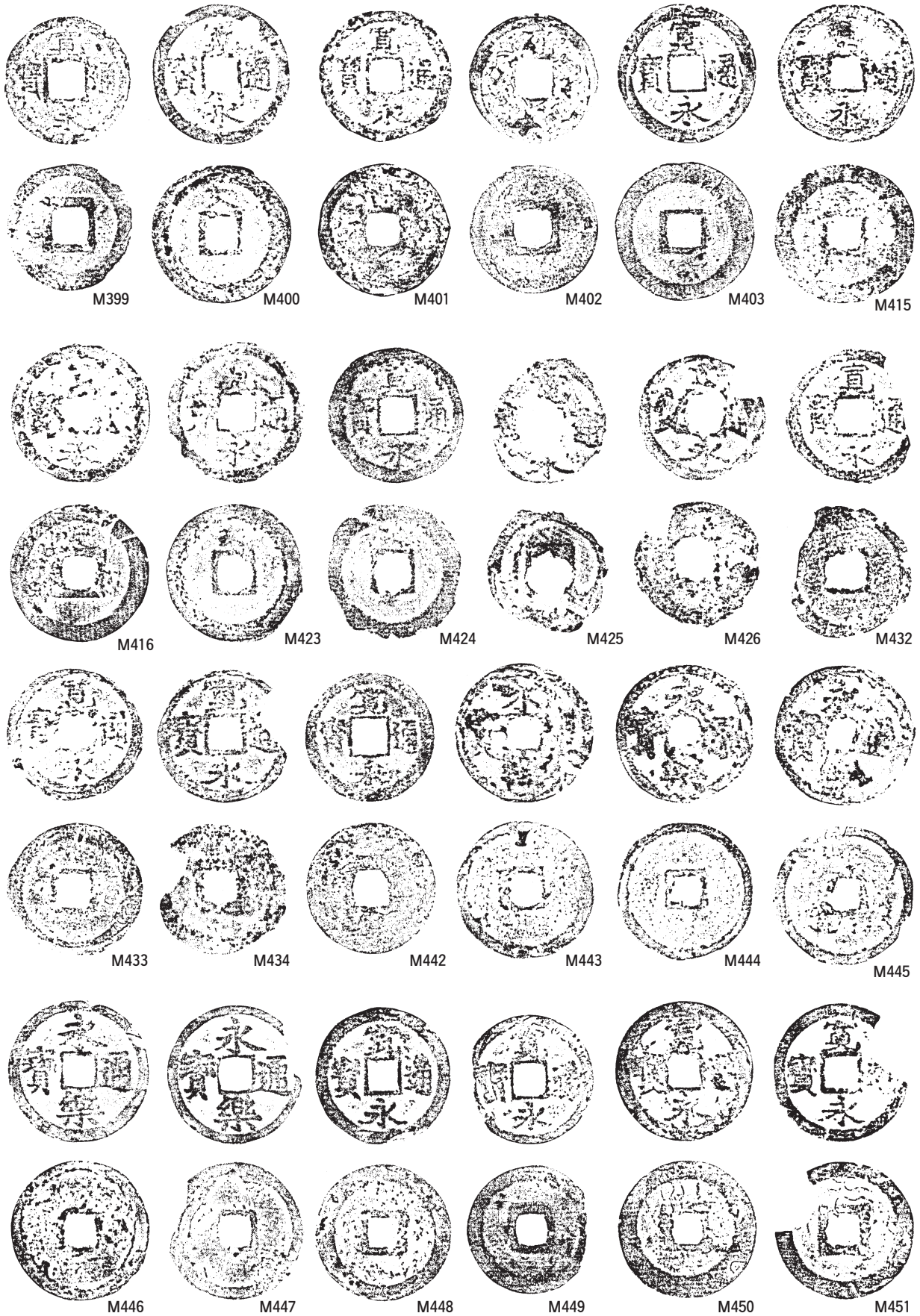
番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴		出土位置	備　考
M 352	銭貨	寛永通寶	2.48	0.60	2.20	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土下層	PL58 第６号墓坑
M 353	銭貨	寛永通寶	2.38	0.59	2.04	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土下層	第６号墓坑
M 354	銭貨	寛永通寶	2.29	0.58	2.07	銅	1697	新寛永		覆土下層	第６号墓坑
M 355	銭貨	寛永通寶	2.35	0.61	1.94	銅	1697	新寛永		覆土下層	第６号墓坑
M 356	銭貨	寛永通寶	2.46	0.54	3.62	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土下層	PL58 第６号墓坑
M 357	銭貨	寛永通寶	2.43	0.55	3.57	銅	1636	古寛永		覆土下層	第６号墓坑
M 358	銭貨	寛永通寶	2.33	0.60	2.47	銅	1697	新寛永		覆土下層	第６号墓坑
M 359	銭貨	寛永通寶	2.51	0.60	2.69	銅	1636	古寛永		覆土下層	第６号墓坑



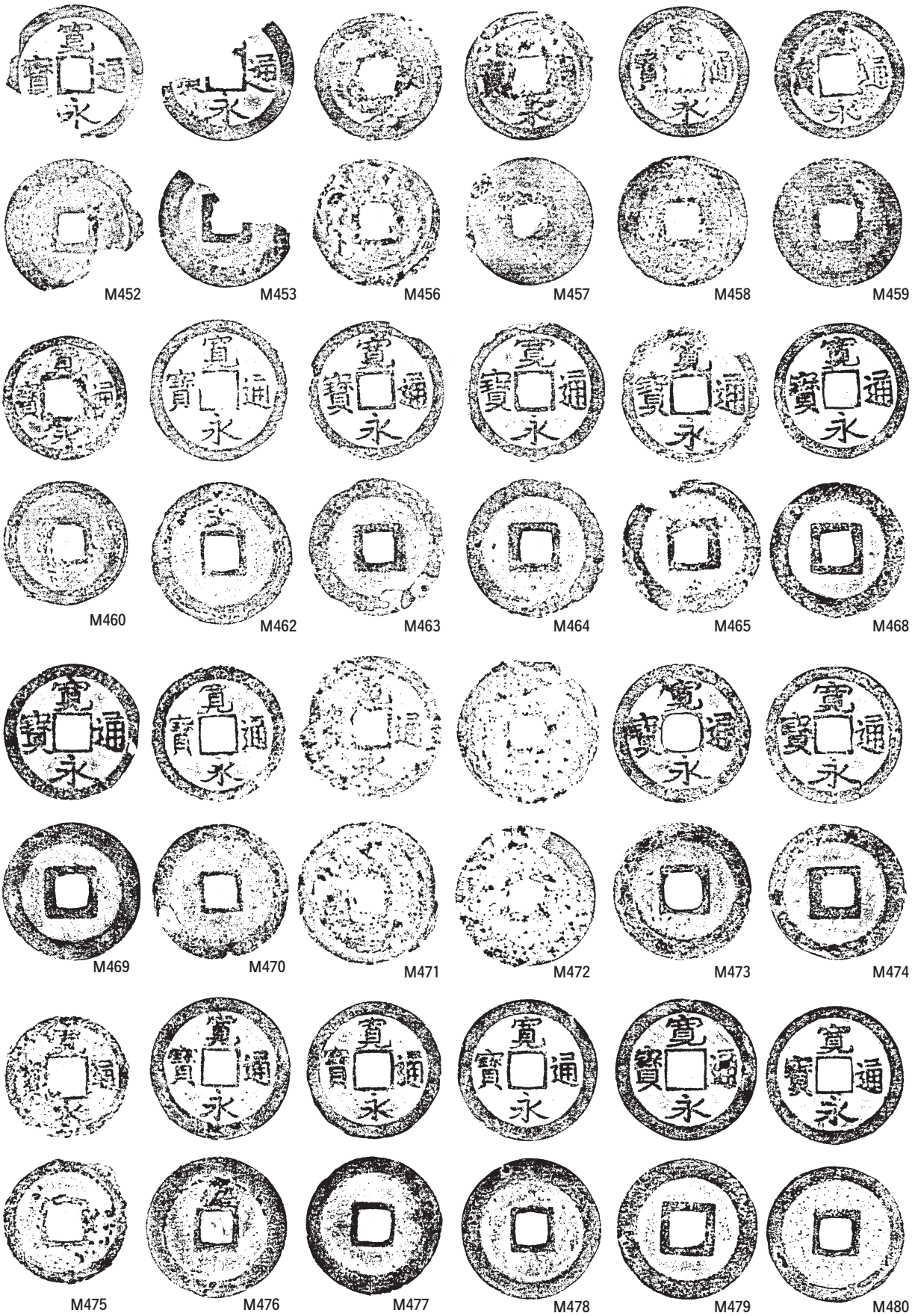
第 212 図　その他の墓坑出土遺物実測図(1)［銭貨は原寸大］



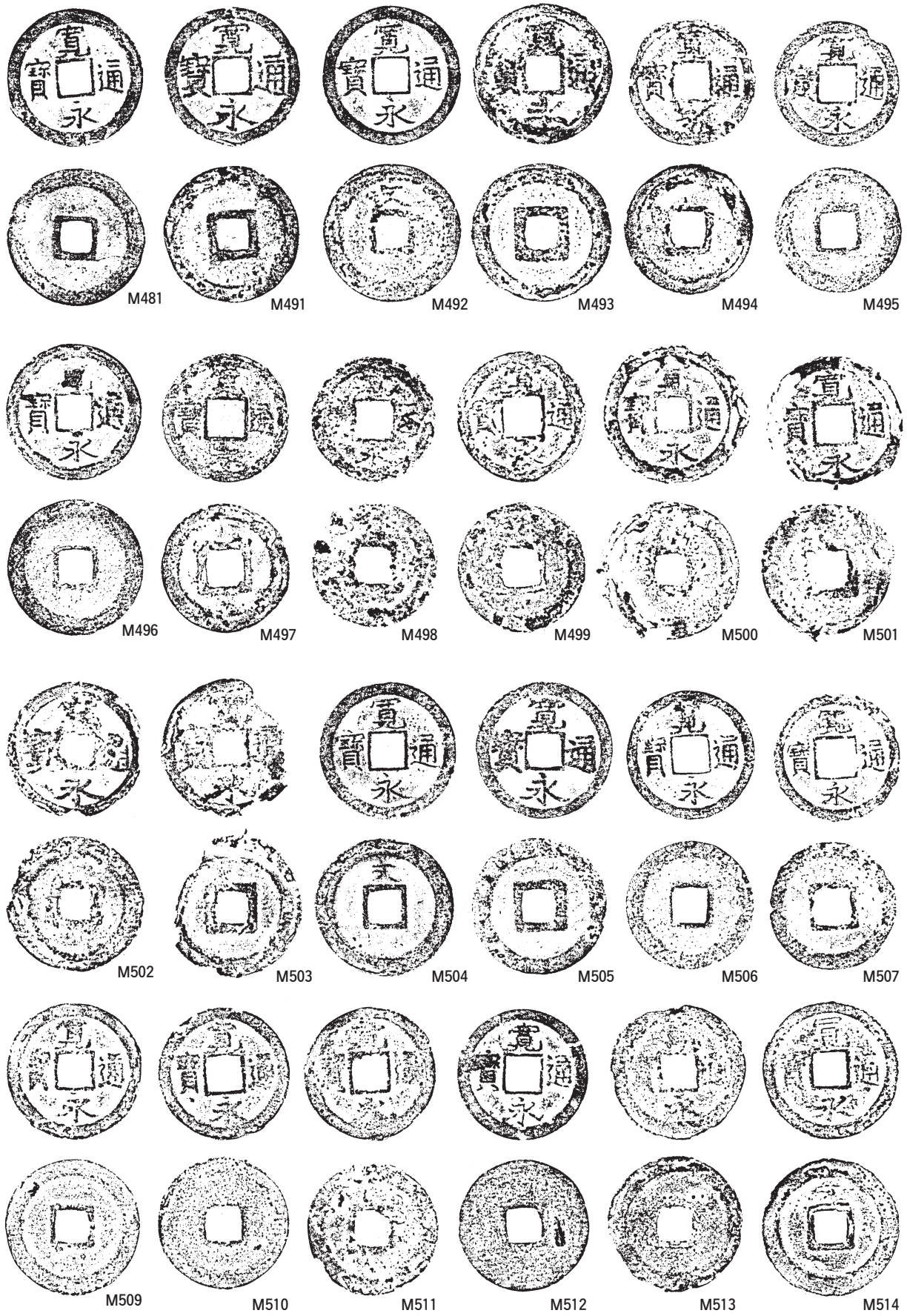
第 213 図　その他の墓坑出土遺物実測図(2)［銭貨は原寸大］



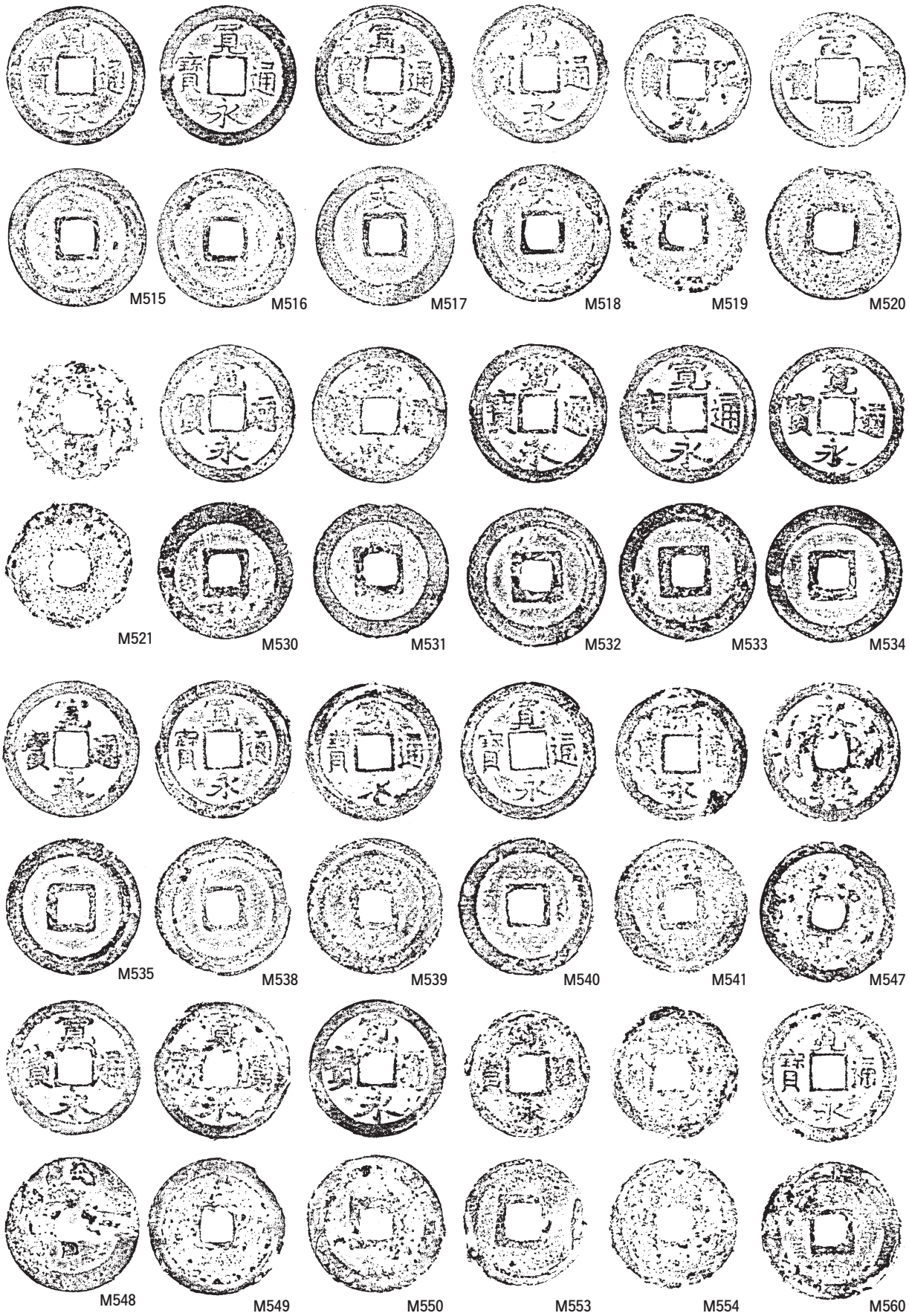
第 214 図　その他の墓坑出土遺物実測図(3)［銭貨は原寸大］



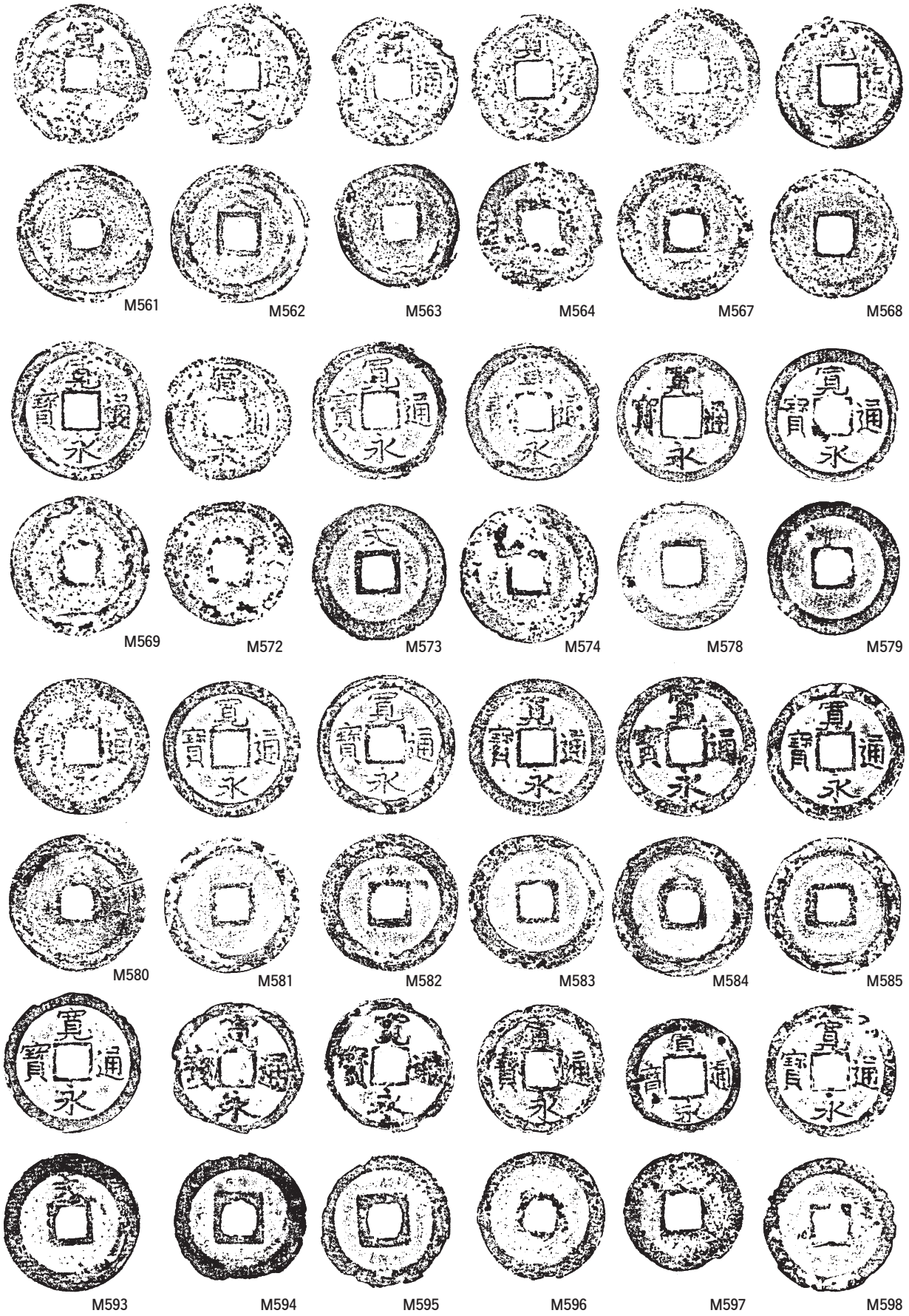
第 215 図　その他の墓坑出土遺物実測図(4)［銭貨は原寸大］



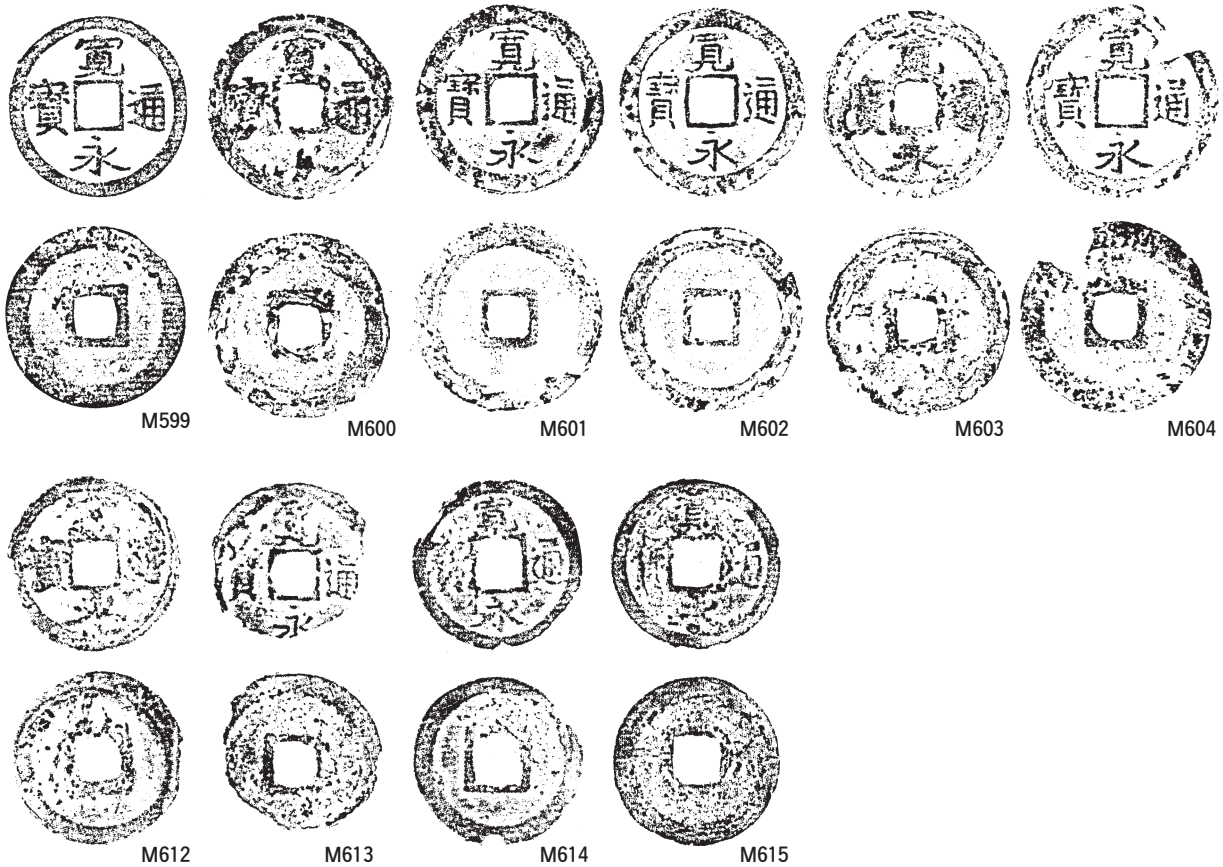
第 216 図　その他の墓坑出土遺物実測図(5)［銭貨は原寸大］



第 217 図　その他の墓坑出土遺物実測図(6)［銭貨は原寸大］



第 218 図　その他の墓坑出土遺物実測図(7)［銭貨は原寸大］



第 219 図　その他の墓坑出土遺物実測図(8)［銭貨は原寸大］

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴		出土位置	備　考
M 360	銭貨	寛永通寶	2.50	0.57	3.86	銅	1636	古寛永	融着して出土	覆土下層	第９号墓坑
M 361	銭貨	寛永通寶	2.44	0.57	3.14	銅	1636	古寛永		覆土下層	第９号墓坑
M 362	銭貨	寛永通寶	2.55	0.58	3.02	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土下層	PL58 第９号墓坑
M 363	銭貨	寛永通寶	2.41	0.55	3.13	銅	1636	古寛永		覆土下層	第９号墓坑
M 364	銭貨	寛永通寶	2.40	0.53	3.29	銅	1636	古寛永		覆土下層	第９号墓坑
M 365	銭貨	寛永通寶	0.47	0.55	4.10	銅	1636	古寛永		覆土下層	第９号墓坑
M 366	銭貨	不明	－	－	(24.48)	鉄ヵ	－	鉄錆に覆われている		覆土中	第９号墓坑 計測のみ
M 367	銭貨	寛永通寶	2.40	0.60	2.32	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土下層	PL58 第 10 号墓坑
M 368	銭貨	寛永通寶	2.29	0.70	(1.60)	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 10 号墓坑
M 369	銭貨	寛永通寶	2.29	0.63	2.31	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 10 号墓坑
M 371	銭貨	寛永通寶	2.50	0.61	3.56	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 10 号墓坑
M 372	銭貨	寛永通寶	2.24	0.60	2.08	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 10 号墓坑 計測のみ
M 370	銭貨	寛永通寶	2.23	0.62	(1.20)	銅	1741	新寛永　背「元」		覆土下層	第 10 号墓坑
M 373	銭貨	寛永通寶	2.54	0.57	3.69	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土上層	PL58 第 11 号墓坑
M 374	銭貨	寛永通寶	2.51	0.58	3.10	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土上層	PL58 第 11 号墓坑
M 375	銭貨	寛永通寶	2.44	0.55	3.60	銅	1636	古寛永		覆土上層	第 11 号墓坑
M 376	銭貨	寛永通寶	2.31	0.55	2.36	銅	1767	新寛永　背「長」		覆土下層	PL58 第 11 号墓坑
M 377	銭貨	寛永通寶	2.45	0.56	3.18	銅	1636	古寛永		覆土上層	第 11 号墓坑
M 378	銭貨	寛永通寶	－	－	(0.64)	銅	1697	新寛永		覆土中	第 11 号墓坑
M 379	銭貨	不明	－	－	(3.02)	鉄ヵ	－	鉄錆に覆われている		覆土中層	第 11 号墓坑 計測のみ

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴		出土位置	備　考
M 384	銭貨	寛永通寶	2.45	0.58	3.71	銅	1636	古寛永	融着して出土	覆土下層	第 13 号墓坑
M 385	銭貨	寛永通寶	2.41	0.57	3.36	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 13 号墓坑
M 386	銭貨	寛永通寶	2.50	0.57	2.44	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土下層	PL58 第 13 号墓坑
M 387	銭貨	寛永通寶	2.39	0.58	2.50	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 13 号墓坑
M 388	銭貨	寛永通寶	2.43	0.60	2.68	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 13 号墓坑
M 389	銭貨	寛永通寶	2.38	0.52	2.87	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 13 号墓坑
M 380	銭貨	寛永通寶	2.14	0.58	2.18	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土中層	第 13 号墓坑
M 381	銭貨	景徳元寶	2.58	0.48	2.58	銅	1004	北宋銭		覆土中層	PL58 第 13 号墓坑
M 382	銭貨	寛永通寶	2.20	0.60	(1.93)	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 13 号墓坑
M 383	銭貨	寛永通寶	2.29	0.45	2.12	銅	1741	新寛永　背「元」		覆土中層	PL58 第 13 号墓坑
M 390	銭貨	寛永通寶ヵ	2.55	0.46	(2.28)	銅	−	判別不能		覆土中層	第 13 号墓坑 計測のみ
M 391	銭貨	不明	−	−	(2.66)	銅	−			覆土中層	第 13 号墓坑 計測のみ
M 392	銭貨	寛永通寶	2.41	0.62	2.87	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土中層	第 15 号墓坑
M 393	銭貨	寛永通寶	2.42	0.58	3.15	銅	1636	古寛永		覆土中層	第 15 号墓坑
M 394	銭貨	寛永通寶	2.39	0.60	1.71	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 15 号墓坑
M 395	銭貨	寛永通寶	2.34	0.58	2.57	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 15 号墓坑
M 404	銭貨	寛永通寶	2.30	0.62	2.74	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 15 号墓坑 計測のみ
M 401	銭貨	寛永通寶	2.40	0.57	2.58	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土上層	第 15 号墓坑
M 402	銭貨	不明	2.29	0.67	2.37	銅	−			覆土上層	第 15 号墓坑
M 403	銭貨	寛永通寶	2.48	0.56	3.01	銅	1697	新寛永		覆土上層	PL59 第 15 号墓坑
M 409	銭貨	寛永通寶	2.40	0.58	2.97	銅	1697	新寛永		覆土上層	第 15 号墓坑 計測のみ
M 410	銭貨	寛永通寶	2.42	0.59	2.98	銅	1697	新寛永		覆土上層	第 15 号墓坑 計測のみ
M 396	銭貨	寛永通寶	2.43	0.56	2.88	銅	1636	古寛永	融着して出土	覆土中	第 15 号墓坑
M 397	銭貨	寛永通寶	2.33	0.55	2.29	銅	1636	古寛永		覆土中	第 15 号墓坑
M 398	銭貨	寛永通寶	2.40	0.57	(1.50)	銅	1636	古寛永		覆土中	第 15 号墓坑
M 405	銭貨	寛永通寶	2.30	0.59	1.85	銅	−	判別不能		覆土中	第 15 号墓坑 計測のみ
M 406	銭貨	寛永通寶	2.41	0.58	(1.82)	銅	1636	古寛永		覆土中	第 15 号墓坑 計測のみ
M 407	銭貨	寛永通寶	−	−	(2.26)	銅	1636	古寛永		覆土中	第 15 号墓坑 計測のみ
M 399	銭貨	寛永通寶	2.27	0.64	1.71	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土下層	第 15 号墓坑
M 400	銭貨	寛永通寶	2.49	0.54	(2.59)	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土下層	第 15 号墓坑
M 408	銭貨	不明	−	−	(0.21)	銅	−			覆土中	第 15 号墓坑 計測のみ
M 411	銭貨	不明	−	−	(7.36)	鉄ヵ	−		融着して出土	覆土中	第 15 号墓坑 計測のみ
M 412	銭貨	不明	−	−		鉄ヵ	−			覆土中	第 15 号墓坑 計測のみ
M 413	銭貨	□□□寶	−	−	(0.24)	銅	−			覆土中	第 15 号墓坑 計測のみ
M 414	銭貨	不明	2.73	0.69	(2.70)	鉄ヵ	−			覆土中	第 15 号墓坑 計測のみ
M 415	銭貨	寛永通寶	2.50	0.55	2.40	銅	1668	新寛永　背「文」	融着して出土	覆土下層	第 17 号墓坑
M 416	銭貨	寛永通寶	2.48	0.53	(2.23)	銅	−	判別不能		覆土下層	第 17 号墓坑
M 417	銭貨	不明	2.45	0.47	(5.65)	銅	−		融着して出土	覆土下層	第 19 号墓坑 計測のみ
M 418	銭貨	不明				銅	−			覆土下層	第 19 号墓坑 計測のみ
M 419	銭貨	不明	2.51	−	(3.50)	鉄ヵ	−			覆土下層	第 19 号墓坑 計測のみ
M 420	銭貨	不明		−		鉄ヵ	−			覆土下層	第 19 号墓坑 計測のみ
M 421	銭貨	不明	2.37	−	(5.52)	銅	−			覆土下層	第 19 号墓坑 計測のみ
M 422	銭貨	寛永通寶		−		銅	1697	新寛永		覆土下層	第 19 号墓坑 計測のみ
M 423	銭貨	寛永通寶	2.49	0.60	1.84	銅	1668	新寛永　背「文」	融着して出土	覆土下層	第 20 号墓坑
M 424	銭貨	寛永通寶	2.46	0.59	2.15	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 20 号墓坑
M 425	銭貨	寛永通寶	2.12	0.75	(1.68)	銅	−	判別不能	融着して出土	覆土中	第 20 号墓坑
M 426	銭貨	寛永通寶	2.20	0.62	(1.21)	銅	1636	古寛永		覆土中	第 20 号墓坑
M 431	銭貨	不明	−	−	(0.50)	銅	−			覆土中	第 20 号墓坑 計測のみ

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴		出土位置	備　考
M 427	銭貨	不明	−	−	(0.06)	銅	−			覆土中	第 20 号墓坑 計測のみ
M 428	銭貨	寛永通寶	−	−	(1.16)	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土中	第 20 号墓坑 計測のみ
M 429	銭貨	不明	−	−	(1.42)	銅	−		融着して出土	覆土中	第 20 号墓坑 計測のみ
M 430	銭貨	寛□□□	−	−		銅	−			覆土中	第 20 号墓坑 計測のみ
M 432	銭貨	寛永通寶	2.42	0.59	(1.69)	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土下層	第 21 号墓坑
M 433	銭貨	寛永通寶	2.39	0.56	3.05	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 21 号墓坑
M 434	銭貨	寛永通寶	2.35	0.55	(1.21)	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 21 号墓坑
M 440	銭貨	寛永通寶	2.50	0.57	6.61	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 21 号墓坑 計測のみ
M 441	銭貨	不明				銅	−			覆土下層	第 21 号墓坑 計測のみ
M 435	銭貨	不明	2.60	−	(6.30)	銅	−		融着して出土	覆土下層	第 21 号墓坑 計測のみ
M 436	銭貨	不明		−		銅	−			覆土下層	第 21 号墓坑 計測のみ
M 437	銭貨	不明		−		銅	−			覆土下層	第 21 号墓坑 計測のみ
M 438	銭貨	不明	2.25	−	2.27	銅	−			覆土下層	第 21 号墓坑 計測のみ
M 439	銭貨	□□通□	−	−	(2.50)	銅	−			覆土下層	第 21 号墓坑 計測のみ
M 442	銭貨	寛永通寶	2.32	0.59	2.60	銅	1697	新寛永		覆土上層	第 22 号墓坑
M 443	銭貨	永樂通寶	2.45	0.54	3.95	銅	1408	明銭	融着して出土	覆土中層	PL59 第 22 号墓坑
M 444	銭貨	永樂通寶	2.44	0.44	2.79	銅	1408	明銭		覆土中層	第 22 号墓坑
M 445	銭貨	永樂通寶	2.45	0.57	3.91	銅	1408	明銭		覆土中層	第 22 号墓坑
M 446	銭貨	永樂通寶	2.49	0.53	2.92	銅	1408	明銭		覆土中層	PL59 第 22 号墓坑
M 447	銭貨	永樂通寶	2.45	0.53	(1.63)	銅	1408	明銭		覆土中層	PL59 第 22 号墓坑
M 454	銭貨	永樂通寶	2.42	0.57	3.45	銅	1408	明銭		覆土中層	第 22 号墓坑 計測のみ
M 448	銭貨	寛永通寶	2.43	0.52	2.90	銅	1636	古寛永	融着して出土	覆土下層	第 22 号墓坑
M 449	銭貨	寛永通寶	2.27	0.54	(2.09)	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 22 号墓坑
M 450	銭貨	寛永通寶	2.45	0.54	4.76	銅	1636	古寛永		覆土下層	PL59 第 22 号墓坑
M 451	銭貨	寛永通寶	2.43	0.53	(1.78)	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 22 号墓坑
M 452	銭貨	寛永通寶	2.48	0.54	(1.87)	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 22 号墓坑
M 453	銭貨	寛永通寶	2.38	0.54	(1.38)	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 22 号墓坑
M 455	銭貨	不明	−	−	(2.29)	鉄ヵ	−			覆土下層	第 24 号墓坑 計測のみ
M 456	銭貨	寛永通寶	2.28	0.59	1.98	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土下層	第 28 号墓坑
M 457	銭貨	寛永通寶	2.28	0.47	2.26	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 28 号墓坑
M 458	銭貨	寛永通寶	2.32	0.62	2.69	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 28 号墓坑
M 459	銭貨	寛永通寶	2.32	0.62	2.80	銅	1697	新寛永		覆土下層	PL59 第 28 号墓坑
M 460	銭貨	寛永通寶	2.21	0.57	2.05	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 28 号墓坑
M 461	銭貨	不明	2.13	0.68	1.86	銅	−			覆土下層	第 28 号墓坑 計測のみ
M 462	銭貨	寛永通寶	2.50	0.60	2.12	銅	1668	新寛永　背「文」	融着して出土	覆土下層	PL59 第 29 号墓坑
M 463	銭貨	寛永通寶	2.48	0.53	(2.10)	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 29 号墓坑
M 464	銭貨	寛永通寶	2.46	0.56	(1.90)	銅	1636	古寛永	融着して出土	覆土下層	PL59 第 29 号墓坑
M 465	銭貨	寛永通寶	2.48	0.57	(1.95)	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 29 号墓坑
M 467	銭貨	寛永通寶	2.27	0.61	(2.12)	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 29 号墓坑 計測のみ
M 466	銭貨	寛永通寶	−	−	(2.41)	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 29 号墓坑 計測のみ
M 468	銭貨	寛永通寶	2.42	0.58	3.01	銅	1636	古寛永	融着して出土	覆土下層	第 30 号墓坑
M 469	銭貨	寛永通寶	2.43	0.58	3.24	銅	1636	古寛永		覆土下層	PL59 第 30 号墓坑
M 476	銭貨	寛永通寶	2.51	0.56	3.32	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土中層	第 30 号墓坑
M 477	銭貨	寛永通寶	2.43	0.58	3.42	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 30 号墓坑
M 478	銭貨	寛永通寶	2.50	0.57	3.15	銅	1697	新寛永		覆土中層	PL59 第 30 号墓坑
M 479	銭貨	寛永通寶	2.50	0.63	2.91	銅	1636	古寛永		覆土中層	PL59 第 30 号墓坑
M 480	銭貨	寛永通寶	2.41	0.55	3.48	銅	1636	古寛永		覆土中層	第 30 号墓坑
M 481	銭貨	寛永通寶	2.45	0.56	3.72	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 30 号墓坑

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴		出土位置	備　考
M 473	銭貨	寛永通寶	2.46	0.62	3.91	銅	1636	古寛永	融着して出土	覆土下層	第 30 号墓坑
M 486	銭貨	不明	2.47	0.63	2.44	銅	−			覆土下層	第 30 号墓坑 計測のみ
M 474	銭貨	寛永通寶	2.45	0.56	3.10	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 30 号墓坑
M 470	銭貨	寛永通寶	2.44	0.56	2.69	銅	1697	新寛永		覆土下層	PL59 第 30 号墓坑
M 482	銭貨	寛永通寶	2.56	0.55	3.44	銅	−	判別不能	融着して出土	覆土下層	第 30 号墓坑 計測のみ
M 483	銭貨	寛永通寶	2.52	0.55	3.50	銅	−	判別不能		覆土下層	第 30 号墓坑 計測のみ
M 484	銭貨	寛永通寶	2.42	0.51	3.00	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 30 号墓坑 計測のみ
M 485	銭貨	寛永通寶	2.46	0.52	2.95	銅	−	判別不能		覆土下層	第 30 号墓坑 計測のみ
M 471	銭貨	寛永通寶	2.52	0.58	2.95	銅	−	判別不能		覆土下層	第 30 号墓坑
M 472	銭貨	寛永通寶	2.48	0.51	2.63	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 30 号墓坑
M 475	銭貨	寛永通寶	2.18	0.65	1.83	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土中層	第 30 号墓坑
M 487	銭貨	寛永通寶	2.40	0.62	2.63	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 30 号墓坑 計測のみ
M 488	銭貨	寛永通寶	2.46	0.64	(1.66)	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 30 号墓坑 計測のみ
M 489	銭貨	寛永通寶	2.24	0.66	1.90	銅	−	判別不能		覆土中層	第 30 号墓坑 計測のみ
M 490	銭貨	寛永通寶	2.49	0.55	(3.74)	銅	−	判別不能		覆土中層	第 30 号墓坑 計測のみ
M 494	銭貨	寛永通寶	2.29	0.62	2.35	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土下層	第 31 号墓坑
M 495	銭貨	寛永通寶	2.20	0.62	(2.00)	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 31 号墓坑
M 496	銭貨	寛永通寶	2.42	0.59	3.09	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 31 号墓坑
M 497	銭貨	寛永通寶	2.27	0.64	2.38	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 31 号墓坑
M 498	銭貨	寛永通寶	2.21	0.64	1.41	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 31 号墓坑
M 499	銭貨	寛永通寶	2.30	0.67	2.33	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 31 号墓坑
M 500	銭貨	寛永通寶	2.50	0.53	(2.95)	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土下層	第 31 号墓坑
M 501	銭貨	寛永通寶	2.41	0.61	(3.41)	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 31 号墓坑
M 502	銭貨	寛永通寶	2.41	0.49	(3.48)	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 31 号墓坑
M 503	銭貨	寛永通寶	2.46	0.55	(1.98)	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 31 号墓坑
M 508	銭貨	寛永通寶	−	−	(1.14)	銅	−	判別不能		覆土下層	第 31 号墓坑 計測のみ
M 504	銭貨	寛永通寶	2.45	0.59	3.57	銅	1668	新寛永　背「文」	融着して出土	覆土中層	PL59 第 31 号墓坑
M 505	銭貨	寛永通寶	2.46	0.58	2.92	銅	1636	古寛永		覆土中層	PL59 第 31 号墓坑
M 506	銭貨	寛永通寶	2.33	0.62	2.85	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 31 号墓坑
M 507	銭貨	寛永通寶	2.33	0.65	2.13	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 31 号墓坑
M 491	銭貨	寛永通寶	2.46	0.57	3.01	銅	1636	古寛永	融着して出土	覆土中	PL59 第 31 号墓坑
M 492	銭貨	寛永通寶	2.48	0.56	2.60	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土中	第 31 号墓坑
M 493	銭貨	寛永通寶	2.50	0.59	2.94	銅	1636	古寛永		覆土中	第 31 号墓坑
M 509	銭貨	寛永通寶	2.44	0.57	3.28	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土中層	第 32 号墓坑
M 510	銭貨	寛永通寶	2.35	0.62	2.55	銅	1697	新寛永		覆土中層	PL59 第 32 号墓坑
M 511	銭貨	寛永通寶	2.30	0.61	2.24	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 32 号墓坑
M 512	銭貨	寛永通寶	2.35	0.60	2.01	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 32 号墓坑
M 513	銭貨	寛永通寶	2.45	0.59	2.50	銅	−	判別不能		覆土中層	第 32 号墓坑
M 524	銭貨	寛永通寶	2.29	0.61	2.50	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 32 号墓坑 計測のみ
M 514	銭貨	寛永通寶	2.44	0.58	3.25	銅	1668	新寛永　背「文」	融着して出土	覆土下層	第 32 号墓坑
M 515	銭貨	寛永通寶	2.49	0.57	3.00	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土下層	第 32 号墓坑
M 516	銭貨	寛永通寶	2.50	0.57	2.75	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土下層	PL59 第 32 号墓坑
M 517	銭貨	寛永通寶	2.50	0.58	3.04	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土下層	第 32 号墓坑
M 518	銭貨	寛永通寶	2.46	0.58	2.93	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土下層	第 32 号墓坑

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴		出土位置	備　考
M 519	銭貨	治平元寳	2.28	0.63	2.32	銅	1064	北宋銭　真書	融着して出土	覆土下層	PL59 第 32 号墓坑
M 520	銭貨	元祐通寳	2.40	0.68	3.03	銅	1086	北宋銭　篆書		覆土下層	PL59 第 32 号墓坑
M 521	銭貨	不明	2.14	0.62	(1.68)	銅	−			覆土下層	第 32 号墓坑
M 525	銭貨	不明	2.34	0.55	3.26	銅	−			覆土下層	第 32 号墓坑 計測のみ
M 526	銭貨	不明	2.38	0.62	2.65	銅	−			覆土下層	第 32 号墓坑 計測のみ
M 527	銭貨	永樂通寳	2.44	0.56	7.02	銅	1408	明銭	融着して出土	覆土下層	第 32 号墓坑 計測のみ
M 528	銭貨	不明				銅	−			覆土下層	第 32 号墓坑 計測のみ
M 529	銭貨	永樂通寳				銅	1408	明銭		覆土下層	第 32 号墓坑 計測のみ
M 522	銭貨	寛永通寳	2.43	0.54	(3.51)	銅	−	判別不能	融着して出土	覆土中層	第 32 号墓坑 計測のみ
M 523	銭貨	不明	−	−	(1.70)	鉄ヵ	−			覆土中層	第 32 号墓坑 計測のみ
M 530	銭貨	寛永通寳	2.40	0.55	2.85	銅	1636	古寛永	融着して出土	覆土下層	第 33 号墓坑
M 531	銭貨	寛永通寳	2.41	0.57	3.42	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 33 号墓坑
M 532	銭貨	寛永通寳	2.48	0.54	3.07	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 33 号墓坑
M 533	銭貨	寛永通寳	2.45	0.57	2.81	銅	1636	古寛永		覆土下層	PL59 第 33 号墓坑
M 534	銭貨	寛永通寳	2.43	0.55	2.57	銅	1636	古寛永		覆土下層	PL59 第 33 号墓坑
M 535	銭貨	寛永通寳	2.42	0.57	3.91	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 33 号墓坑
M 536	銭貨	寛永通寳	2.31	0.66	2.40	銅	−	判別不能		覆土下層	第 33 号墓坑 計測のみ
M 537	銭貨	寛□□□	−	−	(0.53)	銅	−			覆土中	第 33 号墓坑 計測のみ
M 538	銭貨	寛永通寳	2.42	0.57	3.18	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土下層	第 34 号墓坑
M 539	銭貨	寛永通寳	2.45	0.58	3.00	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 34 号墓坑
M 540	銭貨	寛永通寳	2.45	0.59	2.88	銅	1697	新寛永		覆土下層	PL59 第 34 号墓坑
M 541	銭貨	寛永通寳	2.37	0.55	3.16	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 34 号墓坑
M 542	銭貨	寛永通寳	2.36	0.58	1.38	銅	−	判別不能		覆土下層	第 34 号墓坑 計測のみ
M 543	銭貨	不明	−	−	(0.82)	銅	−			覆土下層	第 36 号墓坑 計測のみ
M 544	銭貨	不明	−	−	(0.83)	銅	−			覆土下層	第 36 号墓坑 計測のみ
M 545	銭貨	不明	−	−	(0.37)	銅	−			覆土中	第 36 号墓坑 計測のみ
M 546	銭貨	寛永通寳	−	−	(0.77)	銅	1697	新寛永		覆土中	第 36 号墓坑 計測のみ
M 547	銭貨	永樂通寳	2.47	0.57	3.41	銅	1408	明銭	融着して出土	覆土中層	PL60 第 39 号墓坑
M 548	銭貨	寛永通寳	2.38	0.58	2.97	銅	1636	古寛永		覆土中層	PL60 第 39 号墓坑
M 549	銭貨	寛永通寳	2.40	0.56	3.33	銅	1636	古寛永		覆土中層	第 39 号墓坑
M 550	銭貨	寛永通寳	2.44	0.58	2.80	銅	1636	古寛永		覆土中層	第 39 号墓坑
M 551	銭貨	寛永通寳	2.34	0.59	(1.53)	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 39 号墓坑 計測のみ
M 552	銭貨	不明	−	−	(1.87)	銅	−			覆土中層	第 39 号墓坑 計測のみ
M 553	銭貨	寛永通寳	2.29	0.65	2.58	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土下層	第 40 号墓坑
M 554	銭貨	不明	2.25	0.62	2.62	銅	−			覆土下層	第 40 号墓坑
M 555	銭貨	寛永通寳	2.20	0.56	(2.38)	銅	−	判別不能		覆土下層	第 40 号墓坑 計測のみ
M 556	銭貨	不明	−	−		銅	−			覆土下層	第 40 号墓坑 計測のみ
M 557	銭貨	不明	(1.94)	0.61	(0.90)	銅	−			覆土下層	第 40 号墓坑 計測のみ
M 558	銭貨	不明	2.33	0.51	(2.08)	銅	−			覆土下層	第 40 号墓坑 計測のみ
M 559	銭貨	不明	−	−	(1.27)	銅	−			覆土下層	第 40 号墓坑 計測のみ
M 560	銭貨	寛永通寳	2.45	0.57	3.15	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土中	PL60 第 41 号墓坑
M 561	銭貨	寛永通寳	2.48	0.59	2.66	銅	1636	古寛永		覆土中	第 41 号墓坑
M 562	銭貨	寛永通寳	2.51	0.61	(2.57)	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土中	第 41 号墓坑
M 563	銭貨	寛永通寳	2.34	0.61	(2.08)	銅	1697	新寛永		覆土中	第 41 号墓坑
M 564	銭貨	寛永通寳	2.30	0.63	(1.88)	銅	1697	新寛永		覆土中	第 41 号墓坑
M 566	銭貨	寛永通寳	−	(0.66)	(1.14)	銅	1697	新寛永		覆土中	第 41 号墓坑 計測のみ
M 565	銭貨	寛永通寳	−	−	(2.17)	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土中	第 41 号墓坑 計測のみ

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴		出土位置	備　考
M 567	銭貨	寛永通寶	2.46	0.61	2.09	銅	1636	古寛永	融着して出土	覆土中層	第 42 号墓坑
M 568	銭貨	寛永通寶	2.34	0.66	2.62	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 42 号墓坑
M 569	銭貨	寛永通寶	2.54	0.51	3.08	銅	1697	新寛永		覆土中層	PL60 第 42 号墓坑
M 570	銭貨	不明	2.28	0.61	1.23	銅	−			覆土中層	第 42 号墓坑 計測のみ
M 571	銭貨	永□□寶	−	−	(1.80)	銅	−			覆土中層	第 42 号墓坑 計測のみ
M 572	銭貨	寛永通寶	2.30	0.58	1.95	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土下層	第 43 号墓坑
M 573	銭貨	寛永通寶	2.40	0.57	2.54	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土下層	PL60 第 43 号墓坑
M 574	銭貨	寛永通寶	2.43	0.57	3.08	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 43 号墓坑
M 575	銭貨	寛永通寶	2.26	0.66	3.90	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 43 号墓坑 計測のみ
M 576	銭貨	寛永通寶				銅	1697	新寛永		覆土下層	第 43 号墓坑 計測のみ
M 577	銭貨	元祐通寶	2.30	0.64	2.23	銅	1086	北宋銭　行書		覆土下層	第 43 号墓坑 計測のみ
M 580	銭貨	寛永通寶	2.46	0.56	3.68	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土下層	第 44 号墓坑
M 581	銭貨	寛永通寶	2.46	0.56	3.45	銅	1697	新寛永		覆土下層	PL60 第 44 号墓坑
M 582	銭貨	寛永通寶	2.50	0.59	3.10	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 44 号墓坑
M 583	銭貨	寛永通寶	2.47	0.59	3.30	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 44 号墓坑
M 584	銭貨	寛永通寶	2.52	0.57	3.59	銅	1668	新寛永　背「文」		覆土下層	PL60 第 44 号墓坑
M 585	銭貨	寛永通寶	2.45	0.57	3.00	銅	1697	新寛永		覆土下層	PL60 第 44 号墓坑
M 586	銭貨	寛永通寶	2.28	0.65	(1.49)	銅	−	判別不能	融着して出土	覆土下層	第 44 号墓坑 計測のみ
M 587	銭貨	寛永通寶	2.32	0.54	(1.76)	銅	−	判別不能		覆土下層	第 44 号墓坑 計測のみ
M 588	銭貨	寛永通寶	−	0.64	(1.17)	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 44 号墓坑 計測のみ
M 589	銭貨	寛永通寶	2.51	0.60	(1.54)	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 44 号墓坑 計測のみ
M 590	銭貨	不明	−	−	(0.28)	銅	−			覆土下層	第 44 号墓坑 計測のみ
M 591	銭貨	寛永通寶	2.25	0.65	(1.42)	銅	−	判別不能	融着して出土	覆土下層	第 44 号墓坑 計測のみ
M 592	銭貨	□□通□	2.20	0.66	(0.90)	銅	−			覆土下層	第 44 号墓坑 計測のみ
M 578	銭貨	寛永通寶	2.33	0.69	2.00	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土中	第 44 号墓坑
M 579	銭貨	寛永通寶	2.43	0.61	1.87	銅	1697	新寛永		覆土中	PL60 第 44 号墓坑
M 600	銭貨	寛永通寶	2.44	0.55	2.83	銅	1636	古寛永	融着して出土	覆土下層	第 45 号墓坑
M 601	銭貨	寛永通寶	2.50	0.55	(2.60)	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 45 号墓坑
M 602	銭貨	寛永通寶	2.46	0.56	3.36	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 45 号墓坑
M 603	銭貨	寛永通寶	2.48	0.55	3.43	銅	1636	古寛永		覆土下層	第 45 号墓坑
M 604	銭貨	寛永通寶	2.55	0.56	(2.53)	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 45 号墓坑
M 611	銭貨	不明	2.30	0.63	(2.12)	銅	−			覆土下層	第 45 号墓坑 計測のみ
M 610	銭貨	寛永通寶	2.25	0.68	1.41	銅	1697	新寛永		覆土下層	第 45 号墓坑 計測のみ
M 593	銭貨	寛永通寶	2.48	0.56	3.26	銅	1668	新寛永　背「文」	融着して出土	覆土中層	PL60 第 45 号墓坑
M 594	銭貨	寛永通寶	2.45	0.54	(2.87)	銅	1636	古寛永		覆土中層	第 45 号墓坑
M 605	銭貨	寛永通寶	2.23	0.66	3.16	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 45 号墓坑 計測のみ
M 606	銭貨	寛永通寶				銅	−	判別不能		覆土中層	第 45 号墓坑 計測のみ
M 597	銭貨	寛永通寶	2.15	0.64	(1.92)	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土上層	PL60 第 45 号墓坑
M 598	銭貨	寛永通寶	2.41	0.56	3.23	銅	1697	新寛永		覆土上層	第 45 号墓坑
M 599	銭貨	寛永通寶	2.42	0.54	2.74	銅	1636	古寛永		覆土上層	PL60 第 45 号墓坑
M 609	銭貨	不明	(2.32)	0.67	(2.38)	銅	−			覆土上層	第 45 号墓坑 計測のみ
M 595	銭貨	寛永通寶	2.28	0.55	(2.19)	銅	1636	古寛永		覆土中	第 45 号墓坑
M 596	銭貨	寛永通寶	2.32	0.57	2.28	銅	1697	新寛永	融着して出土	覆土中	第 45 号墓坑
M 607	銭貨	寛永通寶	2.35	0.60	(1.37)	銅	1697	新寛永		覆土中	第 45 号墓坑 計測のみ
M 608	銭貨	寛永通寶	2.34	0.57	(2.58)	銅	−	判別不能		覆土中	第 45 号墓坑 計測のみ

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴		出土位置	備　考
M 612	銭貨	寛永通寶	2.27	0.57	(1.69)	銅	1636	古寛永	融着して出土	覆土中層	第 46 号墓坑
M 613	銭貨	寛永通寶	(2.02)	0.56	(1.38)	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 46 号墓坑
M 614	銭貨	寛永通寶	2.27	0.65	(1.37)	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 46 号墓坑
M 615	銭貨	寛永通寶	2.25	0.60	1.76	銅	1697	新寛永		覆土中層	第 46 号墓坑
M 616	銭貨	寛永通寶	2.20	0.63	(1.78)	銅	－	判別不能		覆土中層	第 46 号墓坑 計測のみ
M 617	銭貨	不明	－	－	(0.39)	銅	－			覆土中層	第 46 号墓坑 計測のみ

表 16　江戸時代墓坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規　　模		壁　面	底　面	覆　土	主 な 出 土 遺 物	備　考
				長径×短径（m）	深さ(cm)					
1	E 10a8	N － 38° － W	楕円形	1.44 × 1.12	48	外傾	平坦	人為	小刀，銭貨，人骨	
2	E 10a9	N － 44° － W	楕円形	1.32 × 1.16	67	外傾	皿状	人為		
3	D 10j9	－	円形	1.76 × 1.76	52	外傾	平坦	人為	磁器，煙管，銭貨	墓坑 9・38・43・45 →本跡
4	D 10j0	N － 70° － W	不定形	1.30 × 0.66	32	外傾	平坦	人為	銭貨・人骨	本跡→墓坑 33
5	D 10i8	－	円形	0.94 × 0.90	14	外傾	凹凸	人為		
6	D 10i9	N － 2 ° － E	楕円形	1.00 × 0.72	20	外傾	平坦	人為	銭貨	
7	D 10i7	N － 38° － W	隅丸長方形	1.34 × 0.96	25	外傾	平坦	人為	土師質土器	
8	E 10a9	N － 45° － E	楕円形	0.98 × 0.90	38	外傾	皿状	人為		
9	D 10j0	N － 54° － E	楕円形	(0.60) × 0.59	36	外傾	平坦	人為	銭貨	墓坑 34・35 →本跡→墓坑 3
10	D 10j0	N － 66° － E	隅丸長方形	(1.08) × 1.00	34	外傾	平坦	人為	銭貨	本跡→墓坑 38・45
11	D 10i9	－	隅丸方形	1.35 × 1.35	45	外傾	皿状	人為	数珠玉，銭貨	墓坑 15・27 →本跡→墓坑 29
12	D 10i9	N － 37° － W	楕円形	1.53 × 1.25	41	外傾	平坦	人為	煙管，銭貨	
13	D 10j8	N － 3 ° － W	楕円形	0.84 × 0.72	57	外傾	平坦	人為	銭貨	
14	D 10j8	－	［円形］	1.23 × (0.88)	22	外傾	平坦	人為	陶器，磁器，土師質土器，数珠玉，銭貨，人骨	
15	D 10i9	N － 31° － W	楕円形	0.98 × 0.90	54	外傾・緩斜	平坦	人為	銭貨	本跡→墓坑 11
16	D 10j9	N － 30° － W	楕円形	0.88 × 0.76	60	外傾	平坦	人為	煙管，銭貨	墓坑 26 →本跡
17	D 10j9	N － 45° － E	楕円形	0.74 × 0.53	48	直立	皿状	人為	銭貨	
18	D 10j9	－	円形	0.54 × 0.52	20	外傾	平坦	人為		
19	D 10j9	N － 40° － E	楕円形	1.08 × 0.88	45	外傾	皿状	人為	銭貨	墓坑 46 →本跡
20	D 10j9	N － 43° － W	隅丸長方形	1.17 × 0.76	56	外傾	平坦	人為	石製品，銭貨	墓坑 39 →本跡→墓坑 25
21	D 10j9	N － 34° － E	楕円形	0.80 × 0.70	－	－	－	人為	数珠玉，銭貨	墓坑 39 →本跡
22	D 10j8	N － 1 ° － W	楕円形	0.98 × 0.73	55	外傾	平坦	人為	銭貨	墓坑 23 →本跡
23	D 10j8	N － 23° － E	［楕円形］	(0.68) × 0.66	16	外傾・緩斜	平坦	人為		本跡→墓坑 22
24	D 10j8	N － 12° － W	楕円形	1.00 × 0.68	37	外傾	平坦	人為	銭貨	
25	D 10j9	N － 38° － W	楕円形	0.76 × 0.64	－	－	－	人為		墓坑 20・37 →本跡
26	D 10j9	N － 20° － W	不定形	1.36 × 0.98	36	－	－	人為		本跡→墓坑 16・41
27	D 10i9	N － 50° － E	［隅丸方形］	[0.92] × [0.90]	40	外傾	平坦	人為		本跡→墓坑 11
28	D 10i8	－	［円形］	0.82 × (0.74)	30	外傾	平坦	人為	銭貨	本跡→墓坑 35
29	D 10i9	N － 26° － W	楕円形	0.86 × 0.76	52	外傾	平坦	人為	銭貨	墓坑 11 →本跡
30	D 10j8	N － 52° － E	楕円形	1.06 × 0.70	－	－	－	人為	銭貨	墓坑 37 →本跡
31	D 10j9	N － 59° － E	楕円形	0.82 × 0.70	56	緩斜	皿状	人為	銭貨	
32	D 10j8	N － 42° － W	楕円形	1.20 × 0.86	50	外傾	平坦	人為	土師質土器，銭貨	
33	D 10j0	－	円形	0.66 × (0.62)	39	外傾	平坦	人為	数珠玉，銭貨	墓坑 4・34 →本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ(cm)					
34	D 10j0	−	円形	0.94 × 0.88	40	外傾	皿状	人為	銭貨	本跡→墓坑 9・33
35	D 10i9	−	不整円形	0.69 × 0.65	30	外傾	平坦	人為	指輪，銭貨	墓坑 28 →本跡
36	D 10j8	−	円形	0.98 × 0.94	49	外傾	平坦	人為	銭貨	
37	D 10j9	N − 38° − W	［楕円形］	0.86 × (0.76)	22	外傾	平坦	人為		本跡→墓坑 25・30
38	E 10a0	−	［楕円形］	[0.70] × 0.66	52	外傾	平坦	人為		墓坑 10・45 →本跡→墓坑 3
39	D 10i9	−	［円形］	0.84 × (0.60)	−	−	−	人為	銭貨	本跡→墓坑 20・21・44
40	E 10a9	−	円形	0.30 × 0.30	28	外傾	平坦	人為	銭貨	
41	D 10j9	N − 15° − E	楕円形	0.68 × 0.44	44	外傾	平坦	人為	銭貨	墓坑 26 →本跡
42	E 10a8	−	［円形］	0.94 × (0.80)	40	外傾	平坦	人為	銭貨	
43	E 10a0	N − 4° − W	楕円形	0.92 × 0.70	52	外傾	平坦	人為	銭貨	本跡→墓坑 3
44	D 10j9	−	円形	0.74 × 0.74	82	外傾・直立	平坦	人為	銭貨	墓坑 39 →本跡
45	D 10j0	−	［円形］	0.70 × [0.60]	52	外傾	平坦	人為	数珠玉，銭貨	墓坑 10 →本跡→墓坑 3・9・38
46	D 10j9	−	［円形］	1.70 × (1.50)	64	外傾	皿状	人為	数珠玉，銭貨	本跡→墓坑 19

(4) 粘土貼土坑

粘土貼土坑 15 基のうち，第 1 ～ 6 号粘土貼土坑の遺構平面図については調査区東端部のＣ 12f3 区からＣ 12g3 区にかけての狭い範囲に位置するため，一括して掲載する。第 7 ～ 15 号粘土貼土坑については，遺構ごとに掲載・解説する。

第 1 号粘土貼土坑（第 220 図）

位置　調査区東端部のＣ 12g3 区，標高 12 mほどの斜面部に位置する。

規模と形状　掘方の規模は，径 1.30 mほどの円形で，深さは 32cmである。断面はＵ字状である。掘方の底面と壁面に，厚さ８～ 18cmの粘土を貼り付けている。粘土の内側は，径 1.06 mほどの円形で，深さは 24cmである。底面は平坦で，壁は直立している。底面の壁際で，径 1.00 m，幅２cm，深さは 10cmほどの円形の溝を確認した。

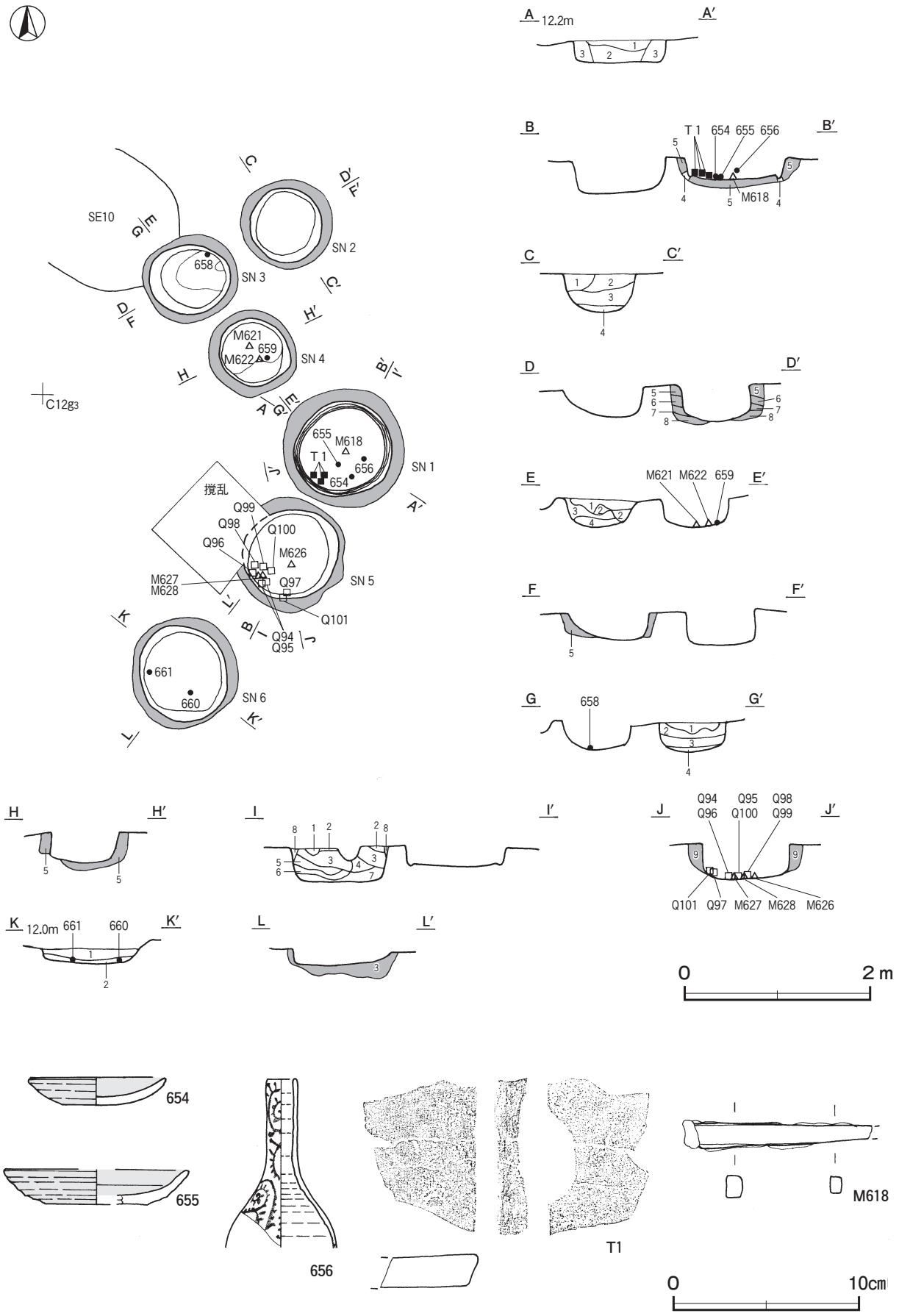
覆土　４層に分層できる。ブロック状の不自然な堆積状況であることから埋め戻されている。第４層は底面壁際を一周する溝の覆土である。第５層は貼られた粘土の層である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
5　オリーブ褐色　粘土ブロック多量（大ブロック）

遺物出土状況　陶器片２点（小皿），磁器片１点（花瓶），土師質土器片１点（鉢），鉄製品１点（不明），瓦２点（平瓦）が出土している。654・655・Ｔ１は南部，Ｍ 618 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。656 は南部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土遺物から 18 世紀以降に比定できる。底面の円形の溝は，据えられていた桶の底部の痕跡と考えられ，用途は水溜や手洗い場などであったと考えられる。



第 220 図　第１～６号粘土貼土坑・第１号粘土貼土坑出土遺物実測図

第１号粘土貼土坑出土遺物観察表（第 220 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
654	陶器	小皿	7.4	1.5	3.4	長石・石英	にぶい赤褐	良好	鉄釉	覆土下層	100%　PL43 瀬戸美濃系
655	陶器	小皿	［9.8］	1.9	［5.6］	長石	暗赤褐	良好	鉄釉　内面トチン痕	覆土下層	40%　PL43 瀬戸美濃系
656	磁器	花瓶	1.6	（9.2）	－	緻密	灰白	良好	染付	覆土中層	40%　PL43 肥前系

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 618	不明鉄製品	（10.2）	1.4	0.6～0.9	（28.8）	鉄	端部敲打による歪み　端部欠損　断面長方形	覆土下層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
T 1	平瓦	（8.3）	（6.3）	1.7	（108.7）	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	外面丁寧なナデ	覆土下層	PL56

第２号粘土貼土坑（第 220 図）

位置　調査区東端部のＣ 12f3 区，標高 12 mほどの斜面部上に位置する。

規模と形状　掘方の規模は，径 1.00 mほどの円形で，深さは 40cmである。断面はＵ字状である。掘方の底面と壁面に，厚さ２～ 16cmの粘土を貼り付けている。粘土の内側は，径 0.80 mほどの円形で，深さは 38cmである。底面は皿状で，壁は直立している。

覆土　４層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第５～８層は互層状に貼られた粘土の層である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　灰 黄 褐 色　砂粒中量
5　褐　　色　粘土ブロック・炭化粒子少量
6　明 黄 褐 色　粘土粒子中量，炭化粒子微量
7　浅　黄　色　粘土ブロック多量
8　にぶい黄色　粘土ブロック多量

遺物出土状況　陶器片１点（碗），磁器片２点（碗），鉄製品２点（不明），銭貨２点（不明），瓦２点が出土している。M 619・M 620 は覆土中から出土している。

所見　時期は，M 619・M 620 が鉄銭の可能性が高いことから，18 世紀中葉以降と考えられる。底面から壁面にかけて粘土が貼られていることから，甕などが据え付けられていたと考えられ，用途は水溜や手洗い場などであったと考えられる。

第２号粘土貼土坑出土遺物観察表

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 619	銭貨	不明	2.72	－	（5.26）	鉄$_{カ}$	－	全面が鉄錆に覆われている	覆土中	計測のみ
M 620	銭貨	不明	2.62	－	（4.98）	鉄$_{カ}$	－	全面が鉄錆に覆われている	覆土中	計測のみ

第３号粘土貼土坑（第 220・221 図）

位置　調査区東端部のＣ 12f3 区，標高 12 mほどの斜面部上に位置する。

重複関係　第 10 号井戸跡を掘り込んでいる。

規模と形状　掘方の規模は，長径 1.04 m，短径 0.94 mの楕円形で，長径方向は，N － 76° － Eである。深さは 28 cmである。断面は，Ｕ字状である。掘方の底面の一部と壁面に厚さ１～ 14cmの粘土を貼り付けている。粘土の内側は，長径 0.88 m，短径 0.75 mの楕円形で，深さは 28cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ちあがっている。

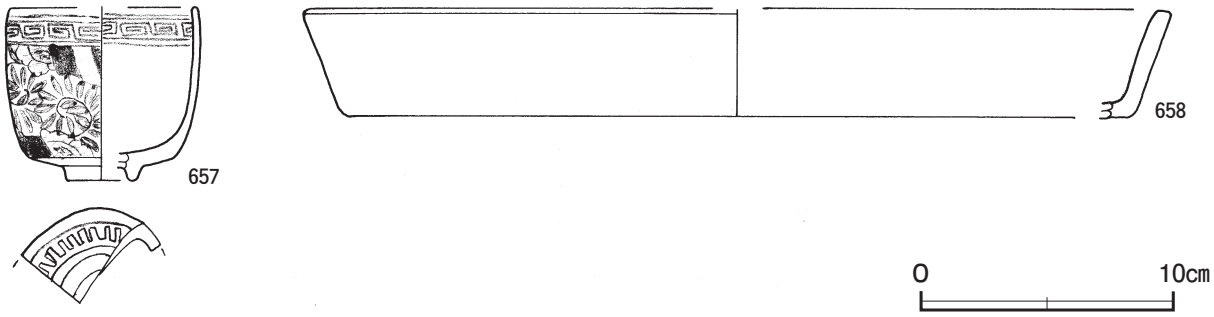
覆土　４層に分層できる。各層に粘土ブロックが含まれ，ブロック状の不自然な堆積状況から埋め戻されている。第５層は貼られた粘土の層である。

土層解説

1　灰　褐　色　粘土ブロック少量
2　オリーブ褐色　粘土ブロック中量
3　オリーブ褐色　粘土ブロック少量
4　黄　褐　色　粘土ブロック微量
5　にぶい黄色　粘土ブロック多量

遺物出土状況　陶器片１点（不明），磁器片１点（湯呑），土師質土器片１点（焙烙），鉄製品１点（不明），瓦１点が出土している。658 は北壁際の覆土下層，657 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土遺物から 18 世紀代と考えられる。底面から壁面にかけて粘土が貼られていることから，甕などが据え付けられていたと考えられ，用途は水溜や手洗い場などであったと考えられる。



第 221 図　第３号粘土貼土坑出土遺物実測図

第３号粘土貼土坑出土遺物観察表（第 221 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
657	磁器	湯呑	[7.4]	6.9	[2.6]	緻密	灰白	良好	染付	覆土中	30% 肥前系
658	土師質土器	焙烙	[33.7]	4.3	[31.1]	長石・石英・ 赤色粒子	灰褐	普通	外・内面ナデ	覆土下層	５％

第４号粘土貼土坑（第 220・222 図）

位置　調査区東端部のＣ 12f3 区，標高 12 ｍほどの斜面部上に位置する。

規模と形状　掘方の規模は径 0.94 ｍの円形で，深さは 42㎝である。断面はゆがんだ形である。掘方の底面と壁面に，厚さ 10 ～ 14㎝の粘土を貼り付けている。粘土の内側は，径 0.76 ｍほどの円形で，深さは 32㎝である。底面は平坦で，壁は直立している。

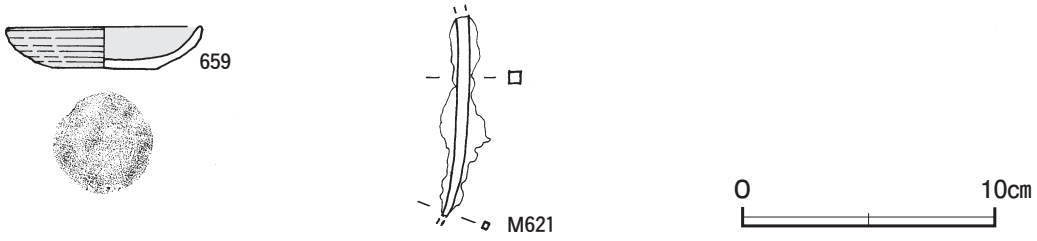
覆土　４層に分層できる。粘土ブロックや砂粒が含まれる不自然な堆積状況から埋め戻されている。第５層は貼られた粘土の層である。

土層解説

1　黄　褐　色　粘土ブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　灰　褐　色　砂粒中量，ロームブロック微量
5　にぶい黄褐色　粘土ブロック多量

遺物出土状況　陶器片４点（碗３，小皿１），磁器片３点（碗），金属製品５点（釘２，銅線３），銭貨４点（不明）が出土している。659・M 621・M 622 は中央部の覆土下層，M 623 ～M 625 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，M 623 ～M 625 が鉄銭の可能性が高いことから，18 世紀中葉以降と考えられる。底面から壁面にかけて粘土が貼られていることから，桶などが据え付けられていたと考えられ，用途は水溜や手洗い場などであったと考えられる。



第 222 図　第４号粘土貼土坑出土遺物実測図

第４号粘土貼土坑出土遺物観察表（第 222 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
659	陶器	小皿	7.6	1.6	4.0	長石・石英	にぶい赤褐	良好	内面環状の重ね痕　鉄釉	覆土下層	100%　PL43 瀬戸美濃系

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 621	釘カ	(8.0)	(1.1)	(0.2～0.5)	(14.9)	鉄	錆の付着顕著　両端欠損　断面正方形	覆土下層	

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　徴	出土位置	備　考
M 622	銭貨	不明	－	－	(7.02)	鉄カ	－	破片で全面が鉄錆に覆われている	覆土下層	計測のみ
M 623	銭貨	不明	2.75	－	(6.10)	鉄カ	－	全面が鉄錆に覆われている	覆土中	計測のみ
M 624	銭貨	不明	2.85	－	(5.62)	鉄カ	－	全面が鉄錆に覆われている	覆土中	計測のみ
M 625	銭貨	不明	－	－	(7.89)	鉄カ	－	破片で全面が鉄錆に覆われている	覆土中	計測のみ

第５号粘土貼土坑（第 220・223 図）

位置　調査区東端部のＣ 12g3 区，標高 12 ｍほどの斜面部上に位置する。

重複関係　第３号柱穴列に掘り込まれている。

規模と形状　掘方の規模は径 1.22 ｍの円形で，深さは 38㎝である。断面はＵ字状である。掘方の壁面に，厚さ２～10㎝の粘土を貼り付けている。粘土の内側は，径 1.04 ｍほどの円形で，深さは 38㎝である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

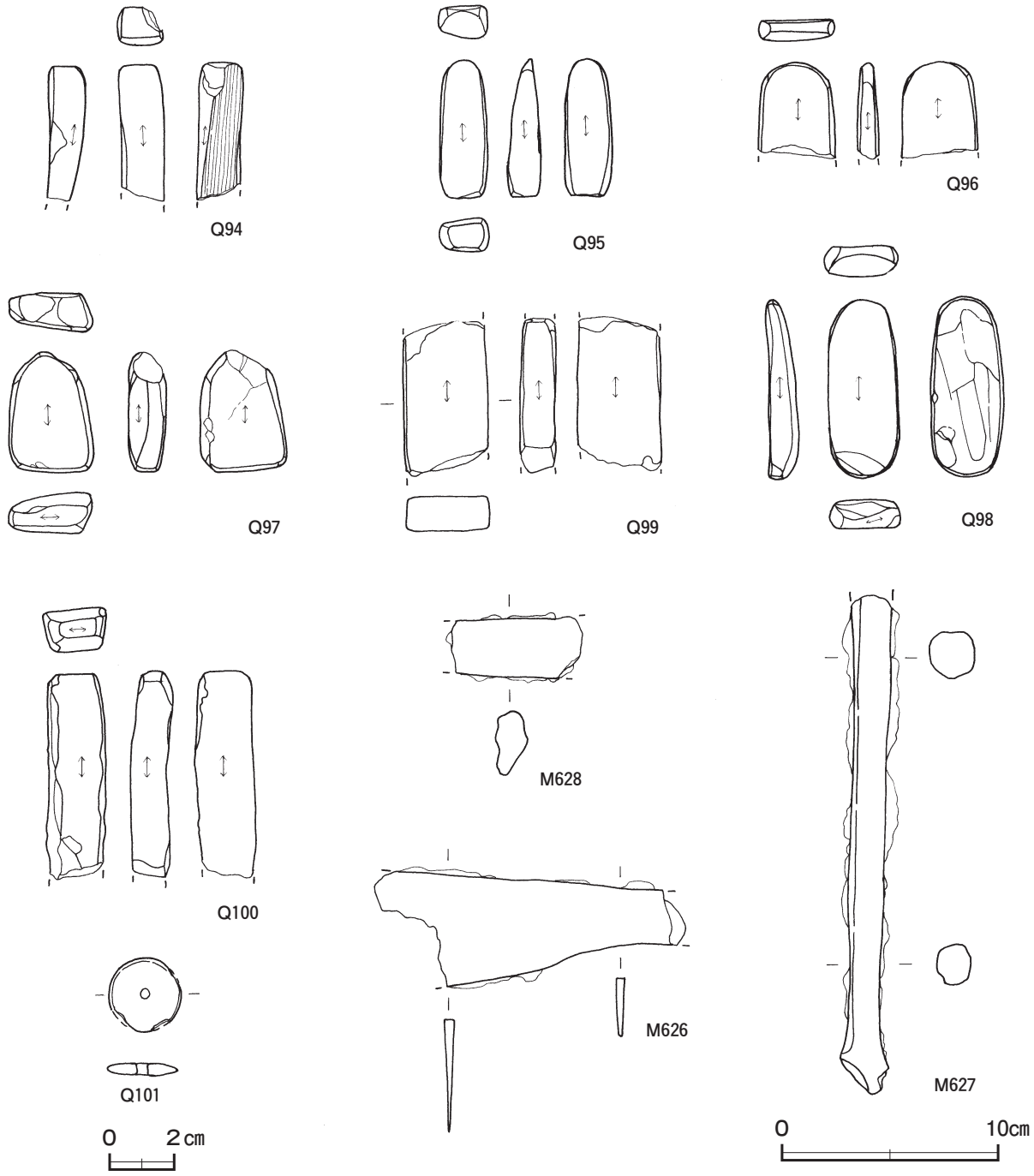
覆土　８層に分層できる。ブロック状の不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。第９層は貼られた粘土の層である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
3　暗　褐　色　粘土ブロック少量
4　黒　褐　色　粘土ブロック微量
5　暗　褐　色　粘土ブロック微量
6　暗　褐　色　粘土ブロック中量
7　灰 黄 褐 色　砂粒少量
8　オリーブ褐色　粘土ブロック中量
9　にぶい黄褐色　粘土粒子多量

遺物出土状況　陶器片１点（碗），磁器片１点（碗），土師質土器片１点（焙烙），石器７点（砥石），石製品１点（不明），鉄製品３点（包丁１，不明２）のほか，土師器片 11 点（坏６，甕類５），鉄滓３点（2.1 ｇ）が出土している。M 626 は中央部，Ｑ 94 ～Ｑ 101，M 627・M 628 はまとまって南西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土遺物の様相や遺構の形状から 18 世紀代と考えられる。底面に粘土が貼られていることから，桶などが据え付けられ，砥石や包丁が出土していることから，用途は水溜や作業場などの可能性がある。



第 223 図　第５号粘土貼土坑出土遺物実測図

第５号粘土貼土坑出土遺物観察表（第 223 図）

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 101	有孔円板	2.2	0.4	0.3	(2.7)	凝灰岩	全面研磨	覆土下層	PL52

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 94	砥石	(6.2)	2.1	1.7	(33.6)	凝灰岩	砥面４面	覆土下層	PL51
Q 95	砥石	6.4	2.3	1.5	31.1	凝灰岩	砥面４面	覆土下層	
Q 96	砥石	(4.5)	3.6	0.9	(23.1)	凝灰岩	砥面４面	覆土下層	
Q 97	砥石	5.6	3.9	1.38	(44.0)	凝灰岩	砥面５面	覆土下層	
Q 98	砥石	8.3	3.4	1.5	54.2	凝灰岩	砥面４面	覆土下層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 99	砥石	(7.2)	3.9	1.8	(80.9)	凝灰岩	砥面４面	覆土下層	
Q 100	砥石	(9.6)	2.9	2.0	(78.8)	凝灰岩	砥面５面	覆土下層	PL51

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 626	包丁	(14.5)	(5.6)	0.4	(219.4)	鉄	両端欠損　刃部断面三角形　茎部断面台形	覆土下層	
M 627	不明	(23.1)	2.7	1.9～2.2	(269.7)	鉄	端部欠損　錆付着のため断面形不明	覆土下層	
M 628	不明	(6.1)	2.9	1.4	(44.3)	鉄	錆付着のため断面形不定形	覆土下層	

第６号粘土貼土坑（第 220・224 図）

位置　調査区東端部のＣ 12g3 区，標高 12 mほどの斜面部上に位置する。

規模と形状　掘方の規模は，径 1.26 mほどの円形で，深さは 28cmである。断面はＵ字状である。掘方の底面と壁面に，厚さ８～ 20cmの粘土を貼り付けている。粘土の内側は，長径 1.04 m，短径 0.94 mの楕円形で，深さは 16cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

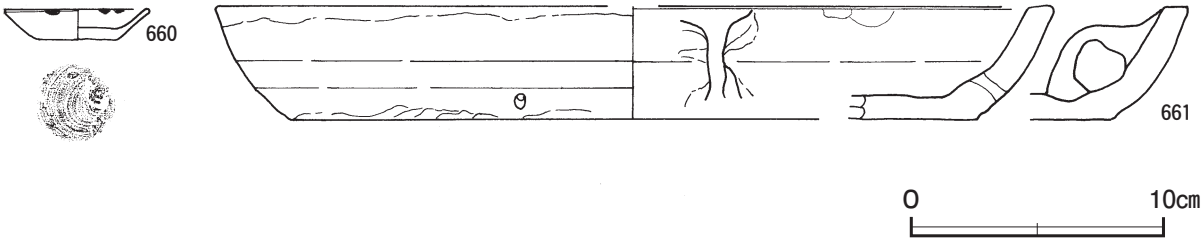
覆土　２層に分層できる。粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第３層は貼られた粘土の層である。

土層解説

１　黒　褐　色　粘土ブロック少量，炭化物微量
２　灰　褐　色　粘土ブロック微量
３　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，ローム粒子微量

遺物出土状況　陶器片１点（碗），土師質土器片３点（小皿１，焙烙２），銅製品１点（煙管），銭貨１点（不明）が出土している。660 は南部，661 は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。M 629 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器やM 629 が鉄銭の可能性が高いことから 18 世紀中葉以降と考えられる。底面から壁面にかけて粘土が貼られていることから，桶などが据え付けられていたと考えられ，用途は水溜や手洗い場などであったと考えられる。



第 224 図　第６号粘土貼土坑出土遺物実測図

第６号粘土貼土坑出土遺物観察表（第 224 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
660	土師質土器	小皿	5.7	1.2	3.0	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り離し　外・内面ナデ	覆土下層	95%　PL43
661	土師質土器	焙烙	[33.3]	4.5	[27.4]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	内耳１か所残存　補修のための穿孔１か所	覆土下層	15%　PL43

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 629	銭貨	不明	2.55	－	(4.06)	鉄$_{カ}$	－	全面が鉄錆に覆われている	覆土中	計測のみ

第７号粘土貼土坑（第 225 図）

位置　調査区西端部のＺ１j9 区，標高 18 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 15 号粘土貼土坑に掘り込まれている。

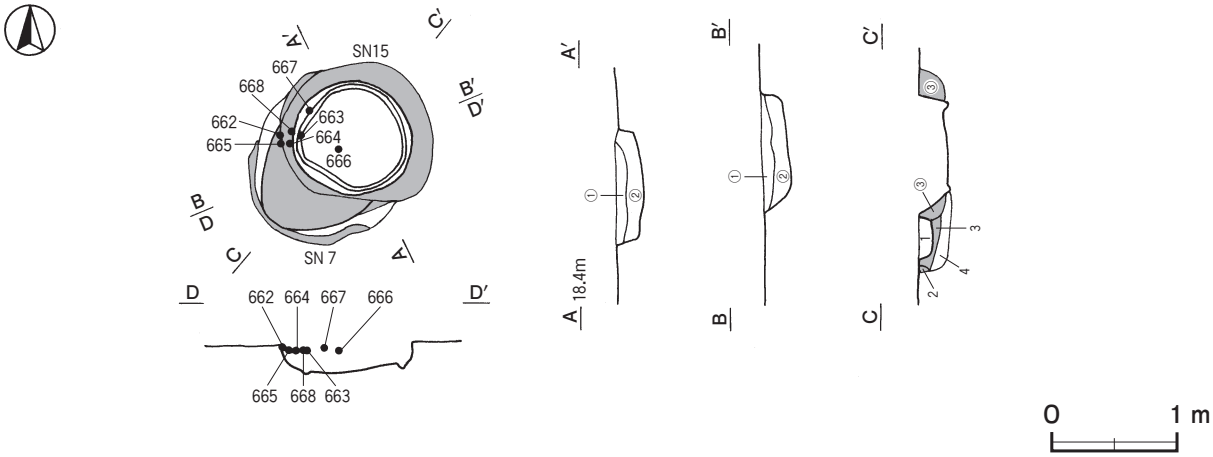
規模と形状　北東部の大部分が第 15 号粘土貼土坑に掘り込まれているため，掘方の規模は，長径 1.26 mで，短径は 0.40 mしか確認できなかったが，楕円形と推測でき，長径方向は，N － 40° － Eである。深さは 24cmで，断面はU字状である。掘方の底面と壁面に第４層を埋土し，その上に厚さ４～ 24cmの粘土を貼り付けている。粘土の内側は，長径 0.92 mで短径は 0.36 mしか確認できなかった。楕円形と推測でき，深さは 20cmである。底面は平坦で，壁は直立している。

覆土　単一層である。粘土粒子が含まれていることから埋め戻されている。第２・３層が貼られた粘土の層，第４層が掘方への埋土である。

土層解説

1　にぶい褐色　粘土粒子少量
2　灰　褐　色　粘土粒子多量
3　にぶい褐色　粘土粒子中量
4　褐　灰　色　ローム粒子微量

所見　時期は，伴う遺物が出土していないが，遺構の形状と重複関係から第 15 号粘土貼土坑が作られる以前で 18 世紀中葉以前の江戸時代と考えられる。底面から壁面にかけて粘土が貼られていることから，桶などが据え付けられていたと考えられ，用途は水溜や手洗い場などであったと考えられる。



第 225 図　第７・15 号粘土貼土坑実測図

第 15 号粘土貼土坑（第 225・226 図）

位置　調査区西端部のＺ１j9 区，標高 18 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第７号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　掘方の規模は，径 1.20 mほどの円形で，深さは 22cmである。断面はU字状である。掘方の底面の外周と壁面に厚さ１～ 28cmの粘土を貼り付けている。粘土の内側は，径 0.92 mほどの円形で，深さは 22cmである。底面は平坦で，壁は直立している。底面の壁際で，径 86cm，幅４cm，深さは４cmほどの円形の溝を確認した。

覆土　２層に分層できる。粘土粒子を含み，不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。第③層は貼られた粘土の層である。

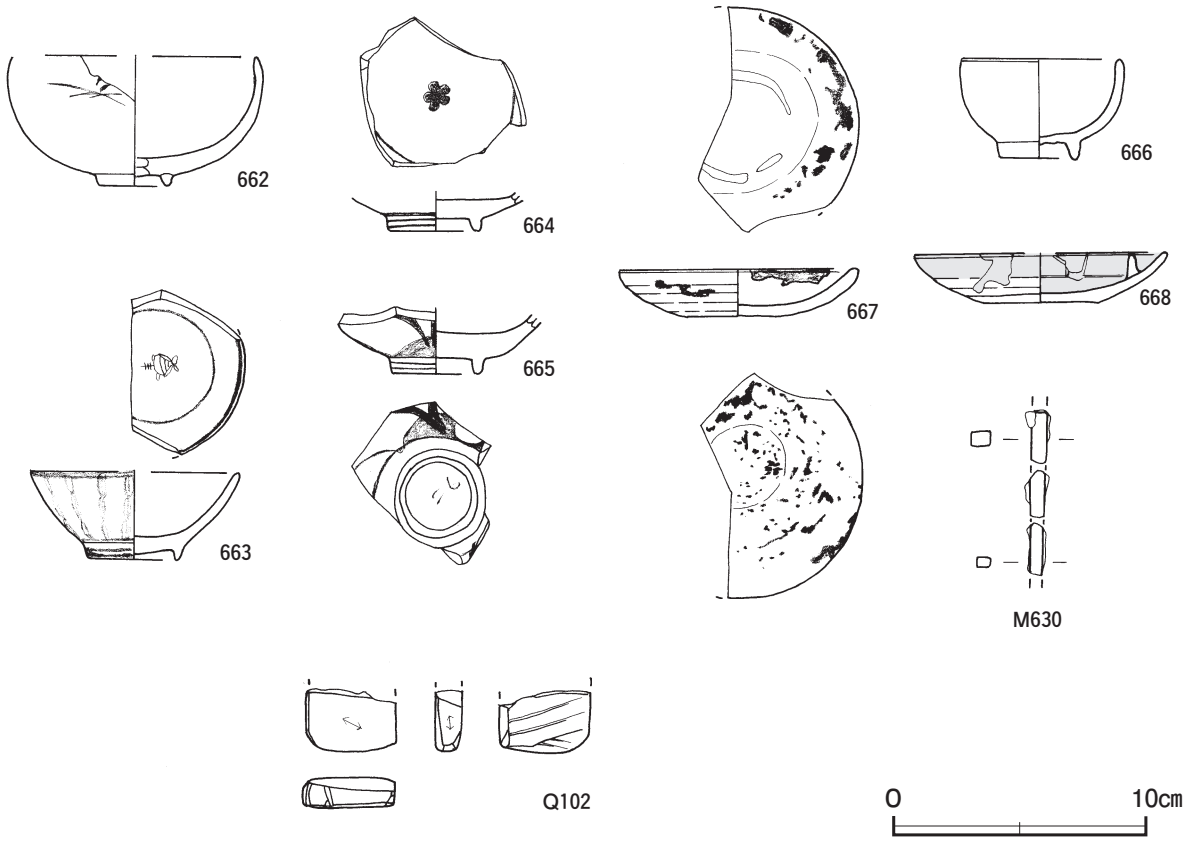
土層解説

① 暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量　　③ 褐　灰　色　粘土粒子多量

② 暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　陶器片 14 点（碗 12, 灯明皿２），磁器片５点（碗），土師質土器片１点（鍋），石器１点（砥石），鉄製品１点（釘）のほか，土師器片１点（甕）が出土している。662 ～ 668 は西壁際を中心とした覆土上層から出土している。Q 102・M 630 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から 18 世紀中葉以降に比定できる。底面から壁面にかけて粘土が貼られていることから，桶などが据え付けられていたと考えられ，用途は水溜や手洗い場などであったと考えられる。



第 226 図　第 15 号粘土貼土坑出土遺物実測図

第 15 号粘土貼土坑出土遺物観察表（第 226 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
662	陶器	碗	[9.6]	5.2	[2.8]	緻密	浅黄	良好	透明釉	覆土上層	30% 瀬戸美濃系
663	磁器	碗	[8.2]	3.6	3.4	緻密	灰白	良好	染付	覆土上層	40% PL43 肥前系
664	磁器	碗	－	(1.6)	3.6	緻密	明オリーブ灰	良好	染付	覆土上層	20% 肥前系
665	磁器	碗	－	(2.6)	3.5	緻密	灰白	良好	染付	覆土上層	10% 肥前系
666	磁器	碗	6.1	4.0	3.0	緻密	灰白	良好	透明釉	覆土上層	50% PL43 肥前系
667	陶器	灯明皿	[9.5]	1.9	3.5	長石	明赤褐	良好	外・内面煤付着　鉄釉	覆土上層	60% PL43 瀬戸美濃系
668	陶器	灯明皿	[9.9]	2.0	[4.6]	長石	にぶい赤褐	良好	鉄釉	覆土上層	30% PL43 瀬戸美濃系

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 102	砥石	(2.4)	3.7	1.1	(16.0)	凝灰岩	砥面３面	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 630	釘	(6.5)	0.5 ～ 0.8	0.4 ～ 0.6	(43.0)	鉄	錆の付着顕著　両端欠損　断面長方形	覆土中	

第８号粘土貼土坑（第 227 図）

位置　調査区西部のＡ１d6 区，標高 18 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 55 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　掘方の規模は，長軸 1.60 ｍ，短軸 1.36 ｍの隅丸長方形で，長軸方向は，Ｎ－ 10°－Ｗである。深さは 44cmで，断面は方形である。掘方の底面と壁面に厚さ 12 ～ 40cmの粘土を貼り付けている。粘土の内側は，長軸 0.98 ｍ，短軸 0.90 ｍの隅丸長方形で，深さは 22cmである。底面は平坦で，壁は直立している。各コーナー部には径 12cmほどの円形で，深さ 14cmほどのピットが設けられている。

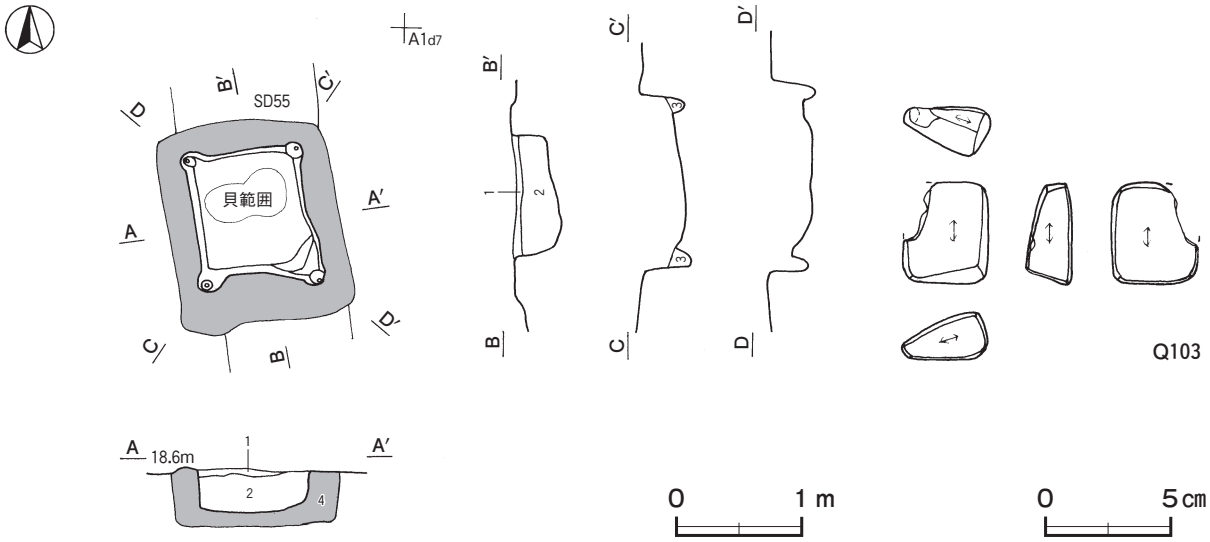
覆土　３層に分層できる。各層に粘土粒子が含まれ，第２層には貝殻が含まれていることから埋め戻されている。第３層は各コーナー部の円形のピットの覆土で，第４層は貼られた粘土の層である。

土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子中量，
2　暗　褐　色　粘土粒子微量，貝殻を含む
3　黒　褐　色　粘土粒子微量
4　灰　褐　色　粘土粒子多量

遺物出土状況　石器１点（砥石），自然遺物 295 点（貝 557.8 ｇ）が出土している。Ｑ 103 は覆土中から出土している。貝殻は主に第２層上層で，タニシ 35 点（3.4 ｇ），ヤマトシジミ 227 点（349.4 ｇ），オオタニシ 33 点（205.0 ｇ）が出土している。

所見　時期は，重複関係から 18 世紀中葉以降と考えられる。本跡は，各コーナー部に柱穴状のピットがあることから，簡易的な上屋構造をもつものと考えられる。用途は，砥石が出土していることから，水溜や手洗い場などとして機能し，廃絶後に廃棄土坑として機能したと考えられる。



第 227 図　第８号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第８号粘土貼土坑出土遺物観察表（第 227 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Ｑ 103	砥石	4.0	3.3	1.8	(25.0)	凝灰岩	砥面５面	覆土中	

第９号粘土貼土坑（第 228 図）

位置　調査区西部のＡ３g6 区，標高 17 ｍほどの東へ向かう緩斜面部に位置している。

重複関係　第９号地下式坑を掘り込んでいる。

規模と形状　掘方の規模は，軸長 0.90 mほどの不定形で，軸方向はＮ－ 42°－Ｅである。深さは 34㎝で，断面はＵ字状である。掘方の底面に厚さ４～８㎝の粘土を貼り付けている。粘土の内側は，長軸 0.78 m，短軸 0.70 mの不定形で，深さは 26㎝である。底面は平坦で，壁は直立している。

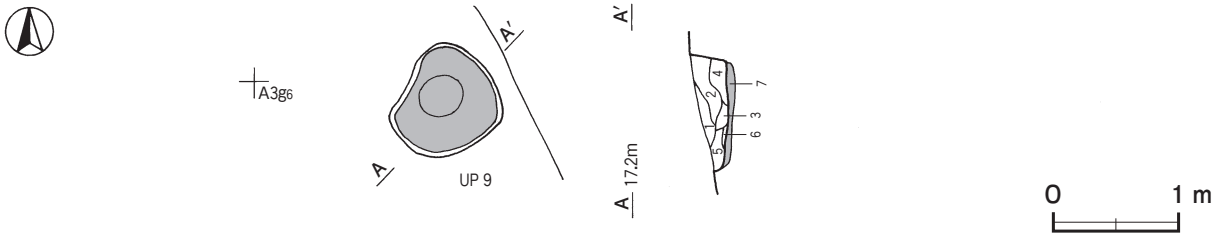
覆土　６層に分層できる。ロームブロックや焼土を含むブロック状の堆積状況から，埋め戻されている。第７層は貼られた粘土の層である。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子・粘土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，ロームブロック微量
6　にぶい黄褐色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
7　灰　　色　粘土粒子多量

遺物出土状況　陶器片１点（碗）が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見　時期は，重複関係と遺構の形状から江戸時代と考えられる。底面に粘土が貼られていることから，桶などが据え付けられていたと考えられ，用途は水溜や手洗い場などであったと考えられる。



第 228 図　第９号粘土貼土坑実測図

第 10 号粘土貼土坑（第 229 図）

位置　調査区西部のＡ２c1 区，標高 18 mほどの平坦な台地上に位置している。

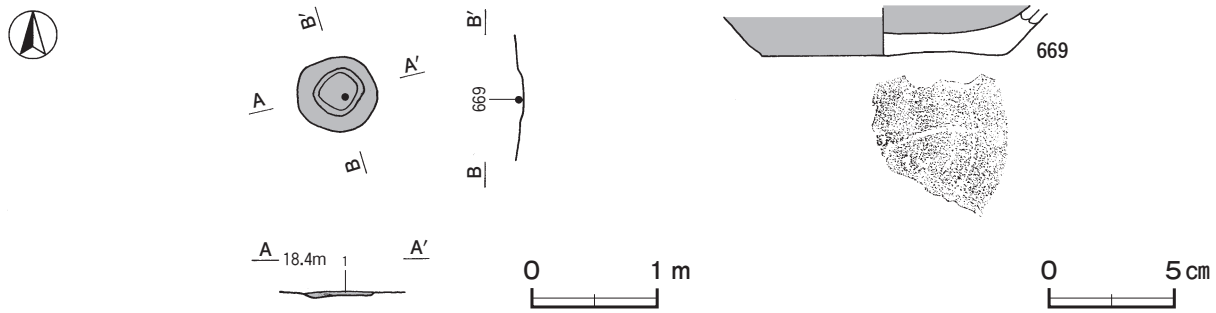
確認状況　上部は作平されているため，底部しか確認できなかった。径 0.6 mほどの粘土範囲を確認した。

規模と形状　掘方の規模は径 0.64 mほどの円形で，深さは４㎝である。断面は浅いＵ字状である。掘方の底面と壁面に粘土を貼って構築されていたと推測できる。掘方の底面で厚さ４㎝の粘土範囲のみを確認したため，粘土が貼られていた部分の規模は不明である。

覆土　覆土は確認できなかったため，堆積状況は不明である。第１層は貼られた粘土の層である。

土層解説

1　暗　褐　色　粘土粒子中量



第 229 図　第 10 号粘土貼土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　陶器片１点（鉢），鉄製品１点（釘）が出土している。669 は第１層の上面から出土している。

所見　時期は，出土遺物と遺構の形状から 18 世紀中葉と考えられる。用途は，粘土が貼られていることから甕などを据えていたと考えられるが，詳細は不明である。

第 10 号粘土貼土坑出土遺物観察表（第 229 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
669	陶器	鉢	－	(1.9)	(9.7)	長石	黒褐	普通	鉄釉	第１層上面	５％ 瀬戸美濃系

第 11 号粘土貼土坑（第 230 図）

位置　調査区西部のＡ１d0 区，標高 18 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

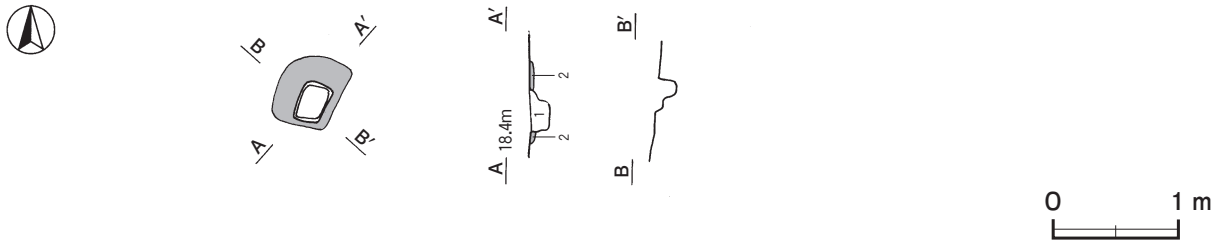
規模と形状　掘方の規模は，長軸 0.54 ｍ，短軸 0.50 ｍの不定形で，長軸方向はＮ－ 40°－Ｅである。深さは 16㎝で，断面は不定形である。掘方の底面の外周部に厚さ２～ 20㎝の粘土を貼り付けている。粘土の内側は，長軸 0.34 ｍ，短軸 0.22 ｍの不定形で，深さは 16㎝である。底面は平坦で，壁は直立もしくは外傾して立ち上がっている。

覆土　単一層である。粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第２層は貼られた粘土の層である。

土層解説

１　暗　褐　色　粘土ブロック微量　　２　灰　褐　色　粘土ブロック中量

所見　時期は，伴う遺物が出土していないが，遺構の形状から江戸時代と考えられる。用途は，粘土が貼られていることから甕などを据えていたと考えられるが，詳細は不明である。



第 230 図　第 11 号粘土貼土坑実測図

第 12 号粘土貼土坑（第 231 図）

位置　調査区西部のＡ１c0 区，標高 18 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

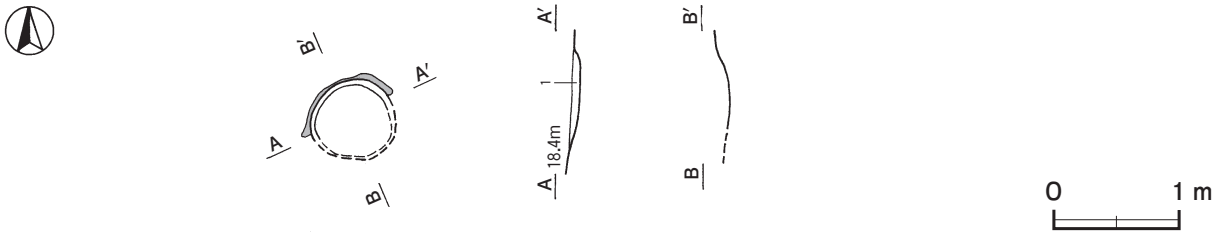
規模と形状　南部が削平されているが，確認できた規模から，掘方の規模は径 0.70 ｍほどの円形と推測できる。深さは６㎝で，断面は浅いＵ字状である。掘方の壁面に厚さ２～４㎝の粘土を貼り付けていたと推測できる。粘土の内側は，径 0.68 ｍの円形と推測でき，深さは６㎝である。底面は平坦で，壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土　単一層である。ローム粒子が含まれているが，水平な堆積をしていることから自然堆積と考えられる。

土層解説

１　暗　褐　色　ローム粒子中量

所見　時期は，伴う遺物が出土していないが，遺構の形状から江戸時代と考えられる。壁面に粘土が貼られていることから，桶などが据え付けられていたと考えられ，水溜などの可能性がある。



第 231 図　第 12 号粘土貼土坑実測図

第 13 号粘土貼土坑（第 232 図）

位置　調査区西端部のＺ１j9 区，標高 18 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　掘方の規模は，径 0.72 ｍの円形で，深さは 20㎝である。断面はＵ字状である。掘方の底面と壁面の下部に厚さ２～４㎝の粘土を貼り付けている。粘土の内側は，径 0.72 ｍの円形で，深さは 16㎝である。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

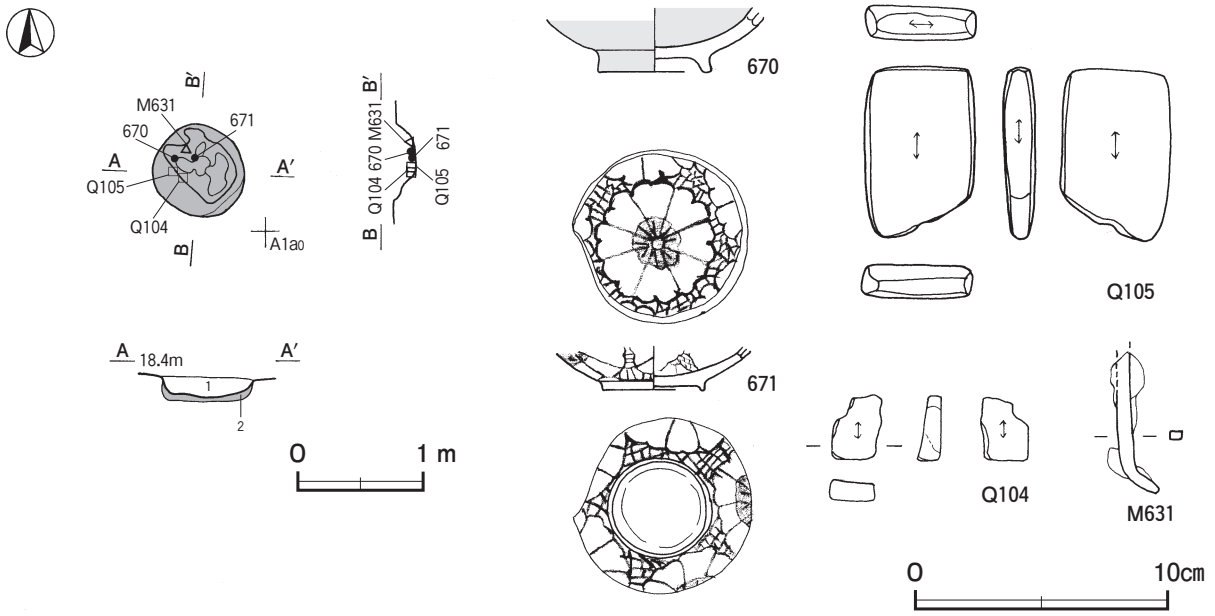
覆土　単一層である。粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第２層は貼られた粘土の層である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量　　2　灰　褐　色　粘土ブロック中量

遺物出土状況　陶器片５点（碗），磁器片３点（碗），土師質土器片１点（鍋），石器２点（砥石），鉄製品１点（釘ヵ）のほか，土師器片２点（甕類）が出土している。670・671，Ｑ 104・Ｑ 105，Ｍ 631 は中央部やや西寄りの覆土下層からまとまって出土している。

所見　時期は，出土遺物から 18 世紀中葉に比定できる。底面から壁面にかけて粘土が貼られていることから，甕などが据え付けられていたと考えられ，用途は水溜や手洗い場などであったと考えられる。



第 232 図　第 13 号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第 13 号粘土貼土坑出土遺物観察表（第 232 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
670	陶器	碗	－	(2.6)	4.5	長石	暗褐	良好	鉄釉	覆土下層	20% 瀬戸美濃系
671	磁器	碗	－	(1.7)	4.0	緻密	灰白	良好	染付	覆土下層	20% 肥前系

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 104	砥石	2.5	2.4	1.0	4.8	凝灰岩	砥面２面	覆土下層	
Q 105	砥石	6.8	4.4	1.3	60.3	凝灰岩	砥面５面	覆土下層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 631	釘ヵ	(5.6)	(0.6)	(0.4)	(7.1)	鉄	端部欠損　断面正方形	覆土下層	

第 14 号粘土貼土坑（第 233 図）

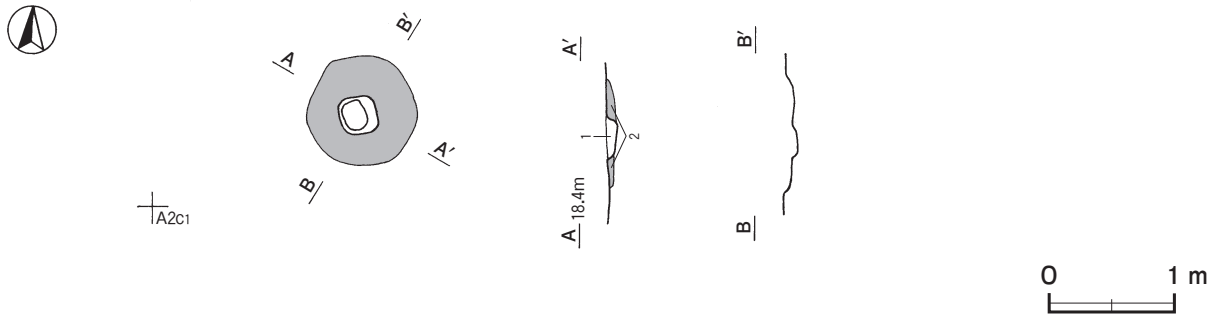
位置　調査区西部のＡ２b1 区，標高 18 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　掘方の規模は，径 0.88 mほどの円形で，深さは 10cmである。断面は浅いＵ字状である。掘方の底面の外周部に厚さ８cmほど粘土を貼り付けている。粘土の内側は，径 0.34 mほどの円形で，深さは 10cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　単一層である。粘土粒子を含む不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。第２層は貼られた粘土の層である。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，粘土粒子微量　　2　褐　灰　色　粘土粒子中量

所見　時期は，伴う遺物が出土していないが，遺構の形状から江戸時代と考えられる。壁面に粘土が貼られていることから，桶などが据え付けられていたと考えられ，用途は水溜や手洗い場などであったと考えられる。



第 233 図　第 14 号粘土貼土坑実測図

表 17　江戸時代粘土貼土坑一覧表

番号	位　置	長径方向	平 面 形	粘土の内側				掘　　方			覆土	主 な 出 土 遺 物	備　考
				長径×短径（m）	深さ（cm）	底面	壁面	長径×短径（m）	深さ（cm）	断面			
1	C 12g3	－	円形	1.06 × 1.02	24	平坦	直立	1.30 × 1.28	32	U字状	人為	陶器片，磁器片，土師質土器片，鉄製品，瓦	
2	C 12f3	－	円形	0.80 × 0.78	38	皿状	直立	1.00 × 0.96	40	U字状	人為	陶器片，磁器片，鉄製品，銭貨，瓦	
3	C 12f3	N － 76° － E	楕円形	0.88 × 0.75	28	皿状	外傾	1.04 × 0.94	28	U字状	人為	陶器片，磁器片，土師質土器片，鉄製品，瓦	SE10 →本跡
4	C 12f3	－	円形	0.76 × 0.74	32	平坦	直立	0.94 × 0.94	42	不定形	人為	陶器片，磁器片，金属製品，銭貨	

番号	位置	長径方向	平面形	粘土の内側				掘方			覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）	底面	壁面	長径×短径（m）	深さ（cm）	断面			
5	C 12g3	－	円形	1.04 × 0.96	38	平坦	直立	1.22 × 1.22	38	U字状	人為	陶器片，磁器片，土師質土器片，石器，石製品，鉄製品	本跡→SA 3
6	C 12g3	－	円形	1.04 × 0.94	16	平坦	外傾	1.26 × 1.20	28	U字状	人為	陶器片，土師質土器片，金属製品，銭貨	
7	Z 1j9	N－40°－E	［楕円形］	0.92 ×（0.36）	20	平坦	直立	1.26 ×（0.40）	24	U字状	人為		本跡→SN15
8	A 1d6	N－10°－W	隅丸長方形	0.98 × 0.90	22	平坦	直立	1.60 × 1.36	44	方形	人為	石製品，自然遺物	SD55→本跡
9	A 3g6	N－42°－E	不定形	0.78 × 0.70	26	平坦	直立	0.90 × 0.90	34	U字状	人為	陶器片	UP 9→本跡
10	A 2c1	－	円形	－	－	－	－	0.64 × 0.60	4	浅いU字状	－	陶器片，鉄製品	
11	A 1d0	N－40°－E	不定形	0.34 × 0.22	16	平坦	直立	0.54 × 0.50	4	不定形	人為		
12	A 1c0	－	［円形］	［0.68 × 0.62］	6	平坦	緩斜	［0.70 × 0.68］	6	浅いU字状	自然		
13	Z 1j9	－	円形	0.72 × 0.72	16	皿状	外傾	0.72 × 0.72	20	U字状	人為	陶器片，磁器片，土師質土器片，石器，鉄製品	
14	A 2b1	－	円形	0.34 × 0.32	10	皿状	外傾	0.88 × 0.84	10	浅いU字状	人為		
15	Z 1j9	－	円形	0.92 × 0.90	22	平坦	直立	1.20 × 1.10	22	U字状	人為	陶器片，磁器片，土師質土器片，石器，鉄製品	SN 7→本跡

(5) 炉跡

第５号炉跡（第 234・235 図）

位置　調査区北西部のＡ１d5 区，標高 18 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　北部は南北軸 0.60 m，東西軸 0.51 mの長方形を呈した焚口部と，南部に径 0.90 mの円形の燃焼部が接続する柄鏡形をしている。長軸方向はＮ－５°－Ｗである。焚口部は深さ６㎝で，底面はほぼ平坦である。火床面は深さ８㎝に位置する第３・４層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。第３～７層を埋め戻して炉を構築している。

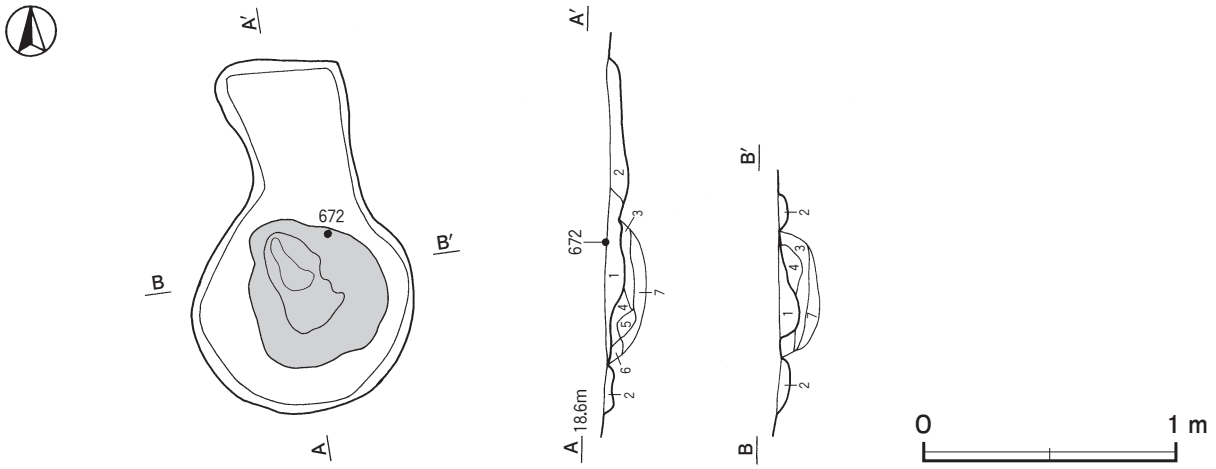
覆土　２層に分層できる。第１・２層は周囲からの土の流入を示す堆積状況から自然堆積である。第３～７層は掘方への埋土である。

土層解説

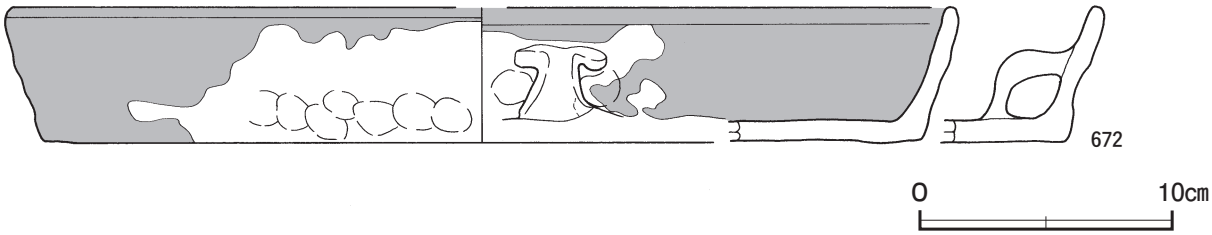
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量
6　暗赤褐色　焼土粒子少量
7　褐　　色　焼土粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片１点（焙烙）が出土している。672 は中央部の覆土上層から出土している。

所見　覆土から骨片などは出土しておらず，焚口部と燃焼部から構成される炉と考えられる。時期は，出土土器から 17 世紀後葉と考えられる。



第 234 図　第５号炉跡実測図



第 235 図　第５号炉跡出土遺物実測図

第５号炉跡出土遺物観察表（第 235 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
672	土師質土器	焙烙	[37.7]	5.3	[34.9]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	内耳１か所残存　体部外面下端ナデ	覆土上層	10%　PL43

（6）　溝跡

当時代に比定される溝跡６条を確認した。平面図以外を遺構ごとに文章で解説する。平面図については遺構全体図で掲載する。

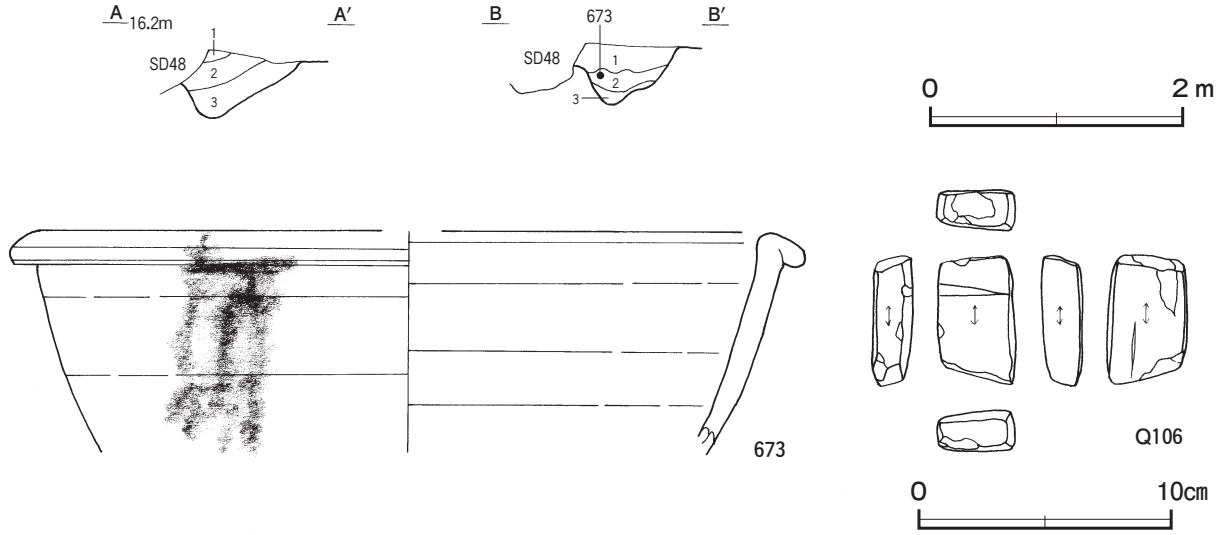
第 47 号溝跡（第 236 図）

位置　調査区中央部のＢ４c5 ～Ａ４i3 区，標高 16 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 48 号溝，第 691 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南東端部が調査区域外へ延びているため，長さは 17.9 mしか確認できなかった。Ｂ４c5 区から北西方向（Ｎ－ 25°－Ｗ）のＡ４i3 区まで直線的に延びている。規模は，西側を並行する第 48 号溝に西壁が掘り込まれているため，上幅は 0.64 m～ 0.80 mしか確認できなかった。下幅は 0.22 ～ 0.36 mで，確認面からの深さは 38 ～ 52cmである。底面の標高は，南東端部が 15.5 m，北西端部が 15.3 mで，北西端部に向かって 20cmほど低くなっている。断面は浅いＵ字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。各層にロームのブロックが含まれていることから，埋め戻されている。



第 236 図　第 47 号溝跡・出土遺物実測図

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　陶器片９点（碗４，鉢４，こね鉢１），磁器片２点（碗），土師質土器片４点（鍋３，鉢１），瓦質土器片２点（鍋），石器１点（砥石）のほか，土師器片９点（甕類），須恵器片７点（坏３，甕類４），土製品１点（羽口），鉄滓５点（254.5 ｇ）が出土している。673 は北端部付近の覆土中層から出土している。Q 106 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物と重複関係から 18 世紀代と考えられる。区画溝の可能性が考えられるが，詳細な性格は不明である。

第 47 号溝跡出土遺物観察表（第 236 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
673	陶器	こね鉢	［31.4］	（8.7）	－	長石	灰白	良好	灰釉	覆土中層	瀬戸美濃系

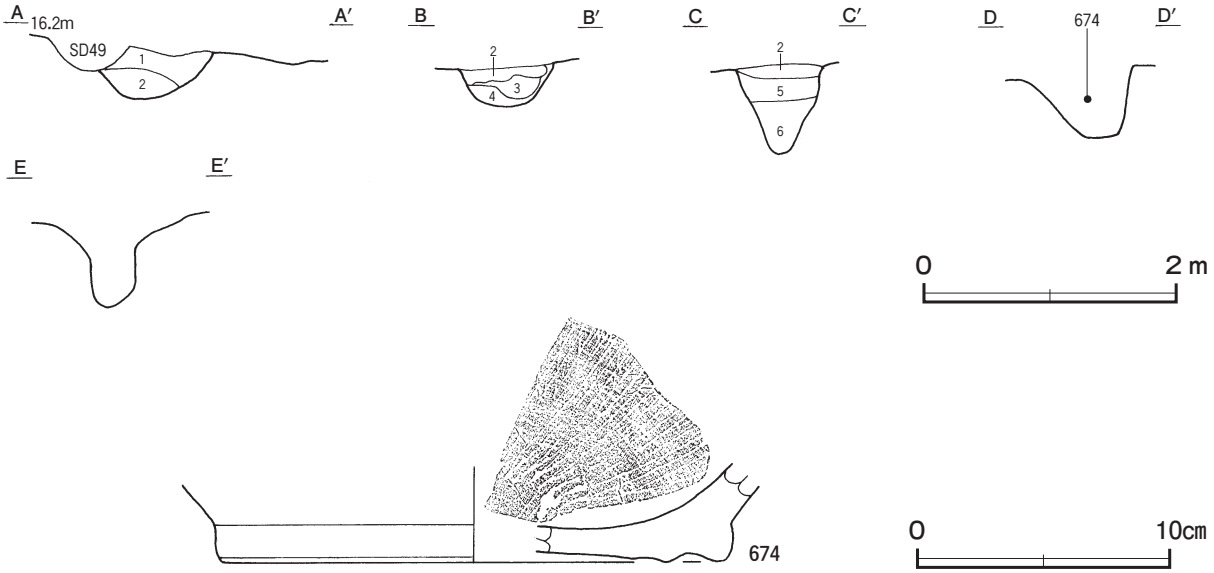
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 106	砥石	5.1	3.1	1.7	（39.1）	凝灰岩	砥面４面	覆土中	

第 48 号溝跡（第 237 図）

位置　調査区西部から中央部にかけてのＢ４c5 区～Ａ３d8 区，標高 16 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 47 号溝跡を掘り込み，第 49 号溝・第 18 号井戸・第 691 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南東端部が調査区域外へ延びているため，長さは 52.4 ｍしか確認できなかった。Ｂ４c5 区から北西方向（Ｎ－ 25°－Ｗ）へ直線的に延び，Ａ４j3 区で西方向（Ｎ－ 100°－Ｗ）へ屈曲し，Ａ４j1 区で北西方向（Ｎ－ 25°－Ｗ）へ屈曲しＡ３d8 区まで直線的に延びている。北西端部は西方向に若干屈曲した後，掘り込みが立ち上がっている。規模は，上幅 0.60 ～ 1.00 ｍ，下幅 0.20 ～ 0.40 ｍで，確認面からの深さは 76 ～



第 237 図　第 48 号溝跡・出土遺物実測図

104cmである。底面の標高は，南東端部及び北西端部が15.6 m，中央部のＡ３f9区で15.0 mほどで，中央部が両端部より60cmほど低い形状である。断面はＶ字状もしくは浅いＵ字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　６層に分層できる。多くの層にロームや粘土のブロックや粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　灰　褐　色　粘土粒子中量
6　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　陶器片２点（碗，擂鉢），土師質土器片１点（鍋）のほか，土師器片６点（甕類），須恵器片４点（坏１，蓋１，甕類２），鉄製品（不明），鉄滓３点（330.0 ｇ）が出土している。674はＡ４j3区の屈曲部付近の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器と重複関係から18世紀代と考えられる。区画溝と考えられるが，詳細な性格は不明である。

第48号溝跡出土遺物観察表（第237図）

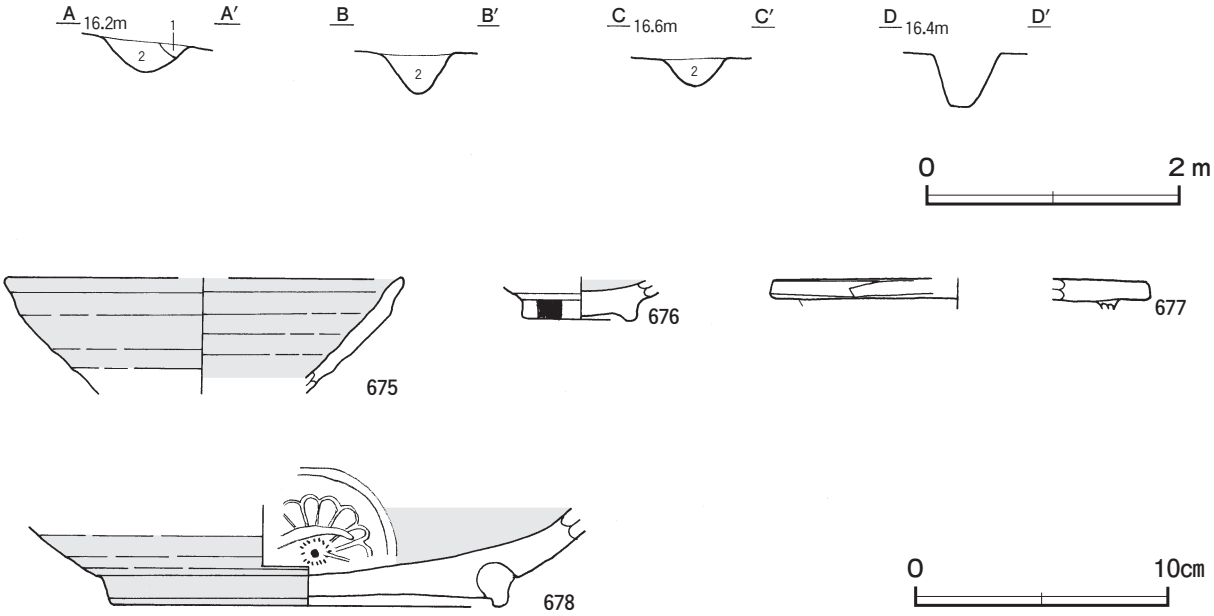
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
674	陶器	擂鉢	－	3.8	［20.0］	長石・石英	にぶい橙	良好	３条１単位の擂り目	覆土中層	５％ 備前系ヵ

第49号溝跡（第238図）

位置　調査区西部から中央部にかけてのＢ４d4区～Ａ３d5区，標高16 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第19号井戸跡，第48号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南東端部が調査区域外へ延びているため，長さは51.8 mしか確認できなかった。Ｂ４d4区から北西方向（Ｎ－40°－Ｗ）へやや蛇行しながら延びている。規模は，上幅0.32～1.08 m，下幅0.16～0.60 mで，



第238図　第49号溝跡・出土遺物実測図

確認面からの深さは 48 ～ 60㎝である。底面の標高は，北西端部が 16.1 m，南東端部が 15.8 mで，北西端部から南東端部にかけて 30㎝ほど低くなっている。断面は浅いU字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。焼土ブロックや炭化粒子が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

１　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量　　２　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　陶器片 10 点（碗３，天目茶碗１，鉢１，甕５），磁器片１点（碗），土師質土器片６点（鍋），瓦質土器片５点（蓋１，甕４），石器１点（砥石）のほか，土師器片 14 点（甕類），須恵器片 10 点（坏２，高台付坏１，甕類７），石製品１点（板碑），鉄製品１点（不明），鉄滓 36 点（3303.4 ｇ）が出土している。675 ～ 678 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器と重複関係から 18 ～ 19 世紀代と考えられる。区画溝の可能性があるが，詳細な性格は不明である。

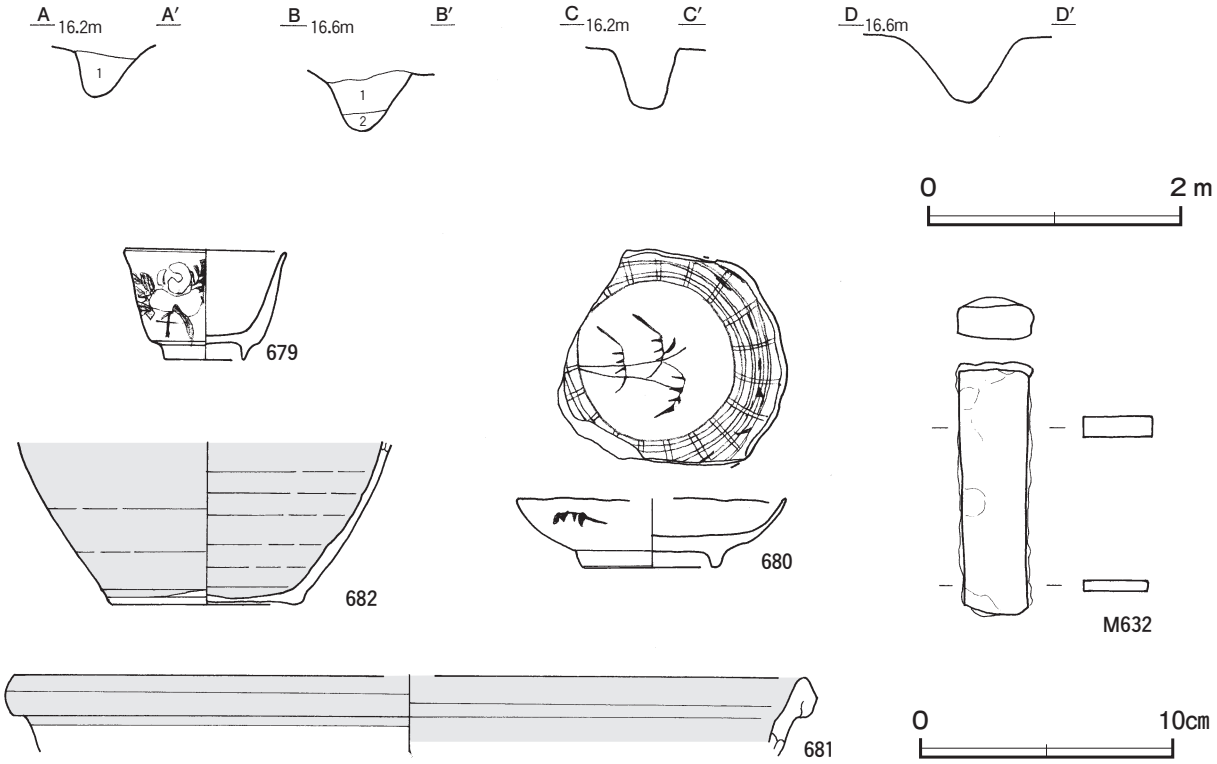
第 49 号溝跡出土遺物観察表（第 238 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
675	陶器	碗	［15.6］	（4.6）	－	黒色粒子	浅黄	良好	灰釉	覆土中	５％ 瀬戸美濃系
676	陶器	天目茶碗	－	（1.6）	4.6	長石	黒・灰白	良好	高台釉垂れ	覆土中	10％
677	瓦質土器	蓋	［14.8］	（1.2）	－	長石	灰	普通	側面手持ちヘラ削り	覆土中	５％
678	陶器	鉢	－	（4.0）	［15.6］	長石	灰白	良好	灰釉	覆土中	20％ 瀬戸美濃系

第 50 号溝跡（第 239 図）

位置　調査区西部から中央部にかけてのＢ４d4 区～Ａ３c5 区，標高 16 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 19 号井戸跡を掘り込んでいる。



第 239 図　第 50 号溝跡・出土遺物実測図

規模と形状　南東端部及び北端部が調査区域外へ延びているため，長さは58.6 mしか確認できなかった。Ｂ４d4区から北西方向（Ｎ－40°－Ｗ）へ蛇行しながら延びている。規模は，上幅0.32～1.08 m，下幅0.16～0.60 mで，確認面からの深さは34～70cmである。底面の標高は北西端部が15.6 m，南東端部が15.7 mで，北西端部から南東端部にかけて10cmほど低くなっている。断面はＶ字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　陶器片10点（碗１，皿２，鉢６，小壺１），磁器片７点（碗），土師質土器片５点（鍋４，甕類１），瓦質土器片１点（甕類），石器１点（砥石），鉄製品３点（鑿１，不明２）のほか，土師器片18点（甕類），須恵器片９点（坏２，甕類７），石製品３点（板碑），椀状滓１点（163.2 g），鉄滓20点（2609.7 g）が出土している。679～681，M 632は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から18～19世紀代と考えられる。新旧関係が不明である第49号溝跡と並行しており，数回にわたり掘り直された区画溝の可能性があるが，詳細な性格は不明である。

第50号溝跡出土遺物観察表（第239図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
679	磁器	碗	6.3	4.4	3.1	緻密	明緑灰	良好	青磁染付	覆土中	80%　PL44 肥前系
680	陶器	皿	[10.7]	2.7	5.6	緻密	灰白	良好	染付	覆土中	70%　PL44 瀬戸美濃系
681	陶器	鉢	[31.2]	(3.1)	－	黒色粒子	にぶい黄橙	良好	鉄釉	覆土中	５% 瀬戸美濃系
682	陶器	小壺	－	(6.5)	7.2	緻密	にぶい橙	良好	灰釉	覆土中	30%　PL44 瀬戸美濃系

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 632	鑿	10.1	3.0	0.3～0.8	102.3	鉄	端部敲打による歪み　断面長方形	覆土中	PL55

第55号溝跡（第240図）

位置　調査区西部のＡ１e6～Ｚ２i1区，標高18 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第56号溝跡・第769号土坑を掘り込み，第22号井戸・第８号粘土貼土坑・第767号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南端部及び東端部が調査区域外へ延びているため，長さは39.2 mしか確認できなかった。Ａ１e6区から北方向（Ｎ－７°－Ｗ）へ直線的に延び，Ｚ１j6区で東方向（Ｎ－76°－Ｅ）方向へ屈曲し，調査区域外へ直線的に延びている。規模は，上幅0.82～1.24 m，下幅0.08～0.58 mで，確認面からの深さは28～42cmである。底面の標高は南東両端部が18.1 m，屈曲部が17.8 mほどで，屈曲部が両端部より30cmほど低くなっている。断面は浅いＵ字状で，壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

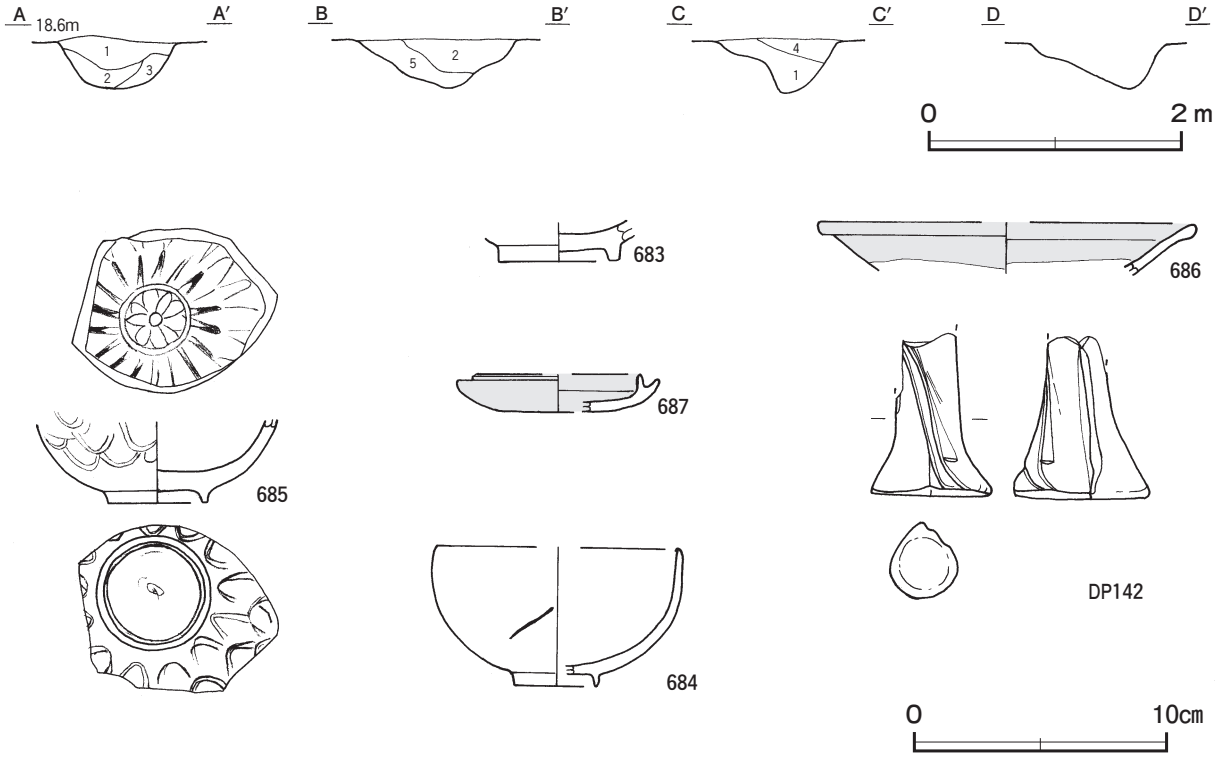
覆土　５層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　陶器片24点（碗16，天目茶碗１，灯明皿１，平類１，甕類５），磁器片１点（碗）土師質土

器片５点（鍋），土製品１点（土人形），石器１点（砥石）のほか，土師器片 22 点（坏４，甕類 18），須恵器片１点（甕類），土製品１点（支脚），鉄製品１点（不明），鉄滓６点（317.9 ｇ）が出土している。683 ～ 687，DP142 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物と重複関係から 18 世紀中葉と考えられる。本跡周辺には，甚右エ門東脇や屋敷，向エ門屋敷などの屋敷を連想させる字名が残っており，本跡は屋敷地の区画溝であった可能性がある。



第 240 図　第 55 号溝跡・出土遺物実測図

第 55 号溝跡出土遺物観察表（第 240 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
683	陶器	天目茶碗	－	(1.6)	[4.8]	長石	橙	良好	高台削り出し	覆土中	20% 瀬戸美濃系
684	磁器	碗	11.8	5.5	3.2	緻密	オリーブ黄	良好	透明釉	覆土中	50%　PL44 肥前系
685	磁器	碗	－	(3.2)	4.0	緻密	灰白	良好	染付　透明釉	覆土中	30% 肥前系
686	陶器	碗	[14.8]	(2.0)	－	緻密	灰黄	良好	灰釉	覆土中	10% 瀬戸美濃系
687	陶器	灯明皿	[8.0]	1.5	[4.8]	緻密	灰褐	良好	鉄釉	覆土中	10% 瀬戸美濃系

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP142	土人形	(6.5)	4.8	5.3	40.2	長石・赤色粒子	橙	太夫　脚部のみ残存　中空	覆土中	PL48

第 56 号溝跡（第 241 ～ 243 図）

位置　調査区西部のＡ１e6 ～ Ｚ２i1 区，標高 18 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 55 号溝，第 22 号井戸・第 24 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状　南端部及び東端部が調査区域外へ延びているため長さは 37.6 ｍしか確認できなかった。Ａ１e6 区から北方向（Ｎ－７°－Ｗ）へ直線的に延び，Ａ１a5 区で東方向（Ｎ－ 76°－Ｅ）方向へ屈曲し，調査区域

外へほぼ直線的に延びている。屈曲部から東端部までの南壁が，並行する第55号溝に掘り込まれているため，確認できた規模は，上幅0.68～1.20 m，下幅0.20～0.52 mで，確認面からの深さは44～80cmである。底面の標高は南端部が18.0 m，東端部が17.8 m，屈曲部が17.5 mで，屈曲部が南東両端部より20～50cmほど低くなっている。断面はV字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

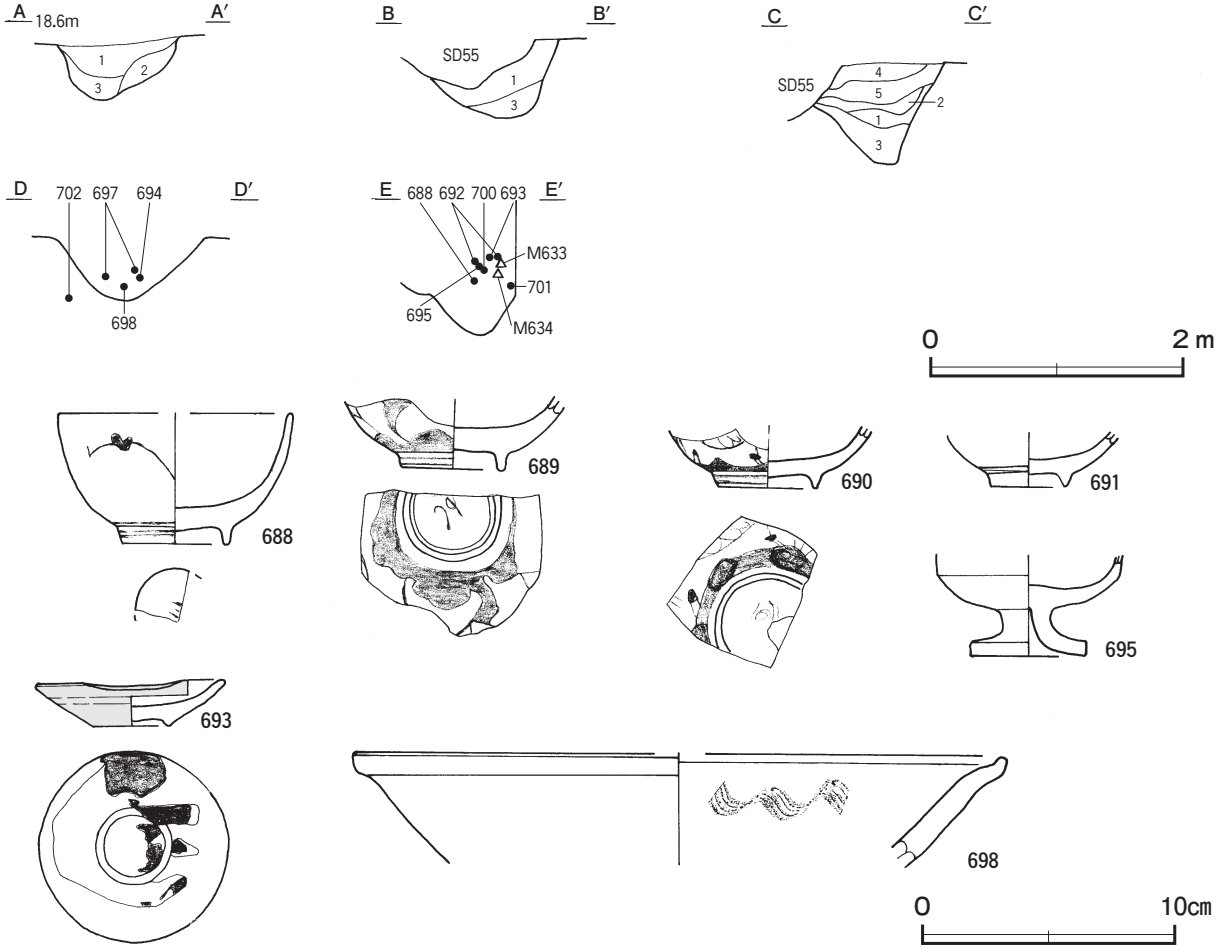
覆土　5層に分層できる。ロームのブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

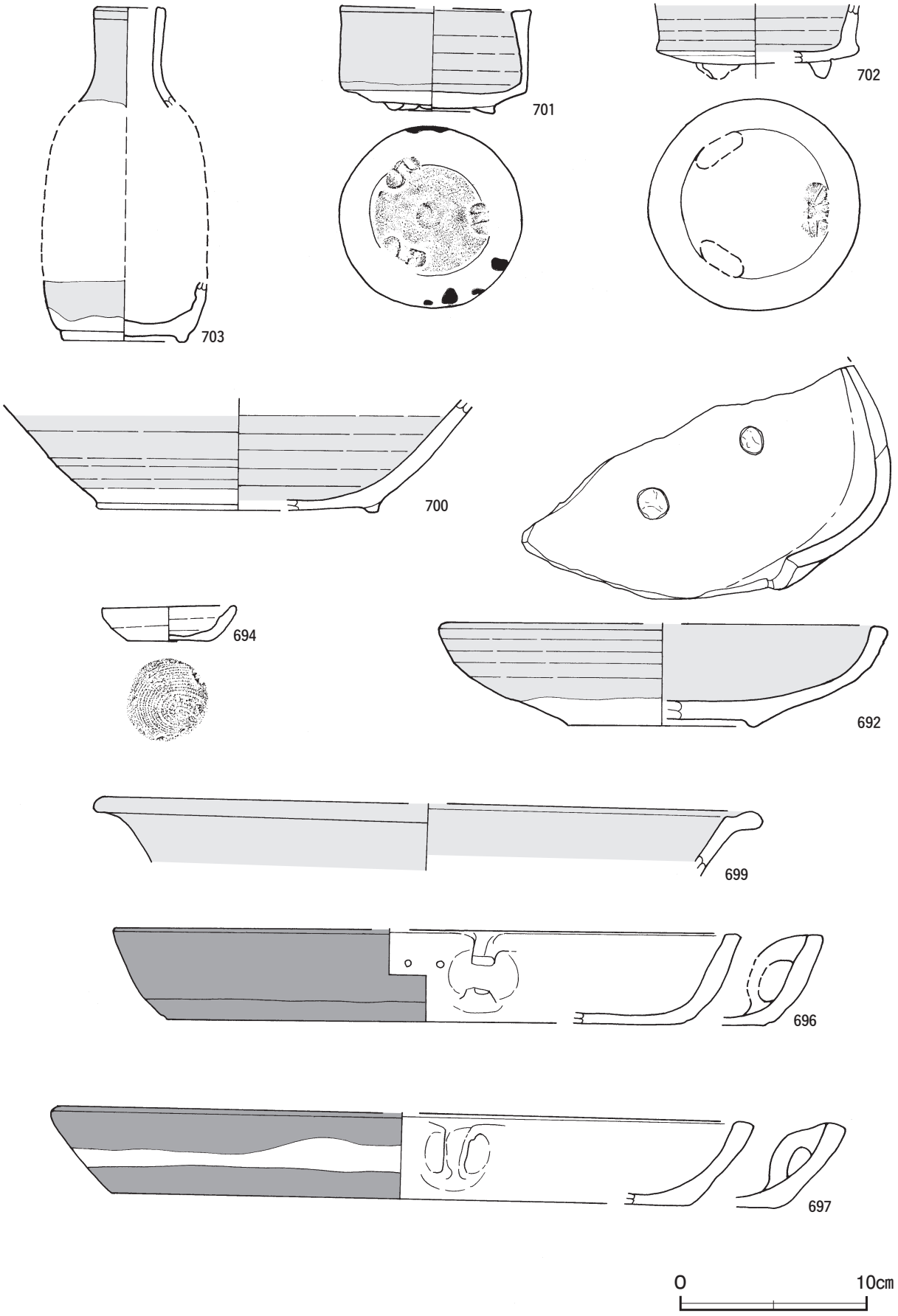
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　陶器片47点（碗2，皿1，灯明皿1，仏餉具1，鉢3，香炉2，徳利1，甕36），磁器片24点（碗4，甕類20），土師質土器片46点（小皿1，焙烙44，鉢1），瓦質土器片3点（鍋），石器4点（砥石），銭貨2点（寛永通寶）のほか，土師器片35点（坏4，甕類31），須恵器片8点（坏1，甕類7），縄文土器片14点（深鉢），炉壁材5点，石製品1点（板碑），鉄製品10点（不明）が出土している。694・698・702は屈曲部付近の覆土下層から出土している。688・701・M 637は東端部の覆土中層から出土している。697は屈曲部付近の覆土中層から出土した破片が接合したものである。692・693・695・700，M 633は東端部の覆土上層から出土している。689～691・699・703・696，Q 107～Q 110は覆土中から出土している。

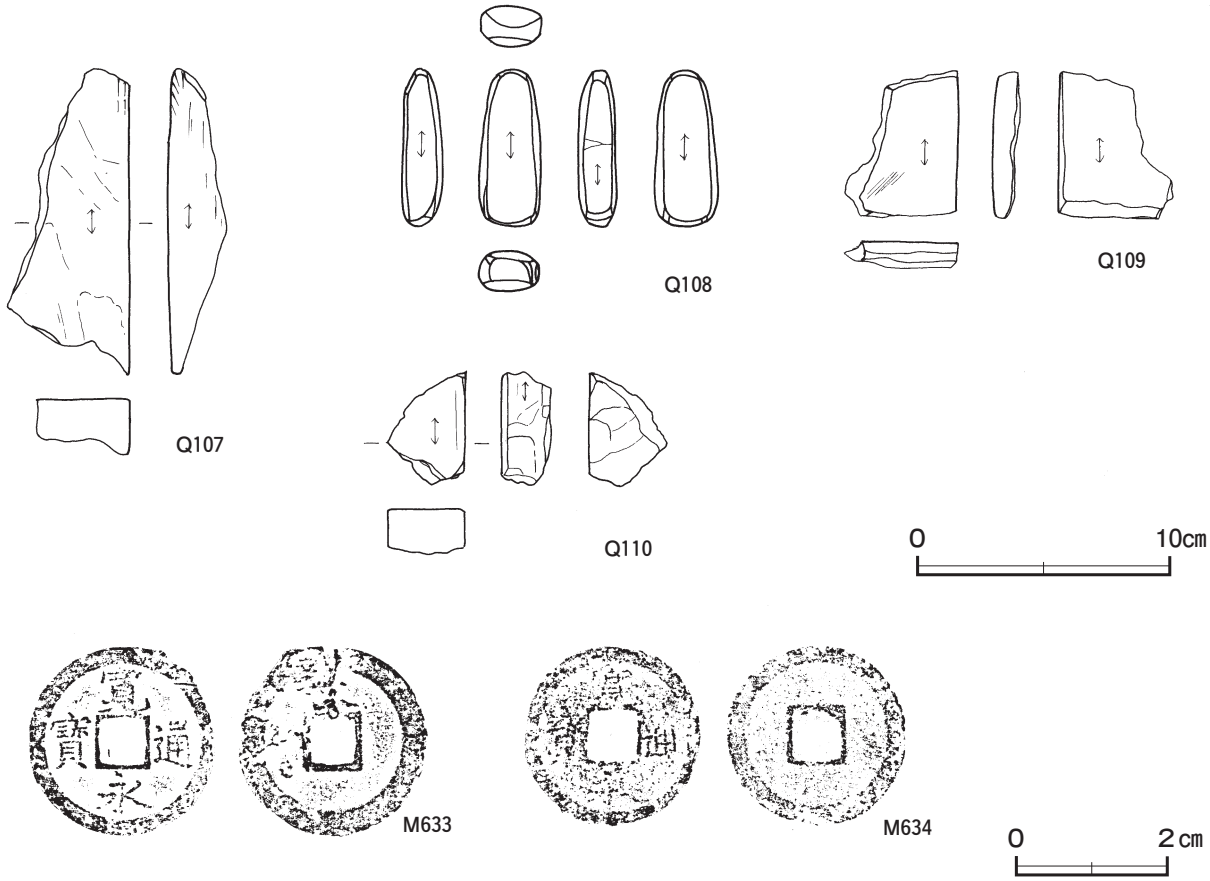
所見　時期は，出土土器と重複関係から18世紀前葉から中葉と考えられる。本跡周辺には，甚右エ門東脇や屋敷，向エ門屋敷などの屋敷を連想させる字名が残っており，本跡は屋敷地の区画溝であった可能性がある。



第241図　第56号溝跡・出土遺物実測図



第 242 図　第 56 号溝跡出土遺物実測図(1)



第 243 図　第 56 号溝跡出土遺物実測図(2)

第 56 号溝跡出土遺物観察表（第 241 ～ 243 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
688	磁器	碗	[9.1]	5.2	[4.1]	緻密	灰白	良好	染付	覆土中層	30% 肥前系
689	磁器	碗	－	(3.0)	4.0	緻密	灰白	良好	染付	覆土中	30% 肥前系
690	磁器	碗	－	(2.5)	[3.8]	緻密	灰白	良好	染付	覆土中	20% 肥前系
691	磁器	碗	－	(2.2)	3.0	緻密	灰白	良好	染付	覆土中	30% 肥前系
692	陶器	皿	[24.2]	5.5	[10.0]	長石	浅黄	良好	トチン痕２か所　灰釉	覆土上層	30%　PL44 瀬戸美濃系
693	陶器	灯明皿	7.4	1.8	3.0	長石	浅黄	良好	外面煤付着　灰釉	覆土上層	100%　PL44 瀬戸美濃系
694	土師質土器	小皿	7.0	1.9	4.4	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	赤褐	普通	底部回転糸切り離し　外・内面ナデ	覆土下層	100%　PL44
695	陶器	仏餉具	－	(4.1)	4.5	長石	灰白	良好	脚部煤付着　灰釉	覆土上層	70%　PL44 瀬戸美濃系
696	土師質土器	焙烙	[33.6]	(4.9)	[28.0]	長石・石英・ 雲母	黒褐	普通	内耳１か所残存　補修のための穿孔２か所 外・内面ナデ	覆土中	15%
697	土師質土器	焙烙	[37.8]	4.6	[31.0]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	黒褐	普通	内耳１か所残存　外・内面ナデ	覆土中層	15%
698	陶器	鉢	[25.8]	(4.4)	－	長石	浅黄	良好	内面３条１単位の櫛歯状工具による波状文 灰釉	覆土下層	５% 瀬戸美濃系
699	陶器	鉢	[36.0]	(3.6)	－	長石	浅黄	良好	灰釉	覆土中	５% 瀬戸美濃系
700	陶器	鉢	－	(6.0)	[15.0]	長石	にぶい黄	良好	灰釉	覆土上層	10% 瀬戸美濃系
701	陶器	香炉	[10.2]	5.6	6.6	長石・石英	オリーブ 灰	良好	３足残存　鉄釉	覆土中層	60%　PL45 瀬戸美濃系
702	陶器	香炉	－	4.0	[8.0]	長石	オリーブ 灰白	良好	１足残存　鉄釉	覆土下層	10% 瀬戸美濃系
703	陶器	徳利	3.4	[18.0]	6.6	長石・石英	にぶい黄橙	良好	灰釉	覆土中	30% 瀬戸美濃系

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 107	砥石	12.1	4.7	2.3	103.28	泥岩	砥面２面	覆土中	
Q 108	砥石	6.2	2.4	1.5	34.28	凝灰岩	砥面４面	覆土中	
Q 109	砥石	5.9	4.5	1.0	31.72	凝灰岩	砥面３面	覆土中	
Q 110	砥石	4.5	3.1	2.0	29.30	泥岩	砥面２面	覆土中	

番号	種　別	銭　名	径	孔幅	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M 633	銭貨	寛永通寶	2.46	0.60	2.80	銅	1697	新寛永	覆土中層	PL60
M 634	銭貨	寛永通寶	2.38	0.69	2.02	銅	1668	新寛永　背「文」	覆土中層	

表 18　江戸時代溝跡一覧表

番号	位　置	方　向	平面形	規　　模				断　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考
				長さ(m)	上幅（m）	下幅（m）	深さ(cm)					
47	B 4 c5 ～ A 4 i3	N － 25° － W	直線状	(17.9)	0.64 ～ 0.80	0.22 ～ 0.36	38 ～ 52	U字状	外傾	人為	陶器片，磁器片，土師質土器片，瓦質土器片，石器	本跡→ SD48, SK691
48	B 4 c5 ～ A 3 d8	N － 25° － W N － 100° － W	クランク状	(52.4)	0.60 ～ 1.00	0.20 ～ 0.40	76 ～ 104	V字状 U字状	外傾	人為	陶器片，土師質土器片	SD47→本跡→SE18, SD49，SK691
49	B 4 d4 ～ A 3 d5	N － 40° － W	直線状	(51.8)	0.32 ～ 1.08	0.16 ～ 0.60	48 ～ 60	U字状	外傾	人為	陶器片，磁器片，土師質土器片，瓦質土器片，石器	SE19，SD48 → 本跡
50	B 4 d4 ～ A 3 c5	N － 40° － W	直線状	(58.6)	0.32 ～ 1.08	0.16 ～ 0.60	34 ～ 70	V字状	外傾	人為	陶器片，磁器片，土師質土器片，瓦質土器片，鉄製品	SE19 →本跡
55	A 1 e6 ～ Z 2 i1	N － 7 ° － W N － 76° － E	L字状	(39.2)	0.82 ～ 1.24	0.08 ～ 0.58	28 ～ 42	U字状	緩斜	人為	陶器片，磁器片，土製品，石器	SD56，SK769→本跡→SE22，SN 8，SK767
56	A 1 e6 ～ Z 2 i1	N － 7 ° － W N － 76° － E	L字状	(37.6)	0.68 ～ 1.20	0.20 ～ 0.52	44 ～ 80	V字状	外傾	人為	陶器片，磁器片，土師質土器片，瓦質土器片，石器，銭貨	本跡→ SE22, SD55，PG24

印　刷　仕　様

編　　集	ＯＳ	Microsoft Windows 7
		Home Premium ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS５
	図版作成	Adobe Illustrator CS５
	写真調整	Adobe Photoshop CS５
	Scanning	6×７film　Nikon SUPER COOLSCAN9000
		図面類　EPSON ES－10000G
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写　　真	線数	モノクロ175線以上　カラー210線以上
印　　刷	印刷所へは，Adobe InDesign CS５でレイアウトして入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第387集

宮　内　遺　跡　２
長右衛門元屋敷遺跡

国道３５４号岩井バイパス事業
地内埋蔵文化財調査報告書

上　巻

平成26（2014）年　３月10日　印刷
平成26（2014）年　３月12日　発行

発行　公益財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　http：//www.ibaraki-maibun.org

印刷　冨士オフセット印刷株式会社
〒310－0067　水戸市根本３丁目1534－2
TEL　029－231－4241